

2025 年度

法学部シラバス
(授業計画)

明 治 大 学

目 次

I	履修案内	1
1	2025年度学年暦	2
2	授業時間割	2
3	2025年度法学部クラス主任	3
4	外国語（英語）で授業を行う科目一覧	4
5	科目名対照表（カリキュラム年度別）	5
II	講義内容	7
1	基礎科目群	8
2	教養科目群	11
3	外国語科目群	112
4	保健体育科目群	238
5	法律必修科目群	243
6	演習科目群	294
7	各コース科目群	297
8	自由選択科目群	539
9	留学関係科目群	544
10	資格課程関係科目群	550

I 履修案内

1 2025年度学年暦

春 学 期		4 月 1 日 (火) ~ 9 月 1 9 日 (金)
入 学 式		4 月 7 日 (月)
学 習 指 導		4 月 1 日 (火) ~ 4 月 9 日 (水)
授 業 期 間	前半集中開講科目 (S 1) ※	4 月 1 0 日 (木) ~ 6 月 3 日 (火)
	後半集中開講科目 (S 2) ※	6 月 4 日 (水) ~ 7 月 2 2 日 (火)
臨時休業 (休 講) 日		5 月 1 日 (木) ・ 5 月 2 日 (金)
休日授業実施日①		4 月 2 9 日 (火) [昭 和 の 日]
休日授業実施日②		7 月 2 1 日 (月) [海 の 日]
補 講 日 ①	※土曜日の通常時限を利用	5 月 2 4 日 (土) ・ 5 月 3 1 日 (土)
補 講 日 ②	※土曜日の通常時限を利用	7 月 1 2 日 (土) ・ 7 月 1 9 日 (土)
定 期 試 験	※予備日を含む	7 月 2 3 日 (水) ~ 7 月 3 1 日 (木)
夏 季 休 業		8 月 1 日 (金) ~ 9 月 1 9 日 (金)
秋 季 卒 業 式		9 月 1 9 日 (金)
秋 学 期		9 月 2 0 日 (土) ~ 3 月 3 1 日 (火)
秋 季 入 学 式		9 月 1 9 日 (金)
学 習 指 導		9 月 1 8 日 (木)
授 業 期 間	前半集中開講科目 (F 1) ※	9 月 2 0 日 (土) ~ 1 月 2 3 日 (金)
	後半集中開講科目 (F 2) ※	9 月 2 0 日 (土) ~ 1 1 月 1 4 日 (金)
休日授業実施日①		1 1 月 1 5 日 (土) ~ 1 月 2 3 日 (金)
休日授業実施日②		9 月 2 3 日 (火) [秋 分 の 日]
休日授業実施日③		1 0 月 1 3 日 (月) [ス ポ ー ツ の 日]
補 講 日 ①	※土曜日の通常時限を利用	1 1 月 2 4 日 (月) [振 替 休 日]
補 講 日 ②	※全日補講のみ実施	1 0 月 1 8 日 (土) ・ 1 0 月 2 5 日 (土)
補 講 日 ③	※全日補講のみ実施	1 月 2 2 日 (木)
大 学 祭 週 間	※当該期間中は全日休講	1 月 2 3 日 (金)
明 大 祭		1 0 月 2 9 日 (水) ~ 1 1 月 4 日 (火)
生 明 祭		1 1 月 1 日 (土) ~ 1 1 月 3 日 (月)
創 立 記 念 祝 日		1 1 月 1 日 (土) ~ 1 1 月 3 日 (月)
臨時休業 (休 講) 日		1 1 月 1 日 (土)
冬 季 休 業		1 2 月 2 3 日 (火) ・ 1 2 月 2 4 日 (水)
創 立 記 念 日		1 2 月 2 5 日 (木) ~ 1 月 7 日 (水)
定 期 試 験	※予備日を含む	1 月 1 7 日 (土)
春 季 休 業		1 月 2 4 日 (土) ~ 2 月 3 日 (火)
卒 業 式		2 月 4 日 (水) ~ 3 月 3 1 日 (火)
		3 月 2 6 日 (木)

※各学期の前半集中・後半集中開講科目の利用は、一部の授業で7週完結授業を導入する学部に限る。
 ※大学祭週間中の授業休講措置は全キャンパスに適用する。ただし、大学院、専門職大学院において大学祭週間に授業を実施する場合がある。

2 授業時間割

時限	M※ ¹	1		2		L※ ²	3		4		5		6		N※ ¹
モジュール	m	a	b	a	b	M	a	b	a	b	a	b	a	b	m
時間帯	8:00 └	9:00 └	9:50 └	10:50 └	11:40 └	12:35 └	13:30 └	14:20 └	15:20 └	16:10 └	17:10 └	18:00 └	19:00 └	19:50 └	20:50 └
	8:50	9:50	10:40	11:40	12:30	13:25	14:20	15:10	16:10	17:00	18:00	18:50	19:50	20:40	21:40

※1原則として、通期の授業は実施しない。

※2原則として、前後各5分と併せて1時間の昼休みとする。

3 2025年度法学部クラス主任

組	1年	2年	3年	4年
1	シェアマン, スザンネ	シェアマン, スザンネ	村上 一博	亀田 浩一郎
2	佐藤 公紀	伊藤 真弓	南保 勝美	下川 環
3	小財 陽平	小財 陽平	小西 康之	小林 史明
4	伊藤 真弓	佐藤 公紀	小林 宏之	マンハウス, ハイノリッ
5	岩野 卓司	渡辺 響子	小西 啓文	佐々木 秀智
6	斎藤 英治	斎藤 英治	鈴木 賢	吉井 啓子
7	渡辺 響子	中村 和恵	根本 伸一	柿崎 環
8	中村 和恵	岩野 卓司	大津 浩	内田 幸隆
9	松尾 俊輔	松尾 俊輔	亀本 洋	江島 晶子
10	鈴木 哲也	辻岡 宏子	川口 浩一	陶安 あんど
11	大楠 栄三	矢ヶ崎 淳子	丸橋 透	山部 俊文
12	伊藤 剣	堀田 秀吾	小室 輝久	黒澤 睦
13	堀田 秀吾	大楠 栄三	都筑 満雄	太田 勝造
14	西川 和孝	西川 和孝	江藤 英樹	西元 宏治
15	田島 優	田島 優	高木 正則	金子 敏哉
16	ダン, ジェームス D.	川野 明正	石井 徹哉	山川 隆一
17	多田 聡	鈴木 哲也	清水 宏	斎藤 一久
18	上村 威	上村 威	星野 茂	横田 明美
19	勝田 忠広	神田 正行	亀田 浩一郎	小西 知世
20	辻岡 宏子	多田 聡	小西 知世	柳川 鋭士
21	釜崎 太	ダン, ジェームス D.	小林 史明	神田 英明
22	西垣 学	西垣 学	福井 清貴	水田 周平
23	川野 明正	越門 勝彦	神田 英明	陳 亮
24	越門 勝彦	伊藤 剣	水田 周平	福井 清貴
25	神田 正行	釜崎 太	陳 亮	
26				
30~				岡田 洋一

4 外国語（英語）で授業を行う科目一覧

法学部では、下記の科目について英語で授業を実施している。いずれの科目も卒業要件単位として認められる。

和泉キャンパス開講科目

授業科目	配当年次	開講期	単位数	担当者名
異文化理解Ⅰ・Ⅱ	1・2	春学期・秋学期	各2	矢ヶ崎 淳子
Introduction to Modern LawⅠ・Ⅱ	1～4	春学期・秋学期	各2	小室 輝久
留学基礎講座AⅠ・Ⅱ	1～4	春学期・秋学期	各2	グリフィス
留学基礎講座BⅠ・Ⅱ	2～4	春学期・秋学期	各2	ダブ, ジェームス

駿河台キャンパス開講科目

授業科目	配当年次	開講期	単位数	担当者名
Business Law in EnglishⅠ・Ⅱ	3・4	春学期	各2	プレヴォ, エリック
比較法学Ⅰ・Ⅱ	2～4	春学期・秋学期	各2	メンクハウス

List of Courses taught in English

The School of Law offers several courses taught in English. All credits obtained from these courses will be counted as credits necessary for graduation requirements.

Course in Izumi Campus

Course	Years	Term	Credits	Instructor
Intercultural UnderstandingⅠ・Ⅱ	1・2	Spring/Fall	2/2	Junko, Yagasaki
Introduction to Modern LawⅠ・Ⅱ	1～4	Spring/Fall	2/2	Komuro, Teruhisa
AcademicSkills for StudyAbroad AⅠ・Ⅱ	1～4	Spring/Fall	2/2	Griffiths, David H.
AcademicSkills for StudyAbroad BⅠ・Ⅱ	2～4	Spring/Fall	2/2	Dunn, James

Course in Surugadai Campus

Course	Years	Term	Credits	Instructor
Business Law in EnglishⅠ・Ⅱ	3・4	Spring	2/2	Prevost, Emeric
Comparative LawⅠ・Ⅱ	2～4	Spring/Fall	2/2	Menkhaus, Heinrich J.

5 科目名対照表（カリキュラム年度別）

2019 年度以降入学者科目名	2013～2018 年度入学者科目名
行政法（総論）	
行政法（救済法）	
民法（家族法）Ⅰ	
民法（家族法）Ⅱ	

2020 年度以降入学者科目名	2013～2018 年度入学者科目名
現代法入門	現代法入門Ⅰ
	現代法入門Ⅱ
特設演習（留学生向け）	

2022 年度以降入学者科目名	2018～2021 年度入学者科目名
	アカデミックライティング
	プレゼミ A
	プレゼミ B

2022 年度以降入学者科目名	2021 年度以前入学者科目名
法律リテラシー〔M〕（2 単位）	
法学部生のための日本語Ⅰ（リテラシー）	
法学部生のための日本語Ⅱ（精読）	
記号論議学	自由講座（春学期）
法と心理	心理学Ⅰ
法と言語Ⅰ	ことばの文化Ⅰ
法と言語Ⅱ	ことばの文化Ⅱ
マイノリティの人間学	比較文化 BⅠ
スポーツと社会 A	自由講座（春学期）
スポーツと社会 B	自由講座（秋学期）
スポーツとメディア	自由講座（秋学期）
身体活動と健康 A・B	健康・運動科学
身体と環境 A・B（2025 年度は開講しない）	健康・運動科学
科学技術と社会	
数理と社会Ⅰ	数理と情報Ⅰ
数理と社会Ⅱ	数理と情報Ⅱ
情報と思考Ⅰ	数理と情報Ⅰ
情報と思考Ⅱ	数理と情報Ⅱ
エネルギー・環境政策	
科学と技術Ⅰ	科学と技術の歴史Ⅰ
科学と技術Ⅱ	科学と技術の歴史Ⅱ
美術の歴史	
現代哲学	哲学Ⅰ、哲学Ⅱ
倫理学基礎論	
政治社会学Ⅰ・Ⅱ（2025 年度は開講しない）	
歴史学（東洋史）	歴史学Ⅱ
歴史学（西洋史）	歴史学Ⅰ
ヨーロッパ近現代史概説	
アジアの社会と歴史Ⅰ・Ⅱ	
社会思想史Ⅲ・Ⅳ（2025 年度は開講しない）	
現代世界と社会思想Ⅰ・Ⅱ	
メディア文化論Ⅰ	超域文化 BⅠ
メディア文化論Ⅱ	超域文化 BⅡ
映像リテラシーⅠ・Ⅱ	
映画論 A・B	
ドイツ語圏の文化Ⅰ	ヨーロッパ文化 AⅠ

2022 年度以降入学者科目名	2021 年度以前入学者科目名
ドイツ語圏の文化Ⅱ	ヨーロッパ文化AⅡ
ドイツ語圏の文化Ⅲ	ヨーロッパ文化BⅠ
ドイツ語圏の文化Ⅳ	ヨーロッパ文化BⅡ
フランス語圏の文化Ⅰ	ヨーロッパ文化AⅠ
フランス語圏の文化Ⅱ	ヨーロッパ文化AⅡ
ヨーロッパ文化Ⅰ	ヨーロッパ文化BⅠ
ヨーロッパ文化Ⅱ	ヨーロッパ文化BⅡ
イギリス文化	
アメリカ文化Ⅰ	北米文化BⅠ
アメリカ文化Ⅱ	北米文化BⅡ
英語圏の文化	比較文化BⅡ
スペイン文化Ⅰ	ヨーロッパ文化BⅠ
スペイン文化Ⅱ	ヨーロッパ文化BⅡ
ラテンアメリカ文化Ⅰ	中南米文化BⅠ
ラテンアメリカ文化Ⅱ	中南米文化BⅡ
スペイン語圏の文化Ⅰ・Ⅱ	
アフリカ文化	
アジア文化Ⅰ	アジア文化AⅠ、比較文化AⅠ
アジア文化Ⅱ	アジア文化AⅡ、比較文化AⅡ
アジア文化Ⅲ	アジア文化BⅠ
アジア文化Ⅳ	アジア文化BⅡ
イスラーム文化Ⅰ	イスラーム文化AⅠ
イスラーム文化Ⅱ	イスラーム文化AⅡ
イスラーム文化Ⅲ	イスラーム文化BⅠ
イスラーム文化Ⅳ	イスラーム文化BⅡ
日本文化BⅠ	日本文化AⅠ
日本文化BⅡ	日本文化AⅡ
日本文化CⅠ	日本文化AⅠ
日本文化CⅡ	日本文化AⅡ
日本文化DⅠ	日本文化AⅠ
日本文化DⅡ	日本文化AⅡ
比較文化AⅠ（2025年度は開講しない）	比較文化BⅠ（2025年度は開講しない）
比較文化AⅡ（2025年度は開講しない）	比較文化BⅡ（2025年度は開講しない）
比較文化BⅠ	超域文化BⅠ
比較文化BⅡ	超域文化BⅡ
異文化理解Ⅰ・Ⅱ	
銀行取引法	銀行取引法Ⅰ
	銀行取引法Ⅱ
国際取引法	国際取引法Ⅰ
	国際取引法Ⅱ
国際環境法	
サイバー法D	
サイバー法E	

2020～2022 年度入学者科目名	2013～2019 年度入学者科目名
国際教育プログラム（異文化理解）Ⅰ	基幹科目（異文化理解）Ⅰ
国際教育プログラム（異文化理解）Ⅱ	基幹科目（異文化理解）Ⅱ
国際教育プログラム（文化・歴史）Ⅰ	基幹科目（文化・歴史）Ⅰ
国際教育プログラム（文化・歴史）Ⅱ	基幹科目（文化・歴史）Ⅱ
国際教育プログラム（法律・政治）Ⅰ	基幹科目（法律・政治）Ⅰ
国際教育プログラム（法律・政治）Ⅱ	基幹科目（法律・政治）Ⅱ
国際教育プログラム（経済）Ⅰ	基幹科目（経済）Ⅰ
国際教育プログラム（経済）Ⅱ	基幹科目（経済）Ⅱ

Ⅱ 講義内容

【注意事項】

- 1 講義内容については、Oh-o!Meiji「授業検索」からシラバスを参照して確認すること。
- 2 1コマ100分の授業を50分ごとに分けた場合の単位をモジュールとよび、aモジュールは前半50分、bモジュールは後半50分を意味する。各科目の「授業内容」にモジュールの表記がある場合は、授業出席にあたり担当教員の指示に従うこと。
- 3 カリキュラム年度(入学年度)により履修できない科目や、科目区分が異なる科目があるので、「Ⅰ履修案内」や入学時に配付された「便覧」、P5・6の科目名対照表を参照して確認すること。
- 4 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、「教室等での授業による学修(授業時間)」と「授業時間以外に必要な学修(予習・復習等の自習)」の時間を合わせた学修活動によって算出される。下表にもとづき、十分な自習時間確保に努めること。

授業科目1単位に必要な学修時間（学期通算）

授業の方法	授業時間数	自習時間 (予習・復習等)	合計
講義・演習	15時間	30時間	45時間
実験・実習・実技 外国語・スポーツ	30時間	15時間	

1 基礎科目群

法律リテラシー〔メディア授業科目〕（概要）		
2 単位	和泉キャンパス	
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、1つのテーマを2回の授業（メディア授業と対面授業を1回ずつ）で扱い、全7テーマについて学習します。第1回テーマ（イントロダクション）の対面授業はクラス全員が揃って受講しますが、それ以降の対面授業については、クラスを半分に分け、より演習に適した人数で実施します。対面授業は、その回のテーマに関するメディア授業を視聴済みであることを前提として行い、受講生にとって分かりにくいところを補充し、そのテーマに関する理解を深められるように進めていきます。初めて法律を学び始める1年生が、楽しく勉強を続けられるようにサポートします。 【到達目標】 まずは法律の勉強に興味を持って取り組むこと、そして、法律の勉強に必要な基本的な作法と思考方法を身につけることを目標とします。		
2. 授業内容 第1・2回【第1回テーマ：イントロダクション】〔メディア授業（オンデマンド型）、対面授業〕 ・法律専門科目にはどのような科目があるのか ・卒業後の進路（一般企業・公務員その他） ・特に、法曹三者やその他の法律家を目指すには、どうすればよいのか 第3・4回【第2回テーマ：法律の勉強に必要なもの】〔メディア授業（オンデマンド型）、対面授業〕 ・六法、基本書、判例集、参考書などのツール ・六法はどのように読めばよいのか（実際に条文を読んでみよう） 第5・6回【第3回テーマ：法律の勉強の仕方・レポートの書き方】 ・法令の調べ方、基本書の読み方 ・法を解釈するとは、どういうことか ※図書館を利用した文献の調べ方を含む 第7・8回【第4回テーマ：判例の読み方】 ・判例を読んでみよう ・判例とは何か ・判例の種類と引用方法 など 第9・10回【第5回テーマ：勉強の仕方（1）憲法】 第11・12回【第6回テーマ：勉強の仕方（2）刑法】 第13・14回【第7回テーマ：勉強の仕方（3）民法】 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・対面授業を受講する前に、必ずその回のテーマに関するメディア授業を視聴して下さい。メディア授業とその資料は、Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載されています。メディア授業を視聴していないと、この授業の意義が半減しますので、必ず視聴して下さい。 ・対面授業は演習形式なので、積極的な姿勢で取り組んで下さい。メディア授業を視聴して分からなかったところは、他の人も同様に分かっていないものです。遠慮せずに発言して下さい。 ・対面授業には六法を持参して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各クラスの担当教員の指示に従って下さい。		
5. 教科書 指定しません。担当教員から指示があった場合は、それに従って下さい。		
6. 参考書 『法を学ぶパートナー』武藤真朗他（成文堂） 『ブレップ法学を学ぶ前に』道垣内弘人（弘文堂） 『法学学習Q & A』横田明美他（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji のクラスウェブを参照して下さい。		
8. 成績評価の方法 メディア授業の視聴及び課題への取り組み、授業中での発言・報告（レポートを含む）により評価します（授業回数の3分の2以上出席した者のみを評価対象とします）。		
9. その他 各クラスのシラバスについては、Oh-o! Meiji のクラスウェブを参照してください。 * 2022年度以降カリキュラムの科目です。2021年度以前のカリキュラムでは、履修できません。		

法学部生のための日本語Ⅰ・Ⅱ（概要）		
各2単位	和泉キャンパス	
1. 授業の概要・到達目標 大学で学ぶ際に求められる、書く・読む行為（論文・レポート・答案など）は、日常生活で無意識の内に行っているそれ（SNSなど）とは異なるものである。そのため、思ったことをそのまま書く・読みたいように読む後者のような状況から脱却し、前者の能力を身につけるには、意識的な訓練が必要になる。 この授業は、大学生としてふさわしい文章を執筆し、文章を的確に読解するための基礎的な力の修得を目標としたものである。		
2. 授業内容 読み・書きと並称されるように、どちらか一方の能力を欠いた状態で日本語を運用することはできない。たとえば、参考文献の精読は、自分の意見を明確に記す上でも欠かせない作業である。そこで本授業では、近代以降の優れた文章を講読しながら、レポート・論文の作成法を順番に説明していく。 授業は講義形式と演習形式とを織り交ぜて展開し、法学部生としての日本語リテラシーを、理論面・運用面双方から段階を踏んで養成していく。形式的な諸要件を満たした学術的文章を分かりやすく書くために、語彙・語法・文章・文体などの各方面から日本語の諸相を学習しつつ、要約のしやすい構成のとり方の訓練、文章執筆時のルールの確認などを行っていく。 授業の性質上、課題が多くなり、学期末にはレポートの提出も求める。それだけに、本授業は実践的な学びの場となる。 なお、Ⅱ（法学部生のための日本語Ⅱ（読解））では、Ⅰの内容を踏まえ、読解能力をより深めるとともに、試験・課題などを通して法学部生としてふさわしい文章を執筆する能力の定着を図っていく。 詳細は、『Oh-o! Meiji』のクラスウェブから、各クラスのシラバスを参照すること。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 『Oh-o! Meiji』のクラスウェブから、各クラスのシラバスを参照すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 『Oh-o! Meiji』のクラスウェブから、各クラスのシラバスを参照すること。		
5. 教科書 『Oh-o! Meiji』のクラスウェブから、各クラスのシラバスを参照すること。		
6. 参考書 『Oh-o! Meiji』のクラスウェブから、各クラスのシラバスを参照すること。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 『Oh-o! Meiji』のクラスウェブから、各クラスのシラバスを参照すること。		
8. 成績評価の方法 『Oh-o! Meiji』のクラスウェブから、各クラスのシラバスを参照すること。		
9. その他 ＊2022年度以降カリキュラムの科目です。2021年度以前のカリキュラムでは、履修できません。		

2 教養科目群

科目ナンバー：(LA)PHL191J		
記号論理学		金子 裕介
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 現代における演繹の形式化である記号論理学を、基本からゆっくり学んでいきます。 ゲンツェンという数学者の考えた自然演繹を習得します。これは優れた（唯一無二の）論理学の体系で、これを学ぶことが論理学を学ぶことだと受け止めてくれて構いません。 記号を煩雑に感じるかもしれませんが、知識ゼロからでもわかるようにお伝えするので安心してください。 今年は、とにかく演習、演習・・・とエキササイズをたくさんやって、問題が解けるようになってもらいたいです。 些末な（高度な）論理学の話題は脇に置きたいと思います。 数学が苦手でも問題ないので、どんなレベルの質問でも、自由に持って来てください。		
2. 授業内容 第1回：講義の進め方。教科書の使い方。命題論理の記号を学ぶ。 第2回：命題論理の文法：記号の読み方、使い方。 第3回：命題論理の証明：連言 第4回：命題論理の証明：選言 第5回：命題論理の証明：条件法 第6回：命題論理の証明：否定 第7回：述語論理の文法：一項述語と量化子 第8回：述語論理の文法：二項述語と多重量化 第9回：述語論理の証明：全称例化 第10回：述語論理の証明：存在汎化 第11回：述語論理の証明：全称汎化 第12回：述語論理の証明：存在例化 第13回：述語論理の証明：総合問題 第14回：テスト（厳密には「変則的レポート」） * 授業内容は必要に応じて変更することがあります（テスト14回目は決定事項）。		
3. 履修上の注意 教科書を2冊×2＝4冊使います（申し訳ないですが、購入必須となります）。 「冊」といってもアプリを使って読む電子的なもので、スマートフォンにダウンロードしてくれば結構です（タブレットやPCでも可）。 詳しくは講義1回目に説明します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の「どこに」「何が書いてあるのか」を把握してください。 テストは持ち込み可にしますので、知識の引き出しにアクセスできるようにしておくことが、そのまま論理学の習得につながります。		
5. 教科書 以下4冊の教科書を使います（「冊」といってもアプリを使って読む電子的なものです）。 『記号論理入門【命題論理】編』 前編、後編 各700円（合計1400円） 楽天Koboで出版（出版の際は連絡メールを送ります） 『記号論理入門【述語論理】編』前編、後編 各700円（合計1400円） 楽天Koboで出版（出版の際は連絡メールを送ります） 出版後などの連絡の詳細はOh-o!Meijiを通じて連絡させていただきます（早めに「質問コーナー」もOh-o!Meiji内に立ち上げます）。 共に電子的なものです。アプリをスマートフォン等にダウンロードして、そこでご購読お願いします（下記「楽天Koboの使い方」リンク先参照）。 私設サイトでの下記記事もご参照ください（質問欄は各記事下部「コメント欄」に書き込んでください）。 『記号論理入門【命題論理】編』前編、の質問先 https://cogefra.work/guidepropositional/		

『記号論理入門【命題論理】編』後編、の質問先 <https://cogefra.work/2guidepropositional/>

『記号論理入門【述語論理】編』前編、の質問先 <https://cogefra.work/predicatellogic-2/>

『記号論理入門【述語論理】編』後編、の質問先 <https://cogefra.work/iipredicatellogic/>

楽天 Kobo の使い方 <https://cogefra.work/category/%e9%9b%bb%e5%ad%90%e6%9b%b8%e7%b1%8d/%e6%a5%bd%e5%a4%a9-kobo/>

6. 参考書

以下 2 冊が問題集になります（教科書ではありませんので、購入必須ではありません）。

『記号論理精選問題集【命題論理】編』 1250 円

楽天 Kobo で出版（出版の際は連絡メールを送ります）

本書についての質問先（質問欄は各記事下部「コメント欄」に書き込んでください） <https://cogefra.work/logic/>

『記号論理精選問題集【述語論理】編』 1250 円

楽天 Kobo で出版（出版の際は連絡メールを送ります）

本書についての質問先（質問欄は各記事下部「コメント欄」に書き込んでください） <https://cogefra.work/predicatellogic/>

紙媒体として下記がありますが、本講義では上掲電子書籍の「教科書」を使ってください。

『文系のための記号論理入門— 命題論理から不完全性定理まで』朝倉書店, 3, 520 円

ISBN-10 : 4254500343

ISBN-13 : 978-4254500349

これは、あくまで参考書扱いとします。

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji に質問コーナーを立ち上げますので、学務的な質問（出席できない etc）はそこにしてください。

講義内容についての質問は私設サイトでの下記記事に書き込んでください（質問欄は各記事下部「コメント欄」に書き込んでください）。

『記号論理入門【命題論理】編』前編、の質問先 <https://cogefra.work/guidepropositional/>

『記号論理入門【命題論理】編』後編、の質問先 <https://cogefra.work/2guidepropositional/>

『記号論理入門【述語論理】編』前編、の質問先 <https://cogefra.work/predicatellogic-2/>

『記号論理入門【述語論理】編』後編、の質問先 <https://cogefra.work/iipredicatellogic/>

楽天 Kobo の使い方 <https://cogefra.work/category/%e9%9b%bb%e5%ad%90%e6%9b%b8%e7%b1%8d/%e6%a5%bd%e5%a4%a9-kobo/>

質問は匿名でできるようになっていますし、私の方からも誰かわからないようになっています。

講義前後の質問でも OK です。

8. 成績評価の方法

期末試験（講義期間中なので厳密には「変則的レポート」）で評価決定します。

試験は授業最終回（第 14 回目）に行います。試験「期間」中ではないので注意してください。

テストは、教科書は必須、その他全部持ち込み可にしますので、知識の引き出しにアクセスできるようにしておいてください。
テスト内容は「腕試し、チャレンジ」という趣旨のものですが、決して高いハードルを設けるものではありません。

出席は取りません。

しかし、もちろん「来なくてよい」「勉強しないでよい」という意味ではありません。

9. その他

耳学問でもよいので、毎回自分で講義に出て話を聞いておくことが、最終的には近道になります。

科目ナンバー：(LA) PSY131J		
心理学 I		大村 美菜子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 心理学には基礎から発展していった分野がある。例えば、臨床心理学、発達心理学、教育心理学などが挙げられる。そこで本講義では、様々な心理学の理論について概観するとともに、心理測定法、発達心理学、臨床心理学、社会心理学などの内容について幅広く学んでいく。		
2. 授業内容 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 心理学の歴史 第 3 回 心理学の諸理論① ―特性論と類型論― 第 4 回 心理学の諸理論② ―遺伝と環境― 第 5 回 発達心理学 ―幼児期～老年期― 第 6 回 前半まとめ（中間テスト） 第 7 回 心理検査①質問紙法 第 8 回 心理検査②投影法 第 9 回 心理検査③作業検査法 第 10 回 臨床心理学 ―さまざまな病理①― 第 11 回 臨床心理学 ―さまざまな病理②― 第 12 回 臨床心理学 ―心理療法― 第 13 回 社会心理学 第 14 回 後半まとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 心理学、特に臨床心理学では相手の立場に立って想像力を出来得る限り働かせることが大切です。授業をただ聞くのではなく、自分の頭で考えながら想像し理解するよう心掛けてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学修】臨床心理学・発達心理学・社会心理学などの領域の基礎的な事項を理解しておくこと（学修時間 週2時間） 【事後学修】授業ごとに復習すること。次回の授業範囲を予習し専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）		
5. 教科書 指定しない。講師が用意した資料を配布します。		
6. 参考書 『パーソナリティ心理学概論―性格理解への扉』、 鈴木 公啓（編集）、ナカニシヤ出版		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業冒頭で前回の課題に対するフィードバックを行う。 テストに関しては終了後に模範解答を公開する。		
8. 成績評価の方法 中間テスト（20%）および期末試験（80%）により評価する。		
9. その他 【学生へのメッセージ】 さまざまな心理学について基礎的なことから学んでもらいたいと思っています。興味をもてるような内容にできるよう努力しますので、一緒に頑張りましょう。		

科目ナンバー：(LA) PSY131J		
心理学Ⅱ		大村 美菜子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本授業では心理学の応用編として容姿心理学や医療における臨床心理学について学ぶ。また心理臨床の中での具体的な事例や支援方法についての知識を身につけることを目的とする。		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション：応用心理学の概要 第2回：容姿心理学①：容姿を気にしている人の実態 第3回：容姿心理学②：容姿とルッキズム 第4回：容姿心理学③：容姿と SNS 第5回：容姿心理学④：容姿と親子関係 第6回：容姿心理学⑤：現代の美容医療と容姿に関わる病 第7回：容姿心理学⑥：身体醜形症 第8回：前半まとめ（中間テスト） 第9回：医療における心理学①（緩和ケアと心理支援） 第10回：医療における心理学②（小児病棟と心理支援） 第11回：医療における心理学③（精神科入院病棟） 第12回：医療における心理学④（低体重児と保護者の心理支援） 第13回：司法における心理学 第14回：まとめ（最終テスト） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 心理学、特に臨床心理学では相手の立場に立って想像力を出来得る限り働かせることが大切です。授業をただ聞くのではなく、自分の頭で考えながら想像し理解するよう心掛けてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習：シラバスを確認し、次回の授業で取り扱う内容について調べてきてください（1 時間程度）。実践的な心理学は社会の動向によってさまざまな事柄に変化が生じます。事前準備として、普段からテレビ・新聞などのニュースや特集に関心もつことが大切です。 事後学習：テキストや資料の内容を読み返ししっかり復習して基礎的な専門用語を覚えてください。毎時間の授業で学んだ知識、概念等を十分に理解した上で、次の授業に臨むように心がけてください（1 時間程度）。		
5. 教科書 「きれいになりたい病」大村美菜子（著）／風鳴舎		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業冒頭で前回の課題に対するフィードバックを行う。 テストに関しては終了後に模範解答を公開する。		
8. 成績評価の方法 中間テスト（20%）および期末試験（80%）により評価する。		
9. その他 【学生へのメッセージ】 この授業では心理学の応用編について学んでもらいたいと思っています。みなさまが興味をもてる内容になるよう努力しますので、一緒に頑張りましょう。		

科目ナンバー：(LA) PSY191J		
法と心理		堀田 秀吾
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 法と心理は切っても切り離せない。他の行為と同じく、法に関わる人間の行動も心理に基づいたものだからである。本講座では、国内外の法と心理学の研究を外観しながら、法と心理学に関する基礎知識を深めていくことを目標とする。これにより、法コンテキストにおける心理だけでなく、様々な日常の心理の客観的分析方法を受講生が習得することを期待する。		
2. 授業内容 授業は基本的に講義形式で行う。毎回、プリントを配布し、講義内容に関連した作業（課題）を授業内で行ってもらい、そのプリントを提出してもらう。 第1回：法学と心理学（概説） 第2回：犯罪捜査 第3回：目撃証言 第4回：供述分析 第5回：取調べの可視化 第6回：裁判員裁判における事実認定と量刑 第7回：法廷戦略 第8回：精神鑑定・情状心理鑑定 第9回：防犯 第10回：商標 第11回：被害者参加 第12回：調停 第13回：日本とアメリカの司法制度と心理学 第14回：法と心理学の諸問題 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 教科書がないので、授業に2/3以上出席してプリント課題をこなし、試験を受けることが重要です。4回以上の欠席は受講放棄とみなします。評価方法は、下記参照。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に必要なし。		
5. 教科書 なし。		
6. 参考書 授業上で適宜指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 出席 30% 授業毎に提出してもらう課題 30% 試験 40% 合計点が 95点-100点：S 80点-94点：A 70点-79点：B 60点-69点：C 59点以下：F		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LIN191J		
法と言語 I		堀田 秀吾
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 私たちの生活は、法と深い関わりがある。そして、その法はことばを中心としたコミュニケーションによって成り立っている。本科目では、法という文脈におけるコミュニケーションの諸相を、言語学、心理学、社会学、法学の知見を援用しながら考察していく。これにより、法コンテキストにおけるコミュニケーションだけでなく、様々な日常のコミュニケーションの客観的分析方法を受講生が習得することを期待する。		
2. 授業内容 授業は基本的に講義形式で行う。毎回、プリントを配布し、講義内容に関連した作業（課題）を授業内で行ってもらい、そのプリントを提出してもらう。 第1回：言語と法（概説） 第2回：文書分析 第3回： 第4回：筆跡鑑定 第5回：地域による言語の違い 第6回：裁判と心理言語学 第7回：言語と性差 第8回：類似商標の分析 第9回：ことわざ 第10回：警告表示 第11回：人種・民族による言語差 第12回：ことばの犯罪 第13回：異文化コミュニケーション 第14回：今学期のまとめ ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義形式の授業であるが出席を重視する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書・参考図書を読んでくると理解が深まる。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 橋内武・堀田秀吾（編）『法と言語 法言語学へのいざない』第二版（くろしお出版、2024 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点 20%、授業への取り組み 20%、期末試験 60%。期末試験は教室での筆記試験。マークシート形式を予定。		
9. その他 履修にあたっては、法学に関する知識を有していることを前提としない。コミュニケーションに高い関心があれば良い。		

科目ナンバー：(LA)LIN191J		
法と言語Ⅱ		堀田 秀吾
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 私たちの生活は、法と深い関わりがある。そして、その法はことばを中心としたコミュニケーションによって成り立っている。本科目では、法という文脈におけるコミュニケーションの諸相を、言語学、心理学、社会学、法学の知見を援用しながら考察していく。これにより、法コンテキストにおけるコミュニケーションだけでなく、様々な日常のコミュニケーションの客観的分析方法を受講生が習得することを期待する。		
2. 授業内容 授業は基本的に講義形式で行う。毎回、プリントを配布し、講義内容に関連した作業（課題）を授業内で行ってもらい、そのプリントを提出してもらう。 第1回：言語と法：言語学とは（概説） 第2回：法言語学の歴史 第3回：ことばが生み出すバイアスと法 第4回：日本国憲法のことば 第5回：偽証・名誉毀損 第6回：言語法と言語政策 第7回：法哲学と言語 第8回：法務翻訳 第9回：法言語教育 第10回：言語と法文化 第11回：法言語分析の実際1 第12回：法言語分析の実際2 第13回：法言語分析の実際3 第14回：法言語学の諸相 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義形式の授業であるが、「授業毎に配布されるプリント課題の提出」と「出席」を重視する。4回以上の欠席は履修放棄とみなします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書・参考図書を読んできると理解が深まる。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 橋内武・堀田秀吾（編）『法と言語 法言語学へのいざない』（くろしお出版、2012年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点 30%、授業への取り組み 30%、期末試験 40%。期末試験は教室での筆記試験。穴埋め問題一問と筆記問題二問。		
9. その他 履修にあたっては、法学に関する知識を有していることを前提としない。コミュニケーションに高い関心があれば良い。		

科目ナンバー：(LA)CUL351J		
マイノリティの人間学		中村 和恵
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 概要： マイノリティとは誰のことでしょう？ 表層的な政治的正しさはここではむしろクリティカルに見直されます。具体的で実際のなほんとうの話をしてみよう。すると自分も見方や状況によってはマイノリティなのだという「当事者性」が浮上します。アイデンティティは不変ではなく、流動的です。新しい自分の発見をスプリングボードに、境界を行き来し変化を常態とする人間をとらえる、新たな文化的動態視力、今日的教養を涵養します。 議論の軸は人種、民族、性差、身体および精神の健全性、そして経済と個人の心身の維持など、複数あります。ジェンダー・セクシュアリティ・移民・難民・国家・民族・宗教・病い・労働と生活・環境と経済等の枠組みにおいて、マイノリティとみなされてきた人々の事例を通し、「異なる文化とどうつきあうか」「異なるものとしての自分に他者がどうつきあってほしいのか」「まっとうに生きているとはどういうことか」を考えます。 目標： 授業を異文化接触のアクチュアルな経験の場として新しい知のネットワークを各自が編み直し、多様な人々の「事情」を知り共存するために必要な、グローバルかつローカルな発想・態度を涵養する。		
2. 授業内容 1. マイノリティとは誰のことか 数ではなく力の制度／人種、民族、性的指向を軸に／世界地図と自らの位置づけ——国家、民族、言語文化の境界のずれ 2. 日本の北方には複数の先住民族が存在してきた シーサムとしてのきみ／人種という偽科学、先住民族の政治性／地名にみる先住者の痕跡と先住民族を探す入植者の子孫たち／肖像権問題とジャックドフニ 日本の北方民族表象にみるユートピア幻想 3. 見えない人間 国家を持たない・国家に人権を奪われた「多数の少数者」 アパルトヘイト下の南アフリカ、クルド、ロヒンギャ、パレスチナ 4. 賤しい人間とは誰か インドの少数民族／カーストという英語とイギリスの階級制度／ヒンドゥーとムスリム、ダーリットと宗教 5. ヘテロセクシュアル男装男子はどこまでノーマルか 性別を決める要素は多数ある／グレイゾーンが自然には存在する／セクシュアリティとはなにか・セックスだけが人生じゃない 6. 隣の外国人 民族再考——ハイフンつきの子孫たちを遡る／出稼ぎ労働者と未来の同胞をめぐる感情的な議論の歴史／ 黄禍論と日本人移民排斥／強制収容された日本人移民たち 7. 熊にあったら学びなさい 狩猟採集民に学ぶ自然と人間を分けない世界観／穀物は諸悪の根源？ 狩猟採集民と牧畜民と農耕民、そしてお金と借金と金利と軍隊と国家についてのとても古い話 8. 女／男の意味論： 女をめぐる感情的な議論 フェミニズムをヒステリーと呼ぶ日本人の世界における位置づけ 明治の法律と女性 不倫とはなにか なぜ最近の女は子どもを産まないのか 10. 働かずに食ってはいかんのか イギリスの上流階級、漱石の「高等遊民」／労働者の天国オーストラリア／働かざる者食うべからず？ 生活保護受給バッシング議論／トンガ人とドミニカ島人と旧ソ連人に「健康で文化的な最低限度の生活」について訊ねよう／そもそも「働く」とは 11. 頭のOS が違う人 精神障害者への「対処」の歴史／優生学／名称の変化・いまなぜアスペルカ／出産前のお母さんの判断／隠す家族と隠さない家族／病とはなんだろう 12. 共に生きる 事例 1) お父さんがゲイであると知った子どもたち 『プリシラ』『トランペット』『キッチン』『メゾン・ド・ヒミコ』などを例に 13. 共に生きる 事例 2) 日本人とは誰なのか・人類のルーツと日本人のルーツ 阿寒湖アイヌコタンの事例、先住民族と入植者が一緒につくる観光産業 14. 全体を振り返って マイノリティの定義とマイノリティ相互の関係、そして当事者性を見直そう（コメントフィードバック、口頭コメントとディスカッション） *参加者の関心と人数によりシラバスの細部を変更する予定です。 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 出席： 何回休んだら単位が出ないといった考え方はしたくないです。しかし出席がすくない方は単位を取得できない可能性があります。リアクションペーパーや授業中パフォーマンスを重視するためです。基本ラインとして5回以上休んだ方は単位が出ないと考えてください。病気等の特別な事情のある方はオンライン（ポートフォリオの授業振り返りコメント）で相談し事情を証明する書類等を持参してください。 事例研究担当： 講義が基本の科目ですが、参加者の関心の方向や人数を考慮しつつ事例研究を学生にも行ってもらうことを考えています。詳しくは授業で説明しますが、参加人数により、各授業の最初に5～10分程度の短い発表を順に行う、あるいは事例研究担当者による口頭発表、もしくはオンラインによる事例研究発表と共有、などの形式を考えています。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 オンライン課題や事例研究のときにはかならず準備学習が必要になります。内容により1時間から2時間ほどの予習時間を必要とすると想定します。その際資料の詳細（著者・作成者名、記事や章や本の題、出版社と出版年、あるいは発表された場所の詳細とURL および作成ないし閲覧日）を明記するなど、基本のレポート形式をしっかり意識して文章を書いてください。 復習 期末レポートでは授業全体を振り返り具体例をあげて解答すべき問いに答えるかたちの文書作成が求められます。毎回の授業内容を復習し、重要とおもわれる主題と事例を整理しておくことで、その作業がしやすくなるでしょう。回により20分から1時間程度の復習が望ましいと考えます。 授業からひろげる発展学習としての復習の推奨 この授業は基本的に講義科目であり、みなさんは毎回講師の話を聞いてリアクションペーパーや課題をこなしていきます。聞いているうちにきっと、さらに知りたいこと、もっといいたいことが、出てくるはずです。ぜひシラバスの参考資料や授業中紹介する人名等を手がかりに、自分で発展的学習を行ってください。期末レポートの準備としても非常に有効です。 週30分、発展的学習として関心がある資料を読んでみるだけで、半年後の自分はきっと変わっています。		

5. 教科書 配布プリント・オンラインアップロード資料を用います。
6. 参考書 岡真理『ガザとは何か～パレスチナを知るための緊急講義』大和書房、2023 タニア・ド・モンテーニュ（堀茂樹訳）『「黒人」は存在しない。アイデンティティの釘付けについて』中央公論新社、2024 ジャッキー・ケイ（中村和恵訳）『トランペット』岩波書店、2016 現代企画室編集部『アイヌ肖像権裁判・全記録(PQ ブックス)』現代企画室、1988 エドゥアルド・コーン(奥野克巳・近藤宏・近藤社秋・二文字屋脩訳)『森は考える——人間的なるものを越えた人類学』亜紀書房、2016 司馬遼太郎『街道をゆく 38 オホーツク街道』朝日文庫、2009 ジェームズ・C・スコット(佐藤仁監訳)『ゾミア——脱国家の世界史』みすず書房、2013 —————（立木勝訳）『反穀物の人類史——国家誕生のディープヒストリー』みすず書房、2019 年 相田光明『北方古代文化の邂逅・カリカリウス遺跡（シリーズ「遺跡を学ぶ」98）』新泉社、2014 玉井収介『自閉症（講談社現代新書 697）』講談社、1983 バーバラ・チェイス=リボウ（井野瀬久美恵ほか訳）『ホッテントット・ヴィーナス—ある物語』法政大学出版局、2012 チカupp美恵子『風のめぐみ—アイヌ民族の文化と人権』1991 中村和恵『地上の飯——皿めぐり航海記』平凡社、2012 野尻英一・高瀬堅吉・松本卓也編『〈自閉症学〉のすすめ:オーティズム・スタディーズの時代』ミネルヴァ書房、2019 松村圭一郎『くらしのアナキズム』ミシマ社、2021 その他毎回紹介していきます。
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業後のリアクションペーパー、オンライン課題等のフィードバックは授業中全体に口頭で、また必要に応じて全体および個別向けのオンラインコメントとして行います。期末レポートはオンラインで全体向けに授業全体の振り返りとともに内容を紹介し、個別にオンラインでコメントを行います。 課題についてその他質問や相談は授業お知らせから全体向け・個別向けに行いますので留意してください。 なお学生から担当者に質問や相談がある場合はクラスウェブのポートフォリオ（授業振り返りコメント）から内容を送付してください。学部事務室を通しての問い合わせは緊急時に限って行ってください。
8. 成績評価の方法 平常点（授業中の質問やコメント、リアクションペーパー、オンライン課題）70%、期末レポート 30%
9. その他

科目ナンバー：(LA)S0C191J		
スポーツと社会 A（スポーツ・ビジネス論）		釜崎 太
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 プロ野球とプロサッカーを中心に、スポーツ・ビジネスの現状と課題について学びます。プロスポーツ・ビジネスの現状と課題について、各自の意見を論理的に表現できるようになることが到達目標です。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション―授業の目的と概要の説明― 第 2 回：スポーツ・ビジネスの原型としてのオリンピックと日本型プロスポーツの課題 第 3 回：プロ野球と Jリーグの基本構造―どこが違うのか？― 第 4 回：プロ野球ビジネスの現在―もし集客イベントを企画しろと言われたら― 第 5 回：プロ野球ビジネスの現状と課題 1―もしスタジアムを提案しろと言われたら― 第 6 回：プロ野球ビジネスの現状と課題 2―もし NPB の市場規模を拡大しろと言われたら― 第 7 回：プロ野球ビジネスの現状と課題 3―もしプロ球団を創れと言われたら― 第 8 回：プロ野球ビジネスの現状と課題 4―市民球団ビジネス― 第 9 回：プロ野球ビジネスの現状と課題 5―ドラフト制度の課題― 第 10 回：スポーツ・エージェンシー―移籍ビジネスの光と影― 第 11 回：プレミアリーグのビジネスモデル―メディア王ルパール・マードック― 第 12 回：特別講演：学外の識者をお招きします。 第 13 回：ブンデスリーガのビジネス―非営利法人から株式会社へ― 第 14 回：まとめ―ミニレポートの作成― ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 基本的なことから解説しますので、特別な知識は必要ありません。初心者でも履修できます。 スポーツのメディア報道などに興味・関心をもってください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 スポーツやオリンピックに関する報道に興味をもってください。 授業時間内にプリントを配布しますので、準備学習に役立ててください。		
5. 教科書 各回によって異なりますので、授業時間内に紹介します。		
6. 参考書 各回によって異なりますので、授業時間内に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ディスカッション・ペーパーに学生が記入した内容について、次の授業時間内にレスポンスします。		
8. 成績評価の方法 授業時間内のディスカッション 10%とミニレポート（第 14 回・指定のプリントの持ち込み可）90%で評価します。		
9. その他 上記「2. 授業内容」は受講者数等によって変更になる場合があります。		

科目ナンバー：(LA)S0C191J		
スポーツと社会B（スポーツ公共論）		釜崎 太
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、ブンデスリーガと日本のプロスポーツを比較しながら、スポーツと社会のつながりについて考えます。スポーツにおけるビジネスと公共性の関係について論理的に説明できるようになることが到達目標です。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション―授業の目的と概要の説明― 第2回：日本プロスポーツの地域密着型経営―Jリーグとプロ野球の共通点― 第3回：プロスポーツ・スタジアムの建設と公的資金の投入―メジャーとの比較に見る私益・共益・公益― 第4回：小澤一郎氏特別講義：バルサが株式会社化？商業化する欧州サッカー界でスペインのソシオ制クラブは生き残れるのか？ 第5回：ブンデスリーガの構造1―観客動員世界一の秘密と会員総会の現在― 第6回：ブンデスリーガの構造2―総合型地域スポーツクラブと自立・連帯・対話― 第7回：Jリーグ百年構想の意義と地域密着型経営の課題―ドイツに見る公共性の構造転換Ⅰ― 第8回：ブンデスリーガの構造3―プロテスト運動と「50+1ルール」のゆくえ― 第9回：ブンデスリーガの構造4―スポーツと政治の結びつきは悪か？― 第10回：ブンデスリーガの構造5―ウルトラと「暴力の表象空間」― 第11回：ブンデスリーガの構造6―ドイツに見る公共性の構造転換Ⅱ― 第12回：特別講演：学外の識者の方をお招きします。 第13回：ブンデスリーガに見るドイツ社会の課題―市民的公共性の現在― 第14回：まとめ―ミニレポートの作成― ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 基本的なことから解説しますので、特別な知識は必要ありません。初心者でも履修できます。 スポーツのメディア報道などに興味・関心を持ち、その報道の背後にある社会問題に思考をめぐらせるよう努めてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 スポーツに関する報道に興味をもってください。 授業時間内にプリントを配布しますので、準備学習に役立ててください。		
5. 教科書 各回によって異なりますので、授業時間内に紹介します。		
6. 参考書 各回によって異なりますので、授業時間内に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ディスカッション・ペーパーに学生が記入した内容について、次の授業時間内にレスポンスします。		
8. 成績評価の方法 授業時間内のディスカッション10%とミニレポート（第14回・指定のプリントの持ち込み可）90%で評価します。		
9. その他 上記「2. 授業内容」は受講者数等によって変更になる場合があります。		

科目ナンバー：(LA)SOC361J		
スポーツとメディア		釜崎 太
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、スポーツとメディアの関係について、報道内容とメディア・テクノロジーのふたつの側面から検討します。スポーツとメディアの関係について、現状と課題を論理的に説明できるようになることが到達目標です。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション—授業の目的と概要の説明— 第2回：メディア・イベントとしての甲子園野球—伝統の発明— 第3回：メディア・イベントとしての箱根駅伝と高校サッカー—スポーツを変えるのは誰か？— 第4回：日米野球比較論に見るメディアの役割 第5回：メディアと権力—公共圏の概念：放送の認可とジャニーズ問題をめぐって— 第6回：FC サパデル（ラ・リーガ）の報道に見る欧州サッカーの商業主義化 第7回：パリサンジェルマンのテレビ中継に見る政治とスポーツの関係 第8回：特別講演：メディア関係者の方をお招きします。 第9回：認識的ナショナリズムとメディア報道—外国人選手の表象をめぐって：ムスリム女子サッカーとラクビーW杯— 第10回：—スポーツ中継の日独比較に考えるジェンダー平等—オリンピックとサッカーワールドカップの中継から— 第11回：判定テクノロジーと審判の身体 第12回：「メディアはメッセージ」をめぐって—ヴァーチャル社会論— 第13回：メディア・スポーツのリアリティ—松井秀喜の五連続敬遠に考える情報現実と体験現実— 第14回：まとめ—ミニレポートの作成— ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 基本的なことから解説しますので、特別な知識は必要ありません。初心者でも履修できます。 スポーツのメディア報道に興味・関心をもち、その報道の背後にある社会問題に思考をめぐらせるよう努めてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「スポーツ」あるいは「メディア」について興味をもってください。 授業時間内にプリントを配布しますので、準備学習に役立ててください。		
5. 教科書 各回によって異なりますので、授業時間内に紹介します。		
6. 参考書 各回によって異なりますので、授業時間内に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ディスカッション・ペーパーに学生が記入した内容について、次の授業時間内にレスポンスします。		
8. 成績評価の方法 授業時間内のディスカッション 10%とミニレポート（第14回・指定のプリントの持ち込み可）90%で評価します。		
9. その他 上記「2. 授業内容」は受講者数等によって変更になる場合があります。		

科目ナンバー：(LA)HES111J		
身体活動と健康 A（生活習慣と社会環境）		多田 聡
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「身体活動と健康 A」では、＜生活習慣と社会環境＞をテーマに現代における健康の意味を考察し、身体活動や生活習慣の重要性について理解を深めます。また、個人の健康が社会環境にも左右されることを知り、健康の環境的要因についても学修します。 そこから生涯にわたる自身の健康についての考えを形成するとともに、現在の生活習慣を改善することを目標とします。 体育・スポーツ科学、保健分野の基礎的領域について扱います。 【到達目標】 (1) 健康に資する生活習慣やライフスタイルについて理解し、実践できる (2) 効果的な身体活動やトレーニング方法について理解し、実践できる (3) 健康やライフスタイルに関連する社会問題に関心を持ち、その解決のために行動できる		
2. 授業内容 第 1 回 a のみ：イントロダクション 第 2 回 現代のライフスタイルと健康・ウェルネス 第 3 回 人間と運動：身体運動の必要性和効果 第 4 回 体カトレーニングの方法 第 5 回 食生活とダイエット 第 6 回 休息・休養と睡眠 第 7 回 喫煙・飲酒・薬物と依存 第 8 回 こころの健康・精神衛生 第 9 回 救急救命法、災害 第 10 回 北欧のライフスタイルに学ぶ 第 11 回 SDGs (Sustainable Development Goals) を考える 1 SDGs とは 第 12 回 SDGs を考える 2 持続可能性と環境問題 第 13 回 SDGs を考える 3 人権とジェンダー問題 第 14 回 まとめ、レポート作成について *授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 3 分の 2 以上の出席が必須です。 ※毎回、出席を確認し、小アンケート、小課題の提出を求めます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で学修する内容のほか準備学習として以下の点をあげておきます。 ・心身の健康や生活習慣に関心を寄せ、日頃からニュースや情報に目を通す習慣を持つこと ・また、自身の健康に関わる事柄だけでなく社会的な問題として健康を考えること		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 特に定めません。 必要に応じて授業内で紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji クラスウェブ、メールを活用しフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 2/3 以上出席した上で、以下のような観点で評価します。 毎回の授業ごとのリフレクションや小テスト、アンケート (40%) 最終レポート (40%) 授業でのディスカッションや応答など積極的参加 (20%)		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)HES111J		
身体活動と健康B（身体・スポーツ文化）		多田 聡
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「身体活動と健康B」では、＜身体・スポーツ文化＞をテーマに、様々な身体文化について学修します。身体活動やスポーツの文化について考察を深め、関連する現代的な社会問題について知見を広めることを目的とします。 スポーツ文化論やスポーツ社会学の基礎的領域を扱います。 【到達目標】 (1) 身体活動やスポーツの意義について理解している (2) 多様な身体・スポーツ文化について理解している (3) 身体活動やスポーツに関連する社会問題に関心を持ち、その解決に向けて行動できる		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション（身体・スポーツ文化と社会における現代的問題） 第2回：文化としての身体活動・スポーツ（祭り、美、競技、武道など） 第3回：競技スポーツと生涯スポーツ 第4回：スポーツの教育的意義 第5回：スポーツマネジメント・ツーリズム・コミュニティ形成 第6回：レクリエーション・野外活動 第7回：北欧のスポーツと野外生活文化 第8回：オリンピック、オリンピズム 第9回：スポーツと政治 第10回：障がいやインクルーシブとスポーツ 第11回：スポーツとジェンダー 第12回：スポーツと暴力・ハラスメント 第13回：スポーツの権利と法 第14回 まとめ、レポート作成について *授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 3分の2以上の出席が必須です。 ※毎回、出席を確認し、小アンケート、小課題の提出を求めます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で学修する内容のほか準備学習として以下の点を上げておきます。 ・様々な身体活動やスポーツに関心を寄せ、日頃からニュースや情報に目を通す習慣を持つこと ・自身のライフスタイルにおける身体活動やスポーツに関わる事柄だけでなく社会的な問題として考える視点を持つこと		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 特に定めません。 必要に応じて授業時に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji クラスウェブ、メールを活用しフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 2/3以上出席した上で以下のような観点で評価します。 毎回の授業ごとのリフレクション、小テスト、アンケート(40%) 最終レポート(40%) 授業でのディスカッションや応答、授業への参加(20%)		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)PHY151J		
物質と宇宙Ⅰ		勝田 忠広
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：自然科学(主として天文学、宇宙論、物理学等)に関する科学的基礎を学び、さらにそれらの社会、政治、倫理的側面等について、文系の学生が取り組むべき課題、解決策を共に考える 到達目標：提示される諸問題に対して、科学的根拠に基づいた自分の考えを確立する		
2. 授業内容 第1回：授業の概要・導入 第2回：天文学の歴史 第3回：宇宙創生1 第4回：宇宙創生2 第5回：銀河系・ブラックホール 第6回：太陽系・地球外知的生命体 第7回：地球と水 第8回：宇宙の「平和」利用 第9回：宇宙と倫理 第10回：量子力学1 第11回：量子力学2 第12回：科学と宗教 第13回：ポリシーメモ発表 第14回：a. 総括、b. 定期試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業で扱うテーマに関する予備知識と興味、社会・環境問題に関する問題意識、英語の読解力が必要 関連する情報を常に書籍、雑誌、Web、新聞等でチェックし積極的に質問すること 可能な限り「物質と宇宙Ⅱ」の履修が必要		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で提示された内容について、各自が書籍や報道情報等を用いて予習、復習をすること		
5. 教科書 特になし。資料を事前に教示あるいは配布する		
6. 参考書 関連する分野の初心者向け新書、国内外の科学雑誌（サイエンス、ナショナル・ジオグラフィック等）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解説を行う		
8. 成績評価の方法 平常点(受講参加状況、発表態度、課題提出等) 30%、ポリシーメモ 30%、試験または学期末レポート 40%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)PHY151J		
物質と宇宙Ⅱ		勝田 忠広
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：自然科学(主として生物学、進化論等)に関する科学的基礎を学び、さらにそれらの社会、政治、倫理的側面等について、文系の学生が取り組むべき課題、解決策を共に考える 到達目標：提示される諸問題に対して、科学的根拠に基づいた自分の考えを確立する		
2. 授業内容 第1回：授業の概要・導入 第2回：生物多様性 第3回：遺伝子問題1 第4回：遺伝子問題2 第5回：地球上の生物 第6回：科学と信仰 第7回：疑似科学1 第8回：疑似科学2 第9回：生命の起源 第10回：進化論 第11回：生態学 第12回：人間と地球・宇宙の歴史 第13回：ポリシーメモ発表 第14回：a. 総括、b. 定期試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業で扱うテーマに関する予備知識と興味、社会・環境問題に関する問題意識、英語の読解力が必要 関連する情報を常に書籍、雑誌、Web、新聞等でチェックし積極的に質問すること 可能な限り「物質と宇宙Ⅰ」の履修が必要		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で提示された内容について、各自が書籍や報道情報等を用いて予習、復習をすること		
5. 教科書 特になし。資料を事前に教示あるいは配布する		
6. 参考書 関連する分野の初心者向け新書、国内外の科学雑誌（サイエンス、ナショナル・ジオグラフィック等）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解説を行う		
8. 成績評価の方法 平常点(受講参加状況、課題提出等) 30%、ポリシーメモ 30%、試験または学期末レポート 40%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) STS311J		
科学技術と社会		勝田 忠広
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：日本や世界の科学技術に関する政策について具体的・実践的に学ぶ 到達目標：提示される諸問題に対して各自が科学的手法と国際的視野に基づいた独立した考えを持ち、自身の実践的な行動につなげることを目指す		
2. 授業内容 第1回：授業の概要・導入 第2回：国家と科学技術政策とは 第3回：国家と科学技術政策 1 第4回：国家と科学技術政策 2 第5回：国家と科学技術政策 3 第6回：国家と科学技術政策 3 第7回：国家と科学技術政策：発表 第8回：生活と科学技術政策とは 第9回：生活と科学技術政策 1 第10回：生活と科学技術政策 2 第11回：生活と科学技術政策 3 第12回：生活と科学技術政策 4 第13回：生活と科学技術政策：発表 第14回：a. 総括、b. 定期試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 工学に関する興味、およびそれに関する社会・環境問題に関する問題意識、英語の読解力が必要 関連する情報を常に新聞等でチェックし積極的に質問すること 可能な限り「物質と宇宙Ⅰ・Ⅱ」「科学と技術Ⅰ・Ⅱ」の履修が必要		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で提示された内容について、各自が書籍や報道情報等を用いて予習、復習をすること		
5. 教科書 政府・諸機関の報告書、NGO や研究機関のカウンターレポート等 資料を事前に教示あるいは配布する		
6. 参考書 関連する分野の初心者向け新書、国内外の科学雑誌（サイエンス、ナショナル・ジオグラフィック等）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解説を行う		
8. 成績評価の方法 平常点（受講参加状況、課題提出等）30%、発表 30%、試験または学期末レポート 40%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) BBI191J		
生命と人間 I		堀田 晴美
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 <授業の概要> 生命科学（ライフサイエンス）を「私達自身の健康と生活をささえるサイエンス」と捉えて講義します。 <到達目標> 新聞の「科学」欄などの最新科学の進歩について理解できるレベルを目指します。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：生命の基本単位とは 第3回：生命の枝 第4回：生体電気の発見と応用 第5回：痛み・自律神経・排泄 第6回：食事と運動 第7回：老化 第8回：死 第9回：「遺伝子」の発見 第10回：「遺伝子」の正体 第11回：ヒトゲノム解析の成果 第12回：生命の多様性 第13回：進化 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 状況に応じて、講義内容や順序を変えることがあります。欠席が多いと理解が困難になります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業は、教科書や参考資料に沿って実施します。毎回の授業後、教科書・ノート・講義資料を見直す復習をするとよいでしょう。		
5. 教科書 生物学入門（大学生のための基礎シリーズ②）第3版 石川統・大森正之・嶋田正和 編（東京化学同人）		
6. 参考書 『WHAT IS LIFE?（ホワット・イズ・ライフ？）生命とは何か』 ポール・ナース 著/竹内 薫 訳（2021年03月発行）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の講義の際に、理解したことや疑問点を記入してもらい、次回の講義で紹介し、理解を深めます。		
8. 成績評価の方法 原則として、定期試験の結果で成績を評価します。試験の内容は、教科書と講義内容（講義資料、PowerPoint、ビデオ映像などを含む）の範囲で出題します（100点）。得られた点数が60点以上を単位取得とします。		
9. その他 質問は大歓迎です。気軽にコンタクトしてください。		

科目ナンバー：(LA) BBI191J		
生命と人間Ⅱ		堀田 晴美
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 <授業の概要> 生命科学（ライフサイエンス）を「私達自身の健康と生活をささえるサイエンス」と捉えて講義します。 <到達目標> 新聞の「科学」欄などの最新科学の進歩について理解できるレベルを目指します。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：生命の化学 第3回：「区画化」 第4回：酸素と生命 第5回：ホメオスタシス 第6回：情報としての生命 第7回：DNA の機能 第8回：遺伝子のオンとオフ 第9回：感染症との闘い 第10回：がんの新しい治療法 第11回：遺伝子編集・iPS 細胞 第12回：人口増加に伴う問題 第13回：ヒトの脳・意識・睡眠 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 状況に応じて、講義内容や順序を変えることがあります。欠席が多いと理解が困難になります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業は、教科書や参考資料に沿って実施します。毎回の授業後、教科書・ノート・講義資料を見直す復習をするとよいでしょう。		
5. 教科書 生物学入門（大学生のための基礎シリーズ②）第3版 石川統・大森正之・嶋田正和 編（東京化学同人）		
6. 参考書 『WHAT IS LIFE?（ホワット・イズ・ライフ？）生命とは何か』 ポール・ナース 著/竹内 薫 訳（2021 年 03 月発行）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の講義の際に、理解したことや疑問点を記入してもらい、次回の講義で紹介し、理解を深めます。		
8. 成績評価の方法 原則として、定期試験の結果で成績を評価します。試験の内容は、教科書と講義内容（板書、講義資料、PowerPoint、ビデオ映像などを含む）の範囲で出題します（100 点）。得られた点数が 60 点以上を単位取得とします。		
9. その他 質問は大歓迎です。気軽にコンタクトしてください。		

科目ナンバー：(LA) INF111J		
数理と社会 I		奥野 拓也
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 さまざまなデータ分析で統計解析の手法が利用されている。この授業では、データ収集と整理、統計解析に関する基礎的な取り扱いについて解説する。 IoT の発達によりデータが以前よりも簡単にあつまりつつある。しかしデータは、整理して解析することで初めて情報となり活用可能となる。そのための基礎として、データ整理の方法、要約記述のための記述統計および確率について学ぶ。 調査・実験データの収集と記述の方法を理解すること。ならびにデータから情報を引き出し相手に伝えるための方法を理解して、実際に活用できるようにすることを目指す。		
2. 授業内容 第 1 回：数理と社会 I への誘い 第 2 回：データの種類と整理 第 3 回：データの要約記述と図示 (1) 第 4 回：データの要約記述と図示 (2) 第 5 回：データ可視化に関する発展的な話題 第 6 回：データストーリー 第 7 回：1 変数データの分析 第 8 回：2 変数データの分析 第 9 回：確率 第 10 回：確率変数と分布 第 11 回：統計的推測 第 12 回：検定 第 13 回：回帰分析 第 14 回：応用的な話題 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 履修上の注意はない。 最近、さまざまな業種のビジネスで統計を用いたデータ分析の手法が利用されており、統計学の重要性が高まっているため、利用方法、および評価方法について理解することが重要である。この授業ではその基礎となるデータ分析に興味があることが履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 該当するページを事前に確認しておくことが望ましい。		
5. 教科書 パワーポイントを提示する。		
6. 参考書 参考文献は必要に応じて授業の中で提示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の最後に簡単な演習を行います。その問題の解説については、その演習の翌週の授業で時間を用意し、Oh o! Meiji 経由で配布します。		
8. 成績評価の方法 定期試験は行いません。出席はとりますが点数には換算せず、欠席が 3 回を超えると単位を認定しません。 成績は次の項目による総合評価： ・複数回の課題レポート：到達目標の達成を測るための課題レポート複数回提出します（レポートをまとめるにあたり、授業内容を復習し、疑問点を解決し、考察を深めることができたか）。 ・授業後に課題を提出します。提出状況と内容に応じて評価します。		
9. その他 授業でわからないところもあると思いますが、その場合は質問をしてください。授業中が難しいのであるならば、授業の後やメール等でも受け付けていますので、気軽に質問をしてください。		

科目ナンバー：(LA) INF111J		
数理と社会Ⅱ		奥野 拓也
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 最近、さまざまな業種のビジネスで AI (機械学習・深層学習等) が利用されており、その重要性が高まっている。この授業では AI の概要と、利用方法について解説します。 AI の活用 (社会実装) は人々の生活を便利にする反面、様々な倫理問題やリスクを抱えています。これらの問題を回避するには事前に学習させる知識や情報の中の偏りを見直し、改善を加えるプロセスが重要になります。そこで AI が抱える課題について理解し、人と機械の共存について考えていきます。 AI と共存していくために、必要なものはなにか、どのように提供していけばいいか等、実際に活用できるようにすることを目指す。		
2. 授業内容 第 1 回：数理と社会Ⅱ への誘い テーマ 1：AI 概論 第 2 回：教師なし学習 (分類問題) とその活用 第 3 回：教師なし学習 (回帰問題) とその活用 第 4 回：教師なし学習とその活用 第 5 回：強化学習とその活用 第 6 回：AI を作る (1) 第 7 回：AI を作る (2) テーマ 2：AI が抱える課題 第 8 回：AI とプライバシー (1) 第 9 回：AI とプライバシー (2) 第 10 回：AI と倫理問題 (1) 第 11 回：AI と倫理問題 (2) 第 12 回：AI とセキュリティ (1) 第 13 回：AI とセキュリティ (2) 第 14 回：AI を活用するには ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・授業ではプレゼンテーションが必須です。そのため PC/タブレットが必要となります。 ・数理と社会Ⅰを履修しておくことで理解が深まりますが、必須ではありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・AI に関するニュース記事を普段から確認しどのような利用方法があるか調査しておくこと。 ・授業に関する課題が毎週提出されます。		
5. 教科書 ・信頼できる AI へのアプローチ, Beena Ammanath 著, 共立出版, 2023. その他、適宜参考文献を指示します。		
6. 参考書 参考文献は必要に応じて授業の中で提示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 グループワーク課題等は受講生で共有し、各自からフィードバックをもらうようにします。		
8. 成績評価の方法 定期試験は行いません。出席はとりますが点数には換算せず、欠席が 3 回を超えると単位を認定しません。 成績は次の項目による総合評価： ・複数回の課題レポート：到達目標の達成を測るための課題レポート複数回提出します（レポートをまとめるにあたり、授業内容を復習し、疑問点を解決し、考察を深めることができたか）。 ・授業後に課題を提出します。提出状況と内容に応じて評価します。		
9. その他 授業でわからないところもあると思いますが、その場合は質問をしてください。授業中が難しいのであるならば、授業の後やメール等でも受け付けていますので、気軽に質問をしてください。		

科目ナンバー：(LA)STA111J		
情報と思考Ⅰ		栗山 健
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「社会変化が著しく、将来を予測することが難しい現代、個人にとっても社会全体にとっても幸せなウェルビーイングが実現されるためにはどうすれば良いのだろうか」もし、このような議論に参加しようとしたとき、どのような能力が必要になってくるのでしょうか。ある分野に特化した専門知識だけでなく情報を収集し整理、編集したうえで論理的に説明できる能力も求められます。 社会の変化をとらえようとしたとき多大な情報に翻弄されたり、過度に偏った情報により判断を誤ったりすることも起こりえます。例えば、「みんながそう言っている」と聞くことがあります。みんなって誰？実際何人の人？「そう」言っている。の「そう」は何を指しているのでしょうか。皆さんは自身にとって都合のいい情報だけを収集、信頼し、自ら望む結論を導出していることはないでしょうか。 仮に情報をインプットとするならば、思考はプロセスと捉えることができます。インプットが正しくないとか、プロセス（思考）に矛盾があるとかするとそのアウトプットの信頼性が損なわれます。 この授業では情報の収集整理と読み解き方、他者への伝達手法の理解。そのための思考法について学びます。 【授業の到達目標】 本授業では情報や思考を多面的・多角的に捉え、理解を深めることで、情報を収集、整理、編集、論理的に説明できる能力の獲得を目標とします。授業は講義と演習を交えた構成とします。必要に応じて社会で活躍している実践者を招くこともあります。		
2. 授業内容 第 01 講：情報と思考Ⅰへの誘い（情報とは、思考とは） 第 02 講：なぜコミュニケーションは難しいのか 第 03 講：思いやりの会話がもたらす想定外の納得 第 04 講：噛み合う会話と創造的な対話のために 第 05 講：ニュースや天気用法に学ぶ情報伝達 第 06 講：情報の収集と整理 第 07 講：情報の解釈と統計的手法 第 08 講：情報と知識のアップデート 第 09 講：対話から生まれる創造性 第 10 講：思考の癖を知る 第 11 講：考え方を考える 第 12 講：創造的な思考を行うために 第 13 講：創造的な対話を実現するために 第 14 講：情報と思考と、そして * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。 グループワークやプレゼンテーションを行うことがあります。 実践家を招くことがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は、社会人等の参加や動画収録、ウェブでの公開をとまなう場合があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、事前アンケートを提出してもらうことがあります。これは毎回設定されているとは限りません。基本的には前日の夜に設定しておきますので、授業の前までに回答してから授業に参加してください。 そのほか、授業時間内での回答を期待するアンケートが設定されることもあります。 復習として、毎回授業後に授業サマリ（授業内容についての振り返り）をレポートとして提出することと、事後アンケートを求めることがあります。		
5. 教科書 特定の教科書は指定しませんが、適宜参考文献を指示します。		
6. 参考書 参考文献は必要に応じて授業の中で提示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題へのフィードバックは基本的に自次回以降の授業内で共有します。		
8. 成績評価の方法 定期試験は行いません。 授業内で課題を出し、授業内または翌週の授業共有します。 (1) 調査・報告（個人、またはグループで実施）(50%) (2) 授業後の振り返り (30%) (3) レポート (20%)		
9. その他 特にありません。		

科目ナンバー：(LA)STA111J		
情報と思考Ⅱ		栗山 健
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「社会変化が著しく、将来を予測することが難しい現代、個人にとっても社会全体にとっても幸せなウェルビーイングが実現されるためにはどうすれば良いのだろうか」もし、このような議論に参加しようとしたとき、どのような能力が必要になってくるのでしょうか。ある分野に特化した専門知識だけでなく情報を収集し整理、編集したうえで論理的に説明できる能力も求められます。 社会の変化をとらえようとしたとき多大な情報に翻弄されたり、過度に偏った情報により判断を誤ったりすることも起こりえます。例えば、「みんながそう言っている」と聞くことがあります。みんなって誰？実際何人の人？「そう」言っている。の「そう」は何を指しているのでしょうか。皆さんは自身にとって都合のいい情報だけを収集、信頼し、自ら望む結論を導出していることはないでしょうか。 仮に情報をインプットとするならば、思考はプロセスと捉えることができます。インプットが正しくないとか、プロセス（思考）に矛盾があるとかするとそのアウトプットの信頼性が損なわれます。 この授業では情報の収集整理と読み解き方、他者への伝達手法の理解。そのための思考法について学びます。 【授業の到達目標】 本授業では情報や思考を多面的・多角的に捉え、理解を深めることで、情報を収集、整理、編集、論理的に説明できる能力の獲得を目標とします。授業は講義と演習を交えた構成とします。必要に応じて社会で活躍している実践者を招くこともあります。		
2. 授業内容 第 01 講：情報と思考Ⅱへの誘い 第 02 講：思い込みを生みだす認知バイアス 第 03 講：社会人のお客様を招いて(1) 第 04 講： 情報活用能力の意味 第 05 講：社会人のお客様を招いて(2) 第 06 講： 情報による思考の変化 第 07 講：社会人のお客様を招いて(3) 第 08 講： 思考ツールの活用 第 09 講：社会人のお客様を招いて(4) 第 10 講： 思考がもたらす行動変容 第 11 講：社会人のお客様を招いて(5) 第 12 講： 様々な思考法と往還 第 13 講：社会人のお客様を招いて(6) 第 14 講：今学期を振り返る * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。 グループワークやプレゼンテーションを行うことがあります。 実践家を招くことがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は、社会人等の参加や動画収録、ウェブでの公開をとまなう場合があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、事前アンケートを提出してもらうことがあります。これは毎回設定されているとは限りません。基本的には前日の夜に設定しておきますので、授業の前までに回答してから授業に参加してください。 そのほか、授業時間内での回答を期待するアンケートが設定されることもあります。 復習として、毎回授業後に授業サマリ（授業内容についての振り返り）をレポートとして提出することと、事後アンケートを求めることがあります。		
5. 教科書 特定の教科書は指定しませんが、適宜参考文献を指示します。		
6. 参考書 参考文献は必要に応じて授業の中で提示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題へのフィードバックは基本的に次回以降の授業内で共有します。		
8. 成績評価の方法 定期試験は行いません。 授業内で課題を出し、授業内または翌週の授業共有します。 (1) 調査・報告（個人、またはグループで実施）(50%) (2) 授業後の振り返り（30%） (3) レポート（20%）		
9. その他 特にありません。		

科目ナンバー：(LA) INE161J		
エネルギーと環境 I		勝田 忠広
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：国内のエネルギー問題と環境問題を中心に学び、さらにそれらの社会、政治、倫理的側面等について、文系の学生が取り組むべき課題、解決策を共に考える 到達目標：提示される諸問題に対して各自が科学的手法と国際的視野に基づいた独立した考えを持ち、自身の実践的な行動につなげることを目指す		
2. 授業内容 第1回：授業の概要・導入 第2回：エネルギー問題とは 第3回：原子力発電とは 第4回：核燃料サイクル1 第5回：核燃料サイクル2 第6回：核燃料サイクル3 第7回：福島第一原発事故1 第8回：福島第一原発事故2 第9回：再生可能エネルギー 第10回：気候変動問題1 第11回：気候変動問題2 第12回：エネルギーと豊かさ 第13回：ポリシーメモ発表 第14回：a. 総括、b. 定期試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 エネルギー問題に関する予備知識と興味、社会・環境問題に関する問題意識、英語の読解力が必要 関連する情報を常に新聞等でチェックし積極的に質問すること 可能な限り「エネルギーと環境 II」の履修が必要		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で提示された内容について、各自が書籍や報道情報等を用いて予習、復習をすること		
5. 教科書 特になし。資料を事前に教示あるいは配布する		
6. 参考書 関連する分野の初心者向け新書、政府・諸機関の報告書、ウェブサイト等		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解説を行う		
8. 成績評価の方法 平常点(受講参加状況、課題提出等) 30%、ポリシーメモ 30%、試験または学期末レポート 40%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) INE161J		
エネルギーと環境Ⅱ		勝田 忠広
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：海外のエネルギー問題と環境問題を中心に学び、さらにそれらの社会、政治、倫理的側面等について、文系の学生が取り組むべき課題、解決策を共に考える 到達目標：提示される諸問題に対して各自が科学的手法と国際的視野に基づいた独立した考えを持ち、自身の実践的な行動につなげることを目指す		
2. 授業内容 第1回：授業の概要・導入 第2回：核兵器 第3回：世界の核実験 第4回：日本と核兵器 第5回：世界のエネルギー動向1 第6回：世界のエネルギー動向2 第7回：世界の気候変動問題1 第8回：世界の気候変動問題2 第9回：世界の環境問題 第10回：環境に「良い」取り組み 第11回：環境・戦争と倫理 第12回：エネルギーと公正 第13回：ポリシーメモ発表 第14回：a. 総括、b. 定期試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 エネルギー問題、安全保障と世界情勢、科学に関する予備知識と興味、社会・環境問題に関する問題意識、英語の読解力が必要 関連する情報を常に新聞等でチェックし積極的に質問すること 可能な限り「エネルギーと環境Ⅰ」の履修が必要		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で提示された内容について、各自が書籍や報道情報等を用いて予習、復習をすること		
5. 教科書 特になし。資料を事前に教示あるいは配布する		
6. 参考書 関連する分野の初心者向け新書、国内外の雑誌（Bulletin of the Atomic Scientists 等）、政府・諸機関の報告書、ウェブサイト等		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解説を行う		
8. 成績評価の方法 平常点（受講参加状況、課題提出等）30%、ポリシーメモ 30%、試験または学期末レポート 40%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ENV391J		
エネルギー・環境政策		勝田 忠広
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：日本や世界のエネルギー・環境に関する政策について具体的・実践的に学ぶ 到達目標：提示される諸問題に対して各自が科学的手法と国際的視野に基づいた独立した考えを持ち、自身の実践的な行動につなげることを目指す		
2. 授業内容 第1回：授業の概要・導入 第2回：気候変動問題とは 第3回：気候変動政策1 第4回：気候変動政策2 第5回：気候変動政策3 第6回：気候変動政策4 第7回：気候変動問題：発表 第8回：原子力とは 第9回：原子力政策1 第10回：原子力政策2 第11回：原子力政策3 第12回：原子力政策4 第13回：原子力政策：発表 第14回：a. 総括、b. 定期試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 エネルギー・環境問題に関する予備知識と興味、社会・環境問題に関する問題意識、英語の読解力が必要 関連する情報を常にメディアからチェックし積極的に質問すること 可能な限り「エネルギーと環境Ⅰ・Ⅱ」の履修が必要		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で提示された内容について、各自が書籍や報道情報等を用いて予習、復習をすること		
5. 教科書 政府・諸機関の報告書、NGO や研究機関のカウンターレポート等 資料を事前に教示あるいは配布する		
6. 参考書 関連する分野の初心者向け新書、ウェブサイト等		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解説を行う		
8. 成績評価の方法 平常点(受講参加状況、課題提出等) 30%、発表 30%、試験または学期末レポート 40%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) STS141J		
科学と技術Ⅰ		勝田 忠広
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：世界的規模で利用される科学技術工学を中心に技術的基礎を学び、さらにそれらの社会、政治、倫理的課題等について文系の学生が取り組むべき課題、解決策を共に考える 到達目標：提示される諸問題に対して、科学的根拠に基づいた自分の考えを確立する		
2. 授業内容 第1回：授業の概要・導入 第2回：エネルギー工学1 第3回：エネルギー工学2 第4回：宇宙工学 第5回：ロボット工学 第6回：情報通信工学 第7回：科学技術と兵器1 第8回：科学技術と兵器2 第9回：科学技術と兵器3 第10回：「夢」の科学技術 第11回：法と科学技術 第12回：科学技術と社会 第13回：ポリシーメモ発表 第14回：a. 総括、b. 定期試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 工学に関する興味、およびそれに関する社会・環境問題に関する問題意識、英語の読解力が必要 関連する情報を常に新聞等でチェックし積極的に質問すること 可能な限り「科学と技術Ⅱ」の履修が必要		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で提示された内容について、各自が書籍や報道情報等を用いて予習、復習をすること		
5. 教科書 特になし。資料を事前に教示あるいは配布する		
6. 参考書 関連する分野の初心者向け新書、国内外の科学雑誌（サイエンス、ナショナル・ジオグラフィック等）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解説を行う		
8. 成績評価の方法 平常点（受講参加状況、課題提出等）30%、ポリシーメモ 30%、試験または学期末レポート 40%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) STS141J		
科学と技術Ⅱ		勝田 忠広
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：身の回りで利用される科学技術工学を中心に技術的基礎を学び、さらにそれらの社会、政治、倫理的課題等について文系の学生が取り組むべき課題、解決策を共に考える 到達目標：提示される諸問題に対して、科学的根拠に基づいた自分の考えを確立する		
2. 授業内容 第1回：授業の概要・導入 第2回：都市と科学技術 第3回：交通と科学技術 第4回：家電問題 第5回：食と科学技術 第6回：お金・衣料と科学技術 第7回：再生医療技術 第8回：ニューロサイエンス 第9回：化学物質問題1 第10回：化学物質問題2 第11回：科学技術と疑似科学 第12回：科学技術と自然 第13回：ポリシーメモ発表 第14回：a. 総括、b. 定期試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 工学に関する興味、およびそれに関する社会・環境問題に関する問題意識、英語の読解力が必要 関連する情報を常に新聞等でチェックし積極的に質問すること 可能な限り「科学と技術Ⅰ」の履修が必要		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で提示された内容について、各自が書籍や報道情報等を用いて予習、復習をすること		
5. 教科書 特になし。資料を事前に教示あるいは配布する		
6. 参考書 関連する分野の初心者向け新書、国内外の科学雑誌（サイエンス、ナショナル・ジオグラフィック等）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解説を行う		
8. 成績評価の方法 平常点（受講参加状況、課題提出等）30%、ポリシーメモ 30%、試験または学期末レポート 40%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ART121J		
美術の歴史		木下 亮
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 美術作品の主題や表現内容を正確に記述、分類、比較できるよう基礎的な知識を習得し、さらに西洋美術史の様式やイムズ（主義）の特徴を理解したうえで時間的・空間的コンテキストを視野に入れた作品解釈ができることを目指します。 【到達目標】 (1) 西洋美術史の基本的な事項について理解している。 (2) 美術作品に関する正確な情報を収集し、主題や表現内容を特定することができる。 (3) 美術により深く興味を持ち、自分のことばで作品解釈ができる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション テーマ1：美術作品の主題とジャンル 第2回：キリスト教美術 第3回：ギリシア神話と寓意表現 第4回：肖像と人物画 第5回：風景画、静物画、風俗画 テーマ2：西洋美術の歴史：様式とイムズ（主義） 第6回：ギリシアとローマ 第7回：中世キリスト教美術（ロマネスクとゴシック） 第8回：ルネサンス 第9回：バロックとロココ 第10回：新古典主義とロマン主義 第11回：19世紀美術 第12回：20世紀美術 テーマ3：美術作品に関わる情報の蓄積と検索 第13回：美術擁護、コレクション、美術館、展覧会、美術批評 第14回：インターネットと現代の美術 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 対面授業なので、出席を重視します。 各授業の終わりにコメントシートを提出してもらい、授業への参加度を評価します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【授業準備】 授業で取り上げる作品についてインターネットで検索して、作品の概要を理解しておいてください。 【復習すべき内容】 授業中に取り上げた作品を所蔵する美術館のHPにアクセスして、その内容を確認してください。		
5. 教科書 特に指定しません。適宜、資料を配布します。		
6. 参考書 秋山聡・田中正之監修『西洋美術史』美術出版社、2021年（ISBN：978-4-568-38908-1） 佐藤直樹『東京藝大で教わる西洋美術の見かた』世界文化社、2021年（ISBN：978-4-418-20220-1） それぞれのテーマの参考書は授業のなかで適宜、紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業のなかで、課題やコメントシートについて全体的なフィードバックをおこないます。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 2回の課題レポート 80%（40%×2）、平常点（コメントシート等、授業への参加度）20% 【成績評価の基準】 (1) 西洋美術の歴史について基本的な事項を理解しているか。 (2) 作品について信頼できる情報を集めたうえで、作品解釈をおこなっているか。 (3) 正確な作品記述をしたうえで、独自の考察ができているか。 以上の3点を基準とします。		
9. その他 授業のなかで開催中の展覧会について紹介します。		

科目ナンバー：(LA)PHL111J		
哲学Ⅰ		越門 勝彦
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 紀元前4世紀から20世紀にいたるまで、西洋の哲学者たちが、どのような時代背景のもとで、どのような問題に取り組んできたのかを概観する。 【到達目標】 様々な哲学的問題を自ら考えることを通して、次に挙げる能力を身につける。 ・抽象的な議論を具体的現実結びつける想像力 ・筋道立てて論理的に物事を捉える思考力 ・わかりやすく自分の考えを伝える表現力		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：古代ギリシアの哲学（プラトン） 第3回：古代ギリシアの哲学（アリストテレス） 第4回：中世スコラ哲学（トマス・アクィナス） 第5回：合理主義（デカルトの存在論） 第6回：合理主義（デカルトの心身二元論） 第7回：合理主義（スピノザ、ライプニッツ） 第8回：イギリス経験論（バークリー、ヒューム） 第9回：ドイツ観念論（カントの理論哲学） 第10回：ドイツ観念論（カントの実践哲学） 第11回：ドイツ観念論（ヘーゲル） 第12回：フランス・スピリチュアリズム（メヌ・ド・ピラン） 第13回：生の哲学（ベルクソン） 第14回：a：試験、b：講義全体の振り返りと試験の解説 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 哲学Ⅱとあわせて履修することが望ましい。 授業中に出席調査を行うことがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】配布されたレジュメや資料を読んでください。 【復習】授業で学んだ内容について、正確に理解し、自分で説明できるようにしておいてください。		
5. 教科書 特に定めません。レジュメを配布します。		
6. 参考書 『西洋哲学史』野田又夫（筑摩書房） 『現代フランス哲学入門』川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編（ミネルヴァ書房）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 確認テストについては翌週の授業の冒頭で解説を行います。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 計6回の確認テスト 30%、学期末試験 70% 【成績評価の基準】 授業で解説した哲学的議論の要点を正確に理解しているか。また、具体的経験と結びつけて理解できているか。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)PHL111J		
哲学Ⅱ		越門 勝彦
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 20世紀から21世紀にかけての哲学がどのような方法論に即して、どのような問題に取り組んでいるのかを解説する。 【到達目標】 様々な哲学的問題を自ら考えることを通して、次に挙げる能力を身につける。 ・抽象的な議論を具体的現実結びつける想像力 ・筋道立てて論理的に物事を捉える思考力 ・わかりやすく自分の考えを伝える表現力		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（現代哲学の諸問題） 第2回：心の哲学① ―心は脳の状態に還元できるか？ 第3回：心の哲学② 第4回：心の哲学③ 第5回：知識の哲学① ―「知っている」と言えるための条件とは？ 第6回：知識の哲学② 第7回：科学の哲学① ―科学と疑似科学は区別できるか？ 第8回：科学の哲学② 第9回：言語の哲学① ―ことばが何かを「意味する」とはいかなることか？ 第10回：言語の哲学② 第11回：言語の哲学③ 第12回：現象学① 理念と方法論 第13回：現象学② 展開 第14回：a：試験 b：講義全体の振り返りと試験の解説 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 哲学Ⅰとあわせて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】教科書の指定された範囲を読んでおいてください。 【復習】授業で学んだ内容について、正確に理解し、自分で説明できるようにしておいてください。		
5. 教科書 特に定めません。毎回、レジュメを配布します。		
6. 参考書 『現代哲学』門脇俊介（産業図書） 『哲学の方法』ティモシー・ウィリアムソン（廣瀬覚訳、岩波書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の課題は確認テストあるいはミニレポートであり、確認テストについては翌週の授業の冒頭で、ミニレポートについては第十四回授業で、解説を行う。 特に優れたレポートに関しては、全員に紹介し、どの点が優れているのかを説明する。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 確認テスト（6回）30%、学期末試験 70% 【成績評価の基準】 授業で解説した哲学的議論の要点を正確に理解しているか。また、具体的経験と結びつけて理解できているか。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)PHL311J		
現代哲学		越門 勝彦
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 20 世紀後半以降、哲学でどのような問題が提起され、それらがどのように議論されてきたのかを学ぶ。特に、性質の存在論、因果性、様相といった領域における問題設定や基本概念について学ぶ。 【到達目標】 (1) 現代哲学において存在がどのような意味で問題となるかを理解している。 (2) 性質の存在をめぐるさまざまな哲学的議論の基本的知識を有している。 (3) 因果性や様相など、哲学の基本概念を正確に使えるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：現代の存在論（1）存在はどのような意味で哲学の問題となるのか 第 3 回：現代の存在論（2）性質が存在するとはいかなることか 第 4 回：傾向性 disposition（1）傾向性とは何か 第 5 回：傾向性（2）反事実的条件法 第 6 回：傾向性（3）様々なアプローチ 第 7 回：講義前半の振り返りと質疑応答 第 8 回：潜在性 potentiality（1）様相とは何か 第 9 回：潜在性（2）傾向性との関連 第 10 回：力 power（1）哲学史における概念の変遷 第 11 回：力（2）因果性との関連 第 12 回：能力 ability（1）力との関連 第 13 回：能力（2）身体の存在論への位置づけ 第 14 回：a：試験、b：講義後半の振り返りと試験の解説 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 やや専門的な内容です。また、英語の文章を読むことがあります。 授業中に出席調査を行うことがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 配布された資料をすべて熟読しておいてください。 【復習すべき内容】 授業で解説された内容をそのつど自分でたどり直し、他人に説明できるくらいに理解を深めておいてください。		
5. 教科書 特に定めません。授業では要点をまとめた資料を配布します。		
6. 参考書 Stephen Mumford, Dispositions, Oxford Barbara Vetter, Potentiality -From Dispositions to Modality-, Oxford 柏端達也他編『現代形而上学論文集』勁草書房		
7. 課題に対するフィードバックの方法 第 14 回の b モジュールで試験の解説を行う。		
8. 成績評価の方法 試験 70%、平常点（授業への参加度）30%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)PHL121J		
倫理学 I		國領 佳樹
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 倫理学の基礎を学ぶ。倫理学の伝統的な諸理論を紹介しつつ、「何が行為を道徳的に良いものにする、あるいは悪いものにするのか?」「何によって私たちは道徳的に良い人、あるいは悪い人になるのか?」「私たちは道徳的に何をなすべきか?」「私たちは道徳的にどんな人であるべきか?」といった問いを検討する。 【到達目標】 ・いくつかの主要な道徳理論の基本的な考えを理解すること ・理論的な観点から、現実の道徳・倫理問題を検討する能力を身につけること		
2. 授業内容 第1回: ガイダンスと導入 第2回: 神命説とは何か? 第3回: 神命説を吟味する 第4回: 道徳相対主義とは何か? 第5回: 道徳相対主義を吟味する 第6回: 自然法論とは何か? 第7回: 自然法論を吟味する 第8回: 帰結主義とは何か? 第9回: 帰結主義を吟味する 第10回: 帰結主義をもっと吟味する 第11回: 倫理学的利己主義とは何か? 第12回: カントの道徳理論（義務論） 第13回: カントの道徳理論（義務論）を吟味する 第14回: 講義全体の振り返りとレポート試験の解説 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 倫理学 II とあわせて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】配布されたレジュメや資料を読み、授業に備えてください。 【復習】授業で学んだ内容について、正確に理解し、自分で説明できるようにしておいてください。		
5. 教科書 特に定めません。レジュメを配布します。		
6. 参考書 Timmons, Mark (2012). Moral Theory: An Introduction. Lanham, MD: Rowman & Littlefield Publishers. isbn: 978-0-7425-6493-0. 児玉聡(2012)『功利主義入門 はじめての倫理学』筑摩書房		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の課題は確認テストあるいはミニレポートであり、確認テストについては次回授業の冒頭で、ミニレポートについては第十四回授業で、解説を行う。 特に優れたレポートに関しては、全員に紹介し、どの点が優れているのかを説明する。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 確認テストとリアクションペーパー 30%、ミニレポート 70% 毎回、確認テストかリアクションペーパーを課題として出す。 【成績評価の基準】 授業で取り上げた哲学的問題の意味を正確に理解しているか。また、その問題を具体的経験と結びつけて理解できているか。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)PHL121J		
倫理学Ⅱ		國領 佳樹
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 倫理学Ⅰに引き続き、倫理学の主な学説を学びつつ、最終的には喫煙の是非や差別など、現代社会の具体的な倫理的な問いを検討する。 【到達目標】 ・帰結主義・義務論・徳倫理学といった主要な道徳理論の基本的な考えを理解すること ・理論的な観点から、現実の道徳・倫理問題を検討する能力を身につけること		
2. 授業内容 第1回 ガイダンスと導入 第2回 倫理学の諸説 第3回 道徳多元主義とは何か？ 第4回 道徳多元主義を吟味する 第5回 徳倫理学とは何か？ 第6回 徳倫理学を吟味する 第7回 徳倫理学をもっと吟味する 第8回 道徳個別主義とは何か？ 第9回 喫煙の倫理学 第10回 肉食の倫理学 第11回 差別の倫理学 第12回 美容整形の倫理学 第13回 ドーピングの倫理学 第14回 講義全体の振り返りと試験の解説 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 倫理学Ⅰとあわせて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】配布されたレジュメや資料を読み、授業に備えてください。 【復習】授業で学んだ内容について、正確に理解し、自分で説明できるようにしておいてください。		
5. 教科書 特に定めません。レジュメを配布します。		
6. 参考書 Timmons, Mark (2012). Moral Theory: An Introduction. Lanham, MD: Rowman & Littlefield Publishers. isbn: 978-0-7425-6493-0. 児玉聡(2012)『功利主義入門 はじめての倫理学』筑摩書房 ダニエル・C・ラッセル編(2015)『徳倫理学』春秋社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の課題は確認テストあるいはミニレポートであり、確認テストについては次回授業の冒頭で、ミニレポートについては第十四回授業で、解説を行う。 特に優れたレポートに関しては、全員に紹介し、どの点が優れているのかを説明する。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 確認テスト 50%、ミニレポート 50% 毎回、確認テストかミニレポートを課題として出す。 【成績評価の基準】 授業で解説した倫理理論の要点を正確に理解しているか。また、具体的経験と結びつけて理解できているか。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)PHL121J		
倫理学基礎論		越門 勝彦
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「Xは良い」といった道徳判断は事実の記述とどこが異なるのか。それは、何について、何に基づいて判断しているのか。現代の倫理学では言語、規範、態度、感情、感受性などの観点から、この問題の解決が試みられている。倫理を構成するこれらの諸要素がどのような役割を果たし、また相互にどのような仕方結びついているのかについて、主要な考え方を解説する。 【到達目標】 ある事柄の良し悪しについての意見が人々の間で異なるとき、その違いが何に由来するのかを考え、その原因を的確に見定めることができるようになる。これは、道徳判断を構成している諸要素とその相互関連を理解することで可能となる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：倫理における言語① 倫理的言語の特徴 第3回：倫理における言語② スティーヴンソンの情緒主義 第4回：倫理における言語③ ヘアの指令主義 第5回：規範・態度・表出① 表出主義の概要 第6回：規範・態度・表出② ギバードの表出主義 第7回：規範・態度・表出③ ブラックバーンの反実在論 第8回：規範・態度・表出④ ブラックバーンの反実在論 第9回：倫理における感情 感情主義の概要 第10回：倫理における感受性① 感受性理論の概要 第11回：倫理における感受性② マクダウェルの感受性理論 第12回：倫理における感受性③ マクダウェルの感受性理論 第13回：倫理における感受性④ ウィギンズの認知的未確定性 第14回：講義全体のまとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業中に出席調査を行うことがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 配布されたレジュメや資料を読み、授業に備えてください。 【復習】 授業で学んだ内容について、正確に理解し、自分で説明できるようにしておいてください。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 リチャード・ヘア『道徳の言語』（勁草書房） ジョン・マクダウェル『徳と理性』（勁草書房）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題は、テキストを読み、質問を用意しておくことである。質問に対しては、教員が答えることもあれば、受講者全員で一緒に考えることもある。 提出された期末レポートに対しては、教員が口頭でコメントを行う。特に優れたレポートを全員に紹介する。		
8. 成績評価の方法 期末レポート 70%、平常点 30%（授業への参加度） 【成績評価の基準】 授業で取り上げた倫理学的問題の意味を正確に理解しているか。また、その問題を具体的経験と結びつけて理解できているか。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ECN111J		
経済学Ⅰ		深澤 竜人
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本科目は政治経済学部で経済原論に類して行っていく。経済学Ⅰではいわゆる近代経済学として、現代にも通じる代表的またいわゆる主流派の経済学の経済理論、これらを歴史的に追いかけてながら説明していく。また現実の日本経済に関しても、実用的な側面を取り入れて解説していく。 【到達目標】 経済学の有名な理論を解りやすく、初心者であっても理解できていくように解説していく。講義終了時には、経済学の一応の概論・基礎は了解され、自身でもそれなりの書物が読み進めていけるような段階になれるように傾けていく。		
2. 授業内容 第1回：重商主義の経済学 重農主義の経済学 富とは何か 豊かな国とは 国の政策はどうあるべきか 第2回：古典学派・新古典学派の経済学① 価格メカニズムの働きと重要視と限界 国家の政策介入の必要性 第3回：古典学派・新古典学派の経済学② 比較生産費説 国際分業（貿易）の有効性を考える 第4回：古典学派・新古典学派の経済学③ 上記の問題点を検討する 第5回：ミクロ経済学の展開 労働価値説からの離脱 限界効用価値説の発展 交換・効用に重点を置く考え方 第6回：古典派経済学から現代経済学への展開 一般均衡分析 不況や失業に対する考え・理論 別な経済学派の登場 第7回：株式会社論 会社の始まりから 株式会社の論理と実態 経営と所有の分離 第8回：株価の変動理論 株式取引の実際 第9回：ケインズ学派の経済学1 マクロ経済学 有効需要政策 第10回：ケインズ学派の経済学2 ケインズ政策のその後の展開 第11回：新自由主義学派の経済学1 反ケインズ主義の主張 1980年代の経済政策の転換 第12回：新自由主義学派の経済学2 ケインズ経済学派の経済学3 日本のバブル経済 第13回：新自由主義の経済学3 バブルの崩壊から現在の日本経済1 第14回：現在の日本経済2 日本における新自由主義派の登壇 構造改革 格差の拡大 貧困化 新たな経済学の追究 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 対面授業の場合、講義は板書で行なっていきます。板書内容をノートに取っておいてください。講義が一方通行にならないように、また理解度を確認するため、皆さんにかなり質問し、マイクを持って答えてもらうことになるかもしれません。この点を了解のこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書や板書の内容を再確認するなり、自主的に講義内容を予習・復習しておくといいです。		
5. 教科書 深澤竜人『経済学簡易入門』丸善雄松堂、2023年（電子書籍）。		
6. 参考書 同上。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回簡単なレポートを出してもらいまして、それで質問には答え、間違った理解などには修正して返信していました。		
8. 成績評価の方法 実際の受講人数等々を見た後に決めていきますが、今時点では授業での平常点（授業態度等）50%、レポート（20%）、および期末レポート（30%）を予定しておきます。		
9. その他 講義が一方通行にならないように、また理解度を確認するため、皆さんにかなり質問し、マイクを持って答えてもらうことになるかもしれません。この点を了解のこと。		

科目ナンバー：(LA)ECN111J		
経済学Ⅱ		深澤 竜人
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本科目は政治経済学部の経済原論に類して行なっていく。経済学Ⅱではいわゆるマルクス経済学として、経済学Ⅰへの批判また多様な経済学の見解を理解し、これを現実の日本経済あるいは社会主義圏の経済と絡めて解説し説明していく。 【到達目標】 マルクス経済学の有名な理論や、それによって分析される現実の経済を解りやすく、初心者であっても理解できていくように解説していく。講義終了時には、関連関係の一応の概論・基礎は了解され、自身でもそれなりの書物が読み進めていけるような段階になれるように傾けていく。		
2. 授業内容 第1回：様々な経済学 ミクロ・マクロ・近代経済学とマルクス経済学との関係 特に価値論に関して 労働価値説を基に効用価値学説との対比 効用価値説への批判・反論 第2回：マルクス主義の三つの源泉と三つの構成要素 特に史的唯物論・唯物史観・経済社会構成体論に関して 第3回：価値形態論 なぜ金が発行貨幣であるのかの解明 一般的等価物から金へ至るプロセス 第4回：貨幣論・交換過程論① 商品流通 流通必要金量 貨幣から紙幣へ 貨幣数量説への批判 第5回：貨幣論・交換過程論② マネーストック 紙幣から信用貨幣へ 債権・債務の関係 為替制度 手形・銀行券の発生 第6回：金本位制度から管理通貨制度へ その変遷と現代の通貨制度 貨幣から資本へ 貨幣と資本の増殖 利潤が発生する根本原理と経済が成長する根本原理を問う 第7回：貨幣から資本へ 貨幣と資本の増殖 利潤が発生する根本原理と経済が成長する根本原理を明らかにする 生産過程論 生産的労働による価値増殖過程 ペティ・クラークの法則 第8回：資本循環・再生産論 生産のさらなる解明 利子・利潤・地代の源泉 様々な利潤・利子学説との対比 第9回：剰余価値理論 絶対的・特別・相対的剰余価値生産 剰余価値率 労働分配率との差異 第10回：再生産論 単純再生産 拡大再生産 景気変動・産業循環 過剰生産恐慌 資本主義の形態変化 対外政策 過剰生産のはけ口 植民地獲得競争 世界市場の領土分割完了 世界大戦 第11回：社会主義の理論と建設 ソビエトを例に 計画経済という体制 戦後東西冷戦構造の形成 第12回：社会主義の変化① ソビエト型計画経済の非効率性と限界 第13回：社会主義の変化② 中国の成長 社会主義市場経済 21世紀型社会主義 社会主義創世記論 第14回：現代日本資本主義について 国家独占資本主義という分析と解明 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 対面授業の場合、講義は板書で行なっていきます。板書内容をノートに取っておいてください。講義が一方通行にならないように、また理解度を確認するため、皆さんにかなり質問し、マイクを持って答えてもらうことになるかもしれません。この点を了解のこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の内容、板書の内容を確認し、自主的に講義内容を予習・復習しておくといよいです。		
5. 教科書 深澤竜人『マルクス経済学簡易入門—主流派経済学の批判的考察を含めて—』丸善雄松堂、2020年（電子書籍）。		
6. 参考書 同上。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回簡単なレポートを出してもらいまして、それで質問には答え、間違った理解などには修正して返信していました。		
8. 成績評価の方法 実際の受講人数等々を見た後に決めていきますが、今時点では授業での平常点（授業態度等）50%、レポート（20%）、および期末レポート（30%）を予定しておきます。		
9. その他 講義が一方通行にならないように、また理解度を確認するため、皆さんにかなり質問し、マイクを持って答えてもらうことになるかもしれません。この点を了解のこと。		

科目ナンバー：(LA)HIS131J		
歴史学（西洋史）		佐藤 公紀
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業は、古代ギリシア・ローマから中世、大交易時代を経て、近世、近代に至るまでの西洋の歴史を、複眼的な視点を通じて考えることを目的としています。ある時代のある出来事を生きた人びとの生き方や考え方を、様々な歴史史料を通じて追体験することで、世界史の醍醐味や面白さを実感できるでしょう。 授業は、「問い」を中心として展開します。提示された「問い」を自分で考え、また隣の人と意見を交換しつつ、歴史に対する知識と自分なりの考え方を深めていきます。毎回の授業の終わりには、授業で扱ったテーマに関連する課題を出し、これについてコメントペーパーを書いてもらいます。 【到達目標】 ・古代から現代に至るまでの世界史のグローバルな流れの知識を身につけ、これを人に説明できるようになる。 ・歴史に関わる情報を因果関係や当時の情勢の中で理解するとともに、これを自分の観点から整理・分析し、発信できる「歴史的思考力」を身につける。		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション～「問い」と複眼的視点から歴史を考える／授業のねらいと進め方 第2回：古代ギリシアから民主主義を考える 第3回：古代ローマから法の支配と奴隷制を考える 第4回：古代ローマから国境を考える 第5回：中世ヨーロッパからの宗教と権力を考える 第6回：中世ヨーロッパからペストと社会を考える 第7回：大交易時代からグローバル化を考える 第8回：宗教改革から宗教と戦争を考える 第9回：ウェストファリア条約から国際社会を考える 第10回：フランス革命から国民形成とジェンダーを考える 第11回：一九世紀ヨーロッパからナショナリズムを考える 第12回：産業革命から近代化を考える 第13回：啓蒙から植民地主義と人種主義を考える 第14回：まとめと試験試験 ＊授業内容は進度に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・この授業は、レジュメ及びパワーポイントを用いて進行します。 ・授業で扱う主なテーマは「西洋史」に関するものですが、高校で世界史を選択しなかった人も歓迎します。 ・欠席は3回まで、遅刻2回で欠席1回分とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業前に参考文献を読むなどして、授業で扱う内容についてある程度把握しておくこと。 ・授業後は、配布したレジュメを見返し、学習内容を確認しておくこと。		
5. 教科書 授業中に資料を配布します。		
6. 参考書 持っていれば、高校で使用した世界史教科書。なければ、「世界の歴史」編集委員会編『新 もういちど読む山川世界史』（山川出版社）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業冒頭で、前回のコメントペーパーに対してリブライを行うことで、自分の意見を見直す機会を提供する。		
8. 成績評価の方法 ・授業中及び授業後に出す課題への取り組み：50％ ・期末試験：50％		
9. その他 ・自分の主張を作成し述べることに積極的な人、かつ、他人の意見を取り入れる柔軟な姿勢を持つ人の参加を期待しています。 ・秋学期に「ヨーロッパ近現代史概説」を履修することをおすすめします。		

科目ナンバー：(LA)HIS121J		
歴史学（東洋史）		陶安 あんど
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 漢字文化や仏教を抜きにしては語れない東アジアの歴史には、巨大な遊牧帝国を複数生んだ東ユーラシアの草原地帯は実に重要な役割を果たした。本講義では、遊牧世界からみた世界史を通じて、中華帝国史に偏りがちな東洋史を問い直していく。 【到達目標】 （１）18 世紀半ばジュンガルという最後の遊牧帝国が清朝に滅ぼされてからは、遊牧世界は立ち遅れの象徴に変わり、世界史は海洋国や海洋貿易を中心に語られるようになったが、この近代的な枠組みを相対化する思考力を養う。 （２）東アジアの歴史は、古くから内陸と海洋を通じて世界とつながっていたが、二つの世界のせめぎ合いこそが高度な文明を形成する力となったことを理解する視線を磨く。		
2. 授業内容 第 1 回講義：イントロ——民族も国境も超える遊牧世界 第 2 回講義：東方ユーラシアの地理 第 3 回講義：中央アジアの縦割り構造とユーラシアの東西 第 4 回講義：ヘロドトスの語る遊牧国家の原型 第 5 回講義：司馬遷の語る遊牧国家の原型 第 6 回講義：せめぎ合う匈奴帝国と漢帝国 第 7 回講義：中華の真ん中も遊牧の世界 第 8 回講義：テュルク族の登場 第 9 回講義：モンゴルという集団 第 10 回講義：ユーラシア大貿易圏の形成 第 11 回講義：海洋貿易がもたらした銀本位の世界経済システム 第 12 回講義：世界史の分水嶺 第 13 回講義：近現代史の枠組みを問う 第 14 回講義：試験と解説 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 高校で「世界史」を履修しなかった学生も歓迎する。 授業では中華世界に偏重しがちな東洋史を見直すことになるので、参考書として、同様に固定的歴史観に挑む分かりやすい中国史の概説書を掲げておいた。教科書と比較して読むと理解が深まる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で学習した内容は毎回復習し、理解を定着させること。 授業に使う PPT はクラスウェブから配布するので、授業中はメモよりも理解することに集中してほしい。分からないことがあれば、講義時に質問する時間を設けるので、積極的に活用してほしい。（分からないことは恥ずかしいことではない。学習の過程で必然的に生じる結果なので、自分及び同級生のためには是非授業中で大きな声で尋ねること。）		
5. 教科書 杉山正明『遊牧民から見た世界史（増補版）』（日本経済出版社、2011）		
6. 参考書 丸橋充拓『江南の発展——南宋まで』（岩波新書、シリーズ中国の歴史②、2020 年） 古松崇志『草原の制覇——大モンゴルまで』（岩波新書、シリーズ中国の歴史③、2020 年） 檀上寛『陸海の交錯——明朝の興亡』（岩波新書、シリーズ中国の歴史④、2020 年） 岡本隆司『「中国」の形成——現代への展望』（岩波新書、シリーズ中国の歴史⑤、2020 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を通じて行う。		
8. 成績評価の方法 1. 期末試験（100%）による。 2. 出席回数が 6 割未満の場合、単位を認定しない。		
9. その他 1. クラスウェブの出欠確認機能を使用するので、スマートフォン・パソコンなどを持参のこと。 2. 授業で使用する資料は、紙媒体では配布をせず、クラスウェブからのみ PDF で配付する。		

科目ナンバー：(LA)HIS131J		
ヨーロッパ近現代史概説		佐藤 公紀
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、近現代ヨーロッパの歴史を、政治、経済、社会、文化など多様なテーマにから考察していきます。近現代ヨーロッパは、戦争、環境、人権、マイノリティ、移民・難民、歴史認識など、現代日本に生きる私達にとって示唆に富む事例に事欠かない地域です。近現代のヨーロッパは、世界全体の歴史の展開に大きな影響を与えてきましたし、今も与え続けています。このような意味で、ヨーロッパ近現代史の知見は、現代の日本や世界の動向をより深く理解するためのヒントとなるでしょう。 授業は、「問い」を中心として展開します。提示された「問い」を自分で考え、また隣の人と意見を交換しつつ、歴史に対する知識と自分なりの考え方を深めていきます。毎回の授業の終わりには、授業で扱ったテーマに関連する課題を出し、これについてコメントペーパーを書いてもらいます。 【到達目標】 ・ヨーロッパの近現代史に関する基礎的知識を習得し、これを人に説明できるようになる。 ・歴史に関わる情報を因果関係や当時の情勢の中で理解するとともに、これを自分の観点から整理・分析し、発信できる「歴史的思考力」を身につける。		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション～「問い」と複眼的視点から歴史と歴史修正主義の問題を考える／授業のねらいと進め方 第2回：帝国主義の時代から植民地化の問題を考える 第3回：一九世紀の移民から世界のグローバル化の問題を考える 第4回：第一次世界大戦から戦争のあり方と考える 第5回：戦間期の時代から国際協調を考える 第6回：ナチズムから民主主義と大衆化の問題を考える 第7回：第二次世界大戦からジェノサイドの問題を考える 第8回：冷戦とベトナム戦争から世界の反戦運動を考える 第9回：冷戦の崩壊から現代の諸問題を考える 第10回：ヨーロッパ統合の歴史から地域統合の問題を考える 第11回：ウクライナの歴史からロシア・ウクライナ戦争の背景を考える 第12回：ヨーロッパ近現代史からパレスチナ問題を考える 第13回：ドイツの戦後処理から日本の戦後処理を照射する 第14回：まとめと期末試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・この授業は、レジュメ及びパワーポイントを用いて進行します。 ・授業で扱う主たるテーマは「ヨーロッパ近現代史」に関するものですが、高校で世界史を選択しなかった人も歓迎します。 ・欠席は3回まで、遅刻2回で欠席1回分とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業前に参考文献を読むなどして、授業で扱う内容についてある程度把握しておくこと。 ・授業後は、配布したレジュメを見返し、学習内容を確認しておくこと。		
5. 教科書 授業中に資料を配布します。		
6. 参考書 持っていれば、高校で使用した世界史教科書。なければ、「世界の歴史」編集委員会編『新 もういちど読む山川世界史』（山川出版社）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業冒頭で、前回のコメントペーパーに対してリブライを行うことで、自分の意見を見直す機会を提供する。		
8. 成績評価の方法 ・授業中及び授業後に出す課題への取り組み：50％ ・期末試験：50％		
9. その他 ・自分の主張を作成し述べることに積極的な人、かつ、他人の意見を取り入れる柔軟な姿勢を持つ人の参加を期待しています。 ・春学期に「歴史学（西洋史）」を履修していることを想定して授業を行います。		

科目ナンバー：(LA)HIS121J		
アジアの社会と歴史 I		西川 和孝
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 唐朝後半期から元朝を経て明朝に至る時期は、政治面においては常に北方からの異民族の脅威にさらされ続けた時期であり、経済面では軍事的圧力から逃れた南方において急速に発展させ、経済の重心が北方から南方に移動した時期でもある。本講義では、現在の中国経済の一端を支える華南経済の歴史を理解するために、北方からの軍事的脅威から逃れ、追い詰められた華南地域で経済の発展を模索しつづけた歴史的経緯を政治・経済の両面から学び、華南経済の発展と経済重心の南遷を中国の政治と経済の関係性の中に位置づけることを目指す。 【到達目標】 唐朝後半期から明朝までの北方異民族の脅威と経済重心の南遷の中での政治と経済に関する基礎的知識を身に付けた上で、基本的な歴史的流れを理解できる。更に日本とも深いつながりを持つ華南経済圏が如何なる歴史的経緯を経て中国経済のけん引役となったのか現在の視点から自らの言葉で説明することが出来る。		
2. 授業内容 第1回 ガイダンスおよび序説Ⅰアジア史の問題点 第2回 序説Ⅱアジアの中の中華世界 第3回 唐の分解と北宋の多国体制 第4回 人口を巡る諸問題 第5回 北宋期の江南開発と商業・流通の発達経済発展 第6回 金朝の南侵と南宋の成立 第7回 南宋の軍事と経済発展 第8回 宋代の海上交易 第9回 モンゴル王朝の台頭 第10回 元朝の経済政策と中国支配 第11回 明朝の成立と財政政策 第12回 転換の時代 第13回 国際貿易と商業革命 第14回 まとめと理解の確認 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業中は私語とスマートフォンの使用は一切禁止とする。 また、必要な水分の補給を除く、スナック菓子などの飲食は厳禁とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に使用する資料は Oh-o!Meiji にアップしておくので、ダウンロードをして授業前に目を通しておくこと。		
5. 教科書 特に定めない。授業資料は、こちらで用意する。Oh-o!Meiji にアップされた授業資料を事前にプリントアウトをして持ってくること。		
6. 参考書 参考書：『中国経済史』 岡本隆司 名古屋大学出版会 参考書：『中国史3 五代～元（世界歴史体系）』 松丸道雄[ほか]編 山川出版社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された課題などに対しては、授業中あるいは Oh-o!Meij 上において適宜コメントする。		
8. 成績評価の方法 授業後のレスポンスペーパー：50% 論述試験：50% 授業後に、授業内容をレスポンスペーパーにまとめて提出すること。また、論述試験は必須であり、正当な理由なしに欠席が3分の1を超える者は、論述試験を受験する資格を失うので注意すること。		
9. その他 なし。		

科目ナンバー：(LA)HIS121J		
アジアの社会と歴史Ⅱ		西川 和孝
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、中国を中心に据え、通史的に東アジア海域を介した交流史を概観していく。現代まで続く、今日では欠くことの出来ない海を介した交易・交流についてその歴史の変遷を理解するため、東シナ海・南シナ海からなる東アジア海域を舞台とした中国・日本・朝鮮・ヨーロッパなどの人々とモノの交流、そして「国家」という一つの枠組みを超えて広がるネットワークの形成と拡大を学び、周辺地域との経済・文化的交流について考えていく。 【到達目標】 東アジア海域を中心として繰り広げられた交流について基礎的知識を身に付けた上で、その根幹となる歴史的流れを理解し、かつ簡潔に説明できる。そして、王朝の変化に目が向きやすい中国の歴史について、東アジア海域の交流史に焦点を合わすことで、一国史を超えた周辺地域を含む広域の歴史学習をおこない、交流がその後の中国にもたらした変化およびその歴史的意義について自分なりの答えを導き出すことができる。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス/南シナ海と東シナ海の成立 第2回：国家権力の海域世界進出 第3回：海域交流の舞台背景と担い手（1） 第4回：海域交流の舞台背景と担い手（2） 第5回：モンゴルの衝撃と各地の反応 第6回：明朝の国際システムと海域世界 第7回：朝貢体制の動揺 第8回：倭寇から海商の時代へ 第9回：銀の時代 第10回：近世東南アジアの世界_外来と女性 第11回：近世東南アジアの世界_日本人 第12回：海商と近世国家 第13回：近世国家の交流 第14回：まとめと総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業中は私語とスマートフォンの使用は一切禁止とする。 また、必要な水分の補給を除く、スナック菓子などの飲食は厳禁とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に使用する資料は Oh-o!Meiji にアップしておくので、ダウンロードをして授業前に目を通しておくこと。		
5. 教科書 特に定めない。授業資料は、こちらで用意する。Oh-o!Meiji にアップされた授業資料を事前にプリントアウトをして持ってくること。		
6. 参考書 上田信『海と帝国』講談社、2005 年 羽田正編『海から見た歴史』東京大学出版会、2013 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された課題などに対しては、授業中あるいは Oh-o!Meij 上において適宜コメントする。		
8. 成績評価の方法 授業後のレスポンスペーパー：50% 論述試験：50% 授業後に、授業内容をレスポンスペーパーにまとめて提出すること。また、論述試験は必須であり、正当な理由なしに欠席が3分の1を超える者は、論述試験を受験する資格を失うので注意すること。		
9. その他 なし。		

科目ナンバー：(LA) CUL351J		
メディア文化論 I		鈴木 哲也
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 春学期の目標はメディア・コミュニケーションテクノロジーの発達史を概観することです。 かつて主流であったテレビの視聴者が減少し、コンピュータ・テクノロジーの台頭によって、様々なコミュニケーションツールを手にしている私たちは、メディアには社会を大きく変える影響力があるということを体験的に知っています。現状を正しく認識するためには、そうした技術の発達がどのような影響を社会にもたらしたかに関する歴史的知識が不可欠です。春学期は、この知識を獲得することを目指します。		
2. 授業内容 第1回：メディアとは何かー1：問題設定 第2回：メディアとは何かー2：課題 第3回：口承文化と文字文化：文字文化と人間の思考 第4回：印刷技術の成立ー1：グーテンベルクとその文化史的意義 第5回：印刷技術の成立ー2：発展課題 第6回：新聞の登場ー1：歴史 第7回：新聞の登場ー2：歴史 第8回：新聞の登場と社会構造：ハーバーマスの「公共性」の概念 第9回：電話の発達 第10回：ラジオの登場と生活的時間の変容 第11回：映画技術とハリウッドの成立：アメリカの発明家とメディア 第12回：広告とイメージ：「物語マーケティング」について 第13回：情報と社会：メディアの多元化の問題について 第14回：春学期のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 特にありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備は特にありません。		
5. 教科書 授業関連の資料は、すべて授業時に配布します。		
6. 参考書 参考文献は、随時、紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を通じてフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 レポートで評価します。 レポート課題と評価基準については授業中に説明します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) CUL351J		
メディア文化論Ⅱ		鈴木 哲也
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 情報社会論と物語論の観点から、現代社会に流通するさまざまな表現様式について考察します。 私たちは「情報」の共有、つまりコミュニケーションによって、共同体意識を形成します。また、さまざまなメディア上にあらわれた「物語」に触れることによって、あるいは、自己イメージを表現することでアイデンティティを形成します。では、新しいメディアが生まれることで、従来にはない社会像や自己像は生まれるのでしょうか？この問いを探究してゆきたいと思います。		
2. 授業内容 第1回：秋学期の目標設定と概要の説明 第2回：映画の分析について：導入 第3回：物語論：ハリウッド映画のストーリー構造について 第4回：アメリカのアクション映画の分析－1 第5回：アメリカのアクション映画の分析－2 第6回：映画の分析：まとめ 第6回：ドキュメンタリーThe Cove の分析-1 第7回：ドキュメンタリーThe Cove の分析-2 第8回：NHK ドキュメンタリー『鯨と生きる人々』の分析 第9回：「ドキュメンタリー」についてまとめ：事実と真実 第10回：映像作品に表象された人間と科学-1：SF 的想像力 第11回：映像作品に表象された人間と科学-2：SF 映画を巡って 第12回：科学技術と人間：マクルーハンの思想を巡って 第13回：メディア論が暗示する私たちの未来 第14回：秋学期のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 特にありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必要ありません。		
5. 教科書 ありません。授業時に資料を配付します。		
6. 参考書 随時、紹介します。前もって読むべき文献などはありません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 oh-o! Meiji 上で行います。		
8. 成績評価の方法 レポートを基本とし、授業への参加度などを加味します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)CUL151J		
映像リテラシー I		シェアマン
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業『映像リテラシー I』の目的は、映像や写真、特に動画に対する理解を深めることです。現代社会では、私たちは動く映像に囲まれ、文字通り誰でも映画を作ることができる時代に生きています。このような映像の洪水に、私たちはどのように向き合うべきなのでしょう。 本授業では、映像の重要性やその持つ意味を理解するために、以下の「授業内容」にあるテーマをさまざまな視点から掘り下げていきます。		
2. 授業内容 1. イントロ 2. フィルムの前のフィルム 3. 日本の幻燈 4. 写真 5. 無声映画と連写劇 6. ドキュメンタリー映画 7. 長編映画とジャンル 8. アニメーション映画 9. 実験映画 10. イメージと現実、VFX、CG、ディープフェイク 11. 映像の使い方と意味、禁断の映像？ 12. 『複製技術時代の芸術』 13. ビジネスとしての映画 14. まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 このクラスには、特別な前提条件はありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で出された課題をこなすこと。 課題提出は Oh-o ! Meiji システムで行われますので、操作には十分に注意してください。提出が完了したら、必ず「登録」が完了したことを再度確認してください。		
5. 教科書 授業で使用するパワーポイントは、Oh-o ! Meiji システムで提供します。 必要に応じて、配付資料もあります。		
6. 参考書 デヴィッド・ボードウェル、クリスティン・トンプソン『フィルム・アート・映画芸術入門』名古屋大学出版会、2004 年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 課題：70% (Oh-o ! Meiji システム) 課題提出は Oh-o ! Meiji システムで行われますので、操作には十分に注意してください。提出が完了したら、必ず「登録」が完了したことを再度確認してください。 試験：30%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)CUL151J		
映像リテラシーⅡ		シェアマン
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業『映像リテラシーⅡ』の目的は、映像や写真、特に動画についての理解をさらに深めることです。現代社会では、私たちは動く映像に囲まれ、文字通り誰でも映画を制作できる時代に生きています。このような映像の洪水に、私たちはどのように向き合うべきなのでしょう。本授業では、このテーマを映像制作者の視点から捉え、学生自身が映画を制作する課題に取り組むことを重視しています。		
2. 授業内容 1. イントロ：映画制作と短編映画 2. 「編集なし撮影」の準備 3. 編集なし撮影 4. 脚本の案と書式 5. 脚本を作る 6. 脚本の確認 7. 短編映画制作の準備、役割 8. 脚本作成 9. 撮影の準備 10. 撮影 11. 撮影、ポストプロダクション 12. ポストプロダクション 13. 上映会 14. まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 『映像リテラシーⅠ』の単位修得済みであることが望ましいです。 『映像リテラシーⅡ』のみを履修する場合、単位取得が難しくなる可能性がありますので、十分ご注意ください。 本授業は参加型であるため、欠席は3回以内としてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で出された課題をこなすこと。		
5. 教科書 授業で使用するパワーポイントは、Oh-o!Meiji システムで提供します。 必要に応じて、配付資料もあります。		
6. 参考書 デヴィッド・ボードウェル、クリスティン・トンブソン『フィルム・アート・映画芸術入門』名古屋大学出版会、2004 年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 課題 100% 内 プリプロダクション（例：物語の案、脚本の内容と書式遵守）50% プロダクション（例：個人的な役割の充実、映画作品）50%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
ドイツ語圏の文化Ⅰ（大衆文化）		相原 剣
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 音楽を中心に、映画、ファッション、アニメ、ゲーム、SNS など様々な文化・学問領域を自由に横断し、大衆文化論の視座から「ドイツ語圏」の「大衆文化」の概要を掴みます。 ジャンルにこだわらず、「ドイツ語圏」の文化事象を視聴・検討していきますが、その際、PV やライブ映像、関連する映画・TV 番組など映像を伴う形で体験を重視したいと思います。 【到達目標】 「当該文化の知識」という予め保証された「解答」ではなく、「不断に思考する想像力」を養うことを目標とします。		
2. 授業内容 第1回 内容説明と予告提示及びイントロダクション 第2回 方法論と具体的試みの例示 第3回 音楽と香り 第4回 音楽とファッション 第5回 テクノと環境問題 第6回 リアリティショーとオーディション番組 第7回 音楽とSNS 第8回 ドイツと日本 第9回 ハンブルクのショービズ、オルタナとヒップホップ 第10回 音楽と思想 第11回 音楽とサッカー 第12回 文化に於けるドイツ語と英語 第13回 ドイツの音楽フェス 第14回 a:講義とまとめ、b:試験 ※受講する皆さん一人一人の興味とシーンの動向によって、このシラバスが書かれた時点では想像も出来ない内容になる事を期待しています。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 併せて「ドイツ語圏の文化Ⅱ（大衆文化）」も履修することが望ましいです。 ドイツ語に関しては歌詞や関連情報として資料をお渡しますが、映像を主体とした授業なので、ドイツ語履修者でなくとも問題ありません。また、ドイツ語履修の方にとっては、ドイツやドイツ語の新しい面を発見できる場となることでしょう。その他、予備知識は特に必要ありません。必要なものは「想像力」と「好奇心」です。 まずは、授業開始時のイントロダクション及び初回授業に出席するよう、お願いいたします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 様々な分野に日々関心を持ち、分からないことを恐れず、分からない事柄があれば、まず「検索」をしましょう。 【復習すべき内容】 関連の文化事象について、さらに興味の幅を広げていきましょう。		
5. 教科書 必要に応じてプリント等を配布します。特に教科書は使用しません。		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に、各自の発信の共有を行います。随時、全体講評及び個別講評も行います。Oh-o! Meiji システムを利用したの補足等も行います。		
8. 成績評価の方法 平常点・授業内の取り組み（個別の事象に対する自らの思考の積み重ねと発信、他者の思考の検討と反映）70%、期末課題 30% ※1回1回の授業内での取り組みを重視します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
ドイツ語圏の文化Ⅱ（大衆文化）		相原 剣
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 徐々に対象領域をヨーロッパ全域に広げていきます。音楽を中心に、映画、アート、スポーツ、演劇、建築、思想など更に広範囲のジャンルを関連させ、「ドイツ語圏」という枠組そのものを再検証していく試みです。ドイツの各都市を、国際的な視点から捉え直すことも行っています。 科目名には「ドイツ語圏」の「大衆文化」というエピソードが付いてはいますが、様々な文化に接するなかで、その自明と思われた「圏」や「域」はやすやすと融解することになると思います。 【到達目標】 「当該文化の知識」という予め保証された「解答」ではなく、「不断に思考する想像力」を養うことを目標とします。		
2. 授業内容 第1回 内容説明と具体例の予告提示 第2回 方法論と具体的試みの例示 第3回 LGBTQ とポップカルチャー 第4回 ワイマール期のカバレット文化と 80 年代文化 第5回 ジャズとヘヴィーメタル 第6回 ユーロ圏のポップミュージック 第7回 ドイツとトルコ 第8回 多文化主義と音楽 第9回 ベルリンのアンダーグラウンドシーン 第10回 ウィーンの音響 第11回 アートと音楽 第12回 ドイツのクリスマス 第13回 ドイツ語圏とは？ 第14回 a: 講義とまとめ、b: 試験 ※受講する皆さん一人一人の興味とシーンの動向によって、このシラバスが書かれた時点では想像も出来ない内容になる事を期待しています。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 併せて「ドイツ語圏の文化Ⅰ（大衆文化）」も履修することが望ましいです。 ドイツ語に関しては歌詞や関連情報として資料をお渡しますが、映像を主体とした授業なので、ドイツ語履修者でなくとも問題ありません。また、ドイツ語履修の方にとっては、ドイツやドイツ語の新しい面を発見できる場となることでしょう。その他、予備知識は特に必要ありません。必要なものは「想像力」と「好奇心」です。 まずは初回授業に出席するよう、お願いいたします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 様々な分野に日々関心を持ち、分からないことを恐れず、分からない事柄があれば、まず「検索」をしましょう。 【復習すべき内容】 関連の文化事象について、さらに興味の幅を広げていきましょう。		
5. 教科書 必要に応じてプリント等を配布します。特に教科書は使用しません。		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に、各自の発信の共有を行います。随時、全体講評及び個別講評も行います。Oh-o! Meiji システムを利用したの補足等も行います。		
8. 成績評価の方法 平常点・授業内の取り組み（個別の事象に対する自らの思考の積み重ねと発信、他者の思考の検討と反映）70%、期末課題 30% ※1回1回の授業内での取り組みを重視します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
ドイツ語圏の文化Ⅰ（思想と芸術）		青木 敦子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 16世紀ドイツに起こった宗教改革を起点として、その前後の様々な文化現象を見ていきます。 宗教改革以前の中世の建築様式と文学作品、および宗教改革と同時代そしてそれ以降の思想と芸術様式を具体的に考察することによって、近代の意味を捉えていきたいと思います。 【到達目標】 1. 宗教改革以前の中世の文化現象を通して、近代のドイツおよびヨーロッパを形作ったものを知る。 2. 宗教改革以降の近代の文化現象を通して、近代以前とそれ以降のドイツおよびヨーロッパとの相違点・共通点を知る。		
2. 授業内容 第一回 イントロダクション 第二回 宗教改革Ⅰ：ルターの宗教改革 第三回 宗教改革Ⅱ：カルヴァンと資本主義の精神 第四回 中世の芸術Ⅰ：北フランスの大聖堂 第五回 中世の芸術ⅠⅠ：ロマネスクの聖堂 第六回 中世の文学ⅠⅠⅠ：ダンテ『神曲』地獄篇 第七回 中世の文学ⅠⅤ：ダンテ『神曲』煉獄篇・天国篇 第八回 ルネサンスⅠ：S. ブラント『阿呆船』 第九回 ルネサンスⅡ：エラスムス『痴愚神礼讃』 第十回 ルネサンスⅢⅠ：ルネサンスの思想 第十一回 ルネサンスⅣ：遠近法とだまし絵 第十二回 マニエリスム：ミケランジェロ変貌 第十三回 バロック：反宗教改革の芸術 第十四回 a：試験 b：講義全体の振り返り * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 1. 外国語の知識に関係なく、芸術・文化・思想に関心のある履修者を歓迎します。 2. 授業中に小テストを課することがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 シラバスに提示したテーマについて文献を調べる。 復習 授業で学んだことをノートにまとめる。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 授業中に、参考図書を紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストについては、授業中に総括コメントを述べます。		
8. 成績評価の方法 小テスト 10% 授業への貢献度 10% 学期末試験 80%（理解度チェック問題と論述問題） として評価します。 授業内容を理解したか、テーマについて自己考察を行ったかを確認します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
ドイツ語圏の文化Ⅱ（思想と芸術）		青木 敦子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 ドイツのフリードリヒ大王による国家政策を起点として、その前後のヨーロッパ啓蒙主義時代の政治・文化を見ていきます。 18世紀から19世紀末までの時代は、理性を中心とする時代と見えながらも、そこには合理的な秩序への反抗や、啓蒙が捨て去ったものの復権といった様々な諸相が知的営みとして行われています。そうした具体的事象を捉えることで、現代が置かれている状況を捉えていきたいと思います。 【到達目標】 1. 18世紀啓蒙主義の様々な事象や文献に触れることで、理性の歩みを知る。 2. 啓蒙主義が産み落とした正と負の遺産を知る。		
2. 授業内容 第一回：イントロダクション（理性とは何か） 第二回：フリードリヒ大王による啓蒙政策 第三回：サン・スーシ宮殿とロココ芸術 第四回：啓蒙と編集知Ⅰ：コメニウスの汎知論 第五回：啓蒙と編集知ⅡⅠ：『百科全書』 第六回：ゴシック・リヴァイヴァルⅠ：グランドツアーと山に対する態度 第七回：ゴシック・リヴァイヴァルⅡ：ピクチャレスク絵画と崇高 第八回：ゴシック・リヴァイヴァルⅢⅠ：風景式庭園とゴシック小説 第九回：近代国家の誕生Ⅰ：マキアヴェリ『君主論』 第十回：近代国家の誕生ⅡⅠ：マイネッケの国家理性 第十一回：近代国家の誕生ⅢⅠ：ベンサムとパノプチコン 第十二回：ウィーン世紀末Ⅰ 第十三回：ウィーン世紀末Ⅱ 第十四回：a：試験 b：講義の振り返り * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 既習外国語の知識に関係なく、芸術・文化・思想に関心のある履修者を歓迎します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 授業内容に提示したテーマについて文献を調べる。 復習 授業で学んだことを自分のノートにまとめる。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 授業中に、参考図書を紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストについては、授業中に総括コメントを述べます。		
8. 成績評価の方法 小テスト 10% 授業への貢献度 10% 学年末試験 80%（理解度チェック問題と論述問題） として評価します。 授業内容を理解したか、テーマについて自己考察を行ったかを確かめます。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
ドイツ語圏の文化Ⅰ（頽廃芸術）		須藤 正美
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 ナチス時代の芸術家および芸術に対する迫害の実相に迫ります。具体的には、新生ナチスドイツにふさわしくない墮落した芸術とされた文学・思想・美術・写真・映画・音楽などの個々の作品やアーティストに焦点を当てて、国家権力による統制と弾圧の例を紹介します。 頽廃芸術と頽廃芸術家をメインテーマに、逆に当時ナチス政権から推奨された芸術・芸術家たちの営為もたどることで、ナチスの文化政策の概要を解説します。さらに戦後ドイツで（1960年代後半以降）行われてきた「記憶の文化」つまり自国の負の歴史との取り組みも紹介します。ドイツ歴史博物館をはじめ、さまざまな記念館、資料館のホームページの文書資料、映像資料を使って、なるべく臨場感のある講義にしたいと考えています。 【授業の到達目標】 ナチス時代に「頽廃」の烙印を押されて、その後の人生を捻じ曲げられた人々の様々な実例を通じて、加害者側と被害者側の双方に残された爪痕について知り、さまざまな形の克服のアプローチに学ぶこと。加害・被害の全体像を知るだけでなく、実際に当時を生きた人々の個別的な運命を体感して、そこから学びを得ることを重視したい。		
2. 授業内容 第1回： イントロダクション（前期予定の紹介・ジェノサイドとは？・映画『ヒトラーVS ピカソ』） 第2回： 1933年5月の焚書：焚書の歴史、ナチスの焚書イベント、著作が燃やされた人々（エーリヒ・ケストナー、トーマス・マン、アルフレート・ケル、マルクス、カウツキー、フロイト、ヴォルフなど） 第3回： 焚書モニュメント（ベルリンのベーベル広場に設置された「空っぽの図書室」、焚書全集の刊行） 第4回： ジャーナリスト、テオドル・ヴォルフの生涯と現在の「ヴォルフ賞」 第5回： 頽廃芸術展：エーミール・ノルデの「描かれざりし絵画」とその後のノルデ評価の変遷、フェーリクス・ヌスバウム「ユダヤ人証明書をもつ自画像」 第6回： 大ドイツ絵画展とナチスのアート政策 第7回： 写真の力：肖像写真家アウグスト・ザンダー『二〇世紀の人々』、ロマン・ヴィシユニアク『失われた世界』 第8回： 退廃音楽（「黒人音楽」とされたジャズやユダヤ人、シンティ・ロマ（ジプシー）の人々の音楽） 第9回： ナチス時代のプロパガンダ映画（1）『ユダヤ人ジュース』『私は告発する』 第10回： ナチス時代のプロパガンダ映画（2）『タイタニック』（1943年） 第11回： 大衆芸能カバレットの芸人たち、ハリウッドに行かなかった天才クルト・ゲロン 第12回： 彫刻家グンター・デムニヒの「躓きの石」プロジェクト 第13回： レポート作成指導・参考図書リストの紹介 第14回： a: レポート受領、b: 意見交換 * 授業内容は必要に応じて変更（例えば取り扱うテーマの順序を変えたり、1回で紹介できなかった内容を次回再び取り上げたり、別のよりタイムリーなテーマに差し替えたり）することがあります。		
3. 履修上の注意 ドイツ語を履修していなくとも上のテーマに関心を持つ学生であれば歓迎します。 授業でドイツ語などの用語を紹介する場合は、その意味も説明します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業ではさまざまな人物や事件など具体的な情報を紹介しますので、各自そこから思索や考察を深めてください。		
5. 教科書 なし。 授業後、数日以内に教材資料（パワーポイントをPDF化したもの）をクラスウェブに公開しますので、復習に役立ててください。		
6. 参考書 石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社現代新書 H. オルトナー『ヒトラーの裁判官フライスラー』白水社 A. シュタインガルト『ベルリン〈記憶の場所〉を辿る旅』昭和堂 「記憶と表現」研究会編『訪ねてみよう 戦争を学ぶミュージアム/メモリアル』（岩波ジュニア新書） その他、講義中にも随時紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回提出のリアクションペーパーの内、優れたものを次回以降に教室で紹介します。		
8. 成績評価の方法 レポート（60%）および出欠・リアクションペーパーの内容など毎回の授業参加状況（40%）で判定します。 レポート課題： 書籍・映画・写真やアートなど、ナチス時代に弾圧の対象とされた作品もしくは政権から強く推奨された作品を1点選び、感想を知人に紹介するようなスタンス（ため口にする必要はありません）で書くこと。2000字程度。最終授業時に紙媒体で提出するか、電子データを指定の期限内に0h-o Meiji! にアップロードしてください。		
9. その他 ドイツ語圏のさまざま映像資料も随時、紹介します。		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
ドイツ語圏の文化Ⅱ（ダークツーリズム）		須藤 正美
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 春学期では人物に焦点を当てますが、秋学期ではドイツ語圏の都市とそこで営まれたさまざまな活動を紹介しします。特にドイツ語圏の三大都市であるベルリン、ミュンヘン、ウィーン、さらには旧ドイツ語文化圏であった歴史をもつプラハやブダペスト、トリエステなど、東欧や南欧の歴史ある都市も取り上げる予定です。それぞれの都市の魅力とそこに刻まれた負の記憶を追体験できるような授業を考えています。 秋の授業ではヨーロッパ以外で起きている紛争や弾圧についても触れ、日本の戦争責任や加害の側面、現代日本における歴史修正主義を容認するような風潮の問題性についても紹介し、今を生きる我々自身が考えることの必要性和そのためのヒントを紹介したいと思います。		
【授業の到達目標】 過去に目を閉ざさないことが現在に対して盲目とならないために必要であるという戦後ドイツの姿勢に学ぶとともに、過去を記憶に刻むこと、追悼することの意味も考えます。		
2. 授業内容 第1回： イントロダクション（ダークツーリズムとは？秋学期の紹介と映画『ヒトラー暗殺、一三分の誤算』） 第2回： ユダヤ博物館とシュテレンフェルト〔石碑の焔〕（ベルリン） 第3回： シンティ・ロマ（ジプシー）と同性愛者の追悼碑（ベルリン） 第4回： ドイツ国鉄と東部への強制移送（ベルリン・グリュネヴァルト駅 17 番ホーム） 第5回： 白バラ抵抗運動と民族法廷長官ローラント・フライスラー（ミュンヘン） 第6回： 聖テレジアの街で起きたこと、児童オペラ『ブルンジパール』（チェコのテレジン） 第7回： アンネ・フランクと彼女の『日記』（アムステルダム） 第8回： ドイツの少数民族： ソルブ人とカシューブ人 第9回： 異民族展示の歴史（人間動物園） 第10回： 日本の在日朝鮮人・韓国人と日本社会 第11回： 獄中死した詩人ユン・ドンジュ（尹東柱） 第12回： 分断の記憶（ベルリンの壁） 第13回： レポート作成指導・参考図書リストの紹介 第14回： a: レポート受領、b: 意見交換 ＊ 授業内容は必要に応じて変更（例えば取り扱うテーマの順序を変えたり、1 回で紹介できなかった内容を次回再び取り上げたり、別のよりタイムリーなテーマに差し替えたり）することがあります。		
3. 履修上の注意 ドイツ語を履修していなくとも上のテーマに関心を持つ学生であれば歓迎します。 授業でドイツ語などの用語を紹介する場合は、その意味も説明します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業ではさまざまな情報を紹介しますので、各自そこから思索や考察を深めてください。		
5. 教科書 なし。毎回の授業資料を授業後、数日以内に Oh-o Meiji!! にアップロードしますので、復習用に利用してください。		
6. 参考書 講義中に随時紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回提出のリアクションペーパーの内、優れたものを次回以降に教室で紹介します。		
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 レポート（60%）および出欠・リアクションペーパーの内容など毎回の授業参加状況（40%）で判定します。 レポート課題： 秋学期も集団内のマイノリティへの迫害を中心テーマとして、さまざまな都市に刻まれた傷跡とそれを記憶する試みを紹介します。講義内容と関連するものなら、授業で取り上げたテーマを掘り下げる形でも、自分で探したテーマを選ぶのでもオーケーです。そのテーマについて調べた結果だけでなく、自身の見解も盛り込むこと。秋学期は具体的な作品の感想ではなく、選んだテーマについて考察して書いてください。2500 字程度。最終授業時に紙媒体で提出するか、電子データを指定の期限内に Oh-o Meiji!! にアップロードしてください。		
9. その他 ドイツ語圏の音楽や映画、アートなども随時、紹介します。		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
ドイツ語圏の文化Ⅰ（越境メディア）		関根 裕子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 ドイツ語圏および周辺の芸術家・著名人にまつわる文化的エピソードと作品との関係 概要[/b 作曲家モーツァルトやベートーヴェン、バイエルン王ルートヴィヒ二世、ヒトラーなど、ドイツ・オーストリアの著名な音楽家、国王の人生や作品について、伝記や映画はたくさんあります。本講義では、それらの中でも彼らの謎めいた事件、エピソードに焦点を当て、関連性の高い作品やエピソードを紹介・考察していきます。またポーランドなど、ドイツ語圏（プロイセンやハプスブルク帝国）などの列強の犠牲になった国出身の音楽家ショパンの人生と祖国との関係を紹介します。 その際、彼らの生きた時代や社会を知ること、彼らの活動の真意が見えてくるでしょう。講義内では、たくさんの映像資料を紹介します。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：今後の授業の進め方、作品紹介 第2回：モーツァルトの描かれ方、毒殺説をめぐって（1）モーツァルトの人生 代表作、映画『アマデウス』 第3回：モーツァルトの描かれ方、毒殺説をめぐって（2）ミュージカル『モーツァルト』 第4回：モーツァルトの描かれ方 フリーメイソンとの関係 『魔笛』 第5回：ベートーヴェンとフランス革命（1）青春時代 第6回：ベートーヴェンとフランス革命（2）第九への道のり 交響曲第3番「英雄」 ナポレオンとの関係 第7回：ベートーヴェンとフランス革命（3）第九交響曲の分析 第8回：19世紀ナショナリズムと音楽 スメタナ。ドヴォルザーク 第9回：ショパンの人生とポーランド、パリ（1）列強によるポーランド分割とショパン 第10回：ショパンの人生とポーランド、パリ（2）ジョルジュ・サンドとの出会いと恋愛、サロン文化 第11回：ショパンの人生とポーランド、パリ（3）晩年のショパン 第12回：ピアノの発展と革命・戦争 第13回：ゲストスピーカー講演（ピアノと日本の近代産業） 第14回：ショパンコンクールと国際政治 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 音楽の専門知識、経験、ドイツ語履修の有無は問いませんが、ドイツ語圏への高い関心を持つ学生を望みます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参考資料や映像で予習・復習すること。		
5. 教科書 授業中に資料を配布します。		
6. 参考書 岡田暁生：『CD&DVD51で語る西洋音楽史』新書館 片山杜秀：『革命と戦争のクラシック音楽史』NHK出版新書 西原稔：『クラシックでわかる世界史』ARTES 小宮正安：『名曲誕生 時代が生んだクラシック音楽』山川出版社 ヨアヒム・ケーラー 橋正樹訳 『ワーグナーのヒトラー』三交社 石田雄治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社現代新書 スティーヴン・バック著、野中邦子訳 『レニ・リーフェンシュタール 嘘と真実』清流出版 濱田浩一郎『小説アドルフ・ヒトラー』αβブックス リチャード・オウヴァリー著、永井清彦監訳『ヒトラーと第三帝国』河出書房新社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回のリアクションペーパーについては、次回の授業時に解説します。 テーマ別レポートについては、個別にコメントをつけて、返却します。		
8. 成績評価の方法 毎回のリアクションペーパー 60% 期末レポート 40%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
ドイツ語圏の文化Ⅱ（越境メディア）		関根 裕子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ミュージカル・映画・オペラ・バレエで読み解くドイツ語圏周辺の歴史と文化 概要：秋学期は、皇妃エリーザベト、ルートヴィヒⅡ世、ワーグナー、ヒトラー、レニ・リーフェンシュタールなど、ドイツ語圏を代表する歴史的著名人、芸術家の人生と彼らが生きた時代、そしてこの4人の関係性について、映画、オペラ、ミュージカルなどメディアを越境して鑑賞しながら講義します。 具体的には、ミュージカル『エリーザベト』、『ルートヴィヒ』『帰ってきたヒトラー』『独裁者』『オリンピアード』『意志の勝利』『ローエングリン』などを中心に周辺作品も取り上げます。 到達目標 映画やミュージカルなどの芸術メディアを通して、歴史的教養を身につける。歴史を学ぶことで、いかに戦争のない平和な世界を構築できるか、現代・未来の世界の在り方について考える。		
2. 授業内容 第1回：今後の授業の進め方、作品紹介 第2回：皇妃エリーザベトの描かれ方（1）ミュージカル『エリーザベト』 第3回：皇妃エリーザベトの描かれ方（2）ミュージカル『エリーザベト』 第4回：皇妃エリーザベトの描かれ方（3）映画『シシィ』 第5回：ルートヴィヒⅡ世とエリーザベト（1）映画『ルートヴィヒ』（ヴィスコンティ） 第6回：ルートヴィヒⅡ世とエリーザベト（2）ルートヴィヒの築城熱とワーグナー 第7回：ワーグナーのオペラ（1）『さまよえるオランダ人』 第8回：ワーグナーのオペラ（2）『タンホイザー』 第9回：ワーグナーのオペラ（3）『ローエングリン』 第10回：ヒトラー（1）ウィーンでの挫折と反ユダヤ主義 第11回：ヒトラー（2）政治家としてのヒトラー、演説、チャプリンの『独裁者』 第12回：ヒトラー（3）ヒトラーは良いこと了吗？！福利厚生政策 第13回：ヒトラー（4）現在の怖さ『帰ってきたヒトラー』 第14回：ヒトラー（5）ヒトラーとメディア、レニ・リーフェンシュタールの映画、メディア ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 音楽やドイツ語圏についての専門知識、経験、ドイツ語履修の有無は問いませんが、歴史や芸術に高い関心を持つ学生を望みます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業で提示する資料の予習・復習が必要です。		
5. 教科書 授業中に資料を配布します。		
6. 参考書 渡辺諒、岩崎徹、関根裕子他著『世界のミュージカル・日本のミュージカル』春風社		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回のリアクションペーパーは、次の授業で解説します。 テーマ別レポートに関しては、Oh meiji 上でコメントをつけて評価します。		
8. 成績評価の方法 毎回のリアクションペーパー 60% 学期末レポート40%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) ARS321J		
ドイツ語圏の文化Ⅲ（悪の文化史）		須藤 直子
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 当講座では「悪とは何か」「何者が悪とされてきたのか」という問いを年間のテーマとして、さまざまな文献や図像・映像資料をもとに考察をしてゆきます。 前期は「悪の表象」としての「悪魔」を中心に据えて、ヨーロッパ・キリスト教文化圏の中で何者が「悪」とされてきたのかを、主にドイツ語圏を例に探ります。 「悪魔」を扱うというと現代の日本では一見サブカルチャー的に聞こえるかもしれませんが、キリスト教の歴史の中での悪魔の位置づけを見てゆくことは、想像以上に一神教の宗教思想の本質に迫る切り口なのではないかと考えています。その分、難解に感じる部分もあるかもしれませんが、できるだけ分かりやすい読解を試みたいと思っています。 ※本講座は「ドイツ語圏の文化」となっていますが、これまで「超域文化」や「比較文化」として行ってきた講義内容がベースとなっています。そのためドイツ語圏の話を重視しながらも、これまで視野に入れてきた他のヨーロッパ文化圏や日本の鬼などの話も比較として織り交ぜながら、考察を進めてゆくつもりでいます。ご了承ください。 「悪とは何か」を考えようとなると、必然的に「正義とは何か」が問われてくるように思います。「正義」とは何らかの絶対的な善のことか、あるいは自分は善の側にいると自認することなのか。後者のような場合にはそこに却って毒がひそむこともあるのではないか。「悪」について考えようとなると、逆に「正義」というものが批判的に問われてくるかのようです。本授業ではしたがって「悪」について考えることにより、批判的・複眼的な思考を養うことが目標とされます。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：悪魔という訳語 第3回：悪の象徴としてのドラゴン（cf. 龍神信仰） 第4回：民間説話の悪魔（cf. 日本の鬼） 第5回：古代ユダヤのサタン 第6回：原始キリスト教のディアボロス 第7回：中世キリスト教の悪魔 第8回：（cf. 日本の鬼／桃太郎と鬼） 第9回：近世キリスト教の悪魔 第10回：ファウスト伝説とメフィストフェレス 第11回：ファウストからドン・ジョヴァンニへの系譜 第12回：ドン・ジョヴァンニ鑑賞(1) 第13回：〃(2) 第14回：考察 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ほぼ毎回資料を配布します。（PDFでの作成・配布と併せ、紙でも配布します）		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業資料を頻繁に配ることになりますが、時間的制約もあり、授業中に資料の全てを読むのは難しいことが少なくありません。問題の全体像をつかむためにも、授業で扱えなかった残りの部分も含め、配布資料には各自で目を通しておいください。		
5. 教科書 資料はこちらで用意します。		
6. 参考書 『悪魔の歴史』ポール・ケーラス（青土社） 『悪魔の起源』エレヌ・ペイゲルス（青土社） 『中世の聖と俗―信仰と日常の交錯する空間』ハンス＝ヴェルナー ゲッツ（八坂書房） 『メフィストフェレス 近代世界の悪魔』J.B. ラッセル（教文館） 『鬼むかし―昔話の世界』五来重（角川選書） 『ドラゴン 反社会の怪獣』ウーヴェ・シュテッフェン（青土社） 『龍の起源』荒川紘（紀伊国屋書店） 『完全版 1★9★3★7 イクミナ』（上）（下）辺見庸（角川文庫） 『モーツァルト ドン・ジョヴァンニ』（名作オペラブックス）アッティラ・チャンパイ（音楽之友社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーでの質問や意見で共有した方がよいと思われるものについては、次の授業時に出来るだけ応答します。レポートへの個別的なフィードバックは時間的にも難しいのですが、評価基準が分かるよう、全体的な講評のようなことはできれば行いたいと考えています。（何か個別の問題があればもちろん該当者に直接フィードバックします）		
8. 成績評価の方法 平常点（リアクションペーパー等による授業参加）50%、学期中の短いレポート10%、期末レポート40% ※原則的に欠席の多い登録者の期末レポート提出は、下記の事例を除き認めていません。 ※就職活動を理由とする欠席には一定の配慮をしますので、ポートフォリオ経由で欠席した日付と具体的な事由を早めに連絡してください。その上で授業資料にきちんと目を通し「代替リアクションペーパー」を提出すれば、出席相当として扱います。		
9. その他 不明な点や質問がある場合には、リアクションペーパーまたはポートフォリオをお願いします。 ただしすぐに返答できない場合があることと、個別に返答せずに授業お知らせ等に対応する可能性もあることは含みおきます。		

科目ナンバー：(LA)ARS321J		
ドイツ語圏の文化Ⅳ（”魔女”の社会史）		須藤 直子
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 当講座では「悪とは何か」「何者が悪とされてきたのか」という問いを年間のテーマとして、さまざまな文献や図像・映像資料をもとに考察をしてゆきます。 後期は、近世初期の危機の時代にヨーロッパ・キリスト教文化圏で起きた「魔女迫害」「魔女裁判」の実態を、犠牲者がとりわけ多かったドイツ語圏を中心に資料で見てゆきます。 その上で、ある特定の人々が「悪しき者」「害悪をもたらす存在」として killable=殺害可能な人間と見做されるとはどういうことなのか、何故そのような事態が度々起きてしまうのか。日本を含むジェノサイドの事例から学べることは何であるのかを探っておきたいと思います。 ※本講座は「ドイツ語圏の文化」となっていますが、これまで「超域文化」や「比較文化」として行ってきた講義内容がベースとなっています。そのためドイツ語圏の話重視しながらも、これまで視野に入れてきた他のヨーロッパ文化圏や日本などの話も比較として織り交ぜながら考察を進めてゆくつもりでいます。ご了承ください。 「悪とは何か」を考えようとなると、必然的に「正義とは何か」が問われてくるように思います。「正義」とは何らかの絶対的な善のことか、あるいは自分は善の側にいると自認することなのか。後者のような場合にはそこに却って毒がひそむこともあるのではないか。「悪」について考えようとなると、逆に「正義」というものが批判的に問われてくるかのようです。本授業ではしたがって「悪」について考えることにより、批判的・複眼的な思考を養うことが目標とされます。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：エウリピデス「メディア」（映像＋資料） 第3回：シェイクスピア「マクベス」（映像＋資料） 第4回：魔女迫害をめぐって(1) 魔女についてのメルヒェン・説話 第5回： " (2) 魔女迫害の実態＋映像作品 第6回： " (3) " 第7回： " (4) 魔女裁判の実態 第8回： " (5) 魔女迫害の原因と批判 第9回： " (6) 魔女迫害 まとめ 第10回：(cf. 山姥・山女・鬼女) 第11回：(cf. 関東大震災後のジェノサイド) 第12回：ジェノサイド 第13回：ドイツ文学における魔女像・メディア像の変遷 第14回：まとめの考察 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ほぼ毎回資料を配布します。（PDFでの作成・配布と併せ、紙でも配布します）		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業資料を頻繁に配ることになりますが、時間的制約もあり、授業中に資料の全てを読むのは難しいことが少なくありません。問題の全体像をつかむためにも、授業で扱えなかった残りの部分も含め、配布資料には各自で目を通しておいください。		
5. 教科書 資料はこちらで用意します。		
6. 参考書 『図説 魔女狩り』黒川正剛（河出書房新社） 『魔女狩りと悪魔学』上山安敏・牟田和男（編著）（人文書院） 『魔女裁判 魔術と民衆のドイツ史』牟田和夫（吉川弘文館） 『魔女とキリスト教 ヨーロッパ学再考』上山安敏（講談社学術文庫） 『魔女にされた女性たち—近世初期ドイツにおける魔女裁判』イングリット・アーレント=シュルテ（勁草書房） 『魔女狩り対新哲学—自然と女性像の転換をめぐって』ブライアン・イーズリー（平凡社） 『九月、東京の路上で 1923 年関東大震災ジェノサイドの残響』加藤 直樹（ころから） 『民衆暴力—揆・暴動・虐殺の日本近代』藤野 裕子（中公新書）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーでの質問や意見で共有した方がよいと思われるものについては、次の授業時に出来るだけ応答します。レポートへの個別的なフィードバックは時間的にも難しいのですが、評価基準が分かるよう、全体的な講評のようなことはできれば行いたいと考えています。（何か個別の問題があればもちろん該当者に直接フィードバックします）		
8. 成績評価の方法 平常点（リアクションペーパー等による授業参加）50%、学期中の短いレポート10%、期末レポート40% ※原則的に欠席の多い登録者の期末レポート提出は、下記の事例を除き認めません。 ※就職活動を理由とする欠席には一定の配慮をしますので、ポートフォリオ経由で欠席した日付と具体的な事由を早めに連絡してください。その上で授業資料にきちんと目を通し「代替リアクションペーパー」を提出すれば、出席相当として扱います。		
9. その他 不明な点や質問がある場合には、リアクションペーパーまたはポートフォリオをお願いします。 ただしすぐに返答できない場合があることと、個別に返答せずに授業お知らせ等々で対応する可能性もあることは含みおきください。		

科目ナンバー：(LA)ARS321J		
ドイツ語圏の文化Ⅲ（歴史文化）		山口 真人
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 「戦後ドイツの東西分断とベルリンの壁」をテーマとします。 ヨーロッパで遅れた近代国家であったドイツは、明治以降の日本と、ある意味きわめてよく似た歴史を辿ってきました。両国とも歴史に鮮明に刻印されるのは戦争の記憶ですが、特に第二次大戦で両国は相互に軍事同盟を結び、ともに全体主義体制のもと、最後は壊滅的な敗戦を迎えるに至ります。そして戦後は瓦礫の山から出発し、ともに「奇蹟の経済復興」と呼ばれる繁栄を築き上げました。その相似とともに、相違は何でしょうか。 授業では、第二次大戦後のドイツが、不幸にも東西分断国家となった経緯、さらに分断の象徴として存在した「ベルリンの壁」の建設から「壁」の崩壊まで、そして再統一から 35 年を経た現在までを、ドキュメント・フィルムや映画作品からのシーン、教員作成の配布資料、受講生による調べ学習とその発表などを通じてたどります。その結果、ドイツのみならず、戦後世界を二分した米ソ東西冷戦についての知見も深まることでしょう。加えて、国家のなかで生きる個人のあり方や、市民的権利としての自由といった視点から、人権感覚と批判的思考力を養うことの大切さを、主体的に学びとってほしいと考えます。 ドイツ語で「歴史」(Geschichte)という言葉は、同時に「物語」という意味も合わせもちます。すなわち、元来「歴史」とは物語られる「お話し」でした。入試勉強でやった年号や事項の暗記といった「冷たい」学習から脱却し、歴史を「熱く」追体験してみてください。 なお先にも記したように、授業では受講生それぞれに与えた小テーマで調べ学習を委託し、発表してもらいます。発表のため作成されたファイルは、配布して共有します。 ＜到達目標＞ 20 世紀のドイツをめぐる大きな問題を、関連文献や各種資料を通じて詳しく知ること、世界で「常識」とされる事柄を理解する。その結果、ドイツを知ることで日本を知る、日本を考えることで世界を考える契機とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：1945 年以降の「ドイツの戦後」を大きなテーマとして設定。そして「敗戦とドイツ占領統治、東西ドイツ分断と独立」、「ベルリンの壁建設」、「閉ざされた国 東ドイツ」、「ベルリンの壁開放とドイツ再統一」、「統一後のドイツが抱える諸問題」といったテーマ別に、各何回かの授業をあてる方向付けをする。 第2回：テーマ1の1：ドイツ敗戦と占領政策、「鉄のカーテン」構築からドイツ分断へ。 第3回：テーマ1の2：2つのドイツ国家の成立。政治・社会体制の違いを理解する。 第4回：テーマ2の1：「ベルリンの壁」とは。 第5回：テーマ2の2：「壁」はどのような理由で建設されたか。 第6回：テーマ2の3：国民が逃亡したくなる国家とは。 第7回：テーマ3の1：東西ドイツにおける社会生活と市民的自由を対照し比較する。 第8回：テーマ3の2：映画「ベルリン それぞれの季節」から考える（1） 第9回：テーマ3の3：映画「ベルリン それぞれの季節」から考える（2） 第10回：テーマ4の1：ペレストロイカ政策により「ベルリンの壁」と東ドイツ体制が崩壊するまで。 第11回：テーマ4の2：死者なしの名誉革命だった「壁」崩壊。 第12回：テーマ5の1：ドイツ再統一後に生じた格差、差別をめぐる、様々な諸問題。 第13回：テーマ5の2：映画「グッバイ、レーニン！」を参考に、統合の実態について知る。 第14回 aのみ：まとめ ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 特定の外国語(ドイツ語)の知識は授業内では必要としません。広く文化、歴史に関心ある学生諸君の受講を望みます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教員の事前の指示に従い参考事項を下調べしておく、授業がより興味深くなります。またテーマが複数回にわたる場合、前回までの流れをつかむ準備を怠らないように願います。		
5. 教科書 プリント、参考資料を適宜、配布します。		
6. 参考書 必要に応じて授業内にて指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業後に毎回アクションペーパーの提出を求めます。興味深い意見は共有し、さらなる解説および質問への返答を授業内で行っていきます。		
8. 成績評価の方法 レポート：30% 課題テーマに即して、内容・構成・体裁などの観点から総合的に判定します。 平常点評価：70% 毎授業ごとのリアクションペーパー記述、個別に担当した発表の内容などを総合します。授業は、映像その他さまざまな資料に直接触れてもらう場です。そのため、発表など授業への積極的参加を視します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS321J		
ドイツ語圏の文化Ⅳ（歴史文化）		山口 真人
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業概要 「ヒトラーとナチス、ホロコースト」をテーマとして ヨーロッパで遅れた近代国家だったドイツは、明治以降の日本と、ある意味きわめてよく似た歴史を辿ってきました。両国とも歴史に鮮明に刻印されるのは戦争の記憶ですが、特に第二次大戦で両国は相互に軍事同盟を結び、ともに全体主義体制のもと、最後は壊滅的な敗戦を迎えるに至ります。そして戦後は瓦礫の山から出発し、ともに「奇蹟の経済復興」と呼ばれる繁栄を築き上げました。その相似とともに、相違は何でしょうか。 授業では1930～40年代のヒトラー政権下のドイツをテーマとします。かの時代、ドイツではゲルマン民族を至高とする人種差別主義的な国家運営が進められ、ヒトラーは世界征服の野望をもって第二次世界大戦を引き起こし、数千万の人命が戦争の惨禍で失われました。悪名高い「ホロコースト」（ユダヤ人大虐殺）もまた、国家の政策として計画、実行されたのです。政治指導者の一国至上主義的、人種差別的言動が、最終的にいかなる取り返しのつかない事態を引き起こしうるか、歴史から学び取る機会として下さい。 ドイツ語で「歴史」（Geschichte）という言葉は、同時に「物語」という意味も合わせもちます。すなわち、元来「歴史」とは物語られる「お話し」でした。入試勉強でやった年号や事項の暗記といった「冷たい」学習から脱却し、歴史を「熱く」追体験してみてください。 なお先にも記したように、授業では受講生それぞれに与えた小テーマで調べ学習を委託し、発表してもらいます。発表のため作成されたファイルは、配布して共有します。 授業の到達目標 20世紀のドイツをめぐる大きな問題を、関連文献や資料を通じて詳しく知ること、世界で「常識」とされる事柄を理解する。その結果、ドイツを知ること、日本を知る、日本を考えることで世界を考える契機とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：テーマ1の1：独裁者アドルフ・ヒトラーとは。 第3回：テーマ1の2：ヒトラーの生涯。ドキュメント・フィルムでたどる。 第4回：テーマ2の1：ナチス党とは。運動としてのナチズムと人種差別主義思想について。 第5回：テーマ2の2：喜劇王チャップリンによるヒトラー批判。映画「チャップリンの独裁者」を参考に。 第6回：テーマ2の3：ナチス体制下の日常生活。市民たちはなぜ従ったか。 第7回：テーマ3の1：ホロコースト。ナチスが差別・虐殺の対象とした「ユダヤ人」とは。 第8回：テーマ3の2：ドキュメント・フィルム「アウシュヴィッツ絶滅収容所」を見て考える。 第9回：テーマ3の3：ユダヤ人以外の、全体主義ドイツから排斥された少数民族たち。 第10回：テーマ3の4：杉原千畝と「生命のビザ」。 第11回：テーマ4の1：ナチス・ドイツの崩壊とヒトラーの死。 第12回：テーマ4の2：記憶と継承。日本とドイツの取り組みの違い。 第13回：テーマ4の3：同。映画「顔のないヒトラーたち」を参考に。 第14回：aのみ 各テーマの総括、 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 特定の外国語（ドイツ語）の知識は授業内では必要としません。広く文化、歴史に関心のある人の受講を望みます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教員の事前の指示に従い参考事項を下調べしておく、より授業が興味深くなります。またテーマが複数回にわたるような場合、資料を読みなおすなどして前回までの流れをつかむ準備を怠らないように願います。		
5. 教科書 プリント、参考資料を適宜、配布します。		
6. 参考書 必要に応じて授業内にて指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業後に毎回リアクションペーパーの提出を求めます。興味深い意見は共有し、さらなる解説および質問への返答を授業内で行っていきます。		
8. 成績評価の方法 レポート：30% 課題テーマに即して、内容・構成・体裁などの観点から総合的に判定します。 平常点評価：70% 毎授業ごとのリアクションペーパー記述、個別に担当した発表の内容などを総合します。授業は、映像その他さまざまな資料に直接触れてもらう場です。そのため発表など授業への積極的参加を重視します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
フランス語圏の文化Ⅰ（思想と芸術）		黒川 学
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 「思想と芸術の対話」をテーマに、20 世紀のフランスでの潮流を追う。 春学期は第一次世界大戦後に登場し、文学、芸術、映画などに決定的な影響を与えたシュルレアリスムを扱う。詩人アンドレ・ブルトン（1896－1966）の「新たな現実」の探索を進めた思想の冒険とともに、彼のもとに参集にしては離反していったアーティストたちの試みをたどる。 シュルレアリスムが現代の文化のあらゆる面に浸透している発想、技法であることの認識が得られるとともに、それが今なお新たな可能性に満ちた探究の思想であることが理解できるであろう。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：アンドレ・ブルトンとシュルレアリスム宣言 第3回：「目は野生の状態で存在する」——ブルトンの絵画論 第4回：エルンストと技法の探究 第5回：マッソン vs マグリット——オートマチスムかデペイズマンか 第6回：オブジェとレディメイド——デュシャン 第7回：写真の魔法——マン・レイ 第8回：シュルレアリストの政治的決断 第9回：ブニエールとダリのシュルレアリスム映画 第10回：『ナジャ』と反精神医学 第11回：シュルレアリスムとアウトサイダーアート 第12回：ニューヨークのシュルレアリストたち 第13回：シュルレアリスムと抽象表現主義 第14回：ブルトン最後の全体化——魔術的芸術 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 幅広い知的関心を要す。予備知識は必要としないが、未知のものに開かれた感性と知性がないと受講は難しい。前期・後期継続して受講することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 開講時に提示する関連書籍を積極的に読むことが必要である。それにとどまらず、関連する展覧会を見に行ったり、映画作品を鑑賞したりすることが望ましい。		
5. 教科書 教科書はなし。資料は配布することがある。		
6. 参考書 参考書 とりあえず入門書として、『シュルレアリスムとは何か』、巖谷國士著、ちくま学芸文庫。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーには授業中に、期末のレポートには、Oh! Meiji からフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 毎回リアクションペーパーを書いていただく。そうした平常点が 50%，期末のレポート 50%。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
フランス語圏の文化Ⅱ（思想と芸術）		黒川 学
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 「思想と芸術の対話」をテーマに、20 世紀のフランスでの潮流を追う。 秋学期は、20 世紀を代表するフランスの哲学者、ジャン＝ポール・サルトル（1905－80）の美術評論を中心に考察する。サルトルは「実存主義」で知られるが、彼はまた、同時代のアーティストたちとの交流の中から、芸術について独自の思索を残している。その哲学と美学を紹介しつつ、20 世紀後半の美術の流れをたどる。 実存主義や現象学についての知識や、現代芸術への感応は、現代の社会・文化の深いところでの理解に資するであろう。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：サルトルと実存主義のアウトライン 第 3 回：「美とは想像的なものである」——サルトルの想像力論 第 4 回：『存在と無』への道 第 5 回：絶対の探究——ジャコメッティの彫刻 第 6 回：手品師としての芸術家——ジャコメッティの絵画と現象学 第 7 回：現実存在の衝撃——小説『嘔吐』と写真家・ヴォルス 第 8 回：アンフォルメル先駆者としてのヴォルス 第 9 回：アンガジュマンの画家、ラプージャードとルペロル 第 10 回：メルロ＝ポンティとの対話——絵画の存在論 第 11 回：シナリオライター・サルトル——実存主義と映画芸術 第 12 回：サルトルの状況の演劇 第 13 回：「ヴェネツィアの幽閉者」——ティントレットの絵画 第 14 回：ひとはいかにして芸術家になるか——フローベール論 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 幅広い知的関心を要す。予備知識は必要としないが、未知のものに開かれた感性と知性がないと受講は難しい。前期・後期継続して受講することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 開講時に提示する関連書籍を積極的に読むことが必要である。それにとどまらず、関連する展覧会を見に行ったり、映画作品を見たりすることが望ましい。		
5. 教科書 教科書はなし。資料は配布することがある。		
6. 参考書 とりあえず入門書として、『サルトル』、海老坂武著、岩波新書、『新・サルトル講義』、澤田直著、平凡社新書。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーは授業中に、期末のレポートには、Oh! Meiji からフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 毎回リアクションペーパーを書いていただく。そうした平常点が 50%、期末レポート 50%。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
フランス語圏の文化Ⅰ（芸術）		永倉 千夏子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ フランスと音楽芸術史。春学期は、モーツァルトまでを扱う。解説はクラスウェブにアップする。予めクラスウェブに掲載されるパワーポイント、早分かりスライドショー、穴埋め版レスポンスペーパーに従って予習し、「レポート」欄に提出する。授業当日は、時代の変遷や作曲家の特徴を字幕付き DVD または YouTube から確認し、自由記入版レスポンスペーパーを書き、「レポート」欄に提出する。 提出されたレスポンスペーパーの内容は、前週の内容の抜粋が次回授業時までにクラスウェブに「コメント返し」として提示されるので、お互いの気づきを共有すること。 ＜到達目標＞ (1) 劇、音楽、歌、舞踏、舞台演出など総合的エンターテインメントとして誕生し進化していったフランス・オペラの性格を理解する。 (2) テーマ、制作当時の社会的背景などとの関係から作品を理解し、様々な要素が時代とともにどのように変化していったかを考える。 (3) フランスの演劇、オペラ、舞踏などがヨーロッパの他の国々に都のような影響を与えたかを理解する。 (4) オペラを受容することが歴史的にさまざまな階級の欲求を満たす娯楽であったことを理解する。 (5) 演奏家や演出によっても印象が異なることを理解し、声の芸術としてのオペラを楽しむ。 (6) 様々な視点から自分の力でオペラについて語れるようになる。 これまでの音楽経験は不問。 毎回、授業内容を確認するレスポンスペーパーをクラスウェブから提出してもらう。 試験は行わない。レポートとして、作曲家、作品、歌手、演出などの部門別に選考理由を記した「オペラ総選挙」を提出してもらう。 個々のテーマについて問題意識をもって考察できること、作品の様式や声の特徴、物語の背景や作曲状況など様々な事項を理解し、何より自分の力でオペラを楽しむことができるようになることが重要である。		
2. 授業内容 第1回：a：比較文化の方法論と問題意識、オペラ誕生以前のフランスとイタリアの舞台芸術と音楽芸術 b：超初心者向け オペラ見どころ聴きどころ早わかり～例：モーツァルト《ポントの王ミトリダテ》 第2回：a：初期バロックのイタリア・オペラ～《オルフェオ》 b：同時代のフランス～バレ・ド・クール 第3回：a：商業劇場隆盛のイタリア中期バロック～モンテヴェルディ《ポッペアの戴冠》 b：マザランのカヴァッリ招聘《恋するエルコレ》 第4回：a：リュリのコメディ・バレ《町人貴族》～宮廷主導のフランス・オペラ b：リュリのトラジェディ・リリック《カドミュスとエルミオーヌ》 第5回：後期バロック期に広く共有された台本のテーマ系～アリオストの叙事詩『狂えるオルランド』からの派生オペラ 第6回：後期バロック期のオペラ作品に見る女性像～グリゼルダ、メディア、ディド 第7回：フランス古典演劇とイタリア・オペラ～ヘンデル《タメルラーノ》あるいは《バヤゼット》 第8回：ラモーのトラジェディ・リリックとオペラ・バレ～《優雅なるインドの国々》《プラテ》 第9回：a：ウィーンとパリでのグルックのオペラ改革～《オルフェオとエウリディーチェ》《オルフェとウリディス》 b：《オリドのイフィジェニー》《トリドのイフィジェニー》 第10回：a モジュール：後期バロック・オペラに見る新大陸異文化との対峙～ヴィヴァルディの《モテズマ》 b モジュール：革命前の啓蒙思想家とパリのサリエリ《タラール》 第11回：フランスとイタリアのコミック系オペラの系譜～インテルメッツォ、ナポリ派オペラ・ブッフア、オペラ・コミック 第12回：フランス演劇からきたイタリア・オペラ～モーツァルト《クレタの王イドメネオ》《皇帝ティートの慈悲》 第12回：貴族への視線 a モジュール：ボーマルシェ×モーツァルト《フィガロの結婚》 b モジュール：モリエール×モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》 第14回：《魔笛》 レポート：「オペラ総選挙～モーツァルトまで」 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業資料はパワボや zoom 録画、pdf ファイルで予め Oh-o! Meiji のクラスウェブにアップされる。事前にチェックしておくこと。 資料映像は日本語または英語の字幕付き DVD および YouTube から視聴。フランス語の知識は前提としていない。 レスポンスペーパーは、毎週3種類が与えられる。 (1) 予習用の穴埋め版。重要事項やあらすじなどを事前にチェックするもの。予め「授業内容」資料欄にアップされる解答を見て、翌週分を記入し、スキャナーまたは無料スキャナーアプリにより pdf 化して「レポート」欄に提出。 (2) 紙提出版。授業当日に配布される用紙に記入し、教室で提出。 (3) 自由記入版。用紙は配布されず、「レポート」欄に word ファイルでフォーマットがアップされる。授業内で視聴した映像（および、YouTube の指定動画）を視聴し、記入して、word ファイルにて「レポート」欄に提出する。 第14回の授業後には、春学期全体についてのレポート「オペラ総選挙」をクラスウェブに提出のこと。 秋学期にフランス語圏の文化Ⅱ（芸術）を履修することが望ましい。		

4. 準備学習（予習・復習等）の内容 PowerPoint および pdf の授業資料をクラスウェブからダウンロードする。 zoo 録画の早わかり授業資料をクラスウェブから視聴する。 予習用の穴埋め版レスポンスペーパーは前の週に配布され、解答はクラスウェブに掲載されるので、手書きで記入して pdf 化し、「レポート」欄に提出。 当日配布の紙提出版レスポンスペーパーは、その場で記入し、教室で提出。 レポート欄にアップされる Word の自由記入版レスポンスペーパーはクラスウェブからダウンロード。資料映像を視聴したのち、word ファイルに記入してクラスウェブの「レポート」から提出のこと。 紙提出版には、前の週の感想やレスポンスのいくつかが掲載されるので、他の人の捉え方や発見をシェアし、理解を深め、期末の「オペラ総選挙」の記述に役立てる。
5. 教科書 購入教科書はなし。PowerPoint と zoom 録画で資料を配布する。
6. 参考書 『音楽の進化史』ハワード・グッドール、河出書房新社、２０１４年；『中世音楽の精神史——グレゴリオ聖歌からルネサンス音楽へ』、金澤正剛、河出文庫、２０１５年；『フランス音楽史』、今谷・井上、春秋社、２０１０年；『新 イタリア・オペラ史』、水谷彰良、音楽之友社、２０１５年。『新グローヴオペラ事典』、セイディ、白水社、２０１１年。『西洋音楽史大図鑑』、コリッソン他、YAMAHA、2022 年。
7. 課題に対するフィードバックの方法 正答の存在するものはクラスウェブにアップされる。 「自由記入版」については、レスポンス例のいくつかとコメントを翌週の「紙配布版」に掲載する。 質問・連絡などの宛先は、レスポンスペーパーにメールアドレスが記載されている。
8. 成績評価の方法 評価の割合は、「穴埋め版」の平均（10%）＋「紙提出版」の平均（10%）＋「自由記入版」の平均(60%)＋「オペラ総選挙」（20%）。
9. その他

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）		永倉 千夏子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 <概要> フランスと音楽芸術史。秋学期は、ベルカント・オペラ以降を扱う。解説はクラスウェブにアップする。予めクラスウェブに掲載されるパワーポイント、早分かりスライドショー、穴埋め版レスポンスペーパーに従って予習し、「レポート」欄に提出する。授業当日は、時代の変遷や作曲家の特徴を字幕付き DVD または YouTube から確認し、自由記入版レスポンスペーパーを書き、「レポート」欄に提出する。 提出されたレスポンスペーパーの内容は、前週の内容の抜粋が次回授業時までにクラスウェブに「コメント返し」として提示されるので、お互いの気づきを共有すること。 <到達目標> （１）劇、音楽、歌、舞踏、舞台演出など総合的エンターテインメントとして誕生し進化していったフランス・オペラの性格を理解する。 （２）テーマ、制作当時の社会的背景などとの関係から作品を理解し、様々な要素が時代とともにどのように変化していったかを考える。 （３）フランスの演劇、オペラ、舞踏などがヨーロッパの他の国々に都のような影響を与えたかを理解する。 （４）オペラを受容することが歴史的にさまざまな階級の欲求を満たす娯楽であったことを理解する。 （５）演奏家や演出によっても印象が異なることを理解し、声の芸術としてのオペラを楽しむ。 （６）様々な視点から自分の力でオペラについて語れるようになる。 これまでの音楽経験は不問。 毎回、授業内容を確認するレスポンスペーパーをクラスウェブから提出してもらう。 試験は行わない。レポートとして、作曲家、作品、歌手、演出などの部門別に選考理由を記した「オペラ総選挙」を提出してもらう。 個々のテーマについて問題意識をもって考察できること、作品の様式や声の特徴、物語の背景や作曲状況など様々な事項を理解し、何より自分の力でオペラを楽しむことができるようになることが重要である。		
2. 授業内容 第 1 回：a：秋学期の進め方、春学期の「オペラ総選挙」講評 b：19 世紀初頭のパリのオペラ界の状況～ガヴオー《レオノーレ》とベートーヴェンの《フィデリオ》、スポンティーニの《フェルナン・コルテス》 第 2 回：ロッシーニのオペラ・ブッフア～《アルジェのイタリア女》《セビーリヤの理髪師》 第 3 回：ロッシーニのオペラ・セリア～《セミラミデ》 第 4 回：パリのロッシーニ《ギョーム・テル》 第 5 回：ベルカント・オペラからロマン派オペラへ～ベッリーニと 19 世紀のケルト・ブーム《ノルマ》 第 6 回：ベルカント・オペラのラスト・ジェネレーション～ドニゼッティとスコットランド、テューダー朝シリーズ《ランメルモールのルチア》 第 7 回：最後のオペラ・ブッフア～ドニゼッティ《ドン・パスクワレ》 第 8 回：悪魔の系譜で辿るドイツ・オペラからグラントベラ～ウェーバー《魔弾の射手》、グノー《ファウスト》、ボーイト《メフィストフェレ》 第 9 回：ユゴーとヴェルディに見る格差と差別 《リゴレット》 第 10 回：19 世紀オペラに見る宗教問題～アレヴィ《ユダヤの女》、ヴェルディ《ドン・カルロス》 第 11 回：a：オペラになったシェイクスピア～ヴェルディ《マクベス》、ロッシーニ《オテロ》、ヴェルディ《オテロ》 b：19 世紀ブルジョワ社会の風刺としてのコミック系オペラ～オッフェンバック《地獄のオルフェ》（天国と地獄） 第 12 回：19 世紀オペラに見る異文化理解～ビゼー《真珠ととり》、マイアベーア《アフリカの女》、ドリーブ《ラクメ》、ヴェルディ《ナブッコ》《アイダ》、ブッチーニ《蝶々夫人》《トゥーランドット》 第 13 回：a：パリのワーグナー～イタリア・オペラおよびフランス・オペラへの傾倒から「ロマン的オペラ」時代、パリ上演スキャンダル～《恋愛禁制》《リエンツィ》《さまよえるオランダ人》《タンホイザー》《ローエングリン》 b：ワーグナーによるヨーロッパ伝承の再神話化とケルト系伝承からの変容～《トリスタンとイゾルデ》《ジークフリート》《パルジファル》 第 14 回：パリの屋根裏の青春～ブッチーニ《ラ・ボエーム》 b：その後のオペラの流れ レポート：「オペラ総選挙～ベルカント・オペラから 20 世紀初頭まで」 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業資料はパワポや zoom 録画や pdf で予め Oh-o! Meiji のクラスウェブにアップされる。事前にチェックしておくこと。 資料映像は日本語または英語の字幕付き DVD および YouTube から視聴。フランス語の知識は前提としていない。 レスポンスペーパーは、毎週 3 種類が与えられる。 （１）予習用の穴埋め版。重要事項やあらすじなどを事前にチェックするもの。予め「授業内容」資料欄にアップされる解答を見て、翌週分を記入し、スキャナーまたは無料スキャナーアプリにより pdf 化して「レポート」欄に提出。 （２）紙提出版。授業当日に配布される用紙に記入し、教室で提出。 （３）自由記入版。用紙は配布されず、「レポート」欄に word ファイルでフォーマットがアップされる。授業内で視聴した映像（および、YouTube の指定動画）を視聴し、記入して、word ファイルにて「レポート」欄に提出する。 第 1 4 回の授業後には、秋学期全体についてのレポート「オペラ総選挙」をクラスウェブに提出のこと。 春学期にフランス語圏の文化Ⅰ（芸術）を履修していることが望ましい。		

4. 準備学習（予習・復習等）の内容 PowerPoint および pdf の授業資料をクラスウェブからダウンロードする。 zoo 録画の早わかり授業資料をクラスウェブから視聴する。 予習用の穴埋め版レスポンスペーパーは前の週に配布され、解答はクラスウェブに掲載されるので、手書きで記入して pdf 化し、「レポート」欄に提出。 当日配布の紙提出版レスポンスペーパーは、その場で記入し、教室で提出。 レポート欄にアップされる Word の自由記入版レスポンスペーパーはクラスウェブからダウンロード。資料映像を視聴したのち、word ファイルに記入してクラスウェブの「レポート」から提出のこと。 紙提出版には、前の週の感想やレスポンスのいくつかが掲載されるので、他の人の捉え方や発見をシェアし、理解を深め、期末の「オペラ総選挙」の記述に役立てる。
5. 教科書 購入教科書はなし。PowerPoint と zoom 録画で資料を配布する。
6. 参考書 『音楽の進化史』 ハワード・グッドール、河出書房新社、2014 年；『中世音楽の精神史——グレゴリオ聖歌からルネサンス音楽へ』、金澤正剛、河出文庫、2015 年；『フランス音楽史』、今谷・井上、春秋社、2010 年；『新 イタリア・オペラ史』、水谷彰良、音楽之友社、2015 年。『新グローヴオペラ事典』、セイディ、白水社、2011 年。『西洋音楽史大図鑑』、コリッソン他、YAMAHA、2022 年。『19 世紀イタリア・フランス音楽史』、セータ、法政大学出版局、2024 年。
7. 課題に対するフィードバックの方法 正答の存在するものはクラスウェブにアップされる。 「自由記入版」については、レスポンス例のいくつかとコメントを翌週の「紙配布版」に掲載する。 質問・連絡などの宛先は、レスポンスペーパーにメールアドレスが記載されている。
8. 成績評価の方法 評価の割合は、「穴埋め版」の平均（10%）＋「紙提出版」の平均（10%）＋「自由記入版」の平均（60%）＋「オペラ総選挙」（20%）。
9. その他

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
フランス語圏の文化Ⅰ（現代社会）		吉川 佳英子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 昨年はパリオリンピックが開催され、盛況な中、閉幕しました。また、ノートルダム寺院の修復が終わり、年末には再開しています。このように、パリはつねに動いています。景気は低迷しているものの、インフレ率の抑制には成功していて、2025 年には、フランスは SDG s の取り組みをさらに進めるようです。A I アクションサミットや「成長のための栄養」サミット、第 3 回国連海洋会議などがそれぞれ予定されていて、フランスは国際協力の先導役を務めます。 これらの動きを受けて、EU も様々な変化を見せることでしょう。ユーロの動きも気になります。また、戦争の今後の行方や影響はどうなるのでしょうか。 我々の生活は、今やヨーロッパの社会や文化と無関係ではおれません。日常生活に目を向けても「ZARA」や「H&M」、「illy」のエスプレッソに「LA DUREE」のマカロン等、さまざまな「ヨーロッパ」に囲まれています。まずは「ヨーロッパ」に関心を持ってみましょう。 さて授業ではこういった動きに対して、フランスの新聞や雑誌（日本語で読む）を用いながら、「身近なできごと」から出発し、問題を掘り下げながら考察していきます。 【授業の到達目標】 (1) ヨーロッパに対して幅広く関心を持ち正しい知識を身につける。 (2) EU の動向に関心を持ち自分の考えを持てるようにする。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（日本のイメージ） 第 2 回：フランスの世界遺産 第 3 回：多様化するパリのカフェ 第 4 回：教育制度 第 5 回：フランス大学生事情 第 6 回：環境問題 第 7 回：EU の発展 第 8 回：フランスの政治 第 9 回：フランスにおけるイスラム教 第 10 回：女性の社会進出 第 11 回：グローバリゼーション 第 12 回：発表（1） 第 13 回：発表（2） 第 14 回：a.：まとめ、b.：レポート課題 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 特にフランス語を履修している必要はなく、誰でも興味の手持てる内容です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 次回の内容を予め、新聞等で調べておく。 できれば『現代フランス社会を知るための 62 章』三浦信孝他編（明石書店）の関係箇所を目を通しておく。 【復習すべき内容】 授業で扱った内容の補足記事を読んでおく。		
5. 教科書 『現代フランス社会を知るための 62 章』三浦信孝他編（明石書店）、 必要に応じてプリントを配布。		
6. 参考書 『拡大ヨーロッパの挑戦』羽場久美子著（中央新書）、『フランス家族事情』浅野素女著（岩波新書）、『知っていそうで知らないフランス』安達功著（平凡社新書）、『パリ感覚』渡辺守章著（岩波現代文庫）等 必要に応じてプリントを配布。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートの全体講評を予定。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 提出物、レポート 70%、発表を含む授業への参加度 30% 【成績評価の基準】 (1) ヨーロッパに対して幅広く関心を持ち、正しい知識を身につけているか。 (2) EU の動向に関心を持ち、自分の考えを持っているか。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
フランス語圏の文化Ⅱ（現代社会）		吉川 佳英子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 昨年はパリオリンピックが開催され、盛況な中、閉幕しました。また、ノートルダム寺院の修復が終わり、年末には再開しています。このように、パリはつねに動いています。景気は低迷しているものの、インフレ率の抑制には成功していて、2025 年には、フランスは SDGs の取り組みをさらに進めるようです。AI アクションサミットや「成長のための栄養」サミット、第 3 回国連海洋会議などがそれぞれ予定されていて、フランスは国際協力の先導役を務めます。 これらの動きを受けて、EU も様々な変化を見せることでしょう。ユーロの動きも気になります。また、戦争の今後の行方や影響はどうなるのでしょうか。 我々の生活は、今やヨーロッパの社会や文化と無関係ではおれません。日常生活に目を向けても「ZARA」や「H&M」、「illy」のエスプレッソに「LA DUREE」のマカロン等、さまざまな「ヨーロッパ」に囲まれています。まずは「ヨーロッパ」に関心を持ってみましょう。 さて授業ではこういった動きに対して、フランスの新聞や雑誌（日本語で読む）を用いながら、「身近なできごと」から出発し、問題を掘り下げながら考察していきます。 【授業の到達目標】 (1) ヨーロッパに対して幅広く関心を持ち正しい知識を身につける。 (2) EU の動向に関心を持ち自分の考えを持てるようにする。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（日仏文化交流） 第 2 回：変わる食文化 第 3 回：ワイン事情 第 4 回：ファッション 第 5 回：フェミニズムの歴史 第 6 回：クール・ジャポン 第 7 回：フランスの演劇 第 8 回：フランスの映画 第 9 回：クレオール文化 第 10 回：EU の文化政策 第 11 回：発表（1） 第 12 回：発表（2） 第 13 回：発表（3） 第 14 回：a:まとめ、b:レポート課題 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 特にフランス語を履修している必要はなく、誰でも興味を持てる内容です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 次回の下調べ。発表の準備。 【復習すべき内容】 授業での問題点を補足しておく。		
5. 教科書 『現代フランス社会を知るための 62 章』三浦信孝他編（明石書店）、 必要に応じてプリントを配布。		
6. 参考書 『拡大ヨーロッパの挑戦』羽場久美子著（中央新書）、『フランス家族事情』浅野素女著（岩波新書）、『知っていそうで知らないフランス』安達功著（平凡社新書）、『パリ感覚』渡辺守章著（岩波現代文庫）、『現代フランスを読む』三浦信孝（朝日出版）等 必要に応じてプリントを配布。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートの全体講評を予定。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 提出物、レポート 70%、発表を含む授業への参加度 30% 【成績評価の基準】 (1) ヨーロッパに対して幅広く関心を持ち、正しい知識を身につけているか。(2) EU の動向に関心を持ち、自分の考えを持っているか。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
フランス語圏の文化Ⅰ（文学）		渡辺 響子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 春学期と秋学期はそれぞれ独立した授業で、どちらかだけを履修することはもちろん可能ですが、一年間パリをテーマとした授業を行います。 パリは、もちろんフランス共和国の首都ですが、それ以上の意味合いを持っていることを見ていきたいと考えています。 東京の山手線の内側しかないという狭い空間が、長い間コスモポリタン都市として成立していること、パリが移民の街でもあることを、文学作品と映画を通して見ていきます。 すぐれて中央集権的な国家であるフランスは、何度も革命を経験し、いくつもの異なる政体のもとで生き延びてきました。その中で、パリという都市がどのような変遷をとげていったのか、一緒に概観していきましょう。きっと都市の意外な顔が見えてくると思います。 到達目標 春学期には、まず現在のパリの容貌を知り、発祥から絶対王政を経て国家として統一する時期の首都に至るまでを考察します。		
2. 授業内容 1. a のみ イントロダクション 2. 映画 『パリ』 クラビッシュ監督（2008 年）（1） 3. 映画 『パリ』 クラビッシュ監督（2008 年）（2） 4. 移民の街パリ 5. カエサル時代のパリ 『アステリクスとオベリクス』 6. フランソワ・ヴィヨン、「泥棒詩人」（1456 年） 7. コルネイユ『嘘つき男』（1643—1644 年） 8. モリエール『才女気取り』（1659 年） 9. モリエール『町人貴族』（1670 年） 10. アベ・プレヴォー『マノン・レスコー』（1731 年） 11. ディドロ「ラモーの甥」 12. ラクロ『危険な関係』（1782 年）（1） 13. ラクロ『危険な関係』（2） 14. レチフ・ド・ラ・ブルトンヌ『パリの夜』（1788-94 年） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 フランスの作品を読む授業ですが、フランス語ができなくても問題ありません。 学期中に数回、リアクションペーパーの提出が求められます。一定数の提出が確認できない場合には、学期末レポートを提出する資格が失われることもあります。履修者の人数によっては、数回、その場でグループを作ってディスカッションをし、その意見をまとめて提出してもらうこともあります。 言うまでもないことですが、教室では、携帯電話の使用や私語は慎んでください。想像以上に周囲の人の迷惑になります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ、次の週に読むものをクラスウェブに挙げる予定です。 それに目を通してから教室に来るようにしてください。 基本的に邦訳のある作品の抜粋を対象にしますから、事前に読んでおけば、さらに理解が深まるでしょう。		
5. 教科書 特に定めず、クラスウェブに挙げた資料を使用します。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物へのフィードバックは、その性格によって、 1 個別に「レポート」の「コメント欄」に記す あるいは 2 全体評を教室で行います。		
8. 成績評価の方法 平常点 40%、学期末レポート 60%。 平常点は出席点ではなく、リアクションペーパーなどの提出物です。 レポートは、「とりあえず書けばいい」という声をキャンパス内で耳にすることがありますが、そういう気持ちでレポートを書いてもらっては困ります。最初の授業の際に話しますが、作品に敬意をはらい、レポート作成のルールに従って書くことが要求されます。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
フランス語圏の文化Ⅱ（文学）		渡辺 響子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 春学期と秋学期はそれぞれ独立した授業で、どちらかだけを履修することはもちろん可能ですが、一年間パリをテーマとした授業を行います。春学期に18世紀までの作品を読んだあとの秋学期は、19世紀から今日までの文学作品を通してパリを分析します。 パリは、もちろんフランス共和国の首都ですが、それ以上の意味合いを持っていることを見ていきたいと考えています。 東京の山手線の内側しかないという狭い空間が、長い間コスモポリタン都市として成立していること、パリが移民の街でもあることを、文学作品と映画を通して見ていきます。特に19世紀以降は、ベンヤミンが「19世紀の首都」と名付けたように、良くも悪くも国際的な性格が強まってきます。大革命を経て社会が平等を求め（幻想化？）、近代化していく中で街そのものの、そしてそこに住む人々がどのように変わっていったのかを見ていきましょう。		
2. 授業内容 1. a のみ：イントロダクション 2. ベンヤミン/「芸術作品としての都市」 3. ユゴー『ノートルダム・ド・パリ』（1831年）(1) 4. ユゴー『ノートルダム・ド・パリ』（2） 5. バルザック『ペール・ゴリオ』（1835年）(1) 6. バルザック『ペール・ゴリオ』（2） 7. ボードレール『パリの憂鬱』（1869年） 8. ゾラ『ごった煮』（1882年） 9. ゾラ『ボヌール・デ・ダム百貨店』（1883年）(1) 10. ゾラ『ボヌール・デ・ダム百貨店』（2） 11. ルイ・アラゴン『パリの農夫』（1926年） 12. アンドレ・ブルトン『ナジャ』（1928年） 13. レイモン・クノー『地下鉄のザジ』（1959年） 14. ダニエル・ペナック『カービン銃の妖精』（1987年） * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 フランス語圏の作品を読む授業ですが、フランス語ができなくても問題ありません。 春学期の授業を受けていなくても問題ありません。 学期中に数回、リアクションペーパーの提出が求められます。一定数の提出が確認できない場合には、学期末レポートを提出する資格が失われることもあります。履修者の人数にもよりますが、何回かは、数人のグループに分かれてディスカッションをし、それをまとめたものを授業終了時に提出してもらうことも考えています。 言うまでもないことですが、教室では、携帯電話の使用や私語は慎んでください。想像以上に周囲の人の迷惑になります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ、次の週に読むものを Oh-o Meiji にアップする予定です。 それに目を通してから教室に来るようにしてください。 基本的に邦訳のある作品を対象にしますから、事前に読んでおけば、さらに理解が深まるでしょう。		
5. 教科書 特に定めず、適宜クラスウェブに資料をアップします。		
6. 参考書 現段階では特に定めません。 授業の流れで紹介したり言及したりします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物へのフィードバックは、その性格によって、 1 個別に「レポート」の「コメント欄」に記す あるいは 2 全体評を教室で行います。		
8. 成績評価の方法 平常点40%、学期末レポート60%。 平常点は出席点ではなく、いかに授業に参加しているかです。リアクションペーパーが普段の評価の対象となります。 レポートは、テストよりもずっと主体性が問われます。 直前になって適当に書いても単位に結びつかない可能性も高いので、文学系の授業を履修する以上、普段から書くこと、言葉というものの高い意識を持つことが要求されていると認識してください。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS121J		
イギリス文化（社会史）		鈴木 哲也
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 「イギリス」と一般に呼ばれているクニを対象として、近代的な「国民国家」の特質とその成立過程をたどり、同時に、そこに生まれた文化を考察します。 イギリスの正式名称は「グレートブリテン及び北アイルランド連合王国」です。この国の特徴はなによりも「連合」であることです。このクニがイングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドから構成されていて、スコットランドやウェールズには今でも強い分離独立への志向があることはよく知られています。これら4つの地域には伝統的に異なった言語と文化がありました。それらを、強力な政治的意思によって統合された国家が「イギリス」であり、その統合は16世紀におけるヘンリー8世の政策によって始まります。 四方を海に囲まれた日本にいとイメージすることが難しいのですが、できるだけイギリスという国家に潜在する、この統合を維持しようとする意志と独立を志向する意志のせめぎ合いを具体的に考察して行こうと思います。 同時に、この政治的な動きのなかでどのような文化が生まれ流通していったのか、文化の流通経路と社会構造の変化の相関性についても見て行きます。		
2. 授業内容 以下のトピックについて授業を行います。ただし、1つのトピックを一回の授業で扱うのではなく、これらのポイントに重点を置きながら、柔軟に内容をアレンジして行くつもりです。 1. 中世のイギリス 2. ヘンリー八世の人物と政治的達成 3. イギリスにおける印刷技術と聖書の翻訳 4. エリザベス女王と日の沈まぬ国 5. 新聞の発達と「コーヒーハウス」 6. アン女王の治世と個人の権利 7. 産業革命と階級社会 8. BBC と KDKA：アメリカとイギリスにおける大衆的メディアの成立 9. イギリスとアイルランドの関係について 10. EU とイギリス：Brexit の意味 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 特にありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備は特に必要ありません。		
5. 教科書 教科書はありません。毎時間、資料を配付します。資料には英語のものもあります。		
6. 参考書 随時、紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題などへのフィードバックは、原則として、Oh-o, Meiji! 上で行います。		
8. 成績評価の方法 学期末レポートによって評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS331J		
アメリカ文化 I（映画から見るアメリカ）		斎藤 英治
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 20 世紀以降のアメリカ文化を代表するメディアの 1 つが映画です。 映画は、1895 年に誕生しましたが、第 1 次世界大戦以降は、アメリカがこのメディアにおいて世界の覇権を握ってきました。 また、映画が誕生してから、およそ 30 年間は、映画には音声がないサイレント映画の時代がつづきました。1927 年から、そこに音声加わり、映画の形態は大きく変化していったのです。 春学期の授業では、このサイレント映画の魅力と、サイレントから音声映画への変化、そして 1930 年代のアメリカ映画の繁栄を支えた「スタジオ・システム」を主に分析したいと思います。 それと共に、20 世紀初頭から 1940 年代までのアメリカ社会のダイナミックな変化を考察します。20 世紀初頭までの大量の移民、第 1 次世界大戦、繁栄する 1920 年代、女性の社会進出などを学んでいきます。歴史と映画の両方から、アメリカ文化の魅力を学んでいくことになるでしょう。 最終的にはレポートを作成してもらい、参考文献の精読等を通して、アメリカ文化と映画史について、より深い理解に到達してもらおうのが目標です。		
2. 授業内容 第 1 回：a はじめに b 19 世紀——発明の世紀 第 2 回：映画の誕生 第 3 回：サイレント映画の魅力 第 4 回：チャップリンと偉大なコメディアンたち 第 5 回：1920 年代のアメリカ社会 — ジャズ・エイジ 第 6 回：禁酒法と女性の選挙権 第 7 回：サイレント映画の完成 第 8 回：サイレントからトーキーへ 第 9 回：スタジオ・システムとは？ 第 10 回：大不況時代とスターの輝き 第 11 回：ミュージカル映画の全盛期 第 12 回：ディズニー映画の台頭 第 13 回：ハリウッドによるアメリカの神話作り 第 14 回：戦争に協力するハリウッド * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 毎回、プリントを配布する予定なので、出席して受け取るようにしてください。また、毎回、授業のテーマなどについてコメントを書いてもらいます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で言及した映画作品について、興味を覚えるものがあれば、大学の AV ライブラリーや、インターネットのアーカイブや、DVD や配信等を利用して鑑賞することをお勧めします。		
5. 教科書 こちらで、プリントを用意します。		
6. 参考書 ロバート・スクラー『アメリカ映画の文化史（上・下）』（講談社学術文庫） 北野圭介『ハリウッド 100 年史講義』（平凡社新書）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回、授業の最後に「リアクション・ペーパー」を書いてもらいますが、そこで質問や疑問を受けています。また、簡易レポートを課した際は、そこに全体的に見られた問題点について、教室で改善策を示します。また、期末レポートなど、授業に関する質問については、教室だけでなく、メールでも個別にお答えします。		
8. 成績評価の方法 平常点と、期末レポートを総合して評価する。平常点が 50 パーセント、レポートが 50 パーセント。なお、平常点は、授業の際の「リアクション・ペーパー」を考もとに判断します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS331J		
アメリカ文化Ⅱ（映画から見るアメリカ）		斎藤 英治
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 アメリカ映画は、その内容をめぐって、しばしば社会の厳しい批判にさらされてきました。そこで、1930 年代、ハリウッドは自主規制のシステムを作り上げ、「表現の自由」と「メディアの責任」の微妙なバランスを保ってきました。 秋学期は、アメリカ映画の黄金期だった 1930 年代から、それが衰退していった 1960 年代後半、そしてさらに現代のハリウッドまでを、主に表現の自由と検閲、そして人種問題などの観点から振り返ります。特に黒人差別と公民権運動については、より時間をかけて学びたいと思います。また、1960 年代のベトナム戦争やフェミニズムの台頭についても焦点を当てていく予定です。 この授業では、毎回のレジュメに加えて、テーマごとに参考文献を指定したり、教室で配布したりしています。20 世紀後半のアメリカの映画や文化の変化を学ぶことが到達目標のひとつですが、それらの文献の精読を通して、各テーマについて理解を深め、期末レポートを書いてもらうことも目標になります。		
2. 授業内容 第 1 回：はじめに 第 2 回：ハリウッドで自主規制が始まった理由 第 3 回：プロダクション・コードとは？ 第 4 回：1950 年代――豊かな社会と若者の台頭 第 5 回：赤狩り、テレビの脅威、核戦争の不安 第 6 回：人種差別と公民権運動 第 7 回：激動の 1960 年代とは？ 第 8 回：ベトナム戦争と時代遅れになるコード 第 9 回：アメリカの分断と革命期のアメリカ映画 第 10 回：1970 年代――エコロジーとフェミニズムの台頭 第 11 回：アフターマティブ・アクションをめぐる議論 第 12 回：多文化主義と新しい黒人スターたち 第 13 回：ミュージカル映画の復権 第 14 回：カルチャー・ウォーズ―アメリカ社会の分裂 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 毎回、プリントを配布する予定なので、出席して受け取るようにしてください。また、毎回、授業のテーマについてコメントを書いてもらいます。なお、期末レポート等を書く際には、plagiarism に気をつけてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で言及した映画作品について、興味を覚えたものがあれば、大学の AV ライブラリーや、インターネットのアーカイブや、DVD や配信等を利用して鑑賞することをお薦めします。		
5. 教科書 こちらで、プリントを用意します。		
6. 参考書 ロバート・スクラー『アメリカ映画の文化史（上・下）』（講談社学術文庫） ジェーが、北野圭介『ハリウッド 100 年史講義』（平凡社新書） ジェームス・パーダマン『黒人差別とアメリカ公民権運動』（集英社新書）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 学期の途中で、簡易レポートの課題を出した場合は、全体的に見られる問題点と、その改善策を授業で示します。また、期末レポートなど、授業に関する質問は、教室だけでなく、メールでも個別にお答えします。		
8. 成績評価の方法 平常点と、期末レポートを総合して評価する平常点が 50 パーセント、期末レポートが 50 パーセント。なお、平常点は、授業で毎回書いてもらうコメント（リアクション・ペーパー）をもとに評価しています。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS331J		
英語圏の文化		中村 和恵
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 概要： 現在、英語はその起源を遠く離れ、きわめて広く用いられています。第一言語（母語）だけでなく第二言語（公用語、共通語、教育・学術・IT ネットワーク上の言語等）として英語を用いる地域は、アフリカ大陸、南アジア、南・中米～カリブ海、南太平洋島嶼域ほか、世界中に拡大しており、実質上グローバルなリング・フランカとなった英語は、しかし、みな同じものではありません。これら諸地域の多様な英語文化を具体的事例を通して知り、その社会的背景と文化変遷を学びます。 映像資料を導入として、アフリカ、カリブ海、インド、オセアニア等の英語文化圏について歴史的経緯を学び、各地の作家の著作などから具体的な現地の声を紹介します。英語のポピュラーソングは日本のみなさんにも身近なものですが、その背景や意味は意外なほど深く、そして根でつながっています。そのほかにも文学、宗教や呪術、教育の現場、オンライン資料等を例にあげ、英語の功罪を考えていきます。 目的： グローバル化した英語の役割とその背景を知り、歴史、経済地理、国際関係など複合的知見から現代世界の多様性を考察する。現代のポピュラーカルチャーを契機として、身近なエンターテインメントや文化活動の背後にある諸民族や諸地域の事情を学ぶ。		
2. 授業内容 1. 英語圏とは インTRODakション 1) 母語と第二言語の現状 2) 多様性と変容・混淆 3) ポストコロニアルという状況 2. 英語圏の拡大 アフリカン／ディアスポラ 大航海時代から植民地時代 (1) 植民地制度と言語文化の支配／奴隷制と英語／キリスト教と黒人音楽 3. 英語圏の拡大 インディアン・ディアスポラ 多様性と統一性／国境の政治性／ヴァナキュラーと英語の綱引き 4. 英語圏はつねに動いている 都市の移民たち 事例 1-1 イギリスの短篇小説と映画にみる移民二世の心情 (1) 5. 事例 1-2 イギリスの移民つづき 6. 事例 2 英語を捨てたケニア作家 英語を飼ひ慣らすナイジェリア作家 出版と文学賞と言語の壁、そして検閲と弾圧 7. 参加学生による事例考察： 日本の英語を考える 明治日本の選択／英語教育論／カタカナ英語と翻訳放棄の現状など 8. 事例 3-1 南アフリカ アフリカンス語とコイサン語と英語の間で (映像資料) 9. 事例 3-2 南アフリカの先住民民族つづき 10. 事例 4-1 東アフリカ 紛争と貧困のまったなかで育つこと 11. 事例 4-2 東アフリカつづき アメリカ合衆国に移住したジンバブエの女の子が見た世界 12. 事例 5 「わるい」英語はすごい ビジン、クレオール、黒人英語、インド英語、シンガポール英語、“Harder they come” さらにもっと 13. 事例 6 英語の周囲に： わからなくてもいいのだ！ アオテアロア (NZ) マオリ語の復興 オーストラリア先住民民族の言語地図 14. 授業コメントフィードバック、授業を振り返って (口頭コメントとディスカッション) ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 出席： 何回休んだら単位が出ないといった考え方はしたくありません。しかし出席がすくない方は単位を取得できない可能性があります。リアクションペーパーや授業中パフォーマンスを重視するためです。基本ラインとして5回以上休んだ方は単位が出ないと考えてください。病気等の特別な事情のある方はオンライン (ポートフォリオの授業振り返りコメント) で相談し事情を証明する書類等を持参してください。 事例研究担当： 講義が基本の科目ですが、参加者の関心の方や人数を考慮しつつ事例研究を学生にも行ってもらうことも考えています。詳しくは授業で説明しますが、今学期の中頃に各自で調査した事例をオンライン提出してもらい共有する形式を予定しています。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 予習 授業課題や事例研究の提出時は事前学習が必要になります。詳細はレポート欄等で指示しますが、クラスで共有する可能性を念頭に、資料詳細 (著者・作成者・編者、記事や章や本のタイトル、出版社と出版年あるいは発表された場所の情報や URL と作成日ないし閲覧日) をしっかりと記録し、文章を作成してください。人により課題により1時間から3時間ほどの予習時間を必要とすると想定します。 復習 期末レポートでは授業全体を振り返り具体例をあげて解答すべき問いに答えるかたちの文書作成が求められます。毎回の授業内容を復習し、重要とおもわれる主題と事例を整理しておくことで、その作業がしやすくなるでしょう。回により20分から1時間程度の復習が望ましいと考えます。		
5. 教科書 配布プリント・オンラインアップロード資料を用います。		
6. 参考書 大津由紀雄、江利川春雄、斎藤兆史、鳥飼玖美子『英語教育、迫り来る破綻』ひつじ書房、2013 鈴木 慎一郎『レゲエ・トレインーディアスポラの響き』青土社、2000 中村和恵『日本語に生まれて——世界の本屋さんで考えたこと』岩波書店、2013 ピーター・バラカン『ロックの英詞を読む—— 世界を変える歌』集英社インターナショナル、2016 Dominic Head ed., The Cambridge Guide to Literature in English, 3rd edition. 2006 その他毎回紹介していきます。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業後のリアクションペーパー、オンライン課題等への全体向けフィードバックは、授業中全体に口頭で、また必要に応じて個別にオンラインコメントとして行います。期末レポートはオンラインで全体に授業内容の振り返りとともにフィードバックし、個別にオンラインでコメントを返します。課題についての質問や相談があるときは授業お知らせより全体および個別に行います。 学生から担当者に質問や相談があるときはクラスウェブのポートフォリオ (授業振り返りコメント) から送付してください。学部事務室を通しての問い合わせは緊急時に限って行ってください。		
8. 成績評価の方法 平常点 (授業中の質問やコメント、リアクションペーパー、オンライン課題) 70%、期末レポート 30%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS321J		
スペイン文化Ⅰ（建築）		大楠 栄三
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の概要≫ 「建築」は、大地にもっとも密着し歴史の精神の響きを収集するのにもっとも適した芸術ジャンルである。そのため、スペイン建築が根差すところの、その風土と文化を、スペイン各地域の地理的・自然環境、気候、植生、農牧業、家屋と、それに関連した文学、音楽、映画、言語とともに考察し、「スペイン」を総体的に理解することを目指したい。 ≪到達目標≫ 建築だけでなく、スペインの風土・文化に関する基礎的な教養を高めることを目標とする。 ≪授業方法≫ パワーポイントを使用した講義形式で、映像や音声資料を適宜活用しながら、受講者に絶えずコメントを求める形式で進める。		
2. 授業内容 第1回：国土の概観 第2回：位置の独自性：「出会い」の場 第3回：自然環境：「へんに起伏のある」 第4回：五大河川：「ほとんど障壁」 第5回：各地域の気候、植生、農牧業、農村集落・家屋形態と文学：「湿潤スペイン」① 第6回：「湿潤スペイン」② 第7回：「乾燥スペイン」Ⅰ内陸部：メセータからアラゴン地方にかけて① 第8回：「乾燥スペイン」Ⅰ内陸部：メセータからアラゴン地方にかけて② 第9回：「乾燥スペイン」Ⅱ内陸部：エストレマドゥーラ地方からグアダルキビール河谷にかけて① 第10回：「乾燥スペイン」Ⅱ内陸部：エストレマドゥーラ地方からグアダルキビール河谷にかけて② 第11回：「乾燥スペイン」Ⅲ海岸部：カタルーニャ地方からバレンシア地方にかけて① 第12回：「乾燥スペイン」Ⅲ海岸部：カタルーニャ地方からバレンシア地方にかけて② 第13回：「乾燥スペイン」Ⅳ海岸部：アリカンテからムルシア、アルメリーアにかけて① 第14回：「乾燥スペイン」Ⅳ海岸部：アリカンテからムルシア、アルメリーアにかけて② ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 とにかくスペインに関心のある方を歓迎します。軽いムック本でもテレビ番組でも何でもいいので、前もってスペインの街であれ、食物であれ、文学であれ、映画であれ。具体的な関心や疑問を抱いたうえで授業に参加してほしい。 また、2022 年度春学期に和泉キャンパスで開講した「スペイン語圏の文化Ⅰ（スペイン）」のリニューアル版となるため、本授業を履修した学生には内容が重複することになる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ヨーロッパの地理や歴史が弱い方は、最低限の知識を自分で身に付けたうえで履修ください。 授業中にあげた文学、音楽、映画、芸術作品などを、アウトラインと資料プリントをもとに、図書館やサイトで探し自分で鑑賞して欲しい。		
5. 教科書 授業前日の午後、0h-o! Meiji に「アウトライン」と「資料プリント」をアップしておきますので、両ファイルをダウンロードし、メモできるように「アウトライン」はプリントアウトして出席してください。「資料プリント」はモバイル機器での閲覧用です。		
6. 参考書 1. 『歴史のなかのスペイン：キリスト教徒、モーロ人、ユダヤ人』アメリコ・カストロ（水声社、2020 年） 2. 『図説 スペインの歴史』川成洋（河出書房新社、1994 年） 3. 『図説 世界文化地理大百科 スペイン・ポルトガル』R. A. ストラドリング, M. ヴィンセント（朝倉書店、1999 年） 4. 『スペイン史』ピエール・ヴィラール（白水社・クセジュ文庫、1992 年） 5. 『スペイン三千年の歴史』アントニオ・ドミンゲス・オルティス（昭和堂、2006 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーの評価、授業についての追加的な解説を、0h-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。 リアクションペーパーはESを書くための練習として文字数 350～400 字で提出してもらい、添削したものを返却する予定。		
8. 成績評価の方法 ・リアクションペーパー（0h-o! Meiji で、一つのテーマが終わる毎に提出）：70％ ・期末レポート：30％		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS321J		
スペイン文化Ⅱ（文学）		大楠 栄三
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の概要≫ ヨーロッパ史の中で稀有の現象、レコンキスタ。レコンキスタ前後のイベリア半島の建造物を対象に、そのレトリック、とくに象徴的意義を文学的に解釈してみたい。 研究者たちが、スペインの国家形成、国民性、言語、文化全般に決定的な影響を及ぼしたと指摘する「中世レコンキスタ期」に焦点を絞り、「イスラーム教徒 vs キリスト教徒」の文化的虚構性を、「建築」という大地にもっとも密着し歴史の精神の響きを収集するのにもっとも適した芸術ジャンルにおいて検証していく。 ≪授業方法≫ パワーポイントを使用した講義形式で、映像や音声資料を適宜活用しながら、受講者に絶えずコメントを求める形式で進める。		
2. 授業内容 第1回：スペイン建築 導入 第2回：西ゴート建築 (1)：San Juan de Baños 第3回：(2)：San Pedro de la Nave 第4回：(3)：Santa Comba de Bande 第5回：スペイン・イスラム建築 (1)：導入 Mezquita de Córdoba 第6回：(2)：Mezquita de Córdoba 第7回：(3)：Medinat al-Zahra, Castillo de Gormaz 第8回：アストゥーリアス建築(1)：導入 San Julián de los Prados 第9回：(2)：Santa María de Naranco, San Miguel de Lillo 第10回：(3)：Santa Cristina de Lena 第11回：モサラベ建築 (1)：導入 Santiago de Peñalba 第12回：(2)：San Baudelio de Berlanga 第13回：(3)：San Miguel de Escalada 第14回：(4)：「ベアトウス本」Los Beatos ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 とにかくスペインや文学的レトリック、象徴性、宗教建築に関心のある方を歓迎します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 世界史が弱い方は、最低限のヨーロッパ中世史を自分で勉強してください。 ・『歴史のなかのスペイン：キリスト教徒、モーロ人、ユダヤ人』アメリコ・カストロ（水声社、2020 年） ・『スペイン三千年の歴史』アントニオ・ドミンゲス・オルティス（昭和堂、2006 年）		
5. 教科書 授業前日に、Oh-o! Meiji に「アウトライン」と「資料プリント」をアップしておきますので、両ファイルをダウンロードし、「アウトライン」はプリントアウトして出席してください。「資料プリント」はモバイル機器での閲覧用です。		
6. 参考書 ・『スペイン建築史』丹下敏明（相模書房、1979 年） ・『スペイン建築の特質』フェルナンド・チュエッカ、鳥居徳敏訳（鹿島出版会、1991 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーの評価、授業についての追加的な解説を、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。 リアベは ES を書くための練習として文字数 350～400 字で提出してもらい、添削したものを返却する予定。		
8. 成績評価の方法 ・リアクションペーパー（Oh-o! Meiji で、一つのテーマが終わる毎に提出）：70％ ・期末レポート：30％		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS331J		
ラテンアメリカ文化Ⅰ（近代史）		松尾 俊輔
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ この授業では、1492 年以降のラテンアメリカ史における主要なテーマを大まかな時系列順に取り上げる。これにより、ラテンアメリカ史についての一定の通史的理解を得ると同時に、それぞれの歴史的局面が、人種・宗教・アイデンティティないしは音楽・スポーツ・アートといった市井の人々の生に根差した文化といかに結びついたかを具体的事例をもとに検討する。この「縦軸」と「横軸」を通してラテンアメリカ地域の歴史的特性を把握するとともに、それが現代のラテンアメリカ社会の形成にどのようにつながっているかを理解する。また、複数の国・地域を取り上げることで、ラテンアメリカ諸国が持つ共通性と多様性についても認識を深める。 春学期の授業では、1492 年の新大陸「発見」から 20 世紀初頭までの時代を扱う。 ＜到達目標＞ ラテンアメリカの文化と社会の複雑性を説明する上で必要な基礎的用語・概念を身に付ける。 「途上国」「被植民地」といった一面的な理解を超えてラテンアメリカ地域の歴史的特性を把握し、人々がいかにしてその歴史形成に参加してきたかを理解する。 またそれにより、巷に流布する「グローバル」を異なる角度から捉えるための視座を手に入れる。		
2. 授業内容 第 1 回：ラテンアメリカとは何か 第 2 回：「今そこ」にあるラテンアメリカ 第 3 回：＜1＞「発見」と「征服」（1492） 【カリブ】コロンブス、1492 年のスペイン史的／世界史的意義 第 4 回：＜1＞「発見」と「征服」（16 世紀） 【メキシコ・ペルー】アステカとインカ、「帝国」 第 5 回：＜1＞「発見」と「征服」（16 世紀） コロンブスの交換、インディアス論争 第 6 回：＜2＞植民地社会（17-18 世紀） 【メキシコ・ペルー】銀、キリスト教化 第 7 回：＜2＞植民地社会（17-18 世紀） 映画『アギーレ 神の怒り』を見る 第 8 回：＜2＞植民地社会（17-18 世紀） 【ブラジル】プランテーション、アフリカ奴隷、人種関係 第 9 回：＜3＞独立と国家形成（19 世紀） 【アルゼンチン】ラテンアメリカ独立、カウディージョ 第 10 回：＜3＞独立と国家形成（19 世紀） 【アルゼンチン】「文明」と「野蛮」、西欧化 第 11 回：＜4＞寡頭制支配への挑戦（20 世紀初） 【メキシコ】メキシコ革命、宇宙的人種、壁画 第 12 回：＜4＞寡頭制支配への挑戦（20 世紀初） 【アルゼンチン】選挙政治、社会問題 第 13 回：＜4＞寡頭制支配への挑戦（20 世紀初） 【ペルー】マリアテギ、インディヘニスモ 第 14 回：a：期末まとめ b：期末試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「ラテンアメリカ文化Ⅰ」と「ラテンアメリカ文化Ⅱ」は、通年での履修を想定し、連続した内容となっているが、どちらか一方だけの履修も歓迎する。 1、2 年生向けの「スペイン語圏の文化（ラテンアメリカ）」とは、一部関連する内容もあるので、履修していればこの授業の理解にも役立つだろうが、特に前提とはしない。 スペイン語やポルトガル語の知識は一切不要。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回授業内で課題を提示しますので、期限までに授業内容を反芻し、自分の頭で考えて回答を作成すること。 授業の内容をノートなどに整理してまとめ、自分で見返すことができるようにすること。配布されるスライド・資料を取っておくだけでは不十分である。 また、授業で学ぶ内容を超えて、ラテンアメリカ諸国の文化や時事問題に常にアンテナを張るよう心掛けること。遠い世界に暮らす人々の生のあり方に対する想像力を持つこと。		
5. 教科書 教科書は使用しない。 スライドや資料は授業前に電子データないしは紙で配布する。		
6. 参考書 『物語ラテン・アメリカの歴史』増田義郎（中央公論新社）1998 年 『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編（丸善出版）2021 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内課題及び期末試験については、コメントを付して返却する。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業内で指示する小課題） 50% 期末試験 50% 毎回授業内で課題を提示します（最終回を除く全 13 回、そのうち点数が一番低い 3 回分は切り捨て）。原則として、授業後その日のうちにオンラインで提出していただきます。内容としてはコメントペーパー程度の簡単なもの（字数で言うと 400～600 字程度）で、基本的には授業内容をきちんと理解し、自分の頭で考えて取り組んだことが分かる内容が書けていれば満点（5 点）を付けます。特に出来が良いものについては、+1～2 点する場合があります。ただし、形式上の不備や明らかに設問に答えていないもの、授業内容をふまえていないものについては、適宜減点します。また、他の学生のを写したとみなしうる場合や、インターネット等からの不適切な引用（剽窃）があれば、0 点とします。 期末試験については、形式は記述式、内容としては、「〇〇について説明してください」といった授業で学んだ内容に関する端的な質問に対して、6 行程度で回答してもらう形（が数問）になります。		
9. その他 授業内容に関する質問はもちろん、そうでない質問にもできる限りお答えしますので、気軽に声を上げてください。		

科目ナンバー：(LA)ARS331J		
ラテンアメリカ文化Ⅱ（現代史）		松尾 俊輔
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ この授業では、1492 年以降のラテンアメリカ史における主要なテーマを大まかな時系列順に取り上げる。これにより、ラテンアメリカ史についての一定の通史的理解を得ると同時に、それぞれの歴史的局面が、人種・宗教・アイデンティティないしは音楽・スポーツ・アートといった市井の人々の生に根差した文化といかに結びついたかを具体的事例をもとに検討する。この「縦軸」と「横軸」を通してラテンアメリカ地域の歴史的特性を把握するとともに、それが現代のラテンアメリカ社会の形成にどのようにつながっているかを理解する。また、複数の国・地域を取り上げることで、ラテンアメリカ諸国が持つ共通性と多様性についても認識を深める。 秋学期の授業では、20 世紀中葉から 21 世紀までの現代史を扱うとともに、補遺として北米及び日本との関係も取り上げる。 ＜到達目標＞ ラテンアメリカの文化と社会の複雑性を説明する上で必要な基礎的用語・概念を身に付ける。 「途上国」「被植民地」といった一面的な理解を超えてラテンアメリカ地域の歴史的特性を把握し、人々がいかにしてその歴史形成に参加してきたかを理解する。 またそれにより、巷に流布する「グローバル」を異なる角度から捉えるための視座を手に入れる。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション：世紀転換期までのラテンアメリカ 第 2 回：＜5＞ポピュリズム（1940s） 【アルゼンチン】ペロニズム、労働者運動 第 3 回：＜5＞ポピュリズム（1940s） 【ブラジル】ヴァルガス、ファシズム、人種デモクラシー 第 4 回：＜6＞革命と冷戦（1950s） 【キューバ】東西冷戦、米州関係小史 第 5 回：＜6＞革命と冷戦（1950s） 【キューバ】革命のインパクト、社会主義 第 6 回：＜6＞革命と冷戦（1960s） 【メキシコ】グローバル 60s、学生運動、オリンピック 第 7 回：＜7＞軍事独裁（1970s-） 【チリ】アジェンデ政権、クーデター、「新しい歌」 第 8 回：＜7＞軍事独裁（1970s-） 【アルゼンチン】人権侵害、「5 月広場の母」、ロック 第 9 回：＜8＞民主化とその後（1990s-） 冷戦の終わり、記憶、新自由主義 第 10 回：＜8＞民主化とその後（1990s-） ネオ・ポピュリズム、多文化主義 第 11 回：＜補遺 1＞北米との関係 ラティーノ／チカーノ文化 第 12 回：＜補遺 2＞日本との関係 移民史、「出稼ぎ」 第 13 回：ラテンアメリカの「今」 第 14 回：a：期末まとめ b：期末試験		
3. 履修上の注意 「ラテンアメリカ文化Ⅰ」と「ラテンアメリカ文化Ⅱ」は、通年での履修を想定し、連続した内容となっているが、どちらか一方だけの履修も歓迎する。 1、2 年生向けの「スペイン語圏の文化（ラテンアメリカ）」とは、一部関連する内容もあるので、履修していればこの授業の理解にも役立つだろうが、特に前提とはしない。 スペイン語やポルトガル語の知識は一切不要。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回授業内で課題を提示しますので、期限までに授業内容を反芻し、自分の頭で考えて回答を作成すること。 授業の内容をノートなどに整理してまとめ、自分で見返すことができるようにすること。配布されるスライド・資料を取っておくだけでは不十分である。 また、授業で学ぶ内容を超えて、ラテンアメリカ諸国の文化や時事問題に常にアンテナを張るよう心掛けること。遠い世界に暮らす人々の生のあり方に対する想像力を持つこと。		
5. 教科書 教科書は使用しない。 スライドや資料は授業前に電子データないしは紙で配布する。		
6. 参考書 『物語ラテン・アメリカの歴史』増田義郎（中央公論新社）1998 年 『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編（丸善出版）2021 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内課題については、コメントを付して返却する。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業内で指示する小課題） 50% 期末試験 50% 毎回授業内で課題を提示します（最終回を除く全 13 回、そのうち点数が一番低い 3 回分は切り捨て）。原則として、授業後その日のうちにオンラインで提出していただきます。内容としてはコメントペーパー程度の簡単なもの（字数で言うと 400～600 字程度）で、基本的には授業内容をきちんと理解し、自分の頭で考えて取り組んだことが分かる内容が書けていれば満点（5 点）を付けます。特に出来が良いものについては、+1～2 点する場合があります。ただし、形式上の不備や明らかに設問に答えていないもの、授業内容をふまえていないものについては、適宜減点します。また、他の学生のものを写したとみなしうる場合や、インターネット等からの不適切な引用（剽窃）があれば、0 点とします。 期末試験については、形式は記述式、内容としては、「〇〇について説明してください」といった授業で学んだ内容に関する端的な質問に対して、6 行程度で回答してもらおう形（が数問）になります。		
9. その他 授業内容に関する質問はもちろん、そうでない質問にもできる限りお答えしますので、気軽に声を上げてください。		

科目ナンバー：(LA)ARS131J		
スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカ）		松尾 俊輔
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ この授業では、スポーツ・アート・文学・音楽の4つを具体的に取り上げながら、ラテンアメリカの文化と社会が持つ複雑性に対する基礎的な視座を獲得することを目的とします。「ラテンアメリカ」とひとことで言っても、そこには20以上の独立国が存在し、その内部には様々な政治・経済・宗教・言語・人種の実践が共存しています。ラテンアメリカは、1492年以来ヨーロッパや北米、アフリカ、アジアといった他地域と常に関係しながらも、それらとは異なる固有の政治的・文化的・人種的アイデンティティを涵養してきました。文化という「レンズ」を通じて、この地域を特徴づける多様性と豊かさ、そして不平等、貧困、暴力といった歴史的課題について自分の頭で考える能力とそのために必要な基礎知識を身に付けることを目指します。 ＜到達目標＞ ラテンアメリカ諸国全般についての基礎的知識を身に付ける。スポーツ・アート・文学・音楽というラテンアメリカを特徴づける4つの「文化」に慣れ親しむとともに、それらがこの地域の政治や経済をいかに形作り、またそれによって形作られてきたかを理解する。また、それを通じて「グローバル」なものへの理解を現代にふさわしい形にアップデートする。		
2. 授業内容 下記は授業の具体的な進行予定ですが、進捗状況その他の事情により学期中に変更となる場合があります。 第1回 オリエンテーション：ラテンアメリカとは何か 第2回 文化とは何か／ラテンアメリカの基礎的地誌 第3回 ラテンアメリカのスポーツ（1）：サッカーと国民国家形成 第4回 ラテンアメリカのスポーツ（2）：サッカーとファン文化 第5回 ラテンアメリカのスポーツ（3）：ベースボールと移民 第6回 ラテンアメリカのアート（1）：メキシコ革命壁画 第7回 ラテンアメリカのアート（2）：日本とメキシコ、美術を通じたつながりの系譜 第8回 ラテンアメリカの文学（1）：「ブーム」以前のラテンアメリカ文学と詩 第9回 ラテンアメリカの文学（2）：ラテンアメリカ文学の「ブーム」 第10回 ラテンアメリカの音楽（1）：ラテンアメリカ・ロックの系譜 第11回 ラテンアメリカの音楽（2）：「ヌエバ・カンシオン」と対抗文化 第12回 ラテンアメリカの音楽（3）：ニューヨーク生まれの「サルサ」 第13回 ラテンアメリカの音楽（4）：「レゲエ」から「レゲトン」へ 第14回 a. 期末まとめ／b. 期末試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 スペイン語やポルトガル語の知識は一切不要です。 なお、3～4年生対象の「ラテンアメリカの文化Ⅰ・Ⅱ」では、さらに詳しく植民地期以降のラテンアメリカの歴史を時系列に沿って扱うので、この授業を通じてスペイン語圏やラテンアメリカに関心を持った人はぜひそちらも受講してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回授業内で課題を提示しますので、期限までに授業内容を反芻し、自分の頭で考えて回答を作成すること。 授業の内容をノートなどに整理してまとめ、自分で見返すことができるようにすること。配布されるスライド・資料を取っておくだけでは不十分である。 また、授業で学ぶ内容を超えて、ラテンアメリカ諸国の文化や時事問題に常にアンテナを張るよう心掛けること。遠い世界に暮らす人々の生のあり方に対する想像力を持つこと。		
5. 教科書 教科書は特に使用しません。		
6. 参考書 『物語ラテン・アメリカの歴史』増田義郎（中央公論新社）1998年 『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編（丸善出版）2021年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回授業内で課す課題及び期末試験については、コメントを付して返却します。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業内で指示する小課題） 50% 期末試験 50%		
9. その他 授業内容に直接関わる質問はもちろん、そうでない質問にもできる限りお答えしますので、遠慮なく声をかけてください。		

科目ナンバー：(LA)ARS341J		
アフリカ文化 ※オムニバス		渡辺 響子
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 アフリカと聞いて、まず頭に浮かぶのはどんなことだろうか？ 人類発祥の地？広大なサバンナを駆ける野生の動物？果てしなく広がる砂漠とその風紋？ 奴隷貿易の犠牲者？それとも貧困？あるいは部族闘争？ノリノリの民族音楽？ どれもが本当かもしれないが、一面的な見方でしかないだろう。 偏見や既成概念、紋切り型から離れて自由にアフリカを感じることはできないだろうか？ この授業は、そんな考えから出発している。 そのために、毎回所属学部や専門の異なる教員、実際に長年アフリカで仕事に携わってきた人を招いてオムニバス形式で授業を進めていく。言語、音楽、文学、などの文化的アプローチと、政治経済、開発などの実践的なアプローチ、それらの背後にある歴史など、多方面に光を当てる。 この授業は最初のきっかけである。あとは各履修者が、明大アフリカ文庫をはじめとするあらゆる研究の場を利用して、それぞれのアフリカを発見し、歴史も地理も経済も、ジェオポリティック、すべてが繋がっていることを自ら実感してほしい。		
2. 授業内容 第1回 4/11 a イントロダクション 渡辺響子 第2回 4/18 日本の開発協力とアフリカ 丸田詠子 第3回 4/25 奴隷貿易/ ブラジル帰還人 旦敬介 第4回 5/9 アフリカを見る/ アフリカから見る 谷口亜沙子 第5回 5/16 構造的差別と優位性の幻想 アパルトヘイトと作家ベッシー・ヘッドに見る文学の役割 (1) 横山仁美 第6回 5/23 構造的差別と優位性の幻想 アパルトヘイトと作家ベッシー・ヘッドに見る文学の役割 (2) 横山仁美 第7回 5/30 ドイツのアフリカ植民地と「植民地責任」 歴史学の立場から考える 佐藤公紀 第8回 6/6 クレオール文学 管啓次郎 第9回 6/13 エチオピアと JICA の協力 中島葉子 第10回 6/20 北アフリカの政治とヒップホップ 陣野俊史 第11回 6/27 ナイジェリア文学 中村和恵 第12回 7/4 アフリカの文学と出版 (1) 口承、文学、演劇 福島亮 第13回 7/11 アフリカの文学と出版 (2) 翻訳をめぐる論争、戦略、展望 福島亮 第14回 7/18 アフリカ音楽 旦敬介 * 授業内容および日程は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 複数の人間が授業を行うため、諸般の事情で順番が入り替わる可能性もある。シラバスの記載と異なる日程で授業が行われることもあり得るので、あらかじめ了承してほしい。また、変更通知などがないか、普段からこまめにクラスウェブのチェックを怠らないようにしてほしい。 アフリカおよびカリブの国々を対象として話を進めるので、英語圏・フランス語圏・スペイン語圏と、主要な使用言語も異なる土地についての考察を行うが、授業は日本語で行うので、どの外国語を学んでいるかで差が出ることはない。各言語圏のニュースへのアクセス法は、教室で伝える。 普段からいろいろなことに知的好奇心を持っておくこと。新聞の国際面には目を通しておこう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当者によって差が出てくるかもしれない。 予習が必要な場合は該当授業の一週間前までに知らせるので、通知を見落とさないように。		
5. 教科書 基本的に指定教科書はなく、毎週担当者が資料を準備することになる予定。 詳細は初回に知らせる。		
6. 参考書 初回に知らせるが、その都度新しく参考文献などが示されることが予想される。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則、クラスウェブのコメント欄を利用する。		
8. 成績評価の方法 毎回リアクションペーパーを提出してもらうので、それが平常点となる。 履修者の人数によっては教室でディスカッションをすることも考えられ、その場合はこれも平常点となる。 履修者の数によって評価方法も変わってくるので、現段階では明示できないが、単純なテストになることは考えられない。 口頭発表かレポートになる可能性が高いと思われる。 レポートのなった場合の内訳は、平常点40%、期末レポート60%とする予定。		
9. その他 当然の注意だが、携帯電話の使用は禁止、私語は慎むこと。 逆に、質問や意見を述べることは歓迎する。 授業中に言い過ぎたこと、あとで思いついたことがあったりする場合は、ぜひディスカッション欄を利用してほしい。 誰かが気になることは、他の誰かも気にしているかもしれない。そういうモヤモヤは放置しておいてはいけない。 また、ディスカッションをすることで、自分には思いつかないようなことが見えてきて、大きな発展をすることもよくあるので、積極的にみんなで話してみよう。		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
アジア文化 I（アジア海域）		川野 明正
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 アジア「狛犬」論—オリエント・インドから東アジア・日本に至る獅子像の系譜 日本の狛犬と似た魔除けのライオン・獅子像は、アジア各地に共通する文化表象である。それは宗教的な差違をも越え、アジア親睦のアイコンともいべき親しみささえもっている。担当教員は、2013 年から 2014 年まで、アジア各地を放浪しつつ、各地の獅子像を訪問・通覧してきた。その意味で体感的な内容を話す授業となるが、日本の狛犬から、アジア各地へと至る文化的事象の拡がりを参加学生が体得・理解することが授業の狙いである。		
2. 授業内容 オリエント・インドから東アジア・日本へと、ライオン・獅子像が狛犬として日本で成立するまでの文化的伝播を追い、それと同時に東シナ海・南シナ海にいたる民間信仰の石彫りの犬像・獅子像も追い。ヴェトナム・沖縄を含めた獅子像の比較文化論を展開する。 第 1 回：レクチャー 第 2 回：オリエントの獅子像と獅子座 第 3 回：インドのライオン像シンハ 第 4 回：インド系ライオン像シンハの東南アジアでの展開 第 5 回：中国の獅子系霊獣像—春秋戦国時代・前漢代 第 6 回：中国の獅子系霊獣の系譜—後漢・魏晉南北朝南朝の陵墓獅子の系譜 第 7 回：魏晉南北朝の仏教的獅子像の受容—ガンダーラから雲崗石窟へ 第 8 回：朝鮮半島の獅子像と石狗 第 9 回：日本狛犬の阿吡の源流を中国霊獣像に探る。 第 10 回：中国石獅の地方類型(1)—中国北部(陝西省の「獅子狗」など) 第 11 回：中国石獅の地方類型(2)—中国南部(浙江・福建・広東各省の獅子像) 第 12 回：金門島の石獅爺と風獅爺 第 13 回：沖縄の村落守護獅子 第 14 回：まとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 中国語の知識がない学生でも履修に不都合はありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 都内各地神社や郷里の神社の狛犬を巡り、狛犬の形態・タイプについて把握しておくこと。予習は授業と同時間授業内容についてイメージトレーニングをしておくこと。		
5. 教科書 毎回 Oh-o! Meiji 上でプリントを配布する。		
6. 参考書 川野明正(監修)『狛犬さんぽ』グラフィック社、2020 年 川野明正(監修)『東京周辺 神社仏閣どうぶつ案内 神使・眷属・ゆかりのいきものを巡る』メイツユニバーサルコンテンツ、2019 年 上杉千郷(編)『狛犬事典』戎光祥出版、2001 年 上杉千郷(著)『日本全国獅子狛犬ものがたり』戎光祥出版、2008 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムで適宜コメントし、フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 期末試験で 70%評価する。平常点（授業への貢献度や参加度等）30%。ただし、授業の際に出席をとることがあるが、出席調査に一度も出席記録がない場合は成績評価の対象外となる。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
アジア文化Ⅱ（日本海域）		川野 明正
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 アジア「狛犬」論—オリエント・インドから東アジア・日本に至る獅子像の系譜 春学期の比較文化論はアジア各国・各地域での獅子像の展開を探ったが、秋学期は日本狛犬を主として論じる。 狛犬を事例として、日本各地の狛犬の豊富な型の違いを論じつつ、日本各地の郷土の感性のあり方について考える授業である。日本の地方文化の豊かさを認識することがこの授業の目標である。		
2. 授業内容 オリエント・インドから東アジア・日本へと、ライオン・獅子像が狛犬として日本で成立してから、各地に各様の狛犬像が展開されるあり様を講義する。 第1回：レクチャー 第2回：日本での狛犬像の源流と誕生 第3回：関東の参道狛犬（東京都内） 第4回：関東の参道狛犬（首都圏各県） 第5回：畿内狛犬（奈良・京都・大阪） 第6回：中国地方の狛犬（1）—尾道型狛犬の世界 第7回：中国地方の狛犬（2）—出雲狛犬の世界 第7回：中国地方の狛犬（3）—山口狛犬の世界 第8回：九州の狛犬（1）—宋風獅子と九州北部の狛犬 第9回：九州の狛犬（2）—大分県内の狛犬 第10回：九州の狛犬（3）—肥前狛犬とその歴史 第11回：九州の狛犬（4）—肥前狛犬の各地の展開 第12回：東北地方の狛犬（1）—南福島小松寅吉・小林和平の狛犬 第13回：東北地方の狛犬（2）—仙台狛犬の展開 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 中国語の知識がない学生でも履修に不都合はありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 身近な神社の狛犬など霊獣像をみておくことが望ましい。予習は授業と同時間授業内容についてイメージトレーニングをしておくこと。		
5. 教科書 毎回 Oh-o! Meiji 上でプリントを配布する。		
6. 参考書 川野明正（監修）『狛犬さんぽ』グラフィック社、2020 年 川野明正（監修）『東京周辺 神社仏閣どうぶつ案内 神使・眷属・ゆかりのいきものを巡る』メイツユニバーサルコンテンツ、2019 年 上杉千郷（編）『狛犬事典』戎光祥出版、2001 年 上杉千郷（著）『日本全国獅子狛犬ものがたり』戎光祥出版、2008 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムで適宜コメントし、フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 レポートで 70%評価する。平常点（授業への貢献度や参加度等）30%。ただし、授業の際に出席をとることがあるが、出席調査に一度も出席記録がない場合は成績評価の対象外となる。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
アジア文化Ⅰ（京劇入門）		魯 大鳴
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業は、中国の演劇を通して、中国文化の紹介を目的とする。世界には「三大古典劇」と呼ばれる演劇がある。ギリシャ古典劇、インド古典劇と並んで中国の古典劇もその一つに数えられる。中国の古典劇は、紀元6世紀に出来上がったと言われている。現在、京劇をはじめ、全国各地に300を超える地方劇がある。 授業では、テキストの内容に沿って説明し、体験も含めて、中国演劇へのイメージを分かるようにする。		
2. 授業内容 第1回： テキスト、授業の紹介など。 第2回： テキスト第一章 中国演劇の起源 第3回： 昆曲、地方劇など 第4回： 京劇の誕生など 第5回： 第二章 多様な芸術表現 第6回： 役者訓練の総合性 唱 第7回： 念 第8回： 做 第9回： 打 第10回： 第三章 京劇の舞台要素 戯曲 第11回： 役者 第12回： 劇場 第13回： 観客 第14回： まとめ、レポートの提出 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 外国語の能力は必要としません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎日、学習したことを思い出すこと。日本の演劇との違いを考えること。		
5. 教科書 「京劇役者が語る京劇入門」 魯 大鳴 著 （駿河台出版社 1800+税）		
6. 参考書 「京劇」 加藤 徹 著 （中央公論新社 1850+税） 「中国京劇小辞典」 魯 大鳴 著 （駿河台出版社 1800+税）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中及び体験することを通して、把握するようにします。		
8. 成績評価の方法 平常点 50%、（授業への参加度 30%、勉強への熱意 20%）レポート 50%、総合的に評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
アジア文化Ⅱ（京劇入門）		魯 大鳴
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業は、中国の演劇を通して、中国文化の紹介を目的とする。世界には「三大古典劇」と呼ばれる演劇がある。ギリシャ古典劇、インド古典劇と並んで、中国の古典劇もその一つに数えられる。中国の古典劇は、紀元 6 世紀に出来上がったと言われている。現在、京劇をはじめ、全国各地に 300 を超える地方劇がある。 後期授業にプロのゲストさんと呼んで、実演も見られる。		
2. 授業内容 第 1 回： 春学期の復習 第 2 回： 第四章 京劇の役柄 生 第 3 回： 旦 第 4 回： 浄 第 5 回： 丑 第 6 回： 京劇舞台の脇役 龍套 第 7 回： 第五章 京劇の化粧 化粧の体験 第 8 回： 化粧の体験 第 9 回： 京劇立ち回りの体験 小五套（槍） 第 10 回： 第二套 第 11 回： 第三套 第 12 回： 第四套 第 13 回： 第五套 第 14 回： まとめ、レポートの提出 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 外国語の能力は、必要としません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎日、学習したことを思い出すこと。日本の演劇との違いを考えること。		
5. 教科書 「京劇役者が語る京劇入門」 魯 大鳴 著 （駿河台出版社 1800＋税）		
6. 参考書 「京劇」 加藤 徹 著 （中央公論新社 1850＋税） 「中国京劇小辞典」 魯 大鳴 著 （駿河台出版社 1800＋税）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中及び体験することを通して、把握するようにします。		
8. 成績評価の方法 平常点 50%、（授業への参加度 30%、勉強への熱意 20%）レポート 50%、総合的に評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS311J																																																											
アジア文化Ⅲ（京劇の世界）		魯 大鳴																																																									
2 単位	駿河台キャンパス		春学期																																																								
1. 授業の概要・到達目標 この授業は、中国演劇を通して、中国演劇及び中国文化の紹介を目的とする。 世界には、「三大古典劇」と呼ばれる演劇がある。ギリシャ古典劇、インド古典劇と並んで、中国の古典劇もその一つに数えられる。ギリシャ古典劇は、紀元前五世紀初め頃に現れたもので、インド古典劇も紀元１００年頃にさかのぼる。中国の古典劇は、紀元六世紀に出来上がったと言われている。その後、長い歴史のなかで、発展し、豊かな演劇伝統が築かれた。現在、京劇をはじめ、全国各地に 300 を超える地方劇がある。 授業では、テキストの内容に沿って説明し、中国演劇へのイメージを分かるようにする。 体験もあって、メイクや簡単な動きなども行う。																																																											
2. 授業内容 <table><tr><td>第一回</td><td>第一章</td><td>京劇の歴史</td><td>中国の地方劇</td></tr><tr><td>第二回</td><td></td><td>京劇の形成</td><td>政治環境、社会環境、芸術環境、</td></tr><tr><td>第三回</td><td>第二章</td><td>総合芸術としての京劇</td><td>多様な芸術表現 文学性、音楽性など</td></tr><tr><td>第四回</td><td></td><td>役者訓練の総合性</td><td>唱</td></tr><tr><td>第五回</td><td></td><td></td><td>念</td></tr><tr><td>第六回</td><td></td><td></td><td>做</td></tr><tr><td>第七回</td><td></td><td></td><td>打</td></tr><tr><td>第八回</td><td>第三章</td><td>京劇の舞台要素</td><td>戯曲（演目、台本）</td></tr><tr><td>第九回</td><td></td><td></td><td>役者</td></tr><tr><td>第十回</td><td></td><td></td><td>劇場</td></tr><tr><td>第十一回</td><td></td><td></td><td>観客</td></tr><tr><td>第十二回</td><td></td><td></td><td>メイクの体験</td></tr><tr><td>第十三回</td><td></td><td></td><td>メイクの体験</td></tr><tr><td>第十四回</td><td colspan="3">まとめ、レポートの提出。</td></tr></table> * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。				第一回	第一章	京劇の歴史	中国の地方劇	第二回		京劇の形成	政治環境、社会環境、芸術環境、	第三回	第二章	総合芸術としての京劇	多様な芸術表現 文学性、音楽性など	第四回		役者訓練の総合性	唱	第五回			念	第六回			做	第七回			打	第八回	第三章	京劇の舞台要素	戯曲（演目、台本）	第九回			役者	第十回			劇場	第十一回			観客	第十二回			メイクの体験	第十三回			メイクの体験	第十四回	まとめ、レポートの提出。		
第一回	第一章	京劇の歴史	中国の地方劇																																																								
第二回		京劇の形成	政治環境、社会環境、芸術環境、																																																								
第三回	第二章	総合芸術としての京劇	多様な芸術表現 文学性、音楽性など																																																								
第四回		役者訓練の総合性	唱																																																								
第五回			念																																																								
第六回			做																																																								
第七回			打																																																								
第八回	第三章	京劇の舞台要素	戯曲（演目、台本）																																																								
第九回			役者																																																								
第十回			劇場																																																								
第十一回			観客																																																								
第十二回			メイクの体験																																																								
第十三回			メイクの体験																																																								
第十四回	まとめ、レポートの提出。																																																										
3. 履修上の注意 外国語の能力は必要としません。																																																											
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、習ったことは、日本の演劇との違いを考えること。																																																											
5. 教科書 「京劇役者が語る京劇入門」 魯 大鳴 著 駿河台出版社 （1800+税）																																																											
6. 参考書 「中国京劇小辞典」 魯 大鳴 著 駿河台出版社 （1800＋税） 「京劇」 加藤 徹 著 中央公論新社刊 （1850＋税）																																																											
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に、把握していく。																																																											
8. 成績評価の方法 平常点 50%、（授業への参加度 30%、勉強への熱意 20%）レポート 50%、総合的に評価する。																																																											
9. その他																																																											

科目ナンバー：(LA)ARS311J																																																																							
アジア文化Ⅳ（京劇の世界）		魯 大鳴																																																																					
2 単位	駿河台キャンパス		秋学期																																																																				
1. 授業の概要・到達目標 この授業は、中国演劇を通して、中国演劇及び中国文化の紹介を目的とする。 世界には、「三大古典劇」と呼ばれる演劇がある。ギリシャ古典劇、インド古典劇と並んで、中国の古典劇もその一つに数えられる。ギリシャ古典劇は、紀元前五世紀初め頃に現れたもので、インド古典劇も紀元100年頃にさかのぼる。中国の古典劇は、紀元六世紀に出来上がったと言われている。その後、長い歴史のなかで、発展し、豊かな演劇伝統が築かれた。現在、京劇をはじめ、全国各地に300を超える地方劇がある。 この授業の特徴は、体験も交えたこと。メイクや簡単な動きなども行う。																																																																							
2. 授業内容 <table><tr><td>第一回</td><td>春学期の復習</td><td>テキストの紹介など</td><td></td></tr><tr><td>第二回</td><td>第四章</td><td>京劇の役柄（行当）</td><td>生</td></tr><tr><td>第三回</td><td></td><td></td><td>旦</td></tr><tr><td>第四回</td><td></td><td></td><td>浄</td></tr><tr><td>第五回</td><td></td><td></td><td>丑</td></tr><tr><td>第六回</td><td></td><td></td><td>龍套</td></tr><tr><td>第七回</td><td>第五章</td><td>京劇のメイク</td><td>俊扮、勾臉など</td></tr><tr><td>第八回</td><td></td><td>簡単な動きの体験</td><td>圧腿、踢腿、（正腿、旁腿、十字腿、偏腿）</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>身段、雲手、山膀など</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>園場、小五套（槍）</td></tr><tr><td>第九回</td><td></td><td></td><td>第一セット</td></tr><tr><td>第十回</td><td></td><td></td><td>第二セット</td></tr><tr><td>第十一回</td><td></td><td></td><td>第三セット</td></tr><tr><td>第十二回</td><td></td><td></td><td>第四セット</td></tr><tr><td>第十三回</td><td></td><td></td><td>第五セット</td></tr><tr><td>第十三回</td><td></td><td>体験したことのまとめ、レポートの説明</td><td></td></tr><tr><td>第十四回</td><td></td><td>レポートの提出</td><td></td></tr></table> * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。				第一回	春学期の復習	テキストの紹介など		第二回	第四章	京劇の役柄（行当）	生	第三回			旦	第四回			浄	第五回			丑	第六回			龍套	第七回	第五章	京劇のメイク	俊扮、勾臉など	第八回		簡単な動きの体験	圧腿、踢腿、（正腿、旁腿、十字腿、偏腿）				身段、雲手、山膀など				園場、小五套（槍）	第九回			第一セット	第十回			第二セット	第十一回			第三セット	第十二回			第四セット	第十三回			第五セット	第十三回		体験したことのまとめ、レポートの説明		第十四回		レポートの提出	
第一回	春学期の復習	テキストの紹介など																																																																					
第二回	第四章	京劇の役柄（行当）	生																																																																				
第三回			旦																																																																				
第四回			浄																																																																				
第五回			丑																																																																				
第六回			龍套																																																																				
第七回	第五章	京劇のメイク	俊扮、勾臉など																																																																				
第八回		簡単な動きの体験	圧腿、踢腿、（正腿、旁腿、十字腿、偏腿）																																																																				
			身段、雲手、山膀など																																																																				
			園場、小五套（槍）																																																																				
第九回			第一セット																																																																				
第十回			第二セット																																																																				
第十一回			第三セット																																																																				
第十二回			第四セット																																																																				
第十三回			第五セット																																																																				
第十三回		体験したことのまとめ、レポートの説明																																																																					
第十四回		レポートの提出																																																																					
3. 履修上の注意 外国語の能力は、必要としません。																																																																							
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、体験したことを復習すること																																																																							
5. 教科書 「京劇役者が語る京劇入門」 魯 大鳴 著 駿河台出版社 （1800＋税）																																																																							
6. 参考書 「中国京劇小辞典」 魯 大鳴 著 駿河台出版社 （1800＋税） 「京劇」 加藤 徹 著 中央公論新社刊 （1850＋税）																																																																							
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に把握していく。																																																																							
8. 成績評価の方法 平常点 50%、（授業への参加度 30%、勉強への熱意 20%）、レポート 50%、総合的に評価する。																																																																							
9. その他																																																																							

科目ナンバー：(LA)ARS191J		
イスラーム文化Ⅰ（入門）		北原 圭一
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 米国内同時多発テロ事件やイラク戦争、IS やシリア問題、各地で頻発するテロ事件、イスラエルとパレスチナ、アメリカ・イスラエルとイランの対立などイスラームの絡む様々な出来事が国際社会を揺るがし続けている。その一方、政府の政策もあり今後訪日するイスラーム教徒数の増加が見込まれることなどから、「ハラール・フードをはじめイスラーム教徒の生活文化への理解が急がれるなど、私たち日本人ももはやイスラームと無関係ではない状況を迎えている。にもかかわらず、私たちのイスラーム理解は、情報の少なさゆえに偏りや歪みをもった不正確なものとなっているのではないだろうか。 そうした状況を踏まえ、本講では、クルアーンやイスラーム法、断食や巡礼といったイスラーム信仰の基礎に係わる用語・概念、スンナ派とシーア派の違いなど、宗教としてのイスラームに関する基礎知識を具体的な事例や事象を考察しながら習得していく。 現代イスラーム世界の動向にも細心の注意を払いながら、その背景となっているイスラームの根幹をなす信仰の内容と、その文化的・社会的表象形態を、CD・DVDなどの視聴覚教材を活用して基礎から学び、イスラームの文化と社会への理解を深めることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション（イスラーム文化の統一性と多様性） 第2回：聖典クルアーンとアラビア語の世界 第3回：預言者ムハンマドと初期イスラームの歴史 第4回：モスクとイスラームの建築文化―構造と意匠、社会的意義 第5回：ハディースとイスラーム法 第6回：五行とイスラーム社会（1）：信仰告白、礼拝 第7回：五行とイスラーム社会（2）：喜捨、断食 第8回：五行とイスラーム社会（3）：巡礼 第9回：イスラームと経済 第10回：ムスリムの信仰と思想―信仰箇条（1）：アッラー、天使 第11回：ムスリムの信仰と思想―信仰箇条（2）：啓典、預言者 第12回：ムスリムの信仰と思想―信仰箇条（3）：来世、予定 第13回：シーア派イスラームの信仰と文化・社会（1）：シーア派の成立、十二イマーム派の思想と信仰 第14回：シーア派イスラームの信仰と文化・社会（2）：十二イマーム派の社会と文化 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 世界史の知識が乏しくても、宗教としてのイスラーム、および文化としてのイスラームに関心を抱き積極的に学ぶ意欲のある者は歓迎する。学習効果を高めるために、指定された参考書に事前に目を通すなど最低限の準備をして授業に臨みたい。なお、本科目の履修を希望する場合は、「イスラーム文化Ⅱ（入門）」も併せて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、事前に配布される資料に目を通し、知らない専門用語等を調べた上で問題意識をもって授業に臨むこと。		
5. 教科書 特に定めない。毎回授業前に Oh-o! Meiji システムを通じてレジュメや資料を配布する。		
6. 参考書 ・小杉泰『イスラームとは何か』（講談社現代新書）1994 年。 ・小杉泰『イスラームを読む：クルアーンと生きるムスリムたち』（大修館書店）2016 年。 ・井筒俊彦『イスラーム文化：その根柢にあるもの』（岩波文庫）1994 年。 ・大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』（岩波書店）2002 年。 ※他は授業内に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レスポンス・シートの全体講評を毎週、期末試験の全体講評を試験終了後に、Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 授業参加状況と授業内に書くレスポンス・シートの内容（40%）及び期末試験（60%）による。		
9. その他 モスク見学会や中東料理食事会、大使館イベント等を行う場合もある。その場合は積極的に参加していただきたい。		

科目ナンバー：(LA)ARS191J		
イスラーム文化Ⅱ（入門）		北原 圭一
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 イスラームは西暦7世紀のアラビア半島に勃興した後、北アフリカから中央アジア、東南アジアに至る極めて広大な文化圏を築き上げるに至った。言うまでもなく、このイスラーム文化圏においても、西洋キリスト教世界などと同様に、時にはそれ以上に、諸学問や文芸・絵画・建築などの文化を豊かに開花させ、独自の知的・精神的活動を展開してきた。 本講では、通常日本では紹介されることが極めて少ない文化として表象されたイスラームを、クルアーン等に関する基礎知識を踏まえたうえで、具体的な作品や事例に即して考察してゆく。 現代イスラーム世界の動向にも細心の注意を払いながら、その背景にあるイスラームの社会的・文化的諸相—思想、言語（アラビア語、ペルシア語）、文学（千夜一夜物語など）、絵画、音楽、建築、映画などを、CD・DVDなどの視聴覚教材を活用しつつ具体的な作品に即して基礎から学び、イスラームの文化と社会への理解を深めることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション（中東イスラーム世界の風土と文化） 第2回：イスラーム庭園の意匠と思想 第3回：スーフィズムとスーフィー教団 第4回：スーフィズムとイスラームの音楽文化 第5回：スーフィズムの思想と言語文化 第6回：イスラームにおける恋愛詩と恋愛論 第7回：『千夜一夜物語』と『トゥーランドット』 第8回：『千夜一夜物語』と中東文化 第9回：『千夜一夜物語』とオリエンタリズム 第10回：イスラーム天文学とオマル・ハイヤーム 第11回：『ルバーイヤート』と中東比較文化史 第12回：『ルバーイヤート』と現代の映像文化 第13回：イスラーム世界と映画 第14回：イスラーム社会とアニメ＆漫画 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 世界史の知識が乏しくても、文化表象としてのイスラームに関心を抱き、積極的に学ぼうとする意欲のある者は歓迎する。学習効果を高めるために、指定された参考書に事前に目を通すなど最低限の準備をして授業に臨みたい。なお、本科目の履修を希望する場合は、「イスラーム文化Ⅰ（入門）」も併せて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、事前に配布される資料に目を通し、知らない専門用語等を調べた上で問題意識をもって授業に臨むこと。		
5. 教科書 特に定めない。毎回授業前に Oh-o! Meiji システムを通じてレジュメや資料を配布する。		
6. 参考書 ・佐藤次高他編『イスラーム世界のことばと文化』（成文堂）2008 年。 ・大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』（岩波書店）2002 年。 ・井筒俊彦『イスラーム文化—その根底にあるもの』（岩波文庫）1991 年。 ・ニコルソン（中村広治郎訳）『イスラムの神秘主義—スーフィズム入門』平凡社ライブラリー、1996 年。 ・前嶋信次（杉田英明編）『千夜一夜物語と中東文化』平凡社東洋文庫、2000 年。 ・オマル・ハイヤーム（岡田恵美子訳）『ルバーイヤート』平凡社ライブラリー、2009 年。 ※他は授業内に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レスpons・シートの全体講評を毎週、期末試験の全体講評を試験終了後に、Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 授業参加状況と授業内に書くレスpons・シートの内容（40%）及び期末試験（60%）による。		
9. その他 モスク見学会や中東料理食事会、大使館イベント等を行う場合もある。その場合は積極的に参加していただきたい。		

科目ナンバー：(LA)ARS391J		
イスラーム文化Ⅲ（現代）		北原 圭一
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 西暦7世紀に誕生したイスラームは、現代においてもその強靱な生命力を失うことなく、宗教・政治・経済・文化など様々な分野で世界に向けてエネルギーを発し続けている。特に米国同時多発テロ事件とその後のアフガニスタン空爆・イラク戦争、さらには「アラブの春」を経て、IS等の過激派と各地で頻発するテロ事件、シリア問題、トルコ内政の不安定化、イランとイスラエル及びアメリカとの関係など、イスラーム諸国の政治・社会状況は目まぐるしく変化している。また、それに伴い、国際社会もこうした問題への対応を迫られていることは周知の通りである。このような中で、私たち日本人もイスラーム世界に関する正しい認識を持たなければならない状況を迎えている。 こうした現状を踏まえ、本講では、イスラームが関連する現代の国際問題とその歴史的背景及び文化のあり方を、イスラーム教徒が多数を占めながら世俗主義を国是としているトルコと、シーア派の十二イマーム派を国教とし「イスラーム共和制」を国家体制としているイランの事例を中心に、DVD や映画等の視聴覚教材を活用して具体的な主題に即して考察してゆく。そして、これらの考察を通して現代イスラーム社会の実像への理解を深めることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション（現代イスラーム世界を知るための序論） 第2回：現代トルコの社会と文化 第3回：現代トルコとイスラーム（1）：歴史的背景としてのオスマン帝国とイスタンブール 第4回：現代トルコとイスラーム（2）：政教分離と民主主義 第5回：現代トルコとイスラーム（3）：スカーフ論争とトルコ女性のファッション 第6回：イスラーム社会とヴェール 第7回：現代トルコ政治とイスラーム運動 第8回：イラン社会の現状 第9回：現代イランの文化 第10回：映画からみるイランの文化と社会 第11回：現代イランの政治体制とイスラーム 第12回：現代イランの政治・外交問題の背景（1）：イランの歴史と歴史意識 第13回：現代イランの政治・外交問題の背景（2）：近代イランと欧米世界 第14回：現代イランの政治・外交問題の背景（3）：イラン革命と現代 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 現代のイスラームをとりまく国際状況とその背景や社会の現状などを積極的に学ぶ意欲のある者は歓迎する。学習効果を高めるために、指定された参考書に事前に目を通すなど最低限の準備をして授業に臨みたい。なお、本科目の履修を希望する場合は、「イスラーム文化Ⅳ（現代）」も併せて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回事前に配布される資料に目を通し、知らない専門用語等を調べた上で問題意識をもって授業に臨むこと。		
5. 教科書 特に定めない。毎回授業前に Oh-o! Meiji システムを通じてレジュメや資料を配布する。		
6. 参考書 ・板垣雄三編『対テロ戦争とイスラーム世界』（岩波新書）2002 年。 ・岡田恵美子・北原圭一他編『イランを知るための 65 章』（明石書店）2004 年。 ・内藤正典『トルコ 中東情勢のカギをにぎる国』（集英社）2016 年。 ・高橋和夫『中東から世界が崩れる―イランの復活、サウジアラビアの変貌』NHK 出版新書、2016 年。 ※他は授業時に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レスポンス・シートの全体講評を毎週、期末レポートの全体講評を提出期間終了後に、Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 授業参加状況と授業内に書くレスポンス・シートの内容（40%）及び期末レポート（60%）による。		
9. その他 モスク見学会や中東料理食事会、大使館イベント等を行う場合もある。その場合は積極的に参加していただきたい。		

科目ナンバー：(LA)ARS391J		
イスラーム文化Ⅳ（現代）		北原 圭一
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 西暦7世紀に誕生したイスラームは、現代においてもその強靱な生命力を失うことなく、宗教・政治・経済・文化など様々な分野で世界に向けてエネルギーを発し続けている。特に米国同時多発テロ事件とその後のアフガニスタン空爆・イラク戦争を経て、「アラブの春」、イラクの混迷とシリア内戦、IS等の過激派の台頭と各地で頻発するテロ事件の発生など、イスラーム諸国の政治・社会状況は目まぐるしく変化している一方で、パレスティナ問題は依然として解決していない。こうした状況の中、国際社会もイスラームが絡むこれら諸問題への対応を迫られている。もはや私たち日本人もイスラーム世界に関する正しい認識を持たなければならない状況を迎えている。 こうした現状を踏まえ、本講では、現代イスラーム社会が抱えている「イスラーム主義過激派」「女性の地位と教育」「情報とメディア」といった諸問題と、それらに関してイスラーム社会内部に見られる様々な言説や現象を、CD・DVD・VHS・映画等の視聴覚教材を活用しつつ、具体的な事例に即して考察してゆく。そして、これらの考察を通して現代の中東の諸問題と国際関係、及びその歴史的背景を整理しながら、現代イスラーム社会の実像への理解を深めることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション（現代イスラーム社会と国際関係ーイスラーム主義過激派の問題） 第2回：イスラーム主義過激派登場の背景とその思想・・・ターリバーンを中心に 第3回：アフガニスタン問題と映画 第4回：エルサレムとイスラーム文化 第5回：パレスチナ問題ー歴史と背景 第6回：音楽からみるパレスチナ問題 第7回：映画からみるパレスチナ問題 第8回：レバノンにおける宗教対立と共存 第9回：レバノン文化・・・音楽と映画を中心に 第10回：サウジアラビア：国際関係とワッハーブ主義 第11回：サウジアラビアの社会と経済 第12回：映画からみるサウジアラビア社会と女性 第13回：イスラーム社会と女性ーベール、女子教育と社会進出 第14回：現代東南アジアのイスラーム社会と教育 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 イスラーム世界の社会と文化の現状とそれを取りまく国際状況、及びその背景などを積極的に学ぶ意欲のある者は歓迎する。学習効果を高めるために、指定された参考書に事前に目を通すなど最低限の準備をして授業に臨みたい。なお、本科目の履修を希望する場合は、「イスラーム文化Ⅲ（現代）」も併せて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回事前に配布される資料に目を通し、知らない専門用語等を調べた上で問題意識をもって授業に臨むこと。		
5. 教科書 特に定めない。毎回授業前にOh-o! Meiji システムを通じてレジュメや資料を配布する。		
6. 参考書 ・高橋和夫『アラブとイスラエル パレスチナ問題の構図』（講談社現代新書）1992年。 ・高橋和夫『中東から世界が崩れる：イランの復活、サウジアラビアの変貌』（NHK出版新書）2016年。 ・保坂修司『サウジアラビア 変わりゆく石油王国』（岩波新書）2005年。 ・国枝昌樹『シリア アサド政権の40年史』（平凡社新書）2012年。 ・黒木英充『シリア・レバノンを知るための64章』（明石書店）2013年。 ※他は授業内に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レスpons・シートの全体講評を毎週、期末レポートの全体講評を提出期間終了後に、Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 授業参加状況と授業内に書くレスpons・シートの内容（40%）及び期末レポート（60%）による。		
9. その他 モスク見学会や中東料理食事会、大使館イベント等を行う場合もある。その場合は積極的に参加していただきたい。		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
日本文化 A I（日本語の世界）		田島 優
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 我々は共通語だけで生活をしているわけではない。実際には、地域による共通語とは異なったことばを日常使用している。共通語と異なることばは、その地域に限定されているものなのか、それとももっと広い地域で使用されているのかを、日本全体から眺めてみる。 今年度は方言の感謝表現を扱っていく。前半では共通語とはかなり異なる奄美・琉球の感謝表現について扱い、後半では日本本土の感謝表現を地方ごとに概観していく。 【到達目標】 感謝表現はアリガトーやスミマセンだけではない。各地方において感謝表現が異なっているが、それは日本の中心地から感謝の発想法が伝播したものであり、日本語のことばの伝播のスタイルを知ることができる。沖縄本島を中心とした奄美諸島・宮古諸島・八重山諸島においても、同様なことが起こっていることが理解できる。 新しいことばが周辺部へと伝播していくことを体感できる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（方言の感謝表現の広がり） 第2回：奄美・琉球の感謝表現（1） 第3回：奄美・琉球の感謝表現（2） 第4回：奄美・琉球の感謝表現（3） 第5回：奄美・琉球の感謝表現（4） 第6回：奄美・琉球の感謝表現（5） 第7回：奄美・琉球についてのまとめ 第8回：北海道・東北地方の感謝表現 第9回：北陸地方の感謝表現 第10回：東海・関東地方の感謝表現 第11回：近畿・中国地方の感謝表現 第12回：四国地方の感謝表現 第13回：九州地方の感謝表現 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 出欠や遅刻の確認は厳密に行う。 試験ではなく、レポートを課す。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 時間があれば、各地方の感謝表現について調べておいてほしい。 【復習】 講義内容を理解できるようにしておくこと。わからないことは質問するように。		
5. 教科書 プリント配布		
6. 参考書 必要があれば、講義の際に説明する。図書館にも参考になる本が多く配架されている。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 後日、Oh-o! Meiji 上に掲示する。		
8. 成績評価の方法 平常点 40%、レポート課題 60%。 平常点は講義への積極的な参加によって評価する。レポート課題は、レポートの約束事が守られているか、また独自性を重視する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
日本文化 A II（日本語の世界）		田島 優
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 今年度は漢文訓読について考える。中世の関東においては、物語を漢文で記す習慣があった。『平家物語』や『曾我物語』の真名本といったものがそのようなものである。『平家物語』の場合は漢字仮名交じり文のものを漢文にしたようであるが、『曾我物語』の場合は漢文（真名本）が最初に作成された。真名本の『曾我物語』は読みづらいものであり、それとは異なる仮名本の『曾我物語』が作成され、それがもっぱら読まれている。 講義では、真名本の『曾我物語』を訓読したものを扱っていく。その訓読本と真名本とを比較して、どのように訓読されているのかを確認していきたい。扱うのは、曾我兄弟が仇討ちをする場面である。 【到達目標】 日本の文章の歴史における漢文の位置づけが確認できる。日本語文を漢文で書くことの意義、並びに漢文を訓読する必要性を知ることができる。現代語の書きことばのスタイルが、特に顕著なのは法律文であるが、漢文訓読文に基づいていることが理解できる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（『曾我物語』について） 第2回：真名本とは 第3回：訓読体『曾我物語』を読む（1） 第4回：訓読体『曾我物語』を読む（2） 第5回：訓読体『曾我物語』を読む（3） 第6回：訓読体『曾我物語』を読む（4） 第7回：訓読体『曾我物語』を読む（5） 第8回：訓読体『曾我物語』を読む（6） 第9回：訓読体『曾我物語』を読む（7） 第10回：訓読体『曾我物語』を読む（8） 第11回：訓読体『曾我物語』を読む（9） 第12回：訓読体『曾我物語』を読む（10） 第13回：訓読体『曾我物語』を読む（11） 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 出欠・遅刻などは厳密にとる。 試験ではなく、レポート課題とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 扱う話を前以て読んで理解しておくように。 【復習】 講義で扱った内容についてプリントを読み把握しておくこと。わからないことがあったら質問するように。		
5. 教科書 プリント配布		
6. 参考書 必要があれば、講義の中で説明する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 後日、Oh-o! Meiji 上に掲示する。		
8. 成績評価の方法 平常点 40%、レポート課題 60%。 平常点は講義への積極的な参加によって評価する。 レポート課題について、レポートの約束事を守っているのか、内容の独自性を重視する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
日本文化B I（日本の歴史と文芸）		神田 正行
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 《日本古代の歴史と文芸 1 聖徳太子の変容》 春学期は、日本古代の人物の中から、聖徳太子を取り上げます。 『日本書紀』や説話・演劇などの文学作品を読み、聖徳太子像の変遷を確認します。 その上で、彼の物語が近世の文芸において、どのように作品化されたかを説明します。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（※必ず出席してください） 第2回：聖徳太子の概略 第3・4回：『日本書紀』の中の太子 第5・6回：十七条憲法を読む 第7～10回：古代・中世に作成された太子伝 第11～13回：文芸の中の太子像 第14回：まとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 予習は特に必要ありません。 古典・古文の苦手な人にも分かりやすいように講義します。 ただし、日本史や日本文化に全く興味・関心のない学生には、履修を勧めません。 出席調査やアンケートを、適宜行います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配布するプリントを熟読して、授業内容を復習してください。		
5. 教科書 教材はプリントして配布します。		
6. 参考書 ・竹田佐知子『信仰の王権聖徳太子 太子像をよみとく（中公新書）』（中央公論新社, 1993） ・山岸凉子『日出処の天子（MF コミックス）』全7冊（KADOKAWA, 2011～12） ・石井公成『聖徳太子 実像と伝説の間』（春秋社, 2016） その他は適宜、授業内で紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートに関する講評を、採点終了後に動画、もしくは資料配付等の方法で行います。		
8. 成績評価の方法 授業態度（30%）、学期末レポート（70%）。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
日本文化BⅡ（日本の歴史と文芸）		神田 正行
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 《日本古代の歴史と文芸2 『妹背山婦女庭訓』 吉野川》 秋学期は、大化の改新に取材した歌舞伎『妹背山婦女庭訓』を取り上げます。 従来の文芸との関わりなどに触れつつ、その概要を確認していきます。 その上で、今日に至るまで「吉野川の間」が繰り返し上演されている理由を探ってみたいと思います。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（※必ず出席してください） 第2回：『妹背山婦女庭訓』の概略 第3～13回：「吉野川」鑑賞（※近世演劇に関する概説を含みます） 第14回：まとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 予習は特に必要ありません。 古典・古文の苦手な人にも分かりやすいように講義します。 ただし、日本史や日本文化に全く興味・関心のない学生には、履修を勧めません。 出席調査やアンケートを、適宜行います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配布するプリントを熟読して、授業の内容を復習してください。		
5. 教科書 教材はプリントして配布します。		
6. 参考書 ・鳥越文蔵ほか校注『浄瑠璃集(新編日本古典文学全集)』（小学館, 2002） ・景山正隆編『妹背山婦女庭訓(歌舞伎オン・ステージ)』（白水社, 1995） その他、適宜授業内で紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートに関する講評を、採点終了後に動画、もしくは資料配付等の方法で行います。		
8. 成績評価の方法 授業態度（30%）、学期末レポート（70%）。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
日本文化C I（日本の漢字文化）		小財 陽平
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、日本でも多くの愛読者を獲得した、司馬遷『史記』のなかから名場面をピックアップし、読解・鑑賞してゆきます。これと併行して、漢文読解の伝統的勉強法である、復文にも取り組みます。 【授業の到達目標】 (1) 中国古典に関する知識・鑑賞力や読解力を養う。 (2) 基本的な漢文訓読の規則を身につけ、漢文特有の表現方法や表記形式に親しむ。		
2. 授業内容 2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：司馬遷・『史記』概説 第3回：西伯と呂尚（1） 第4回：西伯と呂尚（2） 第6回：酒池肉林（1） 第7回：酒池肉林（2） 第8回：武王の蜂起（1） 第9回：武王の蜂起（2） 第10回：褒姒の笑い（1） 第11回：褒姒の笑い（2） 第12回：柯の会盟（1） 第13回：柯の会盟（2） 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「I・II」を併せて履修したほうが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 わからない言葉を辞書等で調べてくる。 【復習すべき内容】 疑問点を整理して、自分で調べたり、教員に質問したりする。		
5. 教科書 特に定めない。教員が資料を用意します。		
6. 参考書 特に定めない。教員が資料を配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 次の講義時、もしくは Oh-o! Meiji システムを通じてフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 平常点（積極性・授業貢献度など）：50 パーセント 意見文：50 パーセント 意見文とは、授業で読解した範囲のうち、特に印象に残った箇所について、1200 文字程度で自分の考えをまとめるという課題です。 試験は行いません。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
日本文化CⅡ（日本の漢字文化）		小財 陽平
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、日本でも多くの愛読者を獲得した、司馬遷『史記』のなかから名場面をピックアップし、読解・鑑賞してゆきます。 これと併行して、漢文読解の伝統的勉強法である、復文にも取り組みます。 【授業の到達目標】 (1) 中国古典に関する知識・鑑賞力や読解力を養う。 (2) 基本的な漢文訓読の規則を身につけ、漢文特有の表現方法や表記形式に親しむ。		
2. 授業内容 2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：司馬遷・『史記』概説 第3回：驪姫、晋を乱す（1） 第4回：驪姫、晋を乱す（2） 第6回：趙氏の孤児（1） 第7回：趙氏の孤児（2） 第8回：孔子と老子（1） 第9回：孔子と老子（2） 第10回：呉王僚の暗殺（1） 第11回：呉王僚の暗殺（2） 第12回：孫武、呉王の寵姫を斬る（1） 第13回：孫武、呉王の寵姫を斬る（2） 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「I・II」を併せて履修したほうが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 わからない言葉を辞書等で調べてくる。 【復習すべき内容】 疑問点を整理して、自分で調べたり、教員に質問したりする。		
5. 教科書 特に定めない。教員が資料を用意します。		
6. 参考書 特に定めない。教員が資料を配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 次の講義時、もしくは Oh-o! Meiji システムを通じてフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 平常点（積極性・授業貢献度など）：50 パーセント 意見文：50 パーセント 意見文とは、授業で読解した範囲のうち、特に印象に残った箇所について、1200 文字程度で自分の考えをまとめるという課題です。 試験は行いません。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
日本文化ⅡⅠ（日本の神話と文化）		伊藤 剣
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 神話には人々の思想や社会の価値観が反映される場合が多い。そのため、文化を論じるにあたり、神話がしばしば注目される。この授業では、『古事記』の神話を中心にとりあげ、関連神社や神事も紹介することで、日本文化の一端に触れてもらう。さらに、歴史学や民俗学、比較神話学など隣接諸分野にも接することで、文化や思想のありかたを考えるための多様な視点を養ってもらう。 また、神話は社会の在り方を規定する力を持っていたとされている。受講生には法思想的な観点からも神話を分析し、日本文化について考えてもらいたい。		
2. 授業内容 第1回：講義の概要説明：『古事記』の成立事情とその「神話」の特徴 第2回：天地の始まり 第3回：イザナキ・イザナミの国作り 第4回：黄泉国訪問 第5回：アマテラスとスサノヲの「誕生」 第6回：天石屋 第7回：穀物などの起源・ヤマタノヲロチ 第8回：イナバノシロウサギ・オホナムチの試練 第9回：大国主神の国作り 第10回：大国主神のいわゆる国譲り 第11回：天孫降臨 第12回：ニニギの婚姻と子の誕生 第13回：海宮訪問と初代天皇の誕生 第14回：a：まとめ，b：試験 ＊現在の習俗や文化との共通性に触れつつ話をする予定である。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 出席状況は自分で管理すること。また、受講態度にも注意すること。 日本文化ⅡⅠ・同Ⅱは別の授業だが、Ⅰの知識を前提にⅡを行う予定である。このような授業の性質上、Ⅰ・Ⅱを併せて受講するのが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習】 次回の授業で扱う予定の範囲について、教材を読み込んで概要を把握しておくこと。 【事後学習】 授業後に教材・ノートによって復習するとともに、扱ったテーマについて自身で考察し、次回授業に向けた予習につなげること。		
5. 教科書 倉野憲司校注『古事記』（岩波文庫）と教員が用意した教材とを併用する。		
6. 参考書 授業内容に応じて適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて Oh-o!Meiji を利用する予定である。		
8. 成績評価の方法 試験60%、平常点（出席や授業への参加姿勢など）40%を基本とし、総合的に判断して評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS111J		
日本文化ⅡⅡ（日本の神話と文化）		伊藤 剣
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 神話には人々の思想や社会の価値観が反映される場合が多い。そのため、文化を論じるにあたり、神話がしばしば注目される。 日本の古代神話は、様々な形で後世に受け継がれていった。たとえば、神社の縁起は『古事記』や『日本書紀』の神話との関係が問題にされる場合があり、近代日本では国家の在り方と神話が密接に結びついていた。 この授業では、日本の近代・現代社会における古代神話の受容状況について確認し、神話が求められる理由を考察する。この過程を通し、文化や思想のありかたを考えるための多様な視点を養ってもらう。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：ヤマタノヲロチ退治に関わる神社の言説 第3回：地形・風土と神話（1）：海の神話と文化 第4回：地形・風土と神話（2）：湿地帯開発をめぐる神話と文化 第5回：日本の収穫祭 第6回：観光資源としての古代神話 第7回：『帝國憲法皇室典範義解』と神話（1）：『帝國憲法皇室典範義解』の内容 第8回：『帝國憲法皇室典範義解』と神話（2）：『帝國憲法皇室典範義解』と神話との比較 第9回：占領期の神話と教育 第10回：神話と御利益の「矛盾」 第11回：12 月末の神社と古代文学 第12回：神社で新たに創られた「伝統」 第13回：日本文化の日本とは何か 第14回：a：まとめ、b：試験 ＊現在の習俗や文化との共通性に触れつつ話をする予定である。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 出席状況は自分で管理すること。また、受講態度にも注意すること。 日本文化ⅡⅠ・ⅡⅡは別の授業だが、Ⅰの知識を前提にⅡを行う予定である。このような授業の性質上、Ⅰ・Ⅱを併せて受講するのが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習】 次回の授業で扱う予定の範囲について、教材を読み込んで概要を把握しておくこと。 【事後学習】 授業後に教材・ノートによって復習するとともに、扱ったテーマについて自身で考察し、次回授業に向けた予習につなげること。		
5. 教科書 倉野憲司校注『古事記』（岩波文庫）と教員が用意した教材とを併用する。		
6. 参考書 授業内容に応じて適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて Oh-o!Meiji を利用する予定である。		
8. 成績評価の方法 試験 60%、平常点（出席や授業への参加姿勢など）40%を基本とし、総合的に判断して評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS366J		
比較文化B I（思想）〔M〕		岩野 卓司
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 現代では人と社会の関係が希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速しているし、スマホや SNS というコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものにしていく。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていきたい。 今年度のテーマは「借り」である。「借りること」は私たちの日常では当たり前の現象である。私たちは図書館で本を借りたり、友達からノートを借りたり、人からお金を借りたりする。そして、その場合必ず「返す」ことが前提になっている。未開社会の贈与交換も貸し借りであるし、商業的な交換も貸し借りの論理を前提にしている。現代の資本主義も、企業が銀行から資金を借りることで成立している。その上、「借り」は精神的な価値を伴う。「貸し手」は「借り手」に対して精神的に優位になるし、返せない場合は「借り手」は罪悪感を覚える。負債と貸し手は密接な関係にあるのだ。授業では、この「借り」を主に贈与や交換との関係から考えていく。講義では次の5つのテーマを検討していく。(1) 負債（借金）というかたちで、「借り」がどのように資本主義の原動力となっているか。(2) 負債と貸し手というかたちでの「借り」がもつ物質的な価値と精神的な価値が「贈与交換」や道徳にどのような影響を与えているのか。(3) 人間は生まれながらにして根源的な「借り」を背負っているのではないのか。「原罪」はどうだろうか。母との関係はどうだろうか。(4) 臓器移植のように相手に「お礼」ができないときに背負う「借り」は、どう解消すべきなのか。「返す」ことのできない「借り」はどう考えるべきか。(5) 人から受けた恩は返すものではなく、他の人に「送る」べきではないのか。「借り」は贈与との連鎖を生み出すのではないのか。 授業では、これらのテーマを通して、借りと共同体についての理解を深めることを目標にする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：共同体における借りと贈与 第2回：マルセル・モースの贈与交換と借り（1） 第3回：マルセル・モースの贈与交換と借り（2） 第4回：キリスト教、ユダヤ人、資本主義 第5回：『ヴェニスの商人』：資本主義の交換 VS 贈与（慈悲、友情）（1） 第6回：『ヴェニスの商人』：資本主義の交換 VS 贈与（慈悲、友情）（2） 第7回：宮部みゆき『火車』：借金地獄（1） 第8回：宮部みゆき『火車』：借金地獄（2） 第9回：根源的な借り：母と子 第10回：返せない贈与：臓器移植 第11回：贈与の連鎖：「返す」のではなく、「送る」こと 第12回：贈与が贈与を呼ぶ：カルマ・キッチン 第13回：クルミド・コーヒー店の冒険 第14回：復習と試験（対面） * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業は基本的にオンライン（オンデマンド形式）で行う。 但し、テストは対面で行う。 受講者には外国語の能力は求めない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で教えた内容については、テストまでに教科書や参考文献などで調べておくこと。		
5. 教科書 岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』（青土社） 同、『贈与をめぐる冒険』（ヘウレーカ）		
6. 参考書 クロード・レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』（青弓社） マルセル・モース『贈与論』（岩波文庫） デヴィッド・グレーバー『負債論』（以文社） ナタリー・サルトル＝ラジュ『借りの哲学』（太田出版） フリードリッヒ・ニーチェ『道徳の系譜』（岩波文庫） ジークムント・フロイト『著作集』（人文書院） マルティン・ハイデッガー『存在と時間』（岩波文庫） 宮部みゆき『火車』（新潮文庫） ウィリアム・シェイクスピア『ヴェニスの商人』（新潮社） マウリツィオ・ラッツァラート『〈借金人間〉製造工場』（作品社） 平川克美『株式会社の世界史』（東洋経済新報） 山崎吾郎『臓器移植の人類学』（世界思想社） 三好春樹・芹沢俊介『老人介護とエロス』（雲母書房） 芹沢俊介『現代〈子ども〉暴力論』（春秋社） 小島庸平『サラ金の歴史』（中公新書） 今村仁司『貨幣とは何だろうか』（ちくま新書） 吉本隆明『母型論』（思潮社） 影山知明『ゆっくり、いそげ』（大和書房） 岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』（書肆心水）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内容についての質問は常時うけつける。0h0h 明治を通してもいいし、メールを通してでもいい。 理解度をみる第1回目のテストの結果については、その次の授業で講評をする。		
8. 成績評価の方法 テストの結果。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS366J		
比較文化Ⅱ（思想）〔M〕		岩野 卓司
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 現代では人と社会の関係が希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速しているし、スマホや SNS というコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものになっている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていきたい。 今日、資本主義の発展は多くの問題をもたらしている。一握りの金持ちが世界の富の大半を握っていると同時に、派遣労働者や失業者の数の増大が社会問題と化している。また、家族の制度が崩壊しつつある今日、無縁社会が問題になっているが、資本主義はそれを加速させている。そういう訳だから、今日、共同体や人間の共同性について考えていく必要があるのではないのか。授業では、この共同性を贈与との関係から考えていく。まず資本主義の功罪を簡単に説明したあと、講義ではポスト資本主義における贈与の重要性を次の2つのテーマから検討していく。 （１）社会保障：『贈与論』の著者である人類学者マルセル・モースは、社会保障の制度を贈与交換の理論で根拠づけようとしてきた。古代人の贈与の知恵は、現代の資本主義に抵抗するために有効な考え方なのではないだろうか。将来導入が議論されているベーシック・インカムや脱成長の思想も、贈与の考え方をベースにして考えることができるのだ。 （２）臓器移植と再生医療：現代医学の重要な一角を占めている臓器移植は、贈与として法制化されている。臓器売買を防ぐために、臓器のレシピエントはドナーに対して謝礼をしてはいけない。この点で臓器移植は商業的交換の論理に収まらない。しかし、この贈与は同時にカニバリズムとも見なされたりしている。臓器移植というかたちで他人の肉体の一部を延命のために我有化することで、人肉食と同じことをやっているからである。他者の臓器の贈与とカニバリズムの関係を考えてみる。 授業では、これらのテーマを通して、贈与と共同体についての理解を深め、ポスト資本主義社会における贈与の役割を模索することを目標にする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：共同体とは何か？ 贈与とは何か？ 第2回：資本主義と何か？ 第3回：資本主義とは何か？（２） 第4回：資本主義とは何か？（３） 第5回：モース『贈与論』（１） 第6回：モース『贈与論』（２） 第7回：社会保障制度 第8回：ベーシック・インカム 第9回：脱成長 第10回：臓器移植 第11回：臓器移植とカニバリズム 第12回：臓器移植と他者 第13回：アフリカの段階と再生医療 第14回：復習と試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業は基本的にオンライン（オンデマンド形式）で行う。 但し、テストは対面で行う。 受講者には外国語の能力は求めない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で講義した内容については、教科書や参考文献を使って調べておくこと。		
5. 教科書 古典的なテキストについては、そのつどプリントして配布する。 それから、岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』（青土社）、『贈与をめぐる冒険』（ヘウレーカ）を参照する予定である。		
6. 参考書 モリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』（ちくま文庫） ジャン＝リュック・ナンシー『無為の共同体』（以文社） 岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』（書肆心水） NHK スペシャル取材班『無縁社会』（文春文庫） 斉藤幸平『人新世の資本論』（集英社新書） マルセル・モース『贈与論』（岩波文庫） デヴィッド・グレーバー『負債論』（以文社） セルジュ・ラトゥーシュ『脱成長』（白水社） アラン・カイエ『功利的理性批判』（以文社） 原田泰『ベーシック・インカム』（中公新書） レヴィ＝ストロース『われらみな食人種（カニバル）』（創元社） 山崎吾郎『臓器移植の人類学』（世界思想社） 中沢新一『カイエ・ソバージュ』（講談社） クロボトキン『相互扶助論』（同時代社） 岩野卓司編『野生の教養』（法政大学出版会） 吉本隆明『アフリカの段階について』（試行社） 櫛島次郎・出河雅彦『移植治療』（岩波新書） 京都大学 iPS 研究所上廣倫理研究部門編/山中伸弥監修『科学知と人文知の接点』（弘文堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内容についての質問は常時受け付ける。OhOh 明治を使ってもいいし、メールを通してでもかまわない。 理解度をみる第1回目のテストについては、その次の授業で講評をする。		
8. 成績評価の方法 テストによる評価。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS131E		
異文化理解 I		矢ヶ崎 淳子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 We know there are various cultures in the world, but usually we do not realize that we are unconsciously bounded by our own culture(s). In order to recognize our own culture(s), we need to realize the existence of other culture(s) and compare them. That is the reason why you should go out of Japan at least once in your lifetime to find out how things really are in different culture(s). We can gain a deeper understanding of things by comparison. In this class we will try to understand mainly American culture(s) through films and novels. By doing so, we would also be able to deepen our understanding of Japanese culture and mentality. You will be asked to watch some movies at home or at Izumi Media Library and read some English materials/novels and think of those themes by summarizing them. Hopefully, English will be used in the classroom and students are encouraged to use English as much as possible. Students are expected to think deeply and form their own opinions and present them in class. Some people might be worried about their English language skills. Don't worry about that! If you have a strong will to communicate with others in English, you would definitely be able to survive in this class. Have confidence in yourself! All you need to do is to draw on what you have learned so far and try hard. The aim of this class is to encourage students to think deeply about "culture(s)," to form their own opinions and to speak out in English.		
2. 授業内容 Week 1: Introduction Week 2: Getting to know each other 1 - self-introduction Week 3: Getting to know each other 2 - hometown Week 4~5: Analyzing movie 1 - presentation Week 6~7: Analyzing movie 2 - presentation Week 8: Exchange ideas Week 9~10: Reading English materials 1 - presentation Week 11~12: Reading English materials 2 - presentation Week 13: Exchange ideas Week 14: Review Contents and schedule are subject to change.		
3. 履修上の注意 Regular attendance and active participation in classroom activities are required. Students who are absent more than four times will not obtain credits. Contents and schedule are subject to change.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will watch a movie or read an English material at home before attending the class. You will also be asked to hand in some assignment papers.		
5. 教科書 There are no textbooks. Handouts will be provided if necessary.		
6. 参考書 Suggested in classroom if necessary.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback to assignments will be given in classroom when each student presents the content of his/her assignment.		
8. 成績評価の方法 The final grade will be decided in a comprehensive way based on an overall contribution to the classroom activities (small group discussions and presentations) (50%) and assignment papers and/or final term paper (50%).		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ARS131E		
異文化理解Ⅱ		矢ヶ崎 淳子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 We know there are various cultures in the world, but usually we do not realize that we are unconsciously bounded by our own culture(s). In order to recognize our own culture(s), we need to realize the existence of other culture(s) and compare them. That is the reason why you should go out of Japan at least once in your lifetime to find out how things really are in different culture(s). We can gain a deeper understanding of things by comparison. In this class we will try to understand mainly American culture(s) through films and novels. By doing so, we would also be able to deepen our understanding of Japanese culture and mentality. You will be asked to watch some movies at home or at Izumi Media Library and read some English materials/novels and think of those themes by summarizing them. Hopefully, English will be used in the classroom and students are encouraged to use English as much as possible. Students are expected to think deeply and form their own opinions and present them in class. Some people might be worried about their English language skills. Don't worry about that! If you have a strong will to communicate with others in English, you would definitely be able to survive in this class. Have confidence in yourself! All you need to do is to draw on what you have learned so far and try hard. The aim of this class is to encourage students to think deeply about "culture(s)," to form their own opinions and to speak out in English.		
2. 授業内容 Week 1: Introduction Week 2: Getting to know each other - self-introduction Week 3: Getting to know each other - what you did during the summer Week 4~5: Analyzing movie 1 - presentation Week 6~7: Analyzing movie 2 - presentation Week 8: Exchange ideas Week 9~10: Reading English materials 1 - presentation Week 11~12: Reading English materials 2 - presentation Week 13: Exchange ideas Week 14: Review Contents and schedule are subject to change.		
3. 履修上の注意 Regular attendance and active participation in classroom activities are required. Students who are absent more than four times will not obtain credits. Contents and schedule are subject to change.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will watch a movie or read an English material at home before attending the class. You will also be asked to hand in some assignment papers.		
5. 教科書 There are no textbooks. Handouts will be provided if necessary.		
6. 参考書 Suggested in classroom if necessary.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback to assignments will be given in classroom when each student presents the content of his/her assignment.		
8. 成績評価の方法 The final grade will be decided in a comprehensive way based on an overall contribution to the classroom activities (small group discussions and presentations) (50%) and assignment papers and/or final term paper (50%).		
9. その他		

3 外国語科目群

English A・B・C（概要）		
各 1 単位	和泉または駿河台キャンパス	春または秋学期
1. 授業の概要・到達目標 法学部では、科目名として、English という言語本来の名称を使用しています。English は、インターネットの普及という現実に伴い世界の共通語となり、その重要性はますます高まっています。English を理解し、運用する能力を高める事が、将来、どの方面に進むことになっても有益なことになるでしょう。この教科においては、ただ単に English を学ぶのではなく、それを使って情報を得たり、自らの考えや情報を発信したりすることを最終的な目標としています。そのため、言語の背後にある異文化を理解し、学ぶという事も English の学習の一部と考えています。また、English を通して、外からの相対的な視点で日本文化・社会を眺めることにより、自国をより深く理解するということも可能になります。Reading では、English を日本語に置き換えて理解するのではなく、English を English として理解できるようにしていくことを、到達目標としています。 上記目的を達成するために、まず English A・B・C の 3 科目を毎年学年毎に編成されるクラス単位で設置される科目として開講しています。English A・B は 1 年次、English C は 2 年次を対象とするものです。 さらに、English Seminar A・B、Presentation A・B、Media English A・B、Writing A・B、Advanced Reading（駿河台キャンパスのみで開講）という選択科目を設けています。これらの科目については基本的に A は 1・2 年次（和泉キャンパス）で開講される科目であり、B は 3・4 年次（駿河台キャンパス）で開講される科目です。一部科目は抽選などで人数制限をする場合もあります。		
2. 授業内容 English A (Communicative English) Communicative English を主な内容とする English A は、和泉キャンパスで開講される 1 年次の学生を対象としたクラス単位の授業で、English の運用能力を読む・聞く・書く・話すという 4 つの領域に分けた場合、特に、聞く・話すという分野を強化する目的をもったクラスです。外国語を理解するにあたって、日本語で意味を置き換えるというこれまでの学習の仕方から、より平易な English で理解しようと試みるという学習の仕方へと、新しい挑戦をしていきます。各クラスで使用されるテキストなどは担当者により異なります。 English B・C (Reading) Reading を主な内容とする English B・C はいずれも和泉キャンパスでのクラス単位の授業ですが、B は 1 年次、C は 2 年次の学生を対象としています。これらの二つのクラスで 2 年間一貫して English を読み、文章の構造（骨組み）や語彙等の知識を増強して、内容をそのまま「理解する」ことに重点を置き学習します。文章のつながりを考えて文脈を追うことで内容を把握し、深く理解する練習を積む事により、論理的な思考を磨く事ができます。この能力は、English の学習だけではなく、法学部で学ぶみなさんにとって、他の教科においても非常に役立つものになるでしょう。 簡単な文章をたくさん読む「多読」と、難しい文章を、じっくり時間をかけて読む「精読」の 2 種の Reading は、いずれも読解力を高めるために必要であり重要です。これらのクラスでは、できるだけ多くの English に触れ、異文化を知り、理解していくことも大切な目的としています。各クラスで使用されるテキストなどは担当者により異なります。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 各担当者のシラバスを参照してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当者のシラバスを参照してください。		
5. 教科書 各担当者のシラバスを参照してください。		
6. 参考書 各担当者のシラバスを参照してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各担当者のシラバスを参照してください。		
8. 成績評価の方法 各担当者のシラバスを参照してください。		
9. その他 授業内容・成績評価方法等は、担当教員により異なる場合があります。 各クラスのシラバスについては、『Oh-o! Meiji』のクラスウェブを参照してください。		

ドイツ語（概要）		
各 1 単位	和泉または駿河台キャンパス	春または秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 ドイツ語の奥深く豊かな世界へようこそ！ドイツ語は、ドイツ、オーストリア、スイスなど中央ヨーロッパ諸国の公用語です。また、隣接する地域においてもドイツ語を母語とする人々が多く、ヨーロッパ随一の使用人口を誇っています。 ドイツ語は「難しい言語」というイメージを持たれがちですが、実はそうではありません。むしろ、日本人にとって習得しやすい言語であると言えます。まず、発音は規則的でローマ字読みに近いので、日本人にとってわかりやすく、また、文法構造や単語も英語との共通点が多いため、これまでの英語学習をドイツ語習得に活かすことができます。これから一緒にドイツ語を楽しく学んでいきましょう！ 1 年次（初級ドイツ語）では、ドイツ語学習の基礎となる文法を学ぶとともに、日常生活に必要な語彙を習得し、簡単な会話や短い文章の読み書きができるようになることを目指します。 2 年次（中級ドイツ語）では、1 年次で学んだ基礎文法を完成させるとともに、辞書を用いて平易なドイツ語テキストを読解できる能力を養成します。また、会話、ドイツ語圏文化、資格試験などのテーマに即した授業も用意されており、各自の求める学びに応じて、ドイツ語力を向上させることができます。 3・4 年次（上級ドイツ語）では、意欲のある学習者のために、さらに高度な内容を学習することができます。これを通じて実力を養い、専門科目の学習への橋渡しを行います。 【到達目標】 1 年次（初級ドイツ語）では、基礎文法を定着させ、「読む」「聞く」「話す」「書く」の四技能の基本を習得することを目標とします。 2 年次（中級ドイツ語）では、1 年次に学んだ文法を確実なものにするとともに、ドイツ語テキストの読解能力や、より進んだコミュニケーション能力を習得することを目標とします。 3・4 年次（上級ドイツ語）では、専門的な内容を含む高度な文章の読み書き能力やコミュニケーション能力を伸ばしていきます。		
2. 授業内容 1 年次の初級では、A「文法」とB「講読」の週 2 回の授業があります。「文法」では基礎文法を体系的に学習し、「講読」では、文法学習を踏まえて「読む」「聞く」「話す」「書く」の四技能を総合的に学びます。 2 年次の中級では、1 年次で学習した文法を完成させるとともに、ドイツ語テキストを読解する能力を中心として、ドイツ語力を養成していきます。この他に、「実践ドイツ語 A」、「ドイツ語ゼミナール A」、「資格ドイツ語 A」など、会話、ドイツ語圏文化、資格試験などの様々なテーマに特化した授業があります。 3・4 年次には、さらにドイツ語能力を高めたい人のために上級クラスの授業や「時事ドイツ語 B」「資格ドイツ語 B」などを用意しています。 ※授業の内容は、担当教員によって異なるので、詳細は各クラスのシラバスを確認してください。		
3. 履修上の注意 担当教員によって異なりますので、各クラスのシラバスを確認してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 言語学習は「習うより慣れよ」が基本です。毎週の予習・復習を継続的にしっかり行うことが、ドイツ語上達の近道となります。 予習：毎回の授業で学習する文法事項や単語を確認しておきましょう。テキストの音声を聞いて、発音に慣れておきましょう。わからない点は授業で質問できるようにメモしておきましょう。 復習：その日に学んだ文法事項を確認し、新出単語や授業で習った例文を音読して、頭の中に定着させましょう。宿題は必ず行い、わからない点は次の授業で質問しましょう。		
5. 教科書 担当教員によって異なりますので、各クラスのシラバスを確認してください。		
6. 参考書 担当教員によって異なりますので、各クラスのシラバスを確認してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当教員によって異なりますので、各クラスのシラバスを確認してください。		
8. 成績評価の方法 担当教員によって異なりますので、各クラスのシラバスを確認してください。		
9. その他 担当教員によって異なりますので、各クラスのシラバスを確認してください。		

フランス語（概要）		
各 1 単位	和泉または駿河台キャンパス	春または秋学期
1. 授業の概要・到達目標 フランス語は、フランス一国のみならず、ヨーロッパ、アフリカ、北米などでも使用されているグローバルな言語である。また、フランス民法を学ぶ法学者が明治法律学校を創立し、これが明治大学の前身となった経緯を考えると、本学の法学部にとっては、とりわけ縁の深い言語である。しかも、フランスはルソーやヴォルテールなど、数多くの法思想家を輩出した国である。人権宣言も、フランスで生まれた。 法学部におけるフランス語教育は、以上のことを考慮し、法律の勉強との関連を念頭においたうえで、おこなわれている。そのうえ、就職も視野にいれ、資格の取得や実践能力を深めることにも力を注いでいる。授業は語学の習得だけにとどまるのではなく、教室は、文学や哲学、政治や経済から映画、ファッション、スポーツ、料理にいたるまで、さまざまな領域への窓を開いてくれる場になるだろう。		
2. 授業内容 〈初級フランス語 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ〉 1 年次では、初級文法（AⅠ・AⅡ）と初級講読（BⅠ・BⅡ）にわけて、2 人の教員が、それぞれひとつを担当する。単位はおのおのが 2 単位となる。いずれも、フランス語の基礎を学び、平易なフランス語が読めるようになることを目的とする。文法は必修、講読は選択必修。 〈中級フランス語 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ〉 2 年次の 4 単位は、主に文学作品や、フランスの歴史、時事問題を読むことによって、フランス語のみならず、ヨーロッパに親しむことを目的とする。ともに選択必修科目。この 2 科目のうちのひとつを下記の 4 つの科目のうちのひとつに置き換えることができる。 1. 〈時事フランス語 AⅠ・Ⅱ〉 テレビ、ラジオ、新聞、インターネットのニュースを題材にして、アクチュアルなフランス語やフランス文化に接する授業。 2. 〈フランス語ゼミナール AⅠ・Ⅱ〉 少人数にしぼったクラスで、ネイティブの先生による実践的かつオール・ラウンドな授業。 3. 〈資格フランス語 AⅠ・Ⅱ〉 仏検および DELF、DALF などの資格取得に対応した授業。 この 4 つの科目は、中級フランス語 A と B を履修しながら、自由選択科目として履修することもできる。資格試験の受験に際しては、法学部からの補助金も用意されている。 なお、3・4 年生のためには、駿河台キャンパスで〈上級フランス語Ⅰ・Ⅱ〉、〈時事フランス語 BⅠ・Ⅱ〉、が選択科目として用意されている。シラバスでの説明を参照すること。 〈特別フランス語〉 英語でなく、フランス語で入学試験を受けた学生のために、学部間共通の科目として開設される。 参考（共通外国語：フランス語） フランス人講師によるフランス語会話の講座がある。詳細は「学部間共通外国語シラバス」を読むこと。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 担当教員によって異なるが、教室では積極的に参加し、予習・復習をすることは共通して重要。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習や復習の内容は、科目ごとに異なるので、担当教員の指示に従うこと。		
5. 教科書 第 1 回目の授業で担当教員が指示する。		
6. 参考書 第 1 回目の授業で担当教員が指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 第 1 回目の授業で担当教員が指示する。		
8. 成績評価の方法 第 1 回目の授業で担当教員が指示する。		
9. その他 授業内容・成績評価方法等は、担当教員により異なる場合があります。 各クラスのシラバスについては、『Oh-o! Meiji』のクラスウェブを参照してください。		

中国語（概要）		
各 1 単位	和泉または駿河台キャンパス	春または秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の到達目標及びテーマ≫ 日本と中国は海を隔てた隣国であり、両国のあいだには二千年に及ぶ友好往来の歴史がある。日中国交正常化以来、各分野における両国の交流はいつそう盛んになり、経済の面だけを見ても、中国はすでにアメリカをしのご、日本にとっての最大の貿易相手国になっている。全世界の、母語として使われる言語のうち、もっとも使用人口が多いのは中国語である。中国大陸の 14 億人に加え、台湾の 2、000 万人余、香港、マカオの 600 万人余も中国語を母語としている。さらに華僑華人の人口を加えると、中国大陸以外だけでもフランス、イギリス、イタリアに匹敵する人口が中国語を使用している。中国語を覚えれば、世界の五人中の一人と言葉を交わすことができる。言語人口が多だけでなく、世界における中国語の実用性も比較的高い。華僑華人は世界各地でビジネスを営んでおり、とりわけ、東南アジアのビジネス界では中国語はかなり役立つと言われている。日中間に目を転じると、今後、日中間の実務関係はいつそう深まるであろう。それに伴い、中国語のできる法曹や、法学知識を持ち、中国語のできる人材に対するニーズはますます高まると予想されている。実際、就職の面接のとき、中国語ができるかどうか聞かれることが多くなっている。中国語を習得すれば、専門の勉強にとって役立つのみならず、人生の将来にとっても選択肢が増えることになるであろう。本学部の中国語カリキュラムはそのような中国語を身につけるために設計されたものである。		
≪授業の概要≫ (一)「初級中国語 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ」 中国語を習ったことのない学習者を対象とする初級クラスである。中国語の発音は「ピンイン」という中国式ローマ字によって表記される。入門の段階ではまずこのローマ字の表記法と発音を勉強する。子音、母音、音節の仕組みや四声など、発音に関する必要な知識を勉強しながら、正しい発音を身につけるための基礎的な練習を行う。中国語の音素は日本語より多く、また「巻舌音」のような、日本語にない音もある。初心者にとって難しいので、練習量は比較的多い。発音の段階が終わったら、簡単な日常会話の勉強に入る。入門の段階が終わってから、中国語を理解するのに必要な文法、文型や慣用句および簡単な口語表現を習う。一年間の勉強を通して、基本的な語句を覚え、基礎的な文法知識を習得し、初歩的な会話ができるようにしたい。 (二)「中級中国語 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ」 「初級中国語 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ」を修了した者を対象とする中級中国語のクラスである。この授業では初級中国語で習った語彙、文型や慣用句、基礎的な文法知識を復習し、その上で一般的な文章を読むのに必要な文法や言語構造を習う。また、聞く、話す能力を高めるために、初級で習った内容をベースに、日常会話の能力を高める。一年間の勉強を通して、辞書を使って中級水準の文章を理解し、基本的な会話ができるようにしたい。		
上記のほかにも、学生のニーズに応じるため、上級中国語クラス(駿河台で、高度な内容の中国語の学習を希望する一部の学生向けのクラス)、再履修者用クラス(期末テストで合格点を取れなかった学生のための再チャレンジ用のクラス)、スポーツ入学者用クラス、など各種の特設クラスを設けている。		
2. 授業内容 各クラスのシラバスを参照してください。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「初級中国語 AⅠ」と「初級中国語 AⅡ」は同じ授業の、それぞれ春学期と秋学期である。担当する教員も春学期と秋学期は同じで、成績評価は半期ごとに行われる。「初級中国語 BⅠ」と「初級中国語 BⅡ」、「中級中国語 AⅠ」と「中級中国語 AⅡ」、「中級中国語 BⅠ」と「中級中国語 BⅡ」も同じである。なお、「初級中国語 AⅠ・AⅡ」と「初級中国語 BⅠ・BⅡ」とは補完関係にあるが、担当教員が違うので、講義内容、授業の進め方や成績評価は別々に行われる。「中級中国語 AⅠ・AⅡ」と「中級中国語 BⅠ・BⅡ」の場合も同じである。担当教員によって異なるが、教室では積極的に参加し、予習・復習をすることは共通して重要である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の内容に沿って毎回の予習・復習をしておくこと。		
5. 教科書 各担当者が開講時に指示する。		
6. 参考書 第 1 回目の授業で担当教員が指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 対面授業であるので、課題に対して対面で対応できるところはできるだけ対面対応する。また、 <u>Oh-o! Meiji システム</u> も適宜活用するなどしてフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 平常点およびテストの成績などで総合的に判断する。		
9. その他 授業内容・成績評価方法等は、担当教員により異なる場合があります。 各クラスのシラバスについては、『Oh-o! Meiji』のクラスウェブを参照してください。		

スペイン語（概要）		
各 1 単位	和泉または駿河台キャンパス	春または秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の概要≫ スペイン語という将来の 職業生活への投資 となる言葉を得るとともに、スペイン語圏の文化や社会を知る入り口に立ち、真にグローバルな視座を獲得するための一助とする。 ≪授業テーマと到達目標≫ 1 年次初級：初めてスペイン語を学ぶ人を対象に、1 年後にある程度のコミュニケーションが取れ、スペイン語圏をどうにかスペイン語を使って旅することが可能なレベルに達することを目指します。具体的には、現在時制と基礎的な過去時制の表現を学びます。 2 年次中級：ひと通りの基礎文法を学び終え、就職等の面接において「私は第 2 外国語としてスペイン語を修得しました」と公言できるレベルに至ることを目指します。具体的には、1 級から 6 級までの 6 段階に分けられた「西検」（スペイン語技能検定）を例に取るなら、1 年次秋学期（10 月末）で 6 級、2 年次春学期（6 月末）で 5 級、秋学期（10 月末）で 4 級を取得することを目指します。 必修の 2 年間を終えた時点で、DELE（外国人としてのスペイン語検定試験・スペイン文部省認定証）のレベル A2、さらに半年ほど努力すれば、スペイン語圏の大学との協定留学への応募要件となる B1 を目指すことも可能です。		
2. 授業内容 【初級スペイン語 A・B I・II】（1 年次） 初心者を対象に、文字と発音を学ぶところから始め、初歩的な文法・語彙を習得し実践することを目指します。 A：「話す力」と「聞いて理解する力」を重点的に育成するための、ネイティブ・スピーカーが担当するクラスです。 B：「文法」理解とその定着（現在と過去時制）を目指す、日本人講師が担当するクラスです。 コミュニケーションの 4 技能（話す、聞く、読む、書く）をバランスよく訓練するために、A と B の両クラスを履修する必要があります。 【中級スペイン語 A・B I・II】（2 年次） 初級 A・B を履修した 2 年生以上を対象とし、スペイン語の技能をさらに育成していくことを目指します。 A は「講読」（読み解く能力や語彙）の訓練を、B はほぼすべての基本「文法」の理解と習得を主眼としたクラスとなります。 【スペイン語実践 I・II】（2 年次以上） ネイティブ・スピーカーの発音・速度に慣れ、「話す力」と「聞いて理解する力」というスキルをさらに上達させるための特別クラスです。「中級 A・B」と並行して履修することで、より実践的なスペイン語会話に取り組む機会を得るだけでなく、文法・講読の理解もより一層スムーズに進むことでしょう。 【再履修クラス（初級・中級）】 前年度以前、あるいは本年度春学期に、「初級」もしくは「中級」のいずれかの単位を修得しなかった学生は、再履修クラスの授業を履修することができます。 【上級スペイン語 A・B I・II】（3・4 年次） 「中級スペイン語」までを修得した学生を対象に、全ての文法事項を使ったより実践的なスペイン語を身に付け、資格取得や留学等が可能なレベルに至ることを目標としたクラスです。 授業では、各分野の専門家である教師をととして、歴史、文学、政治、経済から料理、映画、音楽、祭りにいたるスペイン語圏の魅力と接することができます。なお、具体的な授業の進め方などについては、担当教員の説明ならびにシラバスで確認してください。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 スペインのことわざに「La letra con sangre entra」 「言葉は血とともに身に付く」とあります。 初級、中級の両レベルでは、毎授業ごとに新しい事柄が出てくるため、授業に 1 回でも欠席したら付いていけなくなる、という心構えで臨んでください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発音が日本人にとって容易という利点を活用し、とにかくスペイン語の音声を（音楽や映画、インターネットラジオ・ドラマで）耳にする、そして勉強するときは実際に声に出して発音することが上達の秘訣です。 また学部から受験料に補助がありますので、「スペイン語検定」（6 月末・10 月末）、「DELE 外国語としてのスペイン語検定試験」（5 月・7 月・11 月）といった資格試験に自主的にチャレンジしてください。		
5. 教科書 担当教員からの指示によります。『Oh-o! Meiji』のクラスウェブで、自分のクラスのシラバスを確認して下さい。		
6. 参考書 担当教員からの指示によります。辞書についても教員の指示を待って購入した方が良いでしょう。『Oh-o! Meiji』のクラスウェブで、自分のクラスのシラバスを確認して下さい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当教員からの指示によります。『Oh-o! Meiji』のクラスウェブで、自分のクラスのシラバスを確認して下さい。		
8. 成績評価の方法 試験の成績、授業への参加度などによって、総合的に評価されます。『Oh-o! Meiji』のクラスウェブで、自分のクラスのシラバスを確認して下さい。		
9. その他 授業内容・成績評価方法等は、担当教員により異なる場合があります。各クラスのシラバスについては、『Oh-o! Meiji』のクラスウェブを参照してください。		

ロシア語（概要）		
各 1 単位	和泉キャンパス	春または秋学期
1. 授業の概要・到達目標 1 年ではロシア語の初級文法の修得をはかる。はじめて勉強する言語であるから、文字・発音から丁寧に学習する。ロシア語は西欧近代語の中でも古いタイプの言語であるが、文化・政治・外交上重要な言語のひとつでもあるからぜひ学んでほしい。また、日本語とまったく異なる体系の言語の学習は、母国語を再認識する上でも有力なきっかけとなるであろう。2 年は 1 年での未習部分を補い、かつ復習をしながらやさしいロシア語の文章を読むことにしたい。		
2. 授業内容 1 年 A は文法中心に、1 年 B はリーダーふうの教科書を用いて授業を行う。初めは内容が重複することがあるかもしれないが、未習外国語であるからむだにならない。2 年 A・B で 2 年の終わりには生きたロシア語文がひとりでも読めるようにはかる。教科書はいずれの場合でもきちんと理解してほしい。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 未習外国語ゆえに毎回新しい事柄が出てくるからかかさず出席すること。とくに 1 年の初めのうちが大事である。授業はいずれの場合も他学部と合同となる。 詳細は各クラスのシラバスを参照してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 詳細は各クラスのシラバスを参照してください。		
5. 教科書 使用するテキストは、最初の授業で指示する。詳細は各クラスのシラバスを参照してください。		
6. 参考書 授業で適宜指示する。詳細は各クラスのシラバスを参照してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各クラスのシラバスを参照してください。		
8. 成績評価の方法 定期試験を行う。時に小テストも実施する。評価はこれらに出席等の平常点を加味して行う。 詳細は各クラスのシラバスを参照してください。		
9. その他 授業内容・成績評価方法等は、担当教員により異なる場合があります。 各クラスのシラバスについては、『Oh-o! Meiji』のクラスウェブを参照してください。		

日本語（概要）		
各 1 単位	和泉キャンパス	春または秋学期
1. 授業の概要・到達目標 外国人留学生が何よりもまずマスターしなければならないのは、言うまでもなく「日本語」である。その日本語は、単に日常会話にとどまらず、専門知識を習得し、それを表現するための日本語でなければならない。この科目は、外国人留学生が、十分に日本語に習熟することを目的として設置されている。		
2. 授業内容 詳細は『日本語・留学生共通日本語「日本語（上級）」シラバス』を参照すること。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 詳細は『日本語・留学生共通日本語「日本語（上級）」シラバス』を参照すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 詳細は『日本語・留学生共通日本語「日本語（上級）」シラバス』を参照すること。		
5. 教科書 詳細は『日本語・留学生共通日本語「日本語（上級）」シラバス』を参照すること。		
6. 参考書 詳細は『日本語・留学生共通日本語「日本語（上級）」シラバス』を参照すること。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 詳細は『日本語・留学生共通日本語「日本語（上級）」シラバス』を参照すること。		
8. 成績評価の方法 詳細は『日本語・留学生共通日本語「日本語（上級）」シラバス』を参照すること。		
9. その他 詳細は『日本語・留学生共通日本語「日本語（上級）」シラバス』を参照すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		上村 威
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 This class focuses on power and politics. Throughout the semester, students will discover different dimensions of power. Each class meeting centers around case studies against key analytical frameworks.		
2. 授業内容 第1回：Introduction (What is power?) 第2回：Why is income disparity widening? 1 第3回：Why is income disparity widening? 2 第4回：Interests and collective actions 1 第5回：International politics 1 (balance of power) 第6回：International politics 2 (securitization) 第7回：Interests and collective actions 2 第8回：About negotiation 第9回：Negotiation reflection: Presentation on midterm paper 第10回：Statehood and society 1 (discursive nations) 第11回：Statehood and society 2 (case studies) 第12回：About academic writing 第13回：Group presentations and feedbacks 第14回：Group presentations and feedbacks * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 Group activities are essential for this class. Students must work closely with other team members throughout the semester. 授業回数の3分の2以上出席した者のみを評価対象とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 In order to meaningfully participate in classes, students must carefully read class materials BEFORE coming to each class.		
5. 教科書 All reading materials will be available in the class folder. The lecturer will provide specific instructions at the beginning of the semester.		
6. 参考書 特になし		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間や期末のペーパーはOh-o Meiji上で個別にフィードバックします。 また、授業中に扱う課題はその場で行います。		
8. 成績評価の方法 Group work contribution：20% 授業で発言しない者はこの評価の対象となりません。 Midterm Paper、Group Paper をすべて期限内に提出した者のみ評価対象とする Midterm paper：20% Peer evaluation：20% Group paper：40% Individual paper may be assigned in place of group paper, depending on the number of enrollment.		
9. その他 Students are highly recommended to bring dictionaries in each class. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAN211J		
English Seminar AⅡ		上村 威
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 This class focuses on power and politics. Throughout the semester, students will discover different dimensions of power. Each class meeting centers around case studies against key analytical frameworks.		
2. 授業内容 第1回：Introduction (Dimensions of power) 第2回：Discourse analysis 1 第3回：Discourse analysis 2 学生プレゼン 第4回：Identity, rules and norms 1 第5回：Identity, rules and norms 2 第6回：Dependency and resource 第7回：Mock negotiation 第8回：Negotiation feedback 第9回：Relational power 1 第10回：Relational power 2 (mini presentation); about academic writing 第11回：Knowledge and information 1 (midterm due) 第12回：Knowledge and information 2 (feedback on midterm paper) 第13回：Knowledge and information 3 第14回：Presentation on final paper; Reflection and class feedback * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 Group activities are essential for this class. Students must work closely with other team members throughout the semester. 授業回数の3分の2以上出席した者のみを評価対象とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 In order to meaningfully participate in classes, students must carefully read class materials BEFORE coming to each class.		
5. 教科書 All reading materials will be available in the class folder. The lecturer will provide specific instructions at the beginning of the semester.		
6. 参考書 特になし		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間や期末のペーパーはOh-o Meiji上で個別にフィードバックします。 また、授業中に扱う課題はその場で行います。		
8. 成績評価の方法 Group work contribution：20% 授業で発言しない者はこの評価の対象となりません。 Midterm Paper、Group Paper をすべて期限内に提出した者のみ評価対象とする Midterm paper：20% Peer evaluation：20% Group paper：40% Individual paper might be assigned in place of group paper, depending on the number of enrollment.		
9. その他 Students are highly recommended to bring dictionaries in each class. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAN211J		
English Seminar A I		金澤 智
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：「ヒップホップ・アメリカ」 「ジャズ・エイジ」や「ウッドストック世代」など、音楽がアメリカのある時代を象徴することが多いが、その点では現代アメリカを読み解くキーワードは間違いなく「ヒップホップ」である。実際、アメリカの大学ではいまや「ヒップホップ・スタディーズ」と呼ばれる分野の研究が盛んに行われ、ヒップホップが体現する様々な社会問題が分析されている。I では、ヒップホップに関する文献の講読を通じて人種や階級、宗教などの問題に触れ、ひとつのアメリカ像を掴むことを目的とする。 英文テキストの講読、英語による映像や音楽の鑑賞など。		
2. 授業内容 第1回：a：イントロダクション 第2～6回：ヒップホップの誕生 第7～9回：ヒップホップ以前（公民権運動・ポストソウル） 第10～12回：キング牧師とマルコムX 第13・14回：ヒップホップと宗教 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 受講者はラップ音楽のファンである必要はない。アメリカ社会全般に対して深い興味をもって授業に臨んでもらいたい。 あらかじめ、指定範囲の英文を読んでおくこと。辞書に載っていないようなことでも、インターネットを活用して各自で調べてほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 アメリカの社会問題について、各自で調べる。		
5. 教科書 ヒップホップ、人種問題に関する英文エッセイを読む。 プリント教材を配布。また、映像資料も使用する。		
6. 参考書 授業中に指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にコメントする。		
8. 成績評価の方法 平常の授業参加（30%）、期末レポート（70%）。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		金澤 智
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：「ヒップホップ・アメリカ」 「ジャズ・エイジ」や「ウッドストック世代」など、音楽がアメリカのある時代を象徴することが多いが、その点では現代アメリカを読み解くキーワードは間違いなく「ヒップホップ」である。実際、アメリカの大学ではいまや「ヒップホップ・スタディーズ」と呼ばれる分野の研究が盛んに行われ、ヒップホップが体現する様々な社会問題が分析されている。II では、人種をめぐる政治の問題やメディアと人種の関係に触れ、ひとつのアメリカ像を掴むことを目的とする。 英文テキストの講読、英語による映像や音楽の鑑賞など。		
2. 授業内容 第1回：a：人種とは何か 第2～9回：(ポスト) ヒップホップ世代の政治参加 第10～14回：学生による発表 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 受講者はラップ音楽のファンである必要はない。アメリカ社会全般に対して深い興味をもって授業に臨んでもらいたい。 あらかじめ、指定範囲の英文を読んでおくこと。辞書に載っていないようなことでも、インターネットを活用して各自で調べてほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 アメリカの社会問題について、各自で調べる。		
5. 教科書 ヒップホップ、人種問題に関する英文エッセイを読む。 プリント教材を配布。また、映像資料も使用する。		
6. 参考書 授業中に指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にコメントする。		
8. 成績評価の方法 平常の授業参加（30%）、期末レポート（70%）。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar A I		狩野 郁子
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 The goal of this class is to improve English linguistic skills in reading, getting familiar with American society. Students are to develop their ability through acquiring vocabulary and reinforcing grammatical knowledge, which are essential to critical thinking.		
2. 授業内容 第1回：Introduction to the course. Unit 1: reading exercises watching a video. 第2回：A vocabulary quiz. Unit 1: reading exercises. 第3回：A vocabulary quiz. Unit 1: reading exercises. 第4回：A vocabulary quiz. Units 1 and 2: reading exercises. 第5回：A vocabulary quiz. Unit 2: reading exercises. 第6回：A vocabulary quiz. Unit 2 reading exercises. 第7回：Review of the classes, and a mid-term examination. 第8回：Review of the exam. Unit 4: reading exercises. 第9回：A vocabulary quiz. Unit 4: reading exercises. 第10回：A vocabulary quiz. Unit 4: reading exercises. 第11回：A vocabulary quiz. Units 4 and 6: reading exercises 第12回：A vocabulary quiz. Unit 6: reading exercises.. 第13回：A vocabulary quiz. Unit 6: reading exercises. 第14回：Review of the classes, and a term examination. * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Assignments should be done on time.		
5. 教科書 Title: INSIDE AND OUT Publisher: 金星堂		
6. 参考書 They will be introduced in class.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Vocabulary quizzes are given orally in each class. Assignments are reviewed in the following week. Mid-term and term examinations are handed back in the next class with precise instruction and explanation.		
8. 成績評価の方法 Grading Criteria: 30% participation, in-class tasks, homework and vocabulary quizzes 70% mid-term and term examinations (Percentages will be changed in accordance with class conditions.)		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		狩野 郁子
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 The goal of this class is to improve English linguistic skills in reading, getting familiar with American society. Students are to develop their ability through acquiring vocabulary and reinforcing grammatical knowledge, which are essential to critical thinking.		
2. 授業内容 第1回：Introduction to the course. Unit 3: reading exercises watching a video. 第2回：A vocabulary quiz. Unit 3: reading exercises. 第3回：A vocabulary quiz. Unit 3: reading exercises. 第4回：A vocabulary quiz. Units 3 and 10: reading exercises. 第5回：A vocabulary quiz. Unit 10: reading exercises. 第6回：A vocabulary quiz. Unit 10 reading exercises. 第7回：Review of the classes, and a mid-term examination. 第8回：Review of the exam. Unit 14: reading exercises. 第9回：A vocabulary quiz. Unit 14: reading exercises. 第10回：A vocabulary quiz. Unit 14: reading exercises. 第11回：A vocabulary quiz. Units 14 and 15: reading exercises. 第12回：A vocabulary quiz. Unit 15: reading exercises. 第13回：A vocabulary quiz. Unit 15: reading exercises. 第14回：Review of the classes, and a term examination. * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Assignments should be done on time.		
5. 教科書 Title: INSIDE AND OUT Publisher: 金星堂		
6. 参考書 They will be introduced in class.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Vocabulary quizzes are given orally in each class. Assignments are reviewed in the following week. Mid-term and term examinations are handed back in the next class with precise instruction and explanation.		
8. 成績評価の方法 Grading Criteria: 30% participation, in-class tasks, homework and vocabulary quizzes 70% mid-term and term examinations (Percentages will be changed in accordance with class conditions.)		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		木内 修
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 本講座の目的は、発信型の英語を習得するための基礎を完成させることにある。そもそも、高校時代の科目の「英語表現」で文法を中心に学んでいるわけであるが、その知識が単に入試対策の空所補充レベルで終わってはいないだろうか。本講座は、中学・高校で履修したはずの英文法をまず、単なる暗記レベルではなく、整理しながら腑に落ちる納得レベルまで押し上げていく。そしてその知識に基づいて英語を組み上げていく練習を行っていく。いわば、はじめての英作文（和文英訳）のクラスである。科目の性質上、講読のクラスに比べて予習には時間がかからない分、受講生には、理解し英文法をしっかり復習で体得する部分に時間を割くことを期待する。 また、AI における英語や日本語の理解の限界なども具体的な例を挙げ時代に遅れないで学んでいく。 テキストでの演習を中心に授業は展開されるが、受講生の英語に関する習熟度に応じて、適宜ハンドアウトで弱点補強を行っていく。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回から第 13 回までは、文、句と節、名詞、冠詞、形容詞、副詞、比較構造、代名詞、関係代名詞と関係副詞を中心に講義・演習を行う。 第 14 回：試験と春学期の総括 ＊授業内容は、受講生の習熟度などの状況に合わせて柔軟に対応していくため、変更する可能性もある。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 電子辞典、紙版の辞書を必ず、持参すること。また、他の語学の授業と同様にスマホや携帯電話の電源を切って授業を受けることが前提となるので、その使用は禁止される。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの基本例文を文法的に確認し、和文英訳を作成しておく。また、復習には、テキストの例文などを暗唱し、実践で使用可能な状態しておく。		
5. 教科書 主教材：『英語表現法』中内正夫 成美堂 副教材：『5 分間 TOEIC テスト・サプリメント イディオム・ボキャブラリー』 小池直己 南雲堂		
6. 参考書 授業内で紹介する。30 冊程度		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーやコメントのの全体講評を授業内や Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】筆記試験 80% 平常点 20% 注意事項：欠席が 5 回になった段階で不合格となる。また、遅刻の扱いは理由の如何にかかわらず、授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 2 回の遅刻で 1 回の欠席となる。ただし、忌引・授業関連の実習および登校停止を必要とする流行性疾患に関してはこの限りではない。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		木内 修
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本講座の目的は、発信型の英語を習得するための基礎を完成させることにある。そもそも、高校時代の科目の「英語表現」で文法を中心に学んでいるわけであるが、その知識が単に入試対策の空所補充レベルで終わってはいないだろうか。本講座は、中学・高校で履修したはずの英文法をまず、単なる暗記レベルではなく、整理しながら腑に落ちる納得レベルまで押し上げていく。そしてその知識に基づいて英語を組み上げていく練習を行っていく。いわば、はじめての英作文（和文英訳）のクラスである。科目の性質上、講読のクラスに比べて予習には時間がかからない分、受講生には、理解し英文法をしっかり復習で体得する部分に時間を割くことを期待する。 また、AI における英語や日本語の理解の限界なども具体的な例を挙げ時代に遅れないで学んでいく。 テキストでの演習を中心に授業は展開されるが、受講生の英語に関する習熟度に応じて、適宜ハンドアウトで弱点補強を行っていく。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 秋学期の履修内容の確認 第 2 回から第 13 回までは助動詞、他動詞と自動詞、時制、時制の一致、能動態と受動態、仮定法、準動詞、話法、前置詞、接続詞 を中心に講義・演習を行う。 第 14 回：試験と秋学期の総括 ＊授業内容は、受講生の習熟度などの状況に合わせて柔軟に対応していくため、変更する可能性もある。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 電子辞典、紙版の辞書を必ず、持参すること。また、他の語学の授業と同様にスマホや携帯電話の電源を切って授業を受けることが前提となるので、その使用は禁止される。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの基本例文を文法的に確認し、和文英訳を作成しておく。また、復習には、テキストの例文などを暗唱し、実践で使用可能な状態しておく。		
5. 教科書 主教材：『英語表現法』中内正夫 成美堂 副教材：『5 分間 TOEIC テスト・サプリメント イディオム・ボキャブラリー』 小池直己 南雲堂		
6. 参考書 授業内で紹介する。30 冊程度		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーやコメントのの全体講評を授業内や Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】筆記試験 80% 平常点 20% 注意事項：欠席が 5 回になった段階で不合格となる。また、遅刻の扱いは理由の如何にかかわらず、授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前 の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 2 回の遅刻で 1 回の欠席となる。ただし、忌引・授業関連の実習および登校停止を必要とする流行性疾患に関してはこの限りではない。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		斎藤 英治
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 ニューヨークのブロードウェイは、アメリカの演劇およびミュージカルのメッカとして、数多くの名作を生み出してきました。一方、ハリウッドは、アメリカ映画の代名詞にもなっているように、大量の娯楽映画を送り出し、世界の映画ファンのハートをつかんできました。この講義では、そのアメリカの2つの文化の融合である「ミュージカル映画」の秀作を通して、アメリカ社会の変化を学んでいきます。 有名なミュージカル映画を取りあげ、英語のテキストを読みながら、その背景となったアメリカの歴史や社会的背景を学んでいきます。たとえば、最初に取り上げる『ウェスト・サイド物語』の場合、アメリカが移民社会であることや、根深い人種的偏見や人種間の対立があることなどを学べば、作品の理解が深まるでしょう。同様のことは、『コーラスライン』や『レント』に関しても言えます。 また、教科書はかなり歯ごたえのある文章で書かれています。質の高い英語表現を読みこなす読解力を身につけるのが到達目標の一つです。また、英語で感想を書くことによって、ライティング力を高めることも目標です。		
2. 授業内容 第1回：はじめに 第2回：ブロードウェイの歴史 第3回：『ウェスト・サイド物語』と『ロミオとジュリエット』ハリウッドの歴史 第4回：『ウェスト・サイド物語』と人種問題 第5回：『ウェスト・サイド物語』と『ウェスト・サイド・ストーリー』（リメイク） 第6回：『コーラスライン』と1970年代 第7回：『コーラスライン』とニューヨーク 第8回：『コーラスライン』とオーディション 第9回：ブロードウェイとオフ・ブロードウェイ 第10回：ニューヨークを舞台にしたミュージカル 第11回：『レント』とジェンダーとエイズの問題 第12回：『レント』とジェントリフィケーションの時代 第13回：英作文 第14回：a：まとめ b：試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業では、英語で作文を書いてもらうことがあります。また、テキストの予習や、言及した作品や文献をみずから調べることが必要になるでしょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で言及した文献や映画や舞台について、より深く理解したい方は、大学のAVライブラリーやDVDや配信を利用してチェックすることをお勧めします。		
5. 教科書 Philip Zitwits 著, The Spirit of Broadway, The Spirit of America（英宝社）を教科書に使います。そこで扱われていない作品については、こちらで英文・和文のプリントを用意する予定です。		
6. 参考書 高良結香『ブロードウェイ 夢と戦いの日々』（ランダムハウス 講談社） 小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ミュージカル（映画）については、こちらから一方的に教えるだけでなく、学生の皆さんからの情報も期待しています。なお、授業で英作文を書いてもらう場合は、個別に添削して返却することも可能です。また、期末試験など、授業に関する質問は、教室だけでなく、メールでも問い合わせが可能です。		
8. 成績評価の方法 平常点が45パーセント、期末試験が55パーセントです。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		斎藤 英治
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ニューヨークのブロードウェイは、アメリカの演劇およびミュージカルのメッカとして、数多くの名作を生み出してきました。一方、ハリウッドは、アメリカ映画の代名詞にもなっているように、大量の娯楽映画を送り出し、世界の映画ファンのハートをつかんできました。 この講義では、そのアメリカの2つの文化の融合である「ミュージカル映画」の秀作を通して、アメリカ社会の変化を学んでいきます。 秋学期の授業では、1980年代に一世を風靡したロンドン発のミュージカルから始まります。人気ミュージカル『キャッツ』を通して、作曲家アンドリュー・ロイド・ウェバーや、80年代の新しいミュージカルの傾向を学びます。『レ・ミゼラブル』では、法と正義や、経済格差などの社会的なテーマにも目を向けることになるでしょう。また、『ライオンキング』では、野心的なアダプテーションの成功例を分析することになります。そして、『雨に唄えば』では、20世紀前半に流行していた「ミュージカル・コメディ」と呼ばれるジャンルを振り返ります。 教科書は、かなり歯ごたえのある英文で書かれています。それを読むことで、高い読解力を身に着けるのが到達目標のひとつです。さらに、作品の感想を英語で書く訓練をすることで、ライティング能力を高めることも目標です。		
2. 授業内容 第1回：はじめに 第2回：1980年代とロンドン・ミュージカル 第3回：『キャッツ』と人間社会の寓話 第4回：『キャッツ』とコスチューム・ミュージカル 第5回：ミュージカル『レ・ミゼラブル』の複雑な成立事情 第6回：『レ・ミゼラブル』における法と正義 第7回：『レ・ミゼラブル』と格差社会の寓話 第8回：『ライオンキング』とディズニーのブロードウェイ進出 第9回：『ライオンキング』と野心的なアダプテーション 第10回：ハリウッド・ミュージカルの古典『雨に唄えば』 第11回：『雨に唄えば』とミュージカル・コメディ 第12回：ブロードウェイのミュージカル史 第13回：英作文 第14回：a：まとめ b：試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業では、英語で作文を書いてもらうことがあります。また、ミュージカル史に関する日本語の文献を読んでもらい、教室で話し合うこともあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で言及した文献や映画や舞台については、より理解を深めるために、大学のAVライブラリーやDVDや配信を利用することをお勧めします。		
5. 教科書 Philip Zitwits 著, The Spirit of Broadway, The Spirit of America (英宝社) を教科書に使用します。また、そこで扱われていない作品については、こちらで英文・和文のプリントを用意する予定です。		
6. 参考書 小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社） 小山内伸『進化するミュージカル』（論創社）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 教室で英作文を提出してもらう場合は、添削してコメントを加えてお返しします。また、期末試験など、授業に関する質問等は、メールでも個別にお答えします。		
8. 成績評価の方法 平常点が50パーセント、期末試験が50パーセントの予定です。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		鈴木 哲也
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業の目標は以下の2点です。 1. ニュース報道を理解できるリスニング能力を身につける。 2. 英語による発信能力を高める。 この目標を達成するために、まず、毎時間、CNNニュースのリスニング演習を行います。最新の、遅くとも二週間以内のニュースを、教材ではない生のCNNニュースを聞きます。ただし、重要な国内ニュースなどを扱う際にはNHKの副音声を使います。市販のテキストなどは一切使いません。 春学期の前半はリスニング力の補強として、基本的な語彙力の向上にも努めます。後半には履修者各自の関心に応じた発表を行ってもらおうと考えています。詳しいことは最初の授業で相談します。		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション 第2回：CNNニュースのリスニング演習 第3回：CNNニュースのリスニング演習 第4回：CNNニュースのリスニング演習 第5回：CNNニュースのリスニング演習 第6回：CNNニュースのリスニング演習 第7回：CNNニュースのリスニング演習 第8回：CNNニュースのリスニング演習と個人発表の打ち合わせ 第9回：CNNニュースのリスニング演習とプレゼンテーションの基本の確認 第10回：CNNニュースのリスニング演習と個人発表 第11回：CNNニュースのリスニング演習と個人発表 第12回：CNNニュースのリスニング演習と個人発表 第13回：CNNニュースのリスニング演習と個人発表 第14回：CNNニュースのリスニング演習と個人発表 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 リスニングのレベルはかなり高いです。ただし、リスニングは慣れれば聞こえてくるので挑戦してください。逆に、苦手意識を持っていると、いつまでたっても聞こえるようにはなりません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習はまったく必要ありません。ただし、個人発表の資料集めやその他、一人でやらなければならない作業は一定程度あります。また、授業で扱った音声ファイルなどは0h-o, Meiji!上にアップロードしますので、各自で復習をすればリスニング力のアップにつながります。 勉強法などは授業時に随時説明します。		
5. 教科書 教科書は使用しません。毎時間、最新の資料を配付します。		
6. 参考書 特にありません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題などへのフィードバックは、原則として、0h-o, Meiji!上で行います。		
8. 成績評価の方法 学期末のリスニングの試験や個人発表、授業への参加度などを総合的に評価します。		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		鈴木 哲也
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 春学期につづき、以下の2点を目標にします。 1. ニュース報道を理解できるリスニング能力を身につける。 2. 英語による発信能力を高める。 この目標を達成するために、春学期同様、CNN や NHK の副音声を利用したリスニング演習を行います。 同時に、英語による発信力をつけるために英文エッセイ・発表の構成についても知ってもらおうと思っています。英語でのプレゼンテーションも行います。		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション 第2回：ニュース英語のリスニング演習とエッセイライティングの基礎 第3回：ニュース英語のリスニング演習とエッセイライティングの基礎 第4回：ニュース英語のリスニング演習とエッセイライティングの基礎 第5回：ニュース英語のリスニング演習とエッセイライティングの基礎 第6回：ニュース英語のリスニング演習と個人発表に向けての相談 第7回：ニュース英語のリスニング演習と個人発表の原稿作成 第8回：ニュース英語のリスニング演習と個人発表の原稿作成 第9回：ニュース英語のリスニング演習と個人発表 第10回：ニュース英語のリスニング演習と個人発表 第11回：ニュース英語のリスニング演習と個人発表 第12回：ニュース英語のリスニング演習と個人発表 第13回：ニュース英語のリスニング演習と個人発表 第14回：総まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 リスニングのレベルはかなり高いと考えてください。ただし、リスニングは慣れれば聞こえてくるので挑戦してください。逆に、苦手意識を持っていると、いつまでたっても聞こえるようにはなりません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習はまったく必要ありません。ただし、個人発表の資料集めやその他、一人でやらなければならない作業は一定程度あります。また、授業で扱った音声ファイルなどは Oh-o, Meiji! 上にアップロードしますので、各自で復習をすればリスニング力のアップにつながります。 勉強法などは授業時に随時説明します。		
5. 教科書 教材はすべて授業時に、または、Oh-o, Meiji を利用して配布します。		
6. 参考書 特にありません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題などへのフィードバックは、原則として、Oh-o, Meiji! 上で行います。		
8. 成績評価の方法 学期末試験、個人発表、授業への参加度などによって総合的に評価します。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar A I		関 修
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 いわゆるカルチュラルスタディーズに関する英語の文献講読を行なう。 テーマは K-pop と J-pop の関係性について。 テキストは英語圏の読者に向けた K-pop の一般書を用いる。 英文購読を中心に、言及されたアーティストなどの映像を随時チェックし、ディスカッションも適宜行なう。 【授業の到達目標】 (1) 英語の文献を講読する力を養う。 (2) K-pop や J-pop が欧米でどのように紹介されているかの理解を深める。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：イントロダクション カルチュラルスタディーズとは何か 第 2 回：韓流ブームの変遷について 第 3 回：k-pop と j-pop の関係性について 第 4 回：講読開始、Hong, 119～120 頁 第 5 回：121～122 頁 第 6 回：123～124 頁 第 7 回：ディスカッション 第 8 回：125～126 頁 第 9 回：127～128 頁 第 10 回：129～130 頁 第 11 回：ディスカッション 第 12 回：131～132 頁 第 13 回：133～134 頁 第 14 回：春学期のまとめ、レポート提出 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 各段落を一人ずつが担当し、訳し発表してもらう。 セミナーである以上、担当者以外も予習をかかさないと。 また、病気等やむを得ない事情以外の欠席も認めない。 体育会の試合等も公欠とは一切認めない。 三分の一以上休めば、法律上不合格となる。昨年度出席がいい加減な学生が多かった。 今年は出席を厳しく取る。出席に自信のない学生は取らない方がよいだろう。 特に、担当になっているときに休むのは他の学生にも迷惑になるので、事前に代わりの担当者を依頼するなど自分で対策を講じること。 また、学習効果上、通年で履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 事前にテキストを読んでおくこと。 言及されているアーティストなどは、前もって調べておくこと。 【復習すべき内容】 正確に訳せていたかをチェックし直すこと。 さらに他のアーティストのチェックなど、自分なりに関心を広げて行くこと。		
5. 教科書 Euny Hong、The Birth of Koean Cool、Picador、2014 大学で授業が出来ればプリントを配布するが、 オンライン授業の場合、PDF で該当箇所を添付するが、 アマゾンでペーパーバックか Kindle を購入するのが望ましい。		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 レポート 50%、平常点（授業への参加度）50% オンライン授業の場合は比率が変わる可能性があります。 その場合は「シラバスの変更」に記載します。		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		関 修
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 いわゆるカルチュラルスタディーズに関する英語の文献講読を行なう。 テーマは K-pop と J-pop の関係性について。 テキストは英語圏の読者に向けた K-pop の一般書を用いる。 英文購読を中心に、言及されたアーティストなどの映像を随時チェックし、ディスカッションも適宜行なう。 【授業の到達目標】 (1) 英語の文献を講読する力を養う。 (2) K-pop や J-pop が欧米でどのように紹介されているかの理解を深める。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション Cool という概念について 第2回：アイドルという観点から見た k-pop 第3回：講読開始、Hong, 135～136 頁 第4回：137～138 頁 第5回：139～140 頁 第6回：141～142 頁 第7回：読了後のディスカッション 第8回：Bromance という概念について 第9回：関連する英文資料を読む 第一回 第10回：同上 第二回 第11回：同上 第三回 第12回：読了後のディスカッション 第13回：一年を通しての授業に関するディスカッション 第14回：一年間のまとめ、レポート提出 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 各段落を一人ずつが担当し、訳し発表してもらう。 セミナールである以上、担当者以外も予習をかかさないと。 また、病気等やむを得ない事情以外の欠席も認めない。 体育会の試合等も一切公欠と認めない。 三分の一以上休めば、法律上不合格となる。 今年は出席は厳しく取るので、出席に自信のない学生は取らない方がよいだろう。 特に、担当になっているときに休むのは他の学生にも迷惑になるので、事前に代わりの担当者を依頼するなど自分で対策を講じること。 また、学習効果上、通年で履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 二頁を目標にテキストを読んでおくこと。 言及されているアーティストなどは、前もって調べておくこと。 【復習すべき内容】 正確に訳せていたかをチェックし直すこと。 さらに他のアーティストのチェックなど、自分なりに関心を広げて行くこと。		
5. 教科書 Euny Hong、The Birth of Koean Cool、Picador、2014 英文に関しては読む箇所のコピーを配布するが、ペーパーバックなので買って読破するのが望ましい。 オンライン授業の場合は PDF で該当箇所を添付します。		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 レポート 50%、平常点（授業への参加度）50% オンライン授業の場合は比率を変更する可能性があります。 その場合、「シラバスの変更」を参照してください。		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		辻岡 宏子
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 English Seminar AI (advanced) 将来、ビジネスや留学の際に必要なスキルを習得することを目標にした上級のコースです。 グループワークを中心にプロジェクトを完成し発表する自発型の授業で、英語力とともに、リーダーシップなどグループワークに必要なスキルの向上を目指します。 社会の様々なコミュニケーションの場において必要となるプレゼンテーション、ライティング、ディベートなどのスキルを時事問題を通して学習します。		
2. 授業内容 第1回：Introduction 第2回：Introducing yourself 第3回：Project 1 presentations 第4回：Artificial intelligence 第5回：Business 第6回：News digest 第7回：Project 2 group presentations 第8回：Project 2 group presentations 第9回：Food waste 第10回：Environmental problems 第11回：Promoting vacation plans 第12回：Project 3 mini debates 第13回：Project 3 mini debates 第14回：Review * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 協同でグループ・プロジェクトを進めていく授業で、毎回グループとしての課題が出されます。 グループワークに支障が出ますので、毎回の出席が必須です。 30分以上の遅刻は欠席扱いです。 評価は授業参加度を含む平常点評価で、3回以上欠席すると単位取得は難しくなります。 毎回、デバイス（スマートフォン、PC、タブレット等）を持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回のテーマに関して、書籍やウェブで自習する。 授業で学習した表現や文型を課題に使用するよう心がける。		
5. 教科書 Presentations to go (Matsuoka, 2014, Gengage Learning) Discuss the changing world (Nakaya, et al. 2022, Seibido)		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブの機能を活用し、授業時間内及び授業終了後に課題や質疑の内容を共有し、クラス内で意見交換の場を設けます。 授業用メールアドレスを公開し、個別の質疑や相談に対応します。		
8. 成績評価の方法 平常点（プロジェクト、課題、授業・グループへの貢献度等）		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		辻岡 宏子
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 English Seminar AI (advanced) 将来、ビジネスや留学の際に必要なスキルを習得することを目標にした上級のコースです。 グループワークを中心にプロジェクトを完成し発表する自発型の授業で、英語力とともに、リーダーシップなどグループワークに必要なスキルの向上を目指します。 社会の様々なコミュニケーションの場において必要となるプレゼンテーション、ポスター、リーディング&ライティングなどのスキルを時事問題を通して学習します。		
2. 授業内容 第1回：Introduction 第2回：The Japanese mentality 第3回：Project 1 presentations 第4回：Space exploration 第5回：Immigration 第6回：Introducing Japan 第7回：Discussing social issues 第8回：Project 2 group presentations 第9回：Project 2 group presentations 第10回：Education 第11回：Culture 第12回：Project 3 posters 第13回：Project 3 posters 第14回：Review * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 協同でグループ・プロジェクトを進めていく授業で、毎回グループとしての課題が出されます。 グループワークに支障が出ますので、毎回の出席が必須です。 30分以上の遅刻は欠席扱いです。 評価は授業参加度を含む平常点評価で、3回以上欠席すると単位取得は難しくなります。 毎回、デバイス（スマートフォン、PC、タブレット等）を持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回のテーマに関して、書籍やウェブで自習する。 授業で学習した表現や文型を課題に使用できるよう心がける。		
5. 教科書 Presentations to go (Matsuoka, 2014, Cengage Learning) Discuss the changing world (Nakaya, et al. 2022, Seibido)		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブの機能を活用し、授業時間内及び授業終了後に課題や質疑の内容を共有し、クラス内で意見交換の場を設けます。 授業用メールアドレスを公開し、個別の質疑や相談に対応します。		
8. 成績評価の方法 平常点（プロジェクト、課題、授業・グループへの貢献度等）		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		戸嶋 真弓
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 英語圏の映画の中からいくつかを選び、映画から英語の台詞を学んでいきます。簡単な台詞を覚え、状況を英語で表現します。どのような状況でどのような言葉が話されるのかということを学ぶことがテーマです。 英語を英語字幕で見る練習をします。 春学期は、社会問題や英語圏文化や政治などさまざまなジャンルに関する映画を何点かを取り上げる予定です。 本講義では、グループ・ワークとグループ発表も行う予定です。 基本的に授業は全て対面で行われます(感染症等の流行などを考慮してオンデマンドで授業を行う場合があります)		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：授業の進め方などの説明 第2～13回：映画を視聴する課題が出ます(当該映画についてのレポートを提出)。映画についてのコメントを行う練習をします。映画によっては、英語でのまとめをしたり、英語の台詞を分析します。また、英語でのプレゼンテーションを個人やグループで行います。 第14回：レポート点検、提出 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 英検2級以上の英語力を持っていること。英語圏の映画やドラマが好きであること。一年に20本以上の英語圏の映画を見る習慣があること。また、英語圏の映画について知りたい、英語が分かるようになりたいという熱意があること。 毎回の復習と予習やコメント発表、及び一ヶ月に一本程度のレポート提出があります。英語での個人・グループプレゼンテーションを行います。英語を話したい、聞き取れるようになりたいという熱意を持って授業に臨むことが必要とされます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 自宅で映画を見られる環境を整えられるようにすることが必要です。		
5. 教科書 特に使用する予定はありません。		
6. 参考書 授業時に指定します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業時の演習状況（英語でのプレゼンテーション、グループワーク、発言回数、参加内容、各種レポート）を合算し、「平常点」とします(100%)。		
9. その他 詳細は、開講時に説明します。 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		戸嶋 真弓
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 英語圏の映画の中からいくつかを選び、映画から英語の台詞を学んでいきます。簡単な台詞を覚え、状況を英語で表現します。どのような状況でどのような言葉が話されるのかということを学ぶことがテーマです。 グループ学習と英語でのグループ・プレゼンテーションも行います。 秋学期は、さまざまなジャンルから選択した映画を何点かを取り上げる予定です。 本講義は、基本的に対面授業です(感染症等の流行を考慮して、オンライン授業を行う可能性があります)。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：授業の進め方などの説明 第2～13回：映画を視聴する課題が出ます。映画についてのコメントを行う練習をします。映画によっては、英語でのまとめをしたり、英語の台詞を分析します。 第14回：レポート点検、提出 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 英検2級以上の英語力を持っていること。英語圏の映画やドラマが好きであること。一年に20本以上の英語圏の映画を見る習慣があること。また、英語圏の映画について知りたい、英語が分かるようになりたいという熱意があること。 毎回の復習と予習やコメント発表、及び一ヶ月に一本程度のレポート提出があります。英語を話したい、聞き取れるようになりたいという熱意を持って授業に臨むことが必要とされます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 自宅で映画を見られる環境を整えられるようにすることが必要です。		
5. 教科書 特に使用する予定はありません。		
6. 参考書 授業時に指定します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 授業時の演習状況（英語でのプレゼンテーション、グループワーク、発言回数、参加内容、各種レポート）を合算し、「平常点」とします(100%)。		
9. その他 詳細は、開講時に説明します。 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAN211J		
English Seminar AI		中野 里美
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 アフリカ系アメリカ人による公民権運動については、これまでの英語のテキストや世界史のテキストなどで触れられていて、教わった方もいると思われます。当時はそうした運動や訴訟の裁判などでアフリカ系アメリカ人たちの権利は認められることとなりました。またオバマ大統領の誕生からも、差別意識は少なくなったかのように思われました。ところが現実には社会は分断し、BLM 運動も広がり、アメリカのみならず、世界中にレイシズムについて再考する余地が生まれています。こうした現象を理解するには、まずアフリカ系アメリカ人の辿った歴史を紐解く必要があるかもしれません。 基本的にテキストの内容を把握しながら、その内容に応じてほぼ毎回資料を配布し、視覚資料を用いて理解を深めていきます。また、毎回授業内容に関して後半のモジュールの中でコメントを求め、次週、いくつかフィードバックします。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：Slaves are brought to the American colonies 第3回：上記の続き、プリント、映像資料 第4回：Slave revolts interfere with Middle Passage 第5回：Slave revolts interfere with Middle Passage プリント、映像資料 第6回：The Constitutional Convention compromises on slavery プリント、映像資料 第7回：Slaves find power in religion 第8回：Slaves find power in religion プリント、映像資料 第9回：Slaves make a life for themselves 第10回：Uncle Tom vs black face minstrels プリント、映像資料 第11回：The road to freedom: hard to climb 第12回：The road to freedom: hard to climb プリント、映像資料 第13回：Heading north to the land of opportunity 第14回：Booker T Washington プリント、映像資料 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 予習が必須です。出席を毎回確認します。 試験範囲が分かって、試験直前になってメールで、範囲内の答えをすべてほしいと依頼してくる人もいますが、そうならないようになるべく出席して下さい。また、後からまとめて全部答えを教えてくださいと言わず、毎回の授業の際に不明な点があれば質問するようにしてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：テキストの内容の確認を事前しておくこと。 復習：語彙や表現、構文はすべての英語力に通じます。勘違いしていたところや知らなかった語彙を再確認していきましょう。		
5. 教科書 プリントを配布し、PDF を掲載します。		
6. 参考書 The Uncle Tom's Cabin Malcolm X autobiography 他にも多数あるため、プリントも配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎週の授業内 pop quiz の解説は、なるべく速やかにクラス・ウェブ上にて掲載します。 また試験後のフィードバックもクラス・ウェブ上にて掲載します。		
8. 成績評価の方法 欠席5回以上（5回含む）をもって、評価の対象外とする。遅刻も授業開始15分以降の入室からとし、3回目の遅刻は欠席1回に換算する。なお、病欠、公欠、忌引きなどは、日付が確認でき、かつ本人のものと証明できるものがあれば、例外とする。長文を読み慣れていない人には予習が必須です。遅刻も遅延証明書を認めます。 TOEIC reading、Exercise、授業内でのタスク、毎回のコメントなど平常点 30% 最終試験 70%		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAN211J		
English Seminar AⅡ		中野 里美
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 アフリカ系アメリカ人による公民権運動については、これまでの英語のテキストや世界史のテキストなどで触れられていて、教わった方もいると思われます。当時はそうした運動や訴訟の裁判などでアフリカ系アメリカ人たちの権利は認められることとなりました。またオバマ大統領の誕生からも、差別意識は少なくなったかのように思われました。ところが現実には社会は分断し、BLM 運動も広がり、アメリカのみならず、世界中にレイシズムについて再考する余地が生まれています。こうした現象を理解するには、まずアフリカ系アメリカ人の辿った歴史を紐解く必要があるかもしれません。 基本的にテキストの内容を把握しながら、その内容に応じてほぼ毎回資料を配布し、視覚資料を用いて理解を深めていきます。また、毎回授業内容に関して後半のモジュールの中でコメントを求め、次週、いくつかフィードバックします。		
2. 授業内容 第1回：WEB DuBois and the founding of the NAACP プリント、映像資料 第2回：Garvey speaks up for racial pride プリント、映像資料 第3回：Ragtime, jazz, and blues プリント、映像資料 第4回：Ragtime, jazz, blues プリント、映像資料 第5回：The Supreme Court attacks school segregation 第6回：The Supreme Court attacks school segregation 第7回：Time to move up to the front of the bus プリント、映像資料 第8回：Time to move up to the front of the bus プリント、映像資料 第9回：The civil rights movement leads to a dream プリント、映像資料 第10回：The civil rights movement leads to a dream：プリント、映像資料 第11回：Some blacks seek more racial solutions プリント、映像資料 第12回：Some blacks seek more racial solutions 第13回：Excelling at sports and entertainment プリント、映像資料 第14回：Excelling at sports and entertainment プリント、映像資料 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 予習が必須です。出席を毎回確認します。 試験範囲が分かって、試験直前になってメールで、範囲内の答えをすべてほしいと依頼してくる人もいますが、そうならないようになるべく出席して下さい。また、後からまとめて全部答えを教えてくださいと言わず、毎回の授業の際に不明な点があれば質問するようにしてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：事前に分からないところがないか確認しておきましょう。 復習：語彙、表現、構文、すべて英語力全般に関係してきます。勘違いしていたところや知らなかったことを再確認していきましょう。		
5. 教科書 プリントを配布し、PDF を掲載します。		
6. 参考書 Malcolm X autobiography その他、資料を配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎週の授業内 pop quiz の解説は、なるべく速やかにクラス・ウェブ上にて掲載します。 また試験後のフィードバックもクラス・ウェブ上にて掲載します。		
8. 成績評価の方法 欠席 5 回以上（5 回含む）をもって、評価の対象外とする。遅刻も授業開始 15 分以降の入室からとし、3 回目の遅刻は欠席 1 回に換算する。なお、病欠、公欠、忌引きなどは、日付が確認で、かつ本人のものと証明できるものがあれば、例外とする。長文を読み慣れていない人には予習が必須です。遅刻も遅延証明書を認めます。 TOEIC reading Exercise 授業内のタスク、毎回のコメントなど平常点 30% 最終試験 70%		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAN211J		
English Seminar AI		中村 和恵
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業概要 ある作家の自伝を一冊、1年で読み切るクラスです。学習用に加工された教科書ではなく、普通の英語読者用の本を読みます。春学期は最初から半分まで。それだけの参加でも得ることはたくさんあります。 びっくりするほど率直に人種、家族、愛情、生き方について語り、考える女性の、驚きの人生を追いかけながら、英語読解力、そして社会と個人の困難に向き合う力をつけましょう。 全体には、自分に起きたことを語る話なので、平易で読みやすい文体です。しかし作家の文章ですから独特な言葉遣いや口語的表現があり、スコットランド訛りを反映した表現もときどき出てきます。作家の生みの父はナイジェリア人。ルーツを探す旅はびっくり仰天のナイジェリア旅行になり、現地のイボ語なども出てきます。ます。そうしたおもしろい特徴は解説しながら進めます。 オンライン授業をうまく活用しながら、下記授業内容欄に詳述する方法で速読と精読を組み合わせ読み進め、英語読解力がついたと実感できるプランになっています。一回づつできることをがんばれば、かならず半年後には以前より英語で読める人になります。 ＊14回の内4回を目安にオンライン（オンデマンド型）授業をとりいれる予定です。 授業お知らせやシラバスのスケジュール変更に注意すること。 到達目標 英語の一般書籍を自力で読み切ることで英語を読む力を維持・増強し、複雑な背景をもつ著者が経験し真剣かつユーモラスに語る人種や国境、家族に関する困難を理解し考察することで現代社会の諸問題に当事者として向き合う強さと柔軟性を学び、クリティカルな読解力を総合的に身につける。		
2. 授業内容 第1回目：この授業の方法説明と作家紹介、最初の数頁を読んでみる（p.1～p.6, l.18）。対面授業 第2回目：予習テスト、解説（p.6, l.19～p.13）対面授業 第3回目：オンライン授業(1) 予習課題提出、動画配信、視聴後コメント提出（p.14～p.25, l.7） 第4回目：予習テスト、解説（p.25, l.8～p.34）対面授業 第5回目：予習テスト、解説（p.35～p.44, l.21）対面授業 第6回目：予習テスト、解説（p.44, l.22～p.56）対面授業 第7回目：オンライン授業(2) 動画配信、視聴後コメント提出（p.57～p.68, l.15）対面授業 第8回目：予習テスト、解説（p.68 l.16～p.80, l.4）対面授業 第9回目：予習テスト、解説（p.80, l.4～p.90）対面授業 第10回目：オンライン授業(3) 動画配信、視聴後コメント提出（p.91～p.109） 第11回目：予習テスト、解説（p.110～122, l.17）対面授業 第12回目：予習テスト、解説（p.122, l.18～p.131）対面授業 第13回目：オンライン授業(4) 動画配信、視聴後コメント提出（p.132～p.145） 第14回目：予習テスト、解説（p.146～p.151）学期末振り返りコメント（口頭）・ディスカッション。対面授業 対面授業の構成は以下の通り。 1. 予習テスト 予習内容を要約するテストを授業の最初に行います。 指定された予習箇所(10頁程度)になにが書いてあったか、20分程度でできるだけまとめて筆記します。 わからなかったところは「ここがわからない」とはっきり書く！ できることをできるかぎりやろう。 2. 解説と精読 予習箇所をクラスで読みます。予習テストの正解度もここで確認できます。 担当教員による予習箇所の説明・解説、参加者による音読・訳読、質疑応答を行います。 ときにディスカッションをまじえ、作家がなにを語ろうとしているのか、読み手はそれをどう受けとることができるか、テキストの背景でなにが起こっているのか、考えます。 社会背景や言及される事物についてのミニ講義や映像資料による説明を適宜加える。 オンライン授業の構成は以下の通り。 1. 速読解説 オンライン授業では担当教員がスピード感をもってテキストを読み、解説し、講義する動画を配信します。 テキストを開いて音声を聞きながら一緒に速読し、わからない表現があったら急いでメモ、あとで辞書等で調べて、授業時間内にたくさん読む！ 動画中の資料映像も参照して自分で読み進めます。 2. 課題提出 動画視聴後に設定課題の設問解答や視聴コメントを提出することで平常点の評価対象となります。 休日と重なるなどオンライン授業前後の週に余裕があるときは、あらかじめ予習要約を提出してもらってのち上記課題を行う。 ＊各回の方法とページ割は進行状況により調整することがありますので、授業中連絡とクラスウェブのお知らせに注意のこと。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		

3. 履修上の注意 オンラインによる授業について： この授業はメディア授業を一部とりいれたかたちで行われます。対面授業の回とメディア授業の回があるのでシラバスおよび「授業お知らせ」に注意してください。困ったことがあった場合は Oh-o! Meiji のポートフォリオの授業振り返りコメントより担当教員に相談してください。 メディア授業の場合は基本的にオンデマンド型（動画配信）で行います。視聴前後の課題提出内容を評価対象とし、提出がない場合は欠席とみなします。 辞書（電子でも紙でもいいです）： かならず持参する。授業中いくら引いてもかまいません。教室ではスマートフォンでオンライン辞書を引くことを原則禁止しますので、紙版ないし電子辞書を単体でもってきてください。 質問： 質問し考えを述べる回数を増やしましょう。自主的に発言すると授業参加パフォーマンスが◎になる！ なにか聞くぞ～とおもいながら授業に参加すべし！ 出席： 何回休んだら単位が出ないといった考え方はしたくないです。しかし出席がすくない方は単位を取得できない可能性があります。予習テストや質疑応答等、授業中パフォーマンスを重視するためです。 基本として 5 回以上休んだ方は単位が出ないと考えてください。病気等の特別な事情のある方はオンライン（ポートフォリオの授業振り返りコメント）で相談する・事情を証明する書類等を持参するなどのやりかたで事情を知らせてください。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 必須です。シラバス記載の毎回毎の該当ページを確認し、予習テストに備えてざっとでもいいので読んで、知らない単語やいいまわしを時間の許す範囲で調べてきてください（人により 30 分～2 時間程度必要）。 授業では音読、一部訳、説明、解釈などを求められますが、あらかじめすべてわかっている必要はありません。わからないところはどこか、明らかにすることが大事。わからない箇所について授業で行われる解説を聞くことで理解度が上がります。 復習 オンライン課題や期末レポートで言及するのによい、重要とおもわれる箇所を復習しておくことで、課題がこなしやすくなります（回により 15 分から 1 時間程度を予想）。不明点は授業中にできるだけ質問し明らかにして、重要なところをメモするなどし、復習に役立ててください。
5. 教科書 Jackie Kay Red Dust Road. Picador 2022
6. 参考書 中村和恵編『世界中のアフリカへ行こう——「旅する文化」のガイドブック』岩波書店、2009 その他授業中に随時お知らせします（たくさんありますよ！）
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンラインでの課題提出後に全体向けフィードバック・コメント紹介を教室で行い、他の履修生の考えや試みを知ることで学ぶ場をつくります。場合によってはオンラインでこれを行い、個別コメントを適宜付記します。 対面授業では毎回授業の終わりにコメント（リアクションペーパー）を書く機会を設け、翌週にその一部をクラスで紹介します。 学期最後の対面授業ではみなさんの視点を共有し相互に学ぶ機会として、振り返りコメント・ディスカッションの時間を設けます。進行状況により時間がない場合はオンラインで全体向けフィードバックを行います。
8. 成績評価の方法 平常点＝授業パフォーマンス（毎回の予習テスト、質問およびコメント、オンライン授業コメントの内容） 90% 期末レポート 10%
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		中村 和恵
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業概要 ある作家の自伝を一冊、1年で読み切るクラスです。学習用に加工された教科書ではなく、普通の英語読者用の本を読みます。秋学期は真ん中から最後まで。前半の概説を聞いてから始められるので、今学期だけの参加でも充分ついていけます。 びっくりするほど率直に人種、家族、愛情、生き方について語り、考える女性の、驚きの人生を追いかけてながら、英語読解力、そして社会と個人の困難に向き合う力をつけましょう。 全体には、自分に起きたことを語る話なので、平易で読みやすい文体です。しかし作家の文章ですから独特な言葉遣いや口語的表現があり、スコットランド訛りを反映した表現もときどき出てきます。作家の生みの父はナイジェリア人。ルーツを探す旅はびっくり仰天のナイジェリア旅行になり、現地のイボ語なども出てきます。ます。そうしたおもしろい特徴は解説しながら進めます。 オンライン授業をうまく活用しながら、下記授業内容欄に詳述する方法で速読と精読を組み合わせ読み進め、英語読解力がついたと実感できるプランになっています。一回づつできることをがんばれば、かならず半年後には以前より英語で読める人になります。 * 14 回の内 4 回を目安にオンライン（オンデマンド型）授業をとりいれる予定です。 授業お知らせやシラバスのスケジュール変更に注意すること。 到達目標 英語の一般書籍を自力で読み切ることで英語を読む力を維持・増強し、複雑な背景をもつ著者が経験し真剣かつユーモラスに語る人種や国境、家族に関する困難を理解し考察することで現代社会の諸問題に当事者として向き合う強さと柔軟性を学び、クリティカルな読解力を総合的に身につける。		
2. 授業内容 第 1 回目： 授業方法説明と作家紹介、春学期の概要紹介、後半最初の数頁を読んでみる（p. 152～p. 156 最後から 2 行目） 対面授業 第 2 回目： 予習テスト、解説（p. 156 最後の行～p. 166） 対面授業 第 3 回目： 予習テスト、解説（p. 167～p. 178） 対面授業 第 4 回目： オンライン授業（1） 動画配信、コメント提出（p. 179～p. 191, l. 9） 第 5 回目： 予習テスト、解説（p. 191, l. 10～p. 201） 対 面授業 第 6 回目： 予習テスト、解説（p. 202～p. 213 l. 6） 対面授業 第 7 回目： オンライン授業（2） 予習課題提出、動画配信、コメント提出（p. 213 l. 7～p. 226） 第 8 回目： 予習テスト、解説（p. 227～p. 236 下から 3 行目） 対面授業 第 9 回目： 予習テスト、解説（p. 236 下から 2 行目～p. 247 下から 10 行目） 対面授業 第 10 回目： オンライン授業（3） 動画配信、コメント提出（p. 247 下から 9 行目～p. 258, l. 11） 第 11 回目： 予習テスト、解説（p. 258, l. 12～p. 269 下から 7 行目） 対面授業 第 12 回目： 予習テスト、解説（p. 269 下から 7 行目～p. 279） 対面授業 第 13 回目： オンライン授業（4） 予習課題提出、動画配信、視聴後解答・コメント提出（p. 280～289 end） 第 14 回目： 課題フィードバック、テキスト全体の振り返り（口頭コメント） 対面授業 対面授業の構成は以下の通り。 1. 予習テスト 予習内容を要約するテストを授業の最初に行います。 指定された予習箇所(10 頁程度)になにが書いてあったか、20 分程度でできるだけまとめて筆記します。 わからなかったところは「ここがわからない」とはっきり書く！ できることをできるかぎりやろう。 2. 解説と精読 予習箇所をクラスで読みます。予習テストの正解度もここで確認できます。 担当教員による予習箇所の説明・解説、参加者による音読・訳読、質疑応答を行います。 ときにディスカッションをまじえ、作家がなにを語ろうとしているのか、読み手はそれをどう受けとることができるか、テキストの背景でなにが起こっているのか、考えます。 社会背景や言及される事物についてのミニ講義や映像資料による説明を適宜加える。 オンライン授業の構成は以下の通り。 1. 速読解説 オンライン授業では担当教員がスピード感をもってテキストを読み、解説し、講義する動画を配信します。 テキストを開いて音声聞きながら一緒に速読し、わからない表現があったら急いでメモ、あとで辞書等で調べて、授業時間内にたくさん読む！ 動画中の資料映像も参照して自分で読み進めます。 2. 課題提出 動画視聴後に設定課題の設問解答や視聴コメントを提出することで平常点の評価対象となります。 休日と重なるなどオンライン授業前後の週に余裕があるときは、あらかじめ予習要約を提出してもらってのち上記課題を行う。 * 各回の方法とページ割は進行状況により調整することがありますので、授業中連絡とクラスウェブのお知らせに注意のこと。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		

3. 履修上の注意

オンラインによる授業について： この授業はメディア授業を一部とりいれたかたちで行われます。対面授業の回とメディア授業の回があるのでシラバスおよび「授業お知らせ」に注意してください。困ったことがあった場合は Oh-o! Meiji のポートフォリオの授業振り返りコメントより担当教員に相談してください。

メディア授業の場合は基本的にオンデマンド型（動画配信）で行います。視聴前後の課題提出内容を評価対象とし、提出がない場合は欠席とみなします。

辞書（電子でも紙でもいいです）： かならず持参する。授業中いくら引いてもかまいません。教室ではスマートフォンでオンライン辞書を引くことを原則禁止しますので、紙版ないし電子辞書を単体でもってきてください。

質問： 質問し考えを述べる回数を増やしましょう。自主的に発言すると授業参加パフォーマンスが◎になる！ なにか聞くぞ～とおもいながら授業に参加すべし！

出席： 何回休んだら単位が出ないといった考え方はしたくないです。しかし出席がすくない方は単位を取得できない可能性があります。予習テストや質疑応答等、授業中パフォーマンスを重視するためです。

基本として 5 回以上休んだ方は単位が出ないと考えてください。病気等の特別な事情のある方はオンライン（ポートフォリオの授業振り返りコメント）で相談する・事情を証明する書類等を持参するなどのやりかたで事情を知らせてください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習 必須です。シラバス記載の毎回毎の該当ページを確認し、予習テストに備えてざっとでもいいので読んで、知らない単語やいいまわしを時間の許す範囲で調べてきてください（人により 30 分～2、3 時間程度必要）。

授業では音読、一部訳、説明、解釈などを求められますが、あらかじめすべてわかっている必要はありません。わからないところはどこか、明らかにすることが大事。わからない箇所について授業で行われる解説を聞くことで理解度が上がります。

復習 オンライン課題や期末レポートで言及するのによい、重要とおもわれる箇所を復習しておくことで、課題がこなしやすくなります（回により 15 分から 1 時間程度を予想）。不明点は授業中にできるだけ質問し明らかにして、重要なところをメモするなどし、復習に役立ててください。

5. 教科書

Jackie Kay Red Dust Road. Picador 2022

6. 参考書

中村和恵編『世界中のアフリカへ行こう——「旅する文化」のガイドブック』岩波書店、2009
その他授業中に随時お知らせします（たくさんありますよ！）

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンラインでの課題提出後に全体向けフィードバック・コメント紹介を教室で行い、他の履修生の考えや試みを知ることで学ぶ場をつくります。場合によってはオンラインでこれを行い、個別コメントを適宜付記します。

対面授業では毎回授業の終わりにコメント（リアクションペーパー）を書く機会を設け、翌週にその一部をクラスで紹介します。

学期最後の対面授業ではみなさんの視点を共有し相互に学ぶ機会として、振り返りコメント・ディスカッションの時間を設けます。進行状況により時間がない場合はオンラインで全体向けフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

平常点＝授業パフォーマンス（毎回の予習テスト、質問およびコメント、オンライン授業コメントの内容） 90%
期末レポート 10%

9. その他

* 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。

科目ナンバー：(LA) LAN211J		
English Seminar A I		西尾 洋子
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 William Shakespeare の喜劇『ヴェニスの商人』The Merchant of Venice をとりあげる。初めてシェイクスピアの原文に接する受講生にも無理のないよう、簡潔な註にしたがって丁寧に読み進め、詩的、劇的な効果を存分に味わいたい。芝居の台詞としての英語の音の響きも大切にしたいので、実際の上演舞台や映画を DVD で視聴しながら、全体像を把握しつつ進める。英語の語感を深く豊かに養うことを目指す。 シェイクスピアの中でもとりわけ人気の高いこの作品は、法をテーマに据え、民族、経済、恋愛、策略、正義など、現代にも通じる問題を鋭く問いかける。戯曲なので「読む」という行為にとどまらず、Listening, Speaking を通して立体的に作品を体感する機会を設ける。また、関連した他のシェイクスピア作品の一部も、鑑賞したり読み比べたりする予定。		
2. 授業内容 第 1 回：講義の概要と計画説明 第 2 回・3 回：イントロダクション（作品の全体像） 第 4 回～6 回：Act1 第 7 回：Act1 のまとめ 第 8 回～10 回：Act2 第 11 回：Act2 のまとめ 第 12 回・13 回：Act3 第 14 回：前期の総括、課題指示 必然的に授業外で各自が通読してくることが求められる。精読のために取り上げる英文はその都度、教科書の中から選択、もしくは講師側でプリントして配布する。必ず丹念に辞書を引いて読むこと。台詞としての英語のリズムやイントネーションにも配慮しながら、音読も実践していく。余地があれば新旧の批評も読みたい。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 出席重視。劇作品をテンポよく味わうためにも予習は必須です。辞書必携。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 英文のテキストを自分なりに精読予習しましょう。授業が一層味わい深くなります。語句調べは勿論のこと、音読も十分に。		
5. 教科書 William Shakespeare, Cambridge School Shakespeare : The Merchant of Venice (Cambridge University Press) New Edition		
6. 参考書 授業時に詳しく紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 主に授業時、教室にて直接、フィードバックと解説を行う。		
8. 成績評価の方法 学期末課題 (50%) と日常点 (50%) を総合評価。		
9. その他 シェイクスピアの喜劇『ヴェニスの商人』を通して、格調高い英文に触れ、劇世界の魅力を探究して下さい。スリリングで様々な発見に満ちた時間を作って行きましょう。 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAN211J		
English Seminar AⅡ		西尾 洋子
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 William Shakespeare の喜劇『ヴェニスの商人』The Merchant of Venice をとりあげる。初めてシェイクスピアの原文に接する受講生にも無理のないよう、簡潔な註にしたがって丁寧に読み進め、詩的、劇的な効果を存分に味わいたい。芝居の台詞としての英語の音の響きも大切にしたいので、実際の上演舞台や映画をDVDで視聴しながら、全体像を把握しつつ進める。英語の語感を深く豊かに養うことを目指す。 シェイクスピアの中でもとりわけ人気の高いこの作品は、法をテーマに据え、民族、経済、恋愛、策略、正義など、現代に通じる問題を鋭く問いかける。戯曲なので「読む」という行為にとどまらず、Listening, Speaking を通して立体的に作品を体感する機会を設ける。また、批評や関連作品の一場面を抜き出して鑑賞したり読み比べたりする時間も持ちたい。		
2. 授業内容 第1回：課題の受取、後期計画確認 第2回～4回：Act3 第5回：Act3 のまとめ 第6回～8回：Act4 第9回：Act4 のまとめ 第10回～12回：Act5 第13回：Act5 のまとめ 第14回：後期の総括 必然的に授業外で各自が通読してくることが求められる。精読のために取り上げる英文はその都度、教科書の中から選択、もしくは講師側でプリントして配布する。必ず丹念に辞書を引いて読むこと。台詞としての英語のリズムやイントネーションにも配慮しながら、音読も実践していく。余地があれば新旧の批評も読みたい。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 出席重視。劇作品をテンポよく味わうためにも予習は必須です。辞書必携。前期も併せて履修が望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 英文テキストを事前に精読してくること。授業が一層味わい深くなります。語句調べは勿論のこと、音読も十分に。		
5. 教科書 William Shakespeare, Cambridge School Shakespeare：The Merchant of Venice (Cambridge University Press) New Edition		
6. 参考書 授業時に詳しく紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 主に授業時、教室にて直接、返却、フィードバック、解説を行う。		
8. 成績評価の方法 学期末課題(50%)と日常点(50%)を総合評価。		
9. その他 学年末には「シェイクスピアを原文で読めた！」という充実感と達成感を味わって下さい。 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		西垣 学
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 アメリカ映画とその背景になっているアメリカの文化について理解を深め、併せてパワーポイントによるプレゼンテーションスキルも学ぶことが主な目標です。 課題の映画について自由に語り合うのが基本ですが、同時に映画の台詞を利用して英語の運用能力向上も図ります。具体的には引用可能なフレーズ、あるいはよく引用されるフレーズ、たとえば “Frankly, my dear, I don’ t give a damn.” (『風と共に去りぬ』) “I’ ve got a very bad feeling about this.” (『スター・ウォーズ』) “Life is like a box of chocolates.” (『フォレスト・ガンプ』) など英語による表現を学びます。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2～14回：担当学生による発表と全員による意見交換。 アメリカ映画におけるメタファー、キリスト、家族など、映画理解の基本となるテーマに沿った課題になる予定です。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 各自の研究発表やその後の意見交換など、授業への積極的な参加が求められます。英語の能力はほとんど必要ありませんが、映画が嫌いな学生、授業に参加せずに単位だけ欲しい学生には向きません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 課題作品を見て、自分の感じたこと、考えたことをまとめる。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 参考サイト www. imdb. com https://www. allcinema. net/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内にコメントします。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度 50%、授業への貢献度 50%）とにより評価します。人数的な制限のためにプレゼンテーションの機会が持てなかった受講生はレポートによる評価となります。		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		西垣 学
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 春学期と同様にアメリカ映画とその背景になっているアメリカの文化について理解を深め、併せてパワーポイントによるプレゼンテーションスキルも学ぶことが主な目標です。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2～14回：担当学生による発表と全員による意見交換。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 各自の研究発表やその後の意見交換など、授業への積極的な参加が求められます。英語の能力はほとんど必要ありませんが、映画が嫌いな学生、授業に参加せずに単位だけ欲しい学生には向きません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 課題作品を見て、自分の感じたこと、考えたことをまとめる。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 参考サイト www.imdb.com https://www.allcinema.net/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内にコメントします。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度 50%、授業への貢献度 30%）とレポート（20%）により評価します。人数的な制限によりプレゼンテーションの機会がなかった受講生はレポートによる評価となります。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		ハーパー, アラン G
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 In this seminar students will imagine that they are students taking part in an EFL study abroad/homestay program in an English-speaking country. Students will work together in small groups or pairs on activities that relate to preparing for and participating in an EFL study abroad/homestay program in an English-speaking country. In addition to completing textbook and worksheet-based activities, students will do a series of role plays and a final presentation to illustrate the different stages of an EFL study abroad/homestay program. Through these fun task-based activities, students should have plenty of opportunities to use and improve their English communicative abilities.		
2. 授業内容 第1回: Introduction and Orientation 第2回: Textbook Unit 1 Preparing to Leave-Group Role Play 1 第3回: Textbook Unit 2 Arriving at your Destination-Group Role Play 2 第4回: Textbook Unit 3 Meeting Your Host Family-Group Role Play 3 第5回: Textbook Unit 4 Experiencing Culture Shock-Group Role Play 4 第6回: Textbook Unit 5 Dormitory Life-Group Role Play 5 第7回: Textbook Unit 6 Making Friends-Group Role Play 6 第8回: Textbook Unit 7 Talking With People-Group Role Play 7 第9回: Textbook Unit 8 Dealing With Homesickness-Group Role Play 8 第10回: Textbook Unit 9 How do I Order Food?-Group Role Play 9 第11回: Textbook Unit 10 I Lost My Passport-Group Role Play 10 第12回: Textbook Unit 11 I Need to go to the Hospital-Group Role Play 11 第13回: Textbook Unit 12 I Don't Want to Leave-Group Role Play 12 第14回: Final Presentation * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. Regular attendance, completion of homework tasks, and active participation in the classes will be reflected in final grades. Students must show active participation in at least 50% of classes to pass (unless permission is given for absence). 7 or more absences without a valid excuse will result in no credit for this class.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students can expect to spend about 60 minutes outside of class on homework and class preparation for each class session		
5. 教科書 Communication Abroad Essential English for Study and Travel Simon Cookson/Chihiro Tajima Cengage Learning		
6. 参考書 Students will be encouraged to make use of the Internet and the library.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be done through in-class evaluations, written feedback from the teacher, and online feedback through digital means.		
8. 成績評価の方法 Group/Pair Role Plays (12x5%)=60% Final Presentation 20%		
9. その他 Any changes to class contents or other issues will be announced in class and/or announced on Syllabus Supplement page on Oh-o!Meiji. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		ハーパー, アラン G
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 In this seminar students will imagine that they are students taking part in an EFL study abroad/homestay program in an English-speaking country. Students will work together in small groups or pairs on activities that relate to preparing for and participating in an EFL study abroad/homestay program in an English-speaking country. In addition to completing textbook and worksheet-based activities, students will do a series of role plays and a final presentation to illustrate the different stages of an EFL study abroad/homestay program. Through these fun task-based activities, students should have plenty of opportunities to use and improve their English communicative abilities.		
2. 授業内容 第1回：Introduction and Orientation 第2回：Textbook Unit 1 Preparing to Leave-Group Role Play 1 第3回：Textbook Unit 2 Arriving at your Destination-Group Role Play 2 第4回：Textbook Unit 3 Meeting Your Host Family-Group Role Play 3 第5回：Textbook Unit 4 Experiencing Culture Shock-Group Role Play 4 第6回：Textbook Unit 5 Dormitory Life-Group Role Play 5 第7回：Textbook Unit 6 Making Friends-Group Role Play 6 第8回：Textbook Unit 7 Talking With People-Group Role Play 7 第9回：Textbook Unit 8 Dealing With Homesickness-Group Role Play 8 第10回：Textbook Unit 9 How do I Order Food?-Group Role Play 9 第11回：Textbook Unit 10 I Lost My Passport-Group Role Play 10 第12回：Textbook Unit 11 I Need to go to the Hospital-Group Role Play 11 第13回：Textbook Unit 12 I Don't Want to Leave-Group Role Play 12 第14回：Final Presentation * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. Regular attendance, completion of homework tasks, and active participation in the classes will be reflected in final grades. Students must show active participation in at least 50% of classes to pass (unless permission is given for absence). 7 or more absences without a valid excuse will result in no credit for this class.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students can expect to spend about 60 minutes outside of class on homework and class preparation for each class session.		
5. 教科書 Communication Abroad Essential English for Study and Travel Simon Cookson/Chihiro Tajima Cengage Learning		
6. 参考書 Students will be encouraged to make use of the Internet and the library.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be done through in-class evaluations, written feedback from the teacher, and online feedback through digital means		
8. 成績評価の方法 Group/Pair Role Plays (12x5%)=60% Final Presentation 20%		
9. その他 Any changes to class contents or other issues will be announced in class and/or announced on Syllabus Supplement page on Oh-o!Meiji. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		ハミルトン, ロバート
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 There are many sources through which Japanese students can learn about mainstream cultural trends in Western countries. This course will focus on non-mainstream or marginalized groups. Instead of examining dominant culture and media from the U.S.A. and England, we will look at articles, T.V. programs and short stories from countries such as Canada, Ireland, Scotland, Australia and New Zealand. We will also look at cultural works produced by groups that are marginalized by race, religion or lifestyle. In this context we will read texts and watch films and T.V. programs produced by gays and lesbians, Muslims, Hindus, Inuit, Aboriginal Australians and others. We will discuss the position of these works within society, and the way that identities are created within a larger culture.		
2. 授業内容 第1回: Introductions: What is marginalization? 第2回: Aspects of post-colonialism 第3回: Ireland I: Ireland's colonial history 第4回: Ireland II: Culture through resistance 第5回: Problems with post-colonial studies 第6回: Non-ethnic marginalization 第7回: Muslims in America and Britain I 第8回: Muslims in America and Britain II 第9回: Reclaiming language/traditions 第10回: Gay and Lesbian Culture in the West I 第11回: Gay and Lesbian Culture in the West II 第12回: Class and privilege 第13回: Final presentations and discussions I 第14回: Final presentations and discussions II * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. There will be readings or videos for various topics and then group discussions, presentations and debates. Students must be willing to speak about their own ideas and opinions. This means that much of the material needs to be studied before class so that discussion during class will progress smoothly.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Discussions and presentations are a key part of this class. Preparation is very important in order to make sure the classes run smoothly.		
5. 教科書 No textbook will be used, but there will be articles that students will need to download and read on a weekly basis.		
6. 参考書 Materials will be provided by the instructor.		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 Preparation for class/homework: 20% In-class discussions: 30% Presentations: 30% Written reports: 20%		
9. その他 This class will be conducted entirely in English. Failure to make an effort to communicate in English will result in an absence. Failure to complete homework before class will result in an absence. Students are responsible for checking Oh-Meiji for information between classes. All information about homework and assignments will be posted there. Being absent from a class is not an excuse to arrive to class with unfinished homework. If a student is absent from a class and then arrives to the next class with incomplete homework, that will count as two absences. Three absences will result in failure. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		ハミルトン, ロバート
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 This is a continuation of English Seminar AI. In the first semester, we studied about various marginalized people. In the second semester, students will focus on marginalized groups that they had selected and researched over the summer break.		
2. 授業内容 第1回: Review of summer research 第2回: Student-selected topic 第3回: Student-selected topic 第4回: Group organization 第5回: Group 1 presentation 第6回: Class discussion 第7回: Group 2 presentation 第8回: Class discussion 第9回: Group 3 presentation 第10回: Class discussion 第11回: Group 4 presentation 第12回: Class discussion 第13回: Peer editing reports 第14回: Final discussion * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. There will be readings or videos for various topics and then group discussions, presentations and debates. Students must be willing to speak about their own ideas and opinions. This means that much of the material needs to be studied before class so that discussion during class will progress smoothly.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should have taken English Seminar AI in the first semester before taking this class. If you wish to take this class, but did not enroll in English Seminar AI, please contact the professor before the summer break. This way you can catch up on the reading and work on the summer homework.		
5. 教科書 No textbook will be used, but there will be articles that students will need to download and read on a weekly basis.		
6. 参考書 Materials will be provided by the instructor.		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 Preparation for class/homework: 20% In-class discussions: 30% Presentations: 30% Written reports: 20%		
9. その他 This class will be conducted entirely in English. Failure to make an effort to communicate in English will result in an absence. Failure to complete homework before class will result in an absence. Students are responsible for checking Oh-Meiji for information between classes. All information about homework and assignments will be posted there. Being absent from a class is not an excuse to arrive to class with unfinished homework. If a student is absent from a class and then arrives to the next class with incomplete homework, that will count as two absences. Three absences will result in failure. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		マリッカル，F. A
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 The purpose of this course is to improve English communicative skills of the students, and develop their ability to think, ask questions and express their opinions. Students will increase their knowledge about controversial topics such as cloning technology, equal opportunity for men and women, children and television and so on. Students are exposed to different opinions on each issue and are encouraged to express their opinions as well. They will also be able to discuss these topics with their classmates and express their opinion. This course will also focus on strengthening their English abilities in the four skills: reading, writing, speaking and listening.		
2. 授業内容 第1回：Course Orientation and introductions. Guidelines for the classes, Discussion of the syllabus. 第2回：Unit 1 Cell phones: Do we use them too much? Answering the before you read questions. Reading the passage and answering the follow up questions. 第3回：Unit 1 continued. Listening practice. Answering the pros and cons of using cell phones, discussion tactics. 第4回：Unit 2 Freeters Can people be satisfied with a freeter lifestyle in the long term? Answering the before you read questions. Reading the passage and answering the follow up questions. 第5回：Unit 2 continued Listening practice. Discussing the positive and negative aspects of freeters. Discussion tactics. 第6回：Unit 3: The Olympic Games: Have they lost their meaning? Answering the before you read questions. Reading the Internet discussion and essay on Olympic games, answering the follow up questions. 第7回：Unit 3 continued listening practice, writing the reasons why Olympic Games have lost their meaning and reasons why they have not lost their meaning. 第8回：Unit 4: Marriage. Should people get married earlier? Discussing the before you read questions with your partner. Reading article written by an expert on marriage trends. 第9回：Unit 4 continued. Reading an opinion on marriage and answering the follow up questions. listening practice, completing the table with pros and cons of getting married earlier, discussion tactics. 第10回：Unit 5: Smoking and drinking: Should we do more to stop people smoking and drinking? Answering the before you read questions, reading the passage and answering the follow up questions. 第11回：Unit 5 continued. listening practice, discussing the reasons why we should do more to stop people smoking and drinking and the reasons why we should not. 第12回：Unit 6: English Should everyone learn it? Answering the before you read questions. reading the passage on whether or not everyone should learn English. 第13回：Unit 6 continued. listening practice, writing the pros and cons of everyone learning English, discussion tactics. 第14回：Final written examination and wrap up ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This class will be conducted in English and the students who wish to follow this class should be prepared to study in English. If you have any questions, you are free to talk to the teacher in Japanese before or after the class. The class contents and pace will be adjusted depending on the progress of the class.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 (1) Textbook (2) An English - English Dictionary or electronic dictionary (3) A notebook not loose leaf (4) Word cards for studying new vocabulary		
5. 教科書 Gillian Flaherty Which side are you on? Forming views and opinion (New Edition) Published by Seibido ISBN 978 - 4 - 7919 - 6028 - 6 Price: 2100 yen		
6. 参考書 To be announced by the teacher in class as and when necessary.		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 Active class participation - 20% Homework and assignments - 20% Class presentation - 20% Final written examination - 40%		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		マリッカル, F. A
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 In the second semester, students will develop what they have mastered in the first semester. They will continue to study different cultural issues to be able to conduct research and submit their findings in the form of a presentation at the end of the semester.		
2. 授業内容 第1回: Review of units covered in the first semester. Discussion of syllabus for the second semester 第2回: Unit 7: Exercise Is it good for everyone? Answering the before you read questions. Reading the passage and answering the follow up questions. 第3回: Unit 7 continued. Listening practice. Discussing the positive and negative aspects of exercise. Discussion tactics. 第4回: Unit 8: Divorce: Is it better than an unhappy marriage? Discussing and answering the before you read questions. Reading the passage on the interview and web page and answering the questions. 第5回: Unit 8 continued. Understanding the main ideas of the reading passage, listening practice and completing the table on the pros and cons of divorce. 第6回: Watching a movie and students write a summary and express their opinion about the movie. 第7回: Unit 9: Cars: Should we try to limit traffic in city centers? answering the before you read questions, reading the passage and understanding the main ideas. 第8回: Unit 9 continued. Listening practice. Discuss the pros and cons of limiting traffic in city centers and write them, discussion tactics. 第9回: Introduction to basic presentation techniques, students practice these techniques in class. Students are also guided to do research on social issues for their final presentation at the end of the semester. 第10回: Unit 10: Working parents: Should both parents work? Choosing the appropriate answer for the before you read questions. Reading the passage and answering the follow up questions. 第11回: Students decide on the topic for their final presentation and write the outline to be checked by the teacher 第12回: Unit 11: Computers: Should we continue to develop computer technology? Answering the before you read questions. Reading the passage and answer the follow up questions. 第13回: Unit 11 continued. Listening practice, discussing the reasons why we should continue to develop computer technology and reasons why we should not. 第14回: Wrap up and review, final individual presentations * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 Students who wish to follow this class should have sufficient proficiency to follow the course as it will be conducted in English. The pace of the class will be adjusted depending on the level of the students, If you have any questions, students are free to talk to the teacher before or after the class.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 To be announced on the first day of class.		
5. 教科書 Gillian Flaherty Which side are you on? Forming views and opinion (New Edition) Published by Seibido ISBN 978 - 4 - 7919 - 6028 - 6 Price: 2100 yen		
6. 参考書 (1) Textbook (2) An English English Dictionary or an electronic dictionary (3) Word cards for studying new vocabulary		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 Active class participation - 20% Homework and preparation - 20% Class Presentation - 20% Final written test - 40%		
9. その他 To be announced on the first day of class. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar A I		矢ヶ崎 淳子
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 The goal of this class is to help students improve mainly their reading skills in English. Students are expected to read an English book(s) of their choice and write a book review(s) in English. Students are also required to give a PowerPoint presentation of book review(s) in English in class so that their verbal communication skills will be enhanced. Students are expected to ask questions to the presenters in English after their presentations. Active classroom participation is required.		
2. 授業内容 Week 1: Introduction Week 2: Self-introduction Week 3: Round 1: Presentations Week 4: Presentations (1) Week 5: Presentations (2) Week 6: Presentations (3) Week 7: Presentations (4) Week 8: Presentations (5) Week 9: Round 2: Presentations Week 10: Presentations (6) Week 11: Presentations (7) Week 12: Presentations (8) Week 13: Presentations (9) Week 14: Presentations — Review The contents and schedule are subject to change.		
3. 履修上の注意 Regular attendance and active participation in classroom activities are strongly required. Students who are absent more than four times will not receive credits. The contents and schedule are subject to change.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading English books of one's choice at home, writing book reviews and preparing for the PowerPoint presentations. Submission of assignments.		
5. 教科書 Not specified.		
6. 参考書 Suggested in classroom if necessary.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback to assignments will be given in classroom when each student's presentation is given in class. Presentations are supposed to be based on the assignments.		
8. 成績評価の方法 The final grade will be decided in a comprehensive way based on an overall contribution to the classroom activities (20%), presentations (40%) and the book review(s) (40%).		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		矢ヶ崎 淳子
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 The goal of this class is to help students improve mainly their reading skills in English. Students are expected to read an English book(s) of their choice and write a book review(s) in English. Students are also required to give a PowerPoint presentation of book review(s) in English in class so that their verbal communication skills will be enhanced. Students are expected to ask questions to the presenters in English after their presentations. Active classroom participation is required.		
2. 授業内容 Week 1: Introduction Week 2: Presentation: Self-introduction/What I did during the summer Week 3: Round 1: Presentations Week 4: Presentations (1) Week 5: Presentations (2) Week 6: Presentations (3) Week 7: Presentations (4) Week 8: Presentations (5) Week 9: Round 2: Presentations Week 10: Presentations (6) Week 11: Presentations (7) Week 12: Presentations (8) Week 13: Presentations (9) Week 14: Presentations — Review The contents and schedule are subject to change.		
3. 履修上の注意 Regular attendance and active participation in classroom activities are strongly required. Students who are absent more than four times will not receive credits. The contents and schedule are subject to change. Preparation and Review		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading English books of one's choice at home, writing book reviews and preparing for the PowerPoint presentations. Submission of assignments.		
5. 教科書 Not specified.		
6. 参考書 Suggested in classroom if necessary.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback to assignments will be given in classroom when each student's presentation is given in class. Presentations are supposed to be based on the assignments.		
8. 成績評価の方法 The final grade will be decided in a comprehensive way based on an overall contribution to the classroom activities (20%), presentations (40%) and the book review(s) (40%).		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		山口 有実子
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 英語コミュニケーションに役立つリスニング能力の向上を目的とします。 アメリカの CNN ニュースを教材としたリスニング演習が中心ですが、授業の進行状況や受講者の興味関心に応じて、ニュース以外の映像や音声、TOEIC 形式のリスニング問題などを用いた演習も取り入れていきます。 ニュースについての意見交換、発表などのアクティビティを通して、グループワークやペアワークに積極的に取り組む態度やコミュニケーションスキルの向上も目指します。 【到達目標】 (1) 英語特有の強弱のリズムやイントネーションに慣れ、身近なニュースを英語で理解する力をつける。 (2) ニュース英語の理解に役立つ英語表現を身につける。 (3) 英語で収集した情報について、自分の考えを発信する力をつける。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第3回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第4回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第5回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第6回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第7回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第8回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第9回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第10回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第11回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第12回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第13回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第14回：春学期のまとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 20 分以上の遅刻、早退、中座は欠席とみなします。 遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。 4 回以上欠席すると単位取得は難しくなります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの語彙を予習して授業に参加すること。復習としてストーリーミング配信の映像を視聴して理解を深め、シャドーイング練習をして耳を鍛えましょう。		
5. 教科書 English for the Global Age with CNN 2025 Vol. 26 <CNN ビデオで見る世界のニュース(26)> (朝日出版社)		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 平常点(授業中の演習や宿題への取り組み)		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		山口 有実子
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 英語コミュニケーションに役立つリスニング能力の向上を目的とします。 外国語として英語を学んでいる学習者にも親しみやすい身近なニュース素材を教材としたリスニング演習が中心ですが、授業の進行状況や受講者の興味関心に応じて、ニュース以外の映像や音声、TOEIC 形式のリスニング問題などを用いた演習も取り入れていきます。 英語での意見交換、発表などのアクティビティを通して、英語を使ったグループワークやペアワークに積極的に取り組む態度やコミュニケーションスキルの向上も目指します。 【到達目標】 (1) 英語特有の強弱のリズムやイントネーションに慣れ、身近なニュースを英語で理解する力をつける。 (2) ニュース英語の理解に役立つ英語表現を身につける。 (3) 英語で収集した情報について、自分の考えを発信する力をつける。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第3回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第4回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第5回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第6回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第7回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第8回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第9回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第10回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第11回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第12回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第13回：ニュース映像を用いたリスニング演習等 第14回：春学期のまとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 20 分以上の遅刻、早退、中座は欠席とみなします。 遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。 4 回以上欠席すると単位取得は難しくなります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの語彙を予習して授業に参加すること。復習としてストリーミング配信の映像を視聴して理解を深め、シャドーイング練習をして耳を鍛えましょう。		
5. 教科書 English for the Global Age with CNN 2025 Vol. 26 <CNN ビデオで見る世界のニュース(26)> (朝日出版社)		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 平常点(授業中の演習や宿題への取り組み)		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		ランバッカー
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 “授業の到達目標及びテーマ” このセミナーでは、日米の社会と文化についての理解を深める。スポーツ、ファッション、食べ物、映画、音楽、政治、ビジネス、テクノロジーなどのトピックを歴史的な観点から考察することで、現代のアメリカと日本の社会と文化の本質的な側面に焦点を当てる。また、日米両文化の影響がいかにグローバルな次元に達しているかについても考察する。前期はアメリカの社会と文化に重点を置き、後期は異文化コミュニケーションに焦点を当てながら日本文化のトピックを紹介する。 “授業の概要” このコースを通して、学生は、自分の考えや意見を述べたり、宿題や教室での活動を通して、話す、聞く、読む、書く、語彙などの基礎的な英語力を向上させるなど、アメリカと日本の文化に関する重要な話題や問題を理解する力を養う。		
2. 授業内容 第1回：コースオリエンテーション 第2回：アメリカ音楽：進化と影響 第3回：アメリカ音楽：事例研究 第4回：アメリカ映画：ハリウッドとその先 第5回：アメリカ映画：ジャンルとトレンド 第6回：アメリカ料理：地域の多様性 第7回：アメリカ料理：世界的影響 第8回：アメリカスポーツ：国民的な情熱 第9回：アメリカファッション：トレンドとステートメント 第10回：アメリカビジネス：革新と起業家精神 第11回：アメリカビジネス：働き方文化とトレンド 第12回：アメリカ技術：過去、現在、そして未来 第13回：アメリカ技術：倫理的考慮 第14回：最終発表とレポート * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 学習意欲を持ち、積極的に参加することが望まれます。授業への参加は本コースに不可欠な要素であり、学生の最終成績に含まれる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 学生は、毎週の宿題を読み、書き、復習する。		
5. 教科書 教科書：(未定) Quizlet：(オンライン単語学習プログラム)		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 すべての課題は、タイムリーに採点され、学生に返却されます。		
8. 成績評価の方法 (1) 宿題と教室での課題：(30%) (2) 期末発表：(30%) (3) 最終レポート：(30%) (4) ポキャブラリーテスト (10%) 授業への参加と出席も最終成績に重要な役割を果たします。 5回以上の無断欠席がある場合は、単位を取得することができません。		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		ランバッカー
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 このセミナーでは、アメリカと日本の社会と文化について理解を深めることに重点を置く。スポーツ、ファッション、食、映画、音楽、政治、ビジネス、テクノロジーなど、日米両国に関連するトピックや問題を歴史的な観点から検証し、両国の本質的な側面に焦点を当てる。また、日米の文化がどのようにグローバルな次元に影響を及ぼしているかにも注目する。前期はアメリカの社会と文化に焦点を当て、後期は日本文化のトピックを紹介し、異文化コミュニケーションに焦点を当てる。 このコースを通して、学生は自分の考えや意見を述べたり、宿題や教室での活動を通して、話す、聞く、読む、書く、語彙などの基礎的な英語力を向上させるなど、アメリカや日本の文化に関する重要な話題や問題を理解する能力を養うことができる。		
2. 授業内容 第1回：コースオリエンテーション 第2回：日本の伝統的な祭り：祝いとその意義 第3回：日本文化とメディアにおける侍の役割 第4回：現代日本の音楽：J-POP とその先 第5回：日本のストリートファッション：原宿から世界への影響 第6回：日本のアニメ：世界的現象 第7回：日本の技術：革新と社会への影響 第8回：日本映画：黒沢明から現代の監督まで 第9回：漫画：日本のコミックの進化 第10回：日本の伝統的な芸術：茶道と書道 第11回：日本のアイドル文化：ファンとその文化 第12回：バーチャルリアルと日本のゲーム文化 第13回：日本のファッションが世界のトレンドに与える影響 第14回：最終発表とレポート * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 学習意欲を持ち、積極的に参加することが望まれます。授業への参加は本コースに不可欠な要素であり、学生の最終成績に含まれる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 学生は、毎週の宿題を読み、書き、復習する。		
5. 教科書 教科書：未定 Quizlet: Learning tool & flashcards, https://quizlet.com		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 すべての課題は、タイムリーに採点され、学生に返却されます。		
8. 成績評価の方法 (1) 宿題と教室での課題：(30%) (2) 期末発表：(40%) (3) レポート：(30%) (4) ポキャブラリーテスト (10%) また、授業への参加も最終成績に重要な役割を果たします。 5回以上の無断欠席がある場合は、単位を取得できません。		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		斎藤 英治
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 ニューヨークのブロードウェイは、アメリカの演劇およびミュージカルのメッカとして、数多くの名作を生み出してきました。一方、ハリウッドは、アメリカ映画の代名詞にもなっているように、大量の娯楽映画を送り出し、世界の映画ファンのハートをつかんできました。 この講義では、そのアメリカの2つの文化の融合である「ミュージカル映画」の秀作を通して、アメリカ社会の変化を学んでいきます。 春学期の授業では、現代のミュージカルのいしずえを築いた代表的な作品と、それらを創ったアーティストたちについて学びます。ニューヨークの音楽産業や演劇界についても学ぶことになるでしょう。 また、教科書の英文を読みながら、その背景となったアメリカの歴史や社会的背景を学ぶことも目標のひとつです。たとえば、最初に取り上げる『ウェスト・サイド物語』の場合、アメリカが移民社会であることや、根深い人種の偏見や人種間の対立があることなどを学べば、作品の理解が深まるでしょう。 教科書は、かなり歯ごたえのある英文で書かれています。それらの表現を通して、高度な読解力を身に着けることが到達目標のひとつです。また、作品の感想を英文で書くことで、ライティング力を高めることも目標になります。		
2. 授業内容 第1回：はじめに 第2回：ミュージカル映画とブロードウェイ 第3回：『ウェスト・サイド物語』とシェイクスピア 第4回：『ウェスト・サイド物語』と人種問題 第5回：『ウェストサイド物語』と『ウェスト・サイド・ストーリー』（リメイク） 第6回：『コーラスライン』と1970年代アメリカ 第7回：『コーラスライン』とサラダ・ボウルの概念 第8回：『コーラスライン』とオフ・ブロードウェイ 第9回：ブロードウェイの歴史 第10回：『レント』とジェンダーの問題 第11回：『レント』とジェントリフィケーション 第12回：英作文 第13回：ミュージカルの作詞・作曲家たち 第14回：a：まとめ b：試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業では、英語で作文を書いてもらうことがあります。また、テキストの予習や、言及した作品や文献をみずから調べることが必要になるでしょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で言及した文献や映画や舞台について、大学のAVライブラリーやDVDや配信等を利用してチェックすると、より深い理解の助けになると思います。。		
5. 教科書 Philip Zitwits 著, The Spirit of Broadway, The Spirit of America (英宝社) を教科書として使います。また、この教科書で扱われていない作品については、こちらで英文または和文のプリントを用意する予定です。		
6. 参考書 喜志哲雄『ミュージカルが《最高》であった頃』（晶文社） 高良結香『ブロードウェイ 夢と戦いの日々』（武田ランダムハウス・ジャパン）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間に提出された英作文については、こちらで添削して、コメントを加えてお返しするようにしています。また、期末試験など、授業に関する質問については、メールでも問い合わせが可能です。		
8. 成績評価の方法 平常点が45パーセント、試験（または課題）が55パーセントの予定です。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		斎藤 英治
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ニューヨークのブロードウェイは、アメリカの演劇およびミュージカルのメッカとして、数多くの名作を生み出してきました。一方、ハリウッドは、アメリカ映画の代名詞にもなっているように、大量の娯楽映画を送り出し、世界の映画ファンのハートをつかんできました。 この講義では、そのアメリカの2つの文化の融合である「ミュージカル映画」の秀作を通して、アメリカ社会の変化を学んでいきます。 秋学期の授業は、1980年代に一世を風靡したロンドン発のミュージカルから始まります。人気ミュージカル『キャッツ』を通して、作曲家アンドリュー・ロイド・ウェバーや、80年代の新しいミュージカルの傾向を学びます。『レ・ミゼラブル』では、法と正義や、経済格差などの社会的なテーマにも目を向けることになるでしょう。また、『ライオンキング』では、野心的なアダプテーションの成功例を分析することになります。さらに、ディズニーのブロードウェイ進出の功罪も考えることになるでしょう。 教科書は、かなり歯ごたえのある英文で書かれています。それを読むことで、高い読解力を身に着けるのが到達目標のひとつです。さらに、作品の感想を英語で書く訓練をすることで、ライティング能力を高めることも目標です。		
2. 授業内容 第1回：はじめに 第2回：ロンドン・ミュージカルとは？ 第3回：『キャッツ』と人間社会の寓話 第4回：『キャッツ』とコンセプト・ミュージカル 第5回：『レ・ミゼラブル』とワーク・ソング 第6回：『レ・ミゼラブル』における法と正義 第7回：『レ・ミゼラブル』と格差社会の寓話 第8回：「夢破れて」と「民衆の歌」など 第9回：1980年代のミュージカル復権 第10回：『ライオンキング』とディズニーのブロードウェイ進出 第11回：『ライオンキング』と野心的なアダプテーションの成功例 第12回：ブロードウェイ・ミュージカル史を振り返る 第13回：英作文 第14回：a：まとめ b：試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業では、英語で作文を書いてもらうことがあります。また、ミュージカル史に関する日本語の文献を使うこともあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で言及した文献や映画や舞台について、興味を覚えた方は、大学のAVライブラリーやDVDや配信を利用して、作品をチェックすることを薦めます。		
5. 教科書 Philip Zitwits 著, The Spirit of Broadway, The Spirit of America (英宝社) が教科書です。そこで扱われていない作品については、こちらで英文・和文のプリントを用意する予定です。		
6. 参考書 小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で提出してもらう英作文については、添削の上コメントを添えてお返しします。また、期末試験など、授業に関する質問は、メールでも問い合わせてもらえれば、個別に答えていきます。		
8. 成績評価の方法 平常点が45パーセント、期末試験が55パーセントの予定です。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		ダン, ジェームス D
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 This class will be delivered using practical and collaborative teaching styles. In this course students will learn and practice the art of critical thinking and logic with an emphasis on Media Literacy. Students will participate in debates, discussions, and give presentations on various topics. Most of the course will focus on the in-class examination of information presented to us in our daily lives. Students will be taught Reaction Paper-writing, skills for making good opinions, and logic/critical thinking skills.		
2. 授業内容 第1回: Introduction to class with example discussion 第2回: Media Literacy and Critical Thinking 第3回: Media Literacy in Ads and News 第4回: Examples and Discussion A 第5回: Examples and Discussion B 第6回: Writing a Reaction Paper 第7回: Mid-Term: Timed Writing 第8回: Media Literacy: Conspiracies 第9回: Examples and Discussion C 第10回: Examples and Discussion D 第11回: Media Literacy: Social Media 第12回: Examples and Discussion E 第13回: Final Preparation: Topic Choice/Research 第14回: Final: Timed Writing * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. Regular attendance, completion of homework tasks, and active participation in the classes will be reflected in final grades. Students must show active participation in 75% of classes to pass (unless permission is given for absence).		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students can expect to spend 60-90 minutes outside of class on homework and class preparation for each class session.		
5. 教科書 All materials will be provided by the instructor.		
6. 参考書 Students will be encouraged to make use of the Internet and the library.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be done through in-class evaluations, written feedback from the teacher, and online feedback through digital means.		
8. 成績評価の方法 The final grade will be based on: Homework tasks & general participation (50%) Midterm test (20%). Final test (30%).		
9. その他 Any changes to class contents or other issues due to novel coronavirus situation will be announced in class and announced on Syllabus Supplement page on Oh-o!Meiji. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		ダン, ジェームス D
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 This class will be delivered using practical and collaborative teaching styles. In this course students will learn and practice the art of critical thinking and logic with an emphasis on Media Literacy. Students will participate in debates, discussions, and give presentations on various topics. Most of the course will focus on the in-class examination of information presented to us in our daily lives. Students will be taught Reaction Paper-writing, skills for making good opinions, and logic/critical thinking skills.		
2. 授業内容 第1回: Introduction to class with example discussion 第2回: Media Literacy and Critical Thinking 第3回: Media Literacy in Ads and News 2 第4回: Examples and Discussion A 第5回: Examples and Discussion B 第6回: Writing a Reaction Paper Review & Expansion 第7回: Mid-Term: Timed Writing 第8回: Media Literacy: Pod Casts 第9回: Examples and Discussion C 第10回: Examples and Discussion D 第11回: Media Literacy: Social Media 2 第12回: Examples and Discussion E 第13回: Final Preparation: Topic Choice/Research 第14回: Final: Timed Writing * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in ENGLISH. Regular attendance, completion of homework tasks, and active participation in the classes will be reflected in final grades. Students must show active participation in 75% of classes to pass (unless permission is given for absence).		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will spend 1- 2 hours a week preparing for class.		
5. 教科書 All materials will be provided by the instructor.		
6. 参考書 Students will be encouraged to make use of the Internet and the library.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be done through in-class evaluations, written feedback from the teacher, and online feedback through digital means.		
8. 成績評価の方法 The final grade will be based on: Homework tasks and participation (50%) Midterm test (20%). Final test (30%).		
9. その他 Any changes to class contents or other issues due to novel coronavirus situation will be announced in class and announced on Syllabus Supplement page on Oh-o!Meiji. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAN211J		
English Seminar AI		辻岡 宏子
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 身近なテーマを通して、バランスの取れた4技能の向上を目指すクラスです。 グループワークを中心に、アカデミックな言語とスキルを身につけることを目標として、クリティカルシンキングやプレゼンテーション等に取り組みます。 毎回課される課題により、ストラテジーなど学習したスキルの定着をはかります。		
2. 授業内容 第1回: Electronic devices 第2回: Health and fitness 第3回: On the phone 第4回: Household chores 第5回: Environmental protection & presentations 第6回: Bargaining for fun 第7回: Mid-term 第8回: Culture shock 第9回: School activities 第10回: Asking for directions 第11回: Touring spots 第12回: Studying abroad 第13回: Final 第14回: Review * 第1-5, 10, 11, 13回は対面授業、それ以外オンデマンドの予定。ただし、変更の可能性があるため授業での告知を都度確認すること。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 履修希望の学生は初回に出席してください。 初回にグループとプレゼンテーションのテーマを決め、翌週以降、プレゼンテーションを行います。 毎回、デバイス（スマートフォン、PC、タブレット等）を持参してください。 授業に出席しない場合は理由にかかわらず欠席とします。 30分以上の遅刻は欠席扱いです。 評価は授業参加度を含む平常評価で、3回以上欠席すると単位取得は難しくなります。 オンデマンドと対面授業の回は日程変更の可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の学習テーマについて身の回りの事柄と関連付けられるようニュース等に注意を払う。 授業で学習した表現や論理構成を宿題や発表の際に使用する。		
5. 教科書 Live Escalate 3 Summit, (Kadoyama, 2022、Seibido)		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブの機能を活用し、授業時間内及び授業終了後に課題や質疑の内容を共有し、クラス内で意見交換の場を設けます。 授業用メールアドレスを公開し、個別の質疑や相談に対応します。		
8. 成績評価の方法 平常点（試験、プレゼンテーション、課題、授業・グループへの貢献度等）		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAN211J		
English Seminar AⅡ		辻岡 宏子
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 様々なトピックを通して、クリティカルシンキングにつながる高度なリーディング力を養うクラスです。 オンライン課題を用いて効率的な学習を進め、受動的スキルだけでなく、社会の様々なコミュニケーションの場において必要となるプレゼンテーション、ディスカッション、ライティングなどの能動的スキルの向上も目指します。 毎回課される課題により、ストラテジーなど学習したスキルの定着をはかります。 グループワーク、ペアワーク中心の授業です。		
2. 授業内容 第1回：Introduction, Marketing 1 第2回：Marketing 2 第3回：Psychology & group presentations 第4回：Group presentations 第5回：Social psychology 第6回：Technology 1 第7回：Technology2 第8回：Business 第9回：Mid-term 第10回：Brain Science 第11回：Environmental Science 第12回：Final 第13回：Public Health 第14回：Review * 第1-5, 11, 12, 14回は対面授業、それ以外オンデマンドの予定。ただし、変更の可能性があるため授業での告知を都度確認すること。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 履修希望の学生は初回に出席してください。 初回の授業でグループとプレゼンテーションのトピックを決め、翌週以降、グループプレゼンテーションを行います。 毎週、課題が課され、当日または翌週の授業でフィードバックを行います。 毎回、デバイス（スマートフォン、PC、タブレット等）を用意してください。 授業に出席しない場合は理由にかかわらず欠席とします。 30分以上の遅刻は欠席扱いです。 評価は授業参加度を含む平常評価で、3回以上欠席すると単位取得は難しくなります。 オンデマンドと対面授業の回は日程変更の可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の学習テーマについて身の回りの事柄と関連付けられるようニュース等に注意を払う。 授業で学習した表現や論理構成を宿題や発表の際に使用する。		
5. 教科書 Skills for Success 2 Reading & Writing (McVeigh, 2020, Oxford Press)		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブの機能を活用し、授業時間内及び授業終了後に課題や質疑の内容を共有し、クラス内で意見交換の場を設けます。 授業用メールアドレスを公開し、個別の質疑や相談に対応します。		
8. 成績評価の方法 平常点（試験、プレゼンテーション、課題、授業・グループへの貢献度等）		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AI		中村 和恵
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業概要 ある作家の自伝を一冊、1年で読み切るクラスです。学習用に加工された教科書ではなく、普通の英語読者用の本を読みます。春学期は最初から半分まで。それだけの参加でも得ることはたくさんあります。 びっくりするほど率直に人種、家族、愛情、生き方について語り、考える女性の、驚きの人生を追いかけてながら、英語読解力、そして社会と個人の困難に向き合う力をつけましょう。 全体には、自分に起きたことを語る話なので、平易で読みやすい文体です。しかし作家の文章ですから独特な言葉遣いや口語的表現があり、スコットランド訛りを反映した表現もときどき出てきます。作家の生みの父はナイジェリア人。ルーツを探す旅はびっくり仰天のナイジェリア旅行になり、現地のイボ語なども出てきます。ます。そうしたおもしろい特徴は解説しながら進めます。 オンライン授業をうまく活用しながら、第一回目の授業内容に詳述する方法で速読と精読を組み合わせ読み進め、英語読解力がついたと実感できるプランになっています。一回づつできることをがんばれば、かならず半年後には以前より英語で読める人になります。 ＊14回の内4回を目安にオンライン（オンデマンド型）授業をとりいれる予定です。 授業お知らせやシラバスのスケジュール変更に注意すること。 到達目標 英語の一般書籍を自力で読み切ることで英語を読む力を維持・増強し、複雑な背景をもつ著者が経験し真剣かつユーモラスに語る人種や国境、家族に関する困難を理解し考察することで現代社会の諸問題に当事者として向き合う強さと柔軟性を学び、クリティカルな読解力を総合的に身につける。		
2. 授業内容 第1回目：この授業の方法説明と作家紹介、最初の数頁を読んでみる（p.1～p.6, l.18）。対面授業 第2回目：予習テスト、解説（p.6, l.19～p.13） 対面授業 第3回目：予習テスト、解説（p.14～p.25, l.7） 対面授業 第4回目：オンライン授業(1) 予習課題提出、動画配信、視聴後コメント提出（p.25, l.8～p.39, l.3） 第5回目：予習テスト、解説（p.39, l.4～p.48） 対面授業 第6回目：予習テスト、解説（p.49～p.58） 対面授業 第7回目：オンライン授業(2) 動画配信、視聴後コメント提出（p.59～p.68, l.15） 第8回目：予習テスト、解説（p.68 l.16～p.80, l.4） 対面授業 第9回目：予習テスト、解説（p.80, l.4～p.90） 対面授業 第10回目：オンライン授業(3) 動画配信、視聴後コメント提出（p.91～p.109） 第11回目：予習テスト、解説（p.110～122, l.17） 対面授業 第12回目：予習テスト、解説（p.122, l.18～p.131） 対面授業 第13回目：オンライン授業(4) 動画配信、視聴後コメント提出（p.132～p.145） 第14回目：予習テスト、解説（p.146～p.151） 学期末振り返りコメント（口頭）・ディスカッション 対面授業 対面授業の構成 1. 予習テスト 予習内容を要約するテストを授業の最初に行います。 指定された予習箇所(10頁程度)になにが書いてあったか、20分程度でできるだけまとめて筆記します。 わからなかったところは「ここがわからない」とはっきり書く！ できることをできるかぎりやろう。 2. 解説と精読 予習箇所をクラスで読みます。予習テストの正解度もここで確認できます。 担当教員による予習箇所の説明・解説、参加者による音読・訳読、質疑応答を行います。 ときにディスカッションをまじえ、作家がなにを語ろうとしているのか、読み手はそれをどう受けとることができるか、テキストの背景でなにが起こっているのか、考えます。 社会背景や言及される事物についてのミニ講義や映像資料による説明を適宜加える。 オンライン授業の構成 1. 速読解説 オンライン授業では担当教員がスピード感をもってテキストを読み、解説し、講義する動画を配信します。 テキストを開いて音声を聞きながら一緒に速読し、わからない表現があったら急いでメモ、あとで辞書等で調べて、授業時間内にたくさん読む！ 動画中の資料映像も参照して自分で読み進めます。 2. 課題提出 動画視聴後に設定課題の設問解答や視聴コメントを提出することで平常点の評価対象となります。 休日と重なるなどオンライン授業前後の週に余裕があるときは、あらかじめ予習要約を提出してもらってのち上記課題を行う。 ＊各回の方法とページ割は進行状況により調整することがありますので、授業中連絡とクラスウェブのお知らせに注意のこと。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		

3. 履修上の注意

オンラインによる授業について： この授業はメディア授業を一部とりいれたかたちで行われます。対面授業の回とメディア授業の回があるのでシラバスおよび「授業お知らせ」に注意してください。困ったことがあった場合は Oh-o! Meiji のポートフォリオの授業振り返りコメント等により担当教員に相談してください。

メディア授業の場合は基本的にオンデマンド型（動画配信）で行います。視聴前後の課題提出内容を評価対象とし、提出がない場合は欠席とみなします。

辞書（電子でも紙でもいいです）： かならず持参する。予習テストに大変役立つでしょう！ 授業中いくら引いてもかまいません。教室ではスマートフォンでオンライン辞書を引くことを原則禁止しますので、紙版ないし電子辞書を単体でもってきてください。

質問： 質問し考えを述べる回数を増やしましょう。自主的に発言すると授業参加パフォーマンスが◎になる！ なにか聞かず～とおもいながら授業に参加すべし！

出席： 何回休んだら単位が出ないといった考え方はしたくないです。しかし出席がすくない方は単位を取得できない可能性があります。予習テストや質疑応答等、授業中パフォーマンスを重視するためです。

基本として 5 回以上休んだ方は単位が出ないと考えてください。病気等の特別な事情のある方はオンライン（ポートフォリオの授業振り返りコメント）で相談する・事情を証明する書類等を持参するなどのやりかたで事情を知らせてください。

やむをえない事情がある人の場合、対面授業の予習要約をポートフォリオの授業振り返りコメントに提出すれば、評価対象になります（出席して授業参加した場合の半分の評価点がつきます）。このやりかたでの「半分だけ参加」は 4 回まで有効です。予習要約には当該授業の日付と頁を明記し、前に書いたものがあればそれは消さず、その上に一行あけて新たに書き加えて送信してください。詳しくは授業で説明します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習 必須です。シラバス記載の毎回毎の該当ページを確認し、予習テストに備えてざっとでもいいので読んで、知らない単語やいいまわしを時間の許す範囲で調べてきてください（人により 30 分～2 時間程度必要）。

授業では音読、一部訳、説明、解釈などを求められますが、あらかじめすべてわかっている必要はありません。わからないところはどこか、明らかにすることが大事。わからない箇所について授業で行われる解説を聞くことで理解度が上がります。

復習 オンライン課題や期末レポートで言及するのによい、重要とおもわれる箇所を復習しておくことで、課題がこなしやすくなります（回により 15 分から 1 時間程度を予想）。不明点は授業中にできるだけ質問し明らかにして、重要なところをメモするなどし、復習に役立ててください。

5. 教科書

Jackie Kay Red Dust Road. Picador 2022

6. 参考書

中村和恵編『世界中のアフリカへ行こう——「旅する文化」のガイドブック』岩波書店、2009
その他授業中に随時お知らせします（たくさんありますよ！）

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンラインでの課題提出後には全体向けフィードバックを教室で行い、他の履修生の考えや試みを知ることで学ぶ場をつくります。場合によってはオンラインでこれを行い、個別コメントを適宜付記します。

対面授業では毎回授業の終わりにコメント（リアクションペーパー）を書く機会を設け、翌週にその一部をクラスで紹介します。

学期最後の対面授業ではみなさんの視点を共有し相互に学ぶ機会として、振り返りコメント・ディスカッションの時間を設けます。進行状況により時間がない場合はオンラインで全体向けフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

平常点＝授業パフォーマンス（毎回の予習テスト、質問およびコメント、オンライン授業コメントの内容） 90%
期末レポート 10%

9. その他

* 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
English Seminar AⅡ		中村 和恵
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業概要 ある作家の自伝を一冊、1年で読み切るクラスです。学習用に加工された教科書ではなく、普通の英語読者用の本を読みます。秋学期は真ん中から最後で。最初に前半の概要説明をします。秋学期だけの履修でも充分ついてこれます。 びっくりするほど率直に人種、家族、愛情、生き方について語り、考える女性の、驚きの人生を追いかけながら、英語読解力、そして社会と個人の困難に向き合う力をつけましょう。 全体には、自分に起きたことを語る話なので、平易で読みやすい文体です。しかし作家の文章ですから独特な言葉遣いや口語的表現があり、スコットランド訛りを反映した表現もときどき出てきます。作家の生みの父はナイジェリア人。ルーツを探す旅はびっくり仰天のナイジェリア旅行になり、現地のイボ語なども出てきます。ます。そうしたおもしろい特徴は解説しながら進めます。 オンライン授業をうまく活用しながら、第一回目の授業内容に詳述する方法で速読と精読を組み合わせ読み進め、英語読解力がついたと実感できるプランになっています。一回づつできることをがんばれば、かならず半年後には以前より英語で読める人になります。 ＊14回の内4回を目安にオンライン（オンデマンド型）授業をとりいれる予定です。 授業お知らせやシラバスのスケジュール変更に注意すること。 到達目標 英語の一般書籍を自力で読み切ることで英語を読む力を維持・増強し、複雑な背景をもつ著者が経験し真剣かつユーモラスに語る人種や国境、家族に関する困難を理解し考察することで現代社会の諸問題に当事者として向き合う強さと柔軟性を学び、クリティカルな読解力を総合的に身につける。		
2. 授業内容 第1回目： 授業方法説明と作家紹介、春学期の概要紹介、後半最初の数頁を読んでみる（p.152～p.156 最後から2行目） 対面授業 第2回目： 予習テスト、解説（p.156 最後の行～p.166） 対面授業 第3回目： オンライン授業（1） 動画配信、コメント提出（p.167～p.179） 第4回目： 予習テスト、解説（p.180～p.191, l.9） 対面授業 第5回目： 予習テスト、解説（p.191, l.10～p.201） 対面授業 第6回目： 予習テスト、解説（p.202～p.213 l.6） 対面授業 第7回目： オンライン授業（2） 動画配信、コメント提出（p.213 l.7～p.226） 第8回目： 予習テスト、解説（p.227～p.236 下から3行目） 対面授業 第9回目： 予習テスト、解説（p.236 下から2行目～p.247 下から10行目） 対面授業 第10回目： オンライン授業（3） 動画配信、コメント提出（p.247 下から9行目～p.258, l.11） 第11回目： 予習テスト、解説（p.258, l.12～p.269 下から7行目） 対面授業 第12回目： 予習テスト、解説（p.269 下から7行目～p.279） 対面授業 第13回目： オンライン授業（4） 予習課題提出、動画配信、視聴後解答・コメント提出（p.280～289 end） 第14回目： 課題フィードバック、テキスト全体の振り返り（口頭コメント） 対面授業 対面授業の構成は以下の通り。 1. 予習テスト 予習内容を要約するテストを授業の最初に行います。 指定された予習箇所(10頁程度)になにが書いてあったか、20分程度でできるだけまとめて筆記します。 わからなかったところは「ここがわからない」とはっきり書く！ できることをできるかぎりやろう。 2. 解説と精読 予習箇所をクラスで読みます。予習テストの正解度もここで確認できます。 担当教員による予習箇所の説明・解説、参加者による音読・訳読、質疑応答を行います。 ときにディスカッションをまじえ、作家がなにを語ろうとしているのか、読み手はそれをどう受けとることができるか、テキストの背景でなにが起こっているのか、考えます。 社会背景や言及される事象についてのミニ講義や映像資料による説明を適宜加える。 オンライン授業の構成は以下の通り。 1. 速読解説 オンライン授業では担当教員がスピード感をもってテキストを読み、解説し、講義する動画を配信します。 テキストを開いて音声聞きながら一緒に速読し、わからない表現があったら急いでメモ、あとで辞書等で調べて、授業時間内にたくさん読む！ 動画中の資料映像も参照して自分で読み進めます。 2. 課題提出 動画視聴後に設定課題の設問解答や視聴コメントを提出することで平常点の評価対象となります。 休日と重なるなどオンライン授業前後の週に余裕があるときは、あらかじめ予習要約を提出してもらってのち上記課題を行う。 ＊各回の方法とページ割は進行状況により調整することがありますので、授業中連絡とクラスウェブのお知らせに注意のこと。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		

3. 履修上の注意

オンラインによる授業について： この授業はメディア授業を一部とりいれたかたちで行われます。対面授業の回とメディア授業の回があるのでシラバスおよび「授業お知らせ」に注意してください。困ったことがあった場合は Oh-o! Meiji のポートフォリオの授業振り返りコメントより担当教員に相談してください。

メディア授業の場合は基本的にオンデマンド型（動画配信）で行います。視聴前後の課題提出内容を評価対象とし、提出がない場合は欠席とみなします。

辞書（電子でも紙でもいいです）： かならず持参する。授業中いくら引いてもかまいません。教室ではスマートフォンでオンライン辞書を引くことを原則禁止しますので、紙版ないし電子辞書を単体でもってきてください。

質問： 質問し考えを述べる回数を増やしましょう。自主的に発言すると授業参加パフォーマンスが◎になる！ なにか聞くぞ～とおもいながら授業に参加すべし！

出席： 何回休んだら単位が出ないといった考え方はしたくないです。しかし出席がすくない方は単位を取得できない可能性があります。予習テストや質疑応答等、授業中パフォーマンスを重視するためです。

基本として 5 回以上休んだ方は単位が出ないと考えてください。病気等の特別な事情のある方はオンライン（ポートフォリオの授業振り返りコメント）で相談する・事情を証明する書類等を持参するなどのやりかたで事情を知らせてください。

やむをえない事情がある人の場合、対面授業の予習要約をポートフォリオの授業振り返りコメントに提出すれば、評価対象になります（出席して授業参加した場合の半分の評価点がつきます）。このやりかたでの「半分だけ参加」は 4 回まで有効です。予習要約には当該授業の日付と頁を明記し、前に書いたものがあればそれは消さず、その上に一行あけて新たに書き加えて送信してください。詳しくは授業で説明します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習 必須です。シラバス記載の毎回毎の該当ページを確認し、予習テストに備えてざっとでもいいので読んで、知らない単語やいいまわしを時間の許す範囲で調べてきてください（人により 30 分～2、3 時間程度必要）。

授業では音読、一部訳、説明、解釈などを求められますが、あらかじめすべてわかっている必要はありません。わからないところはどこか、明らかにすることが大事。わからない箇所について授業で行われる解説を聞くことで理解度が上がります。

復習 オンライン課題や期末レポートで言及するのによい、重要とおもわれる箇所を復習しておくことで、課題がこなしやすくなります（回により 15 分から 1 時間程度を予想）。不明点は授業中にできるだけ質問し明らかにして、重要なところをメモするなどし、復習に役立ててください。

5. 教科書

Jackie Kay Red Dust Road. Picador 2022

6. 参考書

中村和恵編『世界中のアフリカへ行く——「旅する文化」のガイドブック』岩波書店、2009
その他授業中に随時お知らせします（たくさんありますよ！）

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンラインでの課題提出後に全体向けフィードバック・コメント紹介を教室で行い、他の履修生の考えや試みを知ることで学ぶ場をつくります。場合によってはオンラインでこれを行い、個別コメントを適宜付記します。

対面授業では毎回授業の終わりにコメント（リアクションペーパー）を書く機会を設け、翌週にその一部をクラスで紹介します。

学期最後の対面授業ではみなさんの視点を共有し相互に学ぶ機会として、振り返りコメント・ディスカッションの時間を設けます。進行状況により時間がない場合はオンラインで全体向けフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

平常点＝授業パフォーマンス（毎回の予習テスト、質問およびコメント、オンライン授業コメントの内容） 90%
期末レポート 10%

9. その他

* 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
P r e s e n t a t i o n A I		五所 万実
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、パブリックスピーキングについて体系的に学び、英語による効果的なプレゼンテーションスキルの向上を目指す。前期は、プレゼンテーションの基本構成を学び、発表の流れや組み立て方を理解する。特に、明確な主張と論理的な構成を踏まえたスクリプトの作成に重点を置く。 【到達目標】 (1)プレゼンテーションの基本構成を理解し、論理的な流れを作ることができる。 (2)適切な語彙や表現を用いて、英語のスクリプト（スライド）を作成できる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（授業の内容・進め方、評価方法、教員紹介） 第2回：自己紹介 第3回：パブリックスピーキングの種類 第4回：TED Talks 分析・模倣演習 第5回：プレゼンテーションの構成と組み立て方 第6回：スクリプトの作成（論理的な流れの作り方） 第7回：スクリプトの作成（エビデンスの活用） 第8回：スクリプトの作成（適切な語彙選択） 第9回：視覚資料（スライド・図表）の作成 第10回：スクリプト・スライドの相互フィードバック 第11回：リハーサル&フィードバック 第12回：プレゼンテーション1 第13回：プレゼンテーション2 第14回：a：試験、b：正答解説・講義全体の総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ペア・グループワークへの積極的な参加が求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習：指定された文献・動画資料の予習 事後学習：学習内容の復習とリフレクションシートの作成		
5. 教科書 特になし。必要に応じてレジュメを配布する。		
6. 参考書 Present Yourself 2: Viewpoints (Second Edition), Steven Gershon (Cambridge University Press) そのほかは授業内で適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表等の課題は、その都度授業内で講評する。期末試験は第14回目に実施し、同日に解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 平常点 40%（授業への参加度、課題提出状況）、発表 40%、試験 20%		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
P r e s e n t a t i o n A Ⅱ		五所 万実
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、パブリックスピーキングについて体系的に学び、英語による効果的なプレゼンテーションスキルの向上を目指す。後期は、実践とフィードバックを通じて、聴衆を意識した論理的で説得力のあるプレゼンテーションスキルを養う。また、発声・イントネーション・非言語的要素に関する伝達技術を強化し、表現力を高める。 【到達目標】 (1)聴衆を意識し、説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 (2)明瞭な発声と適切なイントネーションを用いて人前で話せる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（授業の内容・進め方、評価方法） 第2回：聴衆分析（Audience Analysis） 第3回：TED Talks 分析・模倣演習 第4回：導入の種類と定型表現（分析・演習） 第5回：締めの種類と定型表現（分析・演習） 第6回：トピック選定&ディスカッション1 第7回：トピック選定&ディスカッション2 第8回：効果的な伝達方法（発声・イントネーション） 第9回：効果的な伝達方法（非言語的要素） 第10回：リハーサル&フィードバック1 第11回：リハーサル&フィードバック2 第12回：プレゼンテーション1 第13回：プレゼンテーション2 第14回：a：試験、b：正答解説・講義全体の総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ペア・グループワークへの積極的な参加が求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習：指定された文献・動画資料の予習 事後学習：学習内容の復習とリフレクションシートの作成		
5. 教科書 特になし。必要に応じてレジュメを配布する。		
6. 参考書 Present Yourself 2: Viewpoints (Second Edition), Steven Gershon (Cambridge University Press) そのほかは授業内で適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表等の課題は、その都度授業内で講評する。期末試験は第14回目に実施し、同日に解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 平常点 40%（授業への参加度、課題提出状況）、発表 40%、試験 20%		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
P r e s e n t a t i o n A I		鈴木 理枝
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、英語と日本語で、人前で自信を持って話すことができるようになることを目標とします。自分の考えや主張を相手に正確に伝えることができるように、プレゼンテーションの基本的な構造や方法を学びます。同時に英語の発音やプレゼンテーションスキル、感情のコントロールの仕方についても習得します。 【到達目標】 (1) 日本語と英語で自分の考えを人前で伝えることができる。 (2) プレゼンテーションの基本的構造を習得する。 (3) プレゼンに必要な、発音やリズムを身につける。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、(授業内容・評価方法)の説明、自己紹介ゲーム 第2回：プレゼンテーションの構成について理解する 第3回：プレゼンテーマ①準備 第4回：テーマ①のプレゼンテーション発表 第5回：プレゼンテーマ②準備 第6回：テーマ②のプレゼンテーション発表 第7回：通訳演習 第8回：プレゼンテーマ③準備 第9回：テーマ③のプレゼンテーション発表 第10回：プレゼンテーマ④準備 第11回：テーマ④のプレゼンテーション発表 第12回：プレゼンテーマ⑤準備 第13回：テーマ⑤のプレゼンテーション発表 第14回：a: まとめ、b: 試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。 * プレゼンテーションのテーマは、前週あるいは前日にお知らせします。		
3. 履修上の注意 やる気のある学生の履修を期待しています。授業内では、ペアワーク、グループワーク中心に進めます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 必ず予習をして授業に臨むこと。分からない単語の意味や表現は事前に調べて下さい。 【復習すべき内容】 発表した内容は、再度練習して、復習して下さい。		
5. 教科書 レジュメを配布します。		
6. 参考書 特に定めない。レジュメを配布することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表ごとに、各学生一人一人に丁寧にコメントをして指導をする。 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 試験 40%、平常点 60%：(予習、参加度、態度、プレゼン内容) 【成績評価の基準】 (1) プレゼン内容の構成が適切であるか (2) 発表の仕方(声、アイコンタクト、身振り手振り等)ができているか (3) セルフコントロールができているか 欠席 4 回以上で単位取得不可。		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
P r e s e n t a t i o n A Ⅱ		鈴木 理枝
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 春学期に引き続き、この授業では、人前で自信を持って話すことができるようになることを目標とします。自分の考えや主張を相手に正確に伝えることができるように、プレゼンテーションの基本的な構造や方法を学びます。同時に英語の発音やプレゼンテーションスキル、感情のコントロールの仕方についても習得します。 【到達目標】 (1) 日本語と英語で自分の考えを人前で伝えることができる (2) プレゼンテーションの基本的構造を習得する。 (3) プレゼンテーションに必要な英語の発音とリズムを身につける。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、発音とリズムの練習 第2回：プレゼンテーマ①準備 第3回：テーマ①のプレゼンテーション発表 第4回：プレゼンテーマ②準備 第5回：テーマ②のプレゼンテーション発表 第6回：プレゼンテーマ③準備 第7回：テーマ③のプレゼンテーション発表 第8回：プレゼンテーマ④準備 第9回：テーマ④のプレゼンテーション発表 第10回：通訳演習 第11回：プレゼンテーマ⑤準備 第12回：テーマ⑤のプレゼンテーション発表 第13回：総復習 第14回：a: まとめ、b: 試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。 * プレゼンテーションのテーマは、前週あるいは前日にお知らせします。		
3. 履修上の注意 やる気のある学生の履修を期待しています。授業内ではペアワーク、グループワーク中心に進めます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 必ず予習をして授業に臨み、分からない単語の意味は事前に調べて下さい。 【復習すべき内容】 授業内で習得して内容について、復習して下さい。		
5. 教科書 レジュメを配布します。		
6. 参考書 特に定めない。レジュメを配布することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表後は、各学生一人一人に丁寧にコメントして指導する。 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 試験 40%、平常点：60%（予習、態度、参加度、プレゼン内容） 【成績評価の基準】 (1) プレゼン内容の構成が適切であるか (2) 発表の仕方(声の出し方、アイコンタクト、身振り手振り等)ができているか (3) セルフコントロールができているか 欠席 4 回以上で単位取得不可。		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
P r e s e n t a t i o n A I		ランバッカー
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 <div class="ql-editor" contenteditable="true"> <p>“授業の到達目標及びテーマ”</p> <p>この科目は、グローバルコミュニケーションの世界共通語とされる英語でのプレゼンテーションスキルの向上に重点を置いています。 実社会のシナリオに基づいた資料やトピックを使い、本格的なプレゼンテーションの経験を積みます。このコースは、生徒一人一人のニーズに合わせてデザインされており、自信に満ちた明瞭なスピーチができるようになることを目指します。</p> <p>“授業の概要”</p> <p>前期は短いプレゼンテーションを数回行い、後期はより学術的で長いプレゼンテーションを行う。両コースとも英語の発音を重視し、非言語的な合図やジェスチャーを身につける。また、受講生は仲間や講師から建設的なフィードバックを受け、継続的な向上のためのサポート環境を育む。コース終了時には、学生は人前で話す能力を向上させ、効果的なコミュニケーション戦略について理解を深めることができます。これらのスキルは、学業での成功に不可欠であり、様々な専門的な場面で活用できるものです。</p> </div>		
2. 授業内容 <div class="ql-editor" contenteditable="true" spellcheck="true"> <p>第1回：イントロダクション・オリエンテーション</p> <p>第2回：Text (Unit 1 姿勢とアイコンタクト)；発音（大きな声）</p> <p>第3回：Text (Unit 2 ジェスチャー)；発音（pitch and intonation）</p> <p>第4回：プレゼンテーション1:個人／ショート(1)，Text (Unit 3 Voice inflection)</p> <p>第5回：プレゼンテーション1:個人／ショート (2)，Text (Unit 4 Effective Visuals)</p> <p>第6回：プレゼンテーション2の準備開始：Individual/Short (3)，Text (Unit 5 Explaining Visuals)</p> <p>第7回：プレゼンテーション2：個人，Text (Unit 6 The Introduction)</p> <p>第8回：プレゼンテーション2：個人 (1)，Text (Unit 7 The Body)</p> <p>第9回：プレゼンテーション2：個人 (2)，Text (Unit 8 The Conclusion)</p> <p>第10回：発表準備3：グループ発表：発音</p> <p>第11回：グループ発表の準備</p> <p>第12回：グループ発表の準備</p> <p>第13回：プレゼンテーション3：グループ発表 (1)</p> <p>第14回：プレゼンテーション3：グループ発表 (2)</p> <p>* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。</p> </div>		
3. 履修上の注意 <div class="ql-editor" contenteditable="true"> <p>学習意欲を持ち、積極的に参加することが望まれます。授業への参加は本コースに不可欠な要素であり、学生の最終成績に含まれる。</p> </div>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <div class="ql-editor" contenteditable="true"> <p>学生は、毎週の宿題を読み、書き、復習する。</p> </div>		
5. 教科書 <div class="ql-editor" contenteditable="true"> <p>教科書：Speaking of Speech (Premium Edition), National Geographic Learning</p> <p>モバイルアプリ：PeerEval（プレゼンテーションの評価のために）</p> </div>		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 <div class="ql-editor" contenteditable="true"> <p>すべての課題は、タイムリーに採点され、学生に返却されます。</p> </div>		
8. 成績評価の方法 <div class="ql-editor" contenteditable="true"> <p>(1) 宿題（テキストより）（20%）</p> <p>(2) 3 プレゼンテーション（70%）</p> <p>(3) ポキャブラリーテスト（10%）</p> <p>5回以上欠席した場合は、合格点を与られません。</p> </div>		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
P r e s e n t a t i o n AⅡ		ランバッカー
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 <div class="ql-editor" contenteditable="true">“授業の到達目標及びテーマ” この科目は、グローバルコミュニケーションの世界共通語とされる英語でのプレゼンテーションスキルの向上に重点を置いています。 実社会のシナリオに基づいた資料やトピックを使い、本格的なプレゼンテーションの経験を積みます。このコースは、生徒一人一人のニーズに合わせてデザインされており、自信に満ちた明瞭なスピーチができるようになることを目指します。 “授業の概要” 前期は短いプレゼンテーションを数回行い、後期はより学術的で長いプレゼンテーションを行う。両コースとも英語の発音を重視し、非言語的な合図やジェスチャーを身につける。また、受講生は仲間や講師から建設的なフィードバックを受け、継続的な向上のためのサポート環境を育む。コース終了時には、学生は人前で話す能力を向上させ、効果的なコミュニケーション戦略について理解を深めることができます。これらのスキルは、学業での成功に不可欠であり、様々な専門的な場面で活用できるものです。		
2. 授業内容 <div class="ql-editor" contenteditable="true">第1回：イントロダクション・オリエンテーション 第2回：プレゼンテーション1（テーマ選択） 第3回：プレゼンテーション1 準備開始 第4回：プレゼンテーション1 第5回：プレゼンテーション1 第6回：発表の準備 第7回：中間発表 第8回：ショートレポート紹介（トピック選択） 第9回：プレゼンテーション2、レポート（導入部） 第10回：プレゼンテーション2、レポート（本体部） 第11回：プレゼンテーション2、レポート（結論編） 第12回：プレゼンテーション2、レポート（引用と参考文献） 第13回：発表の準備、最終レポート仕上げ 第14回：期末発表、レポート提出 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 <div class="ql-editor" contenteditable="true">学習意欲を持ち、積極的に参加することが望まれます。授業への参加は本コースに不可欠な要素であり、学生の最終成績に含まれる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <div class="ql-editor" contenteditable="true">学生は、毎週の宿題を読み、書き、復習する。		
5. 教科書 <div class="ql-editor" contenteditable="true" spellcheck="false">教科書： 教科書： Speaking of Speech (Premium Edition), National Geographic Learning モバイルアプリ：PeerEval（プレゼンテーションの評価のために）		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 <div class="ql-editor" contenteditable="true">すべての課題は、タイムリーに採点され、学生に返却されます。		
8. 成績評価の方法 <div class="ql-editor" contenteditable="true">(1) 宿題（15%） (2) 中間発表（25%） (3) 期末発表（25%） (4) 最終レポート(25%) (5) ポキャブラリーテスト（10%） 5回以上欠席した場合は、合格点を与えられません。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English A I		磐崎 弘貞
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 1. 本クラスは、内容言語統合型学習（Content and Language Integrated Learning, CLIL）を採用し、英語を使って特定のトピックについて学ぶことを目的とする。 2. そのため、TED Talks、TED-Ed、時事ニュース、スピーチ、その他のビデオ教材などの真正教材を活用し、以下を行う。 - トピックに関する内容理解と関連語彙の習得 - 要約の技法および自分の意見を適切に述べるスキルの習得 3. さらに、以下の言語スキル向上も重視する。 - 語彙習得に必要なコロケーション（慣用的な単語の組み合わせ）の学習 - スピーキング力向上のための音声学的同化現象（音がつながったり変化したりする現象）の理解 - 主要な文法事項の復習と実践的な活用		
2. 授業内容 1. オリエンテーション & CLIL の紹介 - 授業の進め方・評価基準の説明 - CLIL の概要と目的 - 自己紹介 & 簡単なウォームアップアクティビティ 2. トピック①導入 & キーワード学習 - 主要トピックの概要紹介 - 関連語彙・コロケーションの導入 - 短いビデオ視聴とディスカッション 3. トピック1の理解 & 要約演習 - TED Talks または関連する真正教材の視聴 - 内容理解クイズ・リスニング演習 - 要約の方法（ポイントの抽出・簡潔にまとめる技法） 4. トピック1の意見表明 & ディスカッション - 意見を述べる表現の学習 - 意見文の作成・添削 - ディスカッション実践 5. トピック2導入 & 音声変化の理解 - 新たなトピックの紹介と語彙学習 - 英語の音声変化（音の連結・脱落など）の解説 - リスニング強化演習 6. トピック2の内容理解 & スピーキング演習 - ビデオ視聴と内容把握 - キーセンテンスを用いた短いスピーチ作成 - ペアワークでスピーチ練習 7. トピック2の要約 & 意見文作成 - 要約の練習（視聴内容を短くまとめる） - 意見文の構成（主張・理由・具体例）を学ぶ - ペアレビューによる相互フィードバック 8. トピック3導入 & コロケーション演習 - 新トピックの語彙・コロケーション学習 - コロケーションを使った例文作成 - 語彙強化クイズ 9. トピック3のリスニング & 内容理解 - TED Talks またはスピーチ動画視聴 - 内容を整理するリスニングアクティビティ - 質問に答えるディスカッション 10. トピック4の意見表明 & 発表 - 資料を基にした意見文作成 - 発表の準備 - 発表とフィードバック 11. 文法復習 & 実践演習 - 主要な文法事項の復習（時制・仮定法・受動態など） - 誤用を防ぐための文法チェックリスト - 実際のスピーチ・ライティングでの適用 12. 総合演習（リスニング & ライティング） - これまでのトピックの復習 - 模擬試験形式でリスニング・ライティングの練習 - 個別フィードバック 13. 最終プレゼンテーション準備 & 実践 - 自分の興味のあるトピックを選び、プレゼン作成 - プレゼンと改善点のフィードバック - 振り返り & まとめ		

14. 期末試験（リスニング & ライティング） - リスニングテスト（ビデオ視聴＋内容理解問題） - ライティングテスト（要約＋意見文作成） * 授業内容・順番は進度に応じて変更することがあります。
3. 履修上の注意 ・ 教室言語は日本語ですが、再話（retelling）や要約（summary）においては適宜英語で行います。 ・ 任意の英語辞書（オンラインも可）を参照できるようにしてください。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定の題材（ビデオや資料データ）を読み視聴してください。
5. 教科書 真正題材（TED Talks, TED Ed、ビデオニュース、ドラマ、スピーチ等）を教室で指定します。
6. 参考書 ・ 谷口恵子（2023）『AI 英語革命 ChatGPT で英語学習を 10 倍効率化』リチャージ ・ 磐崎弘貞（2011）『英語辞書を活用するための 7 つの鉄則』大修館書店 ・ その他ビデオ
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験後またはポータルでのフィードバック
8. 成績評価の方法 授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必須。 期末試験 50%、小テスト and/or 発表 50%
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English AⅡ		磐崎 弘貞
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 1. 本クラスは、Media English I に続き、内容言語統合型学習（Content and Language Integrated Learning, CLIL）を採用し、英語を使ってより発展的なトピックについて学ぶことを目的とする。 2. TED Talks、TED-Ed、時事ニュース、スピーチ、ドキュメンタリー、その他のビデオ教材を活用し、以下を行う。 - より高度な内容の理解と関連語彙の習得 - 要約の精度向上と、より論理的な意見表明のスキル強化 - 批判的思考（Critical Thinking）を活用した分析的な視点の獲得 3. 言語スキルのさらなる向上を目指し、以下の要素を重点的に学ぶ。 - 語彙の拡張（特にアカデミックおよび時事関連のコロケーション） - 英語の音声変化やプロソディ（イントネーション・リズム）の理解と実践 - 主要文法事項の応用とライティングスキルの向上 4. 実践的なアウトプットの機会を増やし、英語での発信力を高める。 - リーディング、ディスカッション、プレゼンテーションの実施 - ライティングや短いスクリプト作成を通じた表現力の向上		
2. 授業内容 1. オリエンテーション - 授業の進め方・評価基準の説明 - Media English 1 で学んだスキルの振り返り - クリティカルシンキングの基本概念紹介 2. トピック 1 導入 & アカデミック語彙の強化 - 関連語彙・アカデミックコロケーションの学習 - ビデオ視聴と語彙クイズ 3. トピック 1 の理解 & 批判的思考を活用した分析 - TED Talks やドキュメンタリーの視聴 - 重要ポイントの抽出と議論 - 情報の客観的な評価方法 4. トピック 1 の要約 & 意見エッセイ作成 - 要約の精度向上を目指した演習 - 論理的な意見の構成を学ぶ - ペアレビューによるフィードバック 5. トピック 2 導入 & 音声変化とプロソディ演習 - 新しいトピックと語彙学習 - 英語のイントネーションやリズムの実践練習 - リスニング向上のためのシャドーイング 6. トピック 2 の内容理解 & リーディング - ビデオ視聴と詳細理解 - 討論に役立つ表現を学ぶ - ディスカッション実践 7. トピック 2 の意見交換演習 - 賛成・反対の視点から意見を述べる - 論理的な主張を組み立てる練習 - 語彙を平易に言い換えるパラフレーズを学ぶ 8. トピック 3 導入 & 発展的ライティングスキル - 新しいトピックの語彙・表現学習 - ライティングスキル強化（説得力のある文章の書き方） - サンプルエッセイ分析 9. トピック 3 のリスニング & 詳細理解 - より長いスピーチやニュースの視聴 - ノートテイキングのテクニック - 要点を的確にまとめる練習 10. トピック 3 のプレゼンテーション準備 - 効果的なプレゼン構成を学ぶ - 資料作成・スライドデザインの指導 - 原稿作成とスピーキング練習 11. 個人プレゼンテーション & フィードバック - プレゼンの実践 - 具体的なフィードバックと改善点の共有 - Q&A セッションで発話力向上 12. 総合演習（リスニング & ライティング） - これまでのトピック の総復習 - 模擬試験形式でリスニング・ライティング練習 - 文章構成の見直し 13. 最終ディスカッション & リーディング実践		

- 複数のトピックを絡めたディスカッション - 即興リテリングの実施 - クラス全体での意見交換 - コースの振り返り & 総括 14. 期末試験（リスニング、ライティング、リテリング） - リスニングテスト（ビデオ視聴＋内容理解問題） - ライティング／リテリングテスト（要約＋意見エッセイ作成） * 授業内容・順序は必要に応じて変更します。
3. 履修上の注意 ・授業は日本語&英語で行います。 ・任意の英語辞書（オンラインも可）を参照できるようにしてください。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定の題材（読解データおよびビデオ）を読み視聴してください。
5. 教科書 真正題材（TED Talks, TED Ed, ビデオニュース、ドラマ、スピーチ等）を指定します。
6. 参考書 ・谷口恵子（2023）『AI 英語革命 ChatGPT で英語学習を 10 倍効率化』リチャージ ・磐崎弘貞（2011）『英語辞書を活用するための 7 つの鉄則』大修館書店
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験後またはポータルでのフィードバック
8. 成績評価の方法 授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必須 期末試験 50%、小テスト and/or 発表 40%
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English A I		木内 修
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 当講座は、新聞・放送の英語ニュースを多角的に学習し、その過程で、英語の読解力を支える、語彙、文法、構文把握力を養成することを目的とする。 テキストは、予習がしやすいように、テキストの順に「国内政治」「経済・ビジネス（1）」といったように進んでいく。かなり詳細な註もついてるが、それを見ないと分からない場合、それを復習段階で一般の語彙学習と一緒に体得することが望まれる。翻訳論の授業ではないので、英文は直読直解で和訳をしておくこと。これは何が分かって何が分かっていないのかを炙り出すための手段であり、英語学習の目的ではない。その辺もガイダンスでお話する。 また、副教材においては、授業内で演習・解答解説を行いなので、予習の必要はない。これに関しては、復習を中心に活用すること。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2～13回：進度は受講生の英語力に合わせることになるが、現段階では、3回で2課進む予定でいる。 第14回：試験と春学期の総括 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 電子辞典、紙版の辞書を必ず、持参すること。また、ほかの授業と同様に、授業中のスマホ・携帯の使用は許可がない限り厳禁である。ルールを守れない学生はその段階で、単位が不要と判断するので、明治の学生らしく、真摯に受講すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習が必要なのは主教材で、英文の全訳をしっかりとつけて授業の望んでください。		
5. 教科書 教材：『ニュースメディアの英語 一演習と解説 2025 年度版一』 著者：高橋 優身/伊藤 典子/Richard 出版社：朝日出版社 副教材：『5 分間 TOEIC テスト・サプリメント 文法・語法』 小池 直己 南雲堂		
6. 参考書 授業内で紹介する。30 冊程度		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーやコメントのの全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】筆記試験 80% 平常点 20% 注意事項：欠席が 5 回になった段階で不合格となる。また、遅刻の扱いは理由の如何にかかわらず、授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 2 回の遅刻で 1 回の欠席となる。ただし、忌引・授業関連の実習および登校停止を必要とする流行性疾患に関してはこの限りではない。		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English AⅡ		木内 修
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 当講座は、新聞・放送の英語ニュースを多角的に学習し、その過程で、英語の読解力を支える、語彙、文法、構文把握力を養成することを目的とする。 テキストは、予習がしやすいように、テキストの順に「国内政治」「経済・ビジネス（1）」といったように進んでいく。かなり詳細な註もついてるが、それを見ないと分からない場合、それを復習段階で一般の語彙学習と一緒に体得することが望まれる。翻訳論の授業ではないので、英文は直読直解で和訳をしておくこと。これは何が分かって何が分かっていないのかを炙り出すための手段であり、英語学習の目的ではない。その辺もガイダンスでお話する。 また、副教材においては、授業内で演習・解答解説を行い、予習の必要はない。これに関しては、復習を中心に活用すること。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（春学期の復習） 第2～13回：進度は受講生の英語力に合わせることになるが、現段階では、2回で3課進む予定でいる。 第14回：試験と秋学期の総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 電子辞典、紙版の辞書を必ず、持参すること。また、ほかの授業と同様に、授業中のスマホ・携帯の使用は許可がない限り厳禁である。ルールを守れない学生はその段階で、単位が不要と判断するので、明治の学生らしく、真摯に受講すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習が必要なのは主教材で、英文の全訳をしっかりとつけて授業の望んでください。		
5. 教科書 教材：『ニュースメディアの英語 一演習と解説 2025 年度版一』 高橋 優身/伊藤 典子/Richard 出版社：朝日出版社 副教材：『5 分間 TOEIC テスト・サプリメント 文法・語法』 小池 直己 南雲堂		
6. 参考書 授業内で紹介する。30 冊程度		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーやコメントのの全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】筆記試験 80% 平常点 20% 注意事項：欠席が 5 回になった段階で不合格となる。また、遅刻の扱いは理由の如何にかかわらず、授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前 の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 2 回の遅刻で 1 回の欠席となる。ただし、忌引・授業関連の実習および登校停止を必要とする流行性疾患に関してはこの限りではない。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English A I		ダン, ジェームス D
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 This class will be delivered using practical and collaborative teaching styles. In this course students will learn and practice English and critical thinking skills through various forms of media. Students will be introduced to grammar and vocabulary to improve their abilities to communicate in various situations. This class will include English in social media, online videos, and games. Students will be assessed on vocabulary comprehension, grammar knowledge, and participation / reflection activities.		
2. 授業内容 第1回: Introduction to class with Example activity 第2回: Introduction and Example activity 2 第3回: Topic 1: Videos you find online part 1 第4回: Topic 1: Videos you find online part 2 第5回: Topic 1: Discussion and Quiz 第6回: Topic 2: Podcasts/Vlogs part 1 第7回: Topic 2: Podcasts/Vlogs part 2 第8回: Topic 2: Discussion and Quiz 第9回: Topic 3: Games/Entertainment 1 第10回: Topic 3: Games/Entertainment 2 第11回: Topic 3: Discussion and Quiz 第12回: Class Review / Discussion 第13回: Final Preparation: Topics/Vocabulary 第14回: Final Test (Comprehensive) * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. Regular attendance, completion of homework tasks, and active participation in the classes will be reflected in final grades. Students must show active participation in 75% of classes to pass (unless permission is given for absence).		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students can expect to spend 60-90 minutes outside of class on homework and class preparation for each class session.		
5. 教科書 All materials will be provided by the instructor.		
6. 参考書 Students will be encouraged to make use of the Internet and the library.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be done through in-class evaluations, written feedback from the teacher, and online feedback through digital means.		
8. 成績評価の方法 The final grade will be based on: Homework tasks & general participation (40%) Topic Quizzes (30%). Final test (30%).		
9. その他 Any changes to class contents or other issues due to novel coronavirus situation will be announced in class and announced on Syllabus Supplement page on Oh-o!Meiji. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English AⅡ		ダン, ジェームス D
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 This class will be delivered using practical and collaborative teaching styles. In this course students will learn and practice English and critical thinking skills through various forms of media. Students will be introduced to grammar and vocabulary to improve their abilities to communicate in various situations. This class will include English in social media, online videos, and games. Students will be assessed on vocabulary comprehension, grammar knowledge, and participation / reflection activities.		
2. 授業内容 第1回: Introduction to class with Example activity 第2回: Introduction and Example activity 2 第3回: Topic 1: Videos you find online B part 1 第4回: Topic 1: Videos you find online B part 2 第5回: Topic 1: Discussion and Quiz 第6回: Topic 2: Podcasts/Vlogs B 1 第7回: Topic 2: Podcasts/Vlogs B 2 第8回: Topic 2: Discussion and Quiz 第9回: Topic 3: Games/Entertainment B 1 第10回: Topic 3: Games/Entertainment B 2 第11回: Topic 3: Discussion and Quiz 第12回: Class Review / Discussion 第13回: Final Preparation: Topics/Vocabulary 第14回: Final Test (Comprehensive) * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. Regular attendance, completion of homework tasks, and active participation in the classes will be reflected in final grades. Students must show active participation in 75% of classes to pass (unless permission is given for absence).		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will spend 1- 2 hours a week preparing for class.		
5. 教科書 All materials will be provided by the instructor.		
6. 参考書 Students will be encouraged to make use of the Internet and the library.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be done through in-class evaluations, written feedback from the teacher, and online feedback through digital means.		
8. 成績評価の方法 The final grade will be based on: Homework tasks & general participation (40%) Topic Quizzes (30%). Final test (30%).		
9. その他 Any changes to class contents or other issues due to novel coronavirus situation will be announced in class and announced on Syllabus Supplement page on Oh-o!Meiji. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English A I		戸嶋 真弓
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 主に英字新聞などの文字メディアを通して英語で情報を取得するには、どのようなことが必要なのかという基礎を学びます。 自分で英字新聞やインターネット上の記事等を読み、理解し、情報を取得し、アウトプットできるようになることが到達目標です。英語行うグループ・ワークとグループ発表も行う予定です。 また、本授業は、基本的に全て対面で行われます(感染症などの流行を考慮して、オンライン授業を行う可能性があります)。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 授業への参加の仕方等の説明 第2～5回：英語メディアを知るために、テキストを使って、さまざまな角度から英語で発信されたさまざまなテーマの記事を読んでいきます。 第6～8回：メディアから発信された記事から情報を自分で取得し、グループ学習をしながらアウトプットをしていく練習を行います。 第9回～12回：英語でのグループ・プレゼンテーションを行います。 第14回：総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 英語を通してメディアになじみたいという強い希望を持っている方に参加していただきたいと思います。世界史や日本史や地理の知識があることと政治や社会、科学などのあり方に強い関心があることが履修の条件です。また、英語力にある程度の自信のあるかたの参加を求めます(英検2級以上相当)。 授業では、英語での質問に英語で答えることもあります。また、グループ・プレゼンテーションでは、原稿を読むのではなく、「自分の力で英語を話す」ことを基本とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日頃から新聞を読むこと。また、英語のサイトを使い慣れる必要があります。		
5. 教科書 15 章版：ニュースメディアの英語 -2025 年度版- 高橋優身他編著 朝日出版社、2025 年 ISBN: 978-4-255-15729-9		
6. 参考書 授業時に指定します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時に解説を行います。		
8. 成績評価の方法 授業時の演習状況（英語でのプレゼンテーション、グループワーク、発言回数、参加内容、レポートやテスト）を合算し、「平常点」とします(100%)。特に、英語でのグループ・プレゼンテーションは重要です。		
9. その他 配布資料、ノート、辞書類（電子辞書、授業時のインターネット辞書可）を毎回用意して下さい。 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English AⅡ		戸嶋 真弓
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 主に英字新聞などの文字メディアを通して英語で情報を取得するには、どのようなことが必要なのかという応用事項を学びます。 自分で英字新聞やインターネット上の記事等を読み、理解し、情報を取得し、読み手や聞き手に分かりやすくアウトプットできるようになることが到達目標です。英語行うプレゼンテーションの基本を学びます。 また、グループワークや英語でのグループ・プレゼンテーションを行います。 本授業は、基本的に全て対面で行われます(感染症などの流行を考慮して、オンライン授業を行う可能性があります)。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 授業への参加の仕方等の説明 第2～5回：さまざまな英語の新聞記事や雑誌の記事を使って、さまざまな角度から英語で発信されたさまざまなテーマの記事を読んでいきます。 第6～8回：メディアから発信された記事から情報を自分で取得し、グループ学習をしながらアウトプットをしていく練習を行います。 第9回～12回：英語でのグループ・プレゼンテーションを行います。 第14回：総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 英語を通してメディアになじみたいという強い希望を持っている方に参加していただきたいと思っています。世界史や日本史や地理の知識があることと政治や社会、科学などのあり方に強い関心があることが履修の条件です。また、英語力にある程度の自信のあるかたの参加を求めます(英検2級以上相当)。 授業では、英語での質問に英語で答えることもあります。また、グループ・プレゼンテーションでは、原稿を読むのではなく、「自分の力で英語を話す」ことを基本とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日頃から新聞を読むこと。また、英語のサイトを使い慣れる必要があります。		
5. 教科書 15 章版：ニュースメディアの英語 -2025 年度版- 高橋優身他編著 朝日出版社、2025 年 ISBN: 978-4-255-15729-0		
6. 参考書 授業時に指定します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時に解説を行います。		
8. 成績評価の方法 授業時の演習状況（英語でのプレゼンテーション、グループワーク、発言回数、参加内容、レポートとテスト）を合算し、「平常点」とします(100%)。		
9. その他 配布資料、ノート、辞書類（電子辞書、授業時のインターネット辞書可）を毎回用意して下さい。 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English A I		ハーパー, アラン G
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 Students will explore different aspects of media through various class activities which include group/pair work, discussions, presentations and role plays. This course aims to develop the four basic English language skills of listening, speaking, reading and writing as they relate to media studies. Goals: 1. Develop the four basic English language skills. 2. Develop a better understanding of different types of media. 3. Develop English communication skills in group and pair work activities. 4. Develop English presentation skills.		
2. 授業内容 第1回: Introduction and Orientation Breaking News English 第2回: Textbook Unit 1 Newspapers 第3回: Textbook Unit 1 Newspapers 第4回: Unit 1 Activity 第5回: Textbook Unit 2 Radio 第6回: Textbook Unit 2 Radio 第7回: Unit 2 Activity 第8回: Textbook Unit 3 Magazines 第9回: Textbook Unit 3 Magazines 第10回: Unit 3 Activity 第11回: Textbook Unit 4 Television 第12回: Textbook Unit 4 Television 第13回: Unit 4 Activity 第14回: Breaking News English * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. Regular attendance, completion of homework tasks, and active participation in the classes will be reflected in final grades. Students must show active participation in at least 50% of classes to pass (unless permission is given for absence). 7 or more absences without a valid excuse will result in no credit for this class.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students can expect to spend about 60 minutes outside of class on homework and class preparation for each class session		
5. 教科書 Cambridge English for the Media 1st Edition Ceramella, N. Lee, E. Cambridge University Press. 2008		
6. 参考書 Students will be encouraged to make use of the Internet and the library.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be done through in-class evaluations, written feedback from the teacher, and online feedback through digital means		
8. 成績評価の方法 Unit Activities-(4x10%)=40% Homework Assignments (4x10%)=40% Class Participation=20%		
9. その他 Any changes to class contents or other issues will be announced in class and/or announced on Syllabus Supplement page on Oh-o!Meiji. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English AⅡ		ハーパー, アラン G
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 Students will explore different aspects of media through various class activities which include group/pair work, discussions, presentations and role plays. This course aims to develop the four basic English language skills of listening, speaking, reading and writing as they relate to media studies. Goals: 1. Develop the four basic English language skills. 2. Develop a better understanding of different types of media. 3. Develop English communication skills in group and pair work activities. 4. Develop English presentation skills.		
2. 授業内容 第1回: Introduction and Orientation Breaking News English 第2回: Textbook Unit 5 Film 第3回: Textbook Unit 5 Film 第4回: Unit 5 Activity 第5回: Textbook Unit 6 New Media 第6回: Textbook Unit 6 New Media 第7回: Unit 6 Activity 第8回: Textbook Unit 7 Advertising 第9回: Textbook Unit 7 Advertising 第10回: Unit 7 Activity 第11回: Unit 8 Marketing 第12回: Unit 8 Marketing 第13回: Unit 8 Activity 第14回: Breaking News English * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. Regular attendance, completion of homework tasks, and active participation in the classes will be reflected in final grades. Students must show active participation in at least 50% of classes to pass (unless permission is given for absence). 7 or more absences without a valid excuse will result in no credit for this class.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students can expect to spend about 60 minutes outside of class on homework and class preparation for each class session		
5. 教科書 Cambridge English for the Media 1st Edition Ceramella, N. Lee, E. Cambridge University Press. 2008		
6. 参考書 Students will be encouraged to make use of the Internet and the library.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be done through in-class evaluations, written feedback from the teacher, and online feedback through digital means.		
8. 成績評価の方法 Unit Activities-(4x10%)=40% Homework Assignments (4x10%)=40% Class Participation=20%		
9. その他 Any changes to class contents or other issues will be announced in class and/or announced on Syllabus Supplement page on Oh-o!Meiji. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAN211J		
Media English A I		ハミルトン, ロバート
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 Documentary films have often taken a back-seat to other genres of film-making, but they have a long history and a wide variation of topics and subgenres. From David Attenborough's nature documentaries, to Michael Moore's activist films, to true crime documentaries tell the true stories of our world, our society, and what our society struggles to be. In this course, we will watch a number of documentary films from different eras in the form's history, paying special attention to changes in the genre, the social purposes of the films, and the public's reception of the works.		
2. 授業内容 Every year, new documentary films are released, and storytelling techniques are explored. 第1回: Introductions: What is documentary film? 第2回: Storytelling techniques: archival footage, archival documents 第3回: When We Were Kings, Leon Gast, 1996 第4回: Storytelling techniques: Interviews 第5回: Searching for Sugarman, Malik Bendjelloul, 2012 第6回: True crime documentary 第7回: Amanda Knox, Rod Blackhurst, Brian McGinn, 2016 第8回: Storytelling techniques: diagrams, drawings, animation, rotoscope 第9回: Tower, Keith Maitland, 2016 第10回: Storytelling techniques: Personal Point of View 第11回: Bowling for Columbine, Roger Moore, 2002 第12回: Student presentations 第13回: Student presentations 第14回: Final discussion and introduction to summer projects * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. There will be readings or videos for various topics and then group discussions, presentations and debates. Students must be willing to speak about their own ideas and opinions. This means that much of the material needs to be studied before class so that discussion during class will progress smoothly.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Discussions and presentations are a key part of this class. Preparation is very important in order to make sure the classes run smoothly.		
5. 教科書 No textbook will be used, but there will be articles that students will need to download and read on a weekly basis. Students will also sometimes need to view online videos before coming to class.		
6. 参考書 Materials will be provided by the instructor.		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 Preparation for class/homework: 20% In-class discussions: 30% Presentations: 30% Written reports: 20%		
9. その他 This class will be conducted entirely in English. Failure to make an effort to communicate in English will result in an absence. Failure to complete homework before class will result in an absence. Students are responsible for checking Oh-Meiji for information between classes. All information about homework and assignments will be posted there. Being absent from a class is not an excuse to arrive to class with unfinished homework. If a student is absent from a class and then arrives to the next class with incomplete homework, that will count as two absences. Three absences will result in failure. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English AⅡ		ハミルトン, ロバート
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 This is a continuation of Media English I from the first semester. It is STRONGLY recommended that you take Media English I before taking this course. If you want to take this course without having first taken Media English I, then please email me. You will need to do a lot of self-study work before joining the class. Documentary films have often taken a back-seat to other genres of film-making, but they have a long history and a wide variation of topics and subgenres. From David Attenborough's nature documentaries, to Michael Moore's activist films, to true crime documentaries tell the true stories of our world, our society, and what our society struggles to be. In this course, we will watch a number of documentary films from different eras in the form's history, paying special attention to changes in the genre, the social purposes of the films, and the public's reception of the works.		
2. 授業内容 第1回: Review of summer research 第2回: Documentary/mockumentary: Blurring the lines between fact and fiction 第3回: Exit Through the Gift Shop, Banksy, 2010 第4回: New and innovative forms of documentary 第5回: Casting JonBenet, Kitty Green, 2017 第6回: Student-selected film 1 第7回: Discussion of student-selected film 1 第8回: Student-selected film 2 第9回: Discussion of student-selected film 2 第10回: Student-selected film 3 第11回: Discussion of student-selected film 3 第12回: Netflix, websites, and new audiences for documentary 第13回: O.J. Simpson and the Jinx 第14回: Final discussions and recommendations * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. There will be readings or videos for various topics and then group discussions, presentations and debates. Students must be willing to speak about their own ideas and opinions. This means that much of the material needs to be studied before class so that discussion during class will progress smoothly.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should have taken Media English I in the first semester before taking this class. If you wish to take this class, but did not enroll in Media English I, please contact the professor before the summer break. This way you can catch up on the reading and work on the summer homework.		
5. 教科書 No textbook will be used, but there will be articles that students will need to download and read on a weekly basis. Students will also sometimes need to view online videos before coming to class.		
6. 参考書 Materials will be provided by the instructor.		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 Preparation for class/homework: 20% In-class discussions: 30% Presentations: 30% Written reports: 20%		
9. その他 This class will be conducted entirely in English. Failure to make an effort to communicate in English will result in an absence. Failure to complete homework before class will result in an absence. Students are responsible for checking Oh-Meiji for information between classes. All information about homework and assignments will be posted there. Being absent from a class is not an excuse to arrive to class with unfinished homework. If a student is absent from a class and then arrives to the next class with incomplete homework, that will count as two absences. Three absences will result in failure. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English A I		松本 恵美子
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 メディア教材を題材にListening, Speaking, Reading を中心とした英語の技能を再確認し、実際のコミュニケーションや、実務に応用できるような英語力を養う。学生の能力に応じて様々な活動を取り入れた学習を行う。 また、TOEIC, TOEFL などの試験を積極的に受験し、高得点を取得することを目指してください。		
2. 授業内容 第1回：授業概要、イントロダクション 第2回：Unit1 第3回：Unit1 第4回：Unit1 第5回：Unit2 第6回：Unit2 第7回：Unit2 第8回：Unit3 第9回：Unit3 第10回：Unit4 第11回：Unit4 第12回：Unit5 第13回：Unit5 第14回：期末テスト * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業における活動には積極的に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で理解できなかった内容について各自で復習を行うこと。		
5. 教科書 Unlock Level 3 Listening, Speaking and Critical Thinking Student's Book with Digital Pack ,2nd ed. ISBN:9781009031479		
6. 参考書 授業中に随時紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に口頭により行う。		
8. 成績評価の方法 出席 20% 平常点（授業参加、小テスト）50% 期末テスト 30%		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English AⅡ		松本 恵美子
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 メディア教材を題材にListening, Speaking, Reading を中心とした英語の技能を再確認し、実際のコミュニケーションや、実務に応用できるような英語力を養う。学生の能力に応じて様々な活動を取り入れた学習を行う。 また、TOEIC, TOEFL などの試験を積極的に受験し、高得点を取得することを目指してください。		
2. 授業内容 第1回：授業概要、イントロダクション 第2回：Unit6 第3回：Unit6 第4回：Unit6 第5回：Unit7 第6回：Unit7 第7回：Unit7 第8回：Unit8 第9回：Unit8 第10回：Unit9 第11回：Unit9 第12回：Unit10 第13回：Unit10 第14回：期末テスト * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業における活動には積極的に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で理解できなかった内容について各自で復習を行うこと。		
5. 教科書 Unlock Level 3 Listening, Speaking and Critical Thinking Student's Book with Digital Pack ,2nd ed. ISBN:9781009031479		
6. 参考書 授業中に随時紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に口頭により行う。		
8. 成績評価の方法 出席 20% 平常点（授業参加、小テスト）50% 期末テスト 30%		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English A I		ウェブスター, ダニエル
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 The purpose of this course will be to improve your ability to talk and/or write about stories in the various media. (These stories can cover either “hard news” like recent event in politics, crimes or natural disasters, etc.-or “feature stories,” such as interviews or stories about interesting persons. However, news about sports or “puff pieces” about entertainment celebrities are not suitable for serious media discussions.) In the first class, I will give students “Student Information Sheets” that they must fill out and bring to the next class. As the media cover fresh topics every week, the teacher will bring in a newspaper, and students are to select one of the stories in the paper with a view to how it is covered by one of the various media, such as other newspapers, magazines, TV, and SNS sites, etc. For this reason, there will be no set textbook, and we will cover different stories throughout the semester. NB Depending on the number of students and their level, there may be some changes to this syllabus.		
2. 授業内容 Week One: Student Information Sheets, and the first newspaper. Week Two: Students will hand in their Student Information Sheets and report on how one of the media has covered the story. Week Three: A new newspaper will be brought in. Week Four: Students will report how the media have covered the latest news story. Week Five: A new newspaper will be brought in. Week Six: Students will report how the media have covered the latest news story. Week Seven: A new newspaper will be brought in. Week Eight: Students will report how the media have covered the latest news story. Week Nine: A new newspaper will be brought in. Week Ten: Students will report how the media have covered the latest news story. Week Eleven: A new newspaper will be brought in. Week Twelve: Students will report how the media have covered the latest news story. Week Thirteen: : A new newspaper will be brought in. Week Fourteen: Students will report how the media have covered the latest news story. * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 In order to prepare for this course, students must look at one serious news story and compare how it is covered in the various media.		
5. 教科書 No textbook.		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 Students will be graded based on their active participation in the course’ s activities. Therefore, will be no “test,” as such.		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Media English A II		ウェブスター, ダニエル
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 The purpose of this course will be to improve your ability to talk and/or write about stories in the various media. (These stories can cover either “hard news” like recent event in politics, crimes or natural disasters, etc.-or “feature stories,” such as interviews or stories about interesting persons. However, news about sports or “puff pieces” about entertainment celebrities are not suitable for serious media discussions.) In the first class, I will give students “Student Information Sheets” that they must fill out and bring to the next class. As the media cover fresh topics every week, the teacher will bring in a newspaper, and students are to select one of the stories in the paper with a view to how it is covered by one of the various media, such as other newspapers, magazines, TV, and SNS sites, etc. For this reason, there will be no set textbook, and we will cover different stories throughout the semester. NB Depending on the number of students and their level, there may be some changes to this syllabus.		
2. 授業内容 Week One: Student Information Sheets, and the first newspaper. Week Two: Students will hand in their Student Information Sheets and report on how one of the media has covered the story. Week Three: A new newspaper will be brought in. Week Four: Students will report how the media have covered the latest news story. Week Five: A new newspaper will be brought in. Week Six: Students will report how the media have covered the latest news story. Week Seven: A new newspaper will be brought in. Week Eight: Students will report how the media have covered the latest news story. Week Nine: A new newspaper will be brought in. Week Ten: Students will report how the media have covered the latest news story. Week Eleven: A new newspaper will be brought in. Week Twelve: Students will report how the media have covered the latest news story. Week Thirteen: : A new newspaper will be brought in. Week Fourteen: Students will report how the media have covered the latest news story. * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 In order to prepare for this course, students must look at one serious news story and compare how it is covered in the various media.		
5. 教科書 No text.		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 Students will be graded based on their active participation in the course’ s activities. Therefore, will be no “test,” as such.		
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Writing AI		磐崎 弘貞
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 1. 英語の基礎的なライティングスキルを習得し、明確で一貫性のある文章・段落・短いエッセイを作成できるようにする。 2. 構造化されたライティング課題とフィードバックを通じて、批判的思考力と表現力を向上させる。 3. AI ツールをサポートツールとして活用し、ライティングスキルを向上させるが、全面的に依存するのではなく、AI のフィードバックを学習の機会として活かす。 4. ライティングの自己編集スキルを養い、反復練習を通じて文章を改善できるようにする。 5. 異なる目的や読者を想定したライティングスキルを身につけ、さまざまな文体やジャンルに対応できる力を育てる。 6. 特にライティングに必要な文法項目を復習し理解を深める。		
2. 授業内容 1. オリエンテーション - 授業の目的・評価基準の説明 - 今後の AI ライティングツール活用の方針 - ショートライティング：「なぜライティングを向上させたいのか？」 - まず AI を使用する前に和文英訳で自分の英語ライティング力をモニタリング 2. ライティングプロセスの理解 - 自身のライティングに見られる問題点を探る。 - 人的添削の特徴と問題点 3. AI を活用したライティング手法 - 明確で簡潔な文を書く練習 - 易しく言い換えるパラフレイズの手法 - AI を使って文法・スタイルをチェック 4. 一貫性のあるパラグラフを作成する - トピックセンテンス、サポートセンテンス、結論の構成を学ぶ - 練習：まとまりのあるパラグラフを書く - AI のフィードバックを活用する 5. 語彙の拡張と繰り返し表現の回避 - 同義語やパラフレイズの技術を学ぶ - AI ツールを使って語彙を広げる - より豊かな表現力を身につけるライティング練習 6. 短いエッセイの構成 - 導入・本文・結論の基本構成を学ぶ - 練習：エッセイのアウトラインとドラフト作成 - 談話標識(discourse markers)について学ぶ - AI を活用した論理的な流れの確認 7. 描写型ライティング（ディスクリプティブライティング） - 感覚的な詳細を使って具体的に描写する技術を学ぶ - 練習：お気に入りの場所について描写するパラグラフを書く - AI を使って語彙や表現を向上させる 8. 論証型ライティング（意見文） - 主張・根拠・反論の構成を学ぶ - 賛成または反対の立場で短い意見エッセイを書く - AI を使って論理的な一貫性や説得力を確認 9. to 不定詞の用法を学ぶ - to 不定詞の 3 用法を理解する。 - AI を使って文章を洗練させる 10. 編集と推敲スキル - 効果的な自己編集・推敲のテクニックを学ぶ - 練習：過去の課題を AI のフィードバックを活用して改善する - グループ活動：強みと改善点を分析 11. 異なる目的・読者を想定したライティング - フォーマル・インフォーマル・アカデミックライティングの違いを学ぶ - 読者や目的に合わせたライティング実践 - AI を使ってトーンやスタイルを調整 12. フィードバックの活用方法 - ピアレビュー、講師フィードバック、AI フィードバックを効果的に取り入れる方法 - 練習：フィードバックを元にエッセイを修正 - 振り返りライティング：「フィードバックから何を学んだか？」 13. 期末試験準備 - これまで学んだ内容の総復習 - 模擬試験（ライティング課題）とピアレビュー - 期末試験に向けた個人目標の設定 - コースの振り返りと総括		

14. 期末試験（ライティングテスト） - 指定時間内でのライティングテスト（エッセイまたはパラグラフ課題） - 文章の明瞭さ・一貫性・適切な語彙使用を評価 * 授業内容と順序は必要に応じて変更することがあります。
3. 履修上の注意 ・辞書を参照できるようにすること（オンライン可）
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ポータル上のハンドアウト及び指定資料を読んでおくこと。 ・課題内容をよく読んで、期限内にオンライン提出を行う。
5. 教科書 News 題材等を活用した自主教材
6. 参考書 ・磐崎弘貞(2011)『英語辞書を活用するための7つの鉄則』大修館書店 ・前田哲宏(2020)『5つのステップによるパラグラフ・ライティング』音羽書房
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・授業内またはポータル上のオンラインフィードバック
8. 成績評価の方法 授業総数の2/3以上の出席があること 課題提出50%、小テスト20%、試験30%
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Writing A II		磐崎 弘貞
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 1. English Writing I で学んだライティングスキルを発展させ、より高度な文章作成ができるようにする。 2. パラフレーズ（表現の言い換え）や要約スキルを強化し、簡潔かつ明確に情報を伝える能力を養う。 3. AI を活用しながらライティングスキルを向上させるが、AI のフィードバックをそのまま受け入れるのではなく、自ら考え、学び、文章を改善する力を身につける。 4. 読者や目的に応じたライティングスタイルを適切に使い分ける能力を高める。 5. 関係代名詞を含む文法項目の復習を行い、より洗練された文章を作成できるようにする。		
2. 授業内容 1. オリエンテーション & Writing I の復習 - 授業の目的・評価基準の説明 - Writing I で学んだ内容の振り返り - ショートライティング：「自分のライティングの強みと課題」 - AI を活用したライティング分析（Writing I の課題との比較） 2. パラフレーズ技術（基礎） - なぜパラフレーズが重要か？ - 基本的な言い換えの方法（単語レベル、フレーズレベル） - AI を使ったパラフレーズ演習 3. パラフレーズ技術（応用） - 文レベルでの言い換え技術 - AI の提案を活用しながら自分で表現を工夫する練習 - ピアレビューでのフィードバック 4. 要約の基礎 - 要約とは何か？要点の抽出方法 - AI を活用した要約と自己修正 - 短い文章の要約演習 5. 要約の応用 - 複数の情報を統合して要約する方法 - AI を活用した多様な要約技法の比較 - 実践演習（ニュース記事・エッセイの要約） 6. 関係代名詞の復習とライティングへの応用 - 関係代名詞（who, which, that, whose, whom）の使い方 - 関係代名詞を使った文章の組み立て方 - AI を使って文法チェックと改善 7. 説明型ライティング - 物事を説明するライティングの構成 - AI を活用したライティングの強化 - 具体例を用いた説明文作成 8. 対比・比較のライティング - 比較・対比の表現方法 - パラフレーズと要約を組み合わせたライティング - AI を活用した推敲とフィードバック 9. 論証型ライティング（応用） - Writing I で学んだ論証型ライティングを発展させる - 反論を考慮したより論理的なエッセイの作成 - AI を活用した論理チェック 10. ライティングの流れを向上させる技術 - 談話標識（discourse markers）の使い方 - 文と文のつながりを意識したライティング練習 - AI を使って文章の流れをチェック 11. 異なる読者に向けたライティング - フォーマル・インフォーマルな文章の違い - 目的や読者に応じたスタイルの調整 - AI を活用したトーンや表現の変更 12. フィードバックの活用とライティング改善 - ピアレビュー、AI フィードバックの活用方法 - 以前のライティングを見直し、改訂する練習 - 振り返りライティング：「自分のライティングの成長」 13. 期末試験準備 - これまで学んだ内容の総復習 - 模擬試験（ライティング課題）と自己評価 - 期末試験に向けた個人目標の設定		

14. 期末試験（ライティングテスト） - 指定時間内でのライティングテスト（エッセイまたは要約課題） - 文章の明瞭さ・一貫性・適切な語彙使用を評価 * 授業内容と順序は必要に応じて変更することがあります。
3. 履修上の注意 ・ 辞書を参照できるようにすること（オンライン可）。 ・ AI 使用の登録をし、それを活用しますが、全てが AI 任せではありません。 ・ AI 翻訳・要約の利点と弱点を観察します。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ ポータル上のハンドアウト及び指定資料を読んでおくこと。 ・ 課題を期限内に提出すること。
5. 教科書 News や TED Talks を活用した自主教材
6. 参考書 ・ 鈴木健士 (2018) 『ここで差がつく英文ライティングの技術』 テイエス企画 ・ 谷口恵子 (2023) 『AI 英語革命 ChatGPT で英語学習を 10 倍効率化』 リチェンジ ・ 山田優 (2023) 『ChatGPT 翻訳術』 アルク. ・ 磐崎弘貞 (2011) 『英語辞書を活用するための 7 つの鉄則』 大修館書店
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内またはポータル上のオンラインフィードバック
8. 成績評価の方法 - 授業総数の 2/3 以上の出席があること - 課題提出 50% - 小テスト 20% - 試験 30%
9. その他 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Writing AI		渡邊 浩子
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 英文を書く力の向上を目標とし、主にパラグラフ作文を行います。 春学期は、パラグラフの構造を理解することに焦点を絞り、パラグラフの機能、主題や指示文の役割を理解します。 各 chapter では、その章の基本的な考え方を理解し、具体例を使い練習を行い、最後に英語でパラグラフを作成します。		
2. 授業内容 第1回 Introduction 第2回 書式、句読法について 第3回 Chapter 1 What is a paragraph? 第4回 Chapter 1 第5回 Chapter 2 The topic sentence 第5回 Chapter 2 第7回 Chapter 3 Supporting sentence 第8回 Chapter 3 第9回 Chapter 4 Time order 第10回 Chapter 4 第11回 Chapter 4 第12回 Chapter 4 課題作成 第13回 課題作成 第14回 まとめ・復習 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 第1回授業に必ず出席すること。 課題は必ず締め切りを守って提出して下さい。 授業に教科書本体と辞書を持参しましょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指示された予習を行ったうえで授業に臨みましょう。		
5. 教科書 Get Your Message Across （南雲堂）		
6. 参考書 必要に応じて担当者が紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時にフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 Writing の課題提出があります。 成績評価は、平常点 20%・課題の提出 30%・学期末の課題 50%を総合的に判断して行なう。		
9. その他 教科書本体を必ず授業に持参すること。 担当者に連絡する場合、クラスウェブのポートフォリオをお願いします。 授業欠席の連絡は不要です。 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Writing A II		渡邊 浩子
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 英作文の力の向上のため、パラグラフ作文を行います。 秋学期は、さまざまな型のパラグラフ、例えば、因果関係、例示、定義、分類、比較・対照などの書き方の決まり事を学び、それらを使い、読者が分かりやすいように、書き手の意図がうまく伝わるように構成されたパラグラフを書く練習を行います。 春学期の Writing AI での学習を前提としている授業です。担当者の Writing AI の履修者のみ履修できます。		
2. 授業内容 第1回 Introduction 第2回 Chapter 6 Space 第3回 Chapter 6 第4回 Chapter 7 Cause and effect 第5回 Chapter 7 第6回 Chapter 9 Definition 第7回 Chapter 9 第8回 Chapter 10 Classification 第9回 Chapter 10 第10回 Chapter 11 Comparison and contrast 第11回 Chapter 11 第12回 Chapter 12 Review 第13回 Chapter 12 第14回 まとめ 課題作成 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 各 Chapter ごとに Writing の課題提出があります。 課題は必ず締め切りを守って提出して下さい。 授業に教科書本体と辞書を持参しましょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指示された予習は必ず行っただうえで授業に臨むこと。		
5. 教科書 Get Your Message Across (南雲堂)		
6. 参考書 必要に応じて担当者が紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時にフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、平常点 20%・課題の提出 40%・学期末の課題 40%を総合的に判断して行ないます。		
9. その他 担当者の Writing AI の履修者のみ履修可 授業に教科書本体を持参すること。 担当者に連絡する場合、クラスウェブのポートフォリオをお願いします。 授業欠席の連絡は不要です。 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Writing AI		ウェブスター，ダニエル
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 In this course, students will learn the basics of writing good paragraphs, expand their vocabulary, and learn how to link paragraphs into a well-written essay. The ultimate goal is to write a brief essay on one Article in the Japanese Constitution. The goal of this course is to have the students improve their overall writing skills in the English language, and more specifically in regard to the Japanese Constitution.		
2. 授業内容 第1回：The teacher will introduce the class to the students, and the students will give their self-introductions. Homework: Filling out Student Information Sheets with a photograph attached. 第2回：Students will hand in their Student Information Sheets. Class Work: Going over some common mistakes that Japanese and other non-native speakers make when writing English. 第3回：Writing an introductory paragraph. 第4回：Maintaining a polite tone, when writing a subjective essay. 第5回：Making a persuasive argument, while respecting the reader's point of view. 第6回：Making headway in your essay, whether it is a subjective argument or an objective description. 第7回：Getting the reader's attention by writing in a vivid style. 第8回：Continued analysis of the students' essays. 第9回：Continued analysis of the students' essays. 第10回：Continued analysis of the students' essays. 第11回：Continued analysis of the students' essays. 第12回：Continued analysis of the students' essays. 第13回：Continued analysis of the students' essays. 第14回：The finished essays are due. * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 Students must be highly motivated to improve their written English. They will also need to maintain good attendance, in order to assure class continuity.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Read books and articles in English. This will help you to become a better writer yourself.		
5. 教科書 There will be no set textbook for this course. Instead, they will be using the English text of the current Japanese Constitution, which the instructor will provide them with.		
6. 参考書 Title: From Paragraph to Essay: Get Your Message Across II Writers: Kate Elwood, Leonid Yoffe Publisher: Nan'un-do Students must buy the above reference book, as it has guidelines on how to write good essays. Students should bring a good English-Japanese/Japanese-English dictionary to class. Either a paper or an electronic dictionary is acceptable.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 The instructor will make critiques on how well students have done on their weekly assignments. These critiques will be given in-class.		
8. 成績評価の方法 Students will be graded based on their active participation in the class, on their attendance, and on the effort they put into their coursework, both during the class and outside the class. I will give further instructions about the Grading and Evaluation Criteria during the first class meeting. The ultimate goal is for students to hand in a well-written academic paper by the end of the semester.		
9. その他 Classes are conducted entirely in English. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Writing A II		ウェブスター, ダニエル
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 In this course, students will learn the basics of writing good paragraphs, expand their vocabulary, and learn how to link paragraphs into a well-written essay. The ultimate goal is to write a brief essay on one Article in the Japanese Constitution. The goal of this course is to have the students improve their overall writing skills in the English language, and more specifically in regard to the Japanese Constitution. As new students may join this class in the Second Semester, they will need to become acquainted with how the class will be conducted, and what is expected of each student. However, for students taking both semesters, the material below will be in the nature of review and reinforcement of what they have already learned. The students who fall into the latter category will be expected to write completely new essays for the Autumn Semester, and on a different Article of the Japanese Constitution from the one that they wrote on in the Spring Semester.		
2. 授業内容 第1回：The teacher will introduce the class to the students, and the students will give their self-introductions. Homework: Filling out Student Information Sheets with a photograph attached. 第2回：Students will hand in their Student Information Sheets. Class Work: Going over some common mistakes that Japanese and other non-native speakers make when writing English. 第3回：Writing an introductory paragraph. 第4回：Maintaining a polite tone, when writing a subjective essay. 第5回：Making a persuasive argument, while respecting the reader's point of view. 第6回：Making headway in your essay, whether it is a subjective argument or an objective description. 第7回：Getting the reader's attention by writing in a vivid style. 第8回：Continued analysis of the students' essays. 第9回：Continued analysis of the students' essays. 第10回：Continued analysis of the students' essays. 第11回：Continued analysis of the students' essays. 第12回：Continued analysis of the students' essays. 第13回：Continued analysis of the students' essays. 第14回：The finished essays are due. * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 Students must be highly motivated to improve their written English. They will also need to maintain good attendance, in order to assure class continuity.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Read books and articles in English. This will help you to become a better writer yourself.		
5. 教科書 There will be no set textbook for this course. Instead, they will be using the English text of the current Japanese Constitution, which the instructor will provide them with.		
6. 参考書 Title: From Paragraph to Essay: Get Your Message Across II Writers: Kate Elwood, Leonid Yoffe Publisher: Nan'un-do Students must buy this reference book, as it has guidelines on how to write good essays. Students should bring a good English-Japanese/Japanese-English dictionary to class. Either a paper or an electronic dictionary is acceptable.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 The instructor will make critiques on how well students have done on their weekly assignments. These critiques will be given in-class.		
8. 成績評価の方法 Students will be graded based on their active participation in the class, on their attendance, and on the effort they put into their coursework, both during the class and outside the class. I will give further instructions about the Grading and Evaluation Criteria during the first class meeting. The ultimate goal is for students to hand in a well-written academic paper by the end of the semester.		
9. その他 Classes are conducted entirely in English. * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Writing AI		鈴木 理枝
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現在、私たちの暮らしは、スマートフォン、タブレットの普及で加速度的に、コミュニケーションツールも日々進化し続けています。またコミュニケーションの方法も、テキスト・メッセージ、チャット、SNS への投稿、オンライン・フォームに記入など、多様化しています。この授業の目的は、テキストを使用して、皆さんに身近な状況、トピックを用い、ライティングの実践力と英語力の向上に努めます。 【到達目標】 (1) ライティングのスキルを身につける (2) 英語のスキル、文法、語彙、語法を身につける。 (3) 社会で使える実践力を身につける。		
2. 授業内容 基本的な Writing 対応のテキストを使用して、日常生活と社会で利用できる英語力とライティングの方法を身につける。 第1回：i イントロダクション・自己紹介ゲーム 第2回：Unit 1 Introducing yourself をテーマに語彙、表現方法を身につける 第3回：Unit 1 Introducing yourself をテーマに文章を作成する 第4回：Unit 2 Giving advice and suggestions をテーマに語彙、表現方法を身につける 第5回：Unit 2 Giving advice and suggestions をテーマに文章を作成する 第6回：Unit 3 Making a request by email をテーマに語彙、表現方法を身につける 第7回：Unit 3 Making a request by email をテーマに文章を作成する 第8回：Unit 4 Inviting people をテーマに語彙、表現方法を身につける 第9回：Unit 4 Inviting people をテーマに文章を作成する 第10回：Unit 5 Declining an invitation をテーマに語彙、表現方法を身につける 第11回：Unit 5 Declining an invitation をテーマに文章を作成する 第12回：Unit 6 Making a request online をテーマに語彙、表現方法を身につけ、文章を作成する 第13回：Unit 7 Expressing gratitude をテーマに語彙、表現方法を身につけ、文章を作成する 第14回：a: まとめ b: 試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 実践的英語を身につけたい学生の受講を希望します。 出席重視。やる気のある学生の履修を期待しています。 授業ではペアワーク、グループワーク中心に進めます。 当該範囲の予習、復習をしっかりと行った上で臨むことで実力が身に付きます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 テキストの予習、分からない語彙、表現を調べておくこと。 練習問題の予習をしておくこと。 【復習すべき内容】 授業内で習得した内容について、復習して下さい。		
5. 教科書 CONTACT US! WRITING TO COMMUNICATE ONLINE, 成岡恵子、早野薫、瀧口晴美、Sean M. Hackett 金星堂、2022、1,900 円+税		
6. 参考書 特に定めない。レジュメを配布することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題のフィードバックは、次の授業内で発表させ、不正解の場合は、丁寧に解答を説明する。 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 試験：50%、平常点： 50%（授業への積極的な参加、発表、小レポート、授業態度） 欠席4回以上で単位取得不可。		
9. その他 授業への積極的な参加をする学生を望みます。 ペアワークを中心に進めます。 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN211J		
Writing A II		鈴木 理枝
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現在、私たちの暮らしは、スマートフォン、タブレットの普及で加速度的に、コミュニケーションツールも日々進化し続けています。またコミュニケーションの方法も、テキスト・メッセージ、チャット、SNS への投稿、オンライン・フォームに記入など、多様化しています。春学期に続き、この授業の目的は、テキストを使用して、皆さんに身近な状況、トピックを用い、書くことへの苦手意識を払拭して、さらなる書く力と英語力の向上に努めます。 【到達目標】 (1) ライティング力を身につける (2) 様々な場面で必要な、語彙、文法、語法を習得する。 (3) 書くことへの苦手意識を払しょくする。		
2. 授業内容 Writing 対応のテキストを使用して、日常生活と社会で利用できる英語力とライティングの方法を身につける。 第1回：イントロダクション、Unit 8 Making a complaint をテーマに語彙、表現方法を身につける 第2回：Unit 8 Making a complaint をテーマに文章を作成する 第3回：Unit 9 Congratulating and encouraging をテーマに語彙、表現方法を身につける 第4回：Unit 9 Congratulating and encouraging をテーマに文章を作成する 第5回：Unit 10 Making a reservation をテーマに語彙、表現方法を身につける 第6回：Unit 10 Making a reservation をテーマに文章を作成する 第7回：Unit 11 Making an offer をテーマに語彙、表現方法を身につける 第8回：Unit 11 Making an offer をテーマに文章を作成する 第9回：Unit 12 Sharing updates をテーマに語彙、表現方法を身につける 第10回：Unit 12 Sharing updates をテーマに文章を作成する 第11回：Unit 13 Sending season's greetings をテーマに語彙、表現方法を身につけ、文章を作成する 第12回：Unit 14 Recruiting members をテーマに語彙、表現方法を身につけ、文章を作成する 第13回：Unit 15 Applying for something online をテーマに語彙、表現方法を身につけ、文章を作成する 第14回：a: まとめ、b: 試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 実践的英語を身につけたい学生の受講を希望します。 出席重視。やる気のある学生の履修を期待しています。 授業ではペアワーク中心に進めます。当該範囲の予習、復習をしっかりと行った上で臨むことで実力が身に付きます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 テキストの予習、分からない語彙、表現を調べておくこと。 練習問題の予習をしておくこと。 【復習すべき内容】 授業内で習得して内容について、復習して下さい。		
5. 教科書 CONTACT US! WRITING TO COMMUNICATE ONLINE, 成岡恵子、早野薫、瀧口晴美、Sean M. Hackett 金星堂、2022, 1,900 円+税		
6. 参考書 特に定めない。レジュメを配布することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題のフィードバックは、次の授業内で発表させ、不正解の場合は、丁寧に解答を説明する。 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 試験：50%、平常点： 50% （授業への積極的参加・発表、小レポート、授業態度） 欠席 4 回以上で単位取得不可。		
9. その他 授業への積極的な参加をする学生を望みます。 ペアワーク中心に進めます。 * 当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAN221J		
中級ドイツ語実践 I		オルランド、ダビデ
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 このコースは、学生がドイツ文化をよりよく理解しながら、言語能力を高めることを目的としています。学生のレベルに合わせて調整され、学習者がドイツ語でコミュニケーションを取る自信を身につけることができる環境を提供します。 このコースは、コミュニケーション中心で学生主体の学習を重視しており、グループ活動を通じて積極的に参加することを促します。コースの内容と難易度は学生の総合的な能力に応じて調整され、それぞれの参加者が適切に挑戦され、自分のペースで進むことができるようになっています。 この学期の終わりには、学生は基本的な/中級の会話を行い、ドイツに関連する文化的なテーマについてより深く理解できるようになることを目指しています。		
2. 授業内容 第1回：自己紹介を中心としたレビュー 第2回：文化に焦点を当てたレビュー 第3回：レッスン1：旅行、どちらへご旅行ですか？（3 確・4 確） 第4回：レッスン1：旅行、旅行代理店/ホテルにて、話法の助動詞 第5回：レッスン1：旅行、長所と短所 第6回：レッスン1：旅行、テスト1、レッスン2、市内で、過去形レビュー 第7回：レッスン2：市内で、市内で外出する 第8回：レッスン3：典型的な都市、典型的な国、長所と短所（1） 第9回：レッスン3：典型的な都市、典型的な国、長所と短所（2） 第10回：レッスン3：典型的な都市、典型的な国、ドイツの教育制度 第11回：レッスン3：典型的な都市、典型的な国、テスト2、レッスン4、スポーツ、健康、レジャー、健康維持の秘訣 第12回：レッスン4、スポーツ、健康、レジャー、アドバイスを与える 第13回：レッスン4、スポーツ、健康、レジャー、長所と短所 第14回：グループでの口頭試問 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 学生は、次の授業で配布される記事を読み、理解することが求められる。さらに、毎回の授業の前に、主な語彙を覚え、内容の概要を把握し、主な文法事項を復習することで、授業内容の復習を行う。 定期的に宿題をこなし、積極的に授業に参加するようにしてください。		
5. 教科書 教科書のすべての練習を行うわけではありません。セッションには、他の教科書からの資料が含まれることがある。この教材は同じトピックを扱い、長所と短所の側面に焦点を当てます。 Start frei! 2 Mieko Fujiwara 著/ Yuko Motokawa 著 /Yukihiro Nomura 著 /Carsten Waychert 著 判型 B5 判／並製 ページ数 132 ページ カラー 課数 全 8 課 定価 2,860 円（本体 2,600 円＋税） ISBN 978-4-384-13096-6 C1084 発行日 2019/02/20		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックは学生の個々のニーズに合わせて行います。フィードバックは課題だけでなく、試験についても行われます。学生の皆さんは、個人メールアドレス、明治のメインアドレス、オンライン、レッスン後など、複数の方法で私に連絡することができます。より詳細なフィードバックを希望される場合や、自分の演奏について話し合いたい場合は、短い Zoom セッションを提供することもできます。		
8. 成績評価の方法 学生は、相互作用の貢献度（15%）、授業への参加度（20%）、および学期中に行われる 3 回の筆記またはスピーキングテスト（45%）に基づいて評価される。テストはすべて、最近扱った内容に焦点を当てる。 出席率は 20% で評価される。無断欠席は成績に影響する。無断欠席が多いと不合格となる。		
9. その他 学生はいつでもメールで講師に連絡することができます。また、必要に応じて個人的な Zoom ミーティングも可能です。		

科目ナンバー：(LA) LAN221J		
中級ドイツ語実践Ⅱ		オルランド、ダビデ
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 Start frei2 を使用した夏期講習のフォローアップコースです！2. 特に、言語行為で使われる（文）構造を学び、深めていきます。文法構造は状況と結びついています。異文化理解も深まります。 本書のすべての練習を行うわけではありません。他の教科書の題材を使用することもあります。この教材は同じトピックを扱い、長所と短所の側面に焦点を当てます。 参加者の興味やスキルに応じて、レッスン内容を変更することがあります。		
2. 授業内容 第1回：レビュー / 休暇について語る 第2回：レッスン 5: 学校と訓練教育, 夢の仕事 第3回：レッスン 5: 学校と訓練教育, ドイツの学校制度 第4回：レッスン 5: 学校と訓練教育, ドイツの学校制度 第5回：レッスン 5: 学校と訓練教育, 就職か大学進学か？ 第6回：レッスン 5: 学校と訓練教育, テスト1、レッスン 6: サービス業、申し込む 第7回：レッスン 6: サービス業、再帰代名詞 と分離動詞 第8回：レッスン 6: サービス業、問題を解決する 第9回：レッスン 6: サービス業、人気のある学生アルバイト（ドイツ・日本） 第10回： レッスン 6: サービス業、テスト2、レッスン 7: 祝祭, 好きな祭り 第11回：レッスン 7: 祝祭, パーティーの服 第12回：レッスン 7: 祝祭, ドイツの祭り 第13回：レッスン 7: 祝祭, 日本の祭り 第14回：セメスター内容に関するグループ口頭試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 クラスのトピックは、参加者のドイツ語のスキルと興味に合わせて調整されます。クラスは主にコミュニケーション中心で進められるため、小グループでの活動が多くなります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 学生は、次回の授業のために配布された記事を読み、理解する必要があります。さらに、学生は授業の内容を復習し、主要な語彙を学び、内容の概要を作成し、主要な文法項目を復習する必要があります。 定期的に宿題をこなし、積極的に授業に参加するようにしてください。		
5. 教科書 教科書のすべての練習を行うわけではありません。セッションには、他の教科書からの資料が含まれることがある。この教材は同じトピックを扱い、長所と短所の側面に焦点を当てます。 Start frei! 2 Mieko Fujiwara 著/ Yuko Motokawa 著 /Yukihiro Nomura 著 /Carsten Waychert 著 判型 B5 判／並製 ページ数 132 ページ カラー 課数 全 8 課 定価 2,860 円（本体 2,600 円＋税） ISBN 978-4-384-13096-6 C1084 発行日 2019/02/20		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックは学生の個々のニーズに合わせて行います。フィードバックは課題だけでなく、試験についても行われます。学生の皆さんは、個人メールアドレス、明治のメインアドレス、オンライン、レッスン後など、複数の方法で私に連絡することができます。より詳細なフィードバックを希望される場合や、自分の演奏について話し合いたい場合は、短い Zoom セッションを提供することもできます。		
8. 成績評価の方法 学生は、相互作用の貢献度、授業への参加度（25%）、および学期中に行われる 3 回の筆記またはスピーキングテスト（45%）に基づいて評価される。テストはすべて、最近扱った内容に焦点を当てる。 出席率は 30% で評価される。無断欠席は成績に影響する。無断欠席が 3 回を超えると不合格となる。		
9. その他 学生はいつでもメールで講師に連絡することができます。また、必要に応じて個人的な Zoom ミーティングも可能です。		

科目ナンバー：(LA) LAN221J		
ドイツ語ゼミナールA I		伊藤 真弓
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ドイツ語で日本を読む 【授業の概要】 この授業では、ドイツ人によって書かれ、ドイツで出版されている、日本の文化と社会を考察した文献を講読し、外から見た「日本」の一端を知ることによって、日本の文化と社会を客観的に眺める契機としたいと考えています。一つひとつのテーマについて、文献を講読したのち、意見交換を行って理解を深めたいと思います。 実際のドイツ語文章の読解力を養成しつつ、広い意味での異文化間理解に近づくことを目標とします。 ドイツ語の文章を読解するためには、文構造を解明する必要があり、文構造の解明のためには、基礎文法に対する理解を深めることが重要です。ドイツ語の基礎文法を確認しながら理解を深め、読解力の向上を目指します。 【到達目標】 ・ドイツ人が見た日本の社会と文化についての文献を精読することで、日本の文化と社会について客観的に眺め考える契機とし、異文化間理解に近づくこと ・ドイツで出版された文献を、基礎文法を確認しながら読むことで、実際のドイツ語の文章の読解力を養うこと		
2. 授業内容 主たるテキストとしては、Jonas Hoffmann-Schmidt 著：Alles, was Sie über Japan wissen müssen. 2023 および Florian Coulmas/Judith Stalpers 著：Die 101 wichtigsten Fragen – Japan. 2014 を予定していますが、必要に応じてその他の参考資料も検討してゆきます。ゼミナール形式で精読を行い、内容理解を深めた上で意見交換を行う、という形式で進める予定です。授業の内容や進め方については、受講者数等に応じて柔軟に検討したいと思います。 また、希望があれば、日本の都市と文化について等のテーマでプレゼンテーションの機会を設けたいと考えています。プレゼンテーションの方法などについては、授業時に適宜指示します。 第1回：イントロダクション、授業概要と授業の進め方についての説明 第2回～第4回：ドイツで出版されている日本の旅行ガイドに書かれた日本の見どころを読む 第5回～第6回：Woher kommen die Japaner und woher die japanische Sprache? 第7回～第8回：Was ist eine Malghelita Pizza? 第9回：第2回～第8回までの振り返りとまとめ 第10回～第11回：Was ist der Nationalsport? 第12回～第13回：Höflichkeit und Etikette in Japan（必要に応じて、プレゼンテーションについて説明と話し合い） 第14回：春学期の課題発表/春学期のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ドイツ語と異文化間理解に興味があり、自ら学ぶ意欲を持った受講者の参加を希望します。 2年次配当の科目です。初級ドイツ語既修者を対象とした科目ですので、その点を確認しておいてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 予習として、次回の授業範囲について事前に学習しておくこと。 【復習すべき内容】 復習として、授業で学習した内容を確認し、発展的なテーマを発見して調査すること。 また、ドイツ語圏に関するニュースやドイツ語圏文化等についても、日頃から関心を向けるようにしてください。		
5. 教科書 プリントを配布する予定です。		
6. 参考書 必要に応じて適宜指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 読解内容については、授業時の講読で確認します。 その他の質問等については、授業時に随時受け付けます。 課題発表の際や、プレゼンテーションを行った場合は、発表時に講評を行いたいと思います。		
8. 成績評価の方法 試験は行いません。授業参加と、課題の発表と提出、プレゼンテーション等をもって、総合的に評価します。 なお、4回以上欠席の場合は、特別な事情がある場合を除いて、単位を取得することはできません。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAN221J		
ドイツ語ゼミナールAⅡ		伊藤 真弓
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ドイツ語で日本を読む 【授業の概要】 この授業では、ドイツ人によって書かれ、ドイツで出版されている、日本の文化と社会を考察した文献を講読し、外から見た「日本」の一端を知ることによって、日本の文化と社会を客観的に眺める契機としたいと考えています。一つひとつのテーマについて、文献を講読したのち、意見交換を行って理解を深めたいと思います。 実際のドイツ語文章の読解力を養成しつつ、広い意味での異文化間理解に近づくことを目標とします。 ドイツ語の文章を読解するためには、文構造を解明する必要があり、文構造の解明のためには、基礎文法に対する理解を深めることが重要です。ドイツ語の基礎文法を確認しながら理解を深め、読解力の向上を目指します。 【到達目標】 ・ドイツ人が見た日本の社会と文化についての文献を精読することで、日本の文化と社会について客観的に眺め考える契機とし、異文化間理解に近づくこと ・ドイツで出版された文献を、基礎文法を確認しながら読むことで、実際のドイツ語の文章の読解力を養うこと		
2. 授業内容 主たるテキストとしては、Jonas Hoffmann-Schmidt 著：Alles, was Sie über Japan wissen müssen. 2023 および Florian Coulmas/Judith Stalpers 著：Die 101 wichtigsten Fragen – Japan. 2014 を予定していますが、必要に応じてその他の参考資料も検討してゆきます。ゼミナール形式で精読を行い、内容理解を深めた上で意見交換を行う、という形式で進める予定です。授業の内容や進め方については、受講者数等に応じて柔軟に検討したいと思います。 また、希望があれば、日本文化およびドイツ語圏文化について等のテーマでプレゼンテーションの機会を設けたいと考えています。プレゼンテーションの方法などについては、授業時に適宜指示します。 ドイツ語圏文化についても随時紹介し、ドイツ語で書かれたテキストを講読する予定です。 第1回：イントロダクション、授業概要と授業の進め方についての説明 第2回～第4回：Oktoberfestに関連したテキストを講読 第5回～第6回：Warum lieben Japaner Roboter? 第7回～第8回：Wie funktioniert das japanische Schulsystem? 第9回～第11回：Die Bedeutung von Harmonie in der japanischen Kultur 第12回～第13回：クリスマスに関連したテキストを講読（必要に応じて、プレゼンテーションについて説明と話し合い） 第14回：秋学期の課題発表/秋学期のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ドイツ語と異文化間理解に興味があり、自ら学ぶ意欲を持った受講者の参加を希望します。 2年次配当の科目です。初級ドイツ語既修者を対象とした科目ですので、その点を確認しておいてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 予習として、次回の授業範囲について事前に学習しておくこと。 【復習すべき内容】 復習として、授業で学習した内容を確認し、発展的なテーマを発見して調査すること。 また、ドイツ語圏に関するニュースやドイツ語圏文化等についても、日頃から関心を向けるようにしてください。		
5. 教科書 プリントを配布する予定です。		
6. 参考書 必要に応じて適宜指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 読解内容については、授業時の講読で確認します。 その他の質問等については、授業時に随時受け付けます。 課題発表の際や、プレゼンテーションを行った場合は、発表時に講評を行いたいと思います。		
8. 成績評価の方法 試験は行いません。授業参加と、課題の発表と提出、プレゼンテーション等をもって、総合的に評価します。 なお、4回以上欠席の場合は、特別な事情がある場合を除いて、単位を取得することはできません。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAN221J		
資格ドイツ語 A I		伊藤 真弓
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ドイツ語検定 3 級合格！ 【授業の概要】 1 年次で学んだドイツ語の基本文法や基礎知識を踏まえて、2025 年度「独検」冬期試験でドイツ語検定 3 級合格、または同等のドイツ語力を身につけることを目標とします。 ドイツ語検定は 1 級・準 1 級・2 級・3 級・4 級・5 級の 6 つの級での検定となっており、検定基準の概略は以下の通りとされています（詳細は独検 HP を参照）。 ドイツ語検定 5 級：初歩的なドイツ語を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文が運用できる（ドイツ語授業を約 30 時間以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人） ドイツ語検定 4 級：基礎的なドイツ語を理解し、初歩的な文法規則を使って日常生活に必要な表現や文が運用できる（ドイツ語授業を約 60 時間以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人） ドイツ語検定 3 級：ドイツ語の初級文法全般にわたる知識を前提に、簡単な会話や文章が理解できる（ドイツ語授業を約 120 時間以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人） したがって、明治大学法学部において 1 年間ドイツ語を学んだ場合、4 級に合格できる基礎的な学習は完了していることになります。3 級については、時間数から見れば 2 年間のドイツ語学習ののちに検定基準を満たすことになるわけですが、この授業では 12 月初旬に実施予定の「独検」冬期試験で 3 級に合格する（または同等のドイツ語力を身につける）ことを目標として学習します。 【到達目標】 ・2025 年度冬期試験でドイツ語検定 3 級合格、または、それと同等のドイツ語力を身につけること ・1 年次で学んだドイツ語の基本文法や基礎知識を定着させ、ドイツ語運用能力を高めること ・ドイツ語の正しい発音を身につけ、ドイツ語の音に親しみ、聞き取り能力を向上させること		
2. 授業内容 独検対策用の問題集を用いて、文法事項その他の説明をしながら、問題を解き進んでいきます。検定試験合格を目指すには、それに応じた学び方、つまり、多様な練習問題をこなしてゆくという方法が必要になってくるでしょう。毎回小テストを行って、学習到達度の確認をしていきたいと考えています。中級ドイツ語 A・B においては読解を行いながらの文法の確認や総合教材による学習が行われていることを想定していることから、この授業では文法事項の確認のみならず、会話表現や聞き取り練習にも重点を置いて学習したいと思います。 独検は夏期試験と冬期試験が実施されており、夏期試験でも 2・3・4・5 級の検定が行われます。今年の検定日は 6 月 22 日（日）の予定ですので、この時期までは 4 級の検定基準を視野に入れて、1 年次で学んだ文法事項の確認を中心に学習を進めます。それ以降は「話す・聞く・書く」ことに重点を置き、多様な教材を用いて総合的なドイツ語運用能力の向上を目指してゆきたいと思います。 第 1 回：a のみ：イントロダクション、ドイツ語力の確認 第 2 回：発音の確認、基本単語の確認（1） 第 3 回：基本単語の確認（2）、文法の確認「所有代名詞と kein/不定代名詞 man と einer」 第 4 回：基本単語の確認（3）、基本的な会話表現（1） 第 5 回：基本的な会話表現（2） 第 6 回：基本的な会話表現（3）、文法の確認「疑問詞」 第 7 回：文法の確認「接続詞/数詞」 第 8 回：文法の確認「前置詞」 第 9 回：文法の確認「分離動詞/再帰動詞」 第 10 回：聞き取り練習（1） 第 11 回：聞き取り練習（2） 第 12 回：映像を用いたドイツ語理解（1） 第 13 回：映像を用いたドイツ語理解（2） 第 14 回：春学期の課題発表/春学期のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 検定試験に合格することで資格を得る（または同等のドイツ語力を身につける）ことを目的とした科目です。独検合格を見据えた授業内容を用意していますが、検定試験である以上、目的意識を持ち、予習・復習を怠らず、意欲を持って自ら「主体的に」学ぶことが重要です。そのような意識を持ち、真摯な態度でドイツ語学習に臨む受講者の参加を希望します。 独検受験は必須ではありませんが、受験することが望ましいと考えます。 受講希望者は第 1 回目の授業に必ず出席すること。 ＊なお、この科目を履修する場合は、併せて「資格ドイツ語 A II」も履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 1 年次で学習した文法の教科書をよく復習しておきましょう。 また、毎時間小テストを行う予定なので、小テストの範囲を事前学習しておきましょう。 【復習すべき内容】 復習として、授業で学習した内容や練習問題を確認しておくようにしてください。繰り返しは語学学習の基本です。		

5. 教科書

『独検対策 4級・3級問題集 [五訂版]』 恒吉良隆 編著 (白水社)
また、必要に応じてプリントを配布します。

6. 参考書

授業時に随時指示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストについては、コメントをつけて返却しますので、確認するようにしてください。
その他の質問等については、授業時に随時受け付けます。

8. 成績評価の方法

授業参加度および小テストの平均点 80%，課題の発表と提出およびその内容 20%，を基準とし、独検受験の場合はその結果も加味して、総合的に評価します。

9. その他

予習・復習を怠らず、毎時間の学習を積み上げることが、目標達成への王道です。受講者で独検受験者の多くが目標を達成しています。過年度においては冬期の「独検」での2級合格者も複数でています。
ドイツ語力が身についてきていることが実感される授業になればと思います。
「独検」については、詳しくはHP「独検 online」(<http://www.dokken.or.jp/>)を参考にしてください。

科目ナンバー：(LA) LAN221J		
資格ドイツ語 A II		伊藤 真弓
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ドイツ語検定 3 級合格！ 【授業の概要】 1 年次で学んだドイツ語の基本文法や基礎知識を踏まえて、2025 年度「独検」冬期試験でドイツ語検定 3 級合格、または同等のドイツ語力を身につけることを目標とします。 ドイツ語検定は 1 級・準 1 級・2 級・3 級・4 級・5 級の 6 つの級での検定となっており、検定基準の概略は以下の通りとされています（詳細は独検 HP を参照）。 ドイツ語検定 5 級：初歩的なドイツ語を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文が運用できる（ドイツ語授業を約 30 時間以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人） ドイツ語検定 4 級：基礎的なドイツ語を理解し、初歩的な文法規則を使って日常生活に必要な表現や文が運用できる（ドイツ語授業を約 60 時間以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人） ドイツ語検定 3 級：ドイツ語の初級文法全般にわたる知識を前提に、簡単な会話や文章が理解できる（ドイツ語授業を約 120 時間以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人） したがって、明治大学法学部において 1 年間ドイツ語を学んだ場合、4 級に合格できる基礎的な学習は完了していることになります。3 級については、時間数から見れば 2 年間のドイツ語学習ののちに検定基準を満たすことになるわけですが、この授業では 12 月初旬に実施予定の「独検」冬期試験で 3 級に合格する（または同等のドイツ語力を身につける）ことを目標として学習します。 【到達目標】 ・2025 年度冬期試験でドイツ語検定 3 級合格、または、それと同等のドイツ語力を身につけること ・1 年次で学んだドイツ語の基本文法や基礎知識を定着させ、ドイツ語運用能力を高めること ・ドイツ語の正しい発音を身につけ、ドイツ語の音に親しみ、聞き取り能力を向上させること		
2. 授業内容 「資格ドイツ語 A I」と同様、独検対策用の問題集を用いて、文法事項その他の説明をしながら、問題を解き進んでいきます。検定試験合格を目指すには、それに応じた学び方、つまり、多様な練習問題をこなしてゆくという方法が必要になってくるでしょう。毎回小テストを行って、学習到達度の確認をしていきたいと考えています。中級ドイツ語 A・B においては読解を行いながらの文法の確認や総合教材による学習が行われていることを想定していることから、この授業では文法事項の確認のみならず、会話表現や聞き取り練習にも重点を置いて学習したいと思います。聞き取りの練習も随時行ってゆく予定です。 12 月初旬に実施予定の「独検」冬期試験で 3 級に合格する（または同等のドイツ語力を身につける）ことを目標として、問題を解きながら文法事項その他を学習し、合わせて聞き取りの練習を行います。それ以降は「話す・聞く・書く」ことに重点を置き、多様な教材を用いて総合的なドイツ語運用能力の向上を目指してゆきたいと思います。 また、ドイツ語圏の現代社会および文化についても理解を深める機会を持ちたいと考えています。 第 1 回：a のみ：イントロダクション、ドイツ語力の確認 第 2 回：文法の確認「現在完了/動詞と前置詞の結びつき」 第 3 回：文法の確認「従属接続詞/相関的接続詞」 第 4 回：基本的な会話表現（1） 第 5 回：基本的な会話表現（2） 第 6 回：文法の確認「関係代名詞/zu 不定詞句」 第 7 回：文法の確認「受動」 第 8 回：文法の確認「接続法」 第 9 回：聞き取り練習（1） 第 10 回：聞き取り練習（2） 第 11 回：映像を用いたドイツ語・ドイツ文化理解（1） 第 12 回：映像を用いたドイツ語・ドイツ文化理解（2） 第 13 回：映像を用いたドイツ語・ドイツ文化理解（3）/独作文練習 第 14 回：秋学期の課題発表/秋学期のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 検定試験に合格することで資格を得る（または同等のドイツ語力を身につける）ことを目的とした科目です。独検合格を見据えた授業内容を用意していますが、検定試験である以上、各自が目的意識を持ち、予習・復習を怠らず、意欲を持って「主体的に」学ぶことが重要です。そのような意識を持ち、真摯な態度でドイツ語学習に臨む受講者の参加を希望します。 独検受験は必須ではありませんが、受験することが望ましいと考えます。 受講希望者は第 1 回目の授業に必ず出席すること。 ＊なお、この科目を履修する場合は、「資格ドイツ語 A I」を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 1 年次で学習した文法の教科書をよく復習しておきましょう。 また、毎時間小テストを行う予定なので、小テストの範囲を事前学習しておきましょう。 【復習すべき内容】		

復習として、授業で学習した内容や練習問題を確認しておくようにしてください。繰り返しは語学学習の基本です。
5. 教科書 『独検対策 4級・3級問題集 [五訂版]』 恒吉良隆 編著 (白水社) また、必要に応じてプリントを配布します。
6. 参考書 授業時に随時指示します。
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストについては、コメントをつけて返却しますので、確認するようにしてください。 その他の質問等については、授業時に随時受け付けます。
8. 成績評価の方法 授業参加度および小テストの平均点 80%，課題の発表と提出およびその内容 20%，を基準とし、独検受験の場合はその結果も加味して、総合的に評価します。
9. その他 予習・復習を怠らず、毎時間の学習を積み上げることが、目標達成への王道です。受講者で独検受験者の多くが目標を達成しています。過年度においては冬期の「独検」での2級合格者も複数でています。 ドイツ語力が身についてきていることが実感される授業になればと思います。 「独検」については、詳しくはHP「独検 online」(http://www.dokken.or.jp/)を参考にしてください。

科目ナンバー：(LA) LAN231J		
フランス語ゼミナール A I		クロズ 山口エリアンヌ
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 映画でフランス語を学ぶ！ 仏ドラマ「ルパン」世界最速ヒットのセリフを使いながら、一年生の時に習ったフランス語の語彙と文法を楽しくレベルアップしましょう！ 毎週はセリフと一つの文法のポイントの予定です。 モーリス・ルブランが書いた怪盗紳士アルセーヌ・ルパンから作られた話。主演はオマール・シー（フランス映画『最強のふたり』）で世界的にブレイクし、フランス国内で好感度ナンバーワンの呼び声が高い俳優です。仏検、delf のよい準備になります、文法の基礎を復習したり、語彙を増やす機会です！ フランスの刑務所制度、代用監獄、警察調査の話もあり、法学部の学生に面白いテーマ多いです。 映画は字幕付きです、語彙の心配は要りません！		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション、教材の使い方、読み方の復習 第2回：王妃の首飾り、アサンと元奥さんのクレール 文法：動詞の現在形 第3回：共犯者を雇う 文法：命令形 第4回：窃盗の計画 文法：近接未来 第5回：ババカールの新しい雇い主 文法：場所を示す前置詞 第6回：首飾りの競売、アサンとジュリエットの出会い 文法：単純未来 第7回：価格が上がります、ババカールとベレグリニ夫人 文法：savoir と connaître 第8回：アサンが落札 語彙：数字の復習 第9回：25 年前の飾りの盗難 文法：半過去と複合過去 第10回：飾りの2 回目の盗難 文法：過去分詞の一致 第11回：警察の調査が始まる 文法：否定、rien, personne 第12回：25 年前 アサンへの誕生日プレゼント アルセーヌ・ルパンの小説 文法：n'importe... 第13回：アサンとベンジャマン 文法：否定疑問の答え方：oui, non, si 第14回：ゲディラ刑事の疑い、アサンと息子 文法：間接話法 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 学習する意欲が重要で、授業に積極的に参加し、上達を図るようにする必要があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週は、会話の数行の読み方を練習することがあります。 予習と復習を毎週指導します。		
5. 教科書 プリント		
6. 参考書 授業時に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎週は回答用紙を配ります		
8. 成績評価の方法 毎週の小テスト 100% （文法の教科書、辞書を持ち込み可）		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAN231J		
フランス語ゼミナールAⅡ		クロズ 山口エリアンヌ
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 映画でフランス語を学ぶ！ 仏ドラマ「ルパン」世界最速ヒットのセリフを使いながら、一年生の時に習ったフランス語の語彙と文法を楽しくレベルアップしましょう！ 毎週はセリフと一つの文法のポイントの予定です。 モーリス・ルブランが書いた怪盗紳士アルセーヌ・ルパンから作られた話。主演はオマール・シー（フランス映画『最強のふたり』）で世界的にブレイクし、フランス国内で好感度ナンバーワンの呼び声が高い俳優です。仏検、delf のよい準備になります、文法の基礎を復習したり、語彙を増やす機会です！ フランスの刑務所制度、代用監獄、警察調査の話もあり、法学部の学生に面白いテーマ多いです。 映画は字幕付きです、語彙の心配は要りません！		
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション、エピソード1の復習 第2回：ベンジャマンと首飾り 第3回：アンヌとジュリエットペレグリニ 第4回：ジュリエットとアサン、公園で 第5回：ババカールと同じ刑務所にいたコメさん 第6回：アサン、刑務所にて 第7回：ジュリエットとロジェ警部 第8回：アサンと刑務所の人達 第9回：ゲディラ刑事の個人調査 第10回：病室にコメさんとババカールの話 第11回：25年前 アサンが良い学校に入れる 第12回：ジュリエットが疑ってきた、アッサン病室に 第13回：アサンの自殺 第14回：アンヌ・ペレグリニが真実を話す 文法：動詞の現在条件法 文法：命令形と代名詞 語彙：avoir l'air 文法：関係代名詞 dont 文法：近接過去 文法：疑問文 文法：代名詞の順番 文法：比較級 mieux vs meilleur 文法：間接話法 文法：動詞の接続法 文法：副詞 文法：所有形容詞 文法：代名詞 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 学習する意欲が重要で、授業に積極的に参加し、上達を図るようにする必要があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週は、会話の数行の読み方を練習することがあります。 予習と復習を毎週指導します。		
5. 教科書 プリント		
6. 参考書 授業時に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎週は回答用紙を配ります		
8. 成績評価の方法 毎週の小テスト 100 %（文法の教科書、辞書など持ち込み可）		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAN231J		
時事フランス語 A I		瀬川 愛美
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 講義では、まず演習形式で教科書のフランスおよびフランス語圏の時事トピックを音読し、内容を把握します。 文法事項や発音などにも触れ、フランス語の基礎の復習をします。 続いて、関連事項について、自分から積極的に情報収集するための方法やツールの使い方を身につけていきます。 適宜、フランスメディアによるニュース動画等も扱います。動画を通して生きたフランス語に触れ、視聴覚情報から内容を大まかに理解する力を養います。動画に付随する要約文の概要を捉えながら、語彙も増やしていきます。 到達目標： ①時事内容を理解し、関連する項目や日本からの視点などと繋げて、自ら考えを深められる。 ②時事問題に関心を持ち、自分から積極的に情報収集できる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：1. ボルドーのカヌレ (1) 第3回：1. ボルドーのカヌレ (2) 第4回：動画① 第5回：2. セーヌ河岸のブキニスト (1) 第6回：2. セーヌ河岸のブキニスト (2) 第7回：動画② 第8回：4. 新しいバカロレア (1) 第9回：4. 新しいバカロレア (2) 第10回：動画③ 第11回：5. 利用者のロコミ評価サイト (1) 第12回：5. 利用者のロコミ評価サイト (2) 第13回：動画④ 第14回：a:まとめ、b:試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 時事問題に関心を持ち、自ら情報収集する姿勢が重要になります。 フランス語の意味を調べられるように、辞書を持っている人は持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：必ず授業の前に教科書の音源を聴き、実際に声に出して読んでおきます。その上で、和訳をしましょう。 知らない語句の発音や意味を辞書で調べる習慣をつけましょう。 復習：教科書の文法事項のおさらいをしましょう。 動画を扱った回後は、再度動画を視聴しながら、用いられていた表現などを確認しましょう。 自分で関連する項目や興味を持った事柄について情報収集しましょう。		
5. 教科書 『時事フランス語 2025 年度版 Hirondele 2025』朝日出版社		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 解説や講評等は、授業内もしくは Oh-o! Meiji 上で行う。		
8. 成績評価の方法 平常点 40%（授業への参加度、課題、小テスト）、試験 60%		
9. その他 許可なく授業の録画、録音、撮影はできません。		

科目ナンバー：(LA) LAN231J		
時事フランス語 A II		瀬川 愛美
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 講義では、まず演習形式で教科書のフランスおよびフランス語圏の時事トピックを音読し、内容を把握します。 文法事項や発音などにも触れ、フランス語の基礎の復習をします。 続いて、関連事項について、自分から積極的に情報収集するための方法やツールの使い方を身につけていきます。 適宜、フランスメディアによるニュース動画等も扱います。動画を通して生きたフランス語に触れ、視聴覚情報から内容を大まかに理解する力を養います。動画に付随する要約文の概要を捉えながら、語彙も増やしていきます。 到達目標： ①時事内容を理解し、関連する項目や日本からの視点などと繋げて、自ら考えを深められる。 ②時事問題に関心を持ち、自分から積極的に情報収集できる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：8. フレンチ・タッチ (1) 第3回：8. フレンチ・タッチ (2) 第4回：動画① 第5回：9. ケイジャン-ルイジアナのフランス語話者たち (1) 第6回：9. ケイジャン-ルイジアナのフランス語話者たち (2) 第7回：動画② 第8回：11. 憲法に書き込まれた中絶権-象徴的なできごと (1) 第9回：11. 憲法に書き込まれた中絶権-象徴的なできごと (2) 第10回：動画③ 第11回：12. アングレーム国際漫画祭 (1) 第12回：12. アングレーム国際漫画祭 (2) 第13回：動画④ 第14回：a:まとめ、b:試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 時事問題に関心を持ち、自ら情報収集する姿勢が重要になります。 フランス語の意味を調べられるように、辞書を持っている人は持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：必ず授業の前に教科書の音源を聴き、実際に声に出して読んでおきます。その上で、和訳をします。 知らない語句の発音や意味を辞書で調べる習慣をつけましょう。 復習：教科書の文法事項のおさらいをしましょう。 ニュース動画を扱った回のは後は、再度動画を視聴しながら、用いられていた表現などを確認しましょう。 自分で関連する項目や興味を持った事柄について情報収集しましょう。		
5. 教科書 『時事フランス語 2025 年度版 Hirondelle 2025』朝日出版社		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 解説や講評等は、授業内もしくは Oh-o! Meiji 上で行う。		
8. 成績評価の方法 平常点 40%（授業への参加度、課題、小テスト）、試験 60%		
9. その他 許可無く授業の録画、録音、撮影はできません。		

科目ナンバー：(LA) LAN231J		
資格フランス語 A I		渡辺 響子
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 年に2回、春と秋に実施される実用フランス語検定試験合格を目指すという具体的な目標のある授業です。 明確な目標があるので、それに適した傾向と対策をします。 そうは言っても、それだけでは無味乾燥した授業になってしまうので、適宜アクチュアルなトピックをフランス語で読んだり、新聞を読んだりしてフランス語圏で今何が起きているかにもアンテナをはりましょう。 ひとりではむづかしい聞き取りや、ディクテもやる予定です。 到達目標 まずは仏検4級～3級を狙いますが、頑張り次第では、その上にも挑戦できます。 仏検は日本だけの試験ですが、場合によってはフランス国民教育省から交付される DELF・DALF も視野に入れていきましょう。問題もフランス語なので二の足を踏むかもしれませんが、こちらは世界中で通用するものです。		
2. 授業内容 基本的には2週続けて過去問題や模擬試験的な問題を解いてその解説をしたら、3週目はテキストや配布プリントで少し長いフランス語の文章を読みます。 第1回：a のみ。イントロダクション。各人のレベル、希望受験の確認 第2回：過去問題（1） 第3回：模擬試験（1） 第4回：フランスの新聞記事 第5回：過去問題（2） 第6回：模擬試験（2） 第7回：『時事フランス語 2025 年度版』（歴史・教育） 第8回：過去問題（3） 第9回：模擬試験（3） 第10回：『時事フランス語 2025 年度版』（社会・歴史） 第11回：過去問題（4） 第12回：模擬試験（4） 第13回：『時事フランス語 2025 年度版』（文化・歴史） 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 すでに、ある程度フランス語の基礎を学んだ人が対象です。 辞書は電子辞書だけでは、不十分です。また、授業中に携帯で調べることはやめましょう。理由は授業時に話します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前もって配布するテキストは事前に読んでおきましょう。		
5. 教科書 石井洋二郎／野崎夏生／ジョルジュ・ヴェスィエール 『時事フランス語 2025 年度版』（hirondelle 2025 variétés françaises）朝日出版社		
6. 参考書 仏検公式ガイドブック		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物へのフィードバックは、その性格によって、 1 個別に「レポート」の「コメント欄」に記す あるいは 2 全体評を教室で行います。		
8. 成績評価の方法 平常点のみで評価します。 出席点だけではなく、授業中の発言などの参加と、提出物が評価の対象です。 資格試験の受験は強制ではありませんが、こういう看板の授業なので、極力受けるように（そして合格するように）しましょう。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAN231J		
資格フランス語 A II		渡辺 響子
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 年に2回、春と秋に実施される実用フランス語検定試験合格を目指すという具体的な目標のある授業です。 明確な目標があるので、それに適した傾向と対策をします。 そうは言っても、それだけでは無味乾燥した授業になってしまうので、適宜アクチュアルなトピックをフランス語で読んだり、新聞を読んだりしてフランス語圏で今何が起こっているかにもアンテナをはりましょう。 ひとりではむづかしい聞き取りや、ディクテもやる予定です。 A I を受講していなくても問題なく履修できます。 到達目標 まずは4級～3級を狙いますが、頑張り次第では、その上にも挑戦できます。 仏検は日本だけの試験ですが、場合によってはフランス国民教育省から交付される DELF・DALF も視野に入れていきましょう。問題もフランス語で出ると言われると怯むかもしれませんが、レベルは同じ程度で、こちらは世界中で通用します。		
2. 授業内容 基本的には2週続けて過去問題や模擬試験的な問題を解いてその解説をしたら、3週目はテキストや配布プリントで少し長いフランス語の文章を読みます。 第1回：a のみ。イントロダクション。各人のレベル、希望受験の確認 第2回：過去問題（1） 第3回：模擬試験（1） 第4回：フランスの新聞記事 第5回：過去問題（2） 第6回：模擬試験（2） 第7回：『時事フランス語 2024 年度版』（社会） 第8回：過去問題（3） 第9回：模擬試験（3） 第10回：『時事フランス語 2024 年度版』（文学・政治） 第11回：過去問題（4） 第12回：模擬試験（4） 第13回：『時事フランス語 2024 年度版』（宗教・歴史） 第14回：まとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 すでに、ある程度フランス語の基礎を学んだ人が対象です。 春から始めた一年生も、意欲があれば履修できます。 辞書は電子辞書だけでは、不十分です。また、授業中に携帯で調べることはやめましょう。理由は授業時に話します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前もって配布するテキストは事前に読んでおきましょう。		
5. 教科書 石井洋二郎／野崎夏生／ジョルジュ・ヴェスィエール 『時事フランス語 2025 年度版』（hirondelle 2025 variétés françaises）朝日出版社		
6. 参考書 仏検公式ガイドブック		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物へのフィードバックは、その性格によって、 1 個別に「レポート」の「コメント欄」に記す あるいは 2 全体評を教室で行います。		
8. 成績評価の方法 平常点のみで評価します。 出席点だけではなく、授業中の発言や参加度と、提出物が評価の対象です。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAN241J		
スペイン語実践Ⅰ		モラレス・ムニョス
1 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 日常的な場面での、口語また文章でのコミュニケーションにおけるスペイン語の基礎文法を習得し、その応用力を養う。自己表現また簡単な文章の読解に必要な基本的な語彙を蓄え、実際に使えるようにする。ペアなどでの発表を行う。 【到達目標】 自分自身や周囲の人たちの日常生活についての基礎的な情報の発信と受容が適切に行えるようにする。身の回りのこと、人物や場所についての描写が適切に行えるようにする。スペイン語を用いて平易な日常会話が可能となるよう、描写や自己表現に必要な語彙を蓄えつつ、実際の表現力を獲得していく中で基礎文法の定着を目指す。同時に、コミュニケーション能力の涵養には不可欠であるスペイン語圏の文化や習慣についての知識を深めていく。		
2. 授業内容 第1回：導入：スペイン語での自己紹介によるレベル診断 第2回：スペイン語圏の国々 第3回：個人データの記入の仕方 第4回：家族の紹介 第5回：生活と習慣 第6回：ビデオを見ての自己診断 第7回：余暇の過ごし方 趣味 第8回：余暇の過ごし方 流行りのスポーツ 第9回：メキシコについて ビデオを見ての自己診断 第10回：お祝い 飲み物 食べ物 第11回：比較 意見を言う 第12回：誕生日 成人式 第13回：国々の習慣の比較 ビデオを見ての自己診断 第14回：a:これまで学んだことのまとめを兼ねた練習 b:試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 (1)コミュニケーションの練習には自分のことを語らなければならないので、積極的かつ開放的に練習に取り組む心構えをしておくこと。 (2)遅刻、欠席をしない。 (3)実践の授業ゆえ 80 パーセント以上の出席を求める。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新出単語調べとその日の授業の復習		
5. 教科書 Equipo Frecuencias 『Frecuencias A1.2. Libro del alumno』 Edinumen ISBN: 978-84-91794-52-3		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題等へのフィードバックについては、その都度伝える。		
8. 成績評価の方法 試験（50%）、平常点（50%） （平常点は授業参加（25%）と授業中の課題など（25%）の合計）		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAN241J		
スペイン語実践Ⅱ		モラレス・ムニョス
1 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 日常的な場面での、口語また文章でのコミュニケーションにおけるスペイン語の基礎文法を習得し、その応用力を養う。自己表現また簡単な文章の読解に必要な基本的な語彙を蓄え、実際に使えるようにする。ペアなどでの発表を行う。 【到達目標】 自分自身や周囲の人たちの日常生活についての基礎的な情報の発信と受容が適切に行えるようにする。身の回りのこと、人物や場所についての描写が適切に行えるようにする。スペイン語を用いて平易な日常会話が可能となるよう、描写や自己表現に必要な語彙を蓄えつつ、実際の表現力を獲得していく中で基礎文法の定着を目指す。同時に、コミュニケーション能力の涵養には不可欠であるスペイン語圏の文化や習慣についての知識を深めていく。		
2. 授業内容 第1回：旅行について（点過去規則活用） 第2回：気候について 夏休み 第3回：一週間を振り返る（点過去不規則活用） 第4回：休暇と観光旅行 第5回：チリとイースター島 ビデオを見ての自己診断 第6回：生涯の記録（点過去・線過去） 第7回：インターネットのスペイン語 第8回：経験の表現（現在完了形） 第9回：日常生活と経験 第10回：NGO とネット上の活動 ビデオを見ての自己診断 第11回：著名人の伝記 第12回：有名人について（現在と過去） 第13回：カリブ海地域とその音楽 ビデオを見ての自己診断 第14回：a:これまで学んだことのまとめを兼ねた練習 b:試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 (1) コミュニケーションの練習には自分のことを語らなければならないので、積極的かつ開放的に練習に取り組む心構えをしておくこと。 (2) 遅刻、欠席をしない。 (3) 実践の授業ゆえ 80 パーセント以上の出席を求める。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新出単語調べとその日の授業の復習		
5. 教科書 Equipo Frecuencias 『Frecuencias A1.2. Libro del alumno』 Edinumen ISBN: 978-84-91794-52-3		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題等へのフィードバックについては、その都度伝える。		
8. 成績評価の方法 試験（50%）、平常点（50%） （平常点は授業参加（25%）と授業中の課題など（25%）の合計）		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAN311J		
English Seminar B I		辻岡 宏子
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 TOEIC の問題をベースとし総合的な英語力の向上を目指すクラスで、TOEIC600-750 を目標とした教科書を使用します。 学生からの発信を重視した授業形態で、グループワークやペアワークを中心に、積極的な授業参加により能動的に学ぶ態度を身に着けます。 TOEIC の問題を通してリーディングやリスニング力を養い、関連するテーマについてライティングやスピーキング活動を行います。 また、英語の読解全般にかかわるストラテジーを学習し、毎回の課題提出により学習内容の定着をはかります。		
2. 授業内容 第1回：Introduction, Restaurants 第2回：Offices 第3回：Daily life 第4回：Shopping 第5回：Mid-term 第6回：Finances 第7回：Transportation 第8回：Technology 第9回：Health 第10回：Travel 第11回：Business 第12回：Entertainment 第13回：Final 第14回：Review ＊第1-5, 10, 11, 13回は対面授業、それ以外オンデマンドの予定。ただし、変更の可能性があるため授業での告知を都度確認すること。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 履修希望の学生は初回に出席してください。教科書に基づいたプレゼンテーションのスケジュールを決めます。 履修前に、この授業が卒業単位として認定されるか確認してください。 毎週、課題が課されます。 毎回、デバイス（スマートフォン、PC、タブレット等）を持参してください 授業に出席しない場合は理由にかかわらず欠席とします。 30分以上の遅刻は欠席扱いです。 評価は授業参加度を含む平常点評価で、3回以上欠席すると単位取得は難しくなります。 オンデマンドと対面授業の回は日程変更の可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の学習テーマについて身の回りの事柄と関連付けられるようニュース等に注意を払う。 授業で学習した表現や論理構成を宿題や発表の際に使用する。		
5. 教科書 A communicative approach to the TOEIC L&R test Advanced Kadoyama & Capper Seibido 2024		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブの機能を活用し、授業時間内及び授業終了後に課題や質疑の内容を共有し、クラス内で意見交換の場を設けます。 授業用メールアドレスを公開し、個別の質疑や相談に対応します。		
8. 成績評価の方法 平常点（試験、課題、授業への貢献度等）		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN311J		
English Seminar BⅡ		辻岡 宏子
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 TOEIC の問題をベースとし総合的な英語力の向上を目指すクラスで、TOEIC600-750 を目標とした教科書を使用します。 学生からの発信を重視した授業形態で、グループワークやペアワークを中心に、積極的な授業参加により能動的に学ぶ態度を身に着けます。 TOEIC の問題を通してリーディングやリスニング力を養い、関連するテーマについてライティングやスピーキング活動を行います。 また、英語の読解全般にかかわるストラテジーを学習し、毎回の課題提出により学習内容の定着をはかります。		
2. 授業内容 第1回：Introduction, Dining out 第2回：Offices 第3回：General business 第4回：Mid-term 第5回：Communication 第6回：Health 第7回：Finance and Budgeting 第8回：Entertainment 第9回：Mid-term 2 第10回：Purchasing 第11回：Corporate development 第12回：Final 第13回：Technical areas 第14回：Review ＊第1-5, 11, 12, 14 回は対面授業、それ以外オンデマンドの予定。ただし、変更の可能性があるため授業での告知を都度確認すること。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 履修希望の学生は初回に出席してください。教科書に基づいたプレゼンテーションのスケジュールを決めます。 履修前に、この授業が卒業単位として認定されるか確認してください。 毎週、課題が課されます。 毎回、デバイス（スマートフォン、PC、タブレット等）を持参してください。 授業に出席しない場合は理由にかかわらず欠席とします。 30 分以上の遅刻は欠席扱いです。 評価は授業参加度を含む平常点評価で、3 回以上欠席すると単位取得は難しくなります。 オンデマンドと対面授業の回は日程変更の可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の学習テーマについて身の回りの事柄と関連付けられるようニュース等に注意を払う。 授業で学習した表現や論理構成を宿題や発表の際に使用する。		
5. 教科書 Best Practice for the TOEIC® L&R Test -Advanced Yoshizuka, Graham, Seibido (2023)		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブの機能を活用し、授業時間内及び授業終了後に課題や質疑の内容を共有し、クラス内で意見交換の場を設けます。 授業用メールアドレスを公開し、個別の質疑や相談に対応します。		
8. 成績評価の方法 平常点（試験、課題、授業への貢献度等）		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN311J		
English Seminar B I		西垣 学
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 アメリカ映画とその背景になっているアメリカの文化について理解を深め、併せてパワーポイントによるプレゼンテーションスキルも学ぶことが主な目標です。 課題の映画について自由に語り合うのが基本ですが、同時に映画の台詞を利用して英語の運用能力向上も図ります。具体的には引用可能なフレーズ、あるいはよく引用されるフレーズ、たとえば “Frankly, my dear, I don’ t give a damn.” (『風と共に去りぬ』) “I’ ve got a very bad feeling about this.” (『スター・ウォーズ』) “Life is like a box of chocolates.” (『フォレスト・ガンプ』) など英語による表現を学びます。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2～14回：担当学生による発表と全員による意見交換。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 和泉開講の English Seminar A とほぼ同型式ですが、教材の重複はないので English Seminar A の既修者も受講することが出来ます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週課題映画を見て、それについて自分が感じたこと、考えたことをまとめる。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 参考サイト：www. imdb. com		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内にコメントします。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度 50%，授業への貢献度 50%）による。人数的な制限によりプレゼンテーションの機会がなかった受講生はレポートによる評価となります。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN311J		
English Seminar BⅡ		西垣 学
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 春学期に続きアメリカ映画とその背景になっているアメリカの文化について理解を深め、併せてパワーポイントによるプレゼンテーションスキルも学ぶことが主な目標です。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2～14回：担当学生による発表と全員による意見交換。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 和泉開講の English Seminar A とほぼ同型式ですが、教材の重複はないので English Seminar A の既修者も受講することが出来ます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週課題映画を見て、それについて自分が感じたこと、考えたことをまとめる。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 参考サイト www.imdb.com https://www.allcinema.net/		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内にコメントします。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度 50%、授業への貢献度 50%）による。人数的な制限によりプレゼンテーションの機会がなかった受講生はレポートによる評価となります。		
9. その他 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN311J		
Writing BI		原 優子
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 到達目標 この授業ではパラグラフの基本とそのバリエーションを学び、様々な内容のパラグラフを論理的に書く paragraph writing を練習する。 授業の概要 テキストに沿ってパラグラフの一般的な構成方法と Genre（文章のタイプ）に応じた配列の仕方などを学習する。Lesson 毎に提出課題あり。長さは B5 用紙 1 ページが標準の paragraph writing。初回は下書きとして提出，添削して返却するので，手直しして 2 回目に清書として提出すること。		
2. 授業内容 第 1 回：Guidance, Pre-unit 課題の説明、下書き 第 2 回：Pre-unit 課題の清書 第 3 回：Unit 1 説明，作文課題下書き 第 4 回：Unit 1 清書 第 5 回：Unit 2 説明，作文課題下書き 第 6 回：Unit 2 清書 第 7 回：Unit 3 説明 作文課題下書き 第 8 回：Unit 3 清書 第 9 回：Unit 4 説明 作文課題下書き 第 10 回 Unit 4 清書 第 11 回：Unit 5 説明 作文課題下書き 第 12 回：Unit 5 清書 第 13 回：これまでの課題の提出確認 第 14 回：即題で英作文（期末テストに準じる） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 出席重視。 欠席は感染症罹患や急引きなど公欠扱いになる理由がある場合を除き 4 回を超えないこと。4 回を超えると単位を認めません。 指定テキストを必ず購入して持参してください。 作品を書く作業が中心なので英文を正しくかつ創造的に書くことに関心を持つ学生が対象。 課題の提出期限は 2 週間。作品の期限内提出を重視し、全ての作品提出が単位取得の条件とします。 授業に全く出席せずに、あるいは初回と最終回のみ出席で、課題だけを最終回にまとめて提出しても評価の対象になりません。 ＊作品はオリジナルであること、他者の作品の借用やネットからのコピーは固く禁止します。 ＊ChatGPT などの生成 AI や翻訳アプリなどの使用は認めません。万一発覚した場合、当該課題は評価なしとなります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 課題作文の下書きと清書は授業内に行うこと。 予習としてはテキストのモデル文を読み課題の構想を立てること。復習は添削内容の見直し。		
5. 教科書 Genre approach to paragraph writing 成美堂		
6. 参考書 和英、英和 辞書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 writing の作品を添削して返却します。添削を参考に清書してください。		
8. 成績評価の方法 課題の提出状況，および最終回の即題英作文を含む全ての課題作品の出来栄え。課題提出は 2 週間以内が期限。遅れた場合は減点となります。また大幅に遅れた場合は採点の対象となりません。 履修上の注意にも明記したように剽窃や Chat GPT などの生成 AI の使用が明らかな場合は評価の対象になりません。		
9. その他 教室内での私語，無断の教室出入り，スマートフォン等の辞書用途以外の授業中の使用、は控えてください。 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN311J		
Writing B II		原 優子
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 到達目標 この授業ではパラグラフの基本とそのバリエーションを学び、様々な内容のパラグラフを論理的に書く paragraph writing を練習する。 授業の概要 テキストに沿ってパラグラフの一般的な構成方法と Genre（文章のタイプ）に応じた配列の仕方などを学習する。Lesson 毎に提出課題あり。長さは 150 語から 200 語程度の paragraph writing。初回は下書きとして提出，添削して返却するので，手直して 2 回目に清書として提出すること。		
2. 授業内容 第 1 回：Unit 7 説明，作文課題下書き 第 2 回：Unit 7 清書 第 3 回：Unit 8 説明，作文課題下書き 第 4 回：Unit 8 清書 第 5 回：Unit 9 説明 作文課題下書き 第 6 回：Unit 9 清書 第 7 回：Lesson 10, 11 説明 作文課題下書き 第 8 回：Lesson 10, 11 清書 第 9 回：Lesson 12 説明 作文課題下書き 第 10 回：Lesson 12 清書 第 11 回：Lesson 13 説明 作文課題下書き 第 12 回：Lesson 13 清書 第 13 回：これまでの課題の提出確認 第 14 回：即題で英作文（期末テストに準じる） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 出席重視。 欠席は感染症罹患やインターンシップなど公欠扱いになる理由がある場合を除き 4 回を超えないこと。4 回を超えると単位を認めません。 指定テキストを必ず購入して持参してください。 作品を書く作業が中心なので英文を正しくかつ創造的に書くことに関心を持つ学生が対象。 課題の提出期限は 2 週間。作品の期限内提出を重視し、全ての作品提出が単位取得の条件とします。 授業に全く出席せずに、あるいは初回と最終回のみでの出席で、課題だけを最終回にまとめて提出しても評価の対象になりません。 ＊作品はオリジナルであること、他者の作品の借用やネットからのコピーは固く禁止します。 ＊ChatGPT などの生成 AI や翻訳アプリなどの使用は認めません。万一発覚した場合、当該課題は評価なしとなります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 課題作文の下書きと清書は授業内に行う。 予習としてはテキストのモデル文を読み課題の構想を立てること。 復習としては添削内容を見直すこと。		
5. 教科書 Genre approach to paragraph writing 成美堂		
6. 参考書 和英，英和 辞書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 writing の作品を添削して返却します。添削を参考に清書してください。		
8. 成績評価の方法 課題の提出状況，および最終回の即題英作文を含む全ての課題作品の出来栄え。課題の提出は 2 週間が期限。期限に遅れた場合は減点となります。また大幅に遅れた場合は採点の対象となりません。 また、履修上の注意でも明記したように剽窃や生成 AI などの使用が明らかな場合は評価の対象になりません。		
9. その他 教室内での私語，無断の教室出入り，スマートフォン等の辞書使用以外の授業中の使用、は控えてください。 ＊当科目は「事前登録」となっており、履修希望者多数の場合は抽選を行う。「事前登録」の詳細は、新年度配布の履修関係資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAN321J		
時事ドイツ語B I		山口 真人
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 「ドイツ語読解と映像視聴で知るドイツ語圏文化」 受講生のドイツ語学習のレベルに合わせて、ドイツ語圏の文化・歴史、芸術、風俗習慣などにふれて知見を高めます。 エポックメイキングな出来事や、日本人の発想と異なる事例を扱ったドイツ文テキストを読み、さらにドキュメントや映画作品など映像資料を駆使して、総合的な見識を深めましょう。授業タイトルの「時事」とは、昨今のことだけでなく幅広く近現代の特定の時期を意味する、ととらえてほしいです。 授業ではまずテキスト文を、文法に即して確認しつつ丹念に読み解いていきます。その後で、把握した内容・問題に関連した映像資料を視聴して、詳しい時代背景や人物像、現代につながる影響や問題点などの視点で掘りさげていきます。テーマはさまざま多岐にわたります。 ドイツ語読解力のレベルアップだけでなく、言語を通じて知識や教養を深め、文化を広い視点でとらえる好奇心を持った受講生の参加を求めます。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション。 第 2 回：導入のテキスト読解。 第 3 回：テーマその 1 「ドイツ人と自然」 テキスト読解。 第 4 回：テーマその 1 テキスト読解。(続き) 第 5 回：テーマその 1 についての文化学習。 第 6 回：テーマその 2 「ドイツ人とサッカー」 テキスト読解。 第 7 回：テーマその 2 テキスト読解。(続き) 第 8 回：テーマその 2 についての文化学習。映画を参考に。 第 9 回：テーマその 3 「ドイツに学んだ明治の日本人」 テキスト読解。 第 10 回：テーマその 3 テキスト読解。(続き) 第 11 回：テーマその 3 についての文化学習。映画を参考に。 第 12 回：テーマその 4 「アンネ・フランクという少女」 テキスト読解。 第 13 回：テーマその 4 テキスト読解。(続き) 第 14 回：テーマその 4 についての文化学習。映画を参考に。		
3. 履修上の注意 授業テーマに即して前提知識をクラスで共有するため、各受講者に学期中に一回、小テーマでの発表を行ってもらいます。テーマは教員から事前に与えられ、それを調べ学習して発表します。その際に作成されたファイルはクラス内で配布、共有します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめテキスト文を予習して授業に臨むこと。		
5. 教科書 教材とする読解テキストは担当教員が順次配布します。		
6. 参考書 テーマ内容に関連して参考図書がある場合、追って指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 それぞれのテーマ学習が終了する時点で、まとめとして感想、質問、意見を述べる場としてリアクションペーパーの提出を求めます。それをまとめて授業内でさらにコメントします。		
8. 成績評価の方法 平常点 100% 授業への参加度や、各受講者に個別に与える小テーマ発表、提出されたリアクションペーパーの内容などから総合的に評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAN321J		
時事ドイツ語Ⅱ		山口 真人
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 「ドイツ語読解と映像視聴で知るドイツ語圏文化」 受講生のドイツ語学習のレベルに合わせて、ドイツ語圏の文化・歴史、芸術、風俗習慣などにふれて知見を高めます。 エポックメイキングな出来事や、日本人の発想と異なる事例を扱ったドイツ文テキストを読み、さらにドキュメントや映画作品など映像資料を駆使して、総合的な見識を深めましょう。授業タイトルの「時事」とは、昨今のことだけでなく幅広く近現代の特定の時期を意味する、ととらえてほしいです。 授業ではまずテキスト文を、文法に即して確認しつつ丹念に読み解いていきます。その後で、把握した内容・問題に関連した映像資料を視聴して、詳しい時代背景や人物像、現代につながる影響や問題点などの視点で掘りさげていきます。テーマはさまざま多岐にわたります。 ドイツ語読解力のレベルアップだけでなく、言語を通じて知識や教養を深め、文化を広い視点でとらえる好奇心を持った受講生の参加を求めます。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション。 第 2 回：導入のテキスト読解。 第 3 回：テーマその 1 「作曲家ベートーヴェン」 テキスト読解。 第 4 回：テーマその 1 テキスト読解。(続き) 第 5 回：テーマその 1 についての文化学習。フランス革命と「第九」 第 6 回：テーマその 2 「第九交響曲と日本」 テキスト読解。 第 7 回：テーマその 2 テキスト読解。(続き) 第 8 回：テーマその 2 についての文化学習。映画を用いて・ 第 9 回：テーマその 3 「杉原千畝」 テキスト読解。 第 10 回：テーマその 3 テキスト読解。(続き) 第 11 回：テーマその 3 についての文化学習。ドキュメント映像を見る。 第 12 回：テーマその 4 「ドイツに見る移民混合社会」 テキスト読解。 第 13 回：テーマその 4 テキスト読解(続き)。 第 14 回：テーマその 4 についての文化学習。映画を用いて。		
3. 履修上の注意 授業テーマに即して前提知識をクラスで共有するため、各受講者に学期中に一回、小テーマでの発表を行ってもらいます。テーマは教員から事前に与えられ、それを調べ学習して発表します。その際に作成されたファイルはクラス内で配布、共有します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめテキスト文を予習して授業に臨むこと。		
5. 教科書 教材とする読解テキストは担当教員が順次配布します。		
6. 参考書 テーマ内容に関連して参考図書がある場合、追って指示を出します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各テーマの終了時点で、まとめとして感想、質問、意見を述べる場としてリアクションペーパーの提出を求めます。それをまとめて授業内でさらにコメントします。		
8. 成績評価の方法 平常点 100% 授業への参加度や、各受講者に個別に与える小テーマ発表、提出されたリアクションペーパーの内容などから総合的に評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAN321J		
上級ドイツ語実践 I		シェアマン
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 このコースでは主にドイツ語を使用します。言語は繰り返し、つまり常に使用することで習得されます。そのため、私たちは多く話し、聞くだけでなく、読むことや書くことも行い、4つの言語スキルをすべて練習します。 使用する教科書は初心者レベルから始まり、日常会話で終わります。参加者のレベルに応じて進行速度を調整します。 さらに、補足として言語学習用のアプリも活用したいと考えています。 In diesem Kurs wird vorwiegend Deutsch gesprochen. Sprachen werden durch Wiederholung, also ständige Verwendung erlernt. Wir werden viel sprechen und hören, aber auch lesen und schreiben, also alle vier Sprachkompetenzen üben. Das gewählte Lehrbuch beginnt auf dem Anfängerniveau, endet aber mit Alltagskonversation. Je nach Niveau der Teilnehmer wird das Tempo verändert. Weiters wollen wir auch eine App zum Sprachenlernen als Ergänzung verwenden.		
2. 授業内容 1. Einführung イントロ 2. Lektion 1 3. Lektion 1 4. Lektion 1 5. Lektion 1 6. Lektion 2 7. Lektion 2 8. Lektion 2 9. Lektion 2 10. Lektion 3 11. Lektion 3 12. Lektion 3 13. Wiederholung und Zusammenfassung 復習とまとめ 14. Prüfung 試験		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業を復習する際には、教科書のテキストを音読し、書き写してください。 予習として、教科書の次の練習問題を確認してください。 Bitte wiederholen Sie jede Kursstunde, indem Sie den Text im Lehrbuch laut lesen und abschreiben. Zur Vorbereitung werfen Sie einen Blick auf die nächsten Übungen im Lehrbuch.		
5. 教科書 Plan D. Deutsch für Anfänger, Kursbuch und Arbeitsbuch, von Enrico Akamatsu, Andreas Meyer, Sanshusha.		
6. 参考書 『独検・CEFR 対応 頻出度順ドイツ語単語 800』川村和宏、朝日出版社、2022 年。 Grundwortschatz Deutsch: 800 Wörter für die Stufen A1/A2 und Diplom Deutsch in Japan, Stufen 4 und 5, Kazuhiro Kawamura, Asahi Verlag, 2022.		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 積極的な参加 Aktive Teilnahme 50% 課題 Aufgaben 30% テスト Prüfung 20%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAN321J		
上級ドイツ語実践Ⅱ		シェアマン
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 このコースでは主にドイツ語を使用します。言語は繰り返し、つまり常に使用することで習得されます。そのため、私たちは多く話し、聞くだけでなく、読むことや書くことも行い、4つの言語スキルをすべて練習します。 使用する教科書は初心者レベルから始まり、日常会話で終わります。参加者のレベルに応じて進行速度を調整します。 さらに、補足として言語学習用のアプリも活用したいと考えています。 In diesem Kurs wird vorwiegend Deutsch gesprochen. Sprachen werden durch Wiederholung, also ständige Verwendung erlernt. Wir werden viel sprechen und hören, aber auch lesen und schreiben, also alle vier Sprachkompetenzen üben. Das gewählte Lehrbuch beginnt auf dem Anfängerniveau, endet aber mit Alltagskonversation. Je nach Niveau der Teilnehmer wird das Tempo verändert. Weiters wollen wir auch eine App zum Sprachenlernen als Ergänzung verwenden.		
2. 授業内容 1. Wiederholung 復習 2. Lektion 5 3. Lektion 5 4. Lektion 5 5. Lektion 5 6. Lektion 4 7. Lektion 4 8. Lektion 4 9. Lektion 4 10. Lektion 6 11. Lektion 6 12. Lektion 6 13. Wiederholung und Zusammenfassung 復習とまとめ 14. Prüfung 試験		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業を復習する際には、教科書のテキストを音読し、書き写してください。 予習として、教科書の次の練習問題を確認してください Bitte wiederholen Sie jede Kursstunde, indem Sie den Text im Lehrbuch laut lesen und abschreiben. Zur Vorbereitung werfen Sie einen Blick auf die nächsten Übungen im Lehrbuch.		
5. 教科書 Plan D. Deutsch für Anfänger, Kursbuch und Arbeitsbuch, von Enrico Akamatsu, Andreas Meyer, Sanshusha.		
6. 参考書 『独検・CEFR 対応 頻出度順ドイツ語単語 800』川村和宏、朝日出版社、2022 年。 Grundwortschatz Deutsch: 800 Wörter für die Stufen A1/A2 und Diplom Deutsch in Japan, Stufen 4 und 5, Kazuhiro Kawamura, Asahi Verlag, 2022.		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 積極的な参加 Aktive Teilnahme 50% 課題 Aufgaben 30% テスト Prüfung 20%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAN331J		
上級フランス語Ⅰ		渡辺 響子
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の概要≫ 授業の性質上、履修者の人数が少ないことが予想されるので、履修者の希望を可能な限り反映させながら授業を進めることが可能だと思われます。フランスの新聞や雑誌を読み、テレビやインターネットを利用して、現在のフランスおよびフランス語圏で起きていることをできるだけ近くに感じてほしいと考えています。さらに、それを自分の言葉で表現できるようになることを期待しています。 ≪授業の到達目標≫ すでに1・2年次に習得したフランス語の「読む」「書く」「聞く」「話す」能力を、バランスよく伸ばすこと、能動的にフランス語を使って自己表現できるようになることを目指しています。 語学の授業ではありますが、世界の中でのフランスの位置を把握したり、いわゆるフランス的思考といったものを身につけることも目標に掲げています。		
2. 授業内容 毎回、その時に重要な時事問題を選び、その取り扱い方がメディアによってどう違うかを比較します。新聞・雑誌・ネットなどの同時代のメディアに触れます。同時に、履修者の興味によっては文学や思想の本を読むことも考えています。 第1回：aのみ イントロダクション、各自のレベルと要望の確認 第2回：フランスの文献、ラジオなどの利用方法 第3回：ディクテ・文法の総復習 第4回：新聞の読み比べ（1） 第5回：新聞の読み比べ（2） 第6回：発音練習 第7回：雑誌の読み比べ（1） 第8回：雑誌の読み比べ（2） 第9回：仏作文 第10回：インターネットを使って（1） 第11回：インターネットを使って（2） 第12回：インターネットを使って（3） 第13回：知識人から学生へのメッセージ 第14回：文学作品を読む ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「上級」フランス語という看板ですが、仮に自己診断で「上級」ではないと思っても、学びたいという意欲と好奇心があるなら、まずは挑戦してみてください。基本的にプリント配布や、ネット利用、ディクテなどが多いので、欠席した場合は各自でフォローすること。発音練習なども行いますが、「上手に」発音するに至るまで教室で時間を費やすことはむづかしいと考え、発音の規則をとともに再確認したあとは、各自の努力にまかせます。ただ、そのための協力は惜しみません。 じっと教室に座っていることが「出席」ではないので、積極的に参加すること。 現時点でのフランス語能力に自信がなくても履修可能と書いた通りですが、予習にはある程度の時間とエネルギーが必要であるとの覚悟はしてください。予習して及ばなかった部分は教室で丁寧に学びますが、どこがわからないかを明らかにしたうえで授業に臨んでください。再履修の代わりにはならないので注意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 アラカルトで進めて行く授業なので、遅くとも前の週には教材を配布します。それを家で予習した上で教室に来ること。 クラスの他の学生の時間を無駄にしたり、やる気を削ぐようなことは避けましょう。とはいっても、難しいことを課しているわけではなく、わからないところは教室でみんなで考えて作っていく形式の授業です。フランス語が好き、フランス語圏のことを知りたい！と思う人には楽しい授業になることは請け合います。		
5. 教科書 特に定めず、プリント配布が中心になります。 欠席した場合、Oh-o! Meiji から資料をダウンロードして授業に臨むこと。		
6. 参考書 『コレクション フランス語』シリーズ（白水社）。このコレクションは、「書く」「聞く」「文法」などの項目別に各1冊編まれているので、自分が特に気になっていることを重点的に学習することができます。他にも無数に参考書はあるので、目指していることによって適切なものも異なります。迷ったら教室で相談してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物へのフィードバックは、その性格によって、 1 個別に「レポート」の「コメント欄」に記す あるいは 2 全体評を教室で行います。		
8. 成績評価の方法 テストは行わず、普段の授業での発言や発表、提出物で評価します。出席だけでは安心材料にはならないと心得てください。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAN331J		
上級フランス語Ⅱ		渡辺 響子
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の概要≫ 授業の性質上、履修者の人数が少ないことが予想されるので、履修者の希望を可能なかぎり反映させながら授業を進めることが可能だと思われます。フランスの新聞や雑誌を読み、テレビやインターネットを利用して、現在のフランスおよびフランス語圏で起きていることをできるだけ近くに感じてほしいと思っています。さらに、それを自分の言葉で表現できるようになることを期待しています。 ≪授業の到達目標≫ すでに1・2年次に習得したフランス語の「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」能力を、バランスよく伸ばすこと、能動的にフランス語を使って自己表現できるようになることを目指しています。 語学の授業ではありますが、世界の中でのフランスの位置を把握したり、いわゆるフランス的思考といったものを身につけることも目標に掲げています。		
2. 授業内容 毎回、その時に重要な時事問題を選び、その取り扱い方がメディアによってどう違うかを比較します。新聞・雑誌・ネットなどの同時代のメディアに触れたあと、特に学生に宛てて書かれた文章を読む予定ですが、履修者の興味によっては文学や思想の本を読むことも可能。 第1回：a イントロダクション、各自のレベルと要望の確認 第2回：フランスの文献、ラジオなどの利用方法 第3回：ディクテ・文法の総復習 第4回：新聞の読み比べ（1） 第5回：新聞の読み比べ（2） 第6回：発音練習 第7回：雑誌の読み比べ（1） 第8回：雑誌の読み比べ（2） 第9回：仏作文 第10回：インターネットを使って（1） 第11回：インターネットを使って（2） 第12回：インターネットを使って（3） 第13回：知識人から学生へのメッセージ 第14回：文学作品を読む ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 上級フランス語Ⅱを履修していなくても問題ありません。 「上級」フランス語という看板ですが、仮に自己診断で「上級」ではないと思っても、学びたいという意欲と好奇心があるなら、まずは挑戦してみてください。基本的にプリント配布や、ネット利用、ディクテなどが多いので、欠席した場合は各自でフォローすること。発音練習なども行いますが、「上手に」発音するに至るまで教室で時間を費やすことはむづかしいと考え、発音の規則をとともに再確認したあとは、各自の努力にまかせます。ただし、そのためのアドバイスは惜しみません。 じっと教室に座っていることが「出席」ではないので、積極的に参加すること。 現時点でのフランス語能力に自信がなくても履修可能と書いた通りですが、予習にはある程度の時間とエネルギーが必要であるとの覚悟はしておいてください。予習して及ばなかった部分は教室で丁寧に学びますが、どこがわからないかを明らかにしたうえで授業に臨んでほしいと思います。再履修の代わりにはならないので気をつけてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 アラカルト形式の授業なので、遅くとも前の週には教材を配布します。教室に来る時にはその教材をすでに読んでいることが大前提。内容理解が難しければ、どこがわからないかがわかっていればOKです。教室にいる全員が目を通していることが毎回の授業の出発点です。 復習のポイントは毎回授業で言うので、それをこなしていけば相当力がつくことが期待できます。		
5. 教科書 特に定めず、プリント配布が中心になります。 欠席した場合、Oh-o! Meiji から資料をダウンロードして授業に臨むこと。		
6. 参考書 『コレクション フランス語』シリーズ（白水社）。このコレクションは、「書く」「聞く」「文法」などの項目別に各1冊編まれているので、自分が特に気になっていることを重点的に学習することができます。 各自が目指しているところによって選ぶものは大きく変わってきますから、実際に教室で相談してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物へのフィードバックは、その性格によって、 1 個別に「レポート」の「コメント欄」に記す あるいは 2 全体評を教室で行います。		
8. 成績評価の方法 テストは行わず、普段の授業での参加状況（出席ではなく、発言や発表、提出物など）で評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAN361J		
上級中国語 A I		魯 大鳴
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業は中国語のピンイン発音の後に中国語会話を中心とする授業です。毎回テキストのポイントを暗記し、内容を沿って、中国語の構文力を身に付けることを目標とします。中国語の勉強を通して、中国の文化、風土、人情などの理解を深めて、異文化比較もできるように目指します。		
2. 授業内容 第1回： テキストの紹介、中国語での自己紹介内容など。 第2回： テキストの第一課の本文、ポイント、発音練習 第3回： テキストの第一課の練習など 第4回： テキストの第二課の本文、ポイント、発音練習 第5回： テキストの第二課の練習など 第6回： テキストの第三課の本文、ポイント、発音練習 第7回： テキストの第三課の練習など 第8回： テキストの第四課の本文、ポイント、発音練習 第9回： テキストの第四課の練習 第10回： テキストの第五課の本文、ポイント、発音練習 第11回： テキストの第五課の練習 第12回： テキストの第六課の本文、ポイント、発音練習 第13回： テキストの第六課の練習 テストの説明 第14回： テスト ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 予習、復習が言語上達のカギである。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新しい単語の予習とこれまでに習った内容の復習。		
5. 教科書 「二冊めの中国語」 劉 穎 柴 森 杉野 元子 小澤 正人 著 白水社 (2300+税)		
6. 参考書 「中国語発音マスター」高田裕子著（大修館書店）(2000+税)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中、対面テストを通して、把握するようにします。		
8. 成績評価の方法 学習成績、学習態度などで、総合的に評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAN361J		
上級中国語 A II		魯 大鳴
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業は中国語の勉強を通して、中国語が話せるようになるだけでなく、中国の文化、風土、人情などの理解を深めることも目的とする。生地である北京を中心に具体的なさまざまな場面を設定して、それにふさわしい中国語会話を教えていく。 中国語で自己紹介を言えるよう目指します。		
2. 授業内容 第 1 回： 春学期の復習、後期用の自己紹介など。 第 2 回： テキスト第七課 本文、ポイント、発音練習 第 3 回： 第七課の練習 第 4 回： 第八課 本文、ポイント、発音練習 第 5 回： 第八課の練習 第 6 回： 第九課 本文、ポイント、発音練習 第 7 回： 第九課の練習 第 8 回： 第十課 本文、ポイント、発音練習 第 9 回： 第十課の練習 第 10 回： 第十一課 本文、ポイント、発音練習 第 11 回： 第十一課の練習 第 12 回： 第十二課 本文、ポイント、発音練習 第 13 回： 第十二課の練習。 テストの説明 第 14 回： テスト ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 予習、復習が言語上達のカギである。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新しい単語の予習とこれまでに習った内容の復習すること。		
5. 教科書 「二冊めの中国語」 劉 穎 柴 森 杉野 元子 小澤 正人 著 白水社 (2300+税)		
6. 参考書 「中国語発音マスター」高田裕子著（大修館書店）(2000+税)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中、対面テストを通して、把握するようにします。		
8. 成績評価の方法 平常点 50%（授業への参加度 30%，勉強への熱意，発言 20%）テスト 50%，総合的に評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAN341J		
上級スペイン語 A I		松尾 俊輔
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業は、中級までのスペイン語を履修済みの学生を対象とし、それまでに学んだ基礎的文法事項を用いて、実際に「生きた」スペイン語の文章を講読することにチャレンジします。春学期と秋学期の授業を併せて1年間かけて、学術的な水準のスペイン語をじっくり読み理解するのに十分なスペイン語力の基盤を養うのがこの授業の目標です。 春学期の授業では、エドゥアルド・ガレーノ Eduardo Galeano の評論文をいくつか読んでいきます。ガレーノはウルグアイ出身の作家・批評家・ジャーナリストであり、1970年代ラテンアメリカ左派の代表的な論者として知られています。その主著 Las venas abiertas de América Latina (1971) (邦訳『収奪された大地 ラテンアメリカ 500年』新評論、1987年)に代表されるように、広汎な世界史的知識と厳格な批判精神を後ろ盾として、現代ラテンアメリカ政治はもちろんのこと、神話や文学、サッカーにまで至る幅広いテーマをめぐる思索を、詩的表現を交えた1～3ページ程度の短く機知に富んだ文章の中に凝縮させて語るのがガレーノの真骨頂であり、2015年に亡くなるまで旺盛な執筆欲を発揮し続けました。 今年度の授業では、以下の著書の中からいくつかの小論を選んで読んでいく予定です。 ・El libro de los abrazos (1989) ・El cazador de historias (2016) ・Cerrado por fútbol (2017) コンパクトでテンポよく、そして含蓄深いガレーノの論考に取り組むことで、スペイン語の読解力を鍛えながら、ラテンアメリカの政治と社会をめぐる諸問題について考えていきます。 この授業の到達目標は下記の通りです。 ・動詞の活用をはじめとするひと通りのスペイン語基礎文法を再確認し、定着させる。 ・基礎からさらに一歩進んだより豊かなスペイン語の語彙や文法知識を身に付け、それを自ら駆使して(辞書と参考書の助けがあれば)学術的な水準のスペイン語を読解できるようになる。 ・講読内容を通じてラテンアメリカの政治と社会の諸相に対する理解を深め、それによって現代世界が抱える諸課題に対してよりグローバルかつ批判的な立場から挑むための視座を身に付ける。		
2. 授業内容 授業は伝統的な輪読方式で行います。すなわち、テキストの指定された範囲について、ひとりずつ「音読」をしてもらった上で、予習の成果(単なる「日本語訳」だけではなく、文法と内容の双方についての理解や解釈等を含みます)を述べてもらいます。その後、言語面と内容面の双方に関して分からない点や解説が必要な点について、教員も含め参加者全員で考えていきます。したがって、毎回の予習と授業への積極的な参加が必須です。ただ座っているだけで単位が来るという授業ではありませんので、留意してください。 第1回 インTRODクシオン、基礎文法の確認 第2回 El libro de los abrazos (1) 第3回 El libro de los abrazos (2) 第4回 El libro de los abrazos (3) 第5回 El libro de los abrazos (4) 第6回 El cazador de historias (1) 第7回 El cazador de historias (2) 第8回 El cazador de historias (3) 第9回 El cazador de historias (4) 第10回 Cerrado por fútbol (1) 第11回 Cerrado por fútbol (2) 第12回 Cerrado por fútbol (3) 第13回 Cerrado por fútbol (4) 第14回 a まとめ なお、上記の進度は目安であり、履修者の理解度等に応じて変更する場合があります。		
3. 履修上の注意 原則として、「接続法の活用と用法」までのひと通りのスペイン語文法を学んだ経験があることを履修の要件とします。不明な場合は、事前にメールで、ないしは初回授業の際に相談してください。 「春学期：数ページの短い文章」→「秋学期：20ページ程度の長い論文」と段階を踏みながら学術レベルのスペイン語を読み解く力を涵養する都合上、春学期と秋学期を通して履修することを推奨します。ただし、履修者の事情によってどちらか一方のみを履修することも許可します。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 毎回、テキストの指定された箇所について、辞書とにらめっこしながら読み込み、分からない単語を調べ、文の意味を取ってから授業に臨んでください。文意がうまく取れない場合があれば、辞書や文法書、あるいはインターネットその他の情報等も参照しながら、時間と能力が許す範囲で読み解く努力をしてください。 学び始めて日が浅い外国語なので、一目ではちんぷんかんぷんな文章があっても当然です。これまで身に付けた(限りある)文法知識と辞書を片手に立ち向かい、辞書にいくつも出てくる語義の中からどれが解釈として最も適切かを、統語や文脈、ひいては社会的文化的背景にも鑑みながら判断し、文章全体を合理的に読み解く一本の「糸」を見出していく—このように、生のスペイン語を前にして「悩む」プロセスのみが確かな語学力を育みます。外国語を学ぶ以上、近道はありません。大いに「悩んだ」結果を授業に持ち寄ってください。その結果分からない箇所があれば、みんなで考えましょう。		

また、スペイン語の「音読」を実践するよう心掛けてください。実際に使われているスペイン語を自らの口で声に出し、それを自身の耳で聞く、というプロセスは、最も原初的かつ効果的な語学学習法です。
5. 教科書 <講読テキスト> 授業内で講読するテキストは、コピーしたものを電子ファイルないしは紙媒体で配布しますので、各自で入手する必要はありません。 <辞書> 西和辞書を必ず毎回持参してください。紙、電子辞書、スマホアプリなど形態は特に問いません。これまでのスペイン語学習で使っていたもので支障ないと思いますが、簡易的なもの（「トラベル辞書」「ポケット辞書」のようなものなど）では役に立ちません。一応推奨するものとして下記の辞書を挙げておきますが、不明な場合は事前に相談してください。 ・高垣敏博ほか『西和中辞典 [第2版]』小学館、2007年。（この辞書にはiOSのアプリもあり、そちらの方が安価です） なお、インターネット上の無料の英西辞書やGoogle翻訳は辞書の代わりにはなりませんので、これらを授業内で用いることは禁止します。
6. 参考書 <文法書> 実際のスペイン語を読んでいくと、これまでのスペイン語授業で使った教科書の文法解説だけでは不足する場面が多々出てくるはずです。そのため、下記の文法書を各自で購入し、傍らに携えながら読んでいくことを推奨します。中古で安く入手可能です。 ・上田博人『スペイン語文法ハンドブック』研究社、2011年。
7. 課題に対するフィードバックの方法 各自が予習してきた内容について、授業内で講評・コメントします。
8. 成績評価の方法 原則として平常点 100%での評価とします。具体的な評価対象となるのは、毎回の授業への積極的な参加、予習の状況、およびスペイン語とスペイン語圏の文化と社会に対する理解度です。 授業内の参加態度や発言から、予習への真摯な取り組みが不十分であると判断される場合には、その回の平常点は減点（ないしは最悪0点）とします。また、言うまでもありませんが、正当な理由なく授業を欠席した場合には、その回の平常点は0点として算入されます。
9. その他 スペイン語やスペイン語圏諸国に関する関することで質問や相談があれば、なんでも歓迎しますので遠慮なく声をかけてください。また、スペイン語検定やDELEの受験を検討している人は、相談に乗ります。 ラテンアメリカについての前提知識は一切必要としません。それよりも、「スペイン語を読む」というチャレンジに積極的に立ち向かおうという意欲を持って授業に臨んでほしいと思います。 また、皆さんの多くにとってラテンアメリカは馴染みのない地域だと思いますが、そのような社会の現実に対する「想像力」だけは常に持つよう心がけてください。音楽でもスポーツでも食でも構いませんので、各自の興味関心に合わせてラテンアメリカ・スペイン語諸国の文化と社会に対するアンテナを張っておくようにしてください。

科目ナンバー：(LA) LAN341J		
上級スペイン語 A II		松尾 俊輔
1 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業は、中級までのスペイン語を履修済みの学生を対象とし、それまでに学んだ基礎的文法事項を用いて、実際に「生きた」スペイン語の文章を講読することにチャレンジします。春学期と秋学期の授業を併せて1年間かけて、学術的な水準のスペイン語をじっくり読み理解するのに十分なスペイン語力の基盤を養うのがこの授業の目標です。 秋学期の授業では、スペイン語で書かれた社会科学の論文を実際に読んでいきます。具体的には、国際関係法の分野、特に人権をめぐる問題に関するラテンアメリカの歴史的貢献を扱った最近の学術論文（書誌情報は「教科書」の項目を参照）を取り上げます。 国際関係や法学に限らず社会科学一般において、ラテンアメリカのような「周縁的な」地域は、ヨーロッパや北米のような「中心」において／よって理論化され普遍化された体系を「受容」するだけのパッシブな客体としてみなされがちです。しかしながら、19世紀初頭のフランス・スペイン・ポルトガルからのラテンアメリカ諸国の独立（「植民地の宗主国からの独立」という歴史上初の経験）が、暗黙の裡に普遍的なものとされた「ヨーロッパ国際関係法」の枠組みを大きく再考することを要請したことに端的に現われているように、ラテンアメリカは現代の国際関係を律している制度と理念を形作る上で極めて重要な役割を果たしてきました。とりわけラテンアメリカのプレゼンスが際立つのが人権の分野であり、ここではラテンアメリカは世界の「トップランナー」として法学的な経験と理論を積み重ねてきたとさえ言えます。この論文は、そうした点について最新の研究動向をふまえて簡潔に整理したものです。 この論文への取り組みを通して、スペイン語の読解力を鍛えるとともに、欧語の学術論文を読むための「作法」に親しむことを目指します。また同時に、ラテンアメリカの政治と社会をめぐる諸問題についても考えていきます。 また、学期末の課題としてこの論文の「レジュメ」を各自で作成してもらいます。論文を読み、理解し、それを2～4ページのレジュメにまとめる、という作業は、社会科学的な研究を行う上で必ず身に付けなければならない技術であり、また将来的に自分自身の考えを客観的な論拠に基づき論理的な形式で他者に提示し納得してもらう（アカデミックな場に限らず、およそ知的な職業に就く限りそのような場面には必ず出会います）ためのよいトレーニングになります。単にスペイン語を一字一句「読む」だけでなく、論文全体の構造を把握して整理することで、論理的な議論の構成と提示の方法についても身に付けます。 この授業の到達目標は下記の通りです。 ・動詞の活用をはじめとするひと通りのスペイン語基礎文法を再確認し、定着させる。 ・基礎からさらに一歩進んだより豊かなスペイン語の語彙や文法知識を身に付け、それを自ら駆使して（辞書と参考書の助けがあれば）学術的な水準のスペイン語を読解できるようになる。 ・講読内容を通じてラテンアメリカの政治と社会の諸相に対する理解を深め、それによって現代世界が抱える諸課題に対してよりグローバルかつ批判的な立場から挑むための視座を身に付ける。 ・特に、ラテンアメリカにおける法と社会の関係について一定の知見を身に付け自ら考えることができるようになる。		
2. 授業内容 授業は伝統的な輪読方式で行います。すなわち、テキストの指定された範囲について、ひとりずつ「音読」をしてもらった上で、予習の成果（単なる「日本語訳」だけではなく、文法と内容の双方についての理解や解釈等を含みます）を述べてもらいます。その後、言語面と内容面の双方に関して分からない点や解説が必要な点について、教員も含め参加者全員で考えていきます。したがって、毎回の予習と授業への積極的な参加が必須です。ただ座っているだけで単位が来るという授業ではありませんので、留意してください。 また、学期末には各自で読んだ論文の「レジュメ」を作成してもらい、時間が許せばそれらを履修者同士で比較し合評する機会も設ける予定です。 【授業計画】 第1回 インTRODクシヨン、基礎文法の確認 第2回 論文講読 p. 103 第3回 論文講読 p. 104 第4回 論文講読 p. 105 第5回 論文講読 p. 106 第6回 論文講読 pp. 107 第7回 論文講読 pp. 108-109 第8回 論文講読 pp. 110-111 第9回 論文講読 pp. 112-113 第10回 論文講読 pp. 114-115 第11回 論文講読 pp. 116-117 第12回 論文講読 pp. 118-119 第13回 レジュメ合評会 第14回 a 学期末まとめ なお、上記の進度は目安であり、履修者の理解度等に応じて変更する場合があります。		
3. 履修上の注意 原則として、「接続法の活用と用法」までのひと通りのスペイン語文法を学んだ経験があることを履修の要件とします。不明な場合は、事前にメールで、ないしは初回授業の際に相談してください。 「春学期：数ページの短い文章」→「秋学期：20ページ程度の長い論文」と段階を踏みながら学術レベルのスペイン語を読み解く力を涵養する都合上、春学期と秋学期を通して履修することを推奨します。ただし、履修者の事情によってどちらか一方のみを履修することも許可します。		

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、テキストの指定された箇所について、辞書とにらめっこしながら読み込み、分からない単語を調べ、文の意味を取ってから授業に臨んでください。文意がうまく取れない場合があれば、辞書や文法書、あるいはインターネットその他の情報等も参照しながら、時間と能力が許す範囲で読み解く努力をしてください。

学び始めて日が浅い外国語なので、一目ではちんぷんかんぷんな文章があっても当然です。これまで身に付けた（限りある）文法知識と辞書を片手に立ち向かい、辞書にいくつも出てくる語義の中からどれが解釈として最も適切かを、統語や文脈、ひいては社会的文化的背景にも鑑みながら判断し、文章全体を合理的に読み解く一本の「糸」を見出していく—このように、生のスペイン語を前にして「悩む」プロセスのみが確かな語学力を育みます。外国語を学ぶ以上、近道はありません。大いに「悩んだ」結果を授業に持ち寄ってください。その結果分からない箇所があれば、みんなで考えましょう。

また、スペイン語の「音読」を実践するよう心掛けてください。実際に使われているスペイン語を自らの口で声に出し、それを自身の耳で聞く、というプロセスは、最も原初的かつ効果的な語学学習法です。

5. 教科書

＜講読テキスト＞

Ignacio G. Perotti Pincirolì, “La trayectoria del derecho internacional en América Latina y su influencia sobre los derechos humanos”, Revista Electrónica Iberoamericana (REIB), Vol.18, No.2, (septiembre de 2024), pp.101–122.

（「ラテンアメリカにおける国際関係法の歩みと、その人権への影響」）

※インターネット上で無料で入手できますが、履修者には電子データないしは紙媒体で配布しますので、各自で入手する必要はありません。

＜辞書＞

西和辞書を必ず毎回持参してください。紙、電子辞書、スマホアプリなど形態は特に問いません。これまでのスペイン語学習で使っていたもので支障ないと思いますが、簡易的なもの（「トラベル辞書」「ポケット辞書」のようなものなど）では役に立ちません。一応推奨するものとして下記の辞書を挙げておきますが、不明な場合は事前に相談してください。

・高垣敏博ほか『西和中辞典〔第2版〕』小学館、2007年。（この辞書にはiOSのアプリもあり、そちらの方が安価です）

なお、インターネット上の無料の英西辞書やGoogle翻訳は辞書の代わりにはなりませんので、これらを授業内で用いることは禁止します。

6. 参考書

＜文法書＞

実際のスペイン語を読んでいくと、これまでのスペイン語授業で使った教科書の文法解説だけでは不足する場面が多々出てくるはずです。そのため、下記の文法書を各自で購入し、傍らに携えながら読んでいくことを推奨します。中古で安く入手可能です。

・上田博人『スペイン語文法ハンドブック』研究社、2011年。

7. 課題に対するフィードバックの方法

各自が予習してきた内容について、授業内で講評・コメントします。

8. 成績評価の方法

原則として平常点100%での評価とします。具体的な評価対象となるのは、毎回の授業への積極的な参加、予習の状況、およびスペイン語とスペイン語圏の文化と社会に対する理解度です。また、学期末に作成する「レジュメ」も成績評価の対象に含まれます。

授業内の参加態度や発言から、予習への真摯な取り組みが不十分であると判断される場合には、その回の平常点は減点（ないしは最悪0点）とします。また、言うまでもありませんが、正当な理由なく授業を欠席した場合には、その回の平常点は0点として算入されます。

9. その他

スペイン語やスペイン語圏諸国に関する関することで質問や相談があれば、なんでも歓迎しますので遠慮なく声をかけてください。また、スペイン語検定やDELEの受験を検討している人は、相談に乘ります。

この授業は法学部の開講科目ですが、法学や国際関係学の知識や素養は一切前提としません（そもそも教員からして専門は歴史学で、法学に関しては門外漢です）。また、ラテンアメリカについての前提知識も一切必要としません。それよりも、「スペイン語を読む」というチャレンジに積極的に立ち向かうという意欲を持って授業に臨んでほしいと思います。

また、皆さんの多くにとってラテンアメリカは馴染みのない地域だと思いますが、そのような社会の現実に対する「想像力」だけは常に持つよう心がけてください。音楽でもスポーツでも食でも構いませんので、各自の興味関心に合わせてラテンアメリカ・スペイン語諸国の文化と社会に対するアンテナを張っておくようにしてください。

4 保健体育科目群

基礎運動実習Ⅰ・Ⅱ（概要）		
各1単位	和泉キャンパス	Ⅰ：春学期 Ⅱ：秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業はスポーツ、フィットネス、レクリエーションといった身体活動を行う実習授業です。教室の中で行われる他の教科とは違い体験的な活動の中で心身ともに健康で、人生を長くたくましく生きるスキルを身につけます。 また、初年次のすべての学部生が受講する必修科目として設置されているので、様々な実習活動の中で仲間との出会いや会話を交わす良い機会にもなることでしょう。それが同時にコミュニケーションスキルの向上に繋がります。 特に秋学期開講の「Ⅱ」では、春学期におけるグループ形成を踏まえて、より学生の主体的な関わりによる活動を取り入れていきます。 【到達目標】 1) 健康・体力の維持、増進 2) コミュニケーションスキルの向上 3) 身体知の獲得		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 基礎運動実習の授業計画と概要 第2～13回：スポーツ種目、フィットネス、レクリエーションを教材として、その特長を生かした授業を実施する。 第14回：まとめ ※詳細は各担当者のシラバスを参照してください。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 通常授業に関しては以下の点に留意してください。 1) 心身のコンディションを整えて出席してください。なお、受講にあたっては、健康診断を受けておくことが義務づけられています。 2) スポーツ活動にふさわしいシューズやウェアを着用してください。 3) 授業の進行および安全管理の観点から、遅刻は厳禁とします。 4) 雨天時の対応など実技に関する指示は、Oh-o!Meiji クラスウェブで連絡する他、体育館入り口にあるインフォメーションボードに掲載されますので、授業前に必ず目を通してください。 5) 健康上の理由で指定クラスの授業に参加することが好ましくない場合には、担当教員に相談の上、コンディショニングクラスを受講することができます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 以下のような内容が実技種目において技術の上達や理解を深めるための準備学習といえます。 1) 事前にそれぞれの種目についての文献や映像などに目を通しておくこと 2) 活動にふさわしい服装や用具の準備、活動後の手入れすること 3) 健康的な生活を心がけ、よりよい体調で授業に臨むこと		
5. 教科書 特に定めなし。		
6. 参考書 特に定めなし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1) この授業は実習科目なので、授業時の課題へのフィードバックはその時、その場で行われます。 2) 他に Oh-o!Meiji クラスウェブ、メールを活用しフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 試験や評価は各担当教員により指示されますが、原則として下記の要領で行います。 単位の取得には、開講日数の 2/3 以上の出席が必要です。2/3 以上出席した者について、以下のような比率により総合的に評価します。 (a) 平常点：40%：積極的な姿勢で意欲的に活動すること (b) 理解力・コミュニケーション能力：40% (c) 技能・体力：20%		
9. その他 各クラスのシラバスについては、『Oh-o! Meiji』のクラスウェブを参照してください。		

スポーツ実習（学内・概要）		
各 1 単位	和泉または駿河台キャンパス	春または秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 体育実技は、他の教科とは趣を異にする授業であるからこそ、多様化する現代における重要な位置を占める科目であると考えます。 このスポーツ実習は、1 年次の必修科目「基礎運動実習」の単位取得者を対象とします。基礎運動実習では、クラスの仲間とともに同じスポーツ種目等を通して体験を共有していく授業形態でしたが、スポーツ実習は、半期ごとに開設されているスポーツ種目から各自の志向によって選択し、より発展的な授業内容を目指しています。定時に開講するサッカー、スイミング、クライミング、レクリエーションなどの学内授業と、夏期や冬期休暇中に 3 泊 4 日の合宿形式として行われるキャンプやスキーなどの学外授業があります。他学部で開講されている選択体育実技を受講することも可能です。 【到達目標】 保健体育科目としての実習授業は、各種スポーツやフィットネスを通して、心身ともに健康で、人生を長く、たくましく生きる条件を身につけ、また、コミュニケーションやコラボレーション（協働）など、人生に欠かせない能力を高めることを目標にします。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（ガイダンス、各選択種目に関する授業計画と概要） 第 2～13 回：スポーツ種目、フィットネス、レクリエーションを教材として、その特長を生かした授業を実施する。 第 14 回：まとめ ※詳細は各担当者のシラバスを参照してください。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 1) 本授業は、和泉の選択体育実技の学部間相互乗り入れ科目として実施します。 2) 和泉キャンパス開講科目の受講希望者は Oh-o! Meiji システムのアンケート機能で申込みをしてください。応募多数の場合は抽選となります。 3) 駿河台キャンパス開講科目の受講希望者は、春学期 1 週目の授業（4/10～16）でその授業の春学期科目、秋学期科目の履修者を決定します。 4) 受付期間 2025 年 4 月 5 日(土)朝 9：00～6 日(日)朝 9：00 まで 結果 2025 年 4 月 7 日(月)Oh-o! Meiji のクラスウェブに反映されます 5) 授業開始の第 1 週目は、体育館入口にあるインフォメーションボードで指定された教室・教場に集合してください。 6) 4 月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診しておいてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 以下のような内容が実技種目において技術の上達や理解を深めるための準備学習といえます。 1) 事前にそれぞれの種目についての文献や映像などに目を通しておくこと 2) 活動にふさわしい服装や用具の準備、活動後の手入れすること 3) 健康的な生活を心がけ、よりよい体調で授業に臨むこと		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1) この授業は実習科目なので、授業時の課題へのフィードバックはその時、その場で行われます。 2) 他に Oh-o!Meiji クラスウェブ、メールを活用しフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 試験や評価は各担当教員により指示されますが、原則として下記の要領で行います。 単位の取得には、開講日数の 2/3 以上の出席が必要です。2/3 以上出席した者について、以下のような比率により総合的に評価します。 (a) 平常点：40%：積極的な姿勢で意欲的に活動すること (b) 理解力・コミュニケーション能力:40% (c) 技能・体力:20%		
9. その他 ●履修申請 予めガイダンス出席や初回授業参加が必要な種目もあります。詳細は新年度配布の履修関係資料、シラバスで確認してください。 ●履修登録 種目により異なるため、新年度配布の履修関連資料、シラバスで確認してください。		

スポーツ実習（学外・概要）		
各 1 単位		集中
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業は、夏期・冬期・春期休暇中に学外で実施される集中授業です。キャンプ、馬術、ゴルフ、マリンスポーツ、スキー（ニセコ、裏磐梯）、スノーボード、スノーハイキング、スケートのコースから選択履修することができます。 【到達目標】 当該種目の基礎技術を修習すること、また、合宿や共同作業をとまなう短期集中タイプの実習を通じて、団体行動や生活における規範を身につけ、コミュニケーションスキルを高めることを目標にします。		
2. 授業内容 春 学 期 ゴルフ 担当教員：後藤 光将(政治経済学部) 折角授業でゴルフを習ったのだからゴルフ場でプレーをしてみたい。そんな学生のための集中授業です。 ゴルフはターゲットスポーツです。小さなホールに向かってボールを正確に運んでいく技術が要求されます。ドライバーからパットまで多くのクラブを使ってショットをします。それらクラブでの飛距離と方向性の技術習得を目指します。紳士のスポーツと言われるゴルフの実施には、技術やルール以外に、服装やマナー、ラウンドの方法など学ばなくてはならない事柄が沢山あります。ラウンドレッスンや夜のミーティングを利用して、出来るだけ多くの知識を提供したいと考えています。生涯スポーツとしてゴルフを考えている学生は是非受講してください。 キャンプベアシック 1期 担当教員：高峰 修(政治経済学部) キャンプベアシック 2期 担当教員：吉松 梓(経営学部) この授業では、自然環境の中でテント泊と野外炊事をベースにした生活を送りながら、キャンプを楽しむための知識・技術・マナー、野外でのリスクマネジメントや環境への配慮、集団で生活するための組織運営や役割分担の方法について学びます。また、こうしたアウトドアライフを基礎にして、サイクリング、トレッキング、クライミングといったアウトドアスポーツを体験します。それによって、将来的に野外活動を安全に楽しむための基礎知識と態度、技術を身につけます。煩雑な都会での日常生活を離れ、自然の中でシンプルな生活を送ることで、自然や仲間、そして自分自身について新しい発見をする機会を得ることができます。 馬術 担当教員：長尾 達(国際日本学部) 茨城県茨城町の中島トニアシュタール乗馬クラブにおいて 2泊3 日で行う実技実習と、その実習の前後に中野キャンパスにおける事前学修と事後学修とをセットにした集中授業です。実習では、同クラブ指導員のアシストのもと、馬体手入れや馬装の方法と、常歩（なみあし）、軽歩（はやあし）、軽速歩（けいはやし）の乗馬各歩様を学びます。経験者は駈歩（かけあし）に挑戦することもできます。講義では、馬術競技の概要と、世界の馬事文化や和鞍（わぐら、日本式馬術）の知識を学びます。皆さんは、なによりもまず、馬の大きさに驚くでしょう！ それから馬の可愛さのとりこになり、またその賢さに舌を巻くことでしょう。動物と触れ合う機会の少なくなった昨今、貴重な体験のできる実習です。 マリンスポーツ 担当教員：武田 義平(政治経済学部) この実習では、海でシュノーケリングやスキndaイビング、シーカヤック、遠泳を行う予定です。プールとは異なる環境でこれら活動に関する基本的知識・技術の習得と安全に実施する上での注意点の理解が主な目的です。実習場所の沖縄県渡嘉敷島近海は「ケラマブルー」と呼ばれており、ダイバーに人気があります。世界屈指の美しさで、運が良ければウミガメやクジラに会えるかもしれません。海に身を委ねサンゴ礁や色とりどりの魚など壮大な自然に触れてみたいという学生は、この授業を受講してはいかがでしょうか。 秋 学 期 スキー：開催地未定担当教員：田中 伸明(文学部) スキーは生涯スポーツになり得ます！楽しいスポーツです。その楽しさは年齢を重ねても深みとともに続きます！ぜひこの機会にスキーを体験してください！本授業では、指導者資格を有する教員を中心とした指導スタッフによる技術指導となりますので、一度も滑ったことのない人から上級者の人まで、それぞれのレベルに応じた指導が行われ、それぞれのペースでスキルアップを目指します。また、級別テスト(通称バジテス)といわれる全日本スキー連盟(SAJ)の検定を実施しますので、受検を希望する人は受検をすることができます。本授業の開催地は、本州スキー場での開催の可能性もありますが、良質なパウダースノーが期待できる北海道内での開催を第一に検討しています(2024 年 12 月現在)。2025 年度が始まるまでには開催地が決定されますので、2024 年度末から 2025 年度始めの時期に、Oh-o! Meiji にてシラバスを確認するようにしてください。 スキー：裏磐梯 担当教員：水村 信二(文学部) 雪さえあればどんな所でも滑ってしまえるスキー技術の習得を目指します。雪質の良い裏磐梯グランデスノーリゾートスキー場では、緩急のロングコースをふんだんに楽しめます。また、林間コースで深雪も楽しめる穴場的なスキー場です。初心者コースも充実していますので、初心者の受講を大歓迎します。この素敵なスキー場で、様々な雪面のコンディションに合わせたスキー技術・理論の修得を通し、生涯にわたってスキー文化を育むことができる基礎を学びましょう。また、露天温泉風呂付きリゾート型ホテルでの宿泊を通して、学部を超えた受講生間のコミュニケーションを図りますので、新たな友達づくりも期待できるでしょう。これからのリゾート型スキーを体験してみませんか？ スノーハイキング 担当教員：多田 聡(法学部) 「テレマークスキー」という歩くスキーを使って行うスノーハイキングの実習です。雪の原生林を歩いたり、登ったり、滑り降りたりする移動技術、雪山キャンプ技術、野外での安全管理、そしてソリや雪だるまづくりなどの雪遊びまで、雪山を丸ごと楽しむために必要とされる技術の習得を目指します。また、実施場所である長野県戸隠高原は古くから厳しい自然の中で人々が暮らしてきた地域です。日本の冬の自然環境や雪国の文化について理解を深めることもできますでしょう。 スケート 担当教員：後藤 光将(政治経済学部) 心地よいスピードを感じながら、自分の身体全体を用いて意のままに氷上を滑走することは、他では得られない感覚です。寒い場所での体温調節は多くのエネルギーを消費させる有酸素運動であり、ダイエットにも効果的です。実習では、まず基礎スケーティングを習得します。集団で音楽に合わせて滑る“シンクロナイズドスケーティング”、氷上の格闘技 “アイスホッケー” などにも挑戦します。野辺山高原は長野県の東端に位置しており、高原野菜の産地で有名です。滑走練習の合間には、近隣の牧場を訪問して、雄大な自然を体験する機会もあります。氷上での様々な活動を体験しながら、普段の都会の生活では感じることのない、すばらしい発見があるはずです。 スノーボード 担当教員：竹崎 一真(情報コミュニケーション学部) 1998 年の長野五輪の正式種目に選ばれて以降、スノーボードはスノースポーツの人気種目となりました。そこに近年のエクストリームスポーツへの注目が加わり、ゲレンデにはスノーボードを抱える若者が多く集まるようになっていきます。スノーボードは、若者たちをゲレンデへと誘い、スノースポーツの文化を豊かにする重要な種目となっているのです。しかしその一方で、ゲレンデでの事故やゲレンデ外での遭難、ゲレンデでのマナー違反などが後を絶たず、スノーボードを禁止するスキー場も出てきています。スノースポーツの文化を持続可能なものとするためにも、スノースポーツにおける安全やマナーを理解し、実践することは大切です。そのため本授業では、スノーボードの技術習得はもとより、ゲレンデや雪山でのマナーや安全、危機管理についてもゲレンデ内外で積極的に学びます。 ※詳細は各担当者のシラバスおよび選択体育シラバスを参照してください。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 1) 本授業は、和泉の選択体育実技の学部間相互乗り入れ科目として実施します。 2) 申込み日は、2025 年 4 月 3 日(木) ～ 朝 9：00 ～ 4 日(金)朝 9：00 まで 結果発表 2025 年 4 月 5 日（土） 3) 受講希望者は Oh-o! Meiji システムのアンケート機能で申し込んでください。応募多数の場合は抽選となります。 4) キャンプベアシック、ゴルフ、スノーハイキング、スケート、マリン、スノーボードについては 4 月 1 日 10:00～、2 日 13:30～<u>対面でのガイダンス</u>を行います（詳細は後日公開）。対面ガイダンスに出席していなくても申込はできますが、抽選になった場合は対面ガイダンス出席者を優先します。 5) ガイダンスを兼ねた事前授業の出席は、参加の必須条件となります。 6) 参加費用として、受講料、宿泊費、現地までの交通費などが必要です。各種目の詳細を、必ずシラバスで確認してください。 7) 特別な理由がない限り履修後のキャンセルはできません。（成績評価は不合格となります） 8) 秋学期集中授業は、単位修得が最終学年の卒業判定後になるため、4 年生は留意してください。 9) 4 月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診しておいてください。		

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

以下のような内容が実技種目において技術の上達や理解を深めるための準備学習といえます。

- 1) 事前にそれぞれの種目についての文献や映像などに目を通しておくこと
- 2) 活動にふさわしい服装や用具の準備、活動後の手入れすること
- 3) 健康的な生活を心がけ、よりよい体調で授業に臨むこと

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

- 1) この授業は実習科目なので、授業時の課題へのフィードバックはその時、その場で行われます。
- 2) 他に Oh-o!Meiji クラスウェブ、メールを活用しフィードバックします。

8. 成績評価の方法

試験や評価は各担当教員により指示されますが、原則として下記の要領で行います。

事前授業を含め実習への全日程参加が、単位取得の前提条件となります。その上で、平常点（事前授業、実習への積極的参加度、授業への取り組み姿勢など）40%、理解力・コミュニケーション能力 40%、技能・体力の上達度 20%により評価します。

9. その他

明治大学ホームページの「選択体育実技シラバス」および「選択体育実技（集中授業）紹介」で、2024 年度版の確認ができます。

2025 年度版は、3 月下旬に Oh-o!Meiji で案内を配信します。

https://www.meiji.ac.jp/campus/health/izumi_physical_education.html

5 法律必修科目群

科目ナンバー：(LA)LAW121J		
憲法（人権）Ⅰ		江藤 英樹
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 春学期の授業では、一国の基本法として憲法が定められていることの意義を学び、その上で日本国憲法第 3 章が国民に保障している基本的人権について学習する。なぜ憲法が人権を保障するのか、その意義を踏まえつつ、人権保障の考え方を学説や判例の動向を踏まえながら検討する。 【到達目標】 基本的人権保障に関わる問題について、人権の概念、学説、ならびに判例の検討を通じてそれらを憲法的に考える力を得ることを目的とする。		
2. 授業内容 授業前日にレジュメを Oh-o!Meiji にて配布します。授業は教科書とレジュメに基づいて行います。 【授業各回の予定】 1 a のみ：イントロダクション（憲法とはなにか） 2 日本憲法史 3 憲法の分類・憲法規範の特質、憲法による人権保障のあり方 4 基本的人権とは、人権の享有主体 5 基本的人権の限界 6 人権と公共の福祉、特別な法律関係における人権の限界 7 私人間における人権の保障と限界 8 生命、自由、幸福追求権 9 法の下の平等（1） 10 法の下の平等（2） 11 思想・良心の自由 12 信教の自由（1） 13 信教の自由（2） 14 政教分離原則 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業は教科書として指定した 2 つの書籍を利用しながら行うので、必ずこれらを教室に持参すること。六法も持参のこと。 【注意】 レジュメは授業の理解を補助するものに過ぎません。授業はシラバスに示した順に行われるので、毎回教科書の該当箇所を各自通読することが必要です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受講するにあたり、教科書の該当箇所や判例を読み予習をすること、さらに授業後に復習をすることが必要です。		
5. 教科書 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法 第 8 版』（岩波書店、2023 年） 柏崎敏義・加藤一彦編『新憲法判例特選 第 3 版』（敬文堂、2021 年）		
6. 参考書 辻村みよ子『憲法 第 7 版』（有斐閣、2021 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するので、各自確認のこと。		
8. 成績評価の方法 定期試験および授業への参加度により評価する。各学期中のいずれかの時期に 3 回出席をとる。2 回の欠席で成績評価を 1 つ下げ、3 回の欠席で成績評価を 2 つ下げる。なお、不正（不正かどうか本人に確認することはしない）があった場合には厳正に対処する。		
9. その他 日々のニュース、近現代史および他国の憲法にも興味を持つことが日本国憲法の理解を深めることに繋がります。		

科目ナンバー：(LA)LAW121J		
憲法（人権）Ⅱ		江藤 英樹
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 秋学期の授業では、春学期に引き続き日本国憲法第3章が保障する基本的人権について学習する。春学期同様、なぜ憲法が人権を保障するのか、その意義を踏まえつつ、人権保障の考え方を学説や判例の動向を踏まえながら検討する。 【到達目標】 基本的人権保障に関わる問題について、人権の概念、学説、ならびに判例の検討を通じてそれらを憲法的に考える力を得ることを目的とする。		
2. 授業内容 授業前日にレジュメを Oh-o!Meiji にて配布します。授業は教科書とレジュメに基づいて行います。 【授業各回の予定】 1 aのみ：イントロダクション 2 学問の自由 3 表現の自由の意味・限界（1） 4 表現の自由の意味・限界（2） 5 集会・結社の自由、通信の秘密 6 職業選択の自由 7 居住移転の自由 8 財産権 9 人身の自由 10 国務請求権・参政権 11 生存権 12 環境権・教育を受ける権利 13 労働基本権 14 まとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業は教科書として指定した2つの書籍を利用しながら行うので、必ずこれらを教室に持参すること。六法も持参のこと。 【注意】 レジュメは授業の理解を補助するものに過ぎません。授業はシラバスに示した順に行われるので、毎回教科書の該当箇所を各自通読することが必要です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受講するにあたり、教科書の該当箇所や判例を読み予習をすること、さらに授業後に復習をすることが必要です。		
5. 教科書 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法 第8版』（岩波書店、2023年） 柏崎敏義・加藤一彦編『新憲法判例特選 第3版』（敬文堂、2021年）		
6. 参考書 辻村みよ子『憲法 第7版』（有斐閣、2021年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するので、各自確認のこと。		
8. 成績評価の方法 定期試験および授業への参加度により評価する。各学期中のいずれかの時期に3回出席をとる。2回の欠席で成績評価を1つ下げ、3回の欠席で成績評価を2つ下げる。なお、不正（不正かどうか本人に確認することはしない）があった場合には厳正に対処する。		
9. その他 日々のニュース、近現代史および他国の憲法にも興味を持つことが日本国憲法の理解を深めることに繋がります。		

科目ナンバー：(LA)LAW121J		
憲法（人権）Ⅰ		大津 浩
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 具体的な事件と判例の分析を通じて、日本国憲法が保障する基本的人権（前半部分）の基本について学ぶ。 【到達目標】 基本的人権に関する諸概念、諸学説、関連判例の理解を深めるとともに、近代・現代立憲主義の歴史的な流れの中で人権保障のあり方が深まり、発展してきたことを自ら理解できる力を身に着ける。		
2. 授業内容 本授業は講義中心に行う。授業ではレジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行する。 【講義予定】 第1回：a：イントロダクション（憲法とは何か、基本的人権とは何か） 第2回：人権保障の基礎と違憲審査制 第3回：包括的基本権 第4回：自己決定権 第5回：平等原則 第6回：尊属殺人事件判決と非嫡出子相続分差別の旧決定 第7回：国籍法事件判決その他の新しい判例傾向 第8回：内心の自由 第9回：信教の自由とその限界 第10回：政教分離原則① 第11回：政教分離原則② 第12回：表現の自由① 第13回：表現の自由② 第14回：表現の自由③（知る権利） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 特に履修上の要件はない。高校までの社会科の知識があれば充分である。 受講生は単にレジュメを読み、授業中指示された必要事項を記入するにとどめず、授業中に展開されるさまざまな説明や具体例をレジュメに書き込み、あるいは別にノートを作って書き込むことで、より深く学ぶことが求められる。また授業の途中で、適宜質問と討論の時間を設けることを予定しているので、積極的・能動的に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教師が適宜指示する教科書の該当ページや参考書、判例などを事前に読み、ノートにまとめるなどして授業に臨むこと。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるとともに、適宜、次の授業で教師に質問するようにすること。		
5. 教科書 大津浩・大藤紀子・高佐智美・長谷川憲・江藤英樹『憲法五重奏』（有信堂、2025年） コンパクトサイズの六法（特に出版社の指定はない）		
6. 参考書 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第8版、岩波書店、2023年） 長谷部恭男・石川健治・矢野常寿（編）『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（第7版、有斐閣、2019年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 復習のために0h-o! Meiji で小テストを実施し、解答締切後は正解を示すだけでなく、毎回、詳しい解説をフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 定期試験（80%）、小テストないし課題（15%）、その他の授業参加の積極度（5%）により評価する。		
9. その他 人権の歴史や各国憲法の比較、社会問題等に関心を持って受講すると、本授業はより良く理解できる。		

科目ナンバー：(LA)LAW121J		
憲法（人権）Ⅱ		大津 浩
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 具体的事件と判例の分析を通じて、日本国憲法が保障する基本的人権（後半部分）の基本について学ぶ。 【到達目標】 基本的人権に関する諸概念、諸学説、関連判例の理解を深めるとともに、近代・現代立憲主義の歴史的な流れの中で人権保障のあり方が深まり、発展してきたことを自ら理解できる力を身に着ける。		
2. 授業内容 本授業は講義中心に行う。授業ではレジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行する。 【講義予定】 第1回：a：イントロダクション、営業の自由の意義と合理性の基準 第2回：薬事法違憲判決その他の重要判例 第3回：財産権保障の意義と森林法事件 第4回：正当補償 第5回：社会権の意義と種類、生存権の法的性格 第6回：生存権の主要判例（朝日訴訟、堀木訴訟等） 第7回：環境権と教育を受ける権利 第8回：労働権と労働基本権 第9回：参政権 第10回：人身の自由と刑事手続上の権利（1） 第11回：人身の自由と刑事手続上の人権（2）、行政手続における適正手続主義 第12回：国務請求権①（請願権、刑事補償請求権、国家賠償請求権） 第13回：国務請求権②（裁判を受ける権利） 第14回：基本的人権の私人間効力 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 不可欠ではないが、憲法（人権）Ⅰを履修しておくことが望ましい。 受講生は単にレジュメを読み、授業中指示された必要事項を記入するにとどめず、授業中に展開されるさまざまな説明や具体例をレジュメに書き込み、あるいは別にノートを作って書き込むことで、より深く学ぶことが求められる。また授業の途中で、適宜質問と討論の時間を設けることを予定しているので、積極的・能動的に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教師が適宜指示する教科書の該当ページや参考書、判例などを事前に読み、ノートにまとめるなどして授業に臨むこと。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるとともに、適宜、次の授業で教師に質問するようにすること。		
5. 教科書 大津浩・大藤紀子・高佐智美・長谷川憲・江藤英樹『憲法五重奏』（有信堂、2025年） コンパクトサイズの六法（特に出版社の指定はない）		
6. 参考書 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第8版、岩波書店、2023年） 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（第7版、有斐閣、2019年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 復習のために Oh-o! Meiji で小テストを実施し、解答締切後は正解を示すだけでなく、毎回、詳しい解説をフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 定期試験（80%）、小テストないし課題（15%）、その他の授業参加の積極度（5%）により評価する。		
9. その他 人権の歴史や各国憲法の比較、社会問題等に関心を持って受講すると、本授業はより良く理解できる。		

科目ナンバー：(LA)LAW121J		
憲法（人権）Ⅰ		斎藤 一久
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法の人権の全体構造を、ケーススタディを通じて把握する。受講生と対話しながら考えを深めて行きたい。 【到達目標】 （１）憲法の人権に関する基本的な争点について理解している。 （２）人権の基本的な争点について答案が作成できる。		
2. 授業内容 第１回：イントロダクション（憲法とは） 第２回：個人の尊厳 第３回：幸福追求権 第４回：外国人の人権 第５回：平等 第６回：表現の自由 第７回：信教の自由 第８回：職業選択の自由 第９回：財産権 第１０回：人身の自由 第１１回：制度と人権 第１２回：生存権 第１３回：憲法訴訟 第１４回：人権分野の答案の書き方 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習の内容】 教科書、参考書等の該当箇所を予習しておくこと。 【復習すべき内容】 授業で指示するほか、関連する判例がある場合には、データベースなどで検索し、読んでおくこと。		
5. 教科書 『憲法講義〔第３版〕』本秀紀編（日本評論社） 『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第７版〕』長谷部恭男ほか編（有斐閣）		
6. 参考書 『高校生のための憲法入門』斎藤一久編（三省堂） 『図録日本国憲法〔第２版〕』斎藤一久・堀口悟郎編（弘文堂） 『図録法学入門』堀口悟郎・斎藤一久編（弘文堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 試験９０％、平常点（授業での積極的な発言など）１０％		
9. その他 司法試験などの資格試験の問題についても検討したい。		

科目ナンバー：(LA)LAW121J		
憲法（人権）Ⅱ		斎藤 一久
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法（人権）Ⅰの内容を踏まえ、人権の解釈について多角的に検討する。 【到達目標】 （１）憲法の人権に関する応用的な争点について理解している。 （２）人権の応用的な争点について答案が作成できる。		
2. 授業内容 第１回：人権享有主体性 第２回：幸福追求権 第３回：平等 第４回：思想・良心の自由 第５回：信教の自由、政教分離原則 第６回：学問の自由 第７回：表現の自由（１） 第８回：表現の自由（２） 第９回：表現の自由（３） 第１０回：職業選択の自由 第１１回：財産権 第１２回：生存権 第１３回：学習権、労働基本権 第１４回：適正手続 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習の内容】 教科書、参考書等の該当箇所を予習しておくこと。 【復習すべき内容】 授業で指示するほか、関連する判例がある場合には、データベースなどで検索し、読んでおくこと。		
5. 教科書 『憲法講義〔第３版〕』本秀紀編（日本評論社） 『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第７版〕』長谷部恭男ほか編（有斐閣）		
6. 参考書 『図録日本国憲法〔第２版〕』斎藤一久・堀口悟郎編（弘文堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 試験９０％、平常点（授業での積極的な発言など）１０％		
9. その他 司法試験などの資格試験の問題についても検討したい。		

科目ナンバー：(LA)LAW121J		
憲法（人権）Ⅰ		田中 美里
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、憲法上保障される権利について、その歴史的背景や原理、なぜその権利の保障が私たちにとって重要なのか、などの観点から解説し、検討する。 【到達目標】 (1) 単に、学説や判例において展開されている憲法上の権利に関する解釈を暗記するのではなく、どのような理由から、どのような経緯でその解釈が展開されてきたのかを理解する。 (2) 最終的には、自らの見解を説得的に展開できるようになることを目指して、そのような観点から、学説や判例の理解を深める。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（講義の概要、憲法を学ぶに当たっての心構えなど） 第2回：法による権利保障と日本国憲法における権利保障 第3回：人権の限界 第4回：人権の主体（外国籍の人、法人、未成年など） 第5回：国家と特別な関係をもつ人々の権利（公務員や刑事施設被収容者など） 第6回：私人間効力 第7回：演習問題1（これまでの内容について、演習問題にチャレンジしてもらう） 第8回：幸福追求権（13条についての基本的な考え方、プライバシー権） 第9回：平等 第10回：思想・良心の自由 第11回：信教の自由 第12回：政教分離 第13回：演習問題2（これまでの内容について、演習問題にチャレンジしてもらう） 第14回：学問の自由と大学の自治 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業資料はオンラインの学習支援システムを通じて配布する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に関連する判例を事前に学習しておく。毎回の復習については、授業内容を見直し、理解が不十分であった部分を明らかにし、次回授業の際に質問できるようにしておく。また小レポート課題を提示している回については、それに取り組み、提出する。		
5. 教科書 『憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕』長谷部恭男＝石川健治＝宍戸常寿編（有斐閣、2019） 授業中に判例を参照する際にこの判例集を使うので、必ず購入・持参すること。 なお、他の授業ですでに同じものを購入している場合には、あらためての購入は必要ない。		
6. 参考書 『憲法Ⅱ 人権 〔第2版〕』新井誠＝曾我部真裕＝佐々木くみ＝横大道聡（日本評論社、2021）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内での解説や、質問受付をする。		
8. 成績評価の方法 小レポート 30% 定期試験 70%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW121J		
憲法（人権）Ⅱ		田中 美里
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、憲法上保障される権利について、その歴史的背景や原理、なぜその権利の保障が私たちにとって重要なのか、などの観点から解説し、検討する。後期は、前期の続きで、表現の自由から始める。 【到達目標】 (1) 単に、学説や判例において展開されている憲法上の権利に関する解釈を暗記するのではなく、どのような理由から、どのような経緯でその解釈が展開されてきたのかを理解する。 (2) 最終的には、自らの見解を説得的に展開できるようになることを目指して、そのような観点から、学説や判例の理解を深める。		
2. 授業内容 第1回：表現の自由①（表現の自由の保障根拠、総論） 第2回：表現の自由②（各論） 第3回：集会の自由・結社の自由 第4回：演習問題1（これまでの内容について、演習問題にチャレンジしてもらう） 第5回：経済的自由①（総論） 第6回：経済的自由②（職業選択の自由・居住移転の自由） 第7回：財産権 第8回：社会権総論・生存権①（基本的内容） 第9回：生存権②（前回の続き、判例など） 第10回：教育を受ける権利 第11回：演習問題2（これまでの内容について、演習問題にチャレンジしてもらう） 第12回：労働基本権 第13回：参政権 第14回：人身の自由 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業資料はオンラインの学習支援システムを通じて配布する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に関連する判例を事前に学習しておく。毎回の復習については、授業内容を見直し、理解が不十分であった部分を明らかにし、次回授業の際に質問できるようにしておく。また小レポート課題を提示している回については、それに取り組み、提出する。		
5. 教科書 『憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕』長谷部恭男＝石川健治＝穴戸常寿編（有斐閣、2019） 授業中に判例を参照する際にこの判例集を使うので、必ず購入・持参すること。 なお、他の授業ですでに同じものをご購入している場合には、あらためての購入は必要ない。		
6. 参考書 『憲法Ⅱ 人権 〔第2版〕』新井誠＝曾我部真裕＝佐々木くみ＝横大道聡（日本評論社、2021）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内での解説や、質問受付をする。		
8. 成績評価の方法 小レポート 30% 定期試験 70%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW161J		
民法（総則）Ⅰ		有賀 恵美子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、民法総則の基本的知識と法解釈の基礎を学ぶことを目的とする。講義は教科書を基本にして、おおよそ下記の授業内容の順序で進めていく。教科書の行間を含めて徹底的に読みこなし、それでも足りない部分については講義で補充する。 【到達目標】 民法総則の基本事項を習得することはもちろんのこと、教科書の記述を単に暗記するのではなく、自分で考えながら読み、理解する力を身につけるようにしたい。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：民法序論 第3回：権利の主体（自然人）① 第4回：権利の主体（自然人）② 第5回：権利の主体（自然人）③ 第6回：権利の客体 第7回：法律行為、意思表示 第8回：心裡留保、虚偽表示① 第9回：虚偽表示② 第10回：錯誤 第11回：詐欺、強迫 第12回：強行法規、公序良俗、一般条項 第13回：無効・取消し 第14回：条件・期限・期間、失踪宣告 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ◆講義の基軸となるのは教科書なので、六法と共に毎回必ず持参すること。Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載するレジュメ（板書の補充としての簡潔なもの）についても、各自でプリントアウトして授業に持参すること。 ◆全員が毎回出席していることを前提として講義や試験を行うが、出席をとる予定はない。ただ、1年生ということもあり、講義に出席しないと本当に法律の勉強が分からなくなってしまうと思う。 ◆その他、具体的な講義の進め方や注意点については初回に説明する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習はしなくてもよいので、その分復習に時間を割いてほしい。講義では教科書に直接記載されていない事項についても数多く言及するので、講義と教科書の内容を関連づけながら、自分の言葉でその内容を説明できるように復習に励んでほしい。		
5. 教科書 潮見佳男・滝沢昌彦・沖野真巳『民法1 総則』（有斐閣、2024年）		
6. 参考書 講義で適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の中で対応するほか、定期試験の講評については採点終了後に Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載する。		
8. 成績評価の方法 定期試験で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW161J		
民法（総則）Ⅱ		有賀 恵美子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、民法総則の基本的知識と法解釈の基礎を学ぶことを目的とする。講義は教科書を基本にして、おおよそ下記の授業内容の順序で進めていく。教科書の行間を含めて徹底的に読みこなし、それでも足りない部分については講義で補充する。 【到達目標】 民法総則の基本事項を習得することはもちろんのこと、教科書の記述を単に暗記するのではなく、自分で考えながら読み、理解する力を身につけるようにしたい。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション、総則Ⅰの試験解説 第2回：代理① 第3回：代理② 第4回：代理③ 第5回：代理④ 第6回：代理⑤ 第7回：代理⑥ 第8回：代理⑦ 第9回：代理⑧ 第10回：時効① 第11回：時効② 第12回：時効③ 第13回：時効④ 第14回：法人 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ◆講義の基軸となるのは教科書なので、六法と共に毎回必ず持参すること。Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載するレジュメ（板書の補充としての簡潔なもの）についても、各自でプリントアウトして授業に持参すること。 ◆全員が毎回出席していることを前提として講義や試験を行うが、出席をとる予定はない。ただ、1年生ということもあり、講義に出席しないと本当に法律の勉強が分からなくなってしまうと思う。 ◆その他、具体的な講義の進め方や注意点については初回に説明する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習はしなくてもよいので、その分復習に時間を割いてほしい。講義では教科書に直接記載されていない事項についても数多く言及するので、講義と教科書の内容を関連づけながら、自分の言葉でその内容を説明できるように復習に励んでほしい。		
5. 教科書 潮見佳男・滝沢昌彦・沖野真巳『民法1 総則』（有斐閣、2024年）		
6. 参考書 講義で適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の中で対応するほか、定期試験の講評については採点終了後に Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載する。		
8. 成績評価の方法 定期試験で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW161J		
民法（総則）Ⅰ		都筑 満雄
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、民法の総則を学ぶ。民法は人と人との間の経済的な関係に家族関係もあわせた私的な関係についての最も基本的かつ中心的な法律である。民法は最も大きな法分野であり、総則に加えて物権、債権総論、契約、不法行為、親族・相続からなる。民法総則はこの民法の入り口であり、ここではこれら民法の各分野に共通する基本的な事項を学ぶ。民法（総則）Ⅰでは、特に人（能力）と契約（意思表示と法律行為）に関するルールを扱う。 これから皆さんが4年間かけて民法を学んでいくための土台となるよう、民法総則の基礎的な知識を習得することがこの講義の目的である。		
2. 授業内容 第1回：民法とは何か・民法の歴史 第2回：民法の基本原則ほか 第3回：法律行為・意思表示（1）心裡留保 第4回：意思表示（2）虚偽表示① 第5回：意思表示（3）虚偽表示② 第6回：意思表示（3）錯誤 第7回：意思表示（4）詐欺・強迫ほか 第8回：法律行為の解釈 第9回：法律行為の有効性 第10回：条件・期限・無効と取消し 第11回：権利能力 第12回：意思能力・行為能力① 第13回：行為能力② 第14回：民法の事例問題の答案の書き方 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を持参する。 毎回の授業の前日までにohomeijiシステム上にレジュメをアップするので、これをプリントアウトするなどして授業に持参されたい。 レジュメを基に授業を行うが、予習または復習として教科書を読んで欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書を読んで授業に臨むことが望ましい。 授業後に復習としてレジュメと教科書を読むことを習慣として続けて欲しい。		
5. 教科書 原田昌和ほか『日評ベーシック・シリーズ民法総則〔第2版〕』（日本評論社）		
6. 参考書 『民法判例百選Ⅰ総則・物権〔第9版〕』（有斐閣） 中舎寛樹『民法総則〔第2版〕』（日本評論社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験等の後、ohomeijiシステムを通じて解説を配布する。		
8. 成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW161J		
民法（総則）Ⅱ		都筑 満雄
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、民法の総則を学ぶ。民法は人と人との間の経済的な関係に家族関係もあわせた私的な関係についての最も基本的かつ中心的な法律である。民法は最も大きな法分野であり、総則に加えて物権、債権総論、契約、不法行為、親族・相続からなる。民法総則はこの民法の入り口であり、ここではこれら民法の各分野に共通する基本的な事項を学ぶ。民法（総則）Ⅱでは、特に代理、時効および法人に関するルールを扱う。これから皆さんが4年間かけて民法を学んでいくための土台となるよう、民法総則の基礎的な知識を習得することがこの講義の目的である。		
2. 授業内容 第1回：代理とは 第2回：代理権濫用・無権代理① 第3回：無権代理② 第4回：表見代理① 第5回：表見代理② 第6回：期間・時効とは 第7回：取得時効 第8回：消滅時効 第9回：時効の完成の障害 第10回：時効の援用 第11回：法人① 第12回：法人② 第13回：法人③ 第14回：信義則・権利濫用 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を持参する。 毎回の授業の前日までに ohmeiji システム上にレジュメをアップするので、これをプリントアウトするなどして授業に持参されたい。 レジュメを基に授業を行うが、予習または復習として教科書を読んで欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書を読んで授業に臨むことが望ましい。 授業後に復習としてレジュメと教科書を読むことを習慣として続けて欲しい。		
5. 教科書 原田昌和ほか『日評ベーシック・シリーズ民法総則〔第2版〕』（日本評論社）		
6. 参考書 『民法判例百選Ⅰ総則・物権〔第9版〕』（有斐閣） 中舎寛樹『民法総則〔第2版〕』（日本評論社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験等の後、ohmeiji システムを通じて解説を配布する。		
8. 成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW161J		
民法（総則）Ⅰ		長坂 純
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の到達目標及びテーマ≫ 民法は、日常生活上の紛争解決や紛争予防、生活のための規範として機能しています。日常の生活関係は、財産関係と家族関係に分かれ、財産関係は、財貨の支配関係（物権関係）と財貨の交換関係（債権関係）に二分されます。「総則」は、財産関係全体に関する基本事項を規律し、民法上の紛争解決のための最後の基準といえます。そこで、本講義では、(1)日常生活関係において民法がどのように関わっているのかを理解すること、(2)民法総則の基礎知識を習得すること、(3)法的なものの考え方（＝論理的思考）の習得を目的とします。 ≪授業の概要≫ 「総則」は、民法だけではなく他の様々な法制度の基礎にもなっており、抽象的・難解な規定も多くあります。本講義では、できるだけ具体的な事例を素材にして問題点を明らかにし、また、判例・学説の動向に沿って授業を進めます。授業の主眼は、あくまで論理的思考の習得にあります。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：民法典の体系・歴史・総則の構造 第3回：民法典の基本原則 第4回：権利の主体(1) 第5回：権利の主体(2) 第6回：権利の客体 第7回：法律行為の構造 第8回：法律行為の解釈 第9回：法律行為の効力の発生 第10回：法律行為の効力の制限(1) 第11回：法律行為の効力の制限(2) 第12回：法律行為の要素の欠落(1) 第13回：法律行為の要素の欠落(2) 第14回：法律行為の要素の欠落(3) ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 『六法』（最新のもの）・教科書を持参して下さい。復習に時間をかけてほしいと思いますが、簡単でよいので、予め教科書または民法の入門書などを読んでおくことが望ましいです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で扱った部分については、復習に心がけてください。		
5. 教科書 有斐閣Ｓシリーズ『民法１―総則』 ただし、これ以外のものでも各自が使用しているものがあれば構いません。詳細は授業の中で話します。		
6. 参考書 『民法〔財産法〕講義 第2版』（勁草書房） 『民法〔財産法〕基本判例』（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験などの成績評価の基準・結果に関しては、oh-o! Meiji 上において提示します。		
8. 成績評価の方法 原則として定期試験で評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW161J		
民法（総則）Ⅱ		長坂 純
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の到達目標及びテーマ≫ 民法は、日常生活上の紛争解決や紛争予防、生活のための規範として機能しています。日常の生活関係は、財産関係と家族関係に分かれ、財産関係は、財貨の支配関係（物権関係）と財貨の交換関係（債権関係）に二分されます。「総則」は、財産関係全体に関する基本事項を規律し、民法上の紛争解決のための最後の基準といえます。そこで、本講義では、(1)日常生活関係において民法がどのように関わっているのかを理解すること、(2)民法総則の基礎知識を習得すること、(3)法的なものの考え方（＝論理的思考）の習得を目的とします。 ≪授業の概要≫ 「総則」は、民法だけではなく他の様々な法制度の基礎にもなっており、抽象的・難解な規定も多くあります。本講義では、できるだけ具体的な事例を素材にして問題点を明らかにし、また、判例・学説の動向に沿って授業を進めます。授業の主眼は、あくまで論理的思考の習得にあります。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：法律行為の内容の違法 第3回：法律行為の無効・取消し 第4回：他人による法律行為(1) 第5回：他人による法律行為(2) 第6回：他人による法律行為(3) 第7回：他人による法律行為(4) 第8回：時効(1) 第9回：時効(2) 第10回：時効(3) 第11回：団体の法理(1) 第12回：団体の法理(2) 第13回：一般条項(1) 第14回：一般条項(2) ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 『六法』（最新のもの）・教科書を持参して下さい。復習に時間をかけてほしいと思いますが、簡単でよいので、予め教科書または民法の入門書などを読んでおくことが望ましいです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で扱った部分は、復習するように心がけてください。		
5. 教科書 有斐閣Ｓシリーズ『民法１―総則』 ただし、これ以外のものでも各自が使用しているものがあれば構いません。詳細は授業の中で話します。		
6. 参考書 『民法〔財産法〕講義 第2版』（勁草書房） 『民法〔財産法〕基本判例』（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験などの成績評価・結果に関しては、oh-o! Meiji 上で提示します。		
8. 成績評価の方法 原則として定期試験で評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW151J		
刑法（総論）Ⅰ		阿部 力也
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「刑法総論」という科目は、殺人罪、窃盗罪、強盗罪といった別々の、それぞれ異なった犯罪の成立要件から、さらにどのような犯罪にも共通すると考えられる犯罪の一般的な成立要件を取り出し、その要件の意義・内容を分析・検討していくことを課題としている。1年次における「犯罪の一般的な成立要件」の修得を前提に、2年次以降、犯罪の個別的な成立要件を分析・検討する「刑法各論」に進んでいくことになる。 【授業の到達目標】 この授業では、基本的な法知識と基本的な法的思考方法の修得を目的とし、（みなさんのやる気に応じて）2年次以降の刑法各論および刑法関連科目においてもベースとなるような実践・応用力（いわゆる問題発見能力および問題解決能力）の修得をも目標に設定したいと考えている。したがって、たんにテクニカルタームを説明するだけでなく、簡単ではあるが出来るだけ「具体的な事例」に当てはめて考えることで、この授業をリアルな「法解釈」の実践の場として展開していきたいと考えている。 基本的には、指定した教科書および配布するレジュメに従って各回の授業は進んでいくが、下記の授業内容に記載される事項をその回に取り上げられる基本テーマとして捉えてもらい、そのテーマにおいて、①何が問題とされているのか、②それについて「判例」はどのように対応しているのか、③「通説」の枠組みとはどのようなものか、④自説の立ち位置はどのへんにあるのか、という諸点に留意することで一定の結論が得られるような授業を目指したいと考えている。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション；各回のテーマ設定に関する概説 内容に入るとすれば、刑法の法源、刑法の解釈、適用範囲などを説明する。 第2回：刑法の基本原則（1） とくに罪刑法定主義の現代的意義について説明する。 第3回：刑法の基本原則（2） とくに刑法の謙抑主義、責任主義について説明する。 第4回：犯罪論の体系 刑法学説史をふまえ、犯罪を法的な概念として捉える意義を考える。 第5回：構成要件論（1） 通説である3段階の犯罪論に従い、その第1段階である構成要件の機能について考える。 第6回：構成要件論（2） 構成要件要素を客観面と主観面から分析する意義を考える。 第7回：因果関係論（1） 刑法における因果関係の意義を考える。とくに客観的帰責という視点から分析する。 第8回：因果関係論（2） 相当因果関係説の意義とこの説に向けられた批判をふまえて、近時、有力に展開される客観的帰属論について、その意義とこの説に向けられる批判を考える。 第9回：故意論 故意の犯罪論体系における位置づけを検討し、構成要件の故意および責任故意の意義について考える。 第10回：過失犯論 過失の犯罪論体系における位置づけを検討し、構成要件の過失の意義について考える。 第11回：不作為犯論（1） 不真正不作為犯と罪刑法定主義をめぐる問題、不真正不作為犯の成立要件について考える。 第12回：不作為犯論（2） 作為義務の犯罪論体系における位置づけ、その発生根拠について考える。 第13回：事実の錯誤（1） 錯誤論の意義、構成要件的事実の錯誤の種類、法定的符合説と具体的符合説の対立について分析・検討する。 第14回：事実の錯誤（2）、および春学期のふり返り 事実の錯誤と違法性の錯誤の相違を検討し、時間の許す範囲で春学期の重要事項の復習を行う。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義科目という性格上、双方向的な授業ということは望めないで、前記の授業内容の当該箇所を指定された教科書で予習したうえで（目を通すくらいでも構わないので）、授業に臨んでほしい。一度読み込む（目を通す）だけでも授業を聞いた感じが違ってくると思う。そのうえで授業を聞いて疑問に思ったところ、さらには「先ほどの授業での説明を前提にすると、さらに別の事例に当てはめた場合には結論は変わるのではないか」といった皆さんからの「挑戦的な質問」は大歓迎である。一緒に考えていきたいと思っている。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 授業前に、各回の予め指定されテーマについて、講義案の該当部分を1回は（最低でも）目を通しておいて欲しい。 【復習すべき内容】 講義案に記載されている基本・重要事項について、手持ちの基本書・体系書と関連させながらさらに読み込むことで、正確に理解できるようにしておいて欲しい。		
5. 教科書 阿部力也『刑法総論講義案』（成文堂）を使用する。		
6. 参考書 とくに指定はしないが、手持ちの基本書・体系書を随時使用して欲しい。余裕があれば、「判例百選」などの判例の解説書・資料集は持っていたほうが良い。レジュメについては、事前に0h-o!Meijiのクラスウェブ上でパワポ資料として公開する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験（期間内試験）終了後に、出題の趣旨、採点実感について0h-o!Meijiのクラスウェブ上で公開する。小テストあるいはレポート課題を科した場合でも同様にクラスウェブにて公開する予定である。		
8. 成績評価の方法 定期試験（期間内試験）において100%評価することを原則とするが、受講生の修得・学習状況を勘案し、場合により「小テスト（択一式）」あるいは「中間レポート」を提出させる場合もある（例外）。なお、その場合の評価割合は、定期試験70%、小テスト・レポート30%とする。なお後者の場合には事前に告知し、十分に時間的余裕を設定したうえで実施する。成績評価基準は、①基本的知識（理論的な側面、条文解釈の基礎）の修得ができているか、②判例を的確に理解しているか、③基本的知識を使用し事例への当てはめができているか（基本的知識の応用）の諸点である。		
9. その他 司法試験、法科大学院入試、予備試験等にも対応できる基礎知識の習得を目指すことも目標の1つである。		

科目ナンバー：(LA)LAW151J		
刑法（総論）Ⅱ		阿部 力也
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「刑法総論」という科目は、殺人罪、窃盗罪、強盗罪といった別々の、それぞれ異なった犯罪の成立要件から、さらにどのような犯罪にも共通すると考えられる犯罪の一般的な成立要件を取り出し、その要件の意義・内容を分析・検討していくことを課題としている。1 年次における「犯罪の一般的な成立要件」の修得を前提に、2 年次以降、犯罪の個別的な成立要件を分析・検討する「刑法各論」に進んでいくことになる。 【授業の到達目標】 この授業では、基本的な法知識と基本的な法的思考方法の修得を目的とし、（みなさんのやる気に応じて）2 年次以降の刑法各論および刑法関連科目においてもベースとなるような実践・応用力（いわゆる問題発見能力および問題解決能力）の修得をも目標に設定したいと考えている。したがって、たんにテクニカルタムを説明するだけでなく、簡単ではあるが出来るだけ「具体的な事例」に当てはめて考えることで、授業をリアルな「法解釈」の実践の場として展開していきたいと考えている。 基本的には、指定した教科書および配布するレジュメに従って各回の授業は進んで行くが、下記の授業内容に記載される事項をその回に取り上げられる基本テーマとして捉えてもらい、そのテーマにおいて、①何が問題とされているのか、②それについて「判例」はどのように対応しているのか、③「通説」の枠組みとはどのようなものか、④自説の立ち位置はどのへんにあるのか、という諸点に留意することで一定の結論が得られるような授業を目指したいと考えている。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション；各回のテーマ設定に関する概説 時間的許す範囲で春学期の重要事項の復習を行う。 第 2 回：違法性論（1） 違法性の基本概念について学説の流れに従って検討する。 第 3 回：違法性論（2） 違法性阻却事由の意義とその種類、さらに法令・正当業務行為、被害者の承諾について検討する。 第 4 回：正当防衛（1） 正当防衛の正当化根拠、正当防衛の成立要件について分析・検討する。 第 5 回：正当防衛（2） （1）の続き、さらに（正当化事情の錯誤としての）誤想防衛および誤想過剰防衛の取り扱いについて考える。 第 6 回：緊急避難 正当防衛との相違をふまえ、緊急避難の成立要件について考える。 第 7 回：責任論（1） 刑法における責任の概念について考える。そして責任の前提として責任能力の意義、さらに期待可能性について検討する。 第 7 回：責任論（2） 違法性の認識とその可能性について、その意義および違法性の錯誤について検討する。 第 8 回：未遂犯論（1） 未遂犯の処罰根拠、中止犯の意義とその成立要件を考える。 第 9 回：未遂犯論（2） （1）の続きと不能犯について、各学説に従って検討する。 第 10 回：共犯論（1） 共犯の基本概念、共犯の種類、共犯の処罰根拠論について各説を分析・検討する。 第 11 回：共犯論（2） 共同正犯の意義および成立要件について検討する。 第 12 回：共犯論（3） 教義の共犯の意義および成立要件について検討する。 第 13 回：罪数論 罪数をどのように取り扱うのか、事例に即して検討する。 第 14 回：刑罰論および秋学期のふり返り 刑罰の本質をふまえ、刑罰の種類・適用について検討する。時間が許す範囲で秋学期の重要事項の総点検を行う。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義科目という性格上、個別的な指導ということは望めないで、前記の授業内容の当該箇所を指定された教科書で予習したうえで（目を通すくらいでも構わないので）、授業に臨んでほしい。一度読み込む（目を通す）だけでも授業を聞いた感じが違ってくると思う。そのうえで授業を聞いて疑問に思ったところ、さらには「先ほどの授業での説明を前提とすると、さらに別の事例に当てはめた場合に結論は変わるのではないか」といった皆さんからの「挑戦的な質問」は大歓迎である。一緒に考えていきたいと思っている。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 授業前に、各回の予め指定されたテーマについて、講義案（ないしレジュメ）の該当部分を 1 回は（最低でも）目を通しておいて欲しい。 【復習すべき内容】 講義案（ないしレジュメ）に記載されている基本・重要事項について、手持ちの基本書、体系書と連関させながらさらに読み込むことで、正確に理解できるようにしておいて欲しい。		
5. 教科書 阿部力也『刑法総論講義案』（成文堂）を使用する。		
6. 参考書 特に指定はしない。各自、手持ちの基本書・体系書を活用して欲しい。余裕があれば、判例百選などの判例の解説書、資料集を用意して欲しい。レジュメについては、事前に 0h-o!Meiji のクラスウェブ上でパワポ資料として公開する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験（期間内試験）終了後に、出題の趣旨、採点実感について 0h-o!Meiji のクラスウェブ上で公開する。小テストあるいはレポート課題を科した場合でも同様にクラスウェブにて公開する予定である。		
8. 成績評価の方法 定期試験（期間内試験）において 100%評価することを原則とするが、受講生の修得・学習状況を勘案し、場合により「小テスト（択一式）」あるいは「中間レポート」を提出させる場合もある（例外）。なお、その場合の評価割合は、定期試験 70%、小テスト・レポート 30%とする。なお後者の場合には事前に告知し、十分に時間的余裕を設定したうえで実施する。成績評価基準は、①基本的知識（理論的な側面、条文解釈の基礎）の修得ができていないか、②判例を的確に理解しているか、③基本的知識を使用し事例への当てはめができていないか（基本的知識の応用）の諸点である。		
9. その他 司法試験、法科大学院入試、予備試験等にも対応できる基礎知識の習得を目指すことも目標の 1 つである。		

科目ナンバー：(LA)LAW151J		
刑法（総論）Ⅰ		石井 徹哉
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 刑法について、その史的展開、基礎理論を概説した後、刑法総論において必要とされる基礎的な事項について説明する。 刑法総論は、個々の犯罪の成立要件のうち共通する要件を取り扱うものであるが、授業においては、主として人の死傷結果が生じる犯罪のほか、必要に応じて放火や偽造など具体的な犯罪の成立要件についても言及する。 【到達目標】 刑法に関する基礎的な事項、例えば専門用語、主要な判例について理解するとともに、犯罪成立要件の基本的な枠組とその検討方法について理解できることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクションと前提知識 第2回：刑法と刑罰の歴史 第3回：罪刑法定主義 第4回：実体的デュープロセス 第5回：犯罪成立要件としての刑法 第6回：構成要件該当性とその要素 第7回：故意 第8回：違法阻却事由（一般論） 第9回：違法阻却事由（緊急行為） 第10回：責任阻却事由 第11回：過失犯 第12回：未遂犯 第13回：共犯論 第14回：共同正犯 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 専門用語が多数出てくるので、これらを授業と教科書を利用した的確に理解することが必要である。最初の数回は、高校の日本史、世界史の知識が必要となるので、適宜高校教科書を参考にすること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業予定の内容について教科書の該当箇所を読んでおくことが必要である。そのほかは、毎回の授業において指示する。		
5. 教科書 『刑法総論』川端 博・明照博章・今村暢好（成文堂） 『判例刑法総論（第8版）』山口厚ほか編（有斐閣） 詳細は初回に説明する。		
6. 参考書 井田良『講義刑法学・総論（第3版）』（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業において説明する。必要に応じ講評等を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験のみにより評価する。		
9. その他 授業において必要に応じ教科書欄記載の書籍を参照することがある。なお、到達目標に達して初めて最低限の合格水準となることに留意願いたい。		

科目ナンバー：(LA)LAW151J		
刑法（総論）Ⅱ		石井 徹哉
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 刑法総論の重要な問題について、主要な判例及び裁判例を取り上げつつ、具体的な事例を示しつつ講義する。 【到達目標】 刑法に関する重要問題について、具体的な事案に基づき法的に分析し、解釈論を展開して事案を解決できるようにすることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：刑法総論の重要問題について 第2回：実行行為（実行の着手を含む） 第3回：因果関係 第4回：不作為犯 第5回：正当防衛（正当防衛状況） 第6回：正当防衛（防衛行為） 第7回：緊急避難 第8回：事実の錯誤 第9回：違法性の錯誤 第10回：事実の錯誤と違法性の錯誤の区別 第11回：不能犯・中止犯 第12回：共犯の処罰根拠とその解釈論的帰結 第13回：共同正犯の諸問題 第14回：まとめと振り返り ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 毎回の授業の終わりに次回までの課題を提示するので、指示内容に従い必要な準備をすることが望ましい。 『判例刑法総論（第8版）』と六法は必携である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の最後に読むべき判例と判例を読む際のポイントを指示するので、指示に従い準備をすることが必要となる。		
5. 教科書 『刑法総論』川端 博・明照博章・今村暢好（成文堂） 『判例刑法総論（第8版）』山口厚ほか編（有斐閣） 詳細は初回に説明する。		
6. 参考書 『講義刑法学・総論（第2版）』井田良（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業において説明する。		
8. 成績評価の方法 期末試験のみにより評価する。		
9. その他 授業には十分な準備をもって臨んで欲しい。なお、到達目標に達して初めて最低限の合格水準となることに留意願いたい。		

科目ナンバー：(LA)LAW151J		
刑法（総論）Ⅰ		内田 幸隆
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講では、あらゆる刑罰法規にとって共通に適用される刑法典総則を主に扱うことにする。刑法とは、およそ犯罪と刑罰を定めたあらゆる法規というが、刑法典総則はその中でもとりわけ重要なものである。この総則を手がかりに、およそ犯罪が成立するために必要な構成要件該当性、違法性における様々な問題を扱うことにする。また、刑法の基本原則、刑罰論、罪刑法定主義についても検討する。 【到達目標】 受講生においては、具体的な事例を踏まえた上で、そこで何が問題となっているのか論点を明らかにし、当該論点に関して展開されている学説・判例を把握できるようになることが目標となる。また、単に学説・判例を暗記するのではなく、条文解釈を通じて、説得力ある理由付けを提示することが求められる。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：刑法の目的・機能 第3回：刑罰論 第4回：罪刑法定主義 第5回：構成要件論 第6回：因果関係の基礎 第7回：相当因果関係と客観的帰属 第8回：不作為犯 第9回：故意犯 第10回：事実の錯誤 第11回：過失犯の基礎 第12回：過失犯の諸問題 第13回：違法性の基礎 第14回：正当防衛 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 犯罪の成立に関係する記事・ニュースに日ごろから関心を持つこと。授業には必ず最新の六法を持ってくる。また、発言を求めることがあるので、積極的に授業に参加して欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習として、各回のテーマごとに指定した教科書の該当ページをよく読んでおくこと。 復習として、教科書の該当ページを再度読むこと。また、指定した参考書の該当ページも読むことによって、各回のテーマに関する応用問題についても各自で検討すること。復習した際に生まれた疑問点をまとめて、次回の授業時に質問するための準備をすること。 準備学習、復習ともに所要時間については、1時間以上が見込まれる。		
5. 教科書 『刑法総論』内田幸隆＝杉本一敏（有斐閣、2019）		
6. 参考書 『刑法総論』〔第3版〕松原芳博（日本評論社、2022）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間内に実施する課題や定期試験については、全体に対する講評を採点后に掲示する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（100％）によって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW151J		
刑法（総論）Ⅱ		内田 幸隆
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講では、あらゆる刑罰法規にとって共通に適用される刑法典総則を主に扱うことにする。刑法とは、およそ犯罪と刑罰を定めたあらゆる法規をいうが、刑法典総則は其中でもとりわけ重要なものである。この総則を手がかりに、およそ犯罪が成立するために必要な違法性、責任に関する様々な問題、さらには未遂犯論、共犯論を扱うことにする。 【到達目標】 受講生においては、具体的な事例を踏まえた上で、そこで何が問題となっているのか論点を明らかにし、当該論点に関して展開されている学説・判例を把握できるようになることが目標となる。また、単に学説・判例を暗記するのではなく、条文解釈を通じて、説得力ある理由付けを提示することが求められる。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：緊急避難 第3回：法令・正当業務行為、超法規的違法性阻却事由 第4回：被害者の承諾 第5回：責任の基礎 第6回：責任能力、原因において自由な行為 第7回：違法性の錯誤 第8回：未遂犯 第9回：不能犯 第10回：中止犯 第11回：共犯の基礎、間接正犯 第12回：共同正犯 第13回：教唆犯、幫助犯 第14回：共犯の諸問題、罪数 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 犯罪の成立に関係する記事・ニュースに日ごろから関心を持つこと。授業には必ず最新の六法を持参すること。また、発言を求められることがあるので、積極的に授業に参加して欲しい。 なお、この講義では、「刑法（総論）Ⅰ」を履修していることを前提に授業を進める。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習として、各回のテーマごとに指定した教科書の該当ページをよく読んでおくこと。 復習として、教科書の該当ページを再度読むこと。また、指定した参考書の該当ページも読むことによって、各回のテーマに関する応用問題についても各自で検討すること。復習した際に生まれた疑問点をまとめて、次回の授業時に質問するための準備をすること。 準備学習、復習ともに所要時間については、1時間以上が見込まれる。		
5. 教科書 『刑法総論』内田幸隆＝杉本一敏（有斐閣、2019）		
6. 参考書 『刑法総論』〔第3版〕松原芳博（日本評論社、2022）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間内に実施する課題や定期試験については、全体に対する講評を採点後に掲示する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（100％）によって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW151J		
刑法（総論）Ⅰ		川口 浩一
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 刑法総論の授業は、刑法の基本原理や基本概念に関わる論点について理解することを目標としています。刑法は犯罪と刑罰に関する法律ですが、その課題は、社会を形成する規範の妥当を維持することにあります。このことは、人格間のコミュニケーションにとって必要不可欠な条件となるものです。しかしこの目的を実現するために刑罰という極めて厳しい制裁を場合によっては行使することもあり、刑罰自体が市民の自由に対する重大な制約を内容としている以上、「リベラルな民主的法治国家」においては、国家による刑罰権の行使については「法治国家的原理」（人権保障機能）に服することが必要となります。この授業では、刑法の「規範妥当維持機能」と「人権保障機能」とを調和させつつ、刑法の基本的概念に関わる諸問題の深い理解をその到達目標としています。 刑法の規範妥当維持機能と人権保障機能（罪刑法定主義、比例の原則、謙抑主義、責任主義、〈疑わしきは被告人の利益に〉の原則など）についての理解を深めたうえで、刑法の基本概念、すなわち人格、市民、管轄、不法、帰属、刑罰等の問題に関わる基本的論点について検討します。		
2. 授業内容 第1回：刑法および刑法学の意義・法と倫理の関係・刑法の課題と法治国家的原理 第2回：機能的応報刑論・予防刑論批判・刑罰論と犯罪論の関係・法益保護論批判 第3回：罪刑法定主義の理論的根拠とその派生的原則 第4回：犯罪論の体系：伝統的三分説（構成要件／不法[違法性]／責任）と統一的不法論 第5回：行為論・構成要件論・間接正犯論 第6回：保障人（管轄）論（作為犯と不作为犯の統一原理）・組織化的管轄と制度的管轄・組織化犯と義務犯 第7回：因果関係論と客観的帰属論 第8回：被害者の同意（承諾）論と関連問題（危険引き受け・推定の同意など） 第9回：正当防衛論・緊急避難論（防衛的緊急避難・攻撃的緊急避難論・帰属阻却的緊急避難） 第10回：刑事責任論と自由意志問題・責任能力と原因において自由な行為 第11回：過失犯と故意犯の共通原理：回避可能性・故意と過失の限界・間接的故意 第12回：構成要件的事実の錯誤（具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤） 第13回：誤想防衛・誤想避難（違法阻却事由の錯誤）・禁止の錯誤（法律の錯誤）・違法意識の可能性 第14回：過失犯の諸問題・全体のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 刑法総論では、学説が激しく対立し、また抽象度の高い議論が行われているため、初学者には馴染み難いという面もないではありません。しかし、人間とは何か、社会とは何か、国家とは何かということを深く考えさせるテーマがそこでは論じられており、（法）哲学・倫理学・社会学などの隣接分野の関係問題を勉強するなど、少し努力すれば非常に興味深く、楽しく学習することもできるでしょう。準備学習としては教科書をよく読んでおくこと、受講する際には最新の「六法」を持参することが必要です。 なお、この科目を履修する場合には、併せて同担当者の「刑法（総論）Ⅱ」も履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習については、毎回、次の授業においていかなる主題を取り上げるかについて説明するので、教科書の当該箇所について熟読しておくことが望ましく、また、復習については、授業内容に関する自らのノートを読み直し、熟考することが必要です。		
5. 教科書 総論については、小島秀夫編『刑法総論』（法律文化社・2022年）を教科書に指定しますが、教科書で取り上げられていないような問題も授業で補充的に検討します。なお他の教科書を使っても構いませんが、なるべく発行・改訂年の新しいものを使って下さい。なお司法試験・予備試験受験希望者には、総論と各論を1冊にまとめた山口厚『刑法』（第4版・有斐閣・2025年）などを基本書とすることをお勧めします（ただし本書のみで独学するのは初心者にとって困難と思われるので、講義を受け、そこで指定された判例・参考文献などを読んだ後の確認用として用いるのが良い）。		
6. 参考書 判例学習の参考書としては、『刑法判例百選Ⅰ・総論 第8版』（有斐閣・2020年）、最近の学説等に関する参考書としては、安田拓人『基礎から考える刑法総論』（有斐閣・2024年）、刑法の法哲学的基礎に興味のある人向けの参考書として、増田豊『語用論的意味理論と法解釈方法論』（勁草書房）、同『刑事手続における事実認定の推論構造と真実発見』（勁草書房）、同『規範論による責任刑法の再構築』（勁草書房）、同『法倫理学探究』（勁草書房）などがある。これらの参考書は購入する必要はありませんが、時間のあるときに前掲の教科書・小島編『刑法探求（総論）』で引用されているところや、興味のあるところを図書館で読んで下さい。その他の参考文献については授業中に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh !Meiji 上でフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 小テスト（オンライン上で行う短答式問題：40-30%）及び 定期試験（論述式問題：60-70%）の成績によって判定します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW151J		
刑法（総論）Ⅱ		川口 浩一
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 刑法総論の授業は、刑法の基本原理や基本概念に関わる論点について理解することを目標としています。刑法は犯罪と刑罰に関する法律ですが、その課題は、社会を形成する規範の妥当を維持することにあります。このことは、人格間のコミュニケーションにとって必要不可欠な条件となるものです。しかしこの目的を実現するために刑罰という極めて厳しい制裁を場合によっては行使することもあり、刑罰自体が市民の自由に対する重大な制約を内容としている以上、「リベラルな民主的法治国家」においては、国家による刑罰権の行使については「法治国家的原理」（人権保障機能）に服することが必要となります。この授業では、刑法の「規範妥当維持機能」と「人権保障機能」とを調和させつつ、刑法の基本的概念に関わる諸問題の深い理解をその到達目標としています。 「刑法（総論）Ⅱ」では「刑法（総論）Ⅰ」で学んだことを基礎として、未遂論・共犯論・罪数論の基礎と諸問題について詳しく検討していきます。		
2. 授業内容 第1回：未遂論の基礎（処罰の早期化[共謀罪・予備罪等の問題点]・未遂犯の処罰根拠と成立要件） 第2回：実行の着手時期 第3回：可罰的未遂犯と不能犯の限界 第4回：中止未遂の構造・中止行為の意義 第5回：共犯の基礎（1）正犯・共犯の区別と共犯の処罰根拠 第6回：共犯の基礎（2）共犯の従属性の意義・共同正犯・教唆・幫助の意義 第7回：共犯の諸問題（1）共犯と身分（身分の意義・65条1項と2項の関係等）・義務犯の共犯 第8回：共犯の諸問題（2）片面的共犯・承継的共犯・共犯関係の解消・離脱 第9回：共犯の諸問題（3）共犯に対する中止犯規定の適用・過失犯に対する共同正犯規定の適用・結果的加重犯に対する共犯規定の適用の可否・予備罪に対する共犯規定の適用の可否 第10回：共犯の諸問題（4）不作為による共犯の成立範囲 第11回：共犯の諸問題（5）共犯の共同正犯における正当防衛・過剰防衛の成否・共犯における錯誤 第12回：罪数論の基礎 第13回：法条競合と科刑上一罪（観念的競合と牽連犯）・併合罪 第14回：刑法の適用範囲と国際刑法・全体のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 刑法総論では、学説が激しく対立し、また抽象度の高い議論が行われているため、初学者には馴染み難いという面もないではありません。しかし、人間とは何か、社会とは何か、国家とは何かということを深く考えさせるテーマがそこでは論じられており、少し努力すれば非常に興味深く、楽しく学習することもできるでしょう。準備学習としてはテキストをよく読んでおくこと、受講の際は最新の「六法」を持参することが必要です。 なお、この科目を履修する場合は、併せて同担当者の「刑法（総論）Ⅰ」も履修しておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習については、毎回、次回の授業における主題について説明するので、教科書の当該箇所について熟読しておくことが望ましく、また復習については、授業内容に関する自らのノートを読み直し、論点につき熟考することが必要です。		
5. 教科書 小島秀夫編『刑法総論：理論と実践』（法律文化社・2022年）を教科書に指定しますが、教科書で取り上げられていないような問題も授業で補的に検討します。なお他の教科書を使っても構いませんが、なるべく発行・改訂年の新しいものなお司法試験・予備試験受験希望者には、総論と各論を1冊にまとめた山口厚『刑法』（第3版・有斐閣）を基本書とすることをお勧めします（同書の使用法については刑法総論Ⅰのシラバス参照）。		
6. 参考書 判例に関する参考書としては、『刑法判例百選Ⅰ 総論 第8版』（有斐閣・2020年）、最近の学説等に関する参考書としては、安田拓人『基礎から考える刑法総論』（有斐閣・2024年）、その他、増田豊『規範論による責任刑法の再構築』（勁草書房）：第4章（共犯論）など。参考書は購入する必要はありませんが、時間のあるときに教科書でしてされたところや興味のあるところを図書館で読んで下さい。その他の参考文献については授業中に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh !Meiji 上でフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 定期試験の成績によって判定します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
憲法（統治）Ⅰ		江島 晶子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法の基礎概念・基礎原理、日本国憲法の統治機構の各制度の沿革、目的、機能、実態について講義を行い、統治機構がどれだけ人権を実現するシステムとして機能しているかについて考察する。講義の中では、憲法判例および時事問題を素材としながら、アクチュアルな憲法問題について考える機会を設ける。 【到達目標】 憲法の基礎概念、基礎原理、統治機構の各制度を理解すること、そして、憲法に関する判例・学説や時事問題を素材として、憲法問題について考える力を身に着けることを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：憲法総論（1）：近代憲法と現代憲法、立憲主義 第3回：国民主権（1） 第4回：国民主権（2） 第5回：統治機構総論：権力分立制 第6回：国会（1）：選挙・政党 第7回：国会（2）：国会の地位 第8回：国会（3）：国会の組織・権能 第9回：国会（4）：国会の活動 第10回：国会（5）：立法と司法、政治と法 第11回：内閣（1）議院内閣制 第12回：内閣（2）内閣の組織と権能 第13回：地方自治 第14回：全体のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 憲法（人権）Ⅰ、Ⅱを履修しておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 以下の点に注意を配って、予習、授業および復習（プロセスとしての学習）に取り組んでほしい。 第一に、予習においては、まず指定された教科書の該当頁を読み、そこに書かれている内容についてわからない部分をなくすように一定の努力を払い、それでもわからない部分については付箋をつけるなど、自分の疑問点がどこにあるかを明確にして授業に臨んでほしい。 第二に、授業においては、予習において生じた自分の疑問点の解消に注力してほしい。授業終了時に疑問が残った場合、担当教員に必ず質問を行い、疑問を解消してほしい。 第三に、復習においては、授業の内容を振り返り、当該回の内容の中で何が最も重要な点であるのか（重要な原理は何か、重要なキーワードは何か等）が認識できているか確認し、自分の知識と理解の定着を確認してほしい。その際に、新たな疑問が生じた場合には、次回の授業の際に質問してほしい。 第四に、原理・仕組みと実体（運用）の関係に注目して、「考える力」を養ってほしい、そのための恰好の材料は、日々のニュースである。「国会では、…」、「首相が、…」、「今年の予算が、…」というニュースなどに耳を傾けると、抽象的な制度規定が、具体性を帯びてくるので、憲法（統治）に対して興味が湧くきっかけとなる。		
5. 教科書 芦部信喜[高橋和之補訂]『憲法[第8版]』（岩波書店、2023年）		
6. 参考書 高橋和之（編）『新・判例ハンドブック憲法[第2版]』（日本評論社、2018年） 長谷部恭男他編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ[第7版]』（有斐閣、2019年） 辻村『憲法（第6版）』（日本評論社、2018年） 初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集（第5版）』（三省堂、2020年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて行う。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 試験80％、平常点（授業への主体的参加度）20％ 【成績評価の基準】 （1）憲法学における基礎的概念を理解しているか （2）現代社会における憲法問題を考える力があるかを基準とする。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
憲法（統治）Ⅱ		江島 晶子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法の基礎概念・基礎原理、日本国憲法の統治機構の各制度の沿革、目的、機能、実態について講義を行い、統治機構がどれだけ人権を実現するシステムとして機能しているかについて考察する。講義の中では、憲法判例および時事問題を素材としながら、アクチュアルな憲法問題について考える機会を設ける。 【到達目標】 憲法の基礎概念、基礎原理、統治機構の各制度を理解すること、そして、憲法に関する判例・学説や時事問題を素材として、憲法問題について考える力を身に着けることを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：裁判所（1）：司法権の概念・範囲 第3回：裁判所（2）：司法権の限界、司法権の独立 第4回：裁判所（3）：裁判所の組織と権能 第5回：憲法訴訟（1）：憲法訴訟の意義と性格（付随的違憲審査制の特質） 第6回：憲法訴訟（2）：憲法訴訟の当事者適格、憲法訴訟の対象 第7回：憲法訴訟（3）：憲法判断の方法、違憲判決の効力 第8回：憲法訴訟（4）：司法権の国際化／裁判官対話 第9回：憲法総論（2）国際社会と憲法、国際法と憲法 第10回：平和主義（1） 第11回：平和主義（2） 第12回：財政 第13回：憲法の変動と保障 第14回：全体のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 憲法（人権）Ⅰ、Ⅱを履修しておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 以下の点に注意を配って、予習、授業および復習（プロセスとしての学習）に取り組んでほしい。 第一に、予習においては、まず指定された教科書の該当頁を読み、そこに書かれている内容についてわからない部分をなくすように一定の努力を払い、それでもわからない部分については付箋をつけるなど、自分の疑問点がどこにあるかを明確にして授業に臨んでほしい。 第二に、授業においては、予習において生じた自分の疑問点の解消に注力してほしい。授業終了時に疑問が残った場合、担当教員に必ず質問を行い、疑問を解消してほしい。 第三に、復習においては、授業の内容を振り返り、当該回の内容の中で何が最も重要な点であるのか（重要な原理は何か、重要なキーワードは何か等）が認識できているか確認し、自分の知識と理解の定着を確認してほしい。その際に、新たな疑問が生じた場合には、次回の授業の際に質問してほしい。 第四に、原理・仕組みと実体（運用）の関係に注目して、「考える力」を養ってほしい、そのための恰好の材料は、日々のニュースである。「国会では、…」、「首相が、…」、「今年の予算が、…」というニュースなどに耳を傾けると、抽象的な制度規定が、具体性を帯びてくるので、憲法（統治）に対して興味が湧くきっかけとなる。		
5. 教科書 芦部信喜[高橋和之補訂]『憲法[第8版]』（岩波書店、2023年）		
6. 参考書 高橋和之（編）『新・判例ハンドブック憲法[第2版]』（日本評論社、2018年） 長谷部恭男他編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ[第7版]』（有斐閣、2019年） 辻村みよ子『憲法（第6版）』（日本評論社、2018年） 初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集（第5版）』（三省堂、2020年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて行う。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 試験80％、平常点（授業への主体的参加度）20％ 【成績評価の基準】 （1）憲法学における基礎的概念を理解しているか （2）現代社会における憲法問題を考える力があるかを基準とします。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
憲法（統治）Ⅰ		江藤 英樹
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 春学期の授業では、基本的人権を保障する仕組みについて、具体的には権力分立、国会、内閣について、学説や判例さらに比較憲法的な視点も加味しながら学習する。 【到達目標】 この授業では、基本的人権を保障する仕組みである憲法の統治機構について、すなわち立憲主義、権力分立を理解し、国会や内閣の組織はどのようにあるべきなのかを理解できるようにすることを目標とする。		
2. 授業内容 授業前日にレジュメを Oh-o!Meiji にて配布します。授業は教科書とレジュメに基づいて行います。 【授業各回の予定】 1 a のみ：イントロダクション、国家と法 2 権力分立 3 国会の地位 4 国会の活動 5 国会と議院の権能（1） 6 国会と議院の権能（2） 7 行政権と内閣 8 内閣の組織と権能 9 議院内閣制 10 選挙制度 11 国民主権 12 天皇制 13 平和主義と憲法第9条 14 平和主義と安保体制 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業は教科書として指定した2つの書籍を利用しながら行うので、必ずこれらを教室に持参すること。六法も持参のこと。 【注意】 レジュメは授業の理解を補助するものに過ぎません。授業はシラバスに示した順に行われるので、毎回教科書の該当箇所を各自通読することが必要です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受講するにあたり、教科書の該当箇所や判例を読み予習をすること、さらに授業後に復習をすることが必要です。		
5. 教科書 加藤一彦『憲法 第4版』（法律文化社、2023年） 柏崎敏義・加藤一彦編『新憲法判例特選 第3版』（敬文堂、2021年）		
6. 参考書 辻村みよ子『憲法 第7版』（有斐閣、2021年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するので、各自確認のこと。		
8. 成績評価の方法 定期試験および授業への参加度により評価する。各学期中のいずれかの時期に3回出席をとる。なお、不正（不正かどうか本人に確認することはしない）があった場合には厳正に対処する。		
9. その他 日々のニュース、近現代史および他国の憲法にも興味を持つことが日本国憲法の理解を深めることに繋がります。		

科目ナンバー：(LA) LAW221J		
憲法（統治）Ⅱ		江藤 英樹
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 秋学期の授業では、裁判所、憲法保障（違憲審査制）、財政、地方自治、憲法改正などについて、学説や判例さらに比較憲法的な視点を踏まえながら検討する。 【到達目標】 秋学期の授業においても、立憲主義の意義、権力分立制の必要性を理解しながら、諸制度の理解を深めることを目指す。		
2. 授業内容 授業前日にレジュメを Oh-o!Meiji にて配布します。授業は教科書とレジュメに基づいて行います。 【授業各回の予定】 1 a のみ：イントロダクション、司法権の意味と範囲 2 司法権の限界（1） 3 司法権の限界（2） 4 裁判所の組織と権能（1） 5 裁判所の組織と権能（2） 6 財政（1） 7 財政（2） 8 地方自治（1） 9 地方自治（2） 10 抵抗権と国家緊急権 11 違憲立法審査権とは 12 違憲立法審査権の諸原則（1） 13 違憲立法審査権の諸原則（2） 14 憲法改正の手續と限界 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業は教科書として指定した2つの書籍を利用しながら行うので、必ずこれらを教室に持参すること。六法も持参のこと。 【注意】 レジュメは授業の理解を補助するものに過ぎません。授業はシラバスに示した順に行われるので、毎回教科書の該当箇所を各自通読することが必要です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受講するにあたり、教科書の該当箇所や判例を読み予習をすること、さらに授業後に復習をすることが必要です。		
5. 教科書 加藤一彦『憲法 第4版』（法律文化社、2023年） 柏崎敏義・加藤一彦編『新憲法判例特選 第3版』（敬文堂、2021年）		
6. 参考書 辻村みよ子『憲法 第7版』（有斐閣、2021年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するので、各自確認のこと。		
8. 成績評価の方法 定期試験および授業への参加度により評価する。各学期中のいずれかの時期に3回出席をとる。なお、不正（不正かどうか本人に確認することはしない）があった場合には厳正に対処する。		
9. その他 日々のニュース、近現代史および他国の憲法にも興味を持つことが日本国憲法の理解を深めることに繋がります。		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
憲法（統治）Ⅰ		大津 浩
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 日本国憲法の国会、内閣、裁判所について比較憲法史的な視点を踏まえつつ講義を行う。 【到達目標】 統治機構に関する諸原理、諸学説、関連判例を十分に理解し、論述で使いこなせる力を身に着けるとともに、立憲主義の史的展開における権力分立の現代的変化の方向性について、自ら選択する力を身に着けることが目指される。		
2. 授業内容 本授業は講義中心に行う。授業ではレジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行する。 【講義予定】 第1回：a：イントロダクション、権力分立制の基礎 第2回：権力分立制の諸類型と日本の権力分立制 第3回：象徴天皇制と解散権論争 第4回：国会の地位 第5回：国会の権能 第6回：国会の活動 第7回：内閣の地位と権能 第8回：総理大臣の地位と権能 第9回：司法権の意義と帰属 第10回：司法権の限界 第11回：裁判所の組織と司法権の独立 第12回：平和主義と憲法9条をめぐる訴訟 第13回：軍事的国際協調の動きと憲法 第14回：「限定的」集团的自衛権合憲論と憲法改正問題 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 必須条件ではないが、憲法（人権）Ⅰ、Ⅱを履修しておくことが望ましい。 受講生は単にレジュメを読み、授業中指示された必要事項を記入するにとどめず、授業中に展開されるさまざまな説明や具体例をレジュメに書き込み、あるいは別にノートを作って書き込むことで、より深く学ぶことが求められる。また授業の途中で、適宜質問と討論の時間を設けることを予定しているので、積極的・能動的に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教師が適宜指示する教科書の該当ページや参考書、判例などを事前に読み、ノートにまとめるなどして授業に臨むこと。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるとともに、適宜、次の授業で教師に質問するようにすること。		
5. 教科書 大津浩・大藤紀子・高佐智美・長谷川憲・江藤英樹『憲法五重奏』（有信堂、2025年） コンパクトサイズの六法（特に出版社の指定はない）		
6. 参考書 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第8版、岩波書店、2023年） 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（第7版、有斐閣、2019年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 復習のためにOh-o! Meiji で小テストを実施し、解答締切後は正解を示すだけでなく、毎回、詳しい解説をフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 定期試験（80%）、小テストないし課題（15%）、その他の授業参加の積極度（5%）により評価する。		
9. その他 憲法の歴史や各国憲法の比較に関心を持って受講すると、本授業はより良く理解できる。		

科目ナンバー：(LA) LAW221J		
憲法（統治）Ⅱ		大津 浩
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 日本国憲法の違憲審査制、国民主権、平和主義、地方自治、憲法改正について比較憲法史的な視点を踏まえつつ講義を行う。 【到達目標】 統治機構に関する諸原理、諸学説、関連判例を十分に理解し、論述で使いこなせる力を身に着けるとともに、立憲主義の史的展開における権力分立と民主主義の変化の方向性について、自ら選択する力を身に着けることが目指される。		
2. 授業内容 本授業は講義中心に行う。授業ではレジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行する。 【講義予定】 第1回：a：イントロダクション、違憲審査制の諸類型 第2回：憲法訴訟の基礎 第3回：違憲審査制の現代的展開 第4回：立法不作為の違憲訴訟 第5回：国民主権と国民代表制の意義と歴史 第6回：現代政党政治と国民代表制 第7回：選挙制度 第8回：平等選挙の原則と選挙訴訟① 第9回：平等選挙の原則と選挙訴訟② 第10回：財政原則 第11回：地方自治権保障の意義 第12回：団体自治、条例制定権 第13回：住民自治から見た自治体の組織、住民投票、地方特別法 第14回：立憲主義の意義と憲法改正 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 必須条件ではないが、憲法（人権）Ⅰ、Ⅱ、憲法（統治）Ⅰを履修しておくことが望ましい。 受講生は単にレジュメを読み、授業中指示された必要事項を記入するにとどめず、授業中に展開されるさまざまな説明や具体例をレジュメに書き込み、あるいは別にノートを作って書き込むことで、より深く学ぶことが求められる。また授業の途中で、適宜質問と討論の時間を設けることを予定しているので、積極的・能動的に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教師が適宜指示する教科書の該当ページや参考書、判例などを事前に読み、ノートにまとめるなどして授業に臨むこと。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるとともに、適宜、次の授業で教師に質問するようにすること。		
5. 教科書 大津浩・大藤紀子・高佐智美・長谷川憲・江藤英樹『憲法五重奏』（有信堂、2025年） コンパクトサイズの六法（特に出版社の指定はない）		
6. 参考書 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第8版、岩波書店、2023年） 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（第7版、有斐閣、2019年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 復習のために Oh-o! Meiji で小テストを実施し、解答締切後は正解を示すだけでなく、毎回、詳しい解説をフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 定期試験（80%）、小テストないし課題（15%）、その他の授業参加の積極度（5%）により評価する。		
9. その他 憲法の歴史や各国憲法の比較に関心を持って受講すると、本授業はより良く理解できる。		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
憲法（統治）Ⅰ		斎藤 一久
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法の統治の基本的な争点について、アクチュアルな政治状況も踏まえながら、講義する。 【到達目標】 （１）憲法の統治に関する基本的な争点について理解している。 （２）統治における諸問題につき、アクチュアルな視点から考察できる。		
2. 授業内容 第１回：イントロダクション（憲法の基本概念） 第２回：国会（１）代表・選挙制度 第３回：国会（２）国会の機能 第４回：国会（３）議院の機能 第５回：国会（４）国会議員 第６回：内閣（１）行政権 第７回：内閣（２）内閣・内閣総理大臣 第８回：議院内閣制 第９回：裁判所（１）：司法権 第１０回：裁判所（２）：裁判所の組織 第１１回：裁判所（３）：司法権の独立 第１２回：違憲審査制（１）：性格 第１３回：違憲審査制（２）：主体と対象 第１４回：違憲審査制（３）：方法と判決 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習の内容】 教科書、参考書等の該当箇所を予習しておくこと。 【復習すべき内容】 授業で指示するほか、関連する判例がある場合には、データベースなどで検索し、読んでおくこと。		
5. 教科書 とくに指定しない。		
6. 参考書 『図録日本国憲法 〔第２版〕』斎藤一久・堀口悟郎編（弘文堂） 『憲法判例百選Ⅱ 〔第７版〕』長谷部恭男ほか編（有斐閣） 『図録法学入門』堀口悟郎・斎藤一久編（弘文堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 試験９０％、平常点（授業での積極的な発言など）１０％		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
憲法（統治）Ⅱ		斎藤 一久
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法の統治及び総論について、多角的に検討する。 【到達目標】 （１）憲法の統治に関する基本的争点及び憲法総論について理解している。 （２）統治及び憲法総論における諸問題につき、アクチュアルな視点から考察できる。		
2. 授業内容 第１回：イントロダクション（春学期の復習） 第２回：財政（１） 第３回：財政（２） 第４回：地方自治（１） 第５回：地方自治（２） 第６回：天皇（１） 第７回：天皇（２） 第８回：憲法改正（１） 第９回：憲法改正（２） 第１０回：平和主義（１） 第１１回：平和主義（２） 第１２回：大日本帝国憲法 第１３回：憲法パトリオティズム 第１４回：憲法の未来 ＊グループディスカッションも実施する予定である。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習の内容】 教科書、参考書等の該当箇所を予習しておくこと。 【復習すべき内容】 授業で指示するほか、関連する判例がある場合には、データベースなどで検索し、読んでおくこと。		
5. 教科書 とくに指定しない。		
6. 参考書 『図録日本国憲法〔第２版〕』斎藤一久・堀口悟郎編（弘文堂） 『憲法判例百選Ⅱ〔第７版〕』長谷部恭男ほか編（有斐閣） 『図録法学入門』堀口悟郎・斎藤一久編（弘文堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 試験９０％、平常点（授業での積極的な発言など）１０％		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
(再) 憲法 (統治) I		中川 律
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法の定める統治の仕組みの基礎的理解の前提として、憲法の意味や役割、憲法史、統治の基本原則、天皇制、平和主義、憲法変動、代表民主制などに関する基礎的な講義を行う。 【授業の目標】 上記の憲法の統治機構に関連する基礎的な理解を獲得し、憲法学の視点から政治や社会のあり様について考えることができるようになることを目標にする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（国家と憲法） 第2回：「憲法」の概念 第3回：日本憲法史 1（明治憲法） 第4回：日本憲法史 2（日本国憲法の成立と定着） 第5回：国民主権 第6回：天皇制 第7回：権力分立 第8回：法の支配 第9回：平和主義 1（憲法 9 条と自衛隊） 第10回：平和主義 2（安全保障体制） 第11回：憲法の変動 第12回：憲法の保障 第13回：代表民主制と選挙制度 第14回：選挙の基本原則と政党 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法など憲法や法律の条文を参照できるものを持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定の教科書の該当部分を予習してくること。		
5. 教科書 渡辺康行・穴戸常寿・松本和彦・工藤達郎『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020 年） レジューメを配布することがあります。		
6. 参考書 本秀紀編『憲法講義 [第3版]』（日本評論社、2022 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜、問い合わせに応じる。		
8. 成績評価の方法 試験 100%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
(再) 憲法 (統治) II		中川 律
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法の統治機構のうち議院内閣制、国会、内閣、裁判所、違憲審査制、財政、地方自治などに関する基礎的な講義を行う。 【授業の目標】 上記の憲法の統治機構に関連する基礎的な理解を獲得し、憲法学の視点から政治や社会のあり様について考えることができるようになることを目標にする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション／議院内閣制の特質 第2回：議院内閣制における国会と内閣 第3回：国会の地位と組織 第4回：国会の権能と議院の権能 第5回：内閣の組織・地位・権能 第6回：内閣総理大臣と行政各部 第7回：司法権と裁判所 第8回：司法権の独立 第9回：違憲審査制の類型と対象 第10回：違憲審査の要件と方法 第11回：合憲判断の方法／違憲判断の方法 第12回：違憲判決の効力と憲法判例、違憲審査の活性化のための制度改革 第13回：財政 第14回：地方自治 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法など憲法や法律の条文を参照できるものを持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定の教科書の該当部分を予習してくること。		
5. 教科書 渡辺康行・穴戸常寿・松本和彦・工藤達郎『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020年） レジュメを配布することがあります。		
6. 参考書 本秀紀編『憲法講義 〔第3版〕』（日本評論社、2022年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜、問い合わせに応じる。		
8. 成績評価の方法 試験 100%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（債権総論）Ⅰ		工藤 祐巖
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 民法典第3編債権第1章総則、いわゆる債権総則の諸規定を概観する。 この講義の対象は総則規定であり、抽象的な問題が多く、理解することが困難な問題が少なくないが、可能な限り具体的な事例を素材にわかりやすく講義したい。なお、債権総則の諸規定は金融取引などでは重要な役割を演じており、金融取引法の基礎という観点からも講義を進めていく。 【到達目標】 (1)「債権」編に定められている基本的な制度、概念等を理解している。 (2)具体的な事案が示された場合に、結論を論理的に導きだすことができる。		
2. 授業内容 第1回：イントロ、債権法総論 第2回：債権の種類1（特定物債権、種類債権） 第3回：債権の種類2（選択債権、金銭債権、利息債権） 第4回：債権の効力1（債権の効力総論） 第5回：債権の効力2（履行の強制） 第6回：債権の効力3（債務不履行に基づく損害賠償1） 第7回：債権の効力4（債務不履行に基づく損害賠償2） 第8回：債権の効力5（債務不履行に基づく損害賠償3） 第9回：債権の効力6（債務不履行のその他の関連問題1） 第10回：債権の効力7（債務不履行のその他の関連問題2） 第11回：責任財産の保全1（債権者代位権） 第12回：責任財産の保全2（詐害行為取消権1） 第13回：責任財産の保全3（詐害行為取消権2） 第14回：全体まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法必携のこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に教科書の該当箇所について目を通しておくことを推奨する。復習としては、講義で取り上げた事例問題（レジュメに示してある）について、答案作成をイメージし、メモを作成してみるとよいであろう。もとより、実際に答案を書いてみるのが望ましいことはいうまでもない。		
5. 教科書 中舎寛樹『債権法』（日本評論社、2018年）		
6. 参考書 『民法判例百選Ⅱ（債権）（第9版）』（有斐閣、2023年）、『新・コンメンタール民法（財産権）』（第2版）（日本評論社、2020年）を挙げておく。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験については、試験期間終了後、解答のポイントをOh-o!Meiji上に公開する。		
8. 成績評価の方法 定期試験の結果による。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（債権総論）Ⅱ		工藤 祐巖
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 民法典第3編債権第1章総則、いわゆる債権総則の諸規定を概観する。 この講義の対象は総則規定であり、抽象的な問題が多く、理解することが困難な問題が少なくないが、可能な限り具体的な事例を素材にわかりやすく講義したい。なお、債権総則の諸規定は金融取引などでは重要な役割を演じており、金融取引法の基礎という観点からも講義を進めていく。 【到達目標】 (1)「債権」編に定められている基本的な制度、概念等を理解している。 (2)具体的な事案が示された場合に、結論を論理的に導きだすことができる。		
2. 授業内容 第1回：債権法総論、多数当事者の債権・債務1（多数当事者の債権・債務の意義、分割債権・債務） 第2回：多数当事者の債権・債務2（連帯債務1） 第3回：多数当事者の債権・債務3（連帯債務2、連帯債権、不可分債権・債務） 第4回：多数当事者の債権・債務4（保証債務1） 第5回：多数当事者の債権・債務5（保証債務2） 第6回：債権譲渡・債務引受・契約上の地位の移転1（民法上の債権譲渡1） 第7回：債権譲渡・債務引受・契約上の地位の移転2（民法上の債権譲渡2） 第8回：債権譲渡・債務引受・契約上の地位の移転3（債務引受、履行引受、契約上の地位の移転、有価証券） 第9回：債権の消滅1（債権の消滅の意味と原因、弁済1） 第10回：債権の消滅2（弁済2） 第11回：債権の消滅3（弁済3、更改・免除・混同） 第12回：債権の消滅4（相殺1） 第13回：債権の消滅5（相殺2） 第14回：全体まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法必携のこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に教科書の該当箇所について目を通しておくことを推奨する。復習としては、講義で取り上げた事例問題（レジュメに示してある）について、答案作成をイメージし、メモを作成してみるとよいであろう。もとより、実際に答案を書いてみるのが望ましいことはいうまでもない。		
5. 教科書 中舎寛樹『債権法』（日本評論社、2018年）		
6. 参考書 『民法判例百選Ⅱ（債権）（第9版）』（有斐閣、2023年）、『新・コンメンタール民法（財産権）』（第2版）（日本評論社、2020年）を挙げておく。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験については、試験期間終了後、解答のポイントをOh-o!Meiji上に公開する。		
8. 成績評価の方法 定期試験の結果による。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW261J		
民法（債権総論）Ⅰ		清水 恵介
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、民法・財産法の全体を把握する上で要となる債権法のうち、債権の効力に関する債権一般の基本理論を扱う。具体的には、民法第3編「債権」の第1章「総則」に規定された条文のうち、第399条から第426条までが対象領域となる。 【到達目標】 (1) 債権法の位置づけや債権法の機能を理解している。 (2) 本授業で扱った制度・論点について、適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明することができる。 (3) 具体的事例の中から債権法上の問題点を発見することができる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、債権の意義・債権総論の意義（1～11 頁） 第2回：債権の目的①：特定物債権と種類債権（12～28 頁） 第3回：債権の目的②：金銭債権と利息債権、選択債権（28～41 頁） 第4回：債務不履行①：総論（42～53 頁） 第5回：債務不履行②：履行請求権・履行の強制（54～71 頁） 第6回：債務不履行③：損害賠償の要件（72～83 頁） 第7回：債務不履行④：免責事由、履行に代わる損害賠償（84～96 頁） 第8回：債務不履行⑤：賠償範囲の確定（97～108 頁） 第9回：債務不履行⑥：損害の金銭的評価、賠償による代位（108～121 頁） 第10回：責任財産の保全①：債権者代位権の要件（122～132 頁） 第11回：責任財産の保全②：債権者代位権の行使と転用（132～142 頁） 第12回：責任財産の保全③：詐害行為取消権の一般的要件（143～157 頁） 第13回：責任財産の保全④：詐害行為の類型による特則（157～168 頁） 第14回：責任財産の保全⑤：詐害行為取消権の行使の方法等（169～181 頁） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 (1) 民法（総則）Ⅰ・Ⅱを既に履修していることが前提です。 (2) 授業中に出席調査を行うことがあります。 (3) 六法等、現行民法を随時参照できる資料を持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 上記授業内容の各回に記載した教科書の該当頁を読んでおいてください。 【復習すべき内容】 授業中に扱われた内容について、正確に理解し、説明できるようにしてください。		
5. 教科書 『民法4 債権総論〔第2版〕（有斐閣ストウディア）』山本敬三監修（有斐閣）		
6. 参考書 特に定めない。レジュメを配布することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 試験70%、平常点（授業への参加度）30%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（債権総論）Ⅱ		清水 恵介
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、「民法（債権総論）Ⅰ」に引き続き、民法・財産法の全体を把握する上で要となる債権法のうち、債権の移転・消滅等に関する債権一般の基本理論を扱う。具体的には、民法第3編「債権」の第1章「総則」に規定された条文のうち、第427条から第520条までが対象領域となる。 【到達目標】 (1) 「民法（債権総論）Ⅰ」で到達した理解に加え、債権一般の基本理論に属する他の諸制度を理解している。 (2) 本授業で扱った制度・論点について、適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明することができる。 (3) 具体的事例の中から債権法上の問題点を発見することができる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、分割債権・債務、連帯債権（182～191頁） 第2回：連帯債務、不可分債権・債務（191～205頁） 第3回：保証①：保証債務の成立・性質・内容等（206～214頁） 第4回：保証②：保証人の求償権、連帯保証等（215～224頁） 第5回：保証③：共同保証、根保証（225～237頁） 第6回：債権譲渡①：成立要件・対債務者対抗要件（238～247頁） 第7回：債権譲渡②：対第三者対抗要件、特殊な事例（247～255頁） 第8回：債権譲渡③：債権譲渡の効果、債権の譲渡性（256～266頁） 第9回：債務引受（266～275頁） 第10回：弁済①：弁済者、弁済による代位（276～294頁） 第11回：弁済②：弁済の相手方・充当等、代物弁済、供託（294～307頁） 第12回：相殺①：相殺の要件・行使・効果（308～320頁） 第13回：相殺②：相殺の制限・禁止、差押えと相殺（320～330頁） 第14回：その他の債権消滅原因、弁済の提供・受領遅滞（330～343頁） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 (1) 民法（総則）Ⅰ・Ⅱおよび民法（債権総論）Ⅰを既に履修していることが前提です。 (2) 授業中に出席調査を行うことがあります。 (3) 六法等、現行民法を随時参照できる資料を持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 上記授業内容の各回に記載した教科書の該当頁を読んでおいてください。 【復習すべき内容】 授業中に扱われた内容について、正確に理解し、説明できるようにしてください。		
5. 教科書 『民法4 債権総論〔第2版〕（有斐閣ストウディア）』山本敬三監修（有斐閣）		
6. 参考書 特に定めない。レジュメを配布することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 試験70％、平常点（授業への参加度）30％		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（債権総論）Ⅰ		中村 肇
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、民法第三編「債権」を扱う。「債権編」は講学上、「債権総論」と「債権各論」に分かれるが、本講義では、「債権総論」部分の講義を行う。 「債権総論」は、民法第三編「債権」第一章「総則」に該当し、「債権」編の共通ルールが対象となる。「債権」編の共通ルールが対象となるため、抽象的な規律が中心となるが、講義では、具体的な事例から説き起こし、取り上げている規定や規律がどのように具体的に問題となるかに留意して講義を行うように努める。 【到達目標】 (1)「債権」編に定められている基本的な制度、概念等を理解している。 (2)具体的な事案が示された場合に、結論を論理的に導きだすことができる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、債権法総論 第2回：債権の種類1（特定物債権、種類債権） 第3回：債権の種類2（選択債権、金銭債権、利息債権） 第4回：債権の効力1（債権の効力総論） 第5回：債権の効力2（履行の強制） 第6回：債権の効力3（債務不履行に基づく損害賠償1） 第7回：債権の効力4（債務不履行に基づく損害賠償2） 第8回：債権の効力5（債務不履行に基づく損害賠償3） 第9回：債権の効力6（債務不履行のその他の関連問題1） 第10回：債権の効力7（債務不履行のその他の関連問題2） 第11回：責任財産の保全1（債権者代位権） 第12回：責任財産の保全2（詐害行為取消権1） 第13回：責任財産の保全3（詐害行為取消権2） 第14回：全体まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義には、必ず六法を持ってくること。 民法の各部分は関連しているため、債権総論以外の民法科目、とりわけ、財産法部分（民法総則、物権法、担保物権法、債権各論（契約、不法行為、不当利得、事務管理））に関しては、履修済みであるか、現在履修中であることが望ましい。3年次以降に配当する科目に関する部分については、講義で補充説明をするようにするが、自習をするなどして知識をつけておくと、本講義の内容理解に資すると思われるから、この点は注意すること。講義の内容は膨大な情報量になることが予想されるため、自習（特に復習）を実行することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義用に比較的詳しい講義案と講義案をまとめたパワーポイントによる補助教材を Oh-Meiji! 上配布する予定であるので、これらに沿って予習復習をすることが望ましい。補助教材には適宜講義におけるポイントを示しているから、ポイントを念頭に授業の準備、聴講、予習をするとよい。 予習では、補助教材や講義案を見ながら、適宜引用されている関連条文について目を通すこと。 復習では、補助教材や講義案を参考にしつつ、講義の内容を踏まえて、教科書や参考書を参照して講義の内容を再現できるように復習をすること。		
5. 教科書 中舎寛樹『債権法』（日本評論社、2018年） 講義は講義案に沿って行うが、適宜教科書も参照して講義案の内容を補うとよい。そのため、自習用に定評ある教科書を指定する。 授業では、可能な限り詳しく説明してはいるものの、限られた時間の中での説明になることもあって、説明が簡単にならざるを得ないときもある。そのようなときに参考にするとよい。 なお、定評のあるテキストであれば、指定テキスト以外のものを使用しても構わない。		
6. 参考書 講義案等で参照することが多い判例教材として 『民法判例百選Ⅱ（債権）（第9版）』（有斐閣、2023年）を挙げておく。 その他に判例教材として 『新・判例ハンドブック（債権法1）』（日本評論社、2018年） 分量と読みやすさのバランスが取れたキストとして 松尾弘ほか『新ハイブリッド民法3 債権総論』（法律文化社、2018年）。 詳しいテキストとして 中田裕康『債権総論（第4版）』（岩波書店、2020年） 潮見佳男『ブラクティス民法債権総論（第5版補訂）』（信山社、2020年） 内田貴『民法Ⅲ（第4版）』（東京大学出版会、2020年）を挙げておく。その他の参考書は適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 2回か3回の小テストを予定しているが、提出期間終了後、Oh-o!Meiji 上で考え方のポイントを公開する。定期試験については、試験期間終了後、解答のポイントを Oh-o!Meiji 上に公開する。		
8. 成績評価の方法 小テスト 30% 定期試験 70%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（債権総論）Ⅱ		中村 肇
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、民法第三編「債権」を扱う。「債権編」は講学上、「債権総論」と「債権各論」に分かれるが、本講義では、「債権総論」部分の講義を行う。 「債権総論」は、民法第三編「債権」第一章「総則」に該当し、「債権」編の共通ルールが対象となる。「債権」編の共通ルールが対象となるため、抽象的な規律が中心となるが、講義では、具体的な事例から説き起こし、取り上げている規定や規律がどのように具体的に問題となるかに留意して講義を行うように努める。 【到達目標】 (1)「債権」編に定められている基本的な制度、概念等を理解している。 (2)具体的な事案が示された場合に、結論を論理的に導きだすことができる。		
2. 授業内容 第1回：債権法総論、多数当事者の債権・債務1（多数当事者の債権・債務の意義、分割債権・債務） 第2回：多数当事者の債権・債務2（連帯債務1） 第3回：多数当事者の債権・債務3（連帯債務2、連帯債権、不可分債権・債務） 第4回：多数当事者の債権・債務4（保証債務1） 第5回：多数当事者の債権・債務5（保証債務2） 第6回：債権譲渡・債務引受・契約上の地位の移転1（民法上の債権譲渡1） 第7回：債権譲渡・債務引受・契約上の地位の移転2（民法上の債権譲渡2） 第8回：債権譲渡・債務引受・契約上の地位の移転3（債務引受、履行引受、契約上の地位の移転、有価証券） 第9回：債権の消滅1（債権の消滅の意味と原因、弁済1） 第10回：債権の消滅2（弁済2） 第11回：債権の消滅3（弁済3、更改・免除・混同） 第12回：債権の消滅4（相殺1） 第13回：債権の消滅5（相殺2） 第14回：全体まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義には、必ず六法を持ってくること。 民法の各部分は関連しているため、債権総論以外の民法科目、とりわけ、財産法部分（民法総則、物権法、担保物権法、債権各論（契約、不法行為、不当利得、事務管理））に関しては、履修済みであるか、現在履修中であることが望ましい。3年次以降配当科目に関する箇所については、講義で補充説明をするようにするが、自習をするなどして知識をつけておくと、本講義の内容理解に資すると思われるから、この点は注意をすること。 講義の内容は膨大な情報量になることが予想されるため、自習(特に復習)を実行することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義用に比較的詳しい講義案と講義案をまとめたパワーポイントによる補助教材を0h-Meiji!上配布する予定であるので、これらに沿って予習復習をすることが望ましい。補助教材には適宜講義におけるポイントを示しているから、ポイントを念頭に授業の準備、聴講、予習をするとよい。 予習では、補助教材や講義案を見ながら、適宜引用されている関連条文について目を通すこと。 復習では、補助教材や講義案を参考にしつつ、講義の内容を踏まえて、教科書や参考書を参照して講義の内容を再現できるように復習をすること。		
5. 教科書 中舎寛樹『債権法』（日本評論社、2018年） 講義は講義案に沿って行うが、適宜教科書も参照して講義案の内容を補うとよい。そのため、自習用に定評ある教科書を指定する。 授業では、可能な限り詳しく説明してはいるものの、限られた時間の中での説明になることもあって、説明が簡単にならざるを得ないときもある。そのようなときに参考にするとよい。 なお、定評のあるテキストであれば、指定テキスト以外のものを使用しても構わない。		
6. 参考書 講義案等で参照することが多い判例教材として 『民法判例百選Ⅱ（債権）（第9版）』（有斐閣、2023年）を挙げておく。 その他に判例教材として 『新・判例ハンドブック民法Ⅲ債権総論』（日本評論社、2018年） 分量と読みやすさのバランスが取れたキストとして 松尾弘ほか『新ハイブリッド民法3 債権総論』（法律文化社、2018年） 詳しいテキストとして 中田裕康『債権総論（第4版）』（岩波書店、2020年） 潮見佳男『ブラクティス民法債権総論（第5版補訂）』（信山社、2020年） 内田貴『民法Ⅲ（第4版）』（東京大学出版会、2020年）を挙げておく。その他の参考書は適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 2回か、3回の小テストを予定しているが、提出期間終了後、0h-o!Meiji 上で考え方のポイントを公開する。定期試験については、試験期間終了後、解答のポイントを0h-o!Meiji 上に公開する。		
8. 成績評価の方法 小テスト 30% 定期試験 70%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW266J		
(再) 民法 (債権総論) I [M]		中村 肇
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、民法第三編「債権」を扱う。「債権編」は講学上、「債権総論」と「債権各論」に分かれるが、本講義では、「債権総論」部分の講義を行う。「債権総論」は、民法第三編「債権」第一章「総則」に該当し、「債権」編の共通ルールが対象となる。「債権」編の共通ルールが対象となるため、抽象的な規律が中心となるが、講義では、具体的な事例から説き起こし、取り上げている規定や規律がどのように具体的に問題となるかに留意して講義を行うように努める。 【到達目標】 (1)「債権」編に定められている基本的な制度、概念等を理解している。 (2)具体的な事案が示された場合に、結論を論理的に導きだすことができる。		
2. 授業内容 授業は全てメディア授業（オンデマンド型）で行う。 第1回：イントロダクション、債権法総論 第2回：債権の種類1（特定物債権、種類債権） 第3回：債権の種類2（選択債権、金銭債権、利息債権） 第4回：債権の効力1（債権の効力総論） 第5回：債権の効力2（履行の強制） 第6回：債権の効力3（債務不履行に基づく損害賠償1） 第7回：債権の効力4（債務不履行に基づく損害賠償2） 第8回：債権の効力5（債務不履行に基づく損害賠償3） 第9回：債権の効力6（債務不履行のその他の関連問題1） 第10回：債権の効力7（債務不履行のその他の関連問題2） 第11回：責任財産の保全1（債権者代位権） 第12回：責任財産の保全2（詐害行為取消権1） 第13回：責任財産の保全3（詐害行為取消権2） 第14回：全体まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週月曜日に Oh o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。理解度を確認するために、2 回ほどの小テスト(1 回 30 問程度)を行う予定である。 Oh o! Meiji システムのディスカッション機能を通じて質問に対応する。その他、授業に関わる情報提供についても Oh o! Meiji システムを通じて実施する。聴講の際には適宜六法を参照すること。 民法の各部分は関連しているため、債権総論以外の民法科目、とりわけ、財産法部分（民法総則、物権法、担保物権法、債権各論（契約、不法行為、不当利得、事務管理））に関しては、履修済みであるか、現在履修中であることが望ましい。3 年次以降に配当する科目に関する部分については、講義で補充説明をするようにするが、自習をするなどして知識をつけておくと、本講義の内容理解に資すると思われるから、この点は注意すること。講義の内容は膨大な情報量になることが予想されるため、自習(特に復習)を実行することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義用に比較的詳しい講義案と講義案をまとめたパワーポイントによる補助教材を Oh-Meiji! 上配布する予定であるので、これらに沿って予習復習をすることが望ましい。補助教材には適宜講義におけるポイントを示しているから、ポイントを念頭に授業の準備、聴講、予習をするとよい。 予習では、補助教材や講義案を見ながら、適宜引用されている関連条文について目を通すこと。 復習では、補助教材や講義案を参考にしつつ、講義の内容を踏まえて、教科書や参考書を参照して講義の内容を再現できるように復習すること。		
5. 教科書 中舎寛樹『債権法』（日本評論社、2018 年） 講義は講義案に沿って行うが、適宜教科書も参照して講義案の内容を補うとよい。そのため、自習用に定評ある教科書を指定する。授業では、可能な限り詳しく説明してはいるものの、限られた時間の中での説明になることもあって、説明が簡単にならざるを得ないときもある。そのようなときに参考にするとよい。 なお、定評のあるテキストであれば、指定テキスト以外のものを使用しても構わない。		
6. 参考書 講義案等で参照することが多い判例教材として 『民法判例百選Ⅱ（債権）（第9版）』（有斐閣、2023 年）を挙げておく。 その他に判例教材として 『新・判例ハンドブック（債権法1）』（日本評論社、2018 年） 分量と読みやすさのバランスが取れたキストとして 松尾弘ほか『新ハイブリッド民法3 債権総論』（法律文化社、2018 年）。 詳しいテキストとして 中田裕康『債権総論（第4版）』（岩波書店、2020 年） 潮見佳男『プラクティス民法債権総論（第5版補訂）』（信山社、2020 年） 内田貴『民法Ⅲ（第4版）』（東京大学出版会、2020 年）を挙げておく。その他の参考書は適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 2 回の小テストを予定しているが、提出期間終了後、Oh-o!Meiji 上で考え方のポイントを公開する。定期試験については、試験期間終了後、解答のポイントを Oh-o!Meiji 上に公開する。		
8. 成績評価の方法 小テスト 30% 対面式での定期試験 70%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW266J		
(再) 民法 (債権総論) II [M]		中村 肇
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、民法第三編「債権」を扱う。「債権編」は講学上、「債権総論」と「債権各論」に分かれるが、本講義では、「債権総論」部分の講義を行う。 「債権総論」は、民法第三編「債権」第一章「総則」に該当し、「債権」編の共通ルールが対象となる。「債権」編の共通ルールが対象となるため、抽象的な規律が中心となるが、講義では、具体的な事例から説き起こし、取り上げている規定や規律がどのように具体的に問題となるかに留意して講義を行うように努める。 【到達目標】 (1)「債権」編に定められている基本的な制度、概念等を理解している。 (2)具体的な事案が示された場合に、結論を論理的に導きだすことができる。		
2. 授業内容 授業は全てメディア授業（オンデマンド型）で行う。 第1回：債権法総論、多数当事者の債権・債務1（多数当事者の債権・債務の意義、分割債権・債務） 第2回：多数当事者の債権・債務2（連帯債務1） 第3回：多数当事者の債権・債務3（連帯債務2、連帯債権、不可分債権・債務） 第4回：多数当事者の債権・債務4（保証債務1） 第5回：多数当事者の債権・債務5（保証債務2） 第6回：債権譲渡・債務引受・契約上の地位の移転1（民法上の債権譲渡1） 第7回：債権譲渡・債務引受・契約上の地位の移転2（民法上の債権譲渡2） 第8回：債権譲渡・債務引受・契約上の地位の移転3（債務引受、履行引受、契約上の地位の移転、有価証券） 第9回：債権の消滅1（債権の消滅の意味と原因、弁済1） 第10回：債権の消滅2（弁済2） 第11回：債権の消滅3（弁済3、更改・免除・混同） 第12回：債権の消滅4（相殺1） 第13回：債権の消滅5（相殺2） 第14回：全体まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週月曜日に Oh o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。 理解度を確認するために、2 回ほどの小テスト(1 回 30 問程度)を行う予定である。 Oh o! Meiji システムのディスカッション機能を通じて質問に対応する。その他、授業に関わる情報提供についても Oh o! Meiji システムを通じて実施する。聴講の際には六法を適宜参照すること。 民法の各部分は関連しているため、債権総論以外の民法科目、とりわけ、財産法部分（民法総則、物権法、担保物権法、債権各論（契約、不法行為、不当利得、事務管理））に関しては、履修済みであるか、現在履修中であることが望ましい。3 年次以降配当科目に関する箇所については、講義で補充説明をするようにするが、自習をするなどして知識をつけておくと、本講義の内容理解に資すると思われるから、この点は注意すること。 講義の内容は膨大な情報量になることが予想されるため、自習(特に復習)を実行することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義用に比較的詳しい講義案と講義案をまとめたパワーポイントによる補助教材を Oh-Meiji! 上配布する予定であるので、これらに沿って予習復習をすることが望ましい。補助教材には適宜講義におけるポイントを示しているから、ポイントを念頭に授業の準備、聴講、予習をするとよい。 予習では、補助教材や講義案を見ながら、適宜引用されている関連条文について目を通すこと。 復習では、補助教材や講義案を参考にしつつ、講義の内容を踏まえて、教科書や参考書を参照して講義の内容を再現できるように復習すること。		
5. 教科書 中舎寛樹『債権法』（日本評論社、2018 年） 講義は講義案に沿って行うが、適宜教科書も参照して講義案の内容を補うとよい。そのため、自習用に定評ある教科書を指定する。 授業では、可能な限り詳しく説明してはいるものの、限られた時間の中での説明になることもあって、説明が簡単にならざるを得ないときもある。そのようなときに参考にするとよい。 なお、定評のあるテキストであれば、指定テキスト以外のものを使用しても構わない。		
6. 参考書 講義案等で参照することが多い判例教材として 『民法判例百選Ⅱ（債権）（第9版）』（有斐閣、2023 年）を挙げておく。 その他に判例教材として 『新・判例ハンドブック民法Ⅲ債権総論』（日本評論社、2018 年） 分量と読みやすさのバランスが取れたキストとして 松尾弘ほか『新ハイブリッド民法3 債権総論』（法律文化社、2018 年） 詳しいテキストとして 中田裕康『債権総論（第4版）』（岩波書店、2020 年） 潮見佳男『プラクティス民法債権総論（第5版補訂）』（信山社、2020 年） 内田貢『民法Ⅲ（第4版）』（東京大学出版会、2020 年）を挙げておく。その他の参考書は適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 2 回の小テストを予定しているが、提出期間終了後、Oh-o!Meiji 上で考え方のポイントを公開する。定期試験については、試験期間終了後、解答のポイント Oh-o!Meiji 上に公開する。		
8. 成績評価の方法 小テスト 30% 対面式での定期試験 70%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW251J		
刑法（各論）Ⅰ		石井 徹哉
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 刑法の個別の犯罪類型のうち、財産犯以外のものについて取り扱う。 【到達目標】 条文解釈により具体的な構成要件要素を明らかにし、事例にあてはめ、犯罪の成否の繁田ができるようになることを目標とする。また、共犯が関係する場合に適切に処理できるようになることが望ましい。		
2. 授業内容 第1回：刑法各論と条文解釈 第2回：人に対する罪 第3回：人に対する罪の個別の解釈論 第4回：被害者の同意と犯罪の成否 第5回：自由に対する罪 第6回：性犯罪・わいせつに関する罪 第7回：名誉毀損罪 第8回：信用毀損・業務妨害罪 第9回：放火罪 第10回：放火罪・偽造罪 第11回：偽造罪 第12回：賄賂に関する罪 第13回：公務執行妨害罪・その他国家に対する罪 第14回：司法妨害罪 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 毎回の授業の終わりに次回までの課題を提示するので、指示内容に従い必要な準備をすることが望ましい。『判例刑法各論（第8版）』と六法は必携である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の最後に読むべき判例と判例を読む際のポイントを指示するので、指示に従い準備をすることが必要となる。		
5. 教科書 『刑法各論』川端 博・明照博章・今村暢好（成文堂） 『判例刑法各論（第8版）』山口厚ほか編（有斐閣） ※使い方については、初回に説明する。		
6. 参考書 『講義刑法学・各論（第3版）』井田良（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じ講評等を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験のみにより評価する。		
9. その他 授業において必要に応じ教科書欄記載の書籍を参照することがある。なお、到達目標に達して初めて最低限の合格水準となることに留意願いたい。		

科目ナンバー：(LA)LAW251J		
刑法（各論）Ⅱ		石井 徹哉
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 刑法の個別の犯罪類型のうち、財産犯について取り扱う。 【到達目標】 財産犯の分野について、条文解釈により具体的な構成要件要素を明らかにし、事例にあてはめ、犯罪の成否が判断できるようになることを目標とする。また、共犯が関係する場合に適切に処理できるようになることが望ましい。		
2. 授業内容 第1回：財産犯の体系 第2回：財産犯の保護法益と奪取罪の保護法益 第3回：窃盗に関する諸問題 第4回：強盗に関する諸問題 第5回：窃盗・強盗とその共犯 第6回：詐欺罪の基本 第7回：詐欺罪の諸問題 第8回：詐欺罪に関する刑法総論の諸問題 第9回：横領罪 第10回：背任罪 第11回：横領・背任と共犯 第12回：盗品等に関する罪 第13回：毀棄罪等 第14回：まとめと振り返り ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 毎回の授業の終わりに次回までの課題を提示するので、指示内容に従い必要な準備をすることが望ましい。『判例刑法各論（第8版）』と六法は必携である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の最後に読むべき判例と判例を読む際のポイントを指示するので、指示に従い準備をすることが必要となる。		
5. 教科書 『刑法各論』川端 博・明照博章・今村暢好（成文堂） 『判例刑法各論（第8版）』山口厚ほか編（有斐閣） ※使い方については、初回に説明する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じ講評を行う。		
8. 成績評価の方法 期末試験のみにより評価する。		
9. その他 授業には十分な準備をもって臨んで欲しい。なお、到達目標に達して初めて最低限の合格水準となることに留意願いたい。		

科目ナンバー：(LA)LAW251J		
刑法（各論）Ⅰ		内田 幸隆
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講では、刑法総論の理論的枠組みを背景とした上で、個々の犯罪の成立要件について考察する。具体的なテーマとして、この講義では、個別の犯罪において最も議論が錯綜している財産犯論を扱う。まず、財産犯の体系を概観しつつ、窃盗罪など主要な財産犯の成否を検討する。 【到達目標】 受講生においては、具体的な事例を踏まえた上で、そこで何が問題となっているのか論点を明らかにし、当該論点に関して展開されている学説・判例を把握できるようになることが目標となる。また、単に学説・判例を暗記するのではなく、条文解釈を通じて、説得力ある理由付けを提示することが求められる。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：刑法の解釈、保護法益の概要 第3回：財産犯の体系 第4・5回：窃盗罪 第6回：強盗罪 第7・8回：詐欺罪 第9回：恐喝罪 第10・11回：横領罪 第12回：背任罪 第13回：盗品等関与罪 第14回：毀棄・隠匿罪 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 犯罪の成立に関係する記事・ニュースに日ごろから関心を持つこと。授業には必ず最新の六法を持ってくる。また、発言を求めることがあるので、積極的に授業に参加して欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習として、各回のテーマごとに指定した教科書の該当ページをよく読んでおくこと。 復習として、教科書の該当ページを再度読むこと。また、指定した参考書の該当ページも読むことによって、各回のテーマに関する応用問題についても各自で検討すること。復習した際に生まれた疑問点をまとめて、次回の授業時に質問するための準備をすること。 準備学習、復習ともに所要時間については、1時間以上が見込まれる。		
5. 教科書 『刑法各論』〔第2版〕浅田和茂（成文堂、2024）		
6. 参考書 『財産犯バトルロイヤル』高橋則夫ほか（日本評論社、2017） 『刑法各論』〔第3版〕松原芳博（日本評論社、2024）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間内に実施する課題や定期試験については、全体に対する講評を採点后に掲示する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（100%）によって評価する。なお、授業中の発言内容を別途評価する場合がある。その場合は、授業中の発言内容に対する評価の割合を最大で10%とし、残りを定期試験に割り当てる。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW251J		
刑法（各論）Ⅱ		内田 幸隆
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講では、刑法総論の理論的枠組みを背景とした上で、個々の犯罪の成立要件について考察する。具体的なテーマとして、財産犯を除く個人法益に対する罪、社会法益に対する罪、国家法益に対する罪を扱う。 【到達目標】 受講生においては、具体的な事例を踏まえた上で、そこで何が問題となっているのか論点を明らかにし、当該論点に関して展開されている学説・判例を把握できるようになることが目標となる。また、単に学説・判例を暗記するのではなく、条文解釈を通じて、説得力ある理由付けを提示することが求められる。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：殺人の罪 第3回：傷害の罪 第4回：遺棄の罪 第5回：自由に対する罪 第6回：性的自由に対する罪 第7回：住居を侵す罪 第8回：名誉に対する罪 第9回：放火の罪 第10回：文書偽造の罪 第11回：わいせつの罪 第12回：公務の執行を妨害する罪 第13回：司法作用に対する罪 第14回：汚職の罪 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 犯罪の成立に関係する記事・ニュースに日ごろから関心を持つこと。授業には必ず最新の六法を持ってくる。また、発言を求めることがあるので、積極的に授業に参加して欲しい。 なお、この科目を履修する場合は、本担当者の「刑法（各論）Ⅰ・Ⅱ」をセットで履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習として、各回のテーマごとに指定した教科書の該当ページをよく読んでおくこと。 復習として、教科書の該当ページを再度読むこと。また、指定した参考書の該当ページも読むことによって、各回のテーマに関する応用問題についても各自で検討すること。復習した際に生まれた疑問点をまとめて、次回の授業時に質問するための準備をすること。 準備学習、復習ともに所要時間については、1時間以上が見込まれる。		
5. 教科書 『刑法各論』〔第2版〕浅田和茂（成文堂、2024）		
6. 参考書 『刑法各論』〔第3版〕松原芳博（日本評論社、2024）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間内に実施する課題や定期試験については、全体に対する講評を採点後に掲示する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（100%）によって評価する。なお、授業中の発言内容を別途評価する場合がある。その場合は、授業中の発言内容に対する評価の割合を最大で10%とし、残りを定期試験に割り当てる。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW251J		
刑法（各論）Ⅰ		川口 浩一
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 刑法各論の授業は、刑法総論で学んだ刑法の基本原理や基本概念に関わる論点についての理解を元にして、個別の犯罪類型の成立要件を検討し、そのような基本原理がどのように反映されるかを確認することを主な目標としています。刑法は犯罪と刑罰に関する法律ですが、その課題は、社会を形成する規範の妥当を維持することにあります。このことは、人格間のコミュニケーションにとって必要不可欠な条件となるものです。しかしこの目的を実現するために刑罰という極めて厳しい制裁を場合によっては行使することもあり、刑罰自体が市民の自由に対する重大な制約を内容としている以上、「リベラルな民主的法治国家」においては、国家による刑罰権の行使については「法治国家的原理」（人権保障機能）に服することが必要となります。この授業では、刑法の「規範妥当維持機能」と「人権保障機能」とを調和させつつ、刑法の個々の犯罪類型の解釈を行なっていくことをその到達目標としています。その際、具体的なテーマとして、この講義では、個別の犯罪において最も議論が錯綜している財産犯論を扱います。まず、財産犯の体系を概観しつつ、窃盗罪・詐欺罪など主要な財産犯の成否を検討していきます。その際、単に学説・判例を暗記するのではなく、総論で学んだ基本原理や基本概念を踏まえた条文解釈を通じて、説得力ある理由付けを提示することが求められます。		
2. 授業内容 第1回：刑法各論の意義・保護法益による刑法各論の体系化とその問題点・刑法各論の解釈方法論 第2回：刑法総論との関係・刑法各論学の構想・経済刑法の一分野としての財産犯論 第3回：財産犯の体系 第4回：窃盗罪（1） 第5回：窃盗罪（2） 第6回：強盗罪 第7回：詐欺罪（1） 第8回：詐欺罪（2） 第9回：恐喝罪 第10回：横領罪（1） 第11回：横領罪（2） 第12回：背任罪 第13回：毀棄・隠匿罪 第14回：事後関与犯罪（Anschlussdelikte）：盗品関与罪・犯人蔵匿・証拠隠滅罪・マネーロンダリング罪 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 刑法各論の財産犯では、学説が激しく対立しており、また民法など他の法学分野の知識が必要となるため、初学者に理解が困難だという面もないではありません。しかし、そこでは実社会の経済生活が舞台となった具体的な問題が論じられており、犯罪の成立に関係する記事・ニュースをネットなどで日ごろから関心を持ってチェックするなど、少し努力すれば非常に興味深く、楽しく学習することもできるでしょう。準備学習としては教科書をよく読んでおくこと、受講する際には最新の「六法」を持参することが必要です。 なお、この科目を履修する場合には、併せて同担当者の「刑法（各論）Ⅱ」も履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習については、毎回、次の授業における主題について説明するので、教科書の当該箇所について熟読しておくことが望ましく、また復習については、授業内容に関する自らのノートを読み直し、論点につき熟考することが必要です。		
5. 教科書 今年度は、教科書を使用せず、パワーポイント・スライドを配布して授業を進めていく。ただし自習用に、教科書を手元に置いておくことをお勧めします。どの教科書を使っても構いませんが、なるべく発行・改訂年の新しいものを使用して下さい。なお司法試験・予備試験等の受験希望者には刑法総論と各論を一冊にまとめた山口厚『刑法』（4版・有斐閣・2025年）を復習・確認用として持っておくと便利でしょう。		
6. 参考書 増田豊『語用論的意味理論と法解釈方法論』（勁草書房）：第1～4章（刑法の解釈方法論） 参考書は必ずしも購入する必要はありませんが、時間のあるときに興味のあるところを図書館で読んで下さい。その他の参考文献については授業中に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh! Meiji 上でフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験の成績によって判定します。		
9. その他 本科目は、今年メディア授業実施対象科目として 2-3 コマ分をオンデマンド・メディア授業として実施予定です。詳細については、新学期開始後に Oh! Meiji 上で告知する予定なのでご留意ください。		

科目ナンバー：(LA)LAW251J		
刑法（各論）Ⅱ		川口 浩一
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 刑法各論の授業は、刑法総論で学んだ刑法の基本原理や基本概念に関わる論点についての理解を元にして、個別の犯罪類型の成立要件を検討し、そのような基本原理がどのように反映されるかを確認することを主な目標としています。刑法は犯罪と刑罰に関する法律ですが、その課題は、社会を形成する規範の妥当を維持することにあります。このことは、人格間のコミュニケーションにとって必要不可欠な条件となるものです。しかしこの目的を実現するために刑罰という極めて厳しい制裁を場合によっては行使することもあり、刑罰自体が市民の自由に対する重大な制約を内容としている以上、「リベラルな民主的法治国家」においては、国家による刑罰権の行使については「法治国家的原理」（人権保障機能）に服することが必要となります。この授業では、刑法の「規範妥当維持機能」と「人権保障機能」とを調和させつつ、刑法の個々の犯罪類型の解釈を行なっていくことをその到達目標としています。その際、具体的なテーマとして、この講義では、財産犯を除くいわゆる個人法益に対する罪、社会法益に対する罪、国家法益に対する罪の成否を検討していきます。その際、単に学説・判例を暗記するのではなく、総論で学んだ基本原理や基本概念を踏まえた条文解釈を通じて、説得力ある理由付けを提示することが求められます。		
2. 授業内容 第1回：生命に対する罪（1）殺人の罪（生命倫理学との関係、生命の始期・終期、自殺関与罪との関係、殺人予備罪） 第2回：生命に対する罪（2）堕胎の罪、遺棄の罪 第3回：身体に対する罪：暴行・傷害の罪（傷害の意義、胎児性致死、現場助勢罪、同時傷害の特例） 第4回：自由に対する罪：逮捕監禁罪、脅迫・強要罪、略取誘拐罪 第5回：性的自由に対する罪：強制わいせつ・強制性交等の罪およびその関連類型 第6回：住居権に対する罪：住居等侵入罪・不退去罪を論じる。 第7回：名誉に対する罪：名誉毀損・侮辱罪（法益、名誉・侮辱の意義とその区別、真実性の証明） 第8回：信用・業務に対する罪：信用毀損罪・業務妨害罪（信用・業務の意義、公務執行妨害罪との関係） 第9回：放火・失火の罪：放火罪（抽象的危険犯・具体的危険犯の意義、「放火」「焼損」「建造物」の意義等）・失火罪 第10回：風俗に対する罪：わいせつ物頒布等の罪（わいせつ概念・インターネット上のわいせつ物頒布等）・賭博罪・死体損壊罪 第11回：偽造罪（1）文書偽造の罪（形式主義、実質主義の意義、有形偽造・無形偽造の区別、「文書」の意義等） 第12回：偽造罪（2）文書偽造以外の類型の偽造犯罪：通貨・有価証券・印章の偽造・支払用カードの不正作出等／偽証罪 第13回：汚職・腐敗犯罪：賄賂罪（賄賂罪の本質、賄賂と職務の意義、職務密接関連行為の意義、賄賂の罪の諸類型） 第14回：各論全体のまとめ：特に総論と各論nの関係について ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 刑法各論の財産犯以外の分野でも特に放火罪、文書偽造罪、賄賂罪などにおいては、学説が激しく対立しており初学者に理解が困難だという面もないではありません。しかし、そこでは実社会の経済生活が舞台となった具体的な問題が論じられており、犯罪の成立に関係する記事・ニュースをネットなどで日ごろから関心を持ってチェックするなど、少し努力すれば非常に興味深く、楽しく学習することもできるでしょう。準備学習としては教科書をよく読んでおくこと、受講する際には最新の「六法」を持参することが必要です。 なお、この科目を履修する場合は、併せて同担当者の「刑法（各論）Ⅰ」も履修しておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習については、毎回、次の授業における主題について説明するので、教科書の当該箇所について熟読しておくことが望ましく、また復習については、授業内容に関する自らのノートを読み直し、論点につき熟考することが必要です。		
5. 教科書 今年度は、教科書を使用せず、パワーポイント・スライドを配布して授業を進めていく。ただし自習用に、教科書を手元に置いておくことをお勧めします。どの教科書を使っても構いませんが、なるべく発行・改訂年の新しいものを使用して下さい。		
6. 参考書 増田豊『語用論的意味理論と法解釈方法論』（勁草書房）：第1～4章（刑法の解釈方法論） 参考書は必ずしも購入する必要はありませんが、時間のあるときに興味のあるところを図書館で読んで下さい。その他の参考文献については授業中に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh !Meiji 上でフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験の成績によって判定します。		
9. その他 本科目は、今年メディア授業実施対象科目として 2-3 コマ分をオンデマンド・メディア授業として実施予定です。詳細については、新学期開始後に Oh !Meiji 上で告知する予定なのでご留意ください。		

科目ナンバー：(LA)LAW251J		
刑法（各論）Ⅰ		長谷川 裕寿
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 刑法は刑罰法規に定められた行為を行った者を処罰する法ですが、その反面として、「犯罪として規定されていない行為は自由に行える」といった自由を保障する機能があります。私たちが自分の持っている自由を最大限に行使し、自らの人格を自由に形成することができるためにも、刑罰法規の中心的存在である刑法典、その第二編「罪」によって処罰の対象とされている行為とはどのようなものであるかを知っておかなければなりません。判例・学説が対立する場面を集中的に講義することになりますが、その際には、なぜそのような対立が見られるのか、それぞれの見解がどのような観点を重視しているのかをできるかぎり丁寧に説明したいと思います。 【授業の到達目標】 判例・学説に関する理解を深め、「この学説からは論理的にこうなる、あの学説からは論理的にああなる」といった具合に、刑法を素材にして各自「頭の体操」（論理的思考・多角的思考）ができるようになること、これが本講義の究極目標です。		
2. 授業内容 第1回：刑法各論の全体像 第2回：放火罪①保護法益論、成立要件論（108条を中心に） 第3回：放火罪②成立要件論（109条、110条を中心に） 第4回：文書偽造罪①保護法益論・成立要件論 第5回：文書偽造罪②代理人名義の冒用等、個別問題 第6回：わいせつの罪（175条を中心に） 第7回：公務執行妨害罪①保護法益論 第8回：公務執行妨害罪②成立要件論 第9回：犯人蔵匿罪・隠避罪 第10回：証拠隠滅罪 第11回：偽証罪 第12回：賄賂罪①保護法益論 第13回：賄賂罪②成立要件論 第14回：賄賂罪③非公務員の関与（身分犯の共犯） 年初のガイダンスで、当該年度の指針を示しますので、必ず出席してください。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法（どの出版社のものでもよい。）は必ず持参してください。 なお、この科目を履修する場合は、あわせて同担当者の「刑法（各論）Ⅱ」も履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 レジュメ等で次回取り扱う箇所を明示しますので、あらかじめ教科書の該当箇所を通読しておいてください（1時間程度）。時間の関係上、判例を一つひとつ取り上げ詳しく検討することはできませんので、判例の概要をおさえておくと、講義の内容も理解しやすくなるでしょう。授業が終わったら、短答式問題を各自解くなどして、知識の充実に努めてください。（1時間程度）		
5. 教科書 『刑法各論〔第4版〕』高橋則夫（成文堂） 『刑法各論講義〔第6版〕』松宮孝明（成文堂） 上記のうち、自分の考え方に近い教科書を選ぶとよいでしょう。 あくまで予習・復習のためのものです。基本的に、授業中に該当ページを開いて、解説することはありません。 予習等の便宜を考えて、レジュメには、上記教科書の該当ページを示します。		
6. 参考書 『刑法判例百選Ⅱ各論〔第8版〕』西田典之ほか編（有斐閣） レジュメを配布する予定です。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji や GoogleForm を利用して配信する予定です。 学期末試験に関しては、試験終了後、簡単な解説をします。		
8. 成績評価の方法 学期末試験（60%）及び確認小テスト（40%）の成績によって判定します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW251J		
刑法（各論）Ⅱ		長谷川 裕寿
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 刑法は刑罰法規に定められた行為を行った者を処罰する法ですが、その反面として、「犯罪として規定されていない行為は自由に行える」といった自由を保障する機能があります。私たちが自分の持っている自由を最大限に行使し、自らの人格を自由に形成することができるためにも、刑罰法規の中心的存在である刑法典、その第二編「罪」によって処罰の対象とされている行為とはどのようなものであるかを知っておかなければなりません。判例・学説が対立する場面を集中的に講義することになりますが、その際には、なぜそのような対立が見られるのか、それぞれの見解がどのような観点を重視しているのかをできるかぎり丁寧に説明したいと思います。 【授業の到達目標】 判例・学説に関する理解を深め、「この学説からは論理的にこうなる、あの学説からは論理的にああなる」といった具合に、刑法を素材にして各自「頭の体操」（論理的思考・多角的思考）ができるようになること、これが本講義の究極目標です。		
2. 授業内容 第1回：窃盗罪①保護法益論 第2回：窃盗罪②成立要件論（客観） 第3回：窃盗罪③成立要件論（主観） 第4回：窃盗罪④親族間の犯罪に関する特例 第5回：強盗罪① 第6回：強盗罪②事後強盗罪 第7回：強盗罪③強盗致死傷罪 第8回：詐欺罪 第9回：恐喝罪 第10回：横領罪 第11回：背任罪 第12回：盗品等関与罪 第13回：毀棄罪・隠匿罪 第14回：まとめ（補論） 年初のガイダンスで、当該年度の指針を示しますので、必ず出席してください。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法（どの出版社のものでもよい。）は必ず持参してください。 なお、この科目を履修する場合は、あわせて同担当者の「刑法（各論）Ⅰ」も履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 レジュメ等で次回取り扱う箇所を明示しますので、あらかじめ教科書の該当箇所を通読しておいてください（1時間程度）。時間の関係上、判例を一つひとつ取り上げ詳しく検討することはできませんので、判例の概要をおさえておくと、講義の内容も理解しやすくなるでしょう。授業が終わったら、短答式問題を各自解くなどして、知識の充実を図ってください。（1時間程度）		
5. 教科書 『刑法各論〔第4版〕』高橋則夫（成文堂） 『刑法各論講義〔第6版〕』松宮孝明（成文堂） 上記のうち、自分の考え方に近い教科書を選ぶとよいでしょう。 あくまで予習・復習のためのものです。基本的に、授業中に該当ページを開いて、解説することはありません。 予習等の便宜を考えて、レジュメには、上記教科書の該当ページを示します。		
6. 参考書 『刑法判例百選Ⅱ各論〔第8版〕』西田典之ほか編（有斐閣） レジュメを配布する予定です。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji や GoogleForm を利用して配信する予定です。 学期末試験に関しては、試験終了後、簡単な解説をします。		
8. 成績評価の方法 学期末試験（60%）及び確認小テスト（40%）の成績によって判定します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW251J		
(再) 刑法 (各論) I		長谷川 裕寿
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 刑法は刑罰法規に定められた行為を行った者を処罰する法ですが、その反面として、「犯罪として規定されていない行為は自由に行える」といった自由を保障する機能があります。私たちが自分の持っている自由を最大限に行使し、自らの人格を自由に形成することができるためにも、刑罰法規の中心的存在である刑法典、その第二編「罪」によって処罰の対象とされている行為とはどのようなものであるかを知っておかなければなりません。判例・学説が対立する場面を集中的に講義することになりますが、その際には、なぜそのような対立が見られるのか、それぞれの見解がどのような観点を重視しているのかをできるかぎり丁寧に説明したいと思います。 【授業の到達目標】 判例・学説に関する理解を深め、「この学説からは論理的にこうなる、あの学説からは論理的にああなる」といった具合に、刑法を素材にして各自「頭の体操」(論理的思考・多角的思考)ができるようになること、これが本講義の究極目標です。		
2. 授業内容 第1回：刑法各論の全体像 第2回：放火罪①保護法益論、成立要件論(108条を中心に) 第3回：放火罪②成立要件論(109条、110条を中心に) 第4回：文書偽造罪①保護法益論・成立要件論 第5回：文書偽造罪②代理人名義の冒用等、個別問題 第6回：わいせつの罪(175条を中心に) 第7回：公務執行妨害罪①保護法益論 第8回：公務執行妨害罪②成立要件論 第9回：犯人蔵匿罪・隠避罪 第10回：証拠隠滅罪 第11回：偽証罪 第12回：賄賂罪①保護法益論 第13回：賄賂罪②成立要件論 第14回：賄賂罪③非公務員の関与(身分犯の共犯) 年初のガイダンスで、当該年度の指針を示しますので、必ず出席してください。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法(どの出版社のものでもよい。)は必ず持参してください。 なお、この科目を履修する場合は、あわせて同担当者の「刑法(各論)Ⅱ」も履修することが望ましい。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 レジュメ等で次回取り扱う箇所を明示しますので、あらかじめ教科書の該当箇所を通読しておいてください(1時間程度)。時間の関係上、判例を一つひとつ取り上げ詳しく検討することはできませんので、判例の概要をおさえておくと、講義の内容も理解しやすくなるでしょう。授業が終わったら、短答式問題を各自解くなどして、知識の充実を図ってください。(1時間程度)		
5. 教科書 『刑法各論〔第4版〕』高橋則夫(成文堂) 『刑法各論講義〔第6版〕』松宮孝明(成文堂) 上記のうち、自分の考え方に近い教科書を選ぶとよいでしょう。 あくまで予習・復習のためのものです。基本的に、授業中に該当ページを開いて、解説することはありません。 予習等の便宜を考えて、レジュメには、上記教科書の該当ページを示します。		
6. 参考書 『刑法判例百選Ⅱ各論〔第8版〕』西田典之ほか編(有斐閣) レジュメを配布する予定です。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji や GoogleForm を利用して配信する予定です。 学期末試験に関しては、試験終了後、簡単な解説をします。		
8. 成績評価の方法 学期末試験(60%)及び確認小テスト(40%)の成績によって判定します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW251J		
(再) 刑法 (各論) II		長谷川 裕寿
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 刑法は刑罰法規に定められた行為を行った者を処罰する法ですが、その反面として、「犯罪として規定されていない行為は自由に行える」といった自由を保障する機能があります。私たちが自分の持っている自由を最大限に行使し、自らの人格を自由に形成することができるためにも、刑罰法規の中心的存在である刑法典、その第二編「罪」によって処罰の対象とされている行為とはどのようなものであるかを知っておかなければなりません。判例・学説が対立する場面を集中的に講義することになりますが、その際には、なぜそのような対立が見られるのか、それぞれの見解がどのような観点を重視しているのかをできるかぎり丁寧に説明したいと思います。 【授業の到達目標】 判例・学説に関する理解を深め、「この学説からは論理的にこうなる、あの学説からは論理的にああなる」といった具合に、刑法を素材にして各自「頭の体操」(論理的思考・多角的思考)ができるようになること、これが本講義の究極目標です。		
2. 授業内容 第1回：窃盗罪①保護法益論 第2回：窃盗罪②成立要件論 (客観) 第3回：窃盗罪③成立要件論 (主観) 第4回：窃盗罪④親族間の犯罪に関する特例 第5回：強盗罪① 第6回：強盗罪②事後強盗罪 第7回：強盗罪③強盗致死傷罪 第8回：詐欺罪 第9回：恐喝罪 第10回：横領罪 第11回：背任罪 第12回：盗品等関与罪 第13回：毀棄罪・隠匿罪 第14回：まとめ (補論) 年初のガイダンスで、当該年度の指針を示しますので、必ず出席してください。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法 (どの出版社のものでもよい。) は必ず持参してください。 なお、この科目を履修する場合は、あわせて同担当者の「刑法 (各論) I」も履修することが望ましい。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 レジュメ等で次回取り扱う箇所を明示しますので、あらかじめ教科書の該当箇所を通読しておいてください (1 時間程度)。時間の関係上、判例を一つひとつ取り上げ詳しく検討することはできませんので、判例の概要をおさえておくと、講義の内容も理解しやすくなるでしょう。授業が終わったら、短答式問題を各自解くなどして、知識の充実を図ってください。 (1 時間程度)		
5. 教科書 『刑法各論 [第4版]』高橋則夫 (成文堂) 『刑法各論講義 [第6版]』松宮孝明 (成文堂) 上記のうち、自分の考え方に近い教科書を選ぶとよいでしょう。 あくまで予習・復習のためのものです。基本的に、授業中に該当ページを開いて、解説することはありません。 予習等の便宜を考えて、レジュメには、上記教科書の該当ページを示します。		
6. 参考書 『刑法判例百選II各論 [第8版]』西田典之ほか編 (有斐閣) レジュメを配布する予定です。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji や GoogleForm を利用して配信する予定です。 学期末試験に関しては、試験終了後、簡単な解説をします。		
8. 成績評価の方法 学期末試験 (60%) 及び確認小テスト (40%) の成績によって判定します。		
9. その他		

6 演習科目群

専門演習 A・BⅠ／A・BⅡ（概要）		
各 2 単位	駿河台キャンパス	A・BⅠ：春学期 A・BⅡ：秋学期
1. 授業の概要・到達目標 演習（ゼミ）とは、教員の指導の下に学生がその専門分野について討議・研究を行う授業をいいます。演習を大学が設置する趣旨は、講義による教育を補完し、これとあいまって大学教育を完全なものにすることにあります。 専門演習は各コース共通の必修科目であり、様々な要求に応じられるように多数の多様な演習が用意されています。『法学部演習案内』や Oh-o! Meiji のクラスウェブで各演習の概要等を確認の上、希望する演習を選択して下さい。		
2. 授業内容 授業内容は、演習の担当者により異なります。その一例を示すと以下のとおりです。 第 1 回：a のみ：イントロダクション 第 2 回：年間計画の確定と報告・レポートに関する事例・事件の決定 第 3 回：担当教員による事例・事件についての基礎理論の解説（1） 第 4 回：担当教員による事例・事件についての基礎理論の解説（2） 第 5～12 回：報告・レポート担当者による報告（1）～（8）、討論、教員のコメント 第 13 回：これまでの報告についての論点整理と評価 第 14 回：まとめと今後の課題 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・演習に参加する全ての学生が、毎回の授業はもちろんのこと、積極的にゼミ活動に関わることが期待されます。 ・専門演習は、3・4 年次配当の必修科目です。演習の趣旨からして、3 年次で選択した演習 A を 4 年次も引き続き演習 B として履修することが望まれます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予定されている各回の演習内容について予め確認し、分からない点を明らかにしておくことが必要です。詳細については、『法学部演習案内』や Oh-o! Meiji のクラスウェブで確認して下さい。		
5. 教科書 『法学部演習案内』、『Oh-o! Meiji』のクラスウェブ参照。		
6. 参考書 『法学部演習案内』、『Oh-o! Meiji』のクラスウェブ参照。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 『Oh-o! Meiji』のクラスウェブ参照。		
8. 成績評価の方法 『法学部演習案内』、『Oh-o! Meiji』のクラスウェブ参照。		
9. その他 Oh-o! Meiji を積極的に活用してください。		

科目ナンバー：(LA)ACD122J		
(再) アカデミックライティング		上原 作和
1 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 大学で学ぶ際には、レポートや論文を作成する技術が不可欠である。高校時代までに書き慣れた「作文」や「小レポート」などとは異なり、レポートや論文は参考文献のサーチや精読、自身の意見の明確化、そして読み手が理解しやすい文章構成などが要求される。にも関わらず、論述の前提となる出典注記や参考文献のリストアップさえ、満足に行えない学生が少なくない。このような状況に鑑み、本授業ではレポートの作成法を順番に説明し、それらを１ステップごとに実践し、レポートの形式的な諸要件を理解することに重点を置く。		
2. 授業内容 第１回：イントロダクション（２グループ合同で行う。必ず出席すること） この授業の目的／レポート仮テーマの設定 第２回：テーマの設定に際する注意点／参考文献の「読書」 第３回：レポート・論文の「型」／客観的な視点（比較・対象）の必要性 第４回：CiNii Articles で研究の最新動向を知る／文献リストの作成 第５回：文献引用の作法／発表資料の作り方 第６回：各自のレポートに関する口頭発表 第７回：レポート提出に際する注意点（２グループ合同で行う場合もある） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 演習形式の授業であるため、積極的に参加しようとする意欲をもって出席してほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ指定された参考書の該当箇所や指定された文献に目を通して授業に参加すること。授業後にも、もう一度指定された該当箇所や文献を読み、課題がある場合には、それに取り組むこと。		
5. 教科書 指定しない。		
6. 参考書 『最新版 大学生のためのレポート・論文術（講談社現代新書）』（講談社、2018） 『新版 論文の教室 レポートから卒論まで（NHK ブックス）』（NHK 出版、2012） 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』大島弥生ほか（ひつじ書房、第２版、2014）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題論文、リアクションペーパーの講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業中での発言や報告、ならびに課題（レポートを含む）により評価する（授業回数の３分の２以上出席した者のみを評価対象とする）。		
9. その他 ＊2018～2021 年度カリキュラムの科目ですので、その年度以外の入学者は履修できません。		

7 各コース科目群

科目ナンバー：(LA)ACD111J		
現代法入門 ※オムニバス		金子 敏哉
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、(1)法実務に携わっている方々による講演を通じて、現代社会における諸問題に対する法的アプローチの方法と法の担い手について学ぶとともに、(2)法学部の教員によるオムニバス形式の講義を通じて、法哲学、法社会学、法と言語学からの多面的な法へのアプローチや知的財産法、経済法、国際私法の各分野において直面している現代的な諸問題・自動運転と法という最先端の問題への法的なアプローチの概要を学ぶことを内容とします。 【授業の到達目標】 (1) 現代社会における各種の法の担い手の概要を理解する。 (2) 現代社会における諸問題への、法哲学、法社会学、知的財産法、経済法、国際私法等からの多様なアプローチの概要を理解する。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 現代の法へのアプローチ（金子） 〔現代における法の担い手〕 第2回：現代における法の担い手（1）：弁護士 第3回：現代における法の担い手（2）：検察官・検察事務官 第4回：現代における法の担い手（3）：裁判官・裁判所事務官・家庭裁判所調査官 第5回：現代における法の担い手（4）：衆議院法制局 第6回：現代における法の担い手（5）：公務員（行政） 〔法的な諸問題への多面的なアプローチ〕 第7回：法政策学入門：法律・条例の作り方知的財産法Ⅰ：知的財産訴訟：裁判例を題材に 第8回：経済法：企業活動における「公正かつ自由な競争」とは何か－マイクロソフト抱き合わせ販売事件を手がかりとして－ 第9回：国際私法：私人間の国際的紛争の解決手段 第10回：法哲学Ⅰ：法学者・法律家は何をしているのか？ 第11回：法哲学Ⅱ：法における正義と政治 第13回：法社会学：法と社会の共進化——エヴィデンス・ベース・ロー 第14回：自動運転と法 第14回：知的財産法Ⅱ：二次創作と著作権法 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 最新の『ポケット六法』（有斐閣）又は『デイリー六法』（三省堂）を持参してください。 授業中に出席調査を行います。欠席が3回以上の場合、試験の成績に関わらず不合格になる場合があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 授業で扱う事項について、参考書（又は指定された資料）等の該当部分を読んでおいてください。 【復習すべき内容】 授業で扱った事項について、参考書等・授業資料で確認し、正確に理解して、その内容を説明できるようにしておいてください。		
5. 教科書 使用しません。		
6. 参考書 授業中に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験については採点結果（平均点、成績評価分布等）等についての簡単な解説を Oh-o ! Meiji に掲載する予定です。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 期末定期試験によります。 ただし、欠席が3回以上の場合、試験の成績に関わらず不合格になる場合があります。 【成績評価の基準】 授業で扱われた内容のうち基本的な事項を理解しているかを基準とします。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ACD111E		
Introduction to Modern Law I		小室 輝久
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【Course Description】 This course provides students with an opportunity to learn about and become acquainted with the Japanese legal system through lectures and discussions. It covers significant fields of Japanese law and legal institutions, such as criminal justice, family law, contract law, and labour law. 【Course Objectives】 (1) Students will be able to understand the Japanese legal system in its social, cultural and historical context. (2) Students will be able to discuss and present the topics on Japanese law by utilizing legal vocabulary and ideas acquired through the course.		
2. 授業内容 Class 1: Criminal Process (1) Overview Class 2: Criminal Process (2) Investigation Class 3: Criminal Process (3) Police and Community Class 4: Criminal Process (4) Juvenile Justice Class 5: Criminal Process (5) Due Process of Law Class 6: Criminal Process (6) Punishment Class 7: Presentation and Discussion Class 8: Family and Law (1) Marriage Class 9: Family and Law (2) Divorce Class 10: Family and Law (3) Adoption Class 11: Contract Law Class 12: Labour Law (1) Wages, Labour Hours, Labour Union Class 13: Labour Law (2) Overwork and 'Karoshi' Class 14: Wrap-up and Discussion *The course subjects may be subject to change when necessary. * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 (1) This course is mainly for first-year and second-year law students and students of other majors interested in Japanese law. International students of all majors are welcome. No prior knowledge of the law is required. (2) All the lectures, presentations and discussions will be conducted in English. Students must be confident in actively participating in classroom discussions.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should study the materials assigned on Oh-o! Meiji ClassWeb and be prepared to discuss the topics.		
5. 教科書 None All materials will be supplied by the instructor or accessed through the Internet or the library.		
6. 参考書 Japanese Law , 4th ed, Hiroshi Oda, (Oxford University Press, 2021) The Japanese Legal System, 2nd ed, Curtis J. Milhaupt, J. Mark Ramseyer and Mark D. West, (Foundation Press, 2012) The Japanese Legal System (Hornbooks), 2nd ed, Colin P.A. Jones et al., (West Academic Publishing, 2024)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback comments will be given on Oh-o! Meiji ClassWeb for each minute paper, midterm paper and final paper. Some comments on minute papers will also be given in the classroom.		
8. 成績評価の方法 【Evaluation Method】 Your final grade will be calculated on the following elements: Class Participation, Presentation, Discussion, and Minute-Paper in each class (70%) Midterm Paper (an essay, up to 300 words*) (10%) Final Paper (an essay, up to 600 words*) (20%) * For native English speakers, different requirements apply. 【Criteria of Evaluation】 [Class Participation, Presentation, Discussion, and Minute-Paper] Understanding of the basic legal ideas discussed in each class, and contribution to the class. [Midterm Paper] Understanding of the issue, organized writing, and your opinion focusing on the topic. [Final Paper] Organized writing, description and discussion in the essay.		
9. その他 *This course is conducted in English. * 当科目は英語により授業を実施する。		

科目ナンバー：(LA)ACD111E		
Introduction to Modern Law II		小室 輝久
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【Course Description】 This course provides students with an opportunity to learn about and become acquainted with the Japanese legal system through lectures and discussions. It covers significant fields of Japanese law and legal institutions, such as the judicial system, legal profession, fundamental human rights, the legislature, and the monarchy. 【Course Objectives】 (1) Students will be able to understand the Japanese legal system in its social, cultural and historical context. (2) Students will be able to discuss and present the topics on Japanese law by utilizing legal vocabulary and ideas acquired through the course.		
2. 授業内容 Class 1: Administration of Justice: The Courts of Justice Class 2: Lay Participation in Justice: The Saiban-in System Class 3: Japanese Law from a Historical Perspective Class 4: Legal Professions, Legal Services and Legal Aid Class 5: Criminal Justice (1) Rehabilitation and Reintegration of Prisoners Class 6: Criminal Justice (2) Recidivism Class 7: Presentation and Discussion Class 8: Constitution (1) Equal Treatment, Discrimination and Law Class 9: Constitution (2) Liberty vs. Government Regulation Class 10: Group-work and Discussion Class 11: Constitution (3) Fundamental Human Rights, Separation of Religion and State, Shinto in Japan Class 12: Constitution (4) The Legislative Process and Election Class 13: Constitution (5) The Monarchy and the Constitution Class 14: Wrap-up and Discussion *The course subjects may be subject to change when necessary. * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 (1) "Introduction to Modern Law I" in the spring semester is NOT required to take this course. (2) This course is mainly for first-year and second-year law students and students of other majors interested in Japanese law. International students are welcome. No prior knowledge of the law is required. (3) All lectures, presentations, and discussions will be conducted in English. Students must be confident in participating actively in classroom discussions.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should study the materials assigned on Oh-o! Meiji ClassWeb and be prepared to discuss the topics.		
5. 教科書 None All materials will be supplied by the instructor or accessed through the Internet or the library.		
6. 参考書 Japanese Law, 4th ed, Hiroshi Oda, (Oxford University Press, 2021) The Japanese Legal System, 2nd ed, Curtis J. Milhaupt, J. Mark Ramseyer and Mark D. West, (Foundation Press, 2012) The Japanese Legal System (Hornbooks), 2nd ed, Colin P.A. Jones et al., (West Academic Publishing, 2024)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback comments will be given on Oh-o! Meiji ClassWeb for each minute paper, midterm paper and final paper. Some comments on minute papers will also be given in the classroom.		
8. 成績評価の方法 Your final grade will be calculated on the following elements: 【Evaluation Method】 Class Participation, Presentation, Discussion, and Minute-Paper in each class (70%) Midterm Paper (an essay, up to 300 words*) (10%) Final Paper (an essay, up to 600 words*) (20%) * For native English speakers, different requirements apply. 【Criteria of Evaluation】 [Class Participation, Presentation, Discussion, and Minute-Paper] Understanding of the basic legal ideas discussed in each class, and contribution to the class. [Midterm Paper] Understanding of the issue, organized writing, and your opinion focusing on the topic. [Final Paper] Organized writing, description and discussion in the essay.		
9. その他 * This Course is conducted in English. * 当科目は英語により授業を実施する。		

科目ナンバー：(LA)LAW366E		
Business Law in English I [M]		プレヴォ, エメリック
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 This course is intended to provide students with strong analytical, critical thinking and legal reasoning skills for understanding the current business practices from a legal perspective. The course is demanding as it will cover a wide range of topics and issues relevant for current business practice, at both domestic and international levels, such as contract law, tort liability, criminal liability, Human Rights and Business, and dispute resolution mechanisms. The different topics will be addressed from a comparative law standpoint, and notably from both civil law and common law perspectives. Students are also encouraged to take on the (International) Business Law in English II course which is complementary to this course and in which other key areas of business law will be dealt with, such as corporate law, antitrust law, and banking and financial law. As students will progress throughout the course, they will be gradually introduced to English legal terminology as well as core legal concepts and principles from both a theoretical and a practical point of view. The course will be taught entirely in English. While students are not expected to master legal English before taking the course, a good command of English is nevertheless necessary to fruitfully engage with course materials and actively participate in class discussions. Therefore, for this course, attendance and active participation in classroom discussions are key. Students are expected to come to class well prepared and will be asked on a voluntary basis to prepare short oral presentations. This course is given fully online in real time as a media class. This course is furthermore aimed at providing students with basic knowledge for those who are willing to take part in moot courts such as the Willem C. Vis Moot Court Competition.		
2. 授業内容 All classes are delivered in real time. 第1回: Course Introduction 第2回: Contract Law I (Applicable Law and Competent Jurisdiction) 第3回: Contract Law II (Contract Formation) 第4回: Contract Law III (Validity of Contracts) 第5回: Contract Law IV (Breach of Contract and Remedies) 第6回: Trade Financing I (Loans, Letters of Credit, Bills of Lading) 第7回: Trade Financing II (Factoring and Leasing) 第8回: Tort Liability I (Applicable Law and Competent Jurisdiction) 第9回: Tort Liability II (Torts and Remedies) 第10回: Criminal Liability (Principles of Criminal Corporate Liability and Criminal Jurisdiction) 第11回: Dispute Resolution I (Choice of Courts and Arbitration) 第12回: Dispute Resolution II (Conduct of Proceedings and Decisions Enforcement) 第13回: Review Class 第14回: (a) Examination and (b) Wrap-up * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 The course is operated as a media class (Real-time delivery type).		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 This course will be taught entirely in English. No specific prior knowledge of business law is required, but a good knowledge of fundamental legal principles is advisable. Students must also be able to read, understand and discuss materials in English. Attendance to the (International) Business Law in English II course is not required but is strongly incentivised.		
5. 教科書 There is no specific textbook. All necessary material will be provided or will be easily accessible on the Internet. Students are also encouraged to look for any other relevant material to make arguments during class discussions, and to make use of the library resources.		
6. 参考書 Students are encouraged to use a good English-to-Japanese dictionary. It is also recommended to refer to specific legal English textbooks. Bibliography suggestions will be given during the introductory lecture.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Students will receive feedback on their voluntary presentations directly during class discussions. Students are also strongly encouraged to ask questions during class or via email after class.		
8. 成績評価の方法 Grades are based on class participation (30%) and a final examination (70%).		
9. その他 * 当科目は英語により授業を実施する。		

科目ナンバー：(LA)LAW366E		
Business Law in English II [M]		プレヴォ, エメリック
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 This course is intended to provide students with strong analytical, critical thinking and legal reasoning skills for understanding the current business practices from a legal perspective. The course is demanding as it will cover a wide range of topics and issues relevant for current business practice, at both domestic and international levels, such as corporate law, commercial agency, antitrust law, and financial and banking law. The different topics will be addressed from a comparative law standpoint, and notably from both civil law and common law perspectives. Students are also encouraged to take on the (International) Business Law in English I course which is complementary to this course and in which other key areas of business law will be dealt with, such as contract law, tort law, dispute resolution, and Human Rights and Business. As students will progress throughout the course, they will be gradually introduced to English legal terminology as well as core legal concepts and principles from both a theoretical and a practical point of view. The course will be taught entirely in English. While students are not expected to master legal English before taking the course, a good command of English is nevertheless necessary to fruitfully engage with course materials and actively participate in class discussions. Therefore, for this course, attendance and active participation in classroom discussions are key. Students are expected to come to class well prepared and will be asked on a voluntary basis to prepare short oral presentations. This course is given fully online in real time as a media class. This course is furthermore aimed at providing students with basic knowledge for those who are willing to take part in moot courts such as the Willem C. Vis Moot Court Competition.		
2. 授業内容 All classes are delivered in real time. 第1回: Course Introduction 第2回: Company Law I (Applicable Law and Business Vehicles Overview) 第3回: Company Law II (Organisation of Companies) 第4回: Company Law III (Conduct of Business Operations: Branches, Subsidiaries and Joint Ventures) 第5回: Company Law IV (Agency) 第6回: Company Law V (Transfer of seat, mergers and acquisitions) 第7回: Company Law VI (Insolvency) 第8回: Business and Human Rights I (Global Value Chains and Corporate Due Diligence Obligations) 第9回: Business and Human Rights II (Strategic Litigation) 第10回: Intellectual Property (IP Rights Overview) 第11回: Antitrust Law (Concentrations, Cartels, Abuse of Dominant Position, State Aids) 第12回: Financial Law (Equity and Debt Securities) 第13回: Review class 第14回: (a) Examination and (b) Wrap-up * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 The course is operated as a media class (Real-time delivery type).		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 This course will be taught entirely in English. No specific prior knowledge of business law is required, but a good knowledge of fundamental legal principles is advisable. Students must also be able to read, understand and discuss materials in English. Attendance to the (International) Business Law in English I course is not required but strongly incentivised.		
5. 教科書 There is no specific textbook. All necessary material will be provided or will be easily accessible on the Internet. Students are also encouraged to look for any other relevant material to make arguments during class discussions.		
6. 参考書 Students are encouraged to use a good English-to-Japanese dictionary. It is also recommended to refer to specific legal English textbooks. Bibliography suggestions will be given during the introductory lecture.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Students will receive feedback on their voluntary presentations directly during class discussions. Students are also strongly encouraged to ask questions during class or via email after class.		
8. 成績評価の方法 Grades are based on class participation (30%) and a final examination (70%).		
9. その他 * 当科目は英語により授業を実施する。		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（物権）		中山 知己
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 民法典第二編物権の 175 条～294 条までを対象とし、物権法の基本的原則、考え方、具体的問題における解決方法を習得し、そのために必要な基礎知識と法的思考力の獲得を目標とする。 私法の基礎である民法の体系、その中での物権法の位置、物権法定主義、客体としての物、物権変動論（意思主義、對抗要件）、占有、所有権、用益物権などについて講義する。		
2. 授業内容 第 1 回：民法の体系と物権法の関係・物権と権利客体としての「物」の意義 第 2 回：物権の効力（優先的効力・物権的請求権） 第 3 回：物権法定主義 第 4 回：物権変動論 1 意思主義・對抗要件主義 第 5 回：物権変動論 2 不動産 取消し・解除と登記 第 6 回：物権変動論 3 不動産 時効と登記 第 7 回：物権変動論 4 不動産 相続と登記 第 8 回：物権変動論 5 不動産 第三者の範囲 1 第 9 回：物権変動論 6 不動産 第三者の範囲 2 第 10 回：物権変動論 7 動産取引 第 11 回：占有権 第 12 回：所有権・共有 第 13 回：用益物権 地役権ほか 第 14 回：全体のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 小型でよいので「六法」を購入して持参すること。 スマホで検索するのも悪くはないが、それは緊急のときに使う程度にしたほうがよい。紙をめくる作業をし、印刷文字を見たほうが記憶に残り、定着するので結局効率的で効果が高い。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、教科書の該当部分をあらかじめ読んでおき、その際、理解できる部分とできない部分を明確に意識しておくことが望ましい。 復習では、講義内容を自分でノートにまとめる作業をするとよい。授業中の筆記はあくまでもメモと考えてほしい。		
5. 教科書 中山知己編著・青木則幸・長谷川貞之・吉井啓子著『コンシェルジュ民法 2 物権・担保物権法』（北大路書房、2023）を使用する。初学者向けであるが、このようなベーシックな書籍から入った方が理解が深まり、伸びることは、これまでの経験から明らかである。		
6. 参考書 中舎寛樹『物権法—物権・担保物権』（日本評論社・2022）が、一歩進んだ学習に適當である。潮見・道垣内編『民法判例百選Ⅰ・総則物権 第 9 版』（有斐閣、2023）。民法の学習に際しては判例はとくに重要であり、参照が望ましい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回のレジュメにおいて、事例が提示されているので、これが課題に相当する。授業内で具体的に解説され、質問も可能である。これ以外で課題が提示される場合も授業内で解説するほか、Oh-o!Meiji システムにより補足する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験による。		
9. その他 資料・レジュメ等を Oh-o! Meiji システムにアップする。授業前に自ら印刷するか、PC またはタブレットなどに保存・参照すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（担保物権）		中山 知己
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 民法典第二編物権の 295 条～398 条の 22 まで、および譲渡担保などの非典型担保を対象とし、担保物権法の基本的原則、考え方、具体的問題における解決方法を習得し、そのために必要な基礎知識と法的思考力の獲得を目標とする。 物権の効力・物権変動論の基礎を踏まえて、抵当権、留置権・先取特権、質権、譲渡担保などの非典型担保について講義する。		
2. 授業内容 第 1 回：担保物権の意義・性質・効力・種類 第 2 回：抵当権 1 意義・性質・被担保債権範囲 第 3 回：抵当権 2 抵当権の効力の及ぶ範囲 第 4 回：抵当権 3 物上代位 第 5 回：抵当権 4 抵当権と利用権・法定地上権 第 6 回：抵当権 5 抵当権侵害 第 7 回：抵当権 6 抵当権の処分・共同抵当 第 8 回：抵当権 7 根抵当権 第 9 回：質権・先取特権 第 10 回：留置権 第 11 回：不動産譲渡担保 第 12 回：動産譲渡担保・集合動産譲渡担保 第 13 回：集合債権譲渡担保・所有権留保 第 14 回：全体のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 小型でよいので「六法」を購入して持参すること。 スマホで検索するのも悪くはないが、それは緊急のときに使う程度にしたほうがよい。紙をめくる作業をし、印刷文字を見たほうが記憶に残り、定着するので結局効率的で効果が高い。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、教科書の該当部分をあらかじめ読んでおくこと。その際、理解できる部分とできない部分を明確に意識しておくことが望ましい。 復習では、講義内容を自分でノートにまとめる作業をするとよい。授業中の筆記はあくまでもメモである。		
5. 教科書 中山知己編著・青木則幸・長谷川貞之・吉井啓子著『コンシェルジュ民法 2 物権・担保物権法』（北大路書房、2023）を使用する。初学者向けであるが、このようなベーシックな書籍から入った方が理解が深まり、伸びることは、これまでの経験から明らかである。		
6. 参考書 中舎寛樹『物権法—物権・担保物権』（日本評論社・2022）、後藤・滝沢・片山編『プロセス講義民法Ⅲ担保物権』（信山社、2015）は少し進んだ学習によい。 潮見・道垣内編『民法判例百選 I・総則物権 第 9 版』（有斐閣、2023）。民法の学習に際しては判例はとくに重要であり、参照が望ましい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回のレジュメにおいて、事例が提示されているので、これが課題に相当する。授業内で具体的に解説され、質問も可能である。これ以外で課題が提示される場合も授業内で解説するほか、Oh-o!Meiji システムにより補足する。		
8. 成績評価の方法 学期末試験による。		
9. その他 資料・レジュメ等を Oh-o! Meiji システムにアップする。授業前に自ら印刷するか、PC またはタブレットなどに保存・参照すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（物権）		蓮田 哲也
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、民法第二編第一章から第六章に定められている領域を学修する。 物に対する権利（物権）に関わる基本的な理解を目的とする。 民法上、物権は「所有権」、「占有権」、「制限物権」とに大別され、制限物権は更に「用益物権」と「担保物権」とに分けられている。本講義では、主に所有権、占有権、用益物権に関する内容を取り扱う（担保物権は「民法（担保物権）」にて取り扱う）。 【到達目標】 ① 物権の基本的概念を理解し、説明することができる。 ② 所有権、占有権、用益物権の相違を理解し、これらに関連する制度につき説明することができる。 ③ 所有権、占有権、用益物権が問題となる事案につき、適切な法解釈・事案処理が考えられるようになる。		
2. 授業内容 第1回：物権法概説 ―物権とは何か（物権の意義・特徴・種類）について概観し、物権の客体について学ぶ― 第2回：占有の訴えと物権的請求権① ―占有の訴えと物権的請求権とは何かについて学ぶ― 第3回：占有の訴えと物権的請求権② ―物権的請求権の内容（費用負担）について学ぶ― 第4回：物権変動論① ―物権変動とは何か、どのようにして生じるのか、公示の必要性について学ぶ― 第5回：物権変動論② ―不動産物権変動の基本について学ぶ― 第6回：物権変動論③ ―不動産物権変動に現れる第三者について学ぶ― 第7回：物権変動論④ ―動産物権変動の基本と立木について学ぶ― 第8回：物権変動論⑤ ―即時取得について学ぶ― 第9回：占有権① ―占有権とは何か、占有権の成立と効力について学ぶ― 第10回：占有権② ―占有に基づく本件の取得、占有の消滅、準占有について学ぶ― 第11回：所有権① ―所有権とは何か、所有権の取得について学ぶ― 第12回：所有権② ―共有について学ぶ― 第13回：用益物権① ―用益物権の概観、地上権について学ぶ― 第14回：用益物権② ―永小作権、地役権、入会権について学ぶ― ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 これまでに学修した民法総則の内容が前提となっていますので、必要に応じて復習すること。 ある問題について授業中に自ら考え、確認する時間を設ける予定でいる。 条文・法制度・法概念について予め学習しておいてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習】 教科書などの該当箇所を通読しておくこと。 【復習】 教科書などの該当箇所をもう一度読み、レジュメ及び自身のノートをもとに内容の理解を深めること。		
5. 教科書 書名： 中舎寛樹 『物権法——物権・担保物権』 出版社： 株式会社日本評論社 定価： 3,700 円（税抜） I S B N： 9 7 8 - 4 - 5 3 5 - 5 2 6 2 3 - 5		
6. 参考書 授業時に紹介する		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!meiji を用いて、復習用の小テストを実施する。 この小テストは原則として成績評価の対象ではないが、回答が完了すると、解説が表示されることとなっている。 なお、表示された解説で理解できない場合には、授業前後の時間を用いて質問してもらいたい。		
8. 成績評価の方法 学期末に行う定期試験の成績をもって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（担保物権）		蓮田 哲也
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、民法第二編第七章から第十章に定められている領域及び非典型担保について学修する。 債務者や第三者の所有する物的財産を引き当てに、債務の弁済を確実にする手段である物的担保に関わる基本的な理解を目的とする。物的担保には、民法上定められている典型担保と民法には定められていない非典型担保とがある。前者が担保物権であり、後者は担保物権とは異なるが、本講義では、両者に関する内容を取り扱う（物権は「民法（物権）」にて取り扱う）。 【到達目標】 ① 物的担保の基本的概念を理解し、説明することができる。 ② それぞれの典型担保及び非典型担保の相違を理解し、これらに関連する制度につき説明することができる。 ③ 物的担保が問題となる事案につき、適切な法解釈・事案処理が考えられるようになる。		
2. 授業内容 第1回：担保物権法概説 ―なぜ担保が必要なのかを概観し、担保物権の基礎(種類・効力・通有性)について学ぶ― 第2回：法定担保物権① 留置権(1) ―留置権の意義、成立、効力について学ぶ― 第3回：法定担保物権② 留置権(2) 先取特権(1) ―留置権の効力、消滅、先取特権の意義、種類について学ぶ― 第4回：法定担保物権③ 先取特権(2) ―先取特権の種類、効力について学ぶ― 第5回：約定担保物権① 質権(1) ―質権の意義、種類、動産質について学ぶ― 第6回：約定担保物権② 質権(2) ―不動産質、権利質について学ぶ― 第7回：約定担保物権③ 抵当権(1) ―抵当権の基礎(意義、性質、設定)について学ぶ― 第8回：約定担保物権④ 抵当権(2) ―抵当権の及ぶ範囲について学ぶ― 第9回：約定担保物権⑤ 抵当権(3) ―抵当権と抵当不動産との関係について学ぶ― 第10回：約定担保物権⑥ 抵当権(4) ―抵当権の処分・消滅について学ぶ― 第11回：約定担保物権⑦ 抵当権(5) ―共同抵当と根抵当について学ぶ― 第12回：非典型担保① 所有権留保 ―所有権留保とは何かについて学ぶ― 第13回：非典型担保② 譲渡担保 ―譲渡担保とは何かについて学ぶ― 第14回：非典型担保③ 仮登記担保 ―仮登記担保とは何かについて学ぶ― * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 民法総則及び物権の内容が前提となっていますので、必要に応じて復習すること。 ある問題について授業中に自ら考え、確認する時間を設ける予定でいる。 条文・法制度・法概念について予め学習しておいてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習】 教科書などの該当箇所を通読しておくこと。 【復習】 教科書などの該当箇所をもう一度読み、レジュメ及び自身のノートをもとに内容の理解を深めること。		
5. 教科書 書名： 中舎寛樹 『物権法——物権・担保物権』 出版社： 株式会社日本評論社 定価： 3,700 円（税抜） I S B N： 9 7 8 - 4 - 5 3 5 - 5 2 6 2 3 - 5		
6. 参考書 授業時に紹介する		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!meiji を用いて、復習用の小テストを実施する。 この小テストは原則として成績評価の対象ではないが、回答が完了すると、解説が表示されることとなっている。 なお、表示された解説で理解できない場合には、授業前後の時間を用いて質問してもらいたい。		
8. 成績評価の方法 学期末に行う定期試験の成績をもって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（物権）		吉井 啓子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義は、民法第2編物権のうち、担保物権に関する条文を除く条文（195～294 条）を扱う。細かい条文やあまり重要でないと思われる事項の説明は省略し（それらの事項についてはレジュメ等で補う）、重要な事項についての説明に多くの時間を割きたい。また、相続に関する問題のうち物権法と深く関係する部分（「相続と登記」に関する問題、遺産共有など）も取り上げる予定であるため、相続法の条文にも説明は及ぶ。 本講義の到達目標は、まずは物権法に関する基本知識（条文の趣旨・要件・効果）を身につけることである。その上で、比較的簡単に初歩的な物権法領域の事例につき、どのような問題があるか論点を抽出した上で、当該事例に適用される規範を見出して適切な法的解決を導ける力を身につけてもらう。 基本知識の定着を図るため、小レポートを2回実施する（Oh-o!Meiji で提出）。簡単な事例問題を予定している。		
2. 授業内容 第1回 aのみ：ガイダンス 第2回 物権総論(1):物権の意義と性質、物権法定主義 第3回・第4回 物権総論(2):物権的請求権、物権の消滅 第5回・第6回 物権総論(3):物権変動①意思主義・対抗要件主義、不動産登記 第7回・第8回 物権総論(4):物権変動②177条の範囲、取消し・解除と登記、取得時効と登記 第9回 物権総論(5):物権変動③相続と登記、177条の第三者、補論－相続法の全体像「相続と登記」の問題を理解するために 第10回 物権総論(6):物権変動④動産物権変動、即時取得、立木等の物権変動、 第11回・第12回 占有権、所有権 第13回・第14回 共有、用益物権 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を必ず持参すること。講義中に受講者に条文を読んでもらうことがある。 レジュメ（授業2回分が1つにまとまっている）は事前に Oh-o!Meiji にアップロードするので、プリントアウトして授業に持参すること。持参したノートパソコンで見るのもよい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習－事前にアップロードするレジュメの Step1 の質問に答えられるように教科書を読んでおくこと。 復習・発展学習－レジュメの Step2 の判例を読む。Step3 の事例問題・発展問題に取り組む。		
5. 教科書 中山知己＝長谷川貞之＝吉井啓子＝青木則幸『コンシェルジュ民法2 物権・担保物権法』（北大路書房、2023） 授業は事前にアップロードするレジュメにそって行う。		
6. 参考書 潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ－総則・物権〔第9版〕』（有斐閣、2023） そのほかの参考書については、第1回レジュメにリストを掲載する。指定教科書が自分に合わないと思った受講者は、その中から自分に合った本を選ぶとよい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小レポートは Oh-o! Meiji を通じて提出してもらう。実施翌週の授業で全体講評をするほか、希望する受講生には個別コメントを返信する。全体講評・個別コメントをふまえて、修正版を提出することも可能とする。		
8. 成績評価の方法 小レポート（2回実施）が20%、期末試験が80%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（担保物権）		吉井 啓子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義は、民法第2編物権のうち担保物権に関する条文（295～398条の22）を扱うほか、民法に条文がない譲渡担保・所有権留保などの非典型担保も扱う。細かい条文やあまり重要でないと思われる事項の説明は省略し（それらの事項についてはレジュメ等で補う）、重要な事項についての説明に多くの時間を割きたい。 本講義の到達目標は、担保物権法に関する基本知識（条文の趣旨・要件・効果）を身につけることである。その上で、比較的簡単に初歩的な担保物権法領域の事例につき、どのような問題があるか論点を抽出した上で、当該事例に適用される規範を見出して適切な法的解決を導ける力を身につけてもらう。 基本知識の定着を図るため、小レポートを2回実施する（Oh-o!Meiji で提出）。簡単な事例問題を予定している。		
2. 授業内容 第1回 aのみ：ガイダンス、担保法の全体像 第2回 抵当権（1）－抵当権とは・抵当権の設定 第3回・第4回 抵当権（2）－被担保債権・抵当権の効力の及ぶ範囲・物上代位 第5回・第6回 抵当権（3）－法定地上権・抵当権と賃借権・抵当権侵害・抵当不動産の第三取得者 第7回・第8回 抵当権（4）－抵当権の処分・抵当権の実行・共同抵当・抵当権の消滅・根抵当権 第9回・第10回 質権 第11回・第12回 法定担保物権－留置権・先取特権 第13回・第14回 非典型担保－譲渡担保・所有権留保 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を必ず持参すること。講義中に受講者に条文を読んでもらうことがある。 レジュメ（授業2回分が1つにまとまっている）は事前にOh-o!Meiji にアップロードするので、プリントアウトして授業に持参すること。持参したノートパソコンで見るともよい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習－事前にアップロードするレジュメのStep1の質問に答えられるように教科書を読んでおくこと。 復習・発展学習－レジュメのStep2の判例を読む。Step3の事例問題・発展問題に取り組む。		
5. 教科書 中山知己＝長谷川貞之＝吉井啓子＝青木則幸『コンシェルジュ民法2 物権・担保物権法』（北大路書房、2023） 授業は事前にアップロードするレジュメにそって行う。		
6. 参考書 潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ－総則・物権〔第9版〕』（有斐閣、2023） そのほかの参考書については、第1回レジュメに参考書リストを掲載する。指定教科書が自分に合わないと思った受講者は、その中から自分に合った本を選ぶとよい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小レポートはOh-o! Meiji を通じて提出してもらう。翌週の授業で全体講評をするほか、希望する受講生には個別コメントを返信する（希望者のみ）。全体講評・個別コメントをふまえて、修正版を提出することも可能とする。		
8. 成績評価の方法 小レポート（2回実施）が20%、期末試験が80%		
9. その他 民法（物権）を履修していることが望ましい。		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（物権）		亀田 浩一郎
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 <授業の到達目標> 物権法分野における諸概念・制度および法理論等の基礎知識の習得に加え、民法の体系的な理解をめざす。とくに不動産取引における所有権移転と登記にかかわる問題が中心となる。 <授業の概要> われわれの生活関係を規律する一般法である民法は、財産的関係を処理するにあたり、物権（所有権・抵当権といった物に対する権利）と債権（売買代金債権・貸金債権といった人に対する権利）という2種類の権利を用いている。本講義は、このうち物権を道具として財産的関係を処理しようとする分野について、基本的な法理論を学習しようとするものである。物権法の前半部分（民法175～294条）にあたる物権法総論、占有権、所有権および用益物権を対象とする（この部分だけを「物権法」とする教科書が多い）。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション・物権法の位置づけ 第2回：物権の意義・性質・客体・物権法定主義 第3回：優先的効力・物権的請求権 第4回：物権変動序説（意義・原因・公示と公信） 第5回：物権変動を生ずる法律行為（意思主義と形式主義・物権行為の独自性・物権変動時期） 第6～10回：不動産物権変動（不動産登記・対抗の意義・登記を必要とする物権変動・第三者の範囲） 第11回：動産物権変動（引渡・即時取得） 第12回：占有権（占有の成立・承継・効力） 第13回：所有権（相隣関係・所有権の取得・共有） 第14回：用益物権（地上権・永小作権・地役権・入会権） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「六法」は必ず持参すること。 講義はただ受け身で聴くのではなく、自分で考えながら積極的な態度で臨んでもらいたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受ける前に、あらかじめその回のテーマについて教科書等を読んで予習しておくこと。特に分からない点がどこか事前に知っておくことが重要である。		
5. 教科書 石田＝武川＝占部＝田高＝秋山『民法Ⅱ 物権』（有斐閣）、中舎寛樹『物権法』（日本評論社）、または中山＝長谷川＝吉井＝青木『物権・担保物権法（コンシェルジュ民法2）』（北大路書房）。ただしこれ以外でも自分が気に入ったものがあればそれを使用してもかまわない。		
6. 参考書 レジュメを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 定期試験のみによって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（担保物権）		亀田 浩一郎
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の到達目標＞ 担保物権法分野における諸概念・制度および法理論等の基礎知識の習得に加え、民法の体系的な理解をめざす。とくに抵当権などの物的担保を使った金融のしくみについて、中心的に学ぶ。 ＜授業の概要＞ われわれの生活関係を規律する一般法である民法は、財産的関係を処理するにあたり、物権（所有権・抵当権といった物に対する権利）と債権（売買代金債権・貸金債権といった人に対する権利）という２種類の権利を用いている。本講義は、このうち物権を道具として財産的関係を処理しようとする分野について、基本的な法理論を学習しようとするものである。物権法の後半部分（民法 295～398 条の 22）にあたる留置権、先取特権、質権、抵当権という典型担保に、非典型担保（譲渡担保、仮登記担保等）をも含めた「担保物権法」と呼ばれる分野を対象とする。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：債権の効力と担保制度の必要性・担保物権の種類・性質 第 2 回：留置権 第 3 回：先取特権 第 4 回：質権 第 5 回：抵当権の設定と被担保債権の範囲 第 6 回：抵当権の効力の及ぶ目的物の範囲・物上代位 第 7 回：抵当権の実行 第 8 回：抵当権と利用権との調整（法定地上権） 第 9 回：抵当不動産と第三取得者の保護（代価弁済・担保権消滅請求） 第 10 回：抵当権の侵害・抵当権の処分 第 11 回：共同抵当 第 12 回：根抵当権 第 13・14 回：非典型担保（仮登記担保・譲渡担保・所有権留保） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「六法」は必ず持参すること。 講義はただ受け身で聴くのではなく、自分で考えながら積極的な態度で臨んでもらいたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受ける前に、あらかじめその回のテーマについて教科書等を読んで予習しておくこと。特に分からない点がどこか事前に知っておくことが重要である。		
5. 教科書 石田＝武川＝占部＝田高＝秋山『民法Ⅱ物権』（有斐閣）、中舎寛樹『物権法』（日本評論社）、または中山＝長谷川＝吉井＝青木『物権・担保物権法（コンシェルジュ民法 2）』（北大路書房）。ただしこれ以外でも自分が気に入ったものがあればそれを使用してかまわない。		
6. 参考書 レジュメを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 定期試験のみによって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW361J		
民法（契約）Ⅰ		芦野 訓和
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、民法第3編債権第2章契約に規定される領域を学習する。すでに債権「総論」分野については2年次「民法（債権）」で学習済みであることが前提となっている。 民法Ⅰ（前期）は第1章「総則」部分を中心に授業を行う。契約は、当事者の交渉などによりその関係が始まり、履行を経て正常に契約が終了するのが通常であるが、何らかの原因により契約が途中で終了する場合もある。この問題は契約類型にかかわらず全ての契約に通ずる。このような全ての契約に共通する場面については、契約総則規定で規律されている。本授業では、契約一般に共通する法理論について、条文や法制度を理解し、それらをめぐる判例・学説について学習し、自らの思考能力を高めていくことにする。 【到達目標】 これまで「民法総則」「債権（総論）」で学んできた抽象的な法理論が、具体的な契約という場面での総則規定とどのような関係にあるのかを学ぶことにより、これまでの学習を振り返り、契約が成立してから終了するまでに関する法準則を理解し、関連する問題について自ら思考し解決することができることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ イントロダクション 第2回：民法典における契約法の位置づけ、契約の意義と分類、契約法の原則とその修正（契約自由・契約の相対効） 第3回：契約成立をめぐる問題1（成立の方法と時期） 第4回：契約成立をめぐる問題2（契約締結上の過失、契約交渉の不当破棄） 第5回：契約の効力1（同時履行の抗弁） 第6回：契約の効力2（危険負担） 第7回：契約の効力3（契約の相対効と例外） 第8回：契約の効力4（債務不履行との関係） 第9回：契約の終了をめぐる問題1 契約の終了と解除 第10回：契約の終了をめぐる問題2 解除の要件 第11回：契約の終了をめぐる問題3 解除権の行使とその効果 第12回：双務・有償契約をめぐるその他の総論的問題（予約・手付け） 第13回：消費者契約法 第14回：現代的契約をめぐる諸問題（継続的契約、複数関与者の法律関係） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 1. 2年次に学んだ内容を前提とすることから、必要に応じて適宜復習が必要である。 毎回の授業終了時に次回の内容を簡単に説明し、教科書の該当部分を指示する。それに基づいて各自で事前に学習して欲しい。その際には、条文・法制度・法概念についてあらかじめ学習しておくこと。 具体的な授業の進め方等については初回の授業で説明するので、受講を考えている学生は必ず出席すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習】 指定教科書および参考書等の該当箇所を読んでおくこと。また、Oh-o!Meiji システムにアップするレジュメも活用することが望まれる。 【復習】 教科書の該当箇所をもう一度読み、さらには、レジュメの復習のポイントをもとに内容を理解・把握し、表現できるように復習して欲しい。		
5. 教科書 芦野訓和＝大坂恵理＝深川裕佳＝萩原基裕＝永岩慧子『スリーステップ債権各論』（成文堂、2022年）		
6. 参考書 潮見佳男『基本講義 債権各論〈1〉契約法・事務管理・不当利得（ライブラリ法学基本講義）』（新世社、第4版、2022年） 近江幸治『民法講義Ⅴ 契約法 第4版』（成文堂、2022年） 中田裕康『契約法 新版』（有斐閣、2021年） 大村敦志『新基本民法5 契約編—各種契約の法』（有斐閣、第2版、2020年） 野沢正充『契約法（第3版）』（日本評論社、2020年） 中舎寛樹『債権法』（日本評論社、2018年） 山本敬三『民法講義Ⅳ－Ⅰ 契約』（有斐閣、2005年） 『民法判例百選2 債権 第9版（別冊ジュリスト No. 263）』（有斐閣） 『民法④債権各論 判例 30!』（有斐閣、2017年） など その他、必要に応じて指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の中で適宜対応するほか、定期試験の講評については、採点終了後に Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載する。		
8. 成績評価の方法 中間確認テスト（20%）、学期末に行う定期試験（80%）で評価する。詳細については最初の授業で説明する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民法（契約）Ⅱ		芦野 訓和
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 本授業では、民法第3編債権第2章契約に規定される領域を学習する。すでに債権「総論」分野については2年次「民法（債権）」で学習済みであることが前提となっている。 後期は第2章「契約」部分を中心に授業を行う。民法（契約）Ⅰで学習した総則規定が各具体的契約とどのように関係するのか、個別的な契約においてはどのような規定が定められているのかについて、条文をもと法制度の概要を理解し、判例・学説の議論を通じて具体的法問題について学ぶ。 【到達目標】 これまで「民法総論」「債権（総論）」で学んできた抽象的な法理論が、具体的な契約という場面での総則規定とどのような関係にあるのかを学ぶことにより、これまでの学習を振り返り、契約が成立してから終了するまでに関する法準則を理解し、関連する問題について自ら思考し解決することができることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ 債権の発生原因、典型契約と非典型契約 ガイダンスを兼ねて 第2回：権利移転型契約総論 第3回：売買契約1（債務不履行と担保責任） 第4回：売買契約2（非典型売買） 第5回：売買契約3（消費者売買） 第6回：権利利用型契約・信用供与型契約総論 第7回：賃貸借契約1（成立・効果） 第8回：賃貸借契約2（修了をめぐる諸問題・転賃借） 第9回：消費貸借 第10回：役務提供型契約総論 第11回：請負契約1（成立・担保責任・製作物供給契約） 第12回：請負契約2（請負をめぐる諸問題） 第13回：委任契約 第14回：その他の典型契約 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 1. 2年次に学んだ内容を前提とすることから、必要に応じて適宜復習が必要である。 毎回の授業終了時に次回の内容を簡単に説明し、教科書の該当部分を指示する。それに基づいて各自で事前に学習して欲しい。その際には、条文・法制度・法概念についてあらかじめ学習しておくこと。 具体的な授業の進め方等については初回の授業で説明するので、受講を考えている学生は必ず出席すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習】 指定教科書および参考書等の該当箇所を読んでおくこと。また、Oh-o!Meiji システムにアップするレジュメも活用することが望まれる。 【復習】 教科書の該当箇所をもう一度読み、さらには、レジュメの復習のポイントをもとに内容を理解・把握し、表現できるように復習して欲しい。		
5. 教科書 芦野訓和＝大坂恵理＝深川裕佳＝萩原基裕＝永岩慧子『スリーステップ債権各論』（成文堂、2022年）		
6. 参考書 潮見佳男『基本講義 債権各論〈1〉契約法・事務管理・不当利得（ライブラリ法学基本講義）』（新世社、第4版、2022年） 近江幸治『民法講義Ⅴ 契約法 第4版』（成文堂、2022年） 中田裕康『契約法 新版』（有斐閣、2021年） 大村敦志『新基本民法5 契約編—各種契約の法』（有斐閣、第2版、2020年） 野沢正充『契約法（第3版）』（日本評論社、2020年） 中舎寛樹『債権法』（日本評論社、2018年） 山本敬三『民法講義Ⅳ－Ⅰ 契約』（有斐閣、2005年） 『民法判例百選2 債権 第9版（別冊ジュリストNo.263）』（有斐閣） 『民法④債権各論 判例 30！』（有斐閣、2017年） など その他、必要に応じて指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の中で適宜対応するほか、定期試験の講評については、採点終了後に Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載する。		
8. 成績評価の方法 学期末に行う定期試験（100％）で評価する。詳細については最初の授業で説明する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW361J		
民法（契約）Ⅰ		都筑 満雄
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、債権各論中の契約の章、いわゆる契約法を学ぶ。契約は民法の最も重要な構成要素であり、この授業ではこの契約の中心的なルールを学習することになる。また、この契約法は2020年より施行されている民法（債権関係）改正によって大きく改正された領域である。この授業では改正された契約法の契約総論と契約各論中の売買について講義をする。 改正された契約法の基本的な仕組みと、可能であれば、発展的な議論を理解してもらうことがこの講義の目的である。		
2. 授業内容 第1回：契約法の位置づけ・契約の種類 第2回：契約自由の原則・定型約款 第3回：契約の成立 第4回：契約の効力① 第5回：契約の効力② 第6回：契約の効力③ 第7回：契約の解除① 第8回：契約の解除② 第9回：複合契約 第10回：売買① 第11回：売買② 第12回：売買③ 第13回：売買④ 第14回：売買⑤・贈与 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法と教科書を持参する。 毎回の授業の前日までに ohmeiji システム上にレジュメをアップするので、これをプリントアウトするなどして授業に持参されたい。 レジュメを基に授業を行うが、予習または復習として教科書を読んで欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前に教科書を読む。 授業後にレジュメおよび参考書を読んで理解を深める。		
5. 教科書 松井和彦・岡本裕樹・都筑満雄『NBS 契約法〔第2版〕』（日本評論社）		
6. 参考書 『民法判例百選Ⅱ 債権〔第9版〕』（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験等の後、ohmeiji システムを通じて解説を配布する。		
8. 成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW361J		
民法（契約）Ⅱ		都筑 満雄
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、債権各論中の契約の章、いわゆる契約法を学ぶ。契約は民法の最も重要な構成要素であり、この授業ではこの契約の中心的なルールを学習することになる。また、この契約法は2020年から施行されている民法（債権関係）改正によって大きく改正された領域である。この授業では改正された契約法の売買を除く契約各論の規定について講義をする。 改正された契約法の基本的な仕組みと、可能であれば、発展的な議論を理解してもらうことがこの講義の目的である。		
2. 授業内容 第1回：消費貸借① 第2回：消費貸借② 第3回：賃貸借① 第4回：賃貸借② 第5回：賃貸借③ 第6回：賃貸借④ 第7回：賃貸借⑤ 第8回：賃貸借⑥ 第9回：使用貸借・役務提供型契約 第10回：請負 第11回：委任 第12回：雇用 第13回：寄託 第14回：組合・和解 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を持参する。 毎回の授業の前日までに ohomeiji システム上にレジュメをアップするので、これをプリントアウトするなどして授業に持参されたい。 レジュメを基に授業を行うが、予習または復習として教科書を読んで欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前に教科書を読む。 授業後にレジュメおよび参考書を読んで理解を深める。		
5. 教科書 松井和彦・岡本裕樹・都筑満雄『NBS 契約法〔第2版〕』（日本評論社）		
6. 参考書 『民法判例百選Ⅱ 債権〔第9版〕』（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験等の後、ohomeiji システムを通じて解説を配布する。		
8. 成績評価の方法 定期試験の成績で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民法（損害賠償）		中村 肇
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 1. 授業の概要 本講義では、民法第三編「債権」を扱う。「債権編」は講学上、「債権総論」と「債権各論」に分かれるが、本講義では、「債権各論」部分のうち「事務管理」「不当利得」「不法行為」について講義を行う。 「事務管理」「不当利得」「不法行為」は、民法第三編「債権」第三章から第五に該当し、法律上の要件を充足することによって債権が発生する法定債権(債務)関係が対象となる。関連条文数は多くないが、その解釈論による展開が大きく、判例を中心にした解釈論を理解することが必要になる。講義では、具体的な事例から説き起こし、取り上げている規定や規律がどのように問題となるかに留意することに努める。 2. 到達目標 (1)「事務管理」「不当利得」「不法行為」について、基本的な制度、概念等を理解している。 (2)具体的な事案が示された場合に、どのような制度がどのように問題となるかを理解し、結論を論理的に導きだすことができる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：損害賠償法序論 第2回：一般の不法行為1：不法行為の一般理論 第3回：一般の不法行為2：不法行為の要件1 第4回：一般の不法行為3：不法行為の要件2 第5回：一般の不法行為4：不法行為の要件3 第6回：一般の不法行為5：不法行為の効果1 第7回：一般の不法行為6：不法行為の効果2 第8回：特殊の不法行為1：他人の行為による責任 第9回：特殊の不法行為2：物に基づく責任 第10回：特殊の不法行為3：共同不法行為1 第11回：特殊の不法行為4：共同不法行為2 第12回：不当利得1 第13回：不当利得2・事務管理 第14回：全体まとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義には、必ず六法を持ってくること。 民法の各部分は関連しているため、事務管理、不当利得、不法行為以外の民法科目、とりわけ、財産法部分（民法総則、物権法、担保物権法、債権総論、契約）に関しては、履修済みであるか、現在履修中であることが望ましい。 講義の内容は膨大な情報量になることが予想されるため、自習(特に復習)を実行することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義用レジュメを0h-Meiji!上配布する予定であるので、授業計画に沿って、これらを用いて予習復習をすることが望ましい。 予習では、講義用レジュメを見ながら、適宜引用されている関連条文について目を通すこと。 復習では、講義用レジュメを参考にしつつ、講義の内容を踏まえて、教科書や参考書を参照して講義の内容を再現できるように復習をすること。		
5. 教科書 滝沢昌彦ほか『新ハイブリッド民法4(債権各論)』（法律文化社、2018年） 講義は、主に講義レジュメに沿って行うが適宜教科書も参照する。定評のある教科書であればそちらを使用しても構わない。授業では指定教科書を参照するとどめるので、自分で該当箇所がどの部分に記述されているのか把握しておくこと。		
6. 参考書 講義案等で参照することが多い判例教材として 『民法判例百選Ⅱ（債権）（第9版）』（有斐閣、2023年）を挙げておく。 その他に判例教材として 『新・判例ハンドブック民法(債権法Ⅱ)』 わかりやすいテキストとして 藤岡康宏ほか『Sシリーズ民法Ⅳ債権各論(第5版)』（有斐閣、2023年） 吉村良一『不法行為法(第6版)』（有斐閣、2022年）を挙げておく。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 2回か3回の小テストを予定しているが、提出期間終了後、0h-o!Meiji!上で考え方のポイントを公開する。定期試験については、試験期間終了後、解答のポイントを0h-o!Meiji!上に公開する。		
8. 成績評価の方法 小テスト 30% 定期試験 70%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW361J		
民法（損害賠償）		亀田 浩一郎
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の到達目標及びテーマ≫ 契約違反や事故等によって損害が発生した場合に、加害者（契約違反者）は被害者に対してその損害を賠償する責任を負う。このような損害賠償に関して、民法は、契約関係がある場合の債務不履行制度と契約関係がない場合の不法行為制度を用意している。本講義は、これら民法（特別法も含む）上の損害賠償制度につき、各制度についての基礎知識を習得するとともに、損害賠償に関する民法の全体像を理解してもらうことを目的とする。 ≪授業の概要≫ 範囲は、①民法の債権法のうち事務管理、不当利得、不法行為および債務不履行に基づく損害賠償の部分、ならびに②主要な不法行為特別法を対象とする。講義の大半を占める不法行為については、判例を随時紹介しながら、民法における基礎理論を中心に講義を行う。特別法については、立法趣旨を含めた民法との違いを重点に置き講義を行う。		
2. 授業内容 第1回：bのみ：イントロダクション（損害賠償法の意義・民法における位置づけ） 第2回：不法行為制度の目的 第3回：一般的不法行為の要件①（故意・過失） 第4回：一般的不法行為の要件②（違法性） 第5回：一般的不法行為の要件③（因果関係ほか） 第6回：不法行為の効果①（損害賠償・差止ほか） 第7回：不法行為の効果②（損害賠償の範囲・算定ほか） 第8回：不法行為の効果③（損害賠償請求権の法律関係） 第9回：特殊的不法行為①（責任無能力者の監督者の責任、使用者責任） 第10回：特殊的不法行為②（公権力行使責任、運行供用者責任、注文者の責任、動物占有者の責任） 第11回：特殊的不法行為③（工作物責任、营造物責任、製造物責任） 第12回：特殊的不法行為④（共同不法行為） 第13回：契約責任と不法行為責任 第14回：事務管理・不当利得 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 『六法』（最新のもの）は必ず持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受ける前に、あらかじめその回のテーマについて教科書等を読んで予習しておくこと。特に分からない点がどこか事前に知っておくことが重要である。		
5. 教科書 特に指定はしない。自分が気に入ったものがあればそれを使用してもかまわない。推薦図書として、中原＝根本＝山本『民法6』（有斐閣）、吉村良一『不法行為法』（有斐閣）、近江幸治『民法講義VI』（成文堂）を挙げておく。		
6. 参考書 授業中にその都度紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 定期試験のみで評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（親族）Ⅰ		星野 茂
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 家族法に関する基礎的な知識を修得してもらうと同時にリーガルマインドを身に付けてもらうことを目標とする。 本講座では、親族法に関する総論、夫婦に関する法律、親子に関する法律を中心に概観する。 夫婦に関する法律では、婚約、婚姻(婚姻の成立要件、婚姻の一般的効果、婚姻の財産的效果)、離婚(離婚の成立要件、離婚の一般的効果、離婚の財産的效果)、内縁・事実婚等について勉強していくつもりである。なお、同棲カップルの婚姻についても言及する予定である。 また、親子に関する法律では、親子法総論、嫡出親子関係等について勉強することとし、残りの部分については秋学期の授業で勉強することとする。		
2. 授業内容 春学期における授業内容は以下の通りであるが、これはあくまでも予定であるので、場合によっては変更の可能性もある。 (1) イントロダクション（本講座について。家族法とは。家族法の構成とその特徴） (2) 親族法総論（親族とは） (3) 婚約（婚約とは。婚約の成立。婚約の効果。婚約の不当破棄。結納） (4) 婚姻総論、婚姻の成立要件(その1)。 (5) 婚姻の成立要件(その2) (6) 婚姻の一般的効果 (7) 婚姻の財産的效果(その1) (8) 婚姻の財産的效果(その2) (9) 離婚総論、離婚の歴史。 (10) 離婚の種類と成立 (11) 離婚の一般的効果(その1) (12) 離婚の一般的効果(その2) (13) 離婚の財産的效果(その1) (14) 離婚の財産的效果(その2) * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義当日は、基本書のほか六方とノートを持参すること。 なお、授業中におけるスマートフォンの使用、私語は禁止する。また、授業中に飲食することも禁止する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 基本書を中心に講義を行う予定の箇所を勉強してくること。		
5. 教科書 特に指定しないが、自分の気に入ったものを購入してよい。 ただ、授業の際に基本書について解説する。		
6. 参考書 授業の際に指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内容(板書を含む)をテキストで復習しておくこと。		
8. 成績評価の方法 平常点 30%、期末試験の成績 70%で成績を評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（親族）Ⅱ		星野 茂
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 家族は、社会の単位として最も身近で、最も基本的なものである。そうした家族については、その自律性が尊重される。そのため、国家はできるかぎり家族への介入を控えることになる（いわゆる「法は家庭に入らず」）。しかし、その一方で、当事者だけでは解決できないような問題が生じることも否定できない。このような問題に対しては、国家はむしろ積極的に介入し、当事者間の平等・弱者保護を基本に問題解決を図ろうとする。家族法（親族）は、こうした問題解決の基本的な指針となるものである。本講座では、家族法の基本的な知識を修得しながら、様々な法律問題について検討するものである。 秋学期Ⅱでは、親子、親権・後見をめぐる問題や扶養をめぐる問題についてとりあげる。特に、今日問題となっている、生殖補助医療や成年後見制度をめぐる法的諸問題について講義する。		
2. 授業内容 第1回：親子（1）―実親子関係[1] 親子法序説― 第2回：親子（2）―実親子関係[2] 嫡出親子関係（生来の嫡出子）― 第3回：親子（3）―実親子関係[3] 嫡出親子関係（推定の及ばない子、準正嫡出子）― 第4回：親子（4）―実親子関係[4] 非嫡出親子関係（親子関係の発生） 第5回：親子（5）―実親子関係[5] 非嫡出親子関係（認知をめぐる問題） 第6回：親子（6）―実親子関係[6] 生殖補助医療と親子関係― 第7回：親子（7）―養親子関係[1] 普通養子― 第8回：親子（8）―養親子関係[2] 特別養子― 第9回：親権（1）―親権に服する子、親権の行使― 第10回：親権（2）―親権の内容（身上監護）― 第11回：親権（3）―親権の内容（財産管理と代表、親権の喪失）― 第12回：後見（1）―未成年後見― 第13回：後見（2）―成年後見― 第14回：扶養 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業にただ出席するというのではなく、十分な予習と復習をしたうえで授業に出席してほしい。法学部を卒業して社会に出たときに役に立つような事柄（？）が多いので、しっかりと学習してほしい。授業に出席する際には、六法と教科書を必ず持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受ける場合、あらかじめ教科書等で該当する項目について予習しておくこと。		
5. 教科書 特に指定しないが、自分の使いやすいものを使用してよい。 ただ、授業のはじめに基本書について解説する。		
6. 参考書 特に指定しないが、各自必要と思われるものを読んでおくこと（『民法判例百選Ⅲ（親族・相続）』（有斐閣）などは具体的な問題の理解に役立つものと思われる）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中における講義内容（板書を含む）について、テキスト等で復習しておくこと。		
8. 成績評価の方法 平常点を30%、期末試験の成績を70%の割合で成績を評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（親族）Ⅰ		渡邊 泰彦
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 民法第4編親族編の前半部分として、夫婦、カップルの問題を中心に、実親子関係の成立も対象とする。なお、離婚の効果のうち、未成年の子に関する部分については、民法（親族）IIにおいて親権に続いて扱う。 親族編では、大枠のみを示して、詳細は判例・実務に委ねている規定が多い。そのため、基本的な判決（決定）理由を示しながら説明することが多くなる。 授業内容で示している親族編の前半部分に関して、基本的な構造を理解し、具体的な事案に対応できる能力（簡単な法律相談に答えることができる知識）を身につけることを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、親族編概説、親族関係 第2回：婚約、婚姻の成立(1) 第3回：婚姻の成立(2)、無効など 第4回：婚姻の効果(同居協力扶助義務、氏など) 第5回：婚姻の効果(夫婦財産制) 第6回：協議離婚 第7回：裁判離婚 第8回：離婚の効果(財産分与) 第9回：内縁 第10回：性別 第11回：同性カップルと婚姻・パートナーシップ 第12回：親子関係概説、嫡出推定 第13回：嫡出否認 第14回：認知 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 令和6年改正(令和8年施行予定)の民法の規定をもとに講義を行う。改正法に関する資料については指示するか、配布する予定。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、配付資料をもとにして、基本的な条文を読み、概念を理解する。次の段階として、配付資料に掲載している判例を読む。復習として、資料・教科書を読み直すことで講義内容の理解を深める。		
5. 教科書 青竹美佳・渡邊泰彦・鹿野菜穂子・西希代子・冷水登紀代・宮本誠子著『新ハイブリッド民法5 家族法〔第2版〕』法律文化社		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義、Oh-o! Meiji で対応する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、小テスト 30%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（親族）Ⅱ		渡邊 泰彦
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 民法第4編親族編の前半部分として、親子関係、親権、成年後見を中心に扱う。親権などについては、令和8年までに施行予定の民法改正の内容を扱う予定。成年後見については、法制審議会民法(成年後見等関係)部会において民法改正に向けての作業が行われていることから、その内容についても可能な限りで説明しながら進めていきたい。 授業内容で示している親族編の後半部分に関して、基本的な構造を理解し、具体的な事案に対応できる能力(簡単な法律相談に答えることができる知識)を身につけることを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：生殖補助医療(1) 第2回：生殖補助医療(2) 第3回：普通養子縁組 第4回：特別養子縁組、里親 第5回：同性カップルと親子関係 第6回：親の責任、親権(概説、身上監護権) 第7回：離婚後の親権・監護権 第8回：親子交流 第9回：養育費 第10回：親権(財産管理権、親権喪失) 第11回：成年後見(1) 第12回：成年後見(2) 第13回：扶養 第14回：氏名・戸籍、家事手続概要 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 令和6年改正(令和8年施行予定)の民法の規定をもとに講義を行う。改正法に関する資料については指示するか、配布する予定。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、配付資料をもとにして、基本的な条文を読み、概念を理解する。次の段階として、配付資料に掲載している判例を読む。復習として、資料・教科書を読み直すことで講義内容の理解を深める。		
5. 教科書 青竹美佳・渡邊泰彦・鹿野菜穂子・西希代子・冷水登紀代・宮本誠子著『新ハイブリッド民法5 家族法〔第2版〕』法律文化社		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義、Oh-o! Meiji で対応する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、小テスト 30%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（親族）Ⅰ		星野 茂
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 家族法に関する基礎的な知識を修得してもらうと同時にリーガルマインドを身に付けてもらうことを目標とする。 本講座では、親族法に関する総論、夫婦に関する法律、親子に関する法律を中心に概観する。 夫婦に関する法律では、婚約、婚姻(婚姻の成立要件、婚姻の一般的効果、婚姻の財産的效果)、離婚(離婚の成立要件、離婚の一般的効果、離婚の財産的效果)、内縁・事実婚等について勉強していくつもりである。なお、同棲カップルの婚姻についても言及する予定である。 また、親子に関する法律では、親子法総論、嫡出親子関係等について勉強することとし、残りの部分については秋学期の授業で勉強することとする。		
2. 授業内容 春学期における授業内容は以下の通りであるが、これはあくまでも予定であるので、場合によっては変更の可能性もある。 (1) イントロダクション（本講座について。家族法とは。家族法の構成とその特徴） (2) 親族法総論（親族とは） (3) 婚約（婚約とは。婚約の成立。婚約の効果。婚約の不当破棄。結納） (4) 婚姻総論、婚姻の成立要件(その1)。 (5) 婚姻の成立要件(その2) (6) 婚姻の一般的効果 (7) 婚姻の財産的效果(その1) (8) 婚姻の財産的效果(その2) (9) 離婚総論、離婚の歴史。 (10) 離婚の種類と成立 (11) 離婚の一般的効果(その1) (12) 離婚の一般的効果(その2) (13) 離婚の財産的效果(その1) (14) 離婚の財産的效果(その2) * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義当日は、基本書のほか六方とノートを持参すること。 なお、授業中におけるスマートフォンの使用、私語は禁止する。また、授業中に飲食することも禁止する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 基本書を中心に講義を行う予定の箇所を勉強してくること。		
5. 教科書 特に指定しないが、自分の気に入ったものを購入してよい。 ただ、授業の際に基本書について解説する。		
6. 参考書 授業の際に指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内容(板書を含む)をテキストで復習しておくこと。		
8. 成績評価の方法 平常点 30%、期末試験の成績 70%で成績を評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
民法（親族）Ⅱ		星野 茂
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 家族は、社会の単位として最も身近で、最も基本的なものである。そうした家族については、その自律性が尊重される。そのため、国家はできるかぎり家族への介入を控えることになる（いわゆる「法は家庭に入らず」）。しかし、その一方で、当事者だけでは解決できないような問題が生じることも否定できない。このような問題に対しては、国家はむしろ積極的に介入し、当事者間の平等・弱者保護を基本に問題解決を図ろうとする。家族法（親族）は、こうした問題解決の基本的な指針となるものである。本講座では、家族法の基本的な知識を修得しながら、様々な法律問題について検討するものである。 秋学期Ⅱでは、親子、親権・後見をめぐる問題や扶養をめぐる問題についてとりあげる。特に、今日問題となっている、生殖補助医療や成年後見制度をめぐる法的諸問題について講義する。		
2. 授業内容 第1回：親子（1）―実親子関係[1] 親子法序説― 第2回：親子（2）―実親子関係[2] 嫡出親子関係（生来の嫡出子）― 第3回：親子（3）―実親子関係[3] 嫡出親子関係（推定の及ばない子、準正嫡出子）― 第4回：親子（4）―実親子関係[4] 非嫡出親子関係（親子関係の発生） 第5回：親子（5）―実親子関係[5] 非嫡出親子関係（認知をめぐる問題） 第6回：親子（6）―実親子関係[6] 生殖補助医療と親子関係― 第7回：親子（7）―養親子関係[1] 普通養子― 第8回：親子（8）―養親子関係[2] 特別養子― 第9回：親権（1）―親権に服する子、親権の行使― 第10回：親権（2）―親権の内容（身上監護）― 第11回：親権（3）―親権の内容（財産管理と代表、親権の喪失）― 第12回：後見（1）―未成年後見― 第13回：後見（2）―成年後見― 第14回：扶養 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業にただ出席するというのではなく、十分な予習と復習をしたうえで授業に出席してほしい。法学部を卒業して社会に出たときに役に立つような事柄（？）が多いので、しっかりと学習してほしい。授業に出席する際には、六法と教科書を必ず持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受ける場合、あらかじめ教科書等で該当する項目について予習しておくこと。		
5. 教科書 特に指定しないが、自分の使いやすいものを使用してよい。 ただ、授業のはじめに基本書について解説する。		
6. 参考書 特に指定しないが、各自必要と思われるものを読んでおくこと（『民法判例百選Ⅲ（親族・相続）』（有斐閣）などは具体的な問題の理解に役立つものと思われる）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中における講義内容（板書を含む）について、テキスト等で復習しておくこと。		
8. 成績評価の方法 平常点を30%、期末試験の成績を70%の割合で成績を評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民法（相続）		星野 茂
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 家族は、社会の単位として最も身近で、最も基本的なものである。そうした家族については、その自律性が尊重される。そのため、国家はできるかぎり家族への介入を控えることになる（いわゆる「法は家庭に入らず」）。しかし、その一方で、当事者だけでは解決できないような問題が生じることも否定できない。このような問題に対しては、国家はむしろ積極的に介入し、当事者間の平等・弱者保護を基本に問題解決を図ろうとする。家族法（相続法）は、こうした問題解決の基本的な指針となるものである。本講座では、家族法の基本的な知識を修得しながら、様々な法律問題について検討するものである。 本講座では、決定相続の制度のほか、これから注目されるであろう遺言の制度について講義する。		
2. 授業内容 第1回：相続法序説 第2回：相続人（1） 第3回：相続人（2）―相続欠格と相続人の廃除― 第4回：相続財産（1）―相続できない財産― 第5回：相続財産（2）―動産と不動産― 第6回：相続財産（3）―債権・債務の相続― 第7回：相続財産（4）―無権代理と共同相続その他― 第8回：相続分（1）―法定相続分と指定相続分― 第9回：相続分（2）―特別受益と寄与分― 第10回：相続の承認と放棄・相続回復請求権 第11回：遺産分割・相続人の不存在 第12回：遺言（1） 第13回：遺言（2） 第14回：遺留分 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業にただ出席するということではなく、十分な予習と復習をしたうえで授業に出席してほしい。法学部を卒業して社会に出たときに役に立つような事柄（？）が多いので、しっかりと学習してほしい。なお、授業に出席する際には、六法と教科書を必ず持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受ける場合、あらかじめ教科書等で該当する項目について予習しておくこと。		
5. 教科書 『親族・相続法（第3版）』犬伏由子・石井美智子他（弘文堂）		
6. 参考書 特に指定しないが、各自必要と思われるものを読んでおくこと（『民法判例百選Ⅲ（親族・相続）』（有斐閣）などは具体的な問題の理解に役立つものと思われる）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の内容（板書を含む）およびノートを基本に、テキスト等を参考にして学習した箇所を復習しておくこと。 不明な点については次回の授業の際に質問してください。		
8. 成績評価の方法 定期試験の成績等をみて評価する予定。 平常点も30%考慮する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民法（相続）		渡邊 泰彦
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 民法第5編相続について、法定相続、遺言を中心に扱う。2019年の相続法改正の後も、民法の共有の規定・不動産登記法の改正にともない、相続法の内容は変わってきている。また、デジタル遺言の導入に向けて法制審議会民法（遺言関係）部会において検討が進んでいる分野でもある。最新の動向については、時間の許す限りで取り入れて、授業を進めていきたい。 相続法に関して、基本的な構造を理解し、具体的な事案に対応できる能力（簡単な法律相談に答えることができる知識）を身につけることを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：相続法概説、法定相続人 第2回：法定相続人(2)、法定相続分 第3回：相続欠格・廃除、相続回復請求 第4回：相続の承認と放棄、相続人の不存在 第5回：相続の対象・遺産承継 第6回：遺産共有 第7回：相続分(指定相続分、具体的相続分(1)) 第8回：具体的相続分(2)、遺産分割協議 第9回：遺言の方式、撤回 第10回：遺贈、特定財産承継遺言 第11回：相続と登記 第12回：配偶者居住権 第13回：遺留分(1) 第14回：遺留分(2)、特別の寄与 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、配付資料をもとにして、基本的な条文を読み、概念を理解する。次の段階として、配付資料に掲載している判例を読む。復習として、資料・教科書を読み直すことで講義内容の理解を深める。		
5. 教科書 青竹美佳・渡邊泰彦・鹿野菜穂子・西希代子・冷水登紀代・宮本誠子著『新ハイブリッド民法5 家族法〔第2版〕』法律文化社		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義、Oh-o! Meiji で対応する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、小テスト 30%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民法（家族法）Ⅰ		渡邊 泰彦
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 法務研究科を受験する学生のために設置されている講義であり、それ以外の一般の学生諸君は本講座を受講することはできないので注意すること。 民法（家族法）では、1 年間で親族法および相続法の概略を説明し、法律上の問題点について解説する。法務研究科では法学未修者が家族法（親族法・相続法）を1 セメスターで履修することになるが、本講義は2 セメスターで履修するカリキュラム設定になっている。 民法（家族法）Ⅰでは、親族編を扱う。民法（親族）Ⅰ、Ⅱとは異なり、受講者が十分に予習していることを前提として、判例理論の理解を中心に講義を進める。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス、婚約、婚姻の成立 第2回：婚姻の無効など、婚姻の効果(1) 第3回：婚姻の効果(2) 第4回：離婚(1) 第5回：離婚(2)、財産分与 第6回：内縁 第7回：嫡出推定、嫡出否認 第8回：認知 第9回：普通養子縁組 第10回：特別養子縁組、生殖補助医療 第11回：親の責任、親権(概説、身上監護権)、離婚後の親権・監護権 第12回：親子交流、養育費 第13回：親権(財産管理権)、親権停止、喪失、未成年後見 第14回：成年後見・扶養 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 令和6年改正(令和8年施行予定)の民法の規定をもとに講義を行う。改正法に関する資料については指示するか、配布する予定。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、配付資料をもとにして、基本的な条文を読み、概念を理解したうえで、配付資料に掲載している判例を読む。復習として、資料・教科書を読み直すことで講義内容の理解を深める。小テストを行う場合には、復習問題を中心とする。		
5. 教科書 青竹美佳・渡邊泰彦・鹿野菜穂子・西希代子・冷水登紀代・宮本誠子著『新ハイブリッド民法5 家族法〔第2版〕』法律文化社		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義、Oh-o! Meiji で対応する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、小テスト 30%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW361J		
民法（家族法）Ⅱ		渡邊 泰彦
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 法務研究科を受験する学生のために設置されている講義であり、それ以外の一般の学生諸君は本講座を受講することはできないので注意すること。 民法(家族法)では、1 年間で親族法および相続法の概略を説明し、法律上の問題点について解説する。法務研究科では法学未修者が家族法(親族法・相続法)を1 セメスターで履修することになるが、本講義は2 セメスターで履修するカリキュラム設定になっている。 民法(家族法)Ⅱ では、相続編を扱う。民法(相続)とは異なり、受講者が十分に予習していることを前提として、判例理論の理解を中心に講義を進める。		
2. 授業内容 第1回：相続法概説、法定相続人 第2回：法定相続人(2)、法定相続分 第3回：相続欠格・廃除、相続回復請求 第4回：相続の承認と放棄、相続人の不存在 第5回：相続の対象・遺産承継 第6回：遺産共有 第7回：相続分(指定相続分、具体的相続分(1)) 第8回：具体的相続分(2)、特別の寄与、遺産分割(1) 第9回：遺産分割(2) 第10回：遺言の方式、撤回 第11回：遺贈、特定財産承継遺言 第12回：遺言の執行、配偶者居住権 第13回：遺留分(1) 第14回：遺留分(2) ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 配付資料を中心に授業を進めていくため、指定教科書とは構成が違う部分もある。各回で参照する教科書の部分は指示する予定。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、配付資料をもとにして、基本的な条文を読み、概念を理解したうえで、配付資料に掲載している判例を読む。復習として、資料・教科書を読み直すことで講義内容の理解を深める。小テストを行う場合には、復習問題を中心とする。		
5. 教科書 青竹美佳・渡邊泰彦・鹿野菜穂子・西希代子・冷水登紀代・宮本誠子著『新ハイブリッド民法5 家族法〔第2版〕』法律文化社		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義、Oh-o! Meiji で対応する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、小テスト 30%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
行政法 A I		下川 環
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 高度情報化社会の急速な発展，地球的規模での環境問題の深刻化，少子高齢社会の到来，格差社会の進行，高度な生命科学の発達，エネルギーの原発依存など，これまで予想もできなかったような複雑かつ深刻な現代的問題が次々と生起している。このため，行政機関は，広範な専門技術的裁量権を行使してこのような新たな問題に迅速に対応する必要性に迫られている。行政法の核心は，行政権の行使が「国民の厳粛な信託によるもの」（憲法前文）であるという憲法原理を基本として，現代社会における行政の役割の重大性の認識の下に，行政機関による裁量権の適正な行使を確保し，民主的かつ公正・透明で国民に対して責任のとれる行政を実現するためには行政の過程をどのように統制すべきか，その統制の法理論を探究することにありと考える。 かかる観点に立つて，行政法 A I は，第 1 部「憲法理念と行政・行政法」のテーマの下に，権力分立制と行政権，憲法理念の転換と現代行政の特質，行政裁判法制度の歴史と公法・私法，行政事件と民事事件，憲法理念と行政法の基本原則などについて，具体的な事例と関連づけながらその基本的な仕組みを理解したうえで，その争点に関する（最高裁判例を中心とする）判例及び学説の検討を通じて，行政法の基礎理論及び行政法上の問題を解決する能力の修得を到達目標とする。		
2. 授業内容 第 01 回：a：イントロダクション b：「憲法は滅び，行政法は存続する」？ 【第 1 部】 憲法理念と行政法 第 02 回：憲法理念と行政 第 03 回：憲法理念と行政法—明治憲法下の行政国家と行政法 第 04 回：憲法理念と行政法—日本国憲法下の司法国家と行政法（1） 第 05 回：憲法理念と行政法—日本国憲法下の司法国家と行政法（2） 第 06 回：憲法理念と行政法—日本国憲法下の司法国家と行政法（3） 第 07 回：憲法理念と行政法—日本国憲法下の司法国家と行政法（4） 第 08 回：憲法理念と行政法—日本国憲法下の司法国家と行政法（5） 第 09 回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（1） 第 10 回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（2） 第 11 回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（3） 第 12 回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（4） 第 13 回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（5） 第 14 回：憲法理念と行政法—行政法の憲法的価値への回帰 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 （1）開講前に Oh-o!Meiji クラスウェブにおいて，スケジュール，講義の概要，履修上のマナー・ルールを公開しておりますので，必ず見ておいて下さい。また，事前に Oh-o!Meiji クラスウェブにおいて，プリント（講義ノート・資料）を公開しますので，プリント・アウトし，できる限り予習したうえで受講して下さい。 （2）行政法 A，行政法 B，地方自治・公務員法をセットで履修していただきたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に Oh-o!Meiji クラスウェブにおいて，講義の範囲と内容についてお知らせしておりますので，できる限り予習をしたうえで受講して下さい。また，記憶が新鮮なうちに，ノート整理等を行って体系的理解に努めて下さい。		
5. 教科書 一般的な教科書は特に指定しませんが，高橋滋ほか編著『行政法 Visual Materials（第 2 版）』（有斐閣，2020 年），判例集としては，斎藤誠・山本隆司編『行政判例百 I・II（第 8 版）』（有斐閣，2022 年）を使用します。		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験後に，全体的な評価をした上で正解率の低い問題については解説します。		
8. 成績評価の方法 （1）定期試験 100 点満点（正誤式 30 問 60 点，記述式 2 問 40 点）で評価します。定期試験では，「（100%）自製の手書きノート」のみの持込みを許可します。 （2）記述式については，10 点未満を欠格点とします。欠格点がある場合には，たとえ得点が 60 点以上であっても評価は「F（不合格）」となりますので，注意して下さい。		
9. その他 公務員，法科大学院進学を志望する方は，行政法を必ず修得しておく必要がありますので，是非履修していただきたい。		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
行政法 A II		下川 環
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 高度情報化社会の急速な発展，地球的規模での環境問題の深刻化，少子高齢社会の到来，格差社会の進行，高度な生命科学の発達，エネルギーの原発依存など，これまで予想もできなかったような複雑かつ深刻な現代的問題が次々と生起している。このため，行政機関は，広範な専門技術的裁量権を行使してこのような新たな問題に迅速に対応する必要性に迫られている。行政法の核心は，行政権の行使が「国民の厳粛な信託によるもの」（憲法前文）であるという憲法原理を基本として，現代社会における行政の役割の重大性の認識の下に，行政機関による裁量権の適正な行使を確保し，民主的かつ公正・透明で国民に対して責任のとれる行政を実現するためには行政の過程をどのように統制すべきか，その統制の法理論を探究することにありと考える。 かかる観点に立つて，行政法 A II は，第 2 部「民主的責任行政の法的過程と透明性・アカウンタビリティ」のテーマの下に，行政組織，情報公開・公文書管理，行政立法，行政計画，行政行為などについて，具体的な事例と関連づけながらその基本的な仕組みを理解したうえで，その争点に関する（最高裁判例を中心とする）判例及び学説の検討を通じて，行政法の基礎理論及び行政法上の問題を解決する能力の修得を到達目標とする。		
2. 授業内容 【第 2 部】 民主的責任行政の法的過程 第 01 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と組織（1） 第 02 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と組織（2） 第 03 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と情報：情報公開・公文書管理（1） 第 04 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と情報：情報公開・公文書管理（2） 第 05 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と情報：情報公開・公文書管理（3） 第 06 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：行政立法（1） 第 07 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：行政立法（2） 第 08 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：行政立法（3） 第 09 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：【補論】行政規則 第 10 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と計画策定：行政計画（1） 第 11 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と計画策定：行政計画（2） 第 12 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政行為（1） 第 13 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政行為（2） 第 14 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政行為（3） （行政法 B へ続く） * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 （1）開講前に Oh-o!Meiji クラスウエブにおいて，スケジュール，講義の概要，履修上のルールを公開しておきますので，必ず見ておいて下さい。また，事前に Oh-o!Meiji クラスウエブにおいて，プリント（講義ノート・資料）を公開しますので，プリント・アウトし，できる限り予習したうえで受講して下さい。 （2）行政法 A，行政法 B，地方自治・公務員法をセットで履修していただきたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に Oh-o!Meiji クラスウエブにおいて，講義の範囲と内容についてお知らせしておきますので，できる限り予習をしたうえで受講して下さい。また，記憶が新鮮なうちに，ノート整理等を行って体系的理解に努めて下さい。		
5. 教科書 一般的な教科書は特に指定しませんが，高橋滋ほか編著『行政法 Visual Materials（第 2 版）』（有斐閣，2020 年），判例集としては，斎藤誠・山本隆司編『行政判例百選 I・II（第 8 版）』（有斐閣，2022 年）を使用します。		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験後に，全体的な評価をした上で正解率の低い問題については解説します。		
8. 成績評価の方法 （1）定期試験 100 点（正誤式 30 問 60 点，記述式 2 問 40 点）で評価します。定期試験では，「（100%）自製の手書きノート」のみの持込みを許可します （2）記述式については，10 点未満を欠格点とします。欠格点がある場合には，たとえ得点が 60 点以上であっても評価は「F（不合格）」となりますので，注意して下さい。		
9. その他 公務員，法科大学院進学を志望する者は，行政法を必ず修得しておく必要がありますので，是非履修していただきたい。		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
行政法 A I		横田 明美
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 安心して暮らせる社会秩序を保つために、法律によって行政機関に様々な権限が与えられている。多種多様な行政活動とそれを根拠付ける法律の背景にある考え方をまとめた「行政法総論」を講義する。 【到達目標】 行政機関が私たちに対し行う働きかけについて、どのような基本原則があるのかを理解する。行政と市民とのフェアな関係を構築するルールや社会問題を解決するための制度設計の方法を考える力をつける。行政法の基本概念を理解し、その相互関係についても説明できるようになる。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション（行政法学の出発点） 第2回：行政法の基本構造（1） 第3回：行政法の基本構造（2） 第4回：行政法の一般原則（1） 第5回：行政法の一般原則（2）・判例百選の読み方 第6回：ルールのいろいろ（1） 第7回：ルールのいろいろ（2）・法令の調べ方 第8回：行政組織（1）国と地方の行政組織 第9回：行政組織（2）組織内の関係 第10回：行政過程の全体像 第11回：行政行為（1）定義、種類 第12回：行政行為（2）行政裁量 第13回：行政行為（3）行政行為の効力・瑕疵 第14回：講義のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 憲法を履修済みか、同時受講することが望ましい。 民法の契約法についても同様である。 行政法 A II と連続受講することを強く推奨する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 行政法では、一つの学習項目と他の学習項目との関連性が強いいため、ひとつの教科書を「何周も」巡るような段階的な学習が不可欠となる。そのため、本講義では、概略から詳細へ、段階的に学べるように工夫している。「概観」を経てから本論に入るというかたちで同じキーワードが出てくるのはそのためである。 講義の予習としては第1回講義資料において指定する教科書対応箇所の通読と、毎回事前配布されるレジメのダウンロード（必要に応じ印刷）が必要となる。復習としては、授業自体の復習だけでなく、適切な「まとめノート」の作成により、段階的学習で得た知見を自らの知識として活用できる形にすることが求められる。		
5. 教科書 『入門行政法』正木宏長・板垣勝彦・横田明美・海道俊明（有斐閣） 『行政判例百選Ⅰ（第8版）』齋藤誠・山本隆司（編）（有斐閣） なお、学修用六法も毎回持参すること。		
6. 参考書 『カフェパウゼで法学を』横田明美（弘文堂） 『法学学習 Q&A』横田明美・小谷昌子・堀田周吾（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 随時行うミニテストについては、教室内で講評を行うほか、個別の質問を受け付ける。 期末試験については、採点后～学期終了までの間に講評を配布し、そのうえで個別の質問を受け付ける。		
8. 成績評価の方法 期末試験（100％）による。期末試験の形式については、遅くとも第3回までに例示とともに説明する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW221J		
行政法 A II		横田 明美
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 安心して暮らせる社会秩序を保つために、法律によって行政機関に様々な権限が与えられている。行政法 A I に引き続き、多種多様な行政活動とそれを根拠付ける法律の背景にある考え方をまとめた「行政法総論」を講義する。 【到達目標】 行政機関が私たちに対し行う働きかけについて、どのような基本原則があるのかを理解する。行政と市民とのフェアな関係を構築するルールや社会問題を解決するための制度設計の方法を考える力をつける。行政法の基本概念を理解し、その相互関係についても説明できるようになる。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：行政の行為形式論復習（行政法 A I の期末試験講評に対する質疑を含む） 第 2 回：行政指導・行政契約 第 3 回：行政指導をめぐる判例 第 4 回：行政基準 第 5 回：行政計画 第 6 回：行政手続（1）処分の手続 第 7 回：行政手続（2）命令策定過程 第 8 回：行政手続（3）行政基準・行政手続に関する判例 第 9 回：行政の実効性履行確保と制裁（概論） 第 10 回：行政の実効性履行確保（1） 第 11 回：行政の実効性確保（2） 第 12 回：行政上の制裁・「新しい手法」 第 13 回：事例問題を解いてみよう 第 14 回：講義全体のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 憲法を履修済みか、同時受講することが望ましい。 民法の契約法についても同様である。 行政法 A I と連続受講することを前提とする。もし未履修の場合は、指定教科書で適宜自学することが求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 行政法では、一つの学習項目と他の学習項目との関連性が強いいため、ひとつの教科書を「何周も」巡るような段階的な学習が不可欠となる。そのため、本講義では、概略から詳細へ、段階的に学べるように工夫している。「概観」を経てから本論に入るというかたちで同じキーワードが出てくるのはそのためである。 講義の予習としては第 1 回講義資料において指定する教科書対応箇所の通読と、毎回事前配布されるレジュメのダウンロード（必要に応じ印刷）が必要となる。復習としては、授業自体の復習だけでなく、適切な「まとめノート」の作成により、段階的学習で得た知見を自らの知識として活用できる形にすることが求められる。		
5. 教科書 『入門行政法』正木宏長・板垣勝彦・横田明美・海道俊明（有斐閣） 『行政判例百選 I（第 8 版）』齋藤誠・山本隆司（編）（有斐閣） なお、学修用六法も毎回持参すること。		
6. 参考書 『カフェパウゼで法学を』横田明美（弘文堂） 『法学学習 Q&A』横田明美・小谷昌子・堀田周吾（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 随時行うミニテストについては、教室内で講評を行うほか、個別の質問を受け付ける。 期末試験については、採点後～学期終了までの間に講評を配布し、そのうえで個別の質問を受け付ける。		
8. 成績評価の方法 期末試験（100％）による。期末試験の形式については、第 1 回講義で説明する。		
9. その他 当日の突発的な連絡等は教員の Twitter アカウント（@akmykt）でも告知する。 初回講義は行政法 A I の期末試験講評を含むため、行政法 A I 受講者は、期末試験問題と講評を持参すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
行政法 A I		下川 環
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 高度情報化社会の急速な発展，地球的規模での環境問題の深刻化，少子高齢社会の到来，格差社会の進行，高度な生命科学の発達，エネルギーの原発依存など，これまで予想もできなかったような複雑かつ深刻な現代的問題が次々と生起している。このため，行政機関は，広範な専門技術的裁量権を行使してこのような新たな問題に迅速に対応する必要性に迫られている。行政法の核心は，行政権の行使が「国民の厳粛な信託によるもの」（憲法前文）であるという憲法原理を基本として，現代社会における行政の役割の重大性の認識の下に，行政機関による裁量権の適正な行使を確保し，民主的かつ公正・透明で国民に対して責任のとれる行政を実現するためには行政の過程をどのように統制すべきか，その統制の法理論を探究することにありと考える。 かかる観点に立つて，行政法 A I は，第 1 部「憲法理念と行政・行政法」のテーマの下に，権力分立制と行政権，憲法理念の転換と現代行政の特質，行政裁判法制度の歴史と公法・私法，行政事件と民事事件，憲法理念と行政法の基本原則などについて，具体的な事例と関連づけながらその基本的な仕組みを理解したうえで，その争点に関する（最高裁判例を中心とする）判例及び学説の検討を通じて，行政法の基礎理論及び行政法上の問題を解決する能力の修得を到達目標とする。		
2. 授業内容 第 01 回：a：イントロダクション b：「憲法は減び，行政法は存続する」？ 【第 1 部】 憲法理念と行政法 第 02 回：憲法理念と行政 第 03 回：憲法理念と行政法—明治憲法下の行政国家と行政法 第 04 回：憲法理念と行政法—日本国憲法下の司法国家と行政法（1） 第 05 回：憲法理念と行政法—日本国憲法下の司法国家と行政法（2） 第 06 回：憲法理念と行政法—日本国憲法下の司法国家と行政法（3） 第 07 回：憲法理念と行政法—日本国憲法下の司法国家と行政法（4） 第 08 回：憲法理念と行政法—日本国憲法下の司法国家と行政法（5） 第 09 回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（1） 第 10 回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（2） 第 11 回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（3） 第 12 回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（4） 第 13 回：憲法理念と行政法—行政事件と民事事件（5） 第 14 回：憲法理念と行政法—行政法の憲法的価値への回帰 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 （1）開講前に Oh-o!Meiji クラスウェブにおいて，スケジュール，講義の概要，履修上のマナー・ルールを公開しておりますので，必ず見ておいて下さい。また，事前に Oh-o!Meiji クラスウェブにおいて，プリント（講義ノート・資料）を公開しますので，プリント・アウトし，できる限り予習したうえで受講して下さい。 （2）行政法 A，行政法 B，地方自治・公務員法をセットで履修していただきたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に Oh-o!Meiji クラスウェブにおいて，講義の範囲と内容についてお知らせしておりますので，できる限り予習をしたうえで受講して下さい。また，記憶が新鮮なうちに，ノート整理等を行って体系的理解に努めて下さい。		
5. 教科書 一般的な教科書は特に指定しませんが，高橋滋ほか編著『行政法 Visual Materials（第 2 版）』（有斐閣，2020 年），判例集としては，斎藤誠・山本隆司編『行政判例百 I・II（第 8 版）』（有斐閣，2022 年）を使用します。		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験後に，全体的な評価をした上で正解率の低い問題については解説します。		
8. 成績評価の方法 （1）定期試験 100 点満点（正誤式 30 問 60 点，記述式 2 問 40 点）で評価します。定期試験では，「（100%）自製の手書きノート」のみの持込みを許可します。 （2）記述式については，10 点未満を欠格点とします。欠格点がある場合には，たとえ得点が 60 点以上であっても評価は「F（不合格）」となりますので，注意して下さい。		
9. その他 公務員，法科大学院進学を志望する方は，行政法を必ず修得しておく必要がありますので，是非履修していただきたい。		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
行政法 A II		下川 環
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 高度情報化社会の急速な発展，地球的規模での環境問題の深刻化，少子高齢社会の到来，格差社会の進行，高度な生命科学の発達，エネルギーの原発依存など，これまで予想もできなかったような複雑かつ深刻な現代的問題が次々と生起している。このため，行政機関は，広範な専門技術的裁量権を行使してこのような新たな問題に迅速に対応する必要性に迫られている。行政法の核心は，行政権の行使が「国民の厳粛な信託によるもの」（憲法前文）であるという憲法原理を基本として，現代社会における行政の役割の重大性の認識の下に，行政機関による裁量権の適正な行使を確保し，民主的かつ公正・透明で国民に対して責任のとれる行政を実現するためには行政の過程をどのように統制すべきか，その統制の法理論を探究することにあると考える。 かかる観点に立つて，行政法 A II は，第 2 部「民主的責任行政の法的過程と透明性・アカウンタビリティ」のテーマの下に，行政組織，情報公開・公文書管理，行政立法，行政計画，行政行為などについて，具体的な事例と関連づけながらその基本的な仕組みを理解したうえで，その争点に関する（最高裁判例を中心とする）判例及び学説の検討を通じて，行政法の基礎理論及び行政法上の問題を解決する能力の修得を到達目標とする。		
2. 授業内容 【第 2 部】 民主的責任行政の法的過程 第 01 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と組織（1） 第 02 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と組織（2） 第 03 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と情報：情報公開・公文書管理（1） 第 04 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と情報：情報公開・公文書管理（2） 第 05 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と情報：情報公開・公文書管理（3） 第 06 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：行政立法（1） 第 07 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：行政立法（2） 第 08 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：行政立法（3） 第 09 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と立法：【補論】行政規則 第 10 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と計画策定：行政計画（1） 第 11 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政と計画策定：行政計画（2） 第 12 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政行為（1） 第 13 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政行為（2） 第 14 回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政行為（3） （行政法 B へ続く） * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 （1）開講前に Oh-o!Meiji クラスウェブにおいて，スケジュール，講義の概要，履修上のマナー・ルールを公開しておきますので，必ず見ておいて下さい。また，事前に Oh-o!Meiji クラスウェブにおいて，プリント（講義ノート・資料）を公開しますので，プリント・アウトし，できる限り予習したうえで受講して下さい。 （2）行政法 A，行政法 B，地方自治・公務員法をセットで履修していただきたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に Oh-o!Meiji クラスウェブにおいて，講義の範囲と内容についてお知らせしておきますので，できる限り予習をしたうえで受講して下さい。また，記憶が新鮮なうちに，ノート整理等を行って体系的理解に努めて下さい。		
5. 教科書 一般的な教科書は特に指定ませんが，高橋滋ほか編著『行政法 Visual Materials（第 2 版）』（有斐閣，2020 年），判例集としては，斎藤誠・山本隆司編『行政判例百選 I・II（第 8 版）』（有斐閣，2022 年）を使用します。		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験後に，全体的な評価をした上で正解率の低い問題については解説します。		
8. 成績評価の方法 （1）定期試験 100 点（正誤式 30 問 60 点，記述式 2 問 40 点）で評価します。定期試験では，「（100%）自製の手書きノート」のみの持込みを許可します （2）記述式については，10 点未満を欠格点とします。欠格点がある場合には，たとえ得点が 60 点以上であっても評価は「F（不合格）」となりますので，注意して下さい。		
9. その他 公務員，法科大学院進学を志望する者は，行政法を必ず修得しておく必要がありますので，是非履修していただきたい。		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
行政法（総論）		岩崎 政明
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 行政法は統一法典をもたず、無数の個別法で構成されていますが、このうち、行政法総論は、行政作用法とグルーピングされるものについて、行政組織法にも一部触れつつ、講義します。行政作用法に関する講義とは、国又は公共団体が、どのような行政活動をしているのか、その根拠となる法令とその法的効果はどのようなものかについて解説するものです。 講義用レジュメを事前に配布しますので、予習をしておいてください。 【到達目標】 この講義は、行政法総論の基礎知識と基本判例の理解を確実にすることを到達目標とします。「行政救済法」を履修するためには、「行政法総論」の理解が前提となります。行政法を理解するためのロードマップは、「行政法総論」→「行政救済法」の順となります。まずは、行政法総論の講義を履修することにより、行政法について考える力を習得するスタートをきってください。		
2. 授業内容 授業内容は、法科大学院における「共通的な到達目標モデル（第二次案修正案）：行政法」に準拠しています。同到達目標は、司法試験の出題範囲に対応するものです。括弧内に表示したものは、同到達目標モデルの項目番号です。 第1回：行政・行政法・行政法理論 国又は公共団体による「行政」の意義、これに関する法令及び法理論の特色を解説する。 第2回：行政の内部関係（1-5-1、1-5-2） 行政組織・行政機関の法関係・行政主体間の法関係を解説する。 第3回：法律による行政の原理（2-3-1、2-3-2） 行政に係る憲法原理である「法律による行政の原理」の意義、その例外ないし限界を解説する。 第4回：行政裁量論（1-2-2、2-2-1、2-2-2） 「法律による行政の原理」の例外としての「行政裁量論」を解説する。行政裁量の必要性とこれに対する裁判審査の在り方についてもふれる。 第5回：行政手続（1-4-1、1-4-2、3-1、3-1-2） 行政の意思形成過程に関する「行政手続」について解説する。 第6回：行政行為の意義と分類（1-2-1） 行政活動の内、法的効果を持つ「行政行為」の意義・類型について解説する。 第7回：行政行為の効力（1-2-1） 行政行為の効力、行政行為の権力性について解説する。 第8回：行政行為の瑕疵（2-1-1、2-1-2） 瑕疵ある行政行為とその法的効果、行政行為の撤回について解説する。 第9回：行政立法（行政基準）（1-2-2、2-3-1、2-3-2） 行政立法ないし行政基準の意義・種別、その法的統制について解説する。 第10回：行政計画（1-3-4） 行政計画の意義・種別、その法的統制について解説する。 第11回：行政の非権力的活動形式：行政契約（1-2-3）・行政指導（1-3-2） 厳格に法に拘束される権力的活動に対して、行政需要に柔軟に対応しうる非権力的活動形式の有用性と問題点について解説する。 第12回：行政上の義務履行確保の制度（1-3-5、1-3-6） 行政目的の確実な実現を担保する諸手段を解説する。 第13回：行政調査（1-3-3、1-4-3）・行政情報管理（1-5-4） 行政調査の実効性と法治主義の要請の在り方について解説し、かつ、行政機関の保有する情報の公開制度、個人情報の保護制度の仕組みを解説する。 第14回：行政情報管理 行政機関情報公開法及び個人情報保護法について解説する。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 (1) 授業中に出席調査を行うことがあります。 (2) 六法を持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 講義用の教材レジュメをクラスウェブに添付しますので、各回の授業の前に予習してください。 【復習すべき内容】 授業を履修した後、毎回のレジュメ及びそこで引用されている教科書、判例百選掲載の判例を復習して、理解を確実なものにしてください。		
5. 教科書 クラスウェブに添付されている教材レジュメ 宇賀克也『行政法概説Ⅰ 行政法総論(第8版)』（有斐閣、2023年）		
6. 参考書 斎藤誠・山本隆司編『行政判例百選Ⅰ(第8版)』（2022年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験については、試験終了後に解答例を配付する予定です。復習用にご利用ください。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 定期試験 100% 【成績評価の基準】 (1) 行政作用法における基本的な概念を理解しているか。 (2) 司法試験の出題範囲に対応する「共通的な到達目標モデル(第二次修正案)：行政法」に即して、必要とされる行政法に関する法令、判例を理解しているか。 (3) 問題解決に必要な法令を六法から適格に探し出すことができるか。		
9. その他 * 当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。		

科目ナンバー：(LA)LAW321J		
行政法B I		下川 環
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 高度情報化社会の急速な発展，地球的規模での環境問題の深刻化，少子高齢社会の到来，格差社会の進行，高度な生命科学の発達，エネルギーの原発事故など，これまで予想もできなかったような複雑かつ深刻な現代的問題が次々と生起している。このため，行政機関は，広範な専門技術的裁量権を行使してこのような新たな問題に迅速に対応する必要性に迫られている。行政法の核心は，行政権の行使が「国民の厳粛な信託によるもの」（憲法前文）であるという憲法原理を基本として，現代社会における行政の役割の重大性の認識の下に，行政機関による裁量権の適正な行使を確保し，民主的かつ公正・透明で国民に対して責任のとれる行政を実現するためには行政の過程をどのように統制すべきか，その統制の法理論を探究することにあると考える。 かかる観点に立つて，行政法B Iは，引き続き第2部「民主的責任行政の法的過程と透明性・アカウンタビリティ」のテーマの下に，行政行為（行政法Aの続き），即時強制，行政調査，行政上の強制執行，行政上の制裁，行政指導などについて，具体的な事例と関連づけながらその基本的な仕組みを理解したうえで，その争点に関する（最高裁判例を中心とする）判例及び学説の検討を通じて，行政法の基礎理論及び行政法上の問題を解決する能力の修得を到達目標とする。		
2. 授業内容 【第2部】 民主的責任行政の法的過程（行政法Aの続き） 第01回：イントロダクション ：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政行為（1） 第02回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政行為（2） 第03回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政行為（3） 第04回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政行為（4） 第05回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政行為（5） 第06回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：即時強制 第07回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政調査（1） 第08回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政調査（2） 第09回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政上の強制執行（1） 第10回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政上の強制執行（1） 第11回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政上の制裁 第12回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政指導（1） 第13回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政指導（2） 第14回：民主的責任行政の法的過程—民主的責任行政における法的仕組み：行政契約 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 （1）開講前に0h-o!Meiji クラスウェブにおいて，スケジュール，講義の概要，履修上のルールを公開しておきますので，必ず見ておいて下さい。また，事前に0h-o!Meiji クラスウェブにおいて，プリント（講義ノート・資料）を公開しますので，プリント・アウトし，できる限り予習したうえで受講して下さい。 （2）行政法A，行政法B，地方自治・公務員法をセットで履修していただきたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に0h-o!Meiji クラスウェブにおいて，講義の範囲と内容についてお知らせしておきますので，できる限り予習をしたうえで受講して下さい。また，記憶が新鮮なうちに，ノート整理等を行って体系的理解に努めて下さい。		
5. 教科書 一般的な教科書は特に指定しませんが，行政法Aに引き続き，高橋滋ほか編著『行政法 Visual Materials（第2版）』（有斐閣，2020年），判例集としては，斎藤誠・山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（第8版）』（有斐閣，2022年）を使用します。		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験後に，全体的な評価をした上で正解率の低い問題については解説します。		
8. 成績評価の方法 【A】法科大学院の特別選抜入試の受験希望者がいない場合 （1）成績評価は，定期試験100点（正誤式30問60点，記述式2問40点）で行います。定期試験では，「（100%）自製の手書きノート」のみの持込みを許可します。 （2）記述式については，10点未満を欠格点とします。欠格点がある場合には，たとえ得点が60点以上であっても評価は「F（不合格）」となりますので，注意して下さい。 【B】法科大学院の特別選抜入試の受験希望者がいる場合 （1）履修者全員に対して5月下旬に中間テストを実施することとされています。中間テストは，制限時間30分，50点（正誤式15問30点，記述式1問20点）とします。中間テストでは，「（100%）自製の手書きノート」のみの持込みを許可します。記述式については欠格点は設けません。 （2）定期試験については，【A】（1）・（2）と同じです。試験範囲は，全範囲とします。 （3）成績評価は，中間テスト50点と定期試験100点の合計150点で行います。定期試験の記述式について欠格点がある場合には，たとえ合計点が90点（150点×60%）以上であっても評価は「F（不合格）」となりますので，注意して下さい。		
9. その他 公務員，法科大学院進学などを志望する者は，行政法を必ず修得しておく必要がありますので，是非履修していただきたい。		

科目ナンバー：(LA)LAW321J		
行政法BⅡ		下川 環
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 高度情報化社会の急速な発展，地球的規模での環境問題の深刻化，少子高齢社会の到来，格差社会の進行，高度な生命科学の発達，エネルギーの原発依存など，これまで予想もできなかったような複雑かつ深刻な現代的問題が次々と生起している。このため，行政機関は，広範な専門技術的裁量権を行使してこのような新たな問題に迅速に対応する必要性に迫られている。行政法の核心は，行政権の行使が「国民の厳粛な信託によるもの」（憲法前文）であるという憲法原理を基本として，現代社会における行政の役割の重大性の認識の下に，行政機関による裁量権の適正な行使を確保し，民主的かつ公正・透明で国民に対して責任のとれる行政を実現するためには行政の過程をどのように統制すべきか，その統制の法理論を探究することにあると考える。 かかる観点に立つて，行政法BⅡは，第3部「裁量行政の法的統制」のテーマの下に，行政裁量，行政手続（行政処分手続，行政不服審査手続），行政訴訟（行政法Aで講義した範囲を除く），国家補償（国家賠償，損失補償，国家補償の谷間）などについて，具体的な事例と関連づけながらその基本的な仕組みを理解したうえで，その争点に関する（最高裁判例を中心とする）判例及び学説の検討を通じて，行政法の基礎理論及び行政法上の問題を解決する能力の修得を到達目標とする。		
2. 授業内容 【第3部】 民主的責任行政と裁量統制 第01回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政における裁量（1） 第02回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政における裁量（2） 第03回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政の手続：行政処分手続（1） 第04回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政の手続：行政処分手続（2） 第05回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政の手続：行政処分手続（3） 第06回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政の手続：行政処分手続（4） 第07回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政の手続：行政不服審査手続（1） 第08回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政の手続：行政不服審査手続（2） 第09回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政と司法審査：行政訴訟（1） 第10回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政と司法審査：行政訴訟（2） 第11回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政と司法審査：国家補償（1） 第12回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政と司法審査：国家補償（2） 第13回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政と司法審査：国家補償（3） 第14回：民主的責任行政と裁量統制—民主的責任行政と司法審査：国家補償（4） * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 （1）開講前にOh-o!Meiji クラスウェブにおいて，スケジュール，講義の概要，履修上のルールを公開しておきますので，必ず見ておいて下さい。また，事前にOh-o!Meiji クラスウェブにおいて，プリント（講義ノート・資料）を公開しますので，プリント・アウトし，できる限り予習をしたうえで受講して下さい。 （2）行政法A，行政法B，地方自治・公務員法をセットで履修していただきたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にOh-o!Meiji クラスウェブにおいて，講義の範囲と内容についてお知らせしておきますので，できる限り予習をしたうえで受講して下さい。また，記憶が新鮮なうちに，ノート整理等を行って体系的理解に努めて下さい。		
5. 教科書 一般的な教科書は特に指定しませんが，行政法Aに引き続き，高橋滋ほか編著『行政法 Visual Materials（第2版）』（有斐閣，2020年），判例集としては，宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）』（有斐閣，2017年）を使用します。		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験後に，全体的な評価をした上で正解率の低い問題については解説します。		
8. 成績評価の方法 （1）定期試験100点（正誤式30問60点，記述式2問40点）で評価します。定期試験では，「（100%）手書きノート」のみの持込みを許可します。 （2）記述式については，10点未満を欠格点とします。欠格点がある場合には，たとえ得点が60点以上であっても評価は「F（不合格）」となりますので，注意して下さい。		
9. その他 公務員，法科大学院進学などを志望する者は，行政法を必ず修得しておく必要がありますので，是非履修していただきたい。		

科目ナンバー：(LA) LAW321J		
行政法 B I		横田 明美
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 安心して暮らせる社会秩序を保つために、法律によって行政機関に様々な権限が与えられている。行政法 A で学習した行政法総論の知識を踏まえ、そこで論じきれなかった「行政情報法」に関連する法制度を学んだうえで、紛争解決についての「行政救済法」のうち、金銭による救済・調整を目指す「国家補償」について講義する。 【到達目標】 行政法の基本概念を理解し、その相互関係についても説明できるようになること、および、行政に関する基本的な法律問題に対し、具体例と理論枠組みを念頭に置きながらどのように解決されるべきかを論じられるようになることである。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：イントロダクション（行政法総論についての復習） 第 2 回：行政情報法（1）行政調査 第 3 回：行政情報法（2）公文書管理・情報公開・個人情報保護 第 4 回：行政情報法（3）情報法制の紛争解決 第 5 回：a 行政法総論まとめ b 行政法総論（前年度行政法 A1・A2 の範囲を含む）の小テスト（中間試験） 第 6 回：行政救済法概観 第 7 回：中間試験講評 第 8 回：国家補償法総論・国家賠償（1）国賠法と民法の比較 第 9 回：国家賠償（2）国賠法 1 条の要件論 第 10 回：国家賠償（3）国賠法 1 条の判例 第 11 回：国家賠償（4）国賠法 2 条 第 12 回：国家賠償（5）国賠法 2 条の判例 第 13 回：国家賠償（6）：国賠法をめぐる諸問題 第 14 回：講義のまとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 行政法 A I・II において、行政法総論の 7 割（行政法の基本概念、行為類型論、行政の実効性確保まで）を履修・習得済みであることを前提とする。 また、国家補償の回以降、民法の不法行為に関する知識が必須となるため、本講義のほかに民法（損害賠償）を同時受講することが望ましい（カリキュラム上同時受講が困難な場合は、最低限の箇所を自習し、秋学期に補うことが望ましい。詳しくは初回講義で説明する）。 行政法 B II を継続して受講することが望ましい。なおその場合、行政法 B II では民事訴訟法の知識が必須となることに注意されたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 行政法では、一つの学習項目と他の学習項目との関連性が強いいため、ひとつの教科書を「何周も」巡るような段階的な学習が不可欠となる。そのため、本講義では、概略から詳細へ、段階的に学べるように工夫している。「概観」を経てから本論に入るというかたちで同じキーワードが出てくるのはそのためである。 講義の予習としてはシラバスファイルにおいて指定する教科書対応箇所の通読と、毎回事前配布されるレジュメのダウンロード（必要に応じ印刷）が必要となる。復習としては、授業自体の復習だけでなく、適切な「まとめノート」の作成により、段階的学習で得た知見を自らの知識として活用できる形にすることが求められる。		
5. 教科書 入門行政法』正木宏長・板垣勝彦・横田明美・海道俊明（有斐閣） 『行政判例百選 I（第 8 版）』齋藤誠・山本隆司（編）（有斐閣）、『行政判例百選 II（第 8 版）』齋藤誠・山本隆司（編）（有斐閣） なお、学修用六法も毎回持参すること。		
6. 参考書 『カフェパウゼで法学を』横田明美（弘文堂） 『法学学習 Q&A』横田明美・小谷昌子・堀田周吾（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間試験の講評は第 6 回講義教材として、期末試験の講評は試験採点后～学期終了までに配布する。そのうえで、個別に質問があれば受け付ける。 なお、期末試験については行政法 B II の初回においても質疑を受け付ける。		
8. 成績評価の方法 中間試験（20%）と期末試験（80%）による。中間試験及び期末試験の形式は第 1 回に告知する。		
9. その他 前年度の行政法 A1・A2（横田明美担当）を履修していない者は、初回講義までに行政法総論（情報公開・個人情報保護を除く）について自学しておくことが望ましい。その際、指定教科書が便利だと思うので、活用していただきたい。 進捗や学習方法について疑義がある場合は初回講義にて質問すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW321J		
行政法 B II		横田 明美
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 行政機関が私たちに対し行う働きかけについて、どのような基本原則があるのか、具体的に紛争解決のためにいかなる方法があるのかを理解することと、行政と市民とのフェアな関係を構築するルールや社会問題を解決するための制度設計の方法を考える力をつけること目的とする。 内容としては、行政法 A I ・ II と行政法 B I で学んだ行政法総論を踏まえ、問題発生時に行政処分の効力や公法上の法律関係そのものについて争う「行政争訟」について学ぶ。 【到達目標】 行政に関する基本的な法律問題に対し、具体例と理論枠組みを念頭に置きながらどのように解決されるべきかを論じられるようになることである。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ 行政法 B I の復習（期末試験講評への質疑を含む） 第 2 回：損失補償 第 3 回：国家補償の谷間 第 4 回：行政争訟の概観 第 5 回：行政不服審査 第 6 回：行政訴訟概観（訴訟類型論）（含む、民衆訴訟（特に住民訴訟）・機関訴訟） 第 7 回：取消訴訟（1）処分性・原告適格・訴えの利益 第 8 回：取消訴訟（2）判例分析 第 9 回：その他の抗告訴訟（1）訴訟類型ごとの概観 第 10 回：当事者訴訟（1）概観と H16 年改正の影響 第 11 回：その他の抗告訴訟（2）・当事者訴訟（2）：判例 第 12 回：抗告訴訟の審理・判決 第 13 回：仮の救済 第 14 回：行政法と法政策：例として、「自治体職員からみた行政法」、「AI と行政規制」・「行政による AI 利活用の法政策的課題」 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。 * * 同年度の行政法 B I の進行が遅れた場合、その内容が第 2 回以降の内容の前に入ります。そうであったとしても、第 13 回までの内容は必達範囲（進行が遅れても必ずやる範囲）です。		
3. 履修上の注意 行政法総論をすべて履修していること、行政救済法のうち国家補償を履修していることを前提に講義を行う。 そのため、行政法 A I ・ II、行政法 B I と連続受講が望ましい。 また、行政争訟の多くを規律する行政事件訴訟法は民事訴訟法の特則である（行政事件訴訟法 7 条参照）。そのため、民事訴訟法 I ・ II を履修済みか、同時履修であることが望ましい（履修していない場合は、適宜の入門書で自学すること）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 行政法では、一つの学習項目と他の学習項目との関連性が強いいため、ひとつの教科書を「何周も」巡るような段階的な学習が不可欠となる。そのため、本講義では、概略から詳細へ、段階的に学べるように工夫している。「概観」を経てから本論に入るというかたちで同じキーワードが出てくるのはそのためである。 講義の予習としてはシラバスファイルにおいて指定する教科書対応箇所の通読と、毎回事前配布されるレジュメのダウンロード（必要に応じ印刷）が必要となる。復習としては、授業自体の復習だけでなく、適切な「まとめノート」の作成により、段階的学習で得た知見を自らの知識として活用できる形にすることが求められる。		
5. 教科書 『入門行政法』正木宏長・板垣勝彦・横田明美・海道俊明（有斐閣） 『行政判例百選 I（第 8 版）』齋藤誠・山本隆司（編）（有斐閣）、『行政判例百選 II（第 8 版）』齋藤誠・山本隆司（編）（有斐閣） なお、学修用六法も毎回持参すること。		
6. 参考書 学習方法の参考書として、『カフェパウゼで法学を』横田明美（弘文堂）、『法学学習 Q&A』横田明美・小谷昌子・堀田周吾（有斐閣）を勧める。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験の講評は試験採点后～学期終了までに配布する。そのうえで、個別に質問があれば受け付ける。		
8. 成績評価の方法 期末試験による（100%）。定期試験の形式については、第 1 回講義において例示を示しつつ説明する予定である。		
9. その他 講義資料の配布や当日の突発的な連絡等は教員の Twitter アカウント（@akmykt）でも告知する。 初回講義は行政法 B I の期末試験講評を含むため、行政法 B I 受講者は、期末試験問題と講評を持参すること。 2025 年 11 月 23 日（月・祝）は祝日講義日だが、所属学会の開催日と重なったために休講になる可能性が高い。その場合の補講（補講日での講義ではなく、オンデマンド配信と応答を予定している）については追って指示する。		

科目ナンバー：(LA) LAW321J		
行政法（救済法）		橋本 博之
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 法科大学院への進学、各種国家試験の準備として行政法を学びたいという学生を対象に、行政救済法を講義します。 学生が事前に教科書の予習をしていることを前提に、教員と学生の「対話」により、実定法解釈の理解を深めることを目指します。 到達目標 本授業は、既存の知識・ルールの射程と限界を正確に理解した上で、新たな答えを探す、批判的・創造的な法的思考力の養成を目指します。		
2. 授業内容 第1回 行政救済法の全体像 第2回 取消訴訟の対象（1） 第3回 取消訴訟の対象（2） 第4回 取消訴訟の原告適格 第5回 訴えの客観的利益 第6回 中間まとめ・中間テスト（予定） 第7回 取消訴訟の判決 第8回 その他の抗告訴訟 第9回 当事者訴訟 第10回 仮の救済 第11回 国家賠償法1条 第12回 国家賠償法2条・損失補償 第13回 授業内テスト（事例問題） 第14回 授業内試験の検討会 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 教科書が手許にあることを前提に授業が進められます。各自、準備しておいてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業ごとに、予習範囲の判例に目を通しておいてください。参考書として掲げた教科書・テキストについても、あわせて予習しておくことが推奨されます。		
5. 教科書 櫻井敬子・橋本博之『行政法〔第7版〕』（弘文堂・2025）		
6. 参考書 学生用の判例集（橋本博之『行政判例ノート〔第5版〕』、行政判例百選Ⅱ〔第8版〕など）を用意することを推奨します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間テストについて、事後的に、解答の指針や発展学習の方法を記載した資料を配布します。授業内試験について、内容の解説を含む検討会を実施します。		
8. 成績評価の方法 （1）授業参加度・中間テストを含む（40%）、（2）授業内テスト（60%）で評価します。		
9. その他 特になし。		

科目ナンバー：(LA)LAW321J		
租税法Ⅰ		小林 宏之
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、租税法の基礎的な思考方式を理解した上で、租税法全般の基本的な論点を理解することを具体的な到達目標としています。 今日、新聞やテレビのニュースで、「租税」について報道されない日はないといっていいほど、「租税」は我々の日常生活と密接な関わり合いを持っています。本講義では、その「租税」について規定した租税法の基礎的な知識を習得することを目的としています。		
2. 授業内容 第1回：租税法とは 第2回：租税政策と租税法 第3回：現代国家と租税制度 第4回：租税立法原則 第5回：租税政策上の原則 第6回：租税法の法源 第7回：課税要件 第8回：租税法律関係の特徴 第9回：租税確定手続 第10回：租税徴収手続 第11回：附帯税 第12回：租税行政組織 第13回：税理士制度 第14回：租税法令の解釈 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 予習、復習に励んでください。また、当然のことですが、講義中の私語は厳禁です。なお、授業内容については、受講者の関心、到達レベルによって適宜変更する可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、水野忠恒ほか『テキストブック 租税法 第3版』（中央経済社、2022年）、三木義一ほか『よくわかる税法入門 第19版』（有斐閣、2025年）、佐藤英明『ブレップ租税法 第4版』（弘文堂、2021年）等により準備学習することをお勧めします。		
5. 教科書 中里 実ほか編『租税法概説 第4版』（有斐閣、2021年） 中里 実ほか編『租税判例百選 第7版』（有斐閣、2021年）		
6. 参考書 水野忠恒『大系 租税法 第5版』（中央経済社、2024年） 金子 宏『租税法 第24版』（弘文堂、2021年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 学期中に「レポート」を課す場合がありますが、その場合は、採点后、講評を付して受講者にフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 原則として、定期試験の成績により評価します。		
9. その他 使用教材（教科書・参考書等）については、第1回授業の際に、説明しますので、購入については、その説明を聞いてからご検討ください。したがって、第1回授業の際には、使用教材を持参されなくて結構です。		

科目ナンバー：(LA) LAW321J		
租税法Ⅱ		小林 宏之
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、租税法の基礎的な思考方式を理解した上で、租税法全般の基本的な論点を理解することを具体的な到達目標としています。 今日、新聞やテレビのニュースで、「租税」について報道されない日はないといっていいほど、「租税」は我々の日常生活と密接な関わり合いを持っています。本講義では、その「租税」について規定した租税法の基礎的な知識を習得することを目的としています。		
2. 授業内容 第1回：租税法と私法 第2回：借用概念 第3回：私法取引と租税法 第4回：租税回避の否認 第5回：納税者の租税回避目的と事実認定 第6回：信義則 第7回：租税争訟制度 第8回：異議申立手続 第9回：審査請求手続 第10回：租税訴訟 第11回：主張・立証責任の分配 第12回：推計課税 第13回：租税争訟の現状 第14回：租税法務と租税訴訟の現状 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 予習、復習に励んでください。また、当然のことですが、講義中の私語は厳禁です。なお、授業内容については、受講者の関心、到達レベルによって適宜変更する可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、水野忠恒ほか『テキストブック 租税法 第3版』（中央経済社、2022年）、三木義一ほか『よくわかる税法入門 第19版』（有斐閣、2025年）、佐藤英明『ブレップ租税法 第4版』（弘文堂、2021年）等により準備学習することをお勧めします。		
5. 教科書 中里 実ほか編『租税法概説 第4版』（有斐閣、2021年） 中里 実ほか編『租税判例百選 第7版』（有斐閣、2021年）		
6. 参考書 水野忠恒『大系 租税法 第5版』（中央経済社、2024年） 金子 宏『租税法 第24版』（弘文堂、2021年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 学期中に「レポート」を課す場合がありますが、その場合は、採点后、講評を付して受講者にフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 原則として、定期試験の成績により評価します。		
9. その他 使用教材（教科書・参考書等）については、第1回授業の際に、説明しますので、購入については、その説明を聞いてからご検討ください。したがって、第1回授業の際には、使用教材を持参されなくて結構です。		

科目ナンバー：(LA)LAW321J		
地方自治・公務員法		下川 環
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 日本国憲法は、地方自治について一章を設け、地方自治を制度的に保障している。この地方自治制度は、地方自治法をはじめとして、地方財政法、地方税法、地方公務員法などの国の法令のほか、地方自治体の条例、規則などによって具体化されている。本講義では、最近の地方自治をめぐる改革の動向に着目しつつ、新聞等におけるトピックをできる限り取り上げながら、地方自治・公務員法に関する基礎的な制度及び理論の理解を深めることを目標とする。 本講義では、地方自治体の種別、権能（自治組織権、自治立法権、自治行政権、自治財政権）、住民の自治権、公務員法制（公務員の勤務関係、権利・義務・倫理）などについて講義する。		
2. 授業内容 第 01 回：a：イントロダクション b：地方自治法の基礎（１） 第 02 回：地方自治法の基礎（２） 第 03 回：地方公共団体の種別 第 04 回：地方自治体の権能―自治組織権（１） 第 05 回：地方自治体の権能―自治組織権（２） 第 06 回：地方自治体の権能―自治立法権（１） 第 07 回：地方自治体の権能―自治立法権（２） 第 08 回：地方自治体の権能―自治行政権（１） 第 09 回：地方自治体の権能―自治行政権（２） 第 10 回：地方自治体の権能―自治行政権（３） 第 11 回：地方自治体の権能―自治行政権（４） 第 12 回：地方自治体の権能―自治行政権（５）、自治財政権 第 13 回：地方自治体の権能―住民の自治権 第 14 回：公務員法制 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 （１）開講前に Oh-o!Meiji クラスウエブにおいて、スケジュール、講義の概要、履修上のマナー・ルールを公開しておきますので、必ず見ておいて下さい。また、事前に Oh-o!Meiji クラスウエブにおいて、プリント（講義ノート・資料）を公開しますので、プリント・アウトし、できる限り予習したうえで受講して下さい。 （２）行政法 A、行政法 B、地方自治・公務員法をセットで履修していただきたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に Oh-o!Meiji クラスウエブにおいて、講義の範囲と内容についてお知らせしておきますので、できる限り予習をしてうえで受講して下さい。また、記憶が新鮮なうちに、ノート整理等を行って体系的理解に努めて下さい。		
5. 教科書 一般的な教科書は、特に指定しませんが、判例集としては、小幡純子・斉藤誠・飯島淳子編『地方自治判例百選（第 5 版）』（有斐閣、2023 年）を使用します。		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験後に、全体的な評価をした上で正解率の低い問題については解説します。		
8. 成績評価の方法 （１）定期試験 100 点満点（正誤式 30 問 60 点、記述式 2 問 40 点）で評価します。定期試験では、「（100%）自製の手書きノート」のみの持込みを許可します （２）記述式については、10 点未満を欠格点とします。欠格点がある場合には、たとえ得点が 60 点以上であっても評価は「F（不合格）」となりますので、注意して下さい。		
9. その他 公務員を志望する方は、地方自治・公務員法を必ず修得しておく必要がありますので、是非履修していただきたい。		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
環境法Ⅰ		横田 明美
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】環境問題は経済成長と市民の生活利便性向上とともに様々に変化している。その変化と特質に対応して生み出された環境法の基本理念、環境法制の仕組み、および政策手法の流れを概観し、被害の予防と紛争解決の道筋を考えるための基礎（環境法総論）を説明する。 【到達目標】環境問題の歴史と環境法の基本的考え方を理解し、環境法制の仕組みと政策手法の特性を学ぶ。 関連科目で学んだ法的思考と、環境問題の特性に応じて編み出された理論や手法がどのように関係するのかを理解し、環境問題への対応策を自分の頭で考えられるようになる。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション（環境法とは何か） 第2回：環境法の歴史（1）公害への対応 第3回：環境法の歴史（2）環境省・環境法制の形成過程 第4回：環境法の基本原則（1）予防原則、汚染者負担原則など 第5回：環境法の基本原則（2）環境基本法の基本理念、「環境権」論、環境公益 第6回：環境法の担い手 第7回：環境法の手法（1）規制手法の利点と限界 第8回：環境法の手法（2）誘導の仕組み 第9回：環境アセスメント（1）アセスメントとは 第10回：環境アセスメント（2）環境影響評価法 第11回：環境法と他の法学科目の関係（紛争解決編序論） 第12回：ディスカッションとディベート（1）：ディベートとは何か 第13回：ディスカッションとディベート（2）：実践回 第14回：講義のまとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 環境法Ⅱとの連続受講を推奨するが、Ⅰのみでも一応完結する内容になる予定である（Ⅱは、前提となる知識が多いため）。 行政法AⅠ及びAⅡ、行政法BⅠ（のうち、「行政法総論」に属する範囲）の基礎知識があることが前提となるため、これらの科目が履修済みあるいは同時履修であることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 環境法は法学の「使い方」を考える講義でもある。そこで、各回の対応する箇所について、教科書による予習・復習を行うことに加えて、日頃から環境法に関連するニュース等を集めることが望ましい（履修前からしておくとい）。 また、毎回のコメントシートおよび期末試験では短い時間に文章を書き上げる構成力も問うことになるので、答案の書き方や構成の仕方についての自学もしておくことが望ましい。詳しくは参考書『カフェパウゼで法学を』参照。		
5. 教科書 『環境法入門（第4版）〔有斐閣アルマ〕』 交告尚史・臼杵知史・前田陽一・黒川哲志（有斐閣） なお、環境法は学習用六法に載っていない法令も扱うため、各自のデバイスで検索できることが望ましい（もし持っていない場合は、『環境六法』（第一法規）を購入すること）。		
6. 参考書 『環境法（ストウディアシリーズ）第2版』北村喜宣（有斐閣） 『カフェパウゼで法学を』横田明美（弘文堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ほぼ毎回コメントシート課題を課し、それに対してはその次の回の冒頭で取り上げる。 期末試験については、採点后～学期終了までの間に講評を配布し、そのうえで個別の質問を受け付ける。		
8. 成績評価の方法 期末試験（100%）による。 （コメントシート課題及びディベートそれ自体は評価対象としないが、期末試験の内容の一部はこれらを前提としている）。		
9. その他 前任校において初回が台風で休講になったため、Twitter上でバーチャルな第1回講義を試みたことがある（2014年10月）。そのまま環境法Ⅰの第1回講義の再現になっているので、講義の内容等について関心がある方は、ご参照いただきたい。 http://togetter.com/li/728255 なお、Twitterを使って講義資料の配布状況や突発的連絡を行うことがある。教員のアカウントは @akmykt である。		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
環境法Ⅱ		横田 明美
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】環境法Ⅰで学んだ内容をもとに、分野ごとの法制度（環境法各論）を学ぶとともに、環境にまつわる法的紛争の解決方法を学ぶ。また、多様な利害対立が生じる環境法政策分野を考えるために必要な思考力を身に着けることも目標とする。 【到達目標】環境問題の歴史と環境法の基本的考え方を理解し、環境法制の仕組みと政策手法の特性を学ぶ。 関連科目で学んだ法的思考と、環境問題の特性に応じて編み出された理論や手法がどのように関係するのかを理解し、環境問題への対応策を自分の頭で考えられるようになる。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：環境法総論と環境法各論の関係 第2回：廃棄物とリサイクル（1）：制度論 第3回：廃棄物とリサイクル（2）：判例 第4回：法律と条例の関係 第5回：大気汚染防止法・水質汚濁防止法 第6回：水をめぐる条例規制 第7回：自然環境の保護 第8回：都市環境の保護 第9回：原子力規制 第10回：環境法における紛争解決（1）：補償の仕組み、民事訴訟 第11回：環境法における紛争解決（2）：行政訴訟 第12回：事例研究：産廃最終処分場をめぐる紛争 第13回：地球環境問題 第14回：講義のまとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 環境法Ⅰとの連続受講を推奨する。 行政法AⅠ及びAⅡ、行政法BⅠ（「行政法総論」）・行政法BⅡ（行政救済法）、民法（特に損害賠償）、民事訴訟法Ⅰ・Ⅱの基礎知識があることが前提となるため、これらの科目が履修済みあるいは同時履修であることが望ましい。もし欠けている知識がある場合は、適宜の入門書での自学を勧めるので、初回講義で申し出ること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 環境法は法学の「使い方」を考える講義でもある。そこで、教科書による予習復習に加えて、日頃から環境法に関連するニュース等を集めることが望ましい（履修前からしておくといよい）。 また、毎回のコメントシートおよび期末試験では短い時間に文章を書き上げる構成力も問うことになるので、答案の書き方や構成の仕方についての自学もしておくことが望ましい。詳しくは参考書『カフェパウゼで法学を』参照。		
5. 教科書 『環境法入門（第4版）〔有斐閣アルマ〕』 交告尚史・臼杵知史・前田陽一・黒川哲志（有斐閣） なお、環境法は学習用六法に載っていない法令も扱うため、各自のデバイスで検索できることが望ましい（もし持っていない場合は、『環境六法』（第一法規）を購入すること）。		
6. 参考書 『環境法（ストウディアシリーズ）第2版』 北村喜宣（有斐閣） 『カフェパウゼで法学を』 横田明美（弘文堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ほぼ毎回コメントシート課題を課し、それに対してはその次の回の冒頭で取り上げる。 期末レポートについては、採点后～学期終了までの間に講評を配布し、そのうえで個別の質問を受け付ける。		
8. 成績評価の方法 期末レポート課題（100%）による。 （コメントシート課題自体は評価対象としないが、レポート内容の一部はこれらを前提としている）。		
9. その他 前任校において初回が台風で休講になったため、Twitter上でバーチャルな第1回講義を試みたことがある（2014年10月）。そのまま環境法Ⅰの第1回講義の再現になっているので、講義の内容等について関心がある方は、ご参照いただきたい。 http://togetter.com/li/728255 なお、Twitterを使って講義資料の配布状況や突発的連絡を行うことがある。教員のアカウントは @akmykt である。		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
教育法Ⅰ		斎藤 一久
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 教育法入門として教育法の全体像を把握できるよう授業を展開する。主として教育法学における諸論点を扱うが、法解釈学だけではなく、法政策的な議論にも言及することになる。 【到達目標】 教育法に関する基本的な争点について理解している。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（教育法とは） 第2回：教育と法 第3回：教育を受ける権利 第4回：教育を支える法体系（1） 第5回：教育を支える法体系（2） 第6回：学校における主役としての子ども（1） 第7回：学校における主役としての子ども（2） 第8回：子どもの教育を支える人々 第9回：子どもの教育を支える機関 第10回：学校の教育内容は誰が決めるのか？ 第11回：学校事故 第12回：教育と思想良心の自由 第13回：宗教と教育 第14回：まとめ ＊グループディスカッションも実施する予定である。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習の内容】 参考書等の該当箇所を予習しておくこと。 【復習すべき内容】 授業で指示するほか、関連する判例がある場合には、データベースなどで検索し、読んでおくこと。		
5. 教科書 とくに指定しない。		
6. 参考書 『現代教育法』植野妙実子（日本評論社） 『教育法』中川律（三省堂） 『ガイドブック教育法〔新訂版〕』姉崎洋一ほか（三省堂） 『コンメンタール教育基本法』日本教育法学会編（学陽書房） 『憲法パトリオティズムと現代の教育』斎藤一久（日本評論社） 『教職課程のための憲法入門〔第3版〕』西原博史・斎藤一久（弘文堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 試験90%、平常点（授業での積極的な発言など）10%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW221J		
教育法Ⅱ		斎藤 一久
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 教育法Ⅰで得た知識を前提に、教育判例を中心として、教育法について多角的に検討する。 【到達目標】 教育法に関する基本的な判例について理解している。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：教育判例とは 第3回：旭川学力テスト判決（1） 第4回：旭川学力テスト判決（2） 第5回：教科書裁判（1） 第6回：教科書裁判（2） 第7回：学校におけるセクシャルハラスメント事件 第8回：東京都立学校国旗国歌訴訟事件（1） 第9回：東京都立学校国旗国歌訴訟事件（2） 第10回：エホバの証人剣道拒否事件 第11回：天草市小学校体罰事件 第12回：学校における情報公開と個人情報保護 第13回：学校事故と学校の責任 第14回：まとめ ＊グループディスカッションも実施する予定である。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習の内容】 教科書、参考書等の該当箇所を予習しておくこと。 【復習すべき内容】 授業で指示するほか、関連する判例がある場合には、データベースなどで検索し、読んでおくこと。		
5. 教科書 とくに指定しない。		
6. 参考書 『現代教育法』植野妙実子（日本評論社） 『教育法』中川律（三省堂） 『ガイドブック教育法〔新訂版〕』姉崎洋一ほか（三省堂） 『コンメンタール教育基本法』日本教育法学会編（学陽書房） 『憲法パトリオティズムと現代の教育』斎藤一久（日本評論社） 『教職課程のための憲法入門〔第3版〕』西原博史・斎藤一久（弘文堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 試験90%、平常点（授業での積極的な発言など）10%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
不動産法Ⅰ		亀田 浩一郎
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、「財産法」に関する民法のルールのうち、「不動産」に関する民法ルールに焦点をあて、不動産に関する主要な法律問題を解決するための基礎的法律知識を修得することを、その目的とする。具体的には、不動産に関する具体的な法律問題を解決するためには、第一に、その法律問題を解決するのに必要な関連する法令を抽出し（第一の作業）、第二に、その法令を解釈して問題解決のための具体的なルールを確定し（第二の作業）、最後に、このルールをその法律問題に適用してその法律問題の解決を図る（第三の作業）という、基本的な枠組みを修得することが必要であるが、その前提として、不動産に関する具体的な法律問題を解決するための民法上のルールそれ自体を正確に理解することが必要になることから、第一・第二の作業に授業の力点が置かれることになる。 「不動産」に関する主要な法律問題のうち、登記簿の仕組み・見方に関する問題群、物権変動のルールに関する問題群、所有権法（マンション法を含む）のルールに関する問題群、不動産担保の中の抵当権のルールに関する問題群を学習する。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション・不動産法の全体像 第2回：不動産登記 第3回：物権変動（1）：意思主義・対抗要件・物権変動時期 第4回：物権変動（2）：取消・解除と登記・相続と登記・取得時効と登記 第5回：物権変動（3）：第三者の範囲 第6回：所有権（1）：物権的請求権 第7回：所有権（2）：相隣関係（隣地通行権）・共有 第8回：所有権（3）：建物区分所有法 第9回：用益物権（地上権・永小作権・地役権・入会権） 第10回：担保物権序説・抵当権（1）：実行・効力の及ぶ範囲 第11回：抵当権（2）：物上代位・収益執行 第12回：抵当権（3）：法廷地上権・第三取得者の保護 第13回：抵当権（4）：抵当権侵害・抵当権の処分 第14回：抵当権（5）：共同抵当・根抵当権		
3. 履修上の注意 民法（物権）及び民法（担保物権）を履修済みであることが望ましい。 授「六法」は必ず持参すること。 講義はただ受け身で聴くのではなく、自分で考えながら積極的な態度で臨んでもらいたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受ける前に、あらかじめその回のテーマについて教科書等を読んで予習しておくこと。特に分からない点がどこか事前に知っておくことが重要である。		
5. 教科書 石田＝武川＝占部＝田高＝秋山『民法Ⅱ 物権』（有斐閣） または 中舎寛樹『物権法』（日本評論社）。ただしこれ以外でも自分が気に入ったものがあればそれを使用してかまわない。		
6. 参考書 レジュメを配布し、それに則って講義する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 定期試験のみによって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW361J		
不動産法Ⅱ		亀田 浩一郎
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、「財産法」に関する民法のルールのうち、「不動産」に関する民法ルールに焦点をあて、不動産に関する主要な法律問題を解決するための基礎的法律知識を修得することを、その目的とする。具体的には、不動産に関する具体的な法律問題を解決するためには、第一に、その法律問題を解決するのに必要な関連する法令を抽出し（第一の作業）、第二に、その法令を解釈して問題解決のための具体的なルールを確定し（第二の作業）、最後に、このルールをその法律問題に適用してその法律問題の解決を図る（第三の作業）という、基本的な枠組みを修得することが必要であるが、その前提として、不動産に関する具体的な法律問題を解決するための民法上のルールそれ自体を正確に理解することが必要になることから、第一・第二の作業に授業の力点が置かれることになる。 「不動産」に関する主要な法律問題のうち、抵当権以外の不動産担保のルールに関する問題群、不動産「売買」のルールに関する問題群、不動産「請負」（建築請負）のルールに関する問題群、不動産の利用権の規制ルールに関する問題群、土地工作物責任・営造物責任のルールに関する問題群を学習する。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：仮登記担保 第3回：譲渡担保 第4回：留置権・先取特権 第5回：質権 第6回：贈与・売買（1） 第7回：売買（2） 第8回：使用貸借・賃貸借 第9回：借地借家法（1）：借地権（存続期間・対抗力・譲渡性） 第10回：借地借家法（2）：借地権（地代規制・建物買取請求権） 第11回：借地借家法（3）：建物賃貸借 第12回：請負・委任 第13回：土地工作物責任・営造物責任 第14回：まとめ		
3. 履修上の注意 民法（物権）及び民法（担保物権）を履修済みであることが望ましい。 「六法」は必ず持参すること。 講義はただ受け身で聴くのではなく、自分で考えながら積極的な態度で臨んでもらいたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業を受ける前に、あらかじめその回のテーマについて教科書等を読んで予習しておくこと。特に分からない点がどこか事前に知っておくことが重要である。		
5. 教科書 物権分野では石田＝武川＝占部＝田高＝秋山『民法Ⅱ 物権』（有斐閣） または中舎寛樹『物権法』（日本評論社）。債権各論分野では藤岡＝浦川＝磯村＝松本『民法Ⅳ』（有斐閣）、永田＝松本＝松岡＝横山『債権』（有斐閣）または池田眞朗『スタートライン債権法』（日本評論社）。ただしこれ以外でも自分が気に入ったものがあればそれを使用してかまわない。		
6. 参考書 レジュメを配布し、それに則って講義する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 定期試験のみによって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
登記・供託法		鹿島 久実子
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 登記法（不動産登記法、商業登記法等）、供託法について、紛争予防や紛争解決機能を中心とした役割の理解や基本的な知識の修得を目指し、民法、会社法等の実体法や民事執行法等の他の手続法とのつながりを意識しながら学びます。 将来、法律実務に携わらずとも、不動産を相続する、不動産を購入する・借りる、住宅ローンを契約する、法人設立など、様々な場面で登記制度、供託制度の知識や考え方を知っていることで役立つこともあるかもしれません。 民事手続法でありながら、法務局の行政活動として運用されている登記制度や供託制度を理解する上では、法文やその原理のみではなく、先例・通達を中心とした実務上の運用を知ることにも非常に重要です。 社会の中で、登記制度や供託制度がどのように位置付けられているのか、実際の運用や契約や取引の場面等実務上の取扱いにも触れながら検討していきます。 【到達目標】 （１）登記・供託法の基本的な知識を修得する。 （２）実体法と手続法のつながりを意識しながら登記制度、供託制度を理解する。 （３）日本の社会における登記制度、供託制度が果たす役割を理解する。		
2. 授業内容 第１回：イントロダクション 第２回：登記制度全般 第３回：不動産登記法（概論、表題部に関する登記） 第４回：不動産登記法（所有権に関する登記） 第５回：不動産登記法（所有権に関する登記） 第６回：不動産登記法（担保権に関する登記） 第７回：不動産登記法（その他の登記） 第８回：不動産登記法（仮登記） 第９回：商業登記法（概論、設立登記） 第１０回：商業登記法（変更登記） 第１１回：商業登記法（その他の登記） 第１２回：その他の登記制度 第１３回：供託法 第１４回：講義全体の振り返り ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で扱う範囲についての予習は不要ですが、民法、会社法等の実体法も扱いますので、知識等に不安のある方は事前に確認をしてください。 授業中に扱われた内容については、理解の上、説明できるようにしてください。		
5. 教科書 鈴木龍介「登記法入門——実務の道しるべ」（商事法務） 必要に応じて補足レジュメを配布します。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信します。		
8. 成績評価の方法 平常点（リアクションペーパーの提出）３０％ 期末試験（通信機器以外の持ち込み可）７０％		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
商法概論・総則		高木 正則
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、「商法」と呼ばれる法分野の概論および商法総則に関する講義を行う。 商法とは、一般に、企業生活に特有の法律関係を規律する法であると解されている。これには、商法総則、商行為法、会社法、手形法、小切手法、保険法等が含まれるが、本講義では、商法に関する概論的説明（商法概論）および「商法」という法典における総則規定（商法総則）に関する解説を行う。本講義の到達目標は、商法概論・商法総則に関する基本的な知識を習得することである。 本講義は、2 年次の秋学期に開講される「会社法Ⅰ」と連続する位置づけとなっているが、一部を別とすれば、本講義と会社法の講義との直接的関連性はあまりないと思われる（会社法を学ぶ上での前提知識を提供するものではない）。ただし、商法総則と会社法における総則規定（会社法総則）の内容はほぼ同一である。そこで、本講義における商法総則に関する解説をもって、会社法総則に関する解説に代えることができることになろう。		
2. 授業内容 第 1 回：開講にあたって：テキストや参考書の紹介、授業の進め方などについて 第 2 回：商法概論(1)：商法とは何か。商法の意義・歴史 第 3 回：商法概論(2)：商法と他の法分野、商法の各分野（民法、経済法、労働法、会社法、手形・小切手法、保険法など） 第 4 回：商法概論(3)：商法の法源、商法の特徴 第 5 回：商法総則(1)：商人と商行為(1) 第 6 回：商法総則(2)：商人と商行為(2) 第 7 回：商法総則(3)：商号 第 8 回：商法総則(4)：代理商 第 9 回：商法総則(5)：商業使用人(1) 第 10 回：商法総則(6)：商業使用人(2) 第 11 回：商法総則(7)：営業と営業譲渡(1) 第 12 回：商法総則(8)：営業と営業譲渡(2) 第 13 回：商法総則(9)：商業登記(1) 第 14 回：商法総則(10)：商業登記(2)・商業帳簿 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業はレジュメの順番にしたがって行う（レジュメは Oh-o!Meiji を通して配布する予定である）。また、受講の際には、必ず令和 7 年版の六法を持参すること。なお、本科目の性質上、民法の財産法の分野（総則、物権、債権）との対比を行うことがしばしばあるので、本科目の学習と並行して、民法の財産法の授業で習うことも疎かにしないでほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては、次の授業で扱われる内容について、六法で条文を確認しながら教科書等に目を通しておくことを勧める。復習に関しては、授業で解説したことを配布したレジュメに沿って把握し、判例百選等の参考書も読みながら理解を深めていただきたい。		
5. 教科書 近藤光男『商法総則・商行為法第 9 版』（有斐閣、2023 年）		
6. 参考書 神作裕之・藤田友敬編『商法判例百選』（有斐閣、2019 年）。なお、本科目の対象となる諸点について最新の観点から検討する書物として、清水真紀子・高橋美加編『商法総則・商行為法の現在 その現代化に向けて』（有斐閣、2024 年）を挙げておく（図書館で閲覧可能である）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に適宜、知識確認のための簡単なアンケートを Oh-o! Meiji を使って実施し、その結果について授業内で簡潔に講評を含めてコメントすることを考えている。試験結果については全体的な講評を、成績開示後に行うことを考えている（方法は未定である）。		
8. 成績評価の方法 成績は定期試験により評価する。定期試験は論述式で行う。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
商法概論・総則		陳 亮
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、商法と呼ばれる法分野の概論及び商法総則に関する解説を行う。 商法とは、一般に、企業生活に特有の法律関係を規律する法であると解されている。これには、商法総則、商行為法、会社法、手形法、小切手法、保険法、海商法等が含まれるが、この授業では、商法に関する概論的説明（商法概論）及び商法という法典における総則規定（商法総則）に関する解説を行う。 なお、この授業は、2 年次の秋学期に開講される「会社法Ⅰ」と連続する位置づけとなっているが、商法概論の一部を別とすれば、本講義と会社法との直接的関連性はあまりない（会社法を学ぶ上での前提知識を提供するものではない。）。ただし、商法総則と会社法における総則規定（会社法総則）の内容はほぼ同一である。そこで、この授業における商法総則に関する解説をもって、会社法総則に関する解説に代えることにする。 【到達目標】 この授業は、商法概論・商法総則に関する基本的な知識を習得することを到達目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回（a モジュールのみ）：イントロダクション：この授業に関する FAQ 第 2 回：商法概論(1)：商法とは何か？商法の意義・歴史 第 3 回：商法概論(2)：商法と他の法分野、商法の各分野（商法総則・商行為法、会社法、手形・小切手法、保険・海商法など） 第 4 回：商法概論(3)：商法の法源、商法の特徴 第 5 回：商法総則(1)：商人と商行為(1) 第 6 回：商法総則(1)：商人と商行為(2) 第 7 回：商法総則(2)：商号 第 8 回：商法総則(3)：商業使用人(1) 第 9 回：商法総則(3)：商業使用人(2)・代理商 第 10 回：商法総則(4)：商業登記(1) 第 11 回：商法総則(4)：商業登記(2) 第 12 回：商法総則(5)：商業帳簿 第 13 回：商法総則(6)：営業と営業譲渡(1) 第 14 回：商法総則(6)：営業と営業譲渡(2)・まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・授業は、担当教員が用意するレジュメ等を使用して行う。 ・レジュメ等は事前に Oh-o!Meiji の【クラスウェブ】内の【授業内容・資料】にアップロードしておく。 ・受講生は予め当該授業の際に使用するレジュメ等をダウンロードし、それに目を通した上で毎回の授業の際に持参すること。 ・受講の際には、必ず六法（現行の民商法が収録されているもの）を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 事前にダウンロードしたレジュメ等をもとに授業の範囲・内容を把握し、六法で条文の中身を確認しながら教科書等に目を通しておくこと。 【復習すべき内容】 授業で扱った内容を正確に理解し、説明できるようにしておくこと。		
5. 教科書 ・テキストは特に指定しない。 ・定評がありかつ比較的アップ・ツウ・デートな体系書ないし概説書として、①落合誠一ほか著『商法Ⅰ－総則・商行為〔第 6 版〕』（有斐閣、2019 年（本体 2,100 円））、②近藤光男著『商法総則・商行為法〔第 8 版〕』（有斐閣、2019 年（本体 2,800 円））、③弥永真生著『リーガルマインド商法総則・商行為法〔第 3 版〕』（有斐閣、2019 年（本体 2,000 円））のうちどれか 1 冊を用意するのが望ましい。		
6. 参考書 特に使用しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji の【クラスウェブ】内の【授業内容・資料】を通じて解説を行う。		
8. 成績評価の方法 成績は原則として定期試験（100%）により評価する。ただし、授業態度や授業での発言等も考慮する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
商行為法（商取引法）		根本 伸一
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、商行為法について講義する。 まず、商行為法とは商取引法の一つである。すなわち、商取引法とは企業取引に関するルールであり、これには企業同士の取引および企業と非企業（例えば消費者）との間の取引の両方が含まれる。これに対して、商行為法とは、「商法第二編 商行為」に定められた取引ルールのことである。商取引法と商行為法は同じ意味で使われることもあるが、本来は前者の方が後者よりも広い。商行為法は、商取引に関するルールのうち、ごく限られた規定を置いているに過ぎない。 本講義では、主として「商法第二編 商行為」に置かれた各規定の解説を行う。これらの規定は、従来、「商行為法」の一部として「商法総則」とセットで講義されてきたものである。その内容は、会社法よりもむしろ民法、特に債権法との関わりが深い。上述のように商行為法は商取引法の一部をカバーしているに過ぎないが、運送取引など、現代の経済社会における重要な法的ルールを含んでいる。そのため、現代の商取引に関するルールを知るためには、このような「商行為法」に関する知識は必要不可欠である。つまり、商行為法を学ぶだけでは現代の企業取引に関する取引ルールを知るには必ずしも十分ではないが、そのようなルールを知るためには商行為法について学ぶ必要があるということである。もちろん、現在の商行為法の制度設計には問題もあるが、この点については授業の中で適宜触れていきたい。 本講義の到達目標は、このような商取引に関するルールについて、受講生が基礎的な知識を身につけることである。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 第2回：商行為法総論1 第3回：商行為法総論2 第4回：商人間の売買1 第5回：商人間の売買2 第6回：交互計算 第7回：匿名組合 第8回：仲立営業 第9回：問屋営業 第10回：運送営業 第11回：場屋営業 第12回：倉庫営業 第13回：商取引法の将来 第14回：総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 関連科目（商法概論・商法総則、民法総則、債権法）を履修していることが望ましいが、授業の中で必要に応じて民法等の説明もするのであまり気にしないで良い。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、授業の終了時に、次回の範囲、参考文献および注意事項等を告知する。		
5. 教科書 教科書は指定しない。 代わりに、Oh-o! Meiji 上でレジュメ等を配布する。		
6. 参考書 近藤光男『商法総則・商行為法（第9版）』（有斐閣、2023年） 神作裕之ほか『商法判例百選（別冊ジュリスト 243）』（有斐閣、2019年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートや定期試験の実施後に Oh-o! Meiji 上で解答例を掲載するとともに、Oh-o! Meiji のアンケート機能を使って質問を受け付ける。		
8. 成績評価の方法 2回のレポートにより成績評価する。 定期試験は実施しない。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
会社法Ⅰ（法曹コース用）		松井 英樹
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 企業活動全般の総則的な規律である商法総則、企業活動法の基礎を構成する商行為法、および企業組織法としての会社法の前半を取扱います。会社法分野においては、株式会社に關する法規制を中心に講義を進めます。会社法の体系についての基本的理解を踏まえたうえで、会社法が抱える現代的な課題、法改正の方向性について検討するとともに、近時の判例の動向についても必要に応じて紹介します。 【到達目標】 法的思考力の向上を目指しつつ、受講生が会社法等の基礎的知識、および体系的・論理的な思考方法を修得し、会社法をめぐる紛争についての確かな争点の整理、法規範の定立、事実の評価および的確な紛争解決を図る能力を身につけることを到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（商法・会社法の体系）、商法の適用対象 第2回：商行為法総論 第3回：商号・商業登記・企業補助者 第4回：会社法総論 第5回：会社の設立 第6回：株式（1）…株式の意義・種類、株主平等原則 第7回：株式（2）…株式の譲渡 第8回：株式（3）…株式出資単位規制、自己株式の取得 第9回：株式会社の機関総論、株主総会の権限 第10回：株主総会の招集・議事運営手続 第11回：株主総会決議の瑕疵 第12回：株式会社の業務執行…取締役・取締役会・代表取締役 第13回：監査役、会計監査人、会計参与 第14回：指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・本授業は、事前に Oh-o!Meiji において配信する講義資料をもとに進行します。受講生は、授業の前に講義資料をダウンロード・プリントアウトする等して、授業に際してこれを持参してください。また、授業に際しては、教科書および学習用六法を持参することが求められます。 ・なお、この科目を履修する場合は、併せて「会社法Ⅱ」を履修することが望ましいです。 ・疑問点があれば、授業の前後または Oh-o!Meiji を通して積極的に質問して理解を深めるように努めてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学修の内容】 ・授業に参加するに際しては予習が必要不可欠です。受講生は、各授業の前に配信された講義資料の内容を確認するとともに、教科書の該当箇所・条文・関連判例をよく読み、あわせて会社法上の専門用語等を調べておいてください。 【復習すべき内容】 ・復習については、授業で扱った分野について教科書を精読するとともに、関連する判例につき、その事実の概要および判旨を確認することが求められます。		
5. 教科書 ・伊藤靖史=大杉謙一=田中亘=松井秀征『会社法〔第5版〕』（＝リーガルクエスト）（有斐閣、2021年）		
6. 参考書 ・江頭憲治郎『株式会社法〔第8版〕』（有斐閣・2021年） ・田中亘『会社法〔第3版〕』（東京大学出版会・2021年） ・高橋美加他『会社法〔第3版〕』（弘文堂・2020年） ・神作裕之他編『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣・2021年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内容の理解度を確認するための小テストを数回実施します。 実施期間終了後に、自動採点されるとともに、クラス Web を通して、解説が公表されます。 事例レポート課題については、提出期限後に、出題の趣旨・解説をクラス Web において公表します。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 学期末に実施する論述式の定期試験 60％、平常点（授業への参加度＋小テスト）20％、事例レポート課題 20％ 【成績評価の基準】 （1）会社法・手形法における初歩的な概念を理解しているか （2）会社法・手形法の条文を正確に適用するとともに、条文の読み方を理解しているか、 （3）事例を正確に分析し、法的三段論法を用いて、適切な紛争解決手段を提示することができるか、等を基準とします。		
9. その他 * 当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
会社法Ⅰ		柿崎 環
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、会社法に関する講義を行う。 会社法は、会社という企業の組織・運営に関する法律である。会社法は、会社を通じた経済活動のインフラを提供するというかたちで、国民経済にとって極めて重要な役割を果たしている。会社法のあり方が、その国の経済社会のあり方を規定するといっても過言ではない。そのため、会社法の役割は、たんに会社をめぐる関係者の私的利害を調整することにとどまるものではない。 本講義では、基本的に株式会社にに関する法規制を中心とした講義を行いながら、受講生が会社法に関する基本的な知識を習得することを到達目標とする。 本講義は、2 年次の春学期に開講される「商法概論・商法総則」と連続する位置づけとなっているが、「商法概論・商法総則」は会社法を学ぶ上での前提知識を提供するものではない。ただし、「商法概論・商法総則」中の商法総則と会社法における総則規定（会社法総則）の内容はほぼ同一である。そこで、「商法概論・商法総則」における商法総則に関する解説をもって、会社法総則に関する解説に代えることにする。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：会社法総論(1) 第 3 回：会社法総論(2) 第 4 回：会社の設立(1) 第 5 回：会社の設立(2) 第 6 回：株式(1) 第 7 回：株式(2) 第 8 回：株式(3) 第 9 回：株主総会(1) 第 10 回：株主総会(2) 第 11 回：取締役、取締役会 第 12 回：代表取締役 第 13 回：監査役、会計監査人、会計参与 第 14 回：委員会設置会社 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・授業はレジュメを使用して行う。 ・レジュメは事前に Oh-o! Meiji システムまたは担当者のホームページにアップロードしておく。 ・受講生はあらかじめ当該授業の際に使用するレジュメをダウンロードし、それに目を通した上で、毎回の授業の際に持参すること。 ・受講の際には、必ず六法を持参すること。 ・出欠は取らない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、アップグレードされたレジュメを読み疑問点を把握しておくこと。復習としては、教科書の該当箇所を読み、関連判例も確認しておくことが望ましい。		
5. 教科書 三枝一雄ほか「最新 基本会社法」（中央経済社 2021 年）		
6. 参考書 ・授業の際に、適宜指示する。 ・レジュメ以外の参考資料を配付することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の総評を「授業のお知らせ」機能を使って配信する。		
8. 成績評価の方法 ・成績は定期試験により評価する。 ・定期試験は論述式で行う。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW261J		
会社法 I		根本 伸一
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、会社法について講義する。会社法とは、株式会社や合同会社などの会社の組織・運営に関するルールである。現代社会において、会社は経済活動のインフラとして重要な役割を果たしている。例えば、われわれは日々会社から様々な商品・サービスの提供を受け、また会社に従業員として雇われ、給料を受け取っている。さらに、起業をする際に自分で会社を作ってそれを使って事業を行うこともできる。会社法とは、このような会社が、社会において活動するための基本的なルールである。それゆえ、会社法を学ぶということは、最終的には一国の経済社会のあり方としてどのようなものが望ましいかというテーマにアプローチすることでもある。そこで本講義では、会社法の基本的な仕組みを説き起こすことを通して、経済活動のインフラとしての会社の仕組みを明らかにしたい。 また、本講義では、以下のことを心がける。 1. 最初の数回を除き、株式会社に関する説明を中心とし、他の会社については株式会社と対比する程度の説明にとどめる。 2. できるだけ会社法の全範囲を網羅したいと考えているので、その分、それぞれの制度の説明はコンパクトになる。 3. 判例・学説の細かい説明は最小限にし、むしろ関連のある制度間のつながりについて説明する。 本講義の到達目標は、受講生が会社法の基本的な仕組みとその使われ方について理解できるようになることである。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：企業と会社 第3回：会社の法的性質 第4回：会社の設立1 第5回：会社の設立2 第6回：株式1 第7回：株式2 第8回：機関総論、株主総会1 第9回：株主総会2 第10回：取締役、取締役会、代表取締役 第11回：監査役、会計監査人、会計参与 第12回：指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社 第13回：業務執行の適性確保 第14回：総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 特に他の法律科目を履修しておくべきということはない。 むしろ企業活動に関する関心や会計学や経営学の知識があった方が、理解が進むと思われる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、授業の終了時に、次回の範囲、参考文献および注意事項等を告知する。		
5. 教科書 三枝一雄ほか『最新 基本会社法（第2版）』（中央経済社、2021年） また、Oh-o! Meiji 上でレジュメ等を配布する。		
6. 参考書 田中亘『会社法[第4版]』（東京大学出版会、2023年） 伊藤靖史ほか『会社法[第5版]（LEGAL QUEST）』（有斐閣、2021年） 神作裕之ほか編『会社法判例百選[第4版]』（有斐閣、2021年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートや定期試験の実施後に Oh-o! Meiji 上で解答例を掲載するとともに、Oh-o! Meiji のアンケート機能を使って質問を受け付ける。		
8. 成績評価の方法 中間レポートの提出を前提として定期試験により成績評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW261J		
会社法Ⅰ		南保 勝美
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、会社法に関する講義を行う。 会社法は、会社という企業の組織・運営に関する法律である。会社法は、会社を通じた経済活動のインフラを提供するというかたちで、国民経済にとって極めて重要な役割を果たしている。会社法のあり方が、その国の経済社会のあり方を規定するといっても過言ではない。そのため、会社法の役割は、たんに会社をめぐる関係者の私的利害を調整することにとどまるものではない。 本講義では、基本的に株式会社に関する法規制を中心とした講義を行いながら、これらの基本的な理解を得るとともに、会社法の現代的な課題を法的観点から考察する能力を獲得し、さらには問題解決能力を養うことを到達目標とする。 2 年次の春学期に開講される「商法概論・商法総則」は会社法を学ぶ上での前提知識を提供するものではない。ただし、「商法概論・商法総則」中の商法総則と会社法における総則規定（会社法総則）の内容はほぼ同一である。そこで、「商法概論・商法総則」における商法総則に関する解説をもって、会社法総則に関する解説に代えることにする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション：本講義に関するFAQ 第2回：会社法総論(1)：会社制度の意義と会社法改正について 第3回：会社法総論(2)：会社の営利性・社団法人性 第4回：会社法総論(3)：会社の種類等・株式会社の意義と特色 第5回：株式会社の設立(1)：設立手続きの概要 第6回：株式会社の設立(2)：設立をめぐる責任等 第7回：株式(1)：株式の意義・株主の権利義務・株主平等の原則等 第8回：株式(2)：種類株式・反対株主の株式買取請求権・種類株主総会等 第9回：株式(3)：株式の譲渡 第10回：株式(4)：自己株式の取得・株主名簿制度 第11回：株式会社の機関 第12回：株主総会(1)：意義・権限・議決権 第13回：株主総会(2)：総会および決議をめぐる諸問題 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・授業はレジュメ（講義メモ）を使用して行う。 ・レジュメは事前に Oh-o!Meiji システムにアップロードしておく。 ・受講生はあらかじめ当該授業の際に使用するレジュメをダウンロードし、それに目を通した上で、毎回の授業の際に持参すること。 ・受講の際には、必ず六法を持参すること。 ・なお、この科目を履修する場合は、併せて「会社法Ⅱ」および「会社法Ⅲ」も履修することが望ましい。 ・レジュメ以外の参考資料を配布することがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・各回の授業については、事前にダウンロードしたレジュメの該当箇所について目を通し、あわせて教科書等で調べておくこと。 ・また、復習については、授業で扱った問題について整理し、疑問点があれば授業の前後で質問して理解を深めるように努めてほしい。		
5. 教科書 『最新基本会社法(第2版)』三枝一雄・南保勝美・柿崎環・根本伸一（中央経済社、2021 年）。		
6. 参考書 ・参考書は指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・定期試験についての講評を Oh-o!Meiji の機能を利用して行う。		
8. 成績評価の方法 ・成績は定期試験により評価する。 ・定期試験は論述式で行う。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
会社法Ⅱ（法曹コース用）		松井 英樹
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 企業組織法としての会社法の後半、および企業取引の決済手段である有価証券としての手形・小切手法を取扱います。会社法分野においては、株式会社に關する法規制を中心に講義を進めます。会社法の体系についての基本的理解を踏まえたうえで、会社法が抱える現代的な課題、法改正の方向性について検討するとともに、近時の判例の動向についても必要に応じて紹介します。 【到達目標】 法的思考力の向上を目指しつつ、受講生が会社法等の基礎的知識、および体系的・論理的な思考方法を修得し、会社法をめぐる紛争についての確かな争点の整理、法規範の定立、事実の評価および的確な紛争解決を図る能力を身につけることを到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回：取締役の義務、競業取引・利益相反取引規制 第2回：取締役の報酬規制 第3回：取締役の会社に対する責任 第4回：株主代表訴訟 第5回：役員等の第三者に対する責任 第6回：会社の計算 第7回：募集株式の発行等(1) 募集株式の発行手続 第8回：募集株式の発行等(2) 募集株式の発行と既存株主の利益保護 第9回：新株予約権、社債の発行 第10回：株式会社のM&A、少数株主の締出し 第11回：株式会社の組織再編：合併、会社分割、株式交換、株式移転、株式交付、事業譲渡 第12回：決済手段としての手形・小切手の仕組み 第13回：手形行為についての法理論 第14回：人的抗弁の切断と善意取得 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・本授業は、事前に Oh-o!Meiji において配信する講義資料をもとに進行します。受講生は、授業の前に講義資料をダウンロード・プリントアウトする等して、授業に際してこれを持参してください。また、授業に際しては、教科書および学習用六法を持参することが求められます。 ・なお、この科目を履修する場合は、併せて「会社法Ⅰ」を履修することが望ましいです。 ・疑問点があれば、授業の前後または Oh-o!Meiji を通して積極的に質問して理解を深めるように努めてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学修の内容】 ・授業に参加するに際しては予習が必要不可欠です。受講生は、各授業の前に配信された講義資料の内容を確認するとともに、教科書の該当箇所・条文・関連判例をよく読み、あわせて会社法上の専門用語等を調べておいてください。 【復習すべき内容】 ・復習については、授業で扱った分野について教科書を精読するとともに、関連する判例につき、その事実の概要および判旨を確認することが求められます。		
5. 教科書 ・伊藤靖史=大杉謙一=田中亘=松井秀征『会社法〔第5版〕』（＝リーガルクエスト）（有斐閣、2021年）		
6. 参考書 ・江頭憲治郎『株式会社法〔第8版〕』（有斐閣・2021年） ・田中亘『会社法〔第3版〕』（東京大学出版会・2021年） ・高橋美加他『会社法〔第3版〕』（弘文堂・2020年） ・神作裕之他編『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣・2021年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内容の理解度を確認するための小テストを数回実施します。 実施期間終了後に、自動採点されるとともに、クラス Web を通して、解説が公表されます。 また、中間試験（レポート試験）については、提出期限後に、クラス Web において出題趣旨、解説が公表されます。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 学期末に実施する論述式の定期試験 50%、中間試験（レポート試験）20%、平常点（授業への参加度＋小テスト）30% 【成績評価の基準】 （1）会社法・手形法における初歩的な概念を理解しているか （2）会社法・手形法の条文を正確に適用するとともに、条文の読み方を理解しているか、 （3）事例を正確に分析し、法的三段論法を用いて、適切な紛争解決手段を提示することができるか、等を基準とします。		
9. その他 * 当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。		

科目ナンバー：(LA) LAW361J		
会社法Ⅱ		柿崎 環
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、会社法に関する講義を行う。 会社法は、会社という企業の組織・運営に関する法律である。会社法は、会社を通じた経済活動のインフラを提供するというかたちで、国民経済にとって極めて重要な役割を果たしている。会社法のあり方が、その国の経済社会のあり方を規定するといっても過言ではない。そのため、会社法の役割は、たんに会社をめぐる関係者の私的利害を調整することにとどまるものではない。 本講義では、基本的に株式会社に関する法規制を中心とした講義を行いながら、受講生が会社法に関する基本的な知識を習得することを到達目標とする。 本講義は、2 年次の春学期に開講される「商法概論・商法総則」と連続する位置づけとなっているが、「商法概論・商法総則」は会社法を学ぶ上での前提知識を提供するものではない。ただし、「商法概論・商法総則」中の商法総則と会社法における総則規定（会社法総則）の内容はほぼ同一である。そこで、「商法概論・商法総則」における商法総則に関する解説をもって、会社法総則に関する解説に代えることにする。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：競業取引、利益相反取引 第 3 回：取締役の報酬規制 第 4 回：役員等の会社に対する責任 第 5 回：役員等の第三者に対する責任 第 6 回：株主代表訴訟 第 7 回：会社の計算(1) 第 8 回：会社の計算(2) 第 9 回：募集株式の発行(1) 第 10 回：募集株式の発行(2) 第 11 回：新株予約権 第 12 回：組織再編(1)：事業譲渡、合併 第 13 回：組織再編(2)：会社分割、株式交換・株式移転 第 14 回：社債 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・授業はレジュメを使用して行う。 ・レジュメは事前に Oh-o! Meiji システムまたは担当者のホームページにアップロードしておく。 ・受講生はあらかじめ当該授業の際に使用するレジュメをダウンロードし、それに目を通した上で、毎回の授業の際に持参すること。 ・受講の際には、必ず六法を持参すること。 ・出欠は取らない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に次の授業で扱う該当箇所について読み込んで疑問点を明らかにしておくことが必要である。また、該当箇所に関連する判例についても、確認しておくことが望ましい。		
5. 教科書 三枝一雄ほか「最新 基本会社法」（中央経済社 2021 年）		
6. 参考書 ・授業の際に、適宜指示する。 ・レジュメ以外の参考資料を配付することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の総評を「授業のお知らせ」機能を使って配信する。		
8. 成績評価の方法 ・成績は定期試験により評価する。 ・定期試験は論述式で行う。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
会社法Ⅱ		南保 勝美
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 企業は、経済活動の主要な担い手であり、現代社会においては、会社形態をとる企業が中心的役割を果たしている。本講義は、そうした「会社」の組織・活動を定める基本私法である「会社法」を対象とし、株式会社法を中心に、会社制度・会社法上の諸原則の趣旨、仕組み、機能、問題点を明らかにすることを目的とする。到達目標としては、これらの基本的な理解を得るとともに、会社法の現代的な課題を法的観点から考察する能力を獲得し、さらには問題解決能力を養うことである。 本講義では、「会社法Ⅰ」に引き続いて、株式会社の経営機構、会社の計算、募集株式の発行等を中心に会社法の規制の解説を行い、個別問題を探っていく。理解を深めるために、できる限り判例・裁判例などの具体的素材を取りあげたい。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：経営機構とは（イントロダクションを兼ねる） 第2回：取締役・取締役会・代表取締役（1）それぞれの意義と役割 第3回：取締役・取締役会・代表取締役（2）それぞれの権限と解釈上の問題など 第4回：監査役・会計監査人・会計参与 第5回：監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社 第6回：競業取引・利益相反取引・役員の報酬 第7回：役員等の会社に対する責任・代表訴訟 第8回：役員等の第三者に対する責任 第9回：責任の免除、責任限定等 第10回：会社の計算 第11回：募集株式の発行等（1）資金調達の様態と募集株式の発行等の位置付け 第12回：募集株式の発行等（2）募集株式の発行等の態様 第13回：新株予約権・社債について 第14回：組織再編とまとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・授業は、レジュメ（講義メモ）を使用して行う。レジュメは、事前に0h-o!Meiji にアップロードしておく。受講生は、授業の前に使用するレジュメをダウンロードし、これに目を通すとともに、該当する条文に当たることが肝要である。レジュメは毎回の授業の際に持参すること。六法は最新年度版を用意・携帯することが推奨される。 ・また、新聞等で報道される会社法関連の事件にも関心を持ち、日ごろから問題点をじっくり考える習慣を身につけることを期待する。 ・なお、この科目を履修する場合は、併せて「会社法Ⅰ」・「会社法Ⅲ」も履修することが望ましい。 ・レジュメ以外の参考資料を配布することがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・各回の授業については、事前にダウンロードしたレジュメの該当箇所について目を通し、あわせて教科書等で調べておくこと。 ・また、復習については、授業で扱った問題について整理し、疑問点があれば授業の前後で質問して理解を深めるように努めてほしい。		
5. 教科書 『最新基本会社法（第2版）』三枝一雄・南保勝美・柿崎環・根本伸一（中央経済社・2021年）。		
6. 参考書 ・参考書は指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・定期試験についての講評を0h-o!Meiji の機能を利用して行う。		
8. 成績評価の方法 成績評価は期末の定期試験で行う。 試験は論述式で行う。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
会社法Ⅱ		根本 伸一
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、会社法について講義する。会社法とは、株式会社や合同会社などの会社の組織・運営に関するルールである。現代社会において、会社は経済活動のインフラとして重要な役割を果たしている。例えば、われわれは日々会社から様々な商品・サービスの提供を受け、また会社に従業員として雇われ、給料を受け取っている。さらに、起業をする際に自分で会社を作ってそれを使って事業を行うこともできる。会社法とは、このような会社が、社会において活動するための基本的なルールである。それゆえ、会社法を学ぶということは、最終的には一国の経済社会のあり方としてどのようなものが望ましいかというテーマにアプローチすることでもある。そこで本講義では、会社法の基本的な仕組みを説き起こすことを通して、経済活動のインフラとしての会社の仕組みを明らかにしたい。 また、本講義では、以下のことを心がける。 1. 最初の数回を除き、株式会社に関する説明を中心とし、他の会社については株式会社と対比する程度の説明にとどめる。 2. できるだけ会社法の全範囲を網羅したいと考えているので、その分、それぞれの制度の説明はコンパクトになる。 3. 判例・学説の細かい説明は最小限にし、むしろ関連のある制度間のつながりについて説明する。 本講義の到達目標は、受講生が会社法の基本的な仕組みとその使われ方について理解できるようになることである。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：役員等の損害賠償責任1 第3回：役員等の損害賠償責任2 第4回：株主の監督是正権 第5回：会社の計算1 第6回：会社の計算2 第7回：企業の資金調達、募集株式の発行等1 第8回：募集株式の発行等2 第9回：新株予約権 第10回：社債 第11回：事業譲渡、合併 第12回：株式交換、株式移転 第13回：会社分割、株式交付 第14回：総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 特に他の法律科目を履修しておくべきということはない。 むしろ企業活動に関する関心や会計学や経営学の知識があった方が、理解が進むと思われる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、授業の終了時に、次回の範囲、参考文献および注意事項等を告知する。		
5. 教科書 三枝一雄ほか『最新 基本会社法（第2版）』（中央経済社、2021年） また、Oh-o! Meiji 上でレジュメ等を配布する。		
6. 参考書 田中亘『会社法[第4版]』（東京大学出版会、2023年） 伊藤靖史ほか『会社法[第5版]（LEGAL QUEST）』（有斐閣、2021年） 岩原紳作ほか編『会社法判例百選 第4版』（有斐閣、2021年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートや定期試験の実施後に Oh-o! Meiji 上で解答例を掲載するとともに、Oh-o! Meiji のアンケート機能を使って質問を受け付ける。		
8. 成績評価の方法 中間レポートの提出を前提として定期試験により成績評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
会社法Ⅲ		柿崎 環
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、会社法Ⅰ・Ⅱの履修を前提にしたややアドバンストな講義を行う。 会社法は、会社という企業の組織・運営に関する法律であり、会社を通じた経済活動のインフラを提供するというかたちで、国民経済にとって極めて重要な役割を果たしている。今日、会社法のあり方が、その国の経済社会のあり方を左右するといっても過言ではない。そのため、会社法の役割は、単に会社をめぐる関係者の私的利害を調整することにとどまるものではなく、企業社会における公器としての株式会社の在り方そのものに変容を迫っている。 本講義では、株式会社に関する法規制の基礎的理解を前提として、さらに実践的な問題に取り組むことにより、受講生が会社法に関する問題解決能力を習得することを到達目標とする。本講義は、事例問題を解説する形をとり、双方型で授業を進める。そのため、受講生には、事前に指定された課題を解いたうえで講義に臨むことが求められる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：設立に関する実践問題 第3回：株主権に関する実践問題 第4回：株式の発行・移転に関する実践問題 第5回：株主総会に関する実践問題 第6回：コーポレート・ガバナンスに関する議論 第7回：取締役の利益相反取引・競業禁止義務に関する実践問題 第8回：役員等の会社および第三者に対する責任に関する実践問題 第9回：違法行為差止請求・株主代表訴訟に関する実践問題 第10回：募集株式の発行に関する実践問題(1) 第11回：募集株式の発行に関する実践問題(2) 第12回：新株予約権に関する実践問題 第13回：組織再編(1)：事業譲渡、合併に関する実践問題 第14回：組織再編(2)：会社分割、株式交換・株式移転に関する実践問題 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・事前に課題を解いて、講義に臨むことが求められる。 ・講義はレジュメを使用して行う。 ・レジュメは事前に Oh-o! Meiji システムまたは担当者のホームページにアップロードしておく。 ・受講生はあらかじめ当該授業の際に使用するレジュメをダウンロードし、それに目を通した上で、毎回の授業の際に持参すること。 ・受講の際には、必ず六法を持参すること。 ・出欠は取らない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に次回の授業で扱う該当箇所について読み込んで疑問点を明らかにしておくことが必要である。また、該当箇所に関連する判例についても、確認しておくことが望ましい。		
5. 教科書 三枝一雄ほか「最新 基本会社法」（中央経済社 2021 年）		
6. 参考書 ・授業の際に、適宜指示する。 ・レジュメ以外の参考資料を配付することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の総評を「授業のお知らせ」機能を使って配信する。		
8. 成績評価の方法 ・成績は定期試験により評価する。 ・定期試験は論述式で行う。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
手形・小切手法Ⅰ		高木 正則
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 手形・小切手は、商取引において支払の用具、信用の用具、送金・取立の用具として大きな役割を担ってきたが、近時においては電子決済システム（具体的には電子記録債権）への移行の動きなどから利用が減少している。しかし、手形・小切手法を学ぶことは、たとえば電子記録債権法の理解のためには大変重要である。同法の中には、善意取得（同法 19 条）、人的抗弁の切断（同法 20 条）など、手形法あるいは小切手法上の規定をそのままに生かしている規定も存在するからである。そこで、本講義ではまずは手形・小切手法に関する基本的な理解を得ることを目標にし、そのために必要な論点を取り扱うことにする。なお、現在使われている手形の多くが約束手形であることに鑑み、本講義では約束手形についての基本的な法律関係を明らかにし、為替手形および小切手については約束手形と異なる部分について触れるにとどめる。この手形・小切手法Ⅰでは、実社会における手形・小切手の意義と特徴から始めて、手形債務の発生段階の諸問題までを取り扱うことにする。もちろん、適宜電子記録債権法の内容にも触れる予定である。 本講義では教科書を指定する一方、担当者が作成したプリントを配布し(今のところ、oh-o! Meiji を通して配信するつもりである)、講義はそのプリントに沿って進行する（ただしプリントの説明だけでは理解は困難であることも多い）。また、対立のある個々の問題点についてできるだけ担当者の見解を明らかにするよう努める。なお、法学上において重要なのは自説を導く過程、すなわち論理であるので、受講者は担当者の見解を無批判に鵜呑みにすることなく他の見解をも意欲的に参照し、自説を導く能力の涵養に努めていただきたい。 なお、銀行等金融機関への就職を志す人にとっても手形・小切手法の知識、さらにそれを前提とする電子記録債権法の知識は有用というよりむしろ必須である。 【授業の到達目標】 (1) 手形法・小切手法特有の規定群について、それがどのような趣旨に基づいて設けられているものであるのかを理解することができるようになること。 (2) 法学上にとっては論理が肝要であるので、一步一步論理的な思考力を身につけられるようにすること。すなわち、見解がわかれている論点について、いかなる理由でいかなる見解が適切であると考えるか、説得することができる能力を身につけてもらうこと。		
2. 授業内容 概ね、下記の順序で講義を進める予定である。 第 1 回：a のみ：イントロダクション、手形・小切手の意義と機能（1）約束手形の意義と機能 第 2 回：手形・小切手の意義と機能（2）為替手形・小切手の意義と機能、手形・小切手と銀行実務（3）電子記録債権 第 3 回：手形行為の意義と特色、有価証券概念（民法上の規定も含め） 第 4 回：手形の記載事項（1）絶対的記載事項（手形要件） 第 5 回：手形の記載事項（2）有益的記載事項等（3）電子記録債権の場合 第 6 回：手形行為の成立時期（手形理論）、補論・電子記録債権の場合 第 7 回：手形行為と意思の欠缺・意思表示の瑕疵（1）民法 93-96 条の規定と手形行為、諸学説 第 8 回：手形行為と意思の欠缺・意思表示の瑕疵（2）諸学説の検討（3）電子記録債権の場合 第 9 回：他人による手形行為（代理方式と代行方式） 第 10 回：手形行為と無権代理・表見代理 第 11 回：手形行為と利益相反行為 第 12 回：手形の偽造 第 13 回：手形の変造 第 14 回：手形とその原因関係、補論・電子記録債権の場合 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本科目ではその性質上、民法の財産法（総則・物権・債権）との比較を行うことが多いので、履修しようとする者は財産法の講義をすでに履修していることが大いに望ましい。また、手形・小切手法Ⅱも併せて履修するのが大いに望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習の段階では六法を参照しながらテキストに目を通しておくこと、復習の段階では、授業で配布したプリントをよく読みながら、授業の説明や判例百選などの参考書を参考にしながらノートにまとめることをすすめる。		
5. 教科書 弥永真生著『リーガルマインド手形法・小切手法〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）。ただし、同書が品薄との情報もあるので、入手できなかった場合に代替できるテキストは追って指示する。		
6. 参考書 神田秀樹・神作裕之編『手形小切手判例百選〔第 7 版〕』（有斐閣、2014 年）。このほか、電子記録債権法を含む支払決済制度について概説したものとして、小塚莊一郎・森田果共著『支払決済法〔第 3 版〕』（商事法務、2018 年）がある。なお、民法上の有価証券に関する規定（民法 520 条の 2 から 520 条の 20 まで）について、山田誠一編『新注釈民法（10）債権（3）』（有斐閣、2024 年）も参考書として挙げておく（図書館で閲覧できる）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に適宜、知識確認のための簡単なアンケートを Oh-o! Meiji を使って実施し、その結果について授業内で簡潔に講評を含めてコメントすることを考えている。試験結果については全体的な講評を、成績開示後に行うことを考えている（方法は未定である）。		
8. 成績評価の方法 定期試験（論述式）によって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
手形・小切手法Ⅱ		高木 正則
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 手形・小切手は、商取引において支払の用具、信用の用具、送金・取立の用具として大きな役割を担ってきたが、近時においては電子決済システム（具体的には電子記録債権）への移行の動きなどから利用が減少している。しかし、手形・小切手法を学ぶことは、たとえば電子記録債権法の理解のためには大変重要である。同法の中には、善意取得（同法 19 条）、人的抗弁の切断（同法 20 条）など、手形法あるいは小切手法上の規定をそのままに生かしている規定も存在するからである。そこで、本講義ではまずは手形・小切手法に関する基本的な理解を得ることを目標にし、そのために必要な論点を取り扱うことにする。なお、現在使われている手形の多くが約束手形であることに鑑み、本講義では約束手形についての基本的な法律関係を明らかにし、為替手形および小切手については約束手形と異なる部分について触れるにとどめる。この手形・小切手法Ⅱでは、形の流通に関わる問題、支払段階の問題、さらに白地手形の問題などを取り扱うことにする。もちろん、適宜電子記録債権法の内容にも触れる予定である。 本講義では教科書を指定する一方、担当者が作成したプリントを配布し（今のところ、oh-o! Meiji を通して配信するつもりである）、講義はそのプリントに沿って進行する（ただしプリントの説明だけでは理解は困難であることも多い）。また、対立のある個々の問題点についてできるだけ担当者の見解を明らかにするよう努める。なお、法学上において重要なのは自説を導く過程、すなわち論理であるので、受講者は担当者の見解を無批判に鵜呑みにすることなく他の見解をも意欲的に参照し、自説を導く能力の涵養に努めていただきたい。 なお、銀行等金融機関への就職を志す人にとっても手形・小切手法の知識、さらにそれを前提とする電子記録債権法の知識は有用というよりむしろ必須である。 【授業の到達目標】 （１）手形法・小切手法特有の規定群について、それがどのような趣旨に基づいて設けられているものであるのかを理解することができるようになること。 （２）法学上にとっては論理が肝要であるので、一歩一歩論理的な思考力を身につけられるようにすること。すなわち、見解がわかれている論点について、いかなる理由でいかなる見解が適切であると考えるか、説得することができる能力を身につけてもらうこと。		
2. 授業内容 概ね、下記の順序で講義を進める予定である。 第 1 回：a のみ：イントロダクション、手形の流通と支払いの段階における重要ポイント 第 2 回：手形の裏書（１）通常の譲渡裏書、裏書の連続の意義 第 3 回：手形の裏書（２）裏書の連続の機能、特殊の譲渡裏書 第 4 回：手形の裏書（３）特殊の裏書（４）電子記録債権の譲渡 第 5 回：手形の善意取得、補論・電子記録債権の場合 第 6 回：手形抗弁と人的抗弁の制限（１）手形抗弁 第 7 回：手形抗弁と人的抗弁の制限（２）人的抗弁の切断の原則と悪意の抗弁 第 8 回：手形抗弁と人的抗弁の制限（３）人的抗弁の切断の原則に関する個別的問題（４）電子記録債権法における人的抗弁の切断 第 9 回：手形行為独立の原則、補論・電子記録債権の場合 第 10 回：手形の支払と遡求、補論・電子記録債権の場合 第 11 回：白地手形（１）白地手形の意義と機能 第 12 回：白地手形（２）白地手形に関する個別的問題 第 13 回：手形保証 第 14 回：手形上の権利の消滅と所持人の救済、為替手形、小切手 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本科目ではその性質上、民法の財産法（総則・物権・債権）との比較を行うことが多いので、履修しようとする者は財産法の講義をすでに履修していることが大いに望ましい。また、手形・小切手法Ⅰをすでに履修していることが大いに望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習の段階では六法を参照しながらテキストに目を通しておくこと、復習の段階では、授業で配布したプリントをよく読みながら授業の説明や判例百選などの参考書を参考にしながらノートにまとめることをすすめる。		
5. 教科書 弥永真生著『リーガルマインド手形法・小切手法〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）。ただし、同書が品薄との情報もあるので、入手できなかった場合に代替できるテキストは追って指示する。		
6. 参考書 神田秀樹・神作裕之編『手形小切手判例百選〔第 7 版〕』（有斐閣、2014 年）。このほか、電子記録債権法を含む支払決済制度について概説したもののとして、小塚莊一郎・森田果共著『支払決済法〔第 3 版〕』（商事法務、2018 年）がある。なお、民法上の有価証券に関する規定（民法 520 条の 2 から 520 条の 20 まで）について、山田誠一編『新注釈民法（10）債権（3）』（有斐閣、2024 年）も参考書として挙げておく（図書館で閲覧できる）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に適宜、知識確認のための簡単なアンケートを Oh-o! Meiji を使って実施し、その結果について授業内で簡潔に講評を含めてコメントすることを考えている。試験結果については全体的な講評を、成績開示後に行うことを考えている（方法は未定である）。		
8. 成績評価の方法 定期試験（論述式）によって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
保険・海商法 I		陳 亮
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 火災や交通事故など、様々な危険にさらされながら日々の生活を営まなければならない現代人にとって保険はなくてはならない存在であり、それを支えるための法制度としての保険法を知ることがきわめて有益である。他方、海上企業、ことに海上運送企業は日本及び世界の経済活動を根底から支えているものであり、それに特有の組織及び活動の両面にわたって規律している海商法（商法第三編）を学ぶ意義は決して小さくない。この授業では、保険法及び海商法に関する解説を行うが、本年度では保険法に重点を置き、海商法についてはその概要を説明するにとどめることとする。 なお、I では、保険法、保険契約及び損害保険契約の総論的な問題について、重要な判例・学説に触れながら解説する。 【到達目標】 この授業は、保険及び海商に関する法的な基礎知識と思考方法の習得を到達目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回（a モジュールのみ）：イントロダクション：保険とは何か 第 2 回：保険法総論：保険制度と保険法 第 3 回：保険契約総論(1)：保険契約の意義・性質 第 4 回：保険契約総論(2)：保険契約の当事者と関係者(1) 第 5 回：保険契約総論(2)：保険契約の当事者と関係者(2) 第 6 回：保険契約総論(3)：保険契約の成立(1) 第 7 回：保険契約総論(3)：保険契約の成立(2) 第 8 回：保険契約総論(4)：保険契約の内容 第 9 回：保険契約総論(5)：保険契約の効果(1) 第 10 回：保険契約総論(5)：保険契約の効果(2) 第 11 回：保険契約総論(6)：保険契約の終了 第 12 回：損害保険契約総論(1)：損害保険契約の意義・種類 第 13 回：損害保険契約総論(2)：損害保険契約の内容(1) 第 14 回：損害保険契約総論(2)：損害保険契約の内容(2)・春学期のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・受講の際には、必ず教科書及び六法を持参すること ・授業中のマナーを守ること ・この科目を履修する場合は、併せて「保険・海商法 II」も履修することが望ましい		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 受講前に教科書及び条文に目を通しておくこと 【復習すべき内容】 授業で扱った内容を正確に理解し、説明できるようにしておくこと		
5. 教科書 坂口光男著＝陳亮補訂『保険法（補訂版）』（文真堂、2012 年）		
6. 参考書 特に使用しない。ただし、必要に応じてレジュメや資料を配布することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji の【クラスウェブ】内の【授業内容・資料】を通じて解説を行う。		
8. 成績評価の方法 成績は原則として定期試験（100%）により評価する。ただし、授業態度や授業での発言等も考慮する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
保険・海商法Ⅱ		陳 亮
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 火災や交通事故など、様々な危険にさらされながら日々の生活を営まなければならない現代人にとって保険はなくてはならない存在であり、それを支えるための法制度としての保険法を知ることがはきわめて有益である。他方、海上企業、ことに海上運送企業は日本及び世界の経済活動を根底から支えているものであり、それに特有の組織及び活動の両面にわたって規律している海商法（商法第三編）を学ぶ意義は決して小さくない。この授業では、保険法及び海商法に関する解説を行うが、本年度では保険法に重点を置き、海商法についてはその概要を説明するにとどめることとする。 なお、Ⅱ では、各種の損害保険契約及び定額保険契約（生命保険契約・傷害疾病定額保険契約）に関する種々の法律問題について、重要な判例・学説に触れながら解説するとともに、海商法については、その概要を説明する。 【到達目標】 この授業は、保険及び海商に関する法的な基礎知識と思考方法の習得を到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回（aモジュールのみ）：イントロダクション 第2回：損害保険契約各論(1)：火災保険契約 第3回：損害保険契約各論(2)：傷害疾病損害保険契約 第4回：損害保険契約各論(3)：責任保険契約 第5回：生命保険契約(1)：生命保険契約の意義・種類・内容 第6回：生命保険契約(2)：他人の死亡の保険契約・第三者のためにする生命保険契約 第7回：生命保険契約(3)：生命保険契約の締結 第8回：生命保険契約(4)：生命保険契約の効果 第9回：生命保険契約(5)：生命保険特有の法律問題 第10回：傷害疾病定額保険契約(1)傷害保険契約 第11回：傷害疾病定額保険契約(2)疾病保険契約 第12回：海商法(1)：海商法総説 第13回：海商法(2)：海上企業組織・海上企業活動 第14回：海商法(3)：海上危険とその克服・秋学期のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・「保険・海商法Ⅰ」を履修済であること ・受講の際には、必ず教科書及び六法を持参すること ・授業中のマナーを守ること		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 受講前に教科書及び条文に目を通しておくこと 【復習すべき内容】 授業で扱った内容を正確に理解し、説明できるようにしておくこと		
5. 教科書 坂口光男著＝陳亮補訂『保険法（補訂版）』（文真堂、2012年）		
6. 参考書 特に使用しない。ただし、必要に応じてレジュメや資料を配布することがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji の【クラスウェブ】内の【授業内容・資料】を通じて解説を行う。		
8. 成績評価の方法 成績は原則として定期試験（100％）により評価する。ただし、授業態度や授業での発言等も考慮する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
銀行取引法（銀行取引法Ⅰ）		大野 正文
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 銀行取引法・銀行取引法Ⅰ（※）では、銀行の基本業務である預金業務、為替業務、貸付業務のうち、主として預金取引・為替取引を取り上げます。 銀行取引は、社会経済の中で重要な役割を果たしています。そして、他の経済取引と同様に、銀行取引もさまざまな法律やルールによって支えられています。特に、抽象的な金銭という価値やサービスを取引の対象とする銀行取引では、法・ルールは重要な役割を果たしています。本講義では、銀行取引の中でも比較的身近な預金や振込といった取引を取り上げて、銀行取引の基本的な事項を解説するとともに、そうした取引が実際の社会の中でどのような法・ルールにもとづき行われているかを講義します。預金取引や為替取引は、支払決済取引において中心的役割を果たしていますが、他方で、近年、キャッシュレス支払やFintechなども進展しており、新たな支払決済手段が広く利用されるようになってきています。こうした近時の金融取引や決済分野の話題も可能な範囲で取り上げたいと思います。 できる限り具体的な紛争事例を示し、事例の解決にどのような法律があるのか、銀行実務ではどのように取り扱われているのかを講義します。また、受講生が履修した（履修している）民法や商法は銀行取引を支える基本的な法律なので、その理解を確認しながら進めたいと考えています。 【授業の到達目標】 (1) 預金取引、為替取引の社会経済的な意義を理解している。 (2) 預金取引、為替取引を支える民法等の基本法に関する概念を理解している。 (3) 預金取引、為替取引において民法等がどのように機能しているかを理解している。 ※2025 年度、本講は、2022 年度以降の入学学生には、「銀行取引法」という半期科目として設置され、2021 年度以前の入学学生には「銀行取引法Ⅰ」として設定されています。したがって、2025 年度は、2021 年度以前の入学学生には、秋学期に「銀行取引法Ⅱ」が設置され、貸付取引、銀行取引における消費者保護を扱う予定です。		
2. 授業内容 第 1 回：銀行取引における法律・ルールの意義 第 2 回：銀行制度と法 第 3 回：預金取引とは 第 4 回：預金者は誰か？① 第 5 回：預金者は誰か？② - 保険代理店預金など 第 6 回：預金の払戻し①－窓口における預金の払戻し 第 7 回：預金の払戻し②－ATM 取引 第 8 回：預金の払戻し③－預金者保護法、インターネットバンキング 第 9 回：預金の相続 第 10 回：預金と時効 第 11 回：振込取引と内国為替制度 第 12 回：誤った振込と振り込み詐欺の問題 第 13 回：伝統的な支払決済手段（手形等）と銀行取引 第 14 回：a：電子的な支払決済手段（電子記録債権）と銀行取引、b：試験 以上に掲げる内容のほかに、近時の金融トピック（銀行以外の金融取引（保険、証券）、Fintech、金融 ADR 制度等）を取り上げる予定です。 また、秋学期に設置されている「銀行取引法Ⅱ」では貸付取引等を扱いますが、本講受講者の関心に応じて、貸付取引等についても適宜触れたいと思います。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本講義では、できる限り各回におけるテーマに関連する事例を最初に提示し、その事例を検討しながら進めます。事例検討において、受講者の積極的な発言や質問を期待します。 また、前述のとおり、銀行取引は、民法や商法といった基本的な法律によって支えられています。こうした基本的な法律はほかの授業において履修しているものと考えますが、銀行取引においてそうした法律がどのように適用されているのかを確認しながら進めていきますので、そうした基本法の理解の復習の意味も含めて受講してください。 上述のとおり、2021 年度以前の入学学生には、秋学期に「銀行取引法Ⅱ」が置かれていますが、「銀行取引法Ⅰ」受講生には、可能な限り「銀行取引法Ⅱ」を受講することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 次回取り上げる事例をあらかじめ提示するので、当該事例を読んで、自分なりの考えを整理しておいてください。 【復習すべき内容】 事例の分析のために掲げた法律、社会経済的な意義について、授業後に 0h-o! Meiji システム上にアップするレジュメを参考に、理解度を確認してください。		
5. 教科書 堀総合法律事務所編『スタンダード営業店の金融法務』（経済法令研究会） 本講義のすべてを網羅するテキスト・書籍はありませんが、銀行取引の基本的な知識の習得する上で参考となる本テキストを掲げています。授業では、レジュメ、資料等を 0h-o! Meiji システム上にアップないし配付します。		
6. 参考書 松本貞夫著『改訂 銀行取引法概論』（経済法令研究会） 神田秀樹ほか編著『金融法概説』（有斐閣） 以上のほか、授業内容に関連する参考文献は、授業の際に適宜紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験終了後、0h-o! Meiji システム上で講評、問題解説等を行います。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 期末試験 70%、平常点 30% 【成績評価の基準】 (1) 期末試験では、事例問題を提示し、講義で説明した法律概念、経済的な背景などを理解し、論理的に整理できているかを採点の基準とします。(2) 平常点は、授業への参加状況（質問や意見表明など）により評価します。		
9. その他 受講生が関心のある銀行取引上の問題も可能な範囲で取り上げたいと考えています。銀行以外の金融取引（証券、保険）についても、ゲストスピーカーを招いてお話を聞くことも予定しています。		

科目ナンバー：(LA) LAW361J		
金融商品取引法		越知 保見
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本講座では、商事法の理解に不可欠な金融商品取引法について、実務と会社法との関連性を意識した講義を行う。上場会社においては、金融商品取引法の規範と会社法の規範が複合して、M&A やガバナンスについての規範を形成しているので、商事法の理解においては、金融商品取引法の知識が必須である。また、株式・社債などの有価証券により資金を調達する場合には、金融商品取引法の開示規制こそが、最も重要な制度の枠組みである。金融商品の被害に関しても、金融商品取引法の知識がなければ、どのような救済が可能かについての助言を行うことは難しい。会社法についての深い理解のためには、金融商品取引法の知識は不可欠のものなのである。本講義では、まず会社の理解に欠かせないにもかかわらず、会社法で十分取り上げられない傾向のある資本政策(会社法の計算)から講義をはじめ、金商法が、M&A、企業金融、企業統治、金融商品の組成・被害救済という広範な分野に関連していることがわかるよう会社法と金商法の関連性・総合的理解に重点を置いた講義を行う。金商法は、学生にとって優しい科目ではないが、商事法の理解にとっては不可欠な科目であり、多くの学生が本講座を受講されることを期待する(金商法の難しさは、評価においても考慮する)。		
2. 授業内容 全 14 回のテーマは以下のとおりである。 第 1 回 会社の資本政策・バランスシートの意味・会社法と金商法の関係 第 2 回 金融商品取引法の開示規制の全体構造・流通開示規制・インサイダー取引規制 第 3 回 公開買付規制・自己株式の取得・自社株 TOB とインサイダー取引 第 4 回 公開買い付けの強圧性・敵対的買収を巡る判例の展開 第 5 回 敵対的買収の防衛策・ライツプランと委任状勧誘 第 6 回 株式買取請求と公開買い付けを利用したキャッシュアウト 第 7 回 発開示規制：募集と私募・売出し・社債・株式の発行・有価証券概念 第 8 回 金商法と会社法の開示・監査・内部統制の関係・内部統制と通報保護 第 9 回 不実開示の責任 第 10 回 2 項有価証券の規制と様々な金融商品(デリバティブ・投資信託・集団投資スキムなど) 第 11 回 金融商品取引業者と投資勧誘の規制(説明義務・適合性原則)・金融商品販売法による規制 第 12 回 不公正取引規制と不公正ファイナンス問題・ライツオフアリング・増資インサイダー 第 13 回 金融商品取引業・金融商品取引所・金融商品市場(プロアマ規制)・通報保護と通報妨害 第 14 回 総合または教場試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 金融商品取引法の基礎的な知識は、本テーマの理解に役立つが、教科書(公開会社法入門)を読めば、概略はわかるように解説されている。教科書(公開会社法入門)は、シラバスについてのレジュメのように考えてほしい。そして、教科書で言及された黒沼・金融商品取引法、江頭・会社法の該当箇所に目を通すと、金融商品取引法と会社法を深く総合的に理解することができる。		
5. 教科書 『公開会社法入門』越知保見(成文堂)		
6. 参考書 『金融商品取引法』黒沼悦郎、『株式会社法』江頭憲治郎		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 教場試験、授業への取り組み(平常点)を総合評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民事訴訟法Ⅰ（法曹コース用）		柳川 鋭士
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の内容】 本授業では、裁判所における紛争解決を規律する手続法である民事訴訟法について解説します。特に、民事訴訟手続の基本構造、基本構造を支配する理論と各理論間の相互の関連性に重点を置きます。 【授業の到達目標】 民事訴訟法は、その技術的性格から複雑で理解が困難であると思われる傾向にあります。しかし、司法試験等の資格試験のレベルに限定すれば、民事訴訟手続の基本構造、基本構造を支配する理論と各理論間の相互の関連性の修得が肝要であって、その修得自体は必ずしも困難ではなく、一旦修得してしまえば、民法等の実体法の理解も飛躍的に高まります。そこで、本講義では、民事訴訟法Ⅱとあわせて、民事訴訟手続の基本構造と基本構造を支配する理論と各理論間の相互の関連性を体系的に理解し基本的知識を修得することを目的とします。民事訴訟法Ⅰでは、二当事者対立構造における訴訟審理過程を中心として、訴訟物と要件事実、弁論主義、証拠（証拠の概念、証拠調べの手続等）及び証拠法を支配する基本理論（自由心証主義と証明責任等）、訴えの3類型、訴えの適法性、訴訟要件等、当事者と訴訟代理人等について、訴訟実務との架橋を踏まえた、解釈運用、展開する能力を涵養します。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（民事訴訟法へのいざない、学習の心得等、民事訴訟の基本構造） 第2回：訴訟物と要件事実（民法等の実体法と民事訴訟法との関係） 第3回：口頭弁論及びその準備 第4回：弁論主義（1）（根拠と機能、主要事実・間接事実・補助事実の区分等） 第5回：弁論主義（2）（根拠と機能、主要事実・間接事実・補助事実の区分等） 第6回：弁論主義（3）（釈明権、その他弁論主義に係る諸問題） 第7回：証拠（1）（証拠の概念、自白） 第8回：証拠（2）（証拠調べの手続等） 第9回：証拠（3）（自由心証主義と証明責任―その1―） 第10回：証拠（4）（自由心証主義と証明責任―その2―） 第11回：訴えの3類型 第12回：訴えの適法性、訴訟要件、訴訟判決 第13回：当事者概念、当事者の確定・変更・能力、訴訟能力 第14回：訴訟上の代理人、当事者適格、法定訴訟担当、任意的訴訟担当 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は、法曹コース所属学生を対象としたものです。履修者は、「民事訴訟法Ⅱ（法曹コース用）」も必ず履修して下さい。また、「民事訴訟法Ⅰ（法曹コース用）」及び「民事訴訟法Ⅱ（法曹コース用）」は春学期集中で開講されます。そのため、両科目併せて1日に2コマずつ授業を行い、春学期前半で「民事訴訟法Ⅰ（法曹コース用）」相当部分を、春学期後半に「民事訴訟法Ⅱ（法曹コース用）」相当部分を実施します。 「民事執行・保全法」、「倒産処理法」の履修を予定している者は、本講義を履修することが望まれます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 Oh-o! Meiji のクラスウェブにて、事前にレジュメをアップしますので、当該レジュメ及び教科書の該当箇所を読んでおいてください。 【復習すべき内容】 レジュメを参照し、授業において理解ができなかった箇所や難解であった箇所につき教科書や参考書で確認して下さい。		
5. 教科書 高橋宏志『民事訴訟法概論』（有斐閣、2016年） 高田裕成ほか『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第6版、2023年）		
6. 参考書 納谷廣美『演習民事訴訟法』（創成社、2005年） 高橋宏志『重点講義 民事訴訟法（上）』（有斐閣、第2版補訂版、2013年） 高橋宏志『重点講義 民事訴訟法（下）』（有斐閣、第2版補訂版、2014年） 伊藤真『民事訴訟法』（有斐閣、第8版、2023年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて、適宜該当箇所のレジュメ（場合によっては補講動画のアップ等）の指摘、授業内講義での補足等にてフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 中間テスト30%、期末試験70%によって評価します。 なお、中間テストは、法曹コース「一貫教育プログラム」（いわゆる法曹コース3+2）の特別選抜による法科大学院進学を目指す受講生は、当該中間テストの成績が選抜の判断対象となることがありますので、当該特別選抜による進学を予定している学生は進学を目指す法科大学院の資料等を確認してください。		
9. その他 イントロダクション時にも説明しますが、民事訴訟法の学習のコツは、民事訴訟法が円環的構造を有するため、理解できない概念や内容に直面しても、一旦それをわからないまま留保し、とにかく先に進んで勉強し、全体を一気に勉強して終わらせてしまうことです。 *当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民事訴訟法Ⅱ（法曹コース用）		柳川 鋭士
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の内容】 本授業では、裁判所における紛争解決を規律する手続法である民事訴訟法について解説します。特に、民事訴訟手続の基本構造、基本構造を支配する理論と各理論間の相互の関連性に重点を置きます。 【授業の到達目標】 民事訴訟法は、その技術的性格から複雑で理解が困難であると思われる傾向にあります。しかし、司法試験等の資格試験のレベルに限定すれば、民事訴訟手続の基本構造、基本構造を支配する理論と各理論間の相互の関連性の修得が肝要であって、その修得自体は必ずしも困難ではなく、一旦修得してしまえば、民法等の実体法の理解も飛躍的に高まります。そこで、民事訴訟法Ⅰに続いて、民事訴訟手続の基本構造と基本構造を支配する理論と各理論間の相互の関連性を体系的に理解し基本的知識を修得することを目的とします。民事訴訟法Ⅱでは、(1) 判決の効力及び判決後の一連の手続にかかわるものとして、処分権主義、判決の効力、既判力、上訴・再審による判決の取消等を対象とし、(2) 二当事者対立構造の応用形態として、複数請求及び多数当事者訴訟等を対象として、基本的知識と基礎理論に基づき、訴訟実務との架橋を踏まえた、解釈運用、展開する能力を涵養します。さらに、(3) 人事訴訟等、仲裁・ADR について基礎的知識を修得し、紛争に応じた多様な紛争解決手続を実際に活用できるようにする基盤の獲得に努めます。		
2. 授業内容 第1回：処分権主義（1）（訴えの取下げ、和解、請求権の放棄・認諾） 第2回：処分権主義（2）（申立事項と判決事項） 第3回：確定判決の効力、既判力の作用、既判力の時的限界 第4回：既判力の客観的範囲、理由中の拘束力 第5回：既判力の主観的範囲 第6回：判決の効力に係るその他の問題（1）（二重起訴、既判力の排除、執行力、形成力等） 第7回：判決の効力に係るその他の問題（2）（二重起訴、既判力の排除、執行力、形成力等） 第8回：請求の複数（訴えの併合、訴えの変更、反訴、中間確認の訴え） 第9回：当事者の複数（1）（共同訴訟、通常共同訴訟、必要的共同訴訟等） 第10回：当事者の複数（2）（補助参加等） 第11回：当事者の複数（3）（当事者参加、当事者変更） 第12回：当事者の複数（4）（訴訟承継等） 第13回：上訴（控訴、上告、抗告）、再審等 第14回：民事紛争とADR・非訟手続 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は、法曹コース所属学生を対象としたものです。履修者は、「民事訴訟法Ⅰ（法曹コース用）」も必ず履修して下さい。また、「民事訴訟法Ⅰ（法曹コース用）」及び「民事訴訟法Ⅱ（法曹コース用）」は春学期集中で開講されます。そのため、両科目併せて1日に2コマずつ授業を行い、春学期前半で「民事訴訟法Ⅰ（法曹コース用）」相当部分を、春学期後半に「民事訴訟法Ⅱ（法曹コース用）」相当部分を実施します。 「民事執行・保全法」、「倒産処理法」の履修を予定している者は、本講義を履修することが望まれます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 Oh-o! Meiji のクラスウェブにて、事前にレジュメをアップしますので、当該レジュメ及び教科書の該当箇所を読んでおいてください。 【復習すべき内容】 レジュメを参照し、授業において理解ができなかった箇所や難解であった箇所につき教科書や参考書で確認して下さい。		
5. 教科書 高橋宏志『民事訴訟法概論』（有斐閣、2016年） 高田裕成ほか『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第6版、2023年）		
6. 参考書 納谷廣美『演習民事訴訟法』（創成社、2005年） 高橋宏志『重点講義 民事訴訟法（上）』（有斐閣、第2版補訂版、2013年） 高橋宏志『重点講義 民事訴訟法（下）』（有斐閣、第2版補訂版、2014年） 伊藤真『民事訴訟法』（有斐閣、第8版、2023年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて、適宜該当箇所のレジュメ（場合によっては補講動画のアップ等）の指摘、授業内講義での補足等にてフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 中間テスト 30%、期末試験 70%によって評価します。 なお、中間テストは、法曹コース「一貫教育プログラム」（いわゆる法曹コース3+2）の特別選抜による法科大学院進学を目指す受講生は、当該中間テストの成績が選抜の判断対象となることがありますので、当該特別選抜による進学を予定している学生は進学を目指す法科大学院の資料等を確認してください。		
9. その他 インTRODクション時にも説明しますが、民事訴訟法の学習のコツは、民事訴訟法が円環的構造を有するため、理解できない概念や内容に直面しても、一旦それをわからないまま留保し、とにかく先に進んで勉強し、全体を一気に勉強して終わらせてしまうことです。 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民事訴訟法 I		岡田 洋一
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 私人間における売買や賃貸などの法律関係をめぐって利害が衝突し、紛争が起こることがある。この場合、かかる関係を規律する実体私法では私的自治の原則が妥当することから、紛争当事者が自主的に解決することも可能である。しかし、これが功を奏しないときには、民事訴訟によらなければならない。紛争未解決という状態は、その解決が実現できないという事態にとどまらず、権利の保護や私法秩序の維持という法治国家の基本問題にもかかわってくるからである。 そこで本講義では、民事訴訟手続の基本構造と基礎理論を修得することを目的とする。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：民事訴訟の基本構造 第 2 回：民事紛争解決手段の多様化 第 3 回：裁判所 第 4 回：当事者の確定 第 5 回：当事者能力・訴訟能力 第 6 回：代理 第 7 回：当事者適格 第 8 回：訴え提起 第 9 回：訴訟物 第 10 回：処分権主義 第 11 回：訴訟要件 第 12 回：必要的口頭弁論 第 13 回：口頭弁論の準備 第 14 回：弁論主義・釈明権 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「民事訴訟法Ⅱ」と合わせて履修することが望ましい。 「民事執行・保全法」、「倒産処理法」、「国際民事訴訟法」の履修を予定している者は、本講義を履修しておくことが望ましい。 最新の六法を用意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習】 教科書を読んでおくこと 【復習すべき内容】 教科書に加え、該当する裁判例について判例集を読むこと		
5. 教科書 小林秀之編『法学講義 民事訴訟法〔第 2 版〕』（弘文堂） 高田裕成ほか編『民事訴訟法判例百選〔第 6 版〕』（有斐閣）		
6. 参考書 伊藤眞『民事訴訟法〔第 8 版〕』（有斐閣） 新堂幸司『新民事訴訟法〔第 6 版〕』（弘文堂） 高橋宏志『重点講義民事訴訟法【上】〔第 2 版補訂版〕』（有斐閣） 高橋宏志『重点講義民事訴訟法【下】〔第 2 版補訂版〕』（有斐閣） 中野貞一郎ほか編『新民事訴訟法講義〔第 3 版〕』（有斐閣） 三木浩一ほか『民事訴訟法〔第 4 版〕』（有斐閣） 山本和彦編『Law Practice 民事訴訟法〔第 5 版〕』（商事法務・2024 年）、など		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 期末試験による。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民事訴訟法Ⅱ		岡田 洋一
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 私人間における売買や賃貸借などの法律関係をめぐって利害が衝突し、紛争が起こることがある。この場合、かかる関係を規律する実体私法では私的自治の原則が妥当することから、紛争当事者が自主的に解決することも可能である。しかし、これが功を奏しないときには、民事訴訟によらなければならない。紛争未解決という状態は、その解決が実現できないという事態にとどまらず、権利の保護や私法秩序の維持という法治国家の基本問題にもかかわってくるからである。 そこで本講義では、民事訴訟手続の基本構造と基礎理論を修得することを目的とする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：民事訴訟法Ⅰの復習 第2回：証拠 第3回：自由心証主義 第4回：証明責任 第5回：既判力の意義、時的限界 第6回：既判力の客観的範囲 第7回：既判力の主観的範囲 第8回：当事者の行為による訴訟の終了 第9回：上訴 第10回：複数請求訴訟 第11回：複数当事者訴訟 第12回：訴訟参加 第13回：当事者の変更 第14回：再審・特別訴訟 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「民事訴訟法Ⅱ」と合わせて履修することが望ましい。 「民事執行・保全法」、「倒産処理法」、「国際民事訴訟法」の履修を予定している者は、本講義を履修しておくことが望ましい。 最新の六法を用意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習】 教科書を読んでおくこと 【復習すべき内容】 教科書に加え、該当する裁判例について判例集を読むこと		
5. 教科書 小林秀之編『法学講義 民事訴訟法〔第2版〕』（弘文堂） 高田裕成ほか編『民事訴訟法判例百選〔第6版〕』（有斐閣）		
6. 参考書 伊藤真『民事訴訟法〔第8版〕』（有斐閣） 新堂幸司『新民事訴訟法〔第6版〕』（弘文堂） 高橋宏志『重点講義民事訴訟法【上】〔第2版補訂版〕』（有斐閣） 高橋宏志『重点講義民事訴訟法【下】〔第2版補訂版〕』（有斐閣） 中野貞一郎ほか編『新民事訴訟法講義〔第3版〕』（有斐閣） 三木浩一ほか『民事訴訟法〔第4版〕』（有斐閣） 山本和彦編『Law Practice 民事訴訟法〔第5版〕』（商事法務・2024年）、など		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 期末試験による。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民事訴訟法Ⅰ		清水 宏
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 民事紛争には多種多様なものがあり、また、それに応じてその解決のための方法も多種多様である。もともと、紛争解決の基本原則や基準は、国家の設ける裁判所における民事訴訟制度に求められることが多い。そこで、本講義では、民事紛争処理の最も基本的な手続である判決手続の理解を中心とする。 ところで、民事訴訟は、その名の通り、民事、すなわち民法や商法などが適用される私人間の権利関係について、裁判所に判断を求めるための手続である。すなわち、「お金を払ってほしい」、「土地を明け渡してほしい」、などといった、社会生活上生じる争いに関する一方の当事者の申立てに対して、裁判所が判決をもって回答することをもって、相手方当事者との間に存在する争い自体を解決するための仕組みを学ぶものである。そこで、講義においては、この訴訟手続に関するルールと、この仕組みを動かすための理論について理解することを目的とする。 【到達目標】 ・ 訴訟手続に関する基本的な法律用語の意味を正確に把握する。 ・ 訴訟手続全体の流れを順を追って把握する。 ・ 特に、根拠条文のない手続理論や手続上の概念の内容を正確に理解 する。 ・ 手続法的価値に従って民事訴訟法規の解釈・適用を行えるようになる。 ・ 関連する民事手続との関係を視野に入れた大局的な制度の考察を行えるようにする。		
2. 授業内容 第1回： イントロダクション、民事訴訟法を学習する意義、自力救済の禁止と民事訴訟、民事訴訟手続の特徴 第2回： 裁判外紛争処理制度、民事訴訟の諸領域（民事執行・民事保全・倒産処理手続） 第3回： 民事訴訟の目的と理念、民事訴訟法の法規、裁判所の構成、 第4回： 民事裁判権、国際裁判管轄、国内裁判管轄、移送 第5回： 当事者の意義、当事者の確定、当事者能力、訴訟能力、弁論能力 第6回： 訴訟における代理人等、訴え、提訴前の照会等 第7回： 訴えの提起、訴訟物、訴訟係属、訴訟要件総論 第8回： 訴えの利益、当事者適格 第9回： 職権進行主義、裁判所の訴訟指揮権、期日・期間・送達・訴訟手続の中断 第10回： 弁論主義、事実の意義 第11回： 釈明権、釈明義務、職権探知主義、口頭弁論の意義・必要性 第12回： 口頭弁論の準備、口頭弁論を支える審理原則、口頭弁論の整序 第13回： 口頭弁論における当事者の欠席、訴訟行為総論 第14回： 訴訟行為と私法行為の関係、訴訟における信義則の適用 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 民事執行法・民事保全法、倒産処理法を履修する前に履修を終えておくことが望ましい科目です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習の内容】 ・ 教科書の次回授業範囲に相当する部分を少なくとも2回読んでおく。 ・ レジュメに目を通して、必要事項を書き込んでおく。 ・ 疑問点をメモしておく。 【復習の内容】 ・ 教科書の授業範囲を読んで、自分の理解度を確認しておく。 ・ 疑問点が解消されたかを確認しておく。 ・ 授業の要旨を短い文章でまとめておく。		
5. 教科書 『民事訴訟法〔第2版〕』小田司編（弘文堂）		
6. 参考書 『民事訴訟法〔第3版〕』安西明子ほか編（弘文堂） 『民事訴訟法〔第4版〕』三木浩一ほか編（有斐閣） 『民事訴訟法〔第8版〕』伊藤真（有斐閣） 『民事訴訟法判例百選〔第6版〕』高田裕成ほか編（有斐閣） * レジュメも配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験の正答解説、レポートの評価基準等については、0h-o!Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 原則として、期末試験（100%）で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民事訴訟法Ⅱ		清水 宏
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 民事紛争には多種多様なものがあり、また、それに応じてその解決のための方法も多種多様である。もっとも、紛争解決の基本原理や基準は、国家の設営する裁判所における民事訴訟制度に求められることが多い。そこで、本講義では、民事紛争処理の最も基本的な手続である判決手続の理解を中心的な目的とする。 ところで、民事訴訟は、その名の通り、民事、すなわち民法や商法などが適用される私人間の権利関係について、裁判所に判断を求めるための手続である。すなわち、「お金を払ってほしい」、「土地を明け渡してほしい」、などといった、社会生活上生じる争いに関する一方の当事者の申立てに対して、裁判所が判決をもって回答することでもって、相手方当事者との間に存在する争い自体を解決するための仕組みを学ぶものである。そこで、講義においては、この訴訟手続に関するルールと、この仕組みを動かすための理論について理解することを目的とする。		
【到達目標】 ・訴訟手続に関する基本的な法律用語の意味を正確に把握する。 ・訴訟手続全体の流れを順を追って把握する。 ・特に、根拠条文のない手続理論や手続上の概念の内容を正確に理解 する。 ・手続法的価値に従って民事訴訟法規の解釈・適用を行えるようになる。 ・関連する民事手続との関係を視野に入れた大局的な制度の考察を行えるようにする。		
2. 授業内容 第1回： イントロダクション、証拠・証明の意義、証明の対象、不要証事実、証拠申し出 第2回： 証拠調べの実施、証拠保全、証人尋問、当事者尋問、鑑定 第3回： 書証、検証、自由心証主義の意義 第4回： 自由心証主義の内容、証明責任、訴えの取り下げ 第5回： 請求の放棄・認諾、裁判上の和解、裁判の意義、種類、判決の成立と確定、 第6回： 判決効の種類、既判力の意義、性質、作用、既判力の時的範囲 第7回： 既判力の客観的範囲、既判力の主観的範囲 第8回： 反射効、執行力、形成力、付随的裁判、請求の併合 第9回： 訴えの変更、反訴、中間確認の訴え 第10回： 通常共同訴訟、同時審判申し出共同訴訟、必要的共同訴訟総論 第11回： 必要的共同訴訟各論、独立当事者参加 第12回： 共同訴訟参加、補助参加、訴訟告知、訴訟承継、任意的当事者変更 第13回： 上訴総論、控訴、上告 第14回： 抗告、再審、略式訴訟手続 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 民事執行法・民事保全法、倒産処理法を履修する前に履修を終えておくことが望ましい科目です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習の内容】 ・教科書の次回授業範囲に相当する部分を少なくとも2回読んでおく。 ・レジュメに目を通して、必要事項を書き込んでおく。 ・疑問点をメモしておく。 【復習の内容】 ・教科書の授業範囲を読んで、自分の理解度を確認しておく。 ・疑問点が解消されたかを確認しておく。 ・授業の要旨を短い文章でまとめておく。		
5. 教科書 『民事訴訟法 [第2版]』小田司編（弘文堂）		
6. 参考書 『民事訴訟法 [第3版]』安西明子ほか編（弘文堂） 『民事訴訟法 [第4版]』三木浩一ほか編（有斐閣） 『民事訴訟法 [第8版]』伊藤真（有斐閣） 『民事訴訟法判例百選 [第6版]』高田裕成ほか編（有斐閣） * レジュメも配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験の正答解説、レポートの評価基準等については、Oh-o!Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 原則として、期末試験（100%）で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民事執行・保全法Ⅰ		岡田 洋一
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 実体私法が規律する権利法律関係をめぐって紛争が生じた場合、民事訴訟法によって規律される判決手続によってその解決がなされる。しかし、判決手続では争いとなっている権利義務関係の存否を観念的に確定し、当事者に一定の行為を命じるにとどまる。もちろん判決に従って当事者が任意に履行すれば問題ないが、そうでない場合には、自力救済が禁止されていることから、国家によって判決で確定された権利を強制的に実現しなければならない。また、将来の強制執行のためには、暫定的に債務者の財産を確保したり、財産の状況を固定したりすることが必要となる。前者が民事執行手続であり、後者が民事保全手続である。 本講義では、重要判例や最新判例も取り上げつつ、民事執行・保全手続の基本構造を学修する。		
【到達目標】 民事執行・保全手続の基本構造を修得し、これによって実現しようとしている実体法上の権利を正確に理解することで、実体法と手続法との関係を把握することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：民事執行・保全手続の基本構造 第3回：執行当事者 第4回：執行機関 第5回：執行抗告と執行異議 第6回：債務名義（1） 第7回：債務名義（2） 第8回：執行文 第9回：執行関係訴訟（1） 第10回：執行関係訴訟（2） 第11回：強制執行の対象 第12回：強制執行手続の進行 第13回：不動産執行（1） 第14回：不動産執行（2） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 学習効果があるよう、「民事執行・保全法Ⅱ」および「民事訴訟法Ⅰ・Ⅱ」と併せて履修・修得することが望ましい。 最新版の六法を用意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ○予習 指定された教科書等の範囲を読んでおくこと。 ○復習 参考書に取り上げた文献を読むこと。		
5. 教科書 上原敏夫ほか『民事執行・保全法〔第7版〕』（有斐閣） 上原敏夫ほか編『民事執行・保全判例百選〔第3版〕』（有斐閣）		
6. 参考書 中野貞一郎＝下村正明『民事執行法〔改訂版〕』（青林書院） 瀬木比呂志『民事保全法〔新訂第2版〕』（日本評論社） 山本和彦ほか編『新基本法コンメンタール民事執行法』（日本評論社） 山本和彦ほか編『新基本法コンメンタール 民事保全法』（日本評論社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji で行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験100%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民事執行・保全法Ⅱ		岡田 洋一
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 実体私法が規律する権利法律関係をめぐって紛争が生じた場合、民事訴訟法によって規律される判決手続によってその解決がなされる。しかし、判決手続では争いとなっている権利義務関係の存否を観念的に確定し、当事者に一定の行為を命じるにとどまる。もちろん判決に従って当事者が任意に履行すれば問題ないが、そうでない場合には、自力救済が禁止されていることから、国家によって判決で確定された権利を強制的に実現しなければならない。また、将来の強制執行のためには、暫定的に債務者の財産を確保したり、財産の状況を固定したりすることが必要となる。前者が民事執行手続であり、後者が民事保全手続である。 本講義では、重要判例や最新判例も取り上げつつ、民事執行・保全手続の基本構造を学修する。		
【到達目標】 民事執行・保全手続の基本構造を修得し、これによって実現しようとしている実体法上の権利を正確に理解することで、実体法と手続法との関係を把握することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：民事執行・保全法Ⅰの復習 第2回：動産執行 第3回：債権執行（1） 第4回：債権執行（2） 第5回：非金銭執行 第6回：担保権の実行（1） 第7回：担保権の実行（2） 第8回：民事保全の意義 第9回：仮差押え 第10回：係争物に関する仮処分 第11回：仮の地位を定める仮処分（1） 第12回：仮の地位を定める仮処分（2） 第13回：相手方保護と不服申立て 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 学習効果があるよう、「民事執行・保全法Ⅰ」および「民事訴訟法Ⅰ・Ⅱ」と併せて履修・修得することが望ましい。 最新版の六法を用意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ○予習 指定された教科書等の範囲を読んでおくこと。 ○復習 参考書に取り上げた文献を読むこと。特に判例百選。		
5. 教科書 上原敏夫ほか『民事執行・保全法〔第7版〕』（有斐閣） 上原敏夫ほか編『民事執行・保全判例百選〔第3版〕』（有斐閣）		
6. 参考書 中野貞一郎＝下村正明『民事執行法〔改訂版〕』（青林書院） 瀬木比呂志『民事保全法〔新訂第2版〕』（日本評論社） 山本和彦ほか編『新基本法コンメンタール民事執行法〔第2版〕』（日本評論社） 山本和彦ほか編『新基本法コンメンタール 民事保全法』（日本評論社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 oh-o!Meiji で適宜行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験100%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
倒産処理法Ⅰ		清水 宏
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 倒産という現象にはネガティブな要素が多く、できることであればかわりになりたくないものであるが、ある意味、経済活動を進める上では避けられないものでもあり、むしろ、これを処理・克服して、「リストラ」という言葉の本来の意味にふさわしく、さらなる成長につなげることが重要であるといえよう。 ところで、講義の名称は倒産処理法となっているが、実際にそうした名称の統一法典は存在しない。多様な倒産事件に応じて適切な対応ができるよう、倒産処理に関する複数の法律が制定され、それらを総称して倒産処理法と呼んでいる。こうしたことから、本講義では、まずは我が国の倒産処理法制度の全体構造を概観したうえで、最も基本的な手続であり、また、最後の手段とも位置づけられる破産手続を学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ・倒産法制度の全体構造を理解する。 ・平時の法と緊急時の法の違いを理解する。 ・破産手続に関する実体規定と手続規定が民法や民事訴訟法とどのように異なるかを理解する。 ・倒産事件における具体的な問題に対して、法を解釈・適用して処理する能力を身に付ける。		
2. 授業内容 第1回： イントロダクション、倒産の意義、倒産処理の必要性、倒産立法、倒産処理手続の種類、倒産法の構造、倒産制度の課題 第2回： 私的整理、倒産ADR、破産制度の意義、破産能力総論 第3回： 破産能力各論、破産手続開始申立て、破産手続開始前の保全処分 第4回： 包括的禁止命令、破産手続開始決定とその効果、破産裁判所 第5回： 破産管財人、その他の機関、破産財団と固定主義 第6回： 破産財団の要件、自由財産、破産債権の要件・権利変更・順位、全部義務を負う者の破産 第7回： 求償権者の破産手続上の地位、財団債権、破産者の行った法律行為の効果 第8回： 破産者の行為によらない権利取得、破産者を当事者とする訴訟等の取扱い、破産者を当事者とする契約関係の処理総論 第9回： 破産者を当事者とする契約関係の処理各論、取戻権 第10回： 別除権の意義・要件・内容、別除権と不足額責任主義、担保権消滅請求等制度 第11回： 相殺権の意義・相殺権の範囲の拡張、相殺権に対する制限、相殺権の実行 第12回： 否認権総論、詐害行為否認、偏頗行為否認 第13回： 特殊な否認、否認の制限、否認権の行使、否認に関する諸問題、法人の役員等に対する責任追及 第14回： 破産手続の進行、破産債権の届出・調査 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・民事訴訟法の履修を終えていることが望ましい科目です。 ・民事執行法・民事保全法と関連します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習の内容】 ・教科書の次回授業範囲に相当する部分を少なくとも2回読んでおく。 ・レジュメに目を通して、必要事項を書き込んでおく。 ・疑問点をメモしておく。 【復習の内容】 ・教科書の授業範囲を読んで、自分の理解度を確認しておく。 ・疑問点が解消されたかを確認しておく。 ・授業の要旨を短い文章でまとめておく。		
5. 教科書 『倒産処理法入門 [第5版]』山本和彦（有斐閣）		
6. 参考書 『倒産法』杉本和士ほか（有斐閣） 『倒産法』倉部真由美ほか編（有斐閣） 『倒産法概説 [第2版補訂版]』山本和彦ほか編（弘文堂） 『破産法・民事再生法 [第5版]』伊藤真（有斐閣） 『倒産判例百選 [第6版]』松下淳一ほか編（有斐閣） * レジュメも配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験の正答解説、レポートの評価基準等については、Oh-o!Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 原則として、期末試験（100％）で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
倒産処理法Ⅱ		清水 宏
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 倒産という現象にはネガティブな要素が多く、できることであれはかわりになりたくないものであるが、ある意味、経済活動を進める上では避けられないものでもあり、むしろ、これを処理・克服して、「リストラ」という言葉の本来の意味にふさわしく、さらなる成長につなげることが重要であるといえよう。 ところで、講義の名称は倒産処理法となっているが、実際にそうした名称の統一法典は存在しない。多様な倒産事件に応じて適切な対応ができるよう、倒産処理に関する複数の法律が制定され、それらを総称して倒産処理法と呼んでいる。こうしたことから、本講義では、倒産処理法Ⅰの続きとして、破産手続、民事再生手続、会社更生手続、特別清算手続を学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ・倒産法制の全体構造を理解する。 ・平時の法と緊急時の法の違いを理解する。 ・民事再生手続に関する実体規定と手続規定が、破産法や、民法および民事訴訟法とどのように異なるかを理解する。 ・倒産事件における具体的な問題に対して、法を解釈・適用して処理する能力を身に付ける。		
2. 授業内容 第1回： イントロダクション、破産債権の確定、破産財団の管理 第2回： 破産配当、破産手続終結決定、破産手続廃止、免責制度の意義 第3回： 免責の手続、復権、民事再生手続総論、民事再生手続開始申立ての要件 第4回： 民事再生手続開始申立ての手続、保全処分、民事再生手続開始決定 第5回： 民事再生手続開始決定の効力、再生債務者の地位、民事再生手続の機関 第6回： 再生債権、共益債権、一般優先債権、開始時債権、再生債務者財産、双方未履行双務契約の処理総論 第7回： 双方未履行双務契約（賃貸借、リース、労働、商品取引、その他）の処理、取戻権、相殺権総論 第8回： 相殺権の制限、否認権の行使、別除権 第9回： 再生計画案の作成、再生計画案の条項 第10回： 再生計画案の提出、決議、効力 第11回： 再生計画の遂行、民事再生手続の終結 第12回： 職権による破産手続への移行、簡易再生・同意再生、小規模個人再生手続 第13回： 給与所得者等再生手続、住宅資金貸付債権に関する特則 第14回： 会社更生手続、特別清算手続 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・民事訴訟法の履修を終えていることが望ましい科目です。 ・民事執行法・民事保全法と関連します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習の内容】 ・教科書の次回授業範囲に相当する部分を少なくとも2回読んでおく。 ・レジュメに目を通して、必要事項を書き込んでおく。 ・疑問点をメモしておく。 【復習の内容】 ・教科書の授業範囲を読んで、自分の理解度を確認しておく。 ・疑問点が解消されたかを確認しておく。 ・授業の要旨を短い文章でまとめておく。		
5. 教科書 『倒産処理法入門 [第5版]』山本和彦（有斐閣）		
6. 参考書 『倒産法』杉本和士ほか（有斐閣） 『倒産法』倉部真由美ほか編（有斐閣） 『倒産法概説 [第2版補訂版]』山本和彦ほか編（弘文堂） 『破産法・民事再生法 [第5版]』伊藤真（有斐閣） 『倒産判例百選 [第6版]』松下淳一ほか編（有斐閣） * レジュメも配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験の正答解説、レポートの評価基準等については、Oh-o!Meiji を通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 原則として、期末試験（100%）で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW356J		
刑事訴訟法Ⅰ（法曹コース用）〔M〕		黒澤 睦
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法 31 条は、「何人も、法律の定める手続によらなければ、その生命若しくは自由を奪はれ、又はその他の刑罰を科せられない」と規定しています。これを受けて、刑事訴訟法 1 条は、「この法律は、刑事事件につき、公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現することを目的とする」と規定しています。刑事訴訟法Ⅰでは、この理念が刑事手続の各場面（捜査等）でどのように実現されているのか、あるいはどのように実現されるべきなのか、を講義します。 刑事手続を実際のシステムとして理解するためには、判例・実務の運用を把握することが必須です。したがって、それらに特に留意して講義を進めます。また、重要な争点については、判例・学説やその対立の説明にとどまらず、そうした対立がどうして生じてくるのか、それぞれどのような考え方に基づくのか、といったところまで踏み込んで解説します。その際、解釈論の限界を踏まえうえて、立法政策論にも触れます。刑事訴訟法Ⅰでは、主として、起訴前の手続を取り扱います。 【到達目標】 本授業は、刑事手続を構成する各制度の趣旨・目的や基礎的概念の正確な理解、基本的な重要判例についてその判例法理および射程についての正確な理解という基礎力を確実に身に付けることを目的としています。 本授業の到達目標は、刑事訴訟法の基本原則・制度趣旨や判例法理等に関わる基本的事項の正確な理解を修得すること、さらに法適用にとって不可欠となる具体的事実の分析・評価および具体的帰結に至る論理的思考能力を涵養することです。具体的には、「共通的な到達目標モデル（第二次案修正案）：刑事訴訟法」のうち、法科大学院未修 1 年次配当の本授業科目に相当する授業科目で求められている到達度と同等以上の到達度に達することが必要です。		
2. 授業内容 刑事訴訟法Ⅱ（法曹コース用）とあわせ、秋学期集中で、1 日に 2 コマずつ講義します。 第 1・2 回：刑事手続の流れ、刑事訴訟法の基本原理 第 3・4 回：刑事手続の関与者 第 5・6 回：捜査の諸原則、強制捜査と任意捜査 第 7・8 回：捜査の端緒（職務質問、所持品検査等） 第 9・10 回：身体拘束（逮捕、勾留） 第 11・12 回：証拠の収集・保全（搜索・差押え、検証、通信傍受、鑑定等） 第 13・14 回 a：取調べ、被疑者等の防御（黙秘権、接見交通権等） 第 14 回 b：小テスト ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は、法曹コースの学生向けに開講されます。法科大学院入試で「特別選抜（5 年一貫型）」または「特別選抜（開放型）」を受験する場合、法曹コース以外向けの授業ではなく、必ずこの「法曹コース用」授業を履修して下さい。 本科目を履修するにあたって、「憲法（人権）」、「刑法（総論）」を単位修得済であることが強く望まれます。 「刑事訴訟法Ⅱ（法曹コース用）」とセットで受講して下さい。 【メディア授業科目に関する注意事項】 本授業は、ハイブリッド型（対面型、リアルタイム型、オンデマンド型の自由選択）のメディア授業科目です。詳細は、シラバスの補足を参照してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本科目の 2 単位を修得するためには、他の授業と同様に、授業にすべて出席する（30 時間相当）ほか、標準 60 時間の学修（予習・復習等）が必要になります。 各自の教科書の該当箇所を必ず一読したうえで授業に臨んでください。		
5. 教科書 特に指定しません。 初回授業で市販されている主な教科書の一覧表を配布してそれぞれの特徴を説明しますので、自分に合ったものを選んで下さい。 Oh-o! Meiji システムで事前にレジュメを配布し、それに従って授業を進行します。		
6. 参考書 最新の六法。 初回授業で市販されている主な参考書の一覧表を配布してそれぞれの特徴を説明しますので、自分に合ったものを選んで下さい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストと期末テストの採点講評を Oh-o!Meiji で配信します。		
8. 成績評価の方法 小テスト（正誤判定問題等、約 30%、Oh-o!Meiji 上で実施）と期末定期試験（説明・論述問題等、約 70%、対面で実施、CBT 方式の可能性あり）とを総合して判定します。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。		

科目ナンバー：(LA)LAW356J		
刑事訴訟法Ⅱ（法曹コース用）〔M〕		黒澤 睦
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法 31 条は、「何人も、法律の定める手続によらなければ、その生命若しくは自由を奪はれ、又はその他の刑罰を科せられない」と規定しています。これを受けて、刑事訴訟法 1 条は、「この法律は、刑事事件につき、公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現することを目的とする」と規定しています。刑事訴訟法Ⅱでは、この理念が刑事手続の各場面（公訴提起、公判等）でどのように実現されているのか、あるいはどのように実現されるべきなのか、を講義します。 刑事手続を実際のシステムとして理解するためには、判例・実務の運用を把握することが必須です。したがって、それらに特に留意して講義を進めます。また、重要な争点については、判例・学説やその対立の説明にとどまらず、そうした対立がどうして生じてくるのか、それぞれどのような考え方に基づくのか、といったところまで踏み込んで解説します。その際、解釈論の限界を踏まえ、立法政策論にも触れます。刑事訴訟法Ⅱでは、主として、起訴後の手続を取り扱います。 【到達目標】 本授業は、刑事手続を構成する各制度の趣旨・目的や基礎的概念の正確な理解、基本的な重要判例についてその判例法理および射程についての正確な理解という基礎力を確実に身に付けることを目的としています。 本授業の到達目標は、刑事訴訟法の基本原則・制度趣旨や判例法理等に関わる基本的事項の正確な理解を修得すること、さらに法適用にとって不可欠となる具体的事実の分析・評価および具体的帰結に至る論理的思考能力を涵養することです。具体的には、「共通的な到達目標モデル（第二次案修正案）：刑事訴訟法」のうち、法科大学院未修 1 年次配当の本授業科目に相当する授業科目で求められている到達度と同等以上の到達度に達することが必要です。		
2. 授業内容 刑事訴訟法Ⅰ（法曹コース用）とあわせ、秋学期集中で、1 日に 2 コマずつ講義します。 第 1・2 回：公訴の提起（起訴便宜主義、起訴状一本主義）、審判対象論 第 3・4 回：訴因の特定・変更、訴訟条件 第 5・6 回：公判の諸原則、公判の準備（公判前整理手続、証拠開示） 第 7・8 回：公判期日の手続、裁判員制度、被害者参加制度、証拠裁判主義 第 9・10 回：自由心証主義、証拠能力と証明力、違法収集証拠排除法則 第 11・12 回：自白法則、伝聞法則（1） 第 13・14 回 a：伝聞法則（2）、刑事免責・合意制度、裁判、上訴、再審 第 14 回 b：小テスト ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は、法曹コースの学生向けに開講されます。法科大学院入試で「特別選抜（5 年一貫型）」または「特別選抜（開放型）」を受験する場合、法曹コース以外向けの授業ではなく、必ずこの「法曹コース用」授業を履修して下さい。 本科目を履修するにあたって、「憲法（人権）」、「刑法（総論）」を単位修得済であることが強く望まれます。 「刑事訴訟法Ⅰ（法曹コース用）」とセットで受講して下さい。 【メディア授業科目に関する注意事項】 本授業は、ハイブリッド型（対面型、リアルタイム型、オンデマンド型の自由選択）のメディア授業科目です。詳細は、シラパスの補足を参照してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本科目の 2 単位を修得するためには、他の授業と同様に、授業にすべて出席する（30 時間相当）ほか、標準 60 時間の学修（予習・復習等）が必要になります。 各自の教科書の該当箇所を必ず一読したうえで授業に臨んでください。		
5. 教科書 特に指定しません。 初回授業で市販されている主な教科書の一覧表を配布してそれぞれの特徴を説明しますので、自分に合ったものを選んで下さい。 Oh-o! Meiji システムで事前にレジュメを配布し、それに従って授業を進行します。		
6. 参考書 最新の六法。 初回授業で市販されている主な参考書の一覧表を配布してそれぞれの特徴を説明しますので、自分に合ったものを選んで下さい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストと期末テストの採点講評を Oh-o!Meiji で配信します。		
8. 成績評価の方法 小テスト（正誤判定問題等、約 30%、Oh-o!Meiji 上で実施）と期末定期試験（説明・論述問題等、約 70%、対面で実施、CBT 方式の可能性あり）とを総合して判定します。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。		

科目ナンバー：(LA)LAW351J		
刑事訴訟法 I		石田 倫識
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 英米では、「刑事司法」のことを Criminal Justice と表現することがあります。刑事司法とは、文字通り、Justice＝「正義」を実現する場と考えられているのかもしれませんが、しかし、何をもって Justice（正義）と考えるのかは、必ずしも容易ではありません。とりわけ、「真相の解明」が重視される犯罪捜査の領域においては、どこまでが許容される捜査であり、どこからが「違法」な捜査とされるのか、しばしば適法性の限界が問題となります。本講義では、犯罪捜査に関する判例を主たる題材としながら、様々な捜査手法について、その適法性の限界を検討していきます。 【到達目標】 （１）日本の刑事手続の全体像およびその特徴を理解している。 （２）捜査法の領域における判例法（の射程）を正確に理解している。 （３）各種の捜査活動の適法性について、判例の立場を踏まえたうえで判断することができる。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（刑事手続の全体像） 第 2 回：日本の刑事手続の特徴（精密司法） 第 3 回：刑事訴訟の目的（無辜の不処罰と再審制度） 第 4 回：捜査法概説、捜査の端緒 第 5 回：任意処分と強制処分（１）：写真撮影など 第 6 回：任意処分と強制処分（２）：おとり捜査など 第 7 回：起訴前身体拘束（１）：逮捕 第 8 回：起訴前身体拘束（２）：勾留 第 9 回：被疑者取調べ 第 10 回：証拠の収集・保全（１）：搜索差押等 第 11 回：証拠の収集・保全（２）：その他の強制処分 第 12 回：被疑者の防御権（１）：黙秘権 第 13 回：被疑者の防御権（２）：接見交通権 第 14 回：a：試験、b：試験の解説 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ①本講義では、通常のレクチャー形式に加えて、受講生同士でのグループ・ディスカッションの機会を設けます。 ②グループ・ディスカッション後に、受講生からの発言の機会を設けます。積極的な授業への参加を期待します。 ③毎回の授業において、グループごとに出席調査を行います。 ④初回授業時に具体的な授業の進め方について説明しますので、必ず出席するようにしてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 教科書の関連項目及び関連判例（の事案・判旨）を一読しておくこと。 【復習】 授業で触れた項目について、改めて教科書の関連項目を熟読し、授業で紹介した関連文献（・判例）等にも目を通すこと。		
5. 教科書 特定の教科書は指定しません（レジュメを配布します）。ただし、予習・復習用として、次の基本書から、いずれか（ないし複数）を選んで活用してください。 ①田淵浩二『基礎刑事訴訟法〔第 2 版〕』（2024 年） ②池田公博＝笹倉宏紀『刑事訴訟法』（2022 年） ③田中開ほか『刑事訴訟法〔第 7 版〕』（2024 年） ④白取祐司『刑事訴訟法〔第 10 版〕』（2021 年） ⑤上口裕『刑事訴訟法〔第 5 版〕』（2021 年） ⑥酒巻匡『刑事訴訟法〔第 3 版〕』（2024 年） ⑦宇藤崇ほか『刑事訴訟法〔第 3 版〕』（2024 年）		
6. 参考書 判例集として、以下のものを参照してください。 ①葛野尋之ほか（編）『判例学習・刑事訴訟法（第 3 版）』（2021 年） ②川出敏裕『判例講座 刑事訴訟法（捜査・証拠篇）〔第 2 版〕』（2021 年） ③井上正仁ほか（編）『刑事訴訟法判例百選〔第 11 版〕』（2024 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ①授業の中で質疑応答の機会を設けます。 ②授業の中で、適宜、演習問題（課題）に対する解説・講評を行います。 ③定期試験前には過去問を利用した模擬試験を行います。各受講者が答案を作成し、受講者同士でのディスカッションを行ったうえで、解説・講評を行います。 ④定期試験終了後、試験問題についての解説を行います。採点后、クラスウェブを通じて採点結果や成績分布等について、お知らせします。		
8. 成績評価の方法 グループディスカッションへの参加度（40％）と期末試験の成績（60％）による。		
9. その他 授業内容および授業運営等に関するご質問・ご批判・意見交換等はいつでも歓迎します。		

科目ナンバー：(LA)LAW351J		
刑事訴訟法Ⅱ		石田 倫識
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 刑事裁判において、最も重要な課題は、正しい事実を認定することです。裁判官（裁判員）が、誤った事実認定をしないように、刑事裁判における証拠の取り扱いについては、様々なルールが存在します。 この授業では、主要な判例・裁判例を題材に、主として証拠法（自白法則、違法収集証拠排除法則、伝聞法則等）について学びます。 【到達目標】 （１）自白の証拠能力について、判例の判断枠組みに則り、判断することができる。 （２）違法に収集された証拠の証拠能力について、判例の判断枠組みに則り、判断することができる。 （３）伝聞証拠の証拠能力について、正確に判断することができる。		
2. 授業内容 第１回：イントロダクション 第２回：公訴（１）：公訴の提起 第３回：公訴（２）：審判対象論、訴因の特定、訴因変更 第４回：公判（１）：公判の基本原則、公判準備 第５回：公判（２）：公判期日の手続、裁判員裁判 第６回：証拠法総説、証拠の関連性 第７回：自白法則（１）：不任意自白 第８回：自白法則（２）：派生証拠の証拠能力 第９回：違法収集証拠排除法則（１）：排除法則の基礎 第１０回：違法収集証拠排除法則（２）：違法承継論・毒樹の果実論 第１１回：伝聞法則（１）：伝聞とは何か？ 第１２回：伝聞法則（２）：伝聞例外規定 第１３回：伝聞法則（３）：犯行メモ・再伝聞など 第１４回：a：試験、b：試験の解説 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ①春学期に「刑事訴訟法Ⅰ」を受講済みであることが望めます。 ②本講義では、通常のレクチャー形式に加えて、受講生同士でのグループ・ディスカッションの機会を設けます。 ③グループ・ディスカッション後に、受講生からの発言の機会を設けます。積極的な授業への参加を期待します。 ④毎回の授業において、グループごとに出席調査を行います。 ⑤初回授業時に具体的な授業の進め方について説明しますので、必ず出席するようにしてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 教科書の関連項目及び関連判例（の事案・判旨）を一読しておくこと。 【復習】 授業で触れた項目について、改めて教科書の関連項目を熟読し、授業で紹介した関連文献にも目を通すこと。		
5. 教科書 特定の教科書は指定しません（レジュメを配布します）。ただし、予習・復習用として、次の基本書から、いずれか（ないし複数）を選んで活用してください。 ①田淵浩二『基礎刑事訴訟法〔第２版〕』（2024年） ②池田公博＝笹倉宏紀『刑事訴訟法』（2022年） ③田中開ほか『刑事訴訟法〔第７版〕』（2024年） ④白取祐司『刑事訴訟法〔第10版〕』（2021年） ⑤上口裕『刑事訴訟法〔第５版〕』（2021年） ⑥酒巻匡『刑事訴訟法〔第３版〕』（2024年） ⑦宇藤崇ほか『刑事訴訟法〔第３版〕』（2024年）		
6. 参考書 判例集として、以下のものを参照してください。 ①葛野尋之ほか（編）『判例学習・刑事訴訟法（第３版）』（2021年） ②川出敏裕『判例講座 刑事訴訟法（捜査・証拠篇）〔第２版〕』（2021年） ③井上正仁ほか（編）『刑事訴訟法判例百選〔第11版〕』（2024年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ①授業の中で質疑応答の機会を設けます。 ②授業の中で、適宜、演習問題（課題）に対する解説・講評を行います。 ③定期試験前には過去問を利用した模擬試験を行います。各受講者が答案を作成し、受講生同士でのディスカッションを行ったうえで、解説・講評を行います。 ④定期試験終了後、試験問題についての解説を行います。採点后、クラスウェブを通じて採点結果や成績分布等について、お知らせします。		
8. 成績評価の方法 グループディスカッションへの参加度（４０％）と期末試験の成績（６０％）による。		
9. その他 授業内容および授業運営に関するご質問・ご批判・意見交換等はいつでも歓迎します。		

科目ナンバー：(LA)LAW356J		
刑事訴訟法Ⅰ〔M〕		黒澤 睦
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法 31 条は、「何人も、法律の定める手続によらなければ、その生命若しくは自由を奪はれ、又はその他の刑罰を科せられない」と規定しています。これを受けて、刑事訴訟法 1 条は、「この法律は、刑事事件につき、公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現することを目的とする」と規定しています。刑事訴訟法Ⅰでは、この理念が刑事手続の各場面（捜査等）でどのように実現されているのか、あるいはどのように実現されるべきなのか、を講義します。 刑事手続を実際のシステムとして理解するためには、判例・実務の運用を把握することが必須です。したがって、それらに特に留意して講義を進めます。また、重要な争点については、判例・学説やその対立の説明にとどまらず、そうした対立がどうして生じてくるのか、それぞれどのような考え方に基づくのか、といったところまで踏み込んで解説します。その際、解釈論の限界を踏まえうえて、立法政策論にも触れます。刑事訴訟法Ⅰでは、主として、起訴前の手続を取り扱います。 【到達目標】 受講生の皆さんが本授業を通して到達すべき目標は、(1) 刑事訴訟法の基本理念と刑事手続の全体像を把握し、(2) 刑事手続の各段階に関する法規定とそれらをめぐる判例・実務および学説についての基礎的知識を身につけ、(3) 刑事手続をめぐる基本的な争点および課題を法的に考察できるようになることです。 本授業は法曹コース以外の学生向けの授業ですので、社会人として最低限身につけてほしい知識や理解に重点を置いて授業を進めますが、より学問的な問題提起もしますので、ともに考えていきましょう。		
2. 授業内容 第 1 回：刑事手続の流れ、刑事訴訟法の基本原理 第 2 回：刑事手続の関与者（1） 第 3 回：刑事手続の関与者（2） 第 4 回：捜査の諸原則 第 5 回：強制捜査と任意捜査 第 6 回：捜査の端緒（職務質問、所持品検査等） 第 7 回：身体の拘束（1）逮捕、勾留 第 8 回：身体の拘束（2）逮捕、勾留の諸問題 第 9 回：証拠の収集・保全（1）搜索・差押え等 第 10 回：証拠の収集・保全（2）検証・通信傍受・鑑定等 第 11 回：証拠の収集・保全（3）応用問題 第 12 回：取調べ 第 13 回：被疑者等の防御（黙秘権、接見交通権等） 第 14 回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は、法曹コース以外の学生向けに開講されます。法曹コースの学生が本科目を履修すると、法科大学院入試で「特別選抜（5 年一貫型）」と「特別選抜（開放型）」を受験できなくなります。 本科目を履修するにあたって、「憲法（人権）」、「刑法（総論）」および「刑法（各論）」を単位修得済であることが望まれます。 【メディア授業科目に関する注意事項】 本授業は、ハイブリッド型（対面型、リアルタイム型、オンデマンド型の自由選択）のメディア授業科目です。詳細は、シラバスの補足を参照してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本科目の 2 単位を修得するためには、他の授業と同様に、授業にすべて出席する（30 時間相当）ほか、標準 60 時間の学修（予習・復習等）が必要になります。 各自の教科書の該当箇所を必ず一読したうえで授業に臨んでください。		
5. 教科書 特に指定しません。 初回授業で市販されている主な教科書の一覧表を配布してそれぞれの特徴を説明しますので、自分に合ったものを選んで下さい。 Oh-o! Meiji システムで事前にレジュメを配布し、それに従って授業を進行します。		
6. 参考書 最新の六法。 初回授業で市販されている主な参考書の一覧表を配布してそれぞれの特徴を説明しますので、自分に合ったものを選んで下さい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストと期末テストの採点講評を Oh-o!Meiji で配信します。		
8. 成績評価の方法 小テスト（正誤判定問題等、約 40%、Oh-o!Meiji 上で実施）と期末定期試験（説明・論述問題等、対面・オンライン実施方法未定）とを総合して判定します。 なお、「刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ（法曹コース用）」での成績評価と不公平にならないよう成績評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW356J		
刑事訴訟法Ⅱ〔M〕		黒澤 睦
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法 31 条は、「何人も、法律の定める手続によらなければ、その生命若しくは自由を奪はれ、又はその他の刑罰を科せられない」と規定しています。これを受けて、刑事訴訟法 1 条は、「この法律は、刑事事件につき、公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現することを目的とする」と規定しています。刑事訴訟法Ⅱでは、この理念が刑事手続の各場面（公訴提起、公判等）でどのように実現されているのか、あるいはどのように実現されるべきなのか、を講義します。 刑事手続を実際のシステムとして理解するためには、判例・実務の運用を把握することが必須です。したがって、それらに特に留意して講義を進めます。また、重要な争点については、判例・学説やその対立の説明にとどまらず、そうした対立がどうして生じてくるのか、それぞれどのような考え方に基づくのか、といったところまで踏み込んで解説します。その際、解釈論の限界を踏まえたうえで、立法政策論にも触れます。刑事訴訟法Ⅱでは、主として、起訴後の手続を取り扱います。 【到達目標】 受講生の皆さんが本授業を通して到達すべき目標は、(1) 刑事訴訟法の基本理念と刑事手続の全体像を把握し、(2) 刑事手続の各段階に関する法規定とそれらをめぐる判例・実務および学説についての基礎的知識を身につけ、(3) 刑事手続をめぐる基本的な争点および課題を法的に考察できるようになることです。 本授業は法曹コース以外の学生向けの授業ですので、社会人として最低限身につけてほしい知識や理解に重点を置いて授業を進めますが、より学問的な問題提起もしますので、ともに考えていきましょう。		
2. 授業内容 第 1 回：公訴提起の諸原則（1）起訴便宜主義 第 2 回：公訴提起の諸原則（2）起訴状一本主義、訴因の特定 第 3 回：訴因の変更 第 4 回：訴訟条件 第 5 回：公判の諸原則 第 6 回：公判の準備（公判前整理手続、証拠開示） 第 7 回：公判の手続（裁判員制度、被害者参加制度を含む） 第 8 回：証拠裁判主義、自由心証主義 第 9 回：証拠能力と証明力、違法収集証拠排除法則 第 10 回：自白法則 第 11 回：伝聞法則（1） 第 12 回：伝聞法則（2） 第 13 回：刑事免責・合意制度 第 14 回：裁判、上訴、再審、まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は、法曹コース以外の学生向けに開講されます。法曹コースの学生が本科目を履修すると、法科大学院入試で「特別選抜（5 年一貫型）」と「特別選抜（開放型）」を受験できなくなります。 本科目を履修するにあたって、「憲法（人権）」、「刑法（総論）」、「刑法（各論）」、「刑事訴訟法Ⅰ」を単位修得済であることが望まれます。 【メディア授業科目に関する注意事項】 本授業は、ハイブリッド型（対面型、リアルタイム型、オンデマンド型の自由選択）のメディア授業科目です。詳細は、シラバスの補足を参照してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本科目の 2 単位を修得するためには、他の授業と同様に、授業にすべて出席する（30 時間相当）ほか、標準 60 時間の学修（予習・復習等）が必要になります。 各自の教科書の該当箇所を必ず一読したうえで授業に臨んでください。		
5. 教科書 特に指定しません。 初回授業で市販されている主な教科書の一覧表を配布してそれぞれの特徴を説明しますので、自分に合ったものを選んで下さい。 Oh-o! Meiji システムで事前にレジュメを配布し、それに従って授業を進行します。		
6. 参考書 最新の六法。 初回授業で市販されている主な参考書の一覧表を配布してそれぞれの特徴を説明しますので、自分に合ったものを選んで下さい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストと期末テストの採点講評を Oh-o!Meiji で配信します。		
8. 成績評価の方法 小テスト（正誤判定問題等、約 40%、Oh-o!Meiji 上で実施）と期末定期試験（説明・論述問題等、約 60%、対面・オンライン実施方法未定）とを総合して判定します。 なお、「刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ（法曹コース用）」での成績評価と不公平にならないよう成績評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW351J		
経済刑法		内田 幸隆
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 経済刑法の分野では、経済にまつわる犯罪の成立要件とその制裁のあり方が問われている。ただ、本来的に経済活動は自由になされるものであって、制限をかけるべきではないとも指摘されている。それにもかかわらず、なぜ刑罰権を行使してまで経済活動を規制すべきと考えられているのであろうか。この講義では、そうした根本的な問題に立ち入りつつ、経済犯罪の成立の是非を検討する。そこで、まず経済刑法の領域を概観した上で、刑法総論における問題を意識しつつ、具体的な事例を取り上げて個々の犯罪の成立要件を検討する。主に扱うのは経済犯罪に対する制裁のあり方や、企業犯罪、金融犯罪の一部である。 【到達目標】 受講生においては、犯罪成立の是非を検討するだけでなく、個々の経済犯罪が規定された根拠にさかのぼって考察することが求められる。最終的には、高度に複雑な経済事件について、独自に解決に導くことができることが目標となる。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：経済刑法の領域 第3回：経済刑法における法益概念 第4回 法人処罰の根拠 第5・6回：行政処分と刑罰との関係 第7・8回：企業犯罪における不作為責任 第9・10回：営業秘密の侵害 第11・12回：不良融資と借り手の刑事責任 第13回：クレジットカードの不正使用 第14回：金融商品取引における相場操縦・風説の流布 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 経済に関する記事・ニュースに日ごろから関心をもつこと。授業には必ず最新の六法を持参すること。また、発言を求めることがあるので、積極的に授業に参加して欲しい。 なお、この科目を履修する場合は、「刑法（総論）Ⅰ・Ⅱ」、「刑法（各論）Ⅰ・Ⅱ」を既に履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習として、指定した教科書の該当ページをよく読んでおくこと。 復習として、教科書の該当ページを再度読むこと。また、授業時に提示した応用問題についても各自で再度検討すること。復習した際に生まれた疑問点をまとめて、次回の授業時に質問するための準備をすること。 準備学習、復習ともに所要時間については、1時間以上が見込まれる。		
5. 教科書 『新経済刑法入門』〔第3版〕齊藤豊治ほか編（成文堂、2020）		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間内に実施する課題や定期試験については、全体に対する講評を採点后に掲示する。		
8. 成績評価の方法 定期試験（100%）によって評価する。なお、レポート課題ないしは授業中の発言内容を別途評価する場合がある。その場合は、レポート課題ないしは授業中の発言内容に対する評価の割合を最大で30%とし、残りを定期試験に割り当てる。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW341J		
労働法 A I		小西 康之
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「労働法」という法分野については、様々な類型化が可能であるが、その一つとして、労働市場を規律する「労働市場」に関する法的ルール、個々の労働者と使用者との関係を規律する「個別的労働関係」に関する法的ルール、労働者の団結体と使用者との関係を規律する「集団的労使関係」に関する法的ルールとに区分することが可能である。 本講義は、これらのうち、個別的労働関係に関する法的ルールについて正確に理解してもらうことを第一義的な目標としている。しかしそれにとどまらず、労働法の「考え方」を身につけてもらい、労働法全体を体系的に把握するきっかけとしてもらうことも本講義の重要な目的である。 本講義は、主として「個別的労働関係」に関する法的ルールについて概説した上で、労働を取り巻く現在の状況はいかに把握されるべきかを検討する。公共法務コースにおいては、労働法における個別の解釈問題にとどまらず、政策的な問題にも一層着目して、議論を行う。 【到達目標】 （１）労働法における基本的な知識を理解している。 （２）労働法に関する条文・裁判例を参照・引用することができる。 （３）労働法政策を考える上での基本的な視野を有する。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：総説（個別的労働関係法の意義、規整システム） 1 労働法の歴史 第3回：総説（個別的労働関係法の意義、規整システム） 2 労働者性、使用者性 第4回：総説（個別的労働関係法の意義、規整システム） 3 労働法の規整構造 第5回：総説（個別的労働関係法の意義、規整システム） 4 就業規則 第6回：労働憲章 第7回：雇用平等 第8回：募集・採用 第9回：採用内定、試用期間 第10回：労働関係の展開（労働契約上の権利義務、人事） 1 配転、出向 第11回：労働関係の展開（労働契約上の権利義務、人事） 2 転籍その他 第12回：賃金（賃金の意義、賃金請求権） 第13回：賃金（賃金の支払方法、休業手当） 第14回：賃金（休業手当、最低賃金法、賃金支払確保） * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 労働法全体を把握するためには、本講義のほか、「労働法AⅡ」、「労働法BⅠ」および「労働法BⅡ」を受講するのが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にレジュメが配布されている場合には、具体的問題関心をもってそれに目を通してくること。		
5. 教科書 小西康之『働く世界のしくみとルール——労働法入門』（有斐閣、2024年） 六法は必ず見られるようにすること。		
6. 参考書 村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選』（第10版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストについてのフィードバック（振り返り）は授業内で、講義終了後の筆記試験についてのフィードバック（振り返り）はOh-meijiで行う。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、講義終了後の筆記試験（95%程度）、および、授業の終わりに不定期に行う予定である小テストの結果（5%程度）により行う。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW341J		
労働法 A II		小西 康之
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「労働法」という法分野については、様々な類型化が可能であるが、その一つとして、労働市場を規律する「労働市場」に関する法的ルール、個々の労働者と使用者との関係を規律する「個別的労働関係」に関する法的ルール、労働者の団結体と使用者との関係を規律する「集団的労使関係」に関する法的ルールとに区分することが可能である。 本講義は、これらのうち、個別的労働関係に関する法的ルールについて正確に理解してもらうことを第一義的な目標としている。しかしそれにとどまらず、労働法の「考え方」を身につけてもらい、労働法全体を体系的に把握するきっかけとしてもらうことも本講義の重要な目的である。 本講義は、主として「個別的労働関係」に関する法的ルールについて概説した上で、労働を取り巻く現在の状況はいかに把握されるべきかを検討する。公共法務コースにおいては、労働法における個別の解釈問題にとどまらず、政策的な問題にも一層着目して、議論を行う。		
【到達目標】 （１）労働法における基本的な知識を理解している。 （２）労働法に関する条文・裁判例を参照・引用することができる。 （３）労働法政策を考える上での基本的な視野を有する。		
2. 授業内容 第 1 回：非正規雇用 1 （有期労働、パートタイム労働） 第 2 回：非正規雇用 2 （労働者派遣等） 第 3 回：労働時間（労働時間規制の原則、労働時間の計算） 第 4 回：休憩・休日、時間外・休日労働 第 5 回：労働時間制度の展開 第 6 回：年次有給休暇等 第 7 回：年少者・女性の保護 第 8 回：職場規律と懲戒 第 9 回：安全衛生 第 10 回：労災補償 第 11 回：労働関係の終了（辞職、合意解約、定年）、高齢者雇用 第 12 回：労働契約の終了（解雇以外）、高齢者雇用 第 13 回：解雇 第 14 回：労働法における将来的課題 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 労働法全体を把握するためには、本講義のほか、「労働法 A I」、「労働法 B I」および「労働法 B II」を受講するのが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にレジュメが配布されている場合には、具体的問題関心をもってそれに目を通してくること。		
5. 教科書 小西康之『働く世界のしくみとルール——労働法入門』（有斐閣、2024 年） 六法は必ず見られるようにすること。		
6. 参考書 村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選』（第 10 版）（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストについてのフィードバックは授業内で、講義終了後の筆記試験についてのフィードバックは Oh-meiji で行う。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、講義終了後の筆記試験（95%程度）、および、授業の終わりに不定期に行う予定である小テストの結果（5%程度）により行う。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW341J		
労働法 B I		山川 隆一
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 労働者と使用者の他に労働組合が登場する集団的労働関係（労使関係）について、総論的な事項を把握したうえ、労使関係の当事者、労働組合の内部問題、団体交渉、労働協約、及び団体行動をめぐる法的規律等を学ぶ。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：労使関係法総論 第3回：労使関係の当事者1（労働者） 第4回：労使関係の当事者2（労働組合・使用者） 第5回：労働組合1（労働組合の組織と運営） 第6回：労働組合2（労働組合の統制、組織変動等） 第7回：団体交渉 第8回：労働協約1（協約の意義・当事者成立等） 第9回：労働協約2（協約の効力・終了等） 第10回：小テスト 第11回：団体行動総論・争議行為1（総論・正当性） 第12回：争議行為2（争議行為と賃金等） 第13回：組合活動 第14回：日本型雇用・労使関係と労働法 * 授業内容・順序は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 労働法Aを履修済みであることが望ましい。六法持参のこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 下記教科書の各回該当部分を予習して授業に臨むこと。		
5. 教科書 『ブラクティス労働法(第3版)』（信山社、2022年）		
6. 参考書 『2025年版労働関係法規集』（労働政策研究・研修機構、近刊） 荒木尚志＝村中孝史編『労働判例百選』（有斐閣、2022年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テスト及び定期試験につき、必要に応じてコメントを付した解答のポイントを配付する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 90%、平常点 10%（小テスト、授業への参加度）		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW341J		
労働法 B II		山川 隆一
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 集团的労働関係（労使関係）をめぐる法的規律について、労働法 BI に引き続き、不当労働行為にかかわる領域を学ぶ。進んで、労働紛争の解決についての基礎的な事項や、労働法の現代的課題についても取り上げる。		
2. 授業内容 第 1 回：不当労働行為 1（総論） 第 2 回：不当労働行為 2（不当労働行為における使用者） 第 3 回：不当労働行為 3（不利益取扱い） 第 4 回：不当労働行為 4（団交拒否） 第 5 回：不当労働行為 5（支配介入） 第 6 回：不当労働行為 6（複合的不当労働行為） 第 7 回：小テスト 第 8 回：労働紛争の解決 1（総論） 第 9 回：労働紛争の解決 2（行政上の解決システム等） 第 10 回：労働紛争の解決 3（労働委員会による不当労働行為救済手続） 第 11 回：労働紛争の解決 4（司法上の解決システム） 第 12 回：現代労働法の課題(1) 第 13 回：現代労働法の課題(2) 第 14 回：総合問題（個別的・集团的労働関係） ＊授業内容・順序は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 労働法 A 及び労働法 BI を履修済みであることが望ましい。六法持参のこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 下記教科書の各回該当部分を予習して授業に臨むこと。		
5. 教科書 『ブラクティス労働法(第 3 版)』（信山社、2022 年）		
6. 参考書 『2025 年版労働関係法規集』（労働政策研究・研修機構、近刊） 荒木尚志＝村中孝史編『労働判例百選』（有斐閣、2022 年）、山川隆一『労働紛争処理法（第 2 版）』（弘文堂、2023 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テスト及び定期試験につき、必要に応じてコメントを付した解答のポイントを配付する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 90%、平常点 10%（小テスト、授業への参加度）		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW341J		
社会保障法Ⅰ		小西 啓文
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 生存権に対する理解を深め、社会保障制度一般についての見識を広げることを目標とし、講義を通じて人々の「自律」と「連帯」のあり方というテーマに取り組んでもらうことにしたい。 具体的には、社会保障法Ⅰでは、社会保障をめぐる、とりわけ労働者の権利・義務の所在を検討することにする。すなわち、社会保障の現状とその歴史的経緯をまず確認し、社会保障の権利性が争われた最高裁判例の検討を経た上で、主として、労災保険・雇用保険の法解釈・法政策学上の論点につき検討する。		
2. 授業内容 1 総論 第1回：a：社会保障をめぐる状況（1）社会保障を取り巻く状況の推移 第2回：社会保障をめぐる状況（2）わが国社会保障制度の展開 第3・4回：社会保障の権利性（1）生活保護制度と朝日訴訟 第5・6回：社会保障の権利性（2）児童扶養手当制度と堀木訴訟 第7・8回：社会保障の権利性（3）外国人の社会保障権と塩見訴訟 2 労働者と社会保険 第9回：労災保険（1）労働災害の概念化 第10回：労災保険（2）労災保険法の仕組み 第11回：労災保険（3）過労死・過労自殺への対応 第12回：労災保険（4）通勤災害制度 第13回：雇用保険（1）雇用保険法の概要 第14回：雇用保険（2）失業認定手続 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 I だけ、またはⅡだけでも履修は可能であるが、講義の体系上、社会保障法Ⅰ・Ⅱを連続受講することが望ましい。 資料を多く配布する予定であるので、その収集・整理を怠らないようにお願いしたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義に臨むに当たり、事前に該当のテキスト・参考文献や配布資料に目を通すことを心がけること。		
5. 教科書 小西啓文『社会保障法講義』（信山社）		
6. 参考書 本澤巳代子・新田秀樹編『トピック社会保障法 第19版（予定）』（不磨書房） 久塚純一・山田省三編『社会保障法解体新書 第4版』（法律文化社） 大曾根寛・金川めぐみ・森田慎二郎編『社会保障法のプロブレマティーク―対立軸と展望』（法律文化社） 岩村正彦・菊池馨実・嵩さやか『目で見える社会保障法教材 第4版』（有斐閣） 岩村正彦編『社会保障判例百選 第6版（予定）』（有斐閣） 菊池馨実編『判例から考える社会保障法（予定）』（日本評論社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回、出席をとるに際してアンケートもとり、その結果を次回講義でフィードバック（回答）するように心がけている。		
8. 成績評価の方法 学期末試験 50%、学期中に1回課すレポート 20%及び平常点 30%（出席調査の際コメントを求める）により評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW341J		
社会保障法Ⅱ		小西 啓文
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 生存権に対する理解を深め、社会保障制度一般についての見識を広げることを目標とし、講義を通じて人々の「自律」と「連帯」のあり方というテーマに取り組んでもらうことにしたい。 具体的には、社会保障法Ⅱでは、社会保障をめぐる国民・住民の権利・義務の所在を、とりわけ「要介護性」と「障害」に焦点を当てて検討する。すなわち、いわゆる「福祉国家」の態様とその高齢社会への対応を確認した後、主として、医療保険・介護保険・年金保険の法解釈・法政策学上の論点につき検討する。		
2. 授業内容 第1回：a：比較福祉国家論（1）比較のための視座 第2回：比較福祉国家論（2）福祉国家比較 第3回：比較福祉国家論（3）21世紀の福祉国家観 第4回：医療保険（1）医療保険制度の沿革 第5回：医療保険（2）健康保険法 第6回：医療保険（3）国民健康保険法 第7回：医療保険（4）高齢者医療制度 第8回：介護保険（1）制定の背景 第9回：介護保険（2）保険給付の構造 第10回：介護保険（3）保険者機能と住民福祉 第11回：年金保険（1）年金制度の概要 第12回：年金保険（2）国民年金法と厚生年金保険法 第13回：年金保険（3）いわゆる消えた年金問題について 第14回：年金保険（4）学生無年金障害者事件について ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 I だけ、またはⅡだけでも履修は可能であるが、講義の体系上、社会保障法Ⅰ・Ⅱを連続受講することが望ましい。 資料を多く配布する予定であるので、その収集・整理を怠らないようにお願いしたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義に臨むに当たり、事前に該当のテキスト・参考文献や配布資料に目を通すことを心がけること。		
5. 教科書 小西啓文『社会保障法講義』（信山社）		
6. 参考書 本澤巳代子・新田秀樹編『トピック社会保障法 第19版（予定）』（不磨書房） 久塚純一・山田省三編『社会保障法解体新書 第4版』（法律文化社） 大曾根寛・金川めぐみ・森田慎二郎編『社会保障法のプロブレマティークー対立軸と展望』（法律文化社） 岩村正彦・菊池馨実・嵩さやか『目で見える社会保障法教材 第4版』（有斐閣） 岩村正彦編『社会保障判例百選 第6版（予定）』（有斐閣） 菊池馨実編『判例から考える社会保障法（予定）』（日本評論社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回、出席をとるに際してアンケートもとり、その結果を次回講義でフィードバック（回答）するように心がけている。		
8. 成績評価の方法 学期末試験 50%、学期中に1回課すレポート 20%及び平常点 30%（出席調査の際コメントを求める）により評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW231J		
国際法 I		水田 周平
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要： 世界では、戦争、核実験、領土紛争、海賊、テロリズム、地球環境問題、難民の大量発生など、様々な問題が絶え間なく起こっています。国際社会で発生するこれらの問題について、いかなる法的解決を与えるのか？これを考えるのが、国際法という学問です。また、個人や企業の活動のグローバル化が進化した今日では、国内法の理解においても、国際法の知識が必要不可欠なものとなっています。なぜならば、国際法の履行確保は多くの場合、国内法を通じて行われるからです。国際法は、国内法を通じて、我々の日常生活にも、大きな影響を与えているのです。この講義では、国際裁判・国内裁判の判決や、日本で現実に起こった国際問題などを素材にして、国際法の考え方・用い方を実践的に学びます。 到達目標： (1) 国際法の基本的事項を理解し、さまざまな国際問題について、国際法上の論点を特定し、事案を分析する。 (2) 諸事例の分析・検討を通じて、国際社会における国際法の歴史的意義や国際法制度の機能的限界を理解する。 (3) 国際法の判決・条約等を英語である程度読めるようになる。		
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2回 国際法の基本枠組み 第3回 法源・条約法 第4回 法源・条約法 第5回 法源・条約法 第6回 領域 第7回 領域 第8回 国家 第9回 国家 第10回 国家管轄権・免除 第11回 国家管轄権・免除 第12回 海洋 第13回 海洋 第14回 海洋 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・講義中は、受講者と Zoom のチャットを用いてやり取りをするため、毎回 Zoom を利用できるデバイス（PC またはスマートフォン）を持参すること。 ・講義には事前配布資料、条約集、判例集（後述）を持参すること。 ・授業中でも積極的に質問・発言してほしい（→成績評価の項目参照）。 ・世界史・日本史の知識に自信がない人は、手元に高校用教科書があるとよい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 (1) 教科書等の指定箇所を読んでおく（予習）。 (2) 授業後、オーメジでアンケート（授業の内容に関する質問（事例問題・事前課題・復習問題等）を含む）に回答する（予習 and/or 復習）。 (3) 普段の学習では、図書館、ProQuest Ebook Central, Maruzen eBook Library、授業録画を積極的に活用してほしい。		
5. 教科書 (1) Weiner, Hollis, Keitner, International Law, Eighth Edition (Aspen Publishing, 2023) ProQuest Ebook Central より利用可能。 https://ebookcentral.proquest.com/lib/meiji/detail.action?docID=30591419 (2) 植木俊哉他編『国際法条約集』（有斐閣、2025 年） (3) 森川幸一他編『国際法判例百選 [第 3 版]』（有斐閣、2021 年） Maruzen eBook Library より利用可能 https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000122254		
6. 参考書 (1) テキストブック 入門 玉田大他『国際法 [第 2 版]』（有斐閣、2022 年）（Maruzen eBook Library（以下 MeL）にあり） 大沼保昭『国際法』（筑摩書房、2018 年） 松井芳郎『国際法から世界を見る 市民のための国際法入門 [第 3 版]』（東信堂、2011 年） 杉原高嶺『基本国際法 [第 4 版]』（有斐閣、2023 年）（MeL） 植木俊哉編『ブリッジブック国際法 [第 3 版]』（信山社、2016 年） 加藤信行他『ビジュアルテキスト国際法 [第 3 版]』（有斐閣、2022 年）：写真、図が豊富 佐藤義明他『ここからはじめる国際法』（有斐閣、2022 年） 森川幸一他編『国際法で世界がわかる—ニュースを読み解く 32 講』（岩波書店、2016 年）：具体的事例に即した解説（ただし網羅的ではない。） 水田周平・根本和幸『日本と世界の領土』（帝国書院、2016 年）：領土・海洋問題について、基礎から丁寧に解説。		

(2) テキストブック 中級 加藤信行他『概説国際法』（有斐閣、2024 年） 中谷和弘・植木俊哉他『国際法〔第 5 版〕』（有斐閣、2024 年）（MeL） 山形英郎編『国際法入門 逆から学ぶ〔第 3 版〕』（法律文化社、2022 年）（MeL） 柳原正治・森川幸一他『ブラクティス国際法講義〔第 4 版〕』（信山社、2023 年） 浅田正彦編著『国際法〔第 5 版〕』（東信堂、2022 年） (3) テキストブック 上級 岩沢雄司『国際法〔第 2 版〕』（東京大学出版会、2023 年）（MeL） 山本草二『国際法（新版）』（有斐閣、1994 年）2004 年第 18 刷補訂（MeL） 酒井啓亘他『国際法』（有斐閣、2011 年）2014 年第 2 刷（補訂） 杉原高嶺『国際法学講義〔第 2 版〕』（有斐閣、2013 年） 小松一郎『実践国際法〔第 3 版〕』（信山社、2022 年） (4) 条約集 教科書で挙げたもののほかに、 浅田正彦他編『ベーシック条約集』（東信堂） 『条約データ検索』（外務省）https://www3.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/ (5) 判例集 教科書で挙げたもののほかに、 小寺彰他編『国際法判例百選（第 2 版）』（有斐閣、2011 年）（MeL） 松井芳郎他『判例国際法〔第 3 版〕』（東信堂、2019 年） 杉原高嶺・酒井啓亘『国際法基本判例 50〔第 2 版〕』（三省堂、2014 年） Landmark Cases in Public International Law, edited by Eirik Bjorge, and Cameron Miles, Bloomsbury Publishing Plc, 2017. ProQuest Ebook Central, https://ebookcentral.proquest.com/lib/meiji/detail.action?docID=5153895. (6) 演習 柳原正治・森川幸一他『《演習》ブラクティス国際法』（信山社、2013 年） (7) その他有用な文献（より深い学習のために） 森肇志他『サブテキスト国際法』（日本評論社、2020 年）（MeL） 寺谷広司他『国際法の現在』（日本評論社、2020 年）（MeL） 森肇志他『分野別 国際条約ハンドブック』（有斐閣、2020 年）（MeL）
7. 課題に対するフィードバックの方法 アンケートに対する全体講評を授業内で行う。
8. 成績評価の方法 定期試験またはレポート（定期試験が実施されない場合）（60％）、授業内での発言・授業後アンケートへの回答（40％）。
9. その他

科目ナンバー：(LA)LAW231J		
国際法Ⅱ		水田 周平
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要： 世界では、戦争、核実験、領土紛争、海賊、テロリズム、地球環境問題、難民の大量発生など、様々な問題が絶え間なく起こっています。国際社会で発生するこれらの問題について、いかなる法的解決を与えるのか？これを考えるのが、国際法という学問です。また、個人や企業の活動のグローバル化が進化した今日では、国内法の理解においても、国際法の知識が必要不可欠なものとなっています。なぜならば、国際法の履行確保は多くの場合、国内法を通じて行われるからです。国際法は、国内法を通じて、我々の日常生活にも、大きな影響を与えているのです。この講義では、国際裁判・国内裁判の判決や、日本で現実に起こった国際問題などを素材にして、国際法の考え方・用い方を実践的に学びます。 到達目標： (1) 国際法の基本的事項を理解し、さまざまな国際問題について、国際法上の論点を特定し、事案を分析する。 (2) 諸事例の分析・検討を通じて、国際社会における国際法の歴史的意義や国際法制度の機能的限界を理解する。 (3) 国際法の判決・条約等を英語である程度読めるようになる。		
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 国際環境法 第3回 国際環境法 第4回 個人・人権 第5回 個人・人権 第6回 国際刑事法 第7回 国際刑事法 第8回 国際法の国内的实施 第9回 国際法の国内的实施 第10回 国際法の国内的实施 第11回 国際法の国際的实施 第12回 国際法の国際的实施 第13回 国際法の国際的实施 第14回 国際法の国際的实施 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ・講義中は、受講者と Zoom のチャットを用いてやり取りをするため、毎回 Zoom を利用できるデバイス（PC またはスマートフォン）を持参すること。 ・講義には事前配布資料、条約集、判例集（後述）を持参すること。 ・授業中でも積極的に質問・発言してほしい（→成績評価の項目参照）。 ・世界史・日本史の知識に自信がない人は、手元に高校用教科書があるとよい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 (1) 教科書等の指定箇所を読んでおく（予習）。 (2) 授業後、オーマイジでアンケート（授業の内容に関する質問（事例問題・事前課題・復習問題等）を含む）に回答する（予習 and/or 復習）。 (3) 普段の学習では、図書館、ProQuest Ebook Central, Maruzen eBook Library、授業録画を積極的に活用してほしい。		
5. 教科書 (1) Weiner, Hollis, Keitner, International Law, Eighth Edition (Aspen Publishing, 2023) ProQuest Ebook Central より利用可能。 https://ebookcentral.proquest.com/lib/meiji/detail.action?docID=30591419 (2) 植木俊哉他編『国際法条約集』（有斐閣、2025 年） (3) 森川幸一他編『国際法判例百選 [第3版]』（有斐閣、2021 年） Maruzen eBook Library より利用可能 https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000122254		
6. 参考書 (1) テキストブック 入門 玉田大他『国際法 [第2版]』（有斐閣、2022 年）（Maruzen eBook Library（以下 MeL）にあり） 大沼保昭『国際法』（筑摩書房、2018 年） 松井芳郎『国際法から世界を見る 市民のための国際法入門 [第3版]』（東信堂、2011 年） 杉原高嶺『基本国際法 [第4版]』（有斐閣、2023 年）（MeL） 植木俊哉編『ブリッジブック国際法 [第3版]』（信山社、2016 年） 加藤信行他『ビジュアルテキスト国際法 [第3版]』（有斐閣、2022 年）：写真、図が豊富 佐藤義明他『ここからはじめる国際法』（有斐閣、2022 年） 森川幸一他編『国際法で世界がわかる—ニュースを読み解く 32 講』（岩波書店、2016 年）：具体的事例に即した解説（ただし網羅的ではない。） 水田周平・根本和幸『日本と世界の領土』（帝国書院、2016 年）：領土・海洋問題について、基礎から丁寧に解説。 (2) テキストブック 中級 加藤信行他『概説国際法』（有斐閣、2024 年）		

中谷和弘・植木俊哉他『国際法〔第5版〕』（有斐閣、2024年）（MeL） 山形英一郎編『国際法入門 逆から学ぶ〔第3版〕』（法律文化社、2022年）（MeL） 柳原正治・森川幸一他『プラクティス国際法講義 〔第4版〕』（信山社、2023年） 浅田正彦編著『国際法〔第5版〕』（東信堂、2022年） （3）テキストブック 上級 岩沢雄司『国際法〔第2版〕』（東京大学出版会、2023年）（MeL） 山本草二『国際法（新版）』（有斐閣、1994年）2004年第18刷補訂（MeL） 酒井啓亘他『国際法』（有斐閣、2011年）2014年第2刷（補訂） 杉原高嶺『国際法学講義〔第2版〕』（有斐閣、2013年） 小松一郎『実践国際法〔第3版〕』（信山社、2022年） （4）条約集 教科書で挙げたもののほかに、 浅田正彦他編『ベーシック条約集』（東信堂） 『条約データ検索』（外務省）https://www3.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/ （5）判例集 教科書で挙げたもののほかに、 小 寺彰他編『国際法判例百選（第2版）』（有斐閣、2011年）（MeL） 松井芳郎他『判例国際法〔第3版〕』（東信堂、2019年） 杉原高嶺・酒井啓亘『国際法基本判例50 〔第2版〕』（三省堂、2014年） Landmark Cases in Public International Law, edited by Eirik Bjorge, and Cameron Miles, Bloomsbury Publishing Plc, 2017. ProQuest Ebook Central, https://ebookcentral.proquest.com/lib/meiji/detail.action?docID=5153895. （6）演習 柳原正治・森川幸一他『《演習》プラクティス国際法』（信山社、2013年） （7）その他有用な文献（より深い学習のために） 森肇志他『サブテキスト国際法』（日本評論社、2020年）（MeL） 寺谷広司他『国際法の現在』（日本評論社、2020年）（MeL） 森肇志他『分野別 国際条約ハンドブック』（有斐閣、2020年）（MeL）
7. 課題に対するフィードバックの方法 アンケートに対する全体講評を授業内で行う。
8. 成績評価の方法 定期試験またはレポート（定期試験が実施されない場合）（60%）、授業内での発言・授業後アンケートへの回答（40%）。
9. その他

科目ナンバー：(LA)LAW231J		
国際法 I		西元 宏治
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 近年、国際法が規律する領域は急速に拡大し、その内容・手続は多様化の一途を辿っています。その結果として安全保障などの伝統的な外交分野だけでなく、人権・経済・環境など様々な国内政策においても国際的な規律の影響のもとで政策形成がなされています。本講義では、主権国家を構成単位とする国際社会の中で、国際法がどのように生成・発展してきたのかを概観し、事例・判例・学説などを通じて国際法の基本的な構造と機能に対する理解を深めたいと思います。 【到達目標】 国際法についての基礎的な事項（国際法の基本的特徴、法源、存在形式、国内法との関係など）、国際法の主要な主体である国家にかかわる国際法の基本構造と手続とともに、現代の国際関係における法や制度が果たす機能と限界を理解することを目的とします。		
2. 授業内容 第1回：本講義の概要説明と諸注意 第2回：国際社会と法 第3回：国際法の歴史 第4回：国際法の法源（1） 第5回：国際法の法源（2） 第6回：国際法と国内法 第7回：国際法の主体 第8回：国家の成立 第9回：国家の代表機関 第10回：国家管轄権の構造 第11回：空間秩序の基本構造 第12回：海洋法（1） 第13回：海洋法（2） 第14回：空・宇宙・その他の空間の法 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 定期試験以外の特別な措置は考えていないので、卒業を控えている人はその点をふまえて受講し、必ず定期試験を受験して下さい。レジュメの配布やその他の講義に関する連絡はポータルサイトでを行いますので、各自の責任で確認するようにして下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に配布されたレジュメを読み、重要語句・概念を確認しておくこと。レジュメに挙げられている参考文献の該当箇所や授業内で配布する新聞記事や資料も一読しておくこと。 授業内容は、当日のうちにノートとして整理すること。 これらの作業には、それぞれ概ね 60 分程度はかかると思われる。		
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。講義はレジュメ方式で進める。		
6. 参考書 主要な概説書として、浅田正彦他編著『国際法 第5版』東信堂（2022年）、岩沢雄司著『国際法 第2版』東大出版会（2023年）、松井芳郎他編著『国際法〔第5版〕』（Sシリーズ）有斐閣（2007年）を挙げておきます。 また、『国際条約集』（有斐閣）や『国際法判例百選（第3版）』（有斐閣 2021年）・杉原高嶺・酒井啓互編『国際法基本判例 50〔第2版〕』三省堂（2014年）、『ケースブック国際環境法』東信堂（2020）などの該当箇所は、授業内で指示しますので各自で入手するようにしてください。 国際法を概観することが出来る優れた入門書のものがあります。出来るだけ早い時期に通読するようにして下さい。 松井芳郎著『国際法から世界を見る：市民のための国際法入門（第3版）』（東信堂、2011年） 大沼保昭著『国際法』（ちくま新書、2018年） 森肇志他著『分野別 国際条約ハンドブック』有斐閣（2020） また、国際関係における法の役割を考えるための参考文献として下記のものを挙げておきます。 服部龍二著『日中国交正常化：田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』（中公新書；2011年） 大沼保昭著『「歴史認識」とは何か：対立の構図を超えて』（中公新書；2015年） 高坂正堯著『古典外交の成熟と崩壊 1, 2.』（中公クラシックス；2012年） E.H. カーク著：原彬久訳『危機の二十年：理想と現実』（岩波文庫；2011年） 申恵＝（シン ヘボン）『国際人権入門：現場から考える』（岩波新書 2020年） 中川淳司『WTO：貿易自由化を超えて』（岩波新書、2013年） 関根豪政『国際貿易法入門』（ちくま新書、2021年） 筒井清輝『人権と国家：理念の力と国際政治の現実』（岩波新書、2022年） 寺谷広司編『国際法の現在：変転する現代世界で法の可能性を問直す』日本評論社（2020） 日本平和学会編『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』法律文化社（2020）		

柳原 正治『帝国日本と不戦条約』（NHK 出版、2022 年） 西村 智朗『気候変動問題と国際法』（東信堂、2022 年） 浅田 正彦『化学兵器の使用と国際法』（東信堂、2022 年）
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーによる質問やコメントへの回答や試験の講評は、適宜授業の中で行ないます。
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 試験 85%、平常点（リアクションペーパーなど） 15% 【成績評価の基準】 ・ 国際法の基本的事項を理解しているか ・ 国際法の基本構造と手続を理解しているか ・ 現代の国際関係における法や制度の機能と限界を理解しているか
9. その他

科目ナンバー：(LA)LAW231J		
国際法Ⅱ		西元 宏治
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 近年、国際法が規律する領域は急速に拡大し、その内容・手続は多様化の一途を辿っています。その結果として安全保障などの伝統的な外交分野だけでなく、人権・経済・環境など様々な国内政策においても国際的な規律の影響のもとで政策形成がなされています。本講義では、特に個々の法分野において、主権国家を構成単位とする国際社会の中で、国際法がどのように生成・発展してきたのかを概観し、事例・判例・学説などを通じて国際法の基本的な構造と機能に対する理解を深めたいと思います。 【到達目標】 国際法についての基礎的な事項（国際法の基本的特徴、法源、存在形式、国内法との関係など）、国際法の主要な主体である国家にかかわる国際法の基本構造と手続とともに、現代の国際関係における法や制度が果たす機能と限界を理解することを目的とします。		
2. 授業内容 第1回：国際法における個人：国籍、外国人の地位、難民 第2回：人権の国際的保障 第3回：刑事国際協力：犯罪人引き渡し、国際犯罪 第4回：国際経済法（1）貿易、通貨・金融 第5回：国際経済法（2）国際投資 第6回：国際環境法 第7回：国家の国際責任 第8回：紛争の平和的处理（1）紛争処理の諸手段 第9回：紛争の平和的处理（2）司法的解決 第10回：平和と安全の維持（1）戦争・武力行使の違法化 第11回：平和と安全の維持（2）集団安全保障・PKO 活動 第12回：平和と安全の維持（3）自衛権 第13回：武力紛争法 第14回：中立法 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 定期試験以外の特別な措置は考えていないので、卒業を控えている人はその点をふまえて受講し、必ず定期試験を受験して下さい。レジュメの配布やその他の講義に関する連絡はポータルサイトでを行いますので、各自の責任で確認するようにして下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に配布されたレジュメを読み、重要語句・概念を確認しておくこと。レジュメに挙げられている参考文献の該当箇所や授業内で配布する新聞記事や資料も一読しておくこと。 授業内容は、当日のうちにノートとして整理すること。 これらの作業には、それぞれ概ね 60 分程度はかかると思われる。		
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。講義はレジュメ方式で進める。		
6. 参考書 主要な概説書として、浅田正彦他編著『国際法 第3版』東信堂（2016年）、岩沢雄司著『国際法 第2版』東大出版会（2023年）、杉原高嶺他編著『現代国際法講義 第5版』有斐閣（2015年）、松井芳郎他編著『国際法〔第5版〕』（Sシリーズ）有斐閣（2007年）を挙げておきます。 また、『国際条約集』（有斐閣）や『国際法判例百選（第3版）』（有斐閣 2021年）・杉原高嶺・酒井啓互編『国際法基本判例 50〔第2版〕』三省堂（2014年）、『ケースブック国際環境法』東信堂（2020）などの該当箇所は、授業内で指示しますので各自で入手するようにしてください。 国際法を概観することが出来る優れた入門書のものがあります。出来るだけ早い時期に通読するようにして下さい。 松井芳郎著『国際法から世界を見る：市民のための国際法入門（第3版）』（東信堂、2011年） 大沼保昭著『国際法』（ちくま新書、2018年） 森肇志他著『分野別 国際条約ハンドブック』有斐閣（2020） また、国際関係における法の役割を考えるための参考文献として下記のものを挙げておきます。 服部龍二著『日中国交正常化：田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』（中公新書；2011年） 大沼保昭著『「歴史認識」とは何か：対立の構図を超えて』（中公新書；2015年） 高坂正堯著『古典外交の成熟と崩壊 1, 2.』（中公クラシックス；2012年） E.H. カーク著：原彬久訳『危機の二十年：理想と現実』（岩波文庫；2011年） 申恵＝（シン ヘボン）『国際人権入門：現場から考える』（岩波新書 2020年） 中川淳司『WTO：貿易自由化を超えて』（岩波新書、2013年） 関根豪政『国際貿易法入門』（ちくま新書、2021年） 筒井清輝『人権と国家：理念の力と国際政治の現実』（岩波新書、2022年） 寺谷広司編『国際法の現在：変転する現代世界で法の可能性を問い直す』日本評論社（2020） 日本平和学会編『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』法律文化社（2020）		

柳原 正治『帝国日本と不戦条約』（NHK 出版、2022 年） 西村 智朗『気候変動問題と国際法』（東信堂、2022 年） 浅田 正彦『化学兵器の使用と国際法』（東信堂、2022 年）
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーによる質問やコメントへの回答や試験の講評は、適宜授業の中で行ないます。
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 試験 85%、平常点（リアクションペーパーなど）15% 【成績評価の基準】 ・ 国際法の基本的事項を理解しているか ・ 国際法の基本構造と手続を理解しているか ・ 個別分野における法や制度の機能と限界を理解しているか
9. その他

科目ナンバー：(LA) LAW231J		
国際人権法		原 由利子
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業概要 国際人権法は、国際的な人権諸条約や宣言に加え、それらを実施するための国際的・国内的な制度や手続きの体系です。人類は二度の世界大戦とホロコーストを通して、平和の維持には国際的な人権保障システムが不可欠であることを学び、国連の設立とともに国際人権法を発展させてきました。日本社会にも適用さるべき普遍的ルールであり世界基準です。まず総論では国際人権法が国内にどう取り入れられることになっているのか、国連を舞台にどんな人権保障システムがつくられているのか、それを国内に浸透させるしくみは、世界の大陸ごとの地域人権保障システムはどうなっているのか、を俯瞰します。 次に国際人権法の実践活用編として、日本が締約国となっている主要な国際人権条約に照らして日本の人権状況と課題を学びます。この授業では、国際人権 NGO で元事務局長だった授業担当者の特性を活かし、実際に日本の市民社会、とりわけマイノリティ（被差別部落の人びと・先住民アイヌ・沖縄・在日コリアン・難民・移住者、加えて女性）が条約審査などを活用し、日本の差別や人権課題を可視化し事態の改善につなげてきた事例などに即して学びます。そして最後に国際人権法の課題と展望を考察します。		
到達目標 1. 国際人権法の基本的概要とその実践的活用について理解し説明できる。 2. 可視化されにくい人権課題についても国際人権法に照らして考察できるようになる。 3. 報道などの2次資料だけでなく、条約や国連文書、政府文書など、一次資料にあたる習慣ができる。 4. 人権課題について国際人権法の視点から自分の言葉で話せるようになる。 5. 授業を離れても、国際人権法の視点から世の中の事象を見て考察できるようになる。		
2. 授業内容 【総論】「知る」 第1回：授業に関する全般的な説明と国際人権法誕生の経緯 第2回：国際人権法の概要（25分ビデオ視聴）とその基礎、国際人権章典 第3回：国際人権法の国際的実施：国連機関の人権システム 第4回：国際人権法の国内的実施：条約の国内法上の地位と立法・司法・行政の役割 第5回：国際人権法を各国で機能させる2つの制度：国内人権機関と個人通報制度 第6回：欧州・北南米・アフリカ・アジアの地域的人権保障 【実践活用編：国際人権法を活用し豊かにする挑戦】「考える」「活かす」 第7回：冤罪・代用監獄・死刑制度など市民的政治的権利を考える：国連自由権規約委員会日本審査から 第8回：アイヌ民族の歴史と挑戦から先住民族の権利を考える（ビデオ視聴、萱野茂さん、変更の可能性あり） 第9回：国連特別報告者制度の実践活用：レイシズムで問われる近現代世界と日本 第10回：日本の人種・民族・出自差別の課題：人種差別撤廃条約に照らして 第11回：世界と日本の難民、国内避難民、移住者の権利を考える 第12回：人身売買大国日本の課題—国際人権の視点から 第13回：女性差別撤廃委員会からの山積みの勧告：変わらぬジェンダー格差、クォータ制を考える 【課題と展望】「変えていく」出発点 第14回：国際人権法の課題と展望、全授業を振り返って ＊第1回目の授業の際に授業内容に関する希望をとり、若干内容調整します。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業では、予習に基づいて少人数の中で説明したり意見交換する時間を合計10分から15分程度とります。そのため、予習をして授業に参加することが履修条件となります（履修者からは発見が多いと好評ですが、予習をしていない人と組むと退屈との声あり）。対面コミュニケーションに不安がある方は事前にお知らせください。 国連は日本に対して法曹関係者への国際人権法教育の必要性を繰り返し勧告しています。法曹や公務員をめざす方には特に学んで頂きたい科目です。また、関心の有無に関わらず、誰もが差別や人権課題の当事者であることを知るきっかけとなる科目です。法学の予備知識がなくても理解できる内容です。法学部以外の皆さんの受講も歓迎します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、授業の最後に予習内容にとべる Google Form の URL をポータルサイトから配信しますので、Google form で指定した資料などに目を通し、設問に答え、授業の前日までに(Google form で)送信してください。授業ではそれをもとに少人数のグループで話す時間をとります（履修者によれば、「予習→授業で話す」形は続けた方がよい、他の人の話がきけてよかった、予習は最初きよかったが結果的に楽しかったとの意見多数。1割は予習が多いとのこと）。予習時間は個人差がありますが、平均1～2時間程度です。予習の負担がある分予習の評価に重きをおき、最終試験の負担(評価)を軽くしています。なお、予習はリーディングマラソンと呼んでいます。		
5. 教科書 授業では教科書のかわりに、授業内容をまとめた授業レジュメを毎回配布します。 教科書ではありませんが、8～11回、13回(計5回の)授業の予習課題として以下の書籍を通読してもらいます。 『日本にレイシズムがあることを知っていますか？人種・民族・出自差別をなくすために私たちができること』原由利子、合同出版、2022年		
6. 参考書 『日本にレイシズムがあることを知っていますか？人種・民族・出自差別をなくすために私たちができること』原由利子(合同出版) 『国際人権条約集』岩沢雄司編(有斐閣) 【国際人権法を網羅的に学びたい人のために(授業では網羅できないため)】		

『ブリッジブック国際人権法』 芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹（信山社）

（以下は本講担当者による単共著・編著）

『世界中から人身売買がなくなるのはなぜ』 小島優・原由利子（合同出版）

『立ち上がりつながるマイノリティ女性—アイヌ女性・部落女性・在日朝鮮人女性によるアンケート調査報告と提言』 IMADR-JC 編（解放出版社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

予習（課題）をもとに、授業の際に少人数で話す時間をとります。

8. 成績評価の方法

予習（Google Form）提出および授業への積極的参加：60%、最終試験：40%

【成績評価の基準】

- ・予習を通して、条約や国連文書などの一次資料、現場やエキスパートの見解などにあたって考えることができているか。
- ・予習を通して当該テーマについて、自分の言葉で書き、授業で人に話すことができるか。
- ・最終試験：国際人権法の基本的な概要および日本での主な実践課題を理解しているか。

9. その他

科目ナンバー：(LA)LAW331J		
国際経済法 I		西元 宏治
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 近年、国際法が規律する領域は急速に拡大し、その内容・手続は多様化の一途を辿っています。なかでも国際経済法は、最も様々な規範、利害、そしてアクターが交錯するとともに、法の発展や制度化の進展が著しい分野です。本講義では、国際経済法の生成・発展、WTO や FTA などの国際経済法の基本原則と例外、そして各分野における規律の概要、紛争解決手続を概観するとともに、新聞・ニュースなどで取り上げられている今日的な問題などについて解説します。 【到達目標】 本講義では、通商と投資に関連する分野を中心に国際経済法がどのように生成・発展してきたのかを概観し、事例・判例・学説などを通じてその基本的な構造と機能に対する理解を深めることを目的とします。国際経済法のうち、国際貿易を規律する WTO 法（WTO 諸協定とその派生法の体系）を中心に上げ、今日の自由貿易体制の基本的な法構造を習得することを目的とします。		
2. 授業内容 第 1 回：本講義の概要説明と諸注意 第 2 回：国際経済法とは何か 第 3 回：国際経済法の歴史と現状 第 4 回：WTO 体制の成立 第 5 回：WTO 法の基本原則（１）最恵国待遇 第 6 回：WTO 法の基本原則（２）内国民待遇 第 7 回：WTO 法の基本原則（３）数量制限の禁止 第 8 回：基本原則の例外 第 9 回：WTO 法における通商救済制度（１）セーフガード 第 10 回：WTO 法における通商救済制度（２）アンチダンピング 第 11 回：WTO 法における通商救済制度（３）補助金相殺措置 第 12 回：国際経済法と公正貿易 第 13 回：WTO 協定の各論（１－１）農業協定の概要 第 14 回：WTO 協定の各論（１－２）農業協定に関する事例 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 定期試験以外の特別な措置は考えていないので、卒業を控えている人はその点をふまえて受講し、必ず定期試験を受験して下さい。レジュメの配布やその他の講義に関する連絡はポータルサイトで行いますので、各自の責任で確認するようにして下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に配布されたレジュメを読み、重要語句・概念を確認しておくこと。レジュメに挙げられている参考文献の該当箇所や授業内で配布する新聞記事や資料も一読しておくこと。特に下記の『不公正貿易報告書』は該当箇所を通読するようにしてください。 授業内容は、当日のうちにノートとして整理すること。 これらの作業には、それぞれ概ね 60 分程度はかかると思われる。		
5. 教科書 主要なテキストとして、中川・清水・平編著『国際経済法（第 3 版）』（有斐閣、2019 年）と経済産業省通商政策局『不公正貿易報告書』経済産業調査会（毎年 6 月頃刊行・ネットで入手可能）を挙げておきます。 また、上記と併読する概説書としては、小林友彦他編著『WTO・FTA 法入門』（法律文化社、2016 年）、柳赫秀編著『講義 国際経済法』（東信堂・2018 年）、飯野文著『WTO FTA CPTPP-国際貿易・投資のルールを比較で学ぶ』（弘文堂・2019 年）、邵洪範『貿易自由化と規制権限-WTO 法における均衡点』東京大学出版会（2019）などを参考にしてください。		
6. 参考書 この分野の通史や概要を知る入門書・参考文献として下記のものを挙げておきます。 佐々木隆雄『アメリカの通商政策』（岩波新書、1989 年） 中川淳司『WTO：貿易自由化を超えて』（岩波新書、2013 年） 杉田弘毅『アメリカの制裁外交 岩波新書』（岩波新書、2020 年） 関根豪政『国際貿易法入門』（ちくま新書、2021 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーによる質問やコメントへの回答や試験の講評は、適宜授業の中で行ないます。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 試験 85%、平常点（リアクションペーパーなど）15% 【成績評価の基準】 ・国際経済法の基本的事項を理解しているか ・国際経済法の基本構造と手続を理解しているか ・現代の国際経済関係における法や制度の機能と限界を理解しているか		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW331J		
国際経済法Ⅱ		西元 宏治
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 近年、国際法が規律する領域は急速に拡大し、その内容・手続は多様化の一途を辿っています。なかでも国際経済法は、最も様々な規範、利害、そしてアクター が交錯するとともに、法の発展や制度化の進展が著しい分野です。本講義では、国際経済法の生成・発展、WTO や FTA などの国際経済法の基本原則と例外、そして各分野における規律の概要、紛争解決手続を概観するとともに、新聞・ニュースなどで取り上げられている今日的な問題などについて解説します。 【到達目標】 本講義では、通商と投資に関連する分野を中心に国際経済法がどのように生成・発展してきたのかを概観し、事例・判例・学説などを通じてその基本的な構造と機能に対する理解を深めることを目的とします。国際経済法のうち、国際貿易を規律する WTO 法（WTO 諸協定とその派生法の体系）を中心に上げ、今日の自由貿易体制の基本的な法構造を習得することを目的とします。		
2. 授業内容 第 1 回：WTO 協定の各論（2）TBT/SPS 協定 第 2 回：WTO 協定の各論（3－1）サービス貿易協定の概要 第 3 回：WTO 協定の各論（3－2）サービス貿易協定の事例 第 4 回：WTO 協定の各論（4－1）TRIPS 協定の概要 第 5 回：WTO 協定の各論（4－2）TRIPS 協定の事例 第 6 回：WTO 協定の各論（5）政府調達 第 7 回：WTO 紛争解決手続（1）制度の概要 第 8 回：WTO 紛争解決手続（2）パネル・上級委員会手続 第 9 回：WTO 紛争解決手続（3）実施段階 第 10 回：WTO 体制と地域主義 第 11 回：WTO 体制と非貿易的価値（1）貿易と健康、貿易と文化 第 12 回：WTO 体制と非貿易的価値（2）貿易と労働、貿易と環境 第 13 回：国際投資に関する法の歴史と現状 第 14 回：国際投資に関する法と政策 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 定期試験以外の特別な措置は考えていないので、卒業を控えている人はその点をふまえて受講し、必ず定期試験を受験して下さい。レジュメの配布やその他の講義に関する連絡はポータルサイトで行いますので、各自の責任で確認するようにして下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に配布されたレジュメを読み、重要語句・概念を確認しておくこと。レジュメに挙げられている参考文献の該当箇所や授業内で配布する新聞記事や資料も一読しておくこと。特に下記の『不公正貿易報告書』は該当箇所を通読するようにしてください。 授業内容は、当日のうちにノートとして整理すること。 これらの作業には、それぞれ概ね 60 分程度はかかると思われる。		
5. 教科書 主要なテキストとして、中川・清水・平編著『国際経済法（第 3 版）』（有斐閣、2019 年）と経済産業省通商政策局『不公正貿易報告書』経済産業調査会（毎年 6 月頃刊行・ネットで入手可能）を挙げておきます。 また、上記と併読する概説書としては、小林友彦他編著『WTO・FTA 法入門』（法律文化社、2016 年）、柳赫秀編著『講義 国際経済法』（東信堂・2018 年）、飯野文著『WTO FTA CPTPP-国際貿易・投資のルールを比較で学ぶ』（弘文堂・2019 年）、邵洪範『貿易自由化と規制権限-WTO 法における均衡点』東京大学出版会（2019）などを参考にしてください。		
6. 参考書 この分野の通史や概要を知る入門書・参考文献として下記のものを挙げておきます。 佐々木隆雄『アメリカの通商政策』（岩波新書、1989 年） 中川淳司『WTO：貿易自由化を超えて』（岩波新書、2013 年） 杉田弘毅『アメリカの制裁外交 岩波新書』（岩波新書、2020 年） 関根豪政『国際貿易法入門』（ちくま新書、2021 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーによる質問やコメントへの回答や試験の講評は、適宜授業の中で行ないます。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 試験 85%、平常点（リアクションペーパーなど）15% 【成績評価の基準】 ・国際経済法の基本的事項を理解しているか ・国際経済法の基本構造と手続を理解しているか ・現代の国際経済関係における法や制度の機能と限界を理解しているか		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW331J		
国際組織法Ⅰ		小倉 康久
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現在の国際社会においては、安全保障、経済、人権、環境、交通、通信、人道援助など様々な分野に国際組織が存在し、重要な役割を演じている。私たちの日常生活は、これらの組織の存在を前提として営まれているのである。この授業では、このような国際組織の設立条約である国際組織法の一般理論、および最も重要な国際組織である「国連」を中心に論じていく。特に国連の実際の機能や活動状況については、国際社会にとって最も重要なテーマである「国際の平和と安全」という観点から、具体的な事例（朝鮮戦争、スエズ動乱、湾岸戦争、イラク戦争、ウクライナ紛争など）に則して説明していく。また、授業を進めるにあたっては、できる限り映像資料を用いて理解の促進に努めていく。		
【到達目標】 この授業では、国際組織法および国際組織についての基本的理解を深めることにより、私たちが所属している国際社会の実像を正確に理解することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：国際組織の活動 第3回：国際組織と国際組織法 第4回：国際連盟以前における国際組織の歴史的発展Ⅰ 近代ヨーロッパ国際社会の成立 第5回：国際連盟以前における国際組織の歴史的発展Ⅱ 国際組織誕生の流れ 第6回：国際連盟の設立Ⅰ 国際連盟設立の経緯 第7回：国際連盟の設立Ⅱ 国際連盟規約形成の諸要因 第8回：国際連盟の組織構造 第9回：国際連盟の表決方法 第10回：国際連盟の任務と活動Ⅰ 国際の平和と安全の維持 第11回：国際連盟の任務と活動Ⅱ 具体的事例 第12回：国際連合の創設Ⅰ 国際連合の設立経緯 第13回：国際連合の創設Ⅱ 国連憲章形成の諸要因 第14回：国際連合の組織構造 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 事前に国際法を履修していることが望ましい。また、国際組織法に関する理解を深めるためにも、Ⅰ・Ⅱを併せて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で取り扱うテーマについて、書籍やインターネットなどで予習・復習しておくこと。また、不明な部分があれば授業の前後で質問すること。		
5. 教科書 特に定めない。レジュメを配布し、それに基づいて授業を進める。		
6. 参考書 『国際組織法』佐藤哲夫(有斐閣) 『国際機構条約・資料集（第2版）』（東信堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中または Oh-o! Meiji を通じてフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 期末レポート 100%		
9. その他 ＊2021 年度以前カリキュラムの科目です。2022 年度以降の入学者は履修できません。		

科目ナンバー：(LA)LAW331J		
国際組織法Ⅱ		小倉 康久
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現在の国際社会においては、安全保障、経済、人権、環境、交通、通信、人道援助など様々な分野に国際組織が存在し、重要な役割を演じている。私たちの日常生活は、これらの組織の存在を前提として営まれているのである。この授業では、国際組織法の一般理論、および最も重要な国際組織である「国連」を中心に論じていく。その際、国際社会にとって最も重要なテーマである「国際の平和と安全」という観点から、国連の実際の機能や活動状況について具体的な事例（朝鮮戦争、スエズ動乱、湾岸戦争、イラク戦争など）に則して説明していく。また、授業を進めるにあたっては、できる限り映像資料を用いて理解の促進に努めていく。		
【到達目標】 この授業では、国際組織法および国際組織についての理解を深めることにより、私たちが所属している国際社会の実像を正確に理解することを目指す。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：国際組織の表決制度Ⅰ 表決制度の意義 第3回：国際組織の表決制度Ⅱ 国連安全保障理事会 第4回：国際組織の表決制度Ⅲ コンセンサス方式 第5回：集団安全保障制度Ⅰ 集団安全保障制度の意義 第6回：集団安全保障制度Ⅱ 国連の実行 第7回：集団安全保障制度Ⅲ 朝鮮国連軍 第8回：国連憲章上の自衛権 第9回：国連の平和維持活動Ⅰ PKO の意義 第10回：国連の平和維持活動Ⅱ 具体的事例 第11回：冷戦解消後における PKO の発展 第12回：冷戦解消後における集団安全保障制度の創造的展開Ⅰ 平和に対する脅威の概念拡大 第13回：冷戦解消後における集団安全保障制度の創造的展開Ⅱ 非軍事的強制措置の創造的展開 第14回：冷戦解消後における集団安全保障制度の創造的展開Ⅲ 許可方式の確立 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 事前に国際法を履修していることが望ましい。また、国際組織法に関する理解を深めるためにも、Ⅰ・Ⅱを併せて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で取り扱った問題について、書籍やインターネットなどで予習・復習しておくこと。また、不明な部分があれば授業の前後で質問すること。		
5. 教科書 特に定めない。レジュメを配布し、それに基づいて授業を進める。		
6. 参考書 『国際組織法』佐藤哲夫(有斐閣) 『国際機構条約・資料集（第2版）』（東信堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中または Oh-o! Meiji を通じてフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 期末レポート 100%		
9. その他 ＊2021 年度以前カリキュラムの科目です。2022 年度以降の入学者は履修できません。		

科目ナンバー：(LA)LAW331J		
国際私法Ⅰ		福井 清貴
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 国際私法とは、国際結婚や国際契約といった国境を越えて発生する私人間の法律問題を規律する法である。国際的私的紛争が生じるときには、①日本の裁判所で訴えを提起することができるのか、②本案にどの国の法が適用されるのか、③外国で下された判決は、どのような場合に日本において承認および執行されるのかといった、主として3つの問題が生じる。 本講義では、①と③についても簡単に概説した後、②を主に規律する「法の適用に関する通則法」の4条以下およびその関連法規の解釈をめぐる基礎理論を解説する。本講義では、あくまで総論を扱うが、具体的な事例にも、適宜触れるようにする。 本講義の目標は、国際私法における総論上の主要な問題を理解し、その基礎的な考え方を身につけることである。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、国際私法の必要性 第2回：国際私法と国際民事訴訟法の関係、国際裁判管轄 第3回：国際裁判管轄、主権免除、外国判決の承認・執行の概説 第4回：国際私法の歴史と方法論 第5回：現代国際私法の法源、構造 第6回：法律関係の性質決定 第7回：連結点と連結政策概説 第8回：属人法（本国法、住所地法、常居所地法）、国籍法 第9回：不統一法国および分裂国の指定 第10回：反致 第11回：反致 第12回：外国法の適用と証明 第13回：公序、国際的強行法規、法律回避論 第14回：先決問題、適応問題、まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「六法」を持参すること。 可能な限り、秋学期に開講される「国際私法Ⅱ」も併せて履修してください。 講義においては出席確認をすることがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、予め公表するレジュメに目を通しておくことをお勧めします。そのうえで、復習等も兼ねて教科書で補っていただければと思います。質問等は講義後に適宜受け付けます。		
5. 教科書 中西康ほか『国際私法 第3版 (LEGAL QUEST)』（有斐閣、2022年）		
6. 参考書 道垣内・中西編『国際私法判例百選 [第3版]』（有斐閣、2021年） 早川・森下編『国際取引法入門』（有斐閣、2024年） その他は、講義時にその都度指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 学期末テストの講評を行う。		
8. 成績評価の方法 学期末試験の成績によって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW331J		
国際私法Ⅱ		福井 清貴
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 国際私法とは、国際結婚や国際契約といった国境を越えて発生する私人間の法律問題を規律する法である。国際的私的紛争が起きたときには、①日本の裁判所で訴えを提起することができるのか、②本案にどの国の法が適用されるのか、③外国で下された判決は、どのような場合に日本において承認および執行されるのかといった、主として3つの問題が生じる。 本講義では、そのうち②を主に規律する「法の適用に関する通則法」の4条以下およびその関連法規の解釈をめぐる各論的問題を解説する。国際的な契約、不法行為、婚姻、親子関係等の渉外事案において、どのようにして法が選択・適用されるのか、具体的事例に触れつつ、説明する。 本講義の目標は、国際私法における各論上の論点を理解し、国際私法を活用するために必要となる思考方法を身につけることである。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、国際私法総論の概説 第2回：自然人、法人 第3回：物権、担保物権、知的財産権 第4回：契約 第5回：契約 第6回：消費者と労働者の保護、国際的強行法規 第7回：一般不法行為 第8回：生産物責任、名誉毀損、知財権侵害、不正競争行為、不当利得、事務管理 第9回：債権債務の移転（債権譲渡等）、消滅（相殺等）、対外的効力（詐害行為取消権等） 第10回：代理、信託 第11回：婚姻、離婚 第12回：親子関係、後見 第13回：相続、遺言 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 「六法」を持参すること。 国際私法各論を理解するためには、総論の知識が必要となります。そのため、可能な限り、春学期に開講される「国際私法Ⅰ」も併せて履修してください。また国際私法各論は、いわゆる「国際公法」よりも民事法と近い関係にありますので、事前にある程度広く民商法の知識を有しておく、理解も深まりやすくなります。 講義においては出席確認を行うことがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、予め公表するレジュメに目を通しておくことをお勧めします。そのうえで復習も兼ねて教科書で補っていただければと思います。質問等は講義後に適宜受け付けます。		
5. 教科書 中西康ほか『国際私法 第3版 (LEGAL QUEST)』（有斐閣、2022年）		
6. 参考書 道垣内・中西編『国際私法判例百選 [第3版]』（有斐閣、2021年） 早川・森下編『国際取引法入門』（有斐閣、2024年） その他は、講義時にその都度指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 学期末テストの講評を行う。		
8. 成績評価の方法 学期末試験の成績によって評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW331J		
国際取引法（国際取引法Ⅰ）		藤澤 尚江
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 国際的な取引に関して、どのような問題が生じるか、そして、それらの問題にどのように対応するかを学習します。本授業では、特に取引の当事者間に生じる問題に焦点をあてます。授業は、できる限り具体的な事例を使って行います。原則として講義形式で行いますが、受講者との質疑応答も適宜行います。 【到達目標】 本授業では、国際取引法に関し、基礎的な知識および思考方法を習得することを到達目標としています。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：国際取引法とは？ 第2回：企業どうしの契約（1） 第3回：企業どうしの契約（2） 第4回：企業どうしの契約（3） 第5回：消費者の契約 第6回：ウィーン売買条約（1） 第7回：ウィーン売買条約（2） 第8回：ウィーン売買条約（3） 第9回：ウィーン売買条約（4） 第10回：ウィーン売買条約（5） 第11回：ウィーン売買条約（6） 第12回：運送（1） 第13回：運送（2） 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 民法についての基本的な知識を習得していることが望ましいです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習・復習には、適宜参考書欄に挙げたような書籍を読んでください。		
5. 教科書 授業中にレジュメ・資料を配布します。教科書の指定はしません。		
6. 参考書 例えば、次のようなものがあります。最初の授業でより詳しく紹介します。 松岡博編『レクチャー国際取引法[第3版]』（法律文化社、2022年） 佐野博『国際取引法[第5版]』（有斐閣、2023年） 早川吉尚=森下哲朗編『国際取引法入門』（有斐閣、2024年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中の質疑応答・授業後のアンケートによりフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 試験にて評価します。ただし、授業への参加度（授業中の発言・質問）に応じて、試験の結果に加点します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW331J		
国際取引法Ⅱ		藤澤 尚江
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 国際的な取引に関して、どのような問題が生じるか、そして、それらの問題にどのように対応するかを学習します。授業は、できる限り具体的な事例を使って行います。原則として講義形式で行いますが、受講者との質疑応答も適宜行います。 【到達目標】 本授業では、国際取引法に関し、基礎的な知識および思考方法を習得することを到達目標としています。		
2. 授業内容 第1回： イントロダクション 第2回： 支払い（1） 第3回： 支払い（2） 第4回： 支払い（3） 第5回： 外国の会社（1） 第6回： 外国の会社（2） 第7回： 規制と国際取引（1） 第8回： 規制と国際取引（2） 第9回： 規制と国際取引（3） 第10回： 技術・知的財産権の移転（1） 第11回： 技術・知的財産権の移転（2） 第12回： 国際ファイナンス 第13回： 国際倒産 第14回： まとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 民法についての基本的な知識を習得していること、「国際取引法Ⅰ」（春学期）の講義を受講していることが望ましいです。しかし、「国際取引法Ⅰ」の単位取得は、本授業を受講するための要件ではありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習・復習には、適宜参考書欄に挙げたような書籍を読んでください。		
5. 教科書 授業中にレジュメ・資料を配布します。教科書の指定はしません。		
6. 参考書 例えば、次のようなものがあります。最初の授業でより詳しく紹介します。 松岡博編『レクチャー国際取引法[第3版]』（法律文化社、2022年） 佐野博『国際取引法[第5版]』（有斐閣、2023年） 早川吉尚＝森下哲朗編『国際取引法入門』（有斐閣、2024年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中の質疑応答・授業後のアンケートによりフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 試験にて評価します。ただし、授業への参加度（授業中の発言・質問）に応じて、試験の結果に加点します。		
9. その他 * 2021年度以前カリキュラムの科目です。2022年度以降の入学者は履修できません。		

科目ナンバー：(LA)LAW331J		
国際環境法		水田 周平
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 国際環境法は、国際法（Public International Law）の一分野であり、海洋汚染、放射性物質汚染、生物多様性・生態系の保護、地球温暖化、森林破壊、廃棄物・有害物質の越境移動といった、多様な環境問題の法的規制を内容とする、複数の多数国間条約、慣習国際法等からなる。国家は、国際環境条約等の義務を、それぞれの国内法（法律・条例等）を通じて実施することになる。このため、国内環境法を理解する上でも、国際環境法の知識は不可欠である。 本講義は、近年進展の著しい国際環境法の基本原則、諸規制の仕組み、国際的・国内的な履行確保のための諸方法について、諸条約・判例・事例等の分析を通じて理解することを目的とする。 総論部分では、相当の注意義務、予防原則、持続可能な発展、世代間衡平、共通だが差異ある責任、汚染者負担原則といった、いわゆる国際環境法の基本原則・基本概念について、その意義と限界を、具体的事例を通じて検討する。また各論部分では、大気・海洋・生物多様性といった様々な国際環境問題の法規制の検討を通じて、各規制の内容、とりわけ手続的義務、国際的・国内的履行確保について学ぶ。また、国際環境法の展開による国際法の「断片化」、国際環境法規制と他の法規制（国際人権法、国際経済法）との交錯する諸問題についても検討する。 到達目標 ・ 国際環境法の基本原則についてその内容・意義を理解する。 ・ 様々な地球規模の環境問題に関する国際的な規制の仕組みを理解し、それらが国内法においてどのように実施されるのかを理解する。 ・ 過去の国際的事例・判例を理解した上で、現在の越境環境問題・紛争を分析する能力を身につける。		
2. 授業内容 第1回 総論 国際環境法の対象：国際環境問題とは？ 第2回 総論 国際環境法の歴史 第3回 総論 国際環境法の基本原則 防止原則・相当の注意義務 第4回 総論 国際環境法の基本原則 事前通報・協議義務 第5回 総論 国際環境法の基本原則 持続可能な発展 第6回 総論 国際環境法の基本原則 共通だが差異のある責任原則、世代間衡平 第7回 総論 国際環境法の基本原則 予防原則 第8回 総論 国際環境法の履行確保 第9回 各論 生態系・生物多様性 第10回 各論 海洋・淡水 第11回 各論 大気 第12回 各論 危険・有害物質 第13回 各論 環境条約間の関係 第14回 各論 国際人権法・国際人道法・国際経済法との関係 ※講義の進行状況により変更する場合もある。		
3. 履修上の注意 ・ 国際法Ⅰ、Ⅱを履修済み・履修中であることを前提として講義をすすめる。 ・ 講義中は、受講者と Zoom のチャットを用いてやり取りをするため、毎回 Zoom を利用できるデバイス（PC またはスマートフォン）を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週アンケート（提出必須）内で出される課題について十分検討した上で講義を受講する必要がある。		
5. 教科書 植木俊哉・中谷和弘編『国際条約集』（有斐閣、2025 年）		
6. 参考書 繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020 年） 西井正弘・鶴田順編『国際環境法講義（第2版）』（有信堂、2022 年） 松井芳郎『国際環境法の基本原則』（東信堂、2010 年） 松井芳郎・富岡仁・田中則夫・薬師寺公夫・坂元茂樹・高村ゆかり・西村智朗編『国際環境条約・資料集』（東信堂、2014 年） 森川幸一他編『国際法判例百選【第3版】』（有斐閣、2021 年） 松井芳郎他『判例国際法【第3版】』（東信堂、2019 年） 岩沢雄司『国際法（第2版）』（東京大学出版会、2023 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 アンケートで出された課題については、講義内で討議・解説を行う。		
8. 成績評価の方法 定期試験（60%）、授業貢献度（授業中の発言（チャット）、アンケートへの回答）（40%）		
9. その他 ＊2022 年度以降カリキュラムの科目です。2021 年度以前のカリキュラムでは、履修できません。		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
国際民事訴訟法		柳川 鋭士
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、国際的な民事紛争における担当教員の実務経験に基づき、実務と理論の架橋を目指しつつ、国際的な民事紛争に適用される手続法を扱います。グローバル化した社会では、個人や企業が国境を越えた取引を行い、国際的な紛争に巻き込まれることも多く、現代社会においては国際民事訴訟法の知識が必要不可欠と言えます。例えば日本企業と外国企業との間で紛争が生じた場合、一体どこの国の法律が適用されるのか（準拠法の問題）、どこの国の裁判所において紛争が解決されるのか（国際裁判管轄の問題）、裁判ではなく仲裁で解決されることはないのか（国際仲裁の問題）等様々な問題に直面します。また、国際民事訴訟法は実際に紛争が生じた場合だけではなく、紛争が生じる以前の段階、すなわち外国企業との契約の段階でも問題となり、国際民事訴訟法の知識を駆使して自社に有利な契約を締結することにより紛争を予め回避することも可能になります。本授業では、国際民事訴訟法の基本概念（準拠法、国際裁判管轄等）及び国際民事訴訟法に関する初歩的な契約ドラフティングを講義します。		
【授業の到達目標】 国際民事訴訟法の基本的な知識を修得し、更に実際の実務において適用可能な思考力を涵養することを目標とします。		
2. 授業内容 第1回：国際民事訴訟法の概要 第2回：外国法の適用（準拠法に係る問題）（1） 第3回：外国法の適用（準拠法に係る問題）（2） 第4回：国際裁判管轄（1） 第5回：国際裁判管轄（2） 第6回：国際裁判管轄（3） 第7回：国際二重起訴・訴訟物、当事者 第8回：司法共助（送達、証拠収集） 第9回：外国判決の承認・執行（1） 第10回：外国判決の承認・執行（2） 第11回：国際仲裁（1） 第12回：国際仲裁（2） 第13回：民事裁判権の免除 第14回：国際民事保全・倒産 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 民事訴訟法の理解を前提とする事項が多いため、民事訴訟法をよく復習しておいて下さい。民事訴訟法を履修している学生を前提として授業は進めます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 Oh-o! Meiji システムのクラスウェブ上に事前にレジュメをアップしますので、当該レジュメ及び教科書の該当範囲を読んでおいてください。 【復習すべき内容】 授業後、特に理解が難しかった箇所を中心に再度教科書、判例を読み直してください。		
5. 教科書 小林秀之＝村上正子『新版 国際民事訴訟法』（弘文堂、2020 年）		
6. 参考書 本間靖規ほか『国際民事手続法』（有斐閣、第2版、2012 年） 古田啓昌『国際民事訴訟法入門』（日本評論社、2012） 道垣内正人『国際契約実務のための予防法学』（商事法務、2012 年） 道垣内正人ほか『国際私法判例百選』（有斐閣、第3版、2021 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて、適宜該当箇所のレジュメ（場合によっては補講動画のアップ等）の指摘、授業内講義での補足等にてフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 中間小テスト 30%、期末試験 70%によって評価します。		
9. その他 実際の国際民事訴訟の分野では、英語が必要不可欠ですので、英語もしっかり勉強して下さい。特に将来海外のロースクール等に留学を希望するものは、TOEFL テストの得点（iBT100 点が一応の目安）が必要ですので、学生のうちに少しずつ勉強しておくことで留学の準備において有利になります。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法社会学Ⅰ		太田 勝造
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 法は、社会のニーズに応じて形成され、社会を制御するためのシステムである。法社会学（Law & Social Science）は、多様な社会科学の方法、理論、知見を応用して、法の形成と作動にアプローチする研究分野である。法律はもとより、行政やビジネスの分野で将来活躍したい学生諸君に意義のある学問である。 法社会学Ⅰでは、種々の社会科学について、その基礎を概観し、法の形成と作動に対してどのような示唆を受けることができるかを見てゆく。		
2. 授業内容 第1回：「法社会学（法と社会科学）」とは？ 第2回～第3回：法と社会的決定としての多数決 第4回～第5回：社会秩序と法 第5回～第7回：効率性と分配的正義 第7回～第9回：立法事実論によるエヴィデンス・ベース・ロー 第10回～第11回：立法事実収集法としての社会調査法 第11回～第13回：立法事実解明法としてのデータ分析 第13回～第14回：民法の法社会学 第14回：総括——法と社会の相互作用 ＊上記の授業の進め方はだいたいの目安です。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 履修上の注意は特にありません。法について法解釈学の方法にとらわれず、多様な視点から勉強したい学生を歓迎します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業のパワポや関連する参考資料は、PDFとしてホームページにアップする予定です。授業の予習や復習に役立ててください。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 太田勝造（編著）『A I時代の法学入門：学際的アプローチ』弘文堂、2020年。 その他の参考文献は、授業の際に適宜指示します。あくまで参考資料で、必須ではありませんが、授業の理解を深めるために活用してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の際、電子メールなど。		
8. 成績評価の方法 期末試験の成績80%、平常点（授業への参加度）20%として評価します。		
9. その他 法社会学Ⅱとセットで履修することが望ましいと考えています。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法社会学Ⅱ		太田 勝造
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 法は、社会のニーズに応じて形成され、社会を制御するためのシステムである。法社会学（Law & Social Science）は、多様な社会科学の方法、理論、知見を応用して、法の形成と作動にアプローチする研究分野である。法律はもとより、行政やビジネスの分野で将来活躍したい学生諸君に意義のある学問である。 法社会学Ⅱでは、種々の法分野や司法システムについて、経験科学法社会学から新たな光を当ててゆく。また、認知心理学、社会心理学、行動経済学、人工知能（AI）などの成果にも光を当てる。さらに、法社会学の研究方法（調査、実験、統計分析など）について具体的に見てゆく。		
2. 授業内容 第1回：経験科学の方法としての法社会学 第2回：法と行動経済学（1）・認知脳科学 第3回：法と行動経済学（2）・消費者契約と法 第4回：民法とゲーム理論（1）・所有権 第5回：民法とゲーム理論（2）・契約法 第6回：民法とゲーム理論（3）・損害賠償法 第7回：手続的正義と社会心理学 第8回：民事訴訟の法社会学 第9回：ADR・ODRの法社会学 第10回：認知脳科学と法実務 第11回：法とAI 第12回：刑事訴訟の法社会学 第13回：社会規範の法社会学 第14回：総括——エヴィデンス・ベース・ロー ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 履修上の注意は特にありません。法について法解釈学の方法にとらわれず、多様な視点から勉強したい学生を歓迎します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に関連する参考資料はホームページにアップします。授業の予習や復習に役立ててください。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 授業の際に適宜指示します。あくまで参考資料で、必須ではありませんが、授業の理解を深めるために活用してください。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の際、電子メールなど。		
8. 成績評価の方法 期末試験の成績 80%、平常点（授業への参加度）20%として評価します。		
9. その他 法社会学Ⅰとセットで履修することが望ましいと考えています。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法哲学Ⅰ		小林 史明
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】現代の法哲学を代表する議論を紹介しつつ講義をおこなう。法を原理的・哲学的に考えることで私たちは現在存在している法を絶対視することなく、理論的に相対化する観点を手にすることができる。20 世紀、そして 21 世紀は「法とは何か」「法はどうあるべきか」「法律家とはどのような存在か（存在であるべきか）」という問いが、様々な歴史的・社会的事象に触発されるかたちで盛んに議論された時代であった。その代表的な議論を紹介しながら、現代の法哲学へと至る道を講じる。 【到達目標】代表的な法哲学の理論を理解しそれらの特徴と意義を説明できる。法哲学の理論が登場した歴史的背景とその主張および根拠を理解し、そこから一貫性のある論理的思考ができる。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：イントロダクション 第 2 回：法概念論の問い 第 3 回：自然法論 第 4 回：ケルゼンの純粋法学 第 5 回：ナチスと法・正義 第 6 回：イギリス分析的法学 第 7 回：ハートの法理学概説 第 8 回：法と道徳をめぐる論争 第 9 回：ドゥオーキンの解釈論 第 10 回：法実証主義をめぐる論争とその意味 第 11 回：功利主義とリベラリズム 第 12 回：ロールズの「正義論」 第 13 回：ロールズに対する批判 第 14 回：リバタリアニズムとコミュニタリアニズム これ以外にも、法や正義をめぐる時事的な問題に触れることがある。 * 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 質問は授業中、その前後に受け付ける。またメール等のオンラインでは随時受け付けるので分からないことがある場合には積極的に訊ねること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参考書や指示した文献の該当箇所をあらかじめ読んでから授業にのぞみ、授業後は関連資料の読解等の復習をすること。		
5. 教科書 法哲学の教科書は多数刊行されているので特定の図書は指定しない。 参考書欄に掲げた書籍でもその他のものでもよいが、それぞれに特色があるので初回授業で具体的に説明する。		
6. 参考書 那須耕介=松尾陽=池田弘乃=川瀬貴之『法哲学』（有斐閣、2025 年） 瀧川裕英編『もっと問いかける法哲学』（法律文化社、2024 年） 中山竜一=浅野有紀=松島裕一=近藤圭介『法思想史』（有斐閣、2019 年） 酒匂一郎『法哲学講義』（誠文堂、2019 年） 森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015 年） 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年） 田中成明『現代法理学』（有斐閣、2011 年） 亀本洋『法哲学』（成文堂、2011 年） 長尾龍一『法哲学入門』（講談社、2007 年） 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000 年） （発行年順）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験後に講評を LMS にて示す。		
8. 成績評価の方法 期末試験による。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法哲学Ⅱ		小林 史明
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】法は社会との関わりの中で新しい問題に直面することで、あるいは他の多くの学問領域の知見に接することで変容していく。本講義では、法が法外のものとの遭遇によっていかなる影響を受けてきたのかを学び、現在進行中または将来にわたって法が進む道について考えていきたい。法哲学の歴史において「法と〇〇」と呼ばれる領域は、「法と社会」「法と歴史」「法と経済」「法と政治」「法と心理」「法と文学」「法と科学」など数多くあり、独立した学問領域となったものも少なくない。そこでこれらをふりかえりつつ、法の最前線でくりひろげられている学際的法学に触れ、主流の法哲学とはことなる「法のあり方」を理解する。これらを学ぶことで法や法制度を眺めるフレキシブルな視点を獲得することができるものと期待する。 【到達目標】学際的法学の歴史と展開、それらが主流法哲学に与えた影響について理解し、説明することができる。法制度を多角的視野から検討し、新しい問題に対処する方法を自ら探求することができる。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：学際的な法哲学の意義と課題 第3回：科学としての法 第4回：リアリズム法学と人間の心理 第5回：実証的データと法 第6回：「法と科学・技術」 第7回：「法と経済」 第8回：行動科学と法 第9回：アーキテクチャ・情報科学と法 第10回：批判的法学研究（CLS）と批判的人種理論（CRT） 第11回：「法と文学」1 第12回：「法と文学」2 第13回：ジェンダー／セクシュアリティと法 第14回：総括——法の行く末を考える これ以外にも、法や正義をめぐる時事的な問題を積極的に取り上げる予定である。 * 授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 質問は授業中、その前後に受け付ける。またメール等のオンラインでは随時受け付けるので分からないことがある場合には積極的に訊ねること。春学期開講の「法哲学Ⅰ」を履修していることが望ましいが要件とはしない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参考書や指示した文献の該当箇所をあらかじめ読んでから授業にのぞみ、授業後は関連資料の読解等の復習をすること。		
5. 教科書 講義の対象が広汎であるため教科書は指定することができない。参考書欄の文献を中心に、そのつど授業中に指示した文献を用いる。		
6. 参考書 瀧川裕英編『もっと問いかける法哲学』（法律文化社、2024年） シーラ・ジャサノフ『法廷に立つ科学』（勁草書房、2015年） 亀本洋編『岩波講座現代法の動態6 法と科学の交錯』（岩波書店、2014年） 松尾陽編『アーキテクチャと法』（弘文堂、2017年） 山本龍彦編『AIと憲法』（日本経済新聞出版社、2018年） R.A. ポズナー『法と文学 第3版（上・下）』（木鐸社、2011年） 谷口洋幸・綾部六郎・池田弘乃編『セクシュアリティと法』（法律文化社、2017年） D. ケアリス編『政治としての法：批判法学入門』（風行社、1991年） 山田八千子編『法律婚って変じゃない？』（信山社、2024年） 小林史明『法と文学』（勁草書房、2020年） スーザン・バンディズ『法と感情の哲学』（勁草書房、2023年） その他、授業中に指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験後に講評をLMSにて示す。		
8. 成績評価の方法 期末試験による。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法文化論Ⅰ		中原 拓也
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この法文化論の授業では、次の三つの視点をたいせつにしたいと思っています。ひとつは、法が形作られる際に影響を与えたと思われる「文化的背景」とは何かが重要な視点となります。つまり、「法以前」の文化的状況を考察することで、現行法とその改廃、また新たに期待される法を捉え直す視点を獲得できるのではないかと思います。ふたつめとして、法そのものが持つ文化、いわば「司法文化」という視点です。法律の作成、裁判制度、法学教育、法曹倫理といった、法に関わる対象が独自に持つ文化というものを意識せずに法を考えることはできないでしょう。そして、さいごに、法がその外部にある別の文化へ影響を与えるといったことがあるとすれば、それはどんな場合なのかという視点です。以上見てきたように、「法の背景にある文化」、「文化としての法」、そして「法からの他の文化への影響」といった複数の視点を意識しつつ、現代社会のさまざまな法現象を考察していきたいと思います。		
【到達目標】 春学期の前半では、正義論のさまざまなかたちを確認することで、紛争解決の制度としての法が立ち上がってくる以前に存在する価値観や法的思考の背景にある哲学についての理解を深めます。後半では、「生命と法」に関するいろいろな場面に関わる文化（生命観）について考えます。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：正義論（1）古典的正義論（路面電車と救命ボート：義務論と功利主義） 第3回：正義論（2）現代正義論その1（格差を是正する：リベラリズム） 第4回：正義論（3）現代正義論その2（課税と民営化：リバタリアニズム） 第5回：正義論（4）現代正義論その3（ゴルフカート使用問題：共同体主義） 第6回：生命と法（1）移植その1（脳死と臓器移植） 第7回：生命と法（2）移植その2（生体移植と異種移植） 第8回：中間まとめと中間レポート課題 第9回：生命と法（3）生殖医療その1（親を知る権利） 第10回：生命と法（4）生殖医療その2（デザイナーベビー） 第11回：生命と法（5）エンハンスメントその1（アンチエイジング） 第12回：生命と法（6）エンハンスメントその2（ドーピング） 第13回：生命と法（7）エンハンスメントその3（優生思想） 第14回：後半まとめと期末レポート課題 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 毎回、リアクションペーパーを書いてもらいますが、出席点ではありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 （予習）事前に参考書に目を通しておき、講義で扱うテーマや用語に慣れておくといよいでしょう。 （復習）講義で扱ったテーマに関するニュースを積極的にフォローすることで理解をより深めて下さい。		
5. 教科書 とくに定めません。		
6. 参考書 サンデル「これからの「正義」の話をしよう」（ハヤカワ文庫） サンデル「ハーバード白熱教室講義録」（ハヤカワ文庫） サンデル「それをお金で買いますか」（ハヤカワ文庫） サンデル「完全な人間を目指さなくてもよい理由 遺伝子操作とエンハンスメントの倫理」（ナカニシヤ出版） サンデル「実力も運のうち 能力主義は正義か？」（早川書房） 瀧川裕英編「問いかける法哲学」、「もっと問いかける法哲学」（法律文化社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートのコメント欄やポートフォリオにて行ないます。		
8. 成績評価の方法 中間と期末の2回のレポートの成績の合計で評価します。 両方提出することが成績評価の対象となるための条件です。 どちらか、あるいは両方を未提出の場合、評価はT（欠席）ではなくF（不合格）となりますので、その点をご承知おきください。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法文化論Ⅱ		中原 拓也
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この法文化論の授業では、次の三つの視点をたいせつにしたいと思っています。ひとつは、法が形作られる際に影響を与えたと思われる「文化的背景」とは何かが重要な視点となります。つまり、「法以前」の文化的状況を考察することで、現行法とその改廃、また新たに期待される法を捉え直す視点を獲得できるのではないかと思います。ふたつめとして、法そのものが持つ文化、いわば「司法文化」という視点です。法律の作成、裁判制度、法学教育、法曹倫理といった、法に関わる対象が独自に持つ文化というものを意識せずに法を考えることはできないでしょう。そして、さいごに、法がその外部にある別の文化へ影響を与えるといったことがあるとすれば、それはどんな場合なのかという視点です。以上見てきたように、「法の背景にある文化」、「文化としての法」、そして「法からの他の文化への影響」といった複数の視点を意識しつつ、現代社会のさまざまな法現象を考察していきたいと思います。		
【到達目標】 秋学期の前半では、安楽死（尊厳死）を中心に引き上げ、文化（死生観）と法が深く関係している状況を、さまざまな価値観から見つめ直すことを目指します。後半では、人間と生物のあいだに起こる文化的事象について、法律学、動物倫理、正義論などの観点から考えていきます。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：安楽死（1）オランダ 第3回：安楽死（2）アメリカ 第4回：安楽死（3）日本1 第5回：安楽死（4）日本2 第6回：安楽死（5）理論的な検討 第7回：中間まとめ 第8回：生物に対する態度（1）外来種 第9回：生物に対する態度（2）遺伝子操作 第10回：生物に対する態度（3）動物実験 第11回：生物に対する態度（4）捕鯨 第12回：生物に対する態度（5）温暖化と作物 第13回：生物に対する態度（6）理論的な検討 第14回：後半まとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 毎回、リアクションペーパーを書いてもらいますが、出席点ではありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 （予習）事前に参考書に目を通しておき、講義で扱うテーマや用語に慣れておくといよいでしょう。 （復習）講義で扱ったテーマに関するニュースを積極的にフォローすることで理解をより深めて下さい。		
5. 教科書 とくに定めません。		
6. 参考書 瀧川裕英編「問いかける法哲学」、「もっと問いかける法哲学」（法律文化社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートのコメント欄やポートフォリオにて行います。		
8. 成績評価の方法 中間と期末の2回のレポートの成績の合計で評価します。 両方提出することが成績評価の対象となるための条件です。 どちらか、あるいは両方を未提出の場合、評価はT（欠席）ではなくF（不合格）となります。 その点、ご承知おきください。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法思想史（西洋）Ⅰ		亀本 洋
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 法律関係論，権利論，国家論および「法と経済学」の歴史的展開について，近代ないし現代に重点をおいて解説する。 【授業の到達目標】 上記項目についての歴史的展開を知ること，現代法学の背景にある基礎的観念を習得すること。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：法思想史と法哲学 第3回：法律関係論の歴史：ホーフエルド 第4回：権利論史：H.L.A. ハート 第5回：人権宣言史と自然権 第6回：ノージックの国家論（1）：支配的保護機関の生成 第7回：ノージックの国家論（2）：超最小国家への移行 第8回：ノージックの国家論（3）：最小国家と賠償原理 第9回：最小国家論の含意 第10回：ロックナー事件 第11回：警察国家と福祉国家，社会主義 第12回：「法と経済学」の歴史（1）：市場と競争 第13回：「法と経済学」の歴史（2）：メンガーの経済学 第14回：「法と経済学」の歴史（3）：コースの経済学 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 下記教科書は資料集も兼ねているので，少なくとも，下記教科書を字を小さくして引用してある原典テキスト部分はよく読んでおくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業範囲について事前に，教科書，特に原典からの引用部分を綿密に読んでおくこと。		
5. 教科書 『法哲学』 亀本洋（成文堂，2011年）。		
6. 参考書 特に定めない。参考文献については上記教科書の脚注および文献表を参照されたい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji クラスウェブのレポート欄またはディスカッション欄を通じて行う。		
8. 成績評価の方法 期末試験による。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法思想史（西洋）Ⅱ		亀本 洋
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 正義論、自由論および法概念論の歴史的展開を古代ギリシア、西洋近代ないし現代に重点をおいて解説する。 【授業の到達目標】 正義論、自由論および法概念論の歴史的展開を知ること、現代の法思想の背景にある基礎的観念を習得すること。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション 第2回：プラトン、アリストテレスの倫理学 第3回：アリストテレスの正義論（1）：矯正的正義と配分的正義 第4回：アリストテレスの正義論（2）：応報的正義、法と衡平 第5回：法における手続的正義の歴史 第6回：行為の正義論の歴史（1）：ヒューム 第7回：行為の正義論の歴史（2）：ハリエク、ノージック、ロールズ 第8回：分配の正義論の歴史（1）：デザートと社会的正義 第9回：分配の正義論の歴史（2）：デイヴィッド・ミラーの正義論 第10回：分配の正義論の歴史（3）：ロールズの格差原理 第11回：ミルの自由論 第12回：リベラリズムの歴史 第13回：ハリエクの自由論 第14回：ハリエクの法概念 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 下記教科書は資料集も兼ねているので、少なくとも、下記教科書を字を小さくして引用してある原典テキスト部分はよく読んでおくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業範囲について事前に、教科書、特に原典からの引用部分を綿密に読んでおくこと。		
5. 教科書 『法哲学』 亀本洋（成文堂，2011年）。		
6. 参考書 特に定めない。参考文献については上記教科書の脚注および文献表を参照されたい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji クラスウェブのレポート欄またはディスカッション欄を通じて行う。		
8. 成績評価の方法 期末試験による。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法史学（東洋）Ⅰ		陶安 あんど
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、古漢語を用いて法律制度を構築した国家を「漢語国家」と捉える。東アジアの歴史の中で、異なる文化的・社会経済的背景をもった漢語国家は数多く観察されるが、本講義の主要な目的は、言語的統一性に隠されたそうした国家の多様性や、歴史過程に見られる種々の断絶を明らかにすることにある。 【到達目標】 本講義は、春学期と秋学期の二学期に跨って行われ、春学期では、まず前期の漢語国家に焦点を当てる。前期とは、漢語国家の周辺に、他の言語を表記できる文字体系を持った国家が出現する 8 世紀より前の時期を指しており、この時期には、東アジアの歴史記述に用いられる言語は古漢語に限られ、国際秩序も、漢語国家間の関係もしくは漢語国家と固有の書かれた歴史を持たない国家との間の関係に限定される。漢語のそうした独占的地位によって、法律制度や法律概念における表層的な継承性が不断に表出されるが、社会経済的背景に留意し、制度設計の実質的多様性を読み取る能力を習得することが本学部の到達目標である。		
2. 授業内容 第 1 回講義：イントロダクション 第 2 回講義：漢語国家の地理的範囲 第 3 回講義：漢語国家の時代区分 第 4 回講義：ジェンダー史にみる漢語国家の諸相 第 5 回講義：初期国家の形成 第 6 回講義：領域国家の出現 第 7 回講義：最初の漢語帝国の遺産 第 8 回講義：最初の儒教国家 第 9 回講義：漢語文化と漢語法律制度の拡散時代 第 10 回講義：南部フロンティアと漢語国家の海洋進出 第 11 回講義：遊牧的漢語国家の出現 第 12 回講義：国家の中の国家：禅譲という中世的篡奪の仕組み 第 13 回講義：国家の中の国家：皇帝権力と貴族社会 第 14 回講義：試験と解説 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 漢文もしくは古漢語の基礎的予備知識は不要である。 本授業は伝統的中国史観を否定するが、比較的新しい視点を取り入れた分かりやすい中国史の概説書を参考文献に掲げたので、合わせて講読することで理解が深まる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で学習した内容は毎回復習し、理解を定着させること。 授業に使う PPT はクラスウェブから配布するので、授業中はメモよりも理解することに集中してほしい。分からないことがあれば、講義時に質問する時間を設けるので、積極的に活用してほしい。（分からないことは恥ずかしいことではない。学習の過程で必然的に生じる結果なので、自分及び同級生のためには是非授業中で大きな声で尋ねること。）		
5. 教科書 クラスウェブから資料（PDF）を配布する。		
6. 参考書 渡邊信一郎『中華の成立——唐代まで』（岩波新書、シリーズ中国の歴史①、2019 年） 丸橋充拓『江南の発展——南宋まで』（岩波新書、シリーズ中国の歴史②、2020 年） 古松崇志『草原の制覇——大モンゴルまで』（岩波新書、シリーズ中国の歴史③、2020 年） 檀上寛『陸海の交錯——明朝の興亡』（岩波新書、シリーズ中国の歴史④、2020 年） 岡本隆司『「中国」の形成——現代への展望』（岩波新書、シリーズ中国の歴史⑤、2020 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を通じて行う。		
8. 成績評価の方法 1. 期末試験（100%）による。 2. 出席回数が 6 割未満の場合、単位を認定しない。		
9. その他 1. クラスウェブの出欠確認機能を使用するので、スマートフォン・パソコンなどを持参のこと。 2. 授業で使用する資料は、紙媒体では配布をせず、クラスウェブからのみ PDF で配付する。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法史学（東洋）Ⅱ		陶安 あんど
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、古漢語を用いて法律制度を構築した国家を「漢語国家」と捉える。東アジアの歴史の中で、異なる文化的・社会経済的背景をもった漢語国家は数多く観察されるが、本講義の主要な目的は、言語的統一性に隠されたそうした国家の多様性や、歴史過程に見られる種々の断絶を明らかにすることにある。 【到達目標】 本講義は、春学期と秋学期の二学期に跨って行われ、秋学期は8世紀以降の時代を対象とする。唐王朝は、非漢族によって建てられた拓跋氏の漢語国家に起源を持ちつつ、初めて漢語以外の言語を用いる国家と対等な国際関係を構築した漢語国家である。この学期では、異なる国家間の競争がエスニック・ボーダーや社階層間の境界を流動化させ、新しい合理主義的庶民文化を成長させた過程や、社会的流動性が再び阻害されより抑圧的法律制度や社会構造に後戻りする過程に照明を当てるが、法律制度の歴史の変遷が必ずしも単線的に発展しない事実に対する理解の促進を図る。		
2. 授業内容 第1回講義：春学期の復習 第2回講義：国家の中の国家：拓跋氏と遊牧的国家構造 第3回講義：拓跋国家の遺産と東アジアの文化的統合 第4回講義：拓跋国家のもう一つの遺産：女性と政治権力 第5回講義：唐朝の隣国と国際秩序の形成 第6回講義：拓跋国家の長期的影響：原始的二元国家から大陸の大帝国へ 第7回講義：五代十国：南北伝統の融合 第8回講義：財政国家：北方系国家における南方伝統の復活 第9回講義：北宋：財政国家における国家権力の制御 第10回講義：複数の転換説の検討：唐宋元明清 第11回講義：明朝：第二儒教国家の形成 第12回講義：世界貿易ネットワークの形成と貨幣発行能力の喪失：最後の前近代的漢語国家の盛衰 第13回講義：近代的国民国家の形成 第14回講義：試験と解説 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 漢文もしくは古漢語の基礎的予備知識は不要である。 本授業は伝統的中国史観を否定するが、比較的新しい視点を取り入れた分かりやすい中国史の概説書を参考文献に掲げたので、合わせて講読することで理解が深まる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で学習した内容は毎回復習し、理解を定着させること。 授業に使うPPTはクラスウェブから配布するので、授業中はメモよりも理解することに集中してほしい。分からないことがあれば、講義時に質問する時間を設けるので、積極的に活用してほしい。（分からないことは恥ずかしいことではない。学習の過程で必然的に生じる結果なので、自分及び同級生のために是非授業中で大きな声で尋ねること。）		
5. 教科書 クラスウェブから資料（PDF）を配布する。		
6. 参考書 渡邊信一郎『中華の成立——唐代まで』（岩波新書、シリーズ中国の歴史①、2019年） 丸橋充拓『江南の発展——南宋まで』（岩波新書、シリーズ中国の歴史②、2020年） 古松崇志『草原の制覇——大モンゴルまで』（岩波新書、シリーズ中国の歴史③、2020年） 檀上寛『陸海の交錯——明朝の興亡』（岩波新書、シリーズ中国の歴史④、2020年） 岡本隆司『「中国」の形成——現代への展望』（岩波新書、シリーズ中国の歴史⑤、2020年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を通じて行う。		
8. 成績評価の方法 1. 期末試験（100%）による。 2. 出席回数が6割未満の場合、単位を認定しない。		
9. その他 1. クラスウェブの出欠確認機能を使用するので、スマートフォン・パソコンなどを持参のこと。 2. 授業で使用する資料は、紙媒体では配布をせず、クラスウェブからのみPDFで配付する。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法史学（西洋）Ⅰ		小室 輝久
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、ヨーロッパの法の歴史における重要な問題についての講義と議論を通じて、ヨーロッパ大陸法とイングランド法の各々の特徴を学びます。 【授業の到達目標】 ヨーロッパ大陸法とイングランド法の特徴を、歴史のおよび比較的な観点から説明できる。		
2. 授業内容 テーマ1：ヨーロッパ各国法のなかの多様な要素 第1回：ヨーロッパの法の歴史の概観 第2回：12世紀イングランドにおける王権の伸張と法 第3回：12世紀イングランドの王権による権利保護とコモン・ローの成立 第4回：フランス法の歴史；ゲルマン法、封建法、ナポレオン法典 第5回：近世ドイツにおけるローマ法の継受、日本における西洋法の継受 第6回：ヨーロッパ大陸法史の断絶、イングランド法史の連続性 第7回：中世ヨーロッパにおける超国家的な法；中世ローマ法とカノン法 第8回：イングランドにおけるコモン・ローの生成・発展と法曹養成教育 第9回：イングランドにおけるエクイティとローマ法 テーマ2：ヨーロッパ大陸法（シヴィル・ロー）の歴史と現代ヨーロッパにおける法の統一 第10回：古代・中世における法の細分化 第11回：中世ローマ法学；註釈学派と註解学派の方法論 第12回：現代におけるヨーロッパの法の統一の可能性；歴史的な視点 第13回：政治的統合と法の統一における法学の役割 第14回：古典ローマ法 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 法史学（西洋）ⅠおよびⅡは、Ⅰ→Ⅱの順で履修するほうが望ましいですが、履修の順序は問いません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji クラスウェブ上で指定する教科書の指定箇所および授業プレゼンテーションを学習して、授業中の質疑応答とディスカッションの準備をしておいてください。		
5. 教科書 European Law in the Past and the Future: Unity and Diversity over Two Millennia , R. C. van Caenegem, (Cambridge University Press, 2002) [ISBN 978-0521006484, 又は Kindle 版(電子書籍)]		
6. 参考書 『裁判官・立法者・大学教授』、R・C・ヴァン・カネヘム（小山貞夫訳）、（ミネルヴァ書房、1990年） 『概説西洋法制史』、勝田有恒・森征一・山内進編著、（ミネルヴァ書房、2004年） 『イギリス法史入門 第5版 第Ⅰ部〔総論〕』、J・H・ベイカー（深尾裕造訳）、（関西学院大学出版会、2023年） 『イングランド憲法史』、F・W・メイトランド（小山貞夫訳）、（創文社、1981年） 『イングランド法の形成と近代の変容』、小山貞夫、（創文社、1983年） 『絶対王政期イングランド法制史抄説』、小山貞夫、（創文社、1992年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ミニッツ・ペーパーに対しては、Oh-o!Meiji 上および次回の授業中にコメントします。 レスポンス・ペーパーおよびリサーチペーパーに対しては、Oh-o!Meiji 上でコメントします。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 平常点（70%）、レスポンス・ペーパー[1,000字程度]（10%）、リサーチ・ペーパー[2,000字程度]（20%） 【成績評価の基準】 [平常点] 授業中の質疑応答、ディスカッションおよびミニッツ・ペーパーの提出を通じた、教科書および授業内容の理解度を基準とします。 [レスポンス・ペーパー] 課題の理解度、文章構成の適切さおよび主張の明確さを基準とします。 [リサーチ・ペーパー] 授業およびリーディング・アサインメントを通じて習得した概念を応用して、ヨーロッパ大陸法とイングランド法の特徴を歴史のおよび比較的な観点から説明できているかを基準とします。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法史学（西洋）Ⅱ		小室 輝久
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、西洋の法の歴史における重要な問題についての講義と議論を通じて、イングランド法、アメリカ法およびヨーロッパ大陸法の各々の特徴を学びます。 【授業の到達目標】 イングランド法、アメリカ法およびヨーロッパ大陸法の特徴を、歴史的および比較的な観点から説明できる。		
2. 授業内容 テーマ1：コモン・ローとシヴィル・ローの対比 第1回：イングランドにおける法典化の試み 第2回：フランス、ドイツ、アメリカにおける公法・私法の分化 第3回：英米における裁判官の著名性、裁判官の個別意見の公表 第4回：英独における法曹養成、日本の法曹養成との比較 第5回：ローマ法とコモン・ローとゲルマン法における手続法 第6回：ヨーロッパの法史における当事者主義と職権主義 テーマ2：法解釈の方法 第7回：「法の聖なる書物」、人文主義法学 第8回：アメリカ合衆国憲法解釈における二つの基準 第9回：フランス革命期の法典編纂と釈義学派 テーマ3：中世ヨーロッパ大陸における法学の発展の前提 第10回：ローマ法の再生と発展の要因、皇帝権・王権の伸張と法 第11回：12世紀ルネサンス、商業の発達と法 テーマ4：法は政治である 第12回：法と政治、19世紀のドイツ法の歴史の概観 第13回：ドイツ民法典の編纂過程 第14回：ナチス的法秩序とドイツ民法典 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 法史学（西洋）ⅠおよびⅡは、Ⅰ→Ⅱの順で履修するほうが望ましいですが、履修の順序は問いません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji クラスウェブ上で指定する教科書の指定箇所および授業プレゼンテーションを学習して、授業中の質疑応答とディスカッションの準備をしておいてください。		
5. 教科書 European Law in the Past and the Future: Unity and Diversity over Two Millennia , R. C. van Caenegem, (Cambridge University Press, 2002) [ISBN 978-0521006484, 又はKindle 版（電子書籍）]		
6. 参考書 『裁判官・立法者・大学教授』、R・C・ヴァン・カネヘム、（小山貞夫訳（ミネルヴァ書房、1990年）） 『概説西洋法制史』、勝田有恒・森征一・山内進編著、（ミネルヴァ書房、2004年） 『近代民事訴訟法史・ドイツ』、鈴木正裕、（信山社、2011年） 『近代英米法思想の展開』、戒能通弘、（ミネルヴァ書房、2013年） 『概説フランス法（上）』、山口俊夫、（東京大学出版会、1978年） 『英米法総論（上）（下）』、田中英夫、（東京大学出版会、1980年） 『現代アメリカ法の歴史』、モートン・J・ホーウィッツ、（樋口範雄訳）、（弘文堂、1996年） 『現代アメリカの司法』、浅香香幹、（東京大学出版会、1999年） 『アメリカ憲法入門 第9版』、松井茂記、（有斐閣、2023年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ミニッツ・ペーパーに対しては、Oh-o!Meiji 上および次回の授業中にコメントします。 レスポンス・ペーパーおよびリサーチペーパーに対しては、Oh-o!Meiji 上でコメントします。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 平常点（70%）、レスポンス・ペーパー[1,000字程度]（10%）、リサーチ・ペーパー[2,000字程度]（20%） 【成績評価の基準】 [平常点] 授業中の質疑応答、ディスカッションおよびミニッツ・ペーパーの提出を通じた、教科書および授業内容の理解度を基準とします。 [レスポンス・ペーパー] 課題の理解度、文章構成の適切さおよび主張の明確さを基準とします。 [リサーチ・ペーパー] 授業およびリーディング・アサインメントを通じて習得した概念を応用して、西洋の法の特徴を歴史的および比較的な観点から説明できているかを基準とします。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法史学（日本）Ⅰ		村上 一博
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義は、前近代日本における法の生成発展の過程を捉えることを目的とする。各時代における法の構造と機能を明らかにすることにより、日本法に固有な特徴と外国法の影響について明らかにする。検討の対象は、国家組織に関する法にはじまり、刑法や民商法などの法典を含むすべての立法およびその解釈運用に係る規範はもちろん、それに携わった人々（法律専門家から一般民衆に至る）の法思想・法意識など、広範な事象に及ぶことになる。本講義を通して、受講生が日本法に固有の特徴について基本的な知識を習得することが目標とされる。		
2. 授業内容 第1回：この講義で何を学ぶのか（イントロダクション） 第2回：各時代における法の存在形態と裁判の諸相 第3回：律令法とは何であったか 第4回：律令の解釈と明法家 第5回：御成敗式目と中世法 第6回：中世における法の世界 第7回：江戸幕府法と藩法 第8回：公事師・公事宿から弁護士へ 第9回：盟神探湯から湯起請へ 第10回：中世における訴陳三番 第11回：中世における和与 第12回：村落の相論と公権力 第13回：出入物と吟味物 第14回：内済から勧解・調停へ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 日本史について基礎的な知識を習得していることが望ましい。毎時間、教科書の記述を補うため、資料を配布する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予め講義で予告する教科書の該当箇所を読んで、講義に臨むこと。また、講義後は、各自で講義内容を確認すること。		
5. 教科書 村上一博・西村安博編『史料でひもとく日本法史』（法律文化社、近刊）を使用する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に半年間のゼミを総括し、試験結果も含めて、全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 平常点と中間レポート（４０点）および期末試験（６０点）で評価する。		
9. その他 特になし。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法史学（日本）Ⅱ		村上 一博
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義は、前近代日本における法の生成発展の過程を捉えることを目的とする。各時代における法の構造と機能を明らかにすることにより、日本法に固有な特徴と外国法の影響について明らかにする。検討の対象は、国家組織に関する法にはじまり、刑法や民商法などの法典を含むすべての立法およびその解釈運用に係る規範はもちろん、それに携わった人々（法律専門家から一般民衆に至る）の法思想・法意識など、広範な事象に及ぶことになる。本講義を通して、受講生が日本法に固有の特徴について基本的な知識を習得することが目標とされる。		
2. 授業内容 第1回：この講義で何を学ぶのか 第2回：近代に生き続ける律令 第3回：密通をめぐる法 第4回：喧嘩両成敗と戦国大名法 第5回：御定書にみる犯罪と刑罰 第6回：公地公民制と墾田永年私財法 第7回：永仁の徳政令 第8回：中世における売券 第9回：江戸時代の借金 第10回：田端永代売買の禁止 第11回：古代の相続 第12回：中世武家法における女性の再婚と相続 第13回：近世町人の遺言相続 第14回：総括と試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 日本史について基礎的な知識を習得していることが望ましい。毎時間、教科書の記述を補うため、資料を配布するので、必ず出席すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予め講義で予告する教科書の該当箇所を読んで、講義に臨むこと。また、講義後は、各自で講義内容を確認すること。		
5. 教科書 村上一博・西村安博編『史料でひもとく日本法史』（法律文化社、近刊）を使用する。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に半年間のゼミを総括し、試験結果も含めて、全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 平常点（出席状況とレポート）40%、学期末試験 60%で評価する。		
9. その他 特になし。		

科目ナンバー：(LA)LAW111J		
日本近代法史Ⅰ		長沼 秀明
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 この科目は法学部の「基礎法科目」の一つとして、日本近代法史について講義するものです。 この講義では、明治維新にはじまる日本近代法の形成・展開過程を考察しながら、日本近代法史の理解を深めていくことを目標とします。		
2. 授業内容 日本近代法の形成過程を明治維新史との関連において講義します。その際、明治法律学校および同校創立者たちの動向に着目します。また、史料を講読しながら講義を進めます。 第1回（aのみ）：この講義のねらいと概要 第2回：明治法律学校の誕生 第3回：明治法律学校の誕生（続） 第4回：宮城浩蔵と刑法 第5回：宮城浩蔵と刑法（続） 第6回：矢代操と帝国議会 第7回：ボワソナード 第8回：ボワソナード（続） 第9回：法典論争（その1） 第10回：法典論争（その2） 第11回：法典論争（その3） 第12回：岸本辰雄と民法・商法 第13回：岸本辰雄と民法・商法（続） 第14回：布施辰治と山崎今朝弥／女性弁護士誕生 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 1) 講義時間は最大限に使います。 2) この科目を履修する場合は、あわせて「日本近代法史Ⅱ」も履修することが望ましいと考えています。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1) 各回の講義前に、教科書の指定箇所を熟読しておいてください。 2) 講義後には、紹介した文献や史料をぜひ読んでください。		
5. 教科書 村上一博『権利自由の揺籃—明治法律学校の建学の精神—』（DTP 出版、2020年）（本体価格1900円）		
6. 参考書 毎回の講義のなかで紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に授業の一環として伝えます。		
8. 成績評価の方法 試験期間中に実施する学期末試験（論述式試験問題）の得点により、厳正に行ないます。		
9. その他 1) この講義をつうじて日本近代法史を学ぶことの楽しさと大切さを感じてくれることを強く願っています。 2) 「Oh-o! Meiji システム」の積極的な活用をはかります。		

科目ナンバー：(LA)LAW111J		
日本近代法史Ⅱ		長沼 秀明
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 この科目は法学部の「基礎法科目」の一つとして、日本近代法史について講義するものです。 この講義では、明治維新にはじまる日本近代法の形成・展開過程を考察しながら、日本近代法史の理解を深めていくことを目標とします。		
2. 授業内容 春学期の授業内容をふまえ、日本の家族法の歴史を明治時代に遡って考察し、日本近代法史についての理解を深めます。 第1回（aのみ）：この講義のねらいと概要 第2回：ボワソナード 第3回：ボワソナード（続） 第4回：岸本辰雄 第5回：岸本辰雄（続） 第6回：婚姻・親族 第7回：婚姻・親族（続） 第8回：親権 第9回：妾・離婚 第10回：妾・離婚（続） 第11回：相続 第12回：相続（続） 第13回：横田秀雄 第14回：横田秀雄（続） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 1) 講義時間は最大限に使います。 2) この科目を履修する場合は、あわせて「日本近代法史Ⅰ」も履修することが望ましいと考えています。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1) 各回の講義前に、教科書の指定箇所を熟読しておいてください。 2) 講義後には、紹介した文献や史料をぜひ読んでください。		
5. 教科書 村上一博『日本近代家族法史論』（法律文化社、2020年）（本体価格2900円）		
6. 参考書 毎回の講義のなかで紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に授業の一環として伝えます。		
8. 成績評価の方法 試験期間中に実施する学期末試験（論述式試験問題）の得点により、厳正に行ないます。		
9. その他 1) この講義をつうじて日本近代法史を学ぶことの楽しさと大切さを感じてくれることを強く願っています。 2) 「Oh-o! Meiji システム」の積極的な活用をはかります。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW111J		
日本近代法史Ⅰ		村上 一博
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【到達目標】 この講義では、明治法律学校を軸に、近代日本法の生成と発展を検討することにより、現代日本法の特徴を明確にすることを目指す。 【授業の概要】 明治維新後、日本は、世界史上例のないほど急激な「近代」資本主義化に「成功」し、法的な側面から見れば、旧幕藩体制期とはまったく異質な西欧近代的な法制度が全面的かつ急激に整備されていったと言われてきた。本講義では、明治法律学校が近代日本法の形成と発展にどのように寄与したかを中心に考察することを通して、現代日本法の特徴とその功罪について考えてみたい。		
2. 授業内容 第1回：この講義で何を学ぶのか 第2回：明治法律学校の誕生 第3回：岸本辰雄と民商法 第4回：宮城浩蔵と刑法 第5回：矢代操と国会 第6回：ボワソナード（その1） 第7回：ボワソナード（その2） 第8回：ブスケとアペール 第9回：民商法典論争 第10回：井上正一と熊野敏三 第11回：磯部四郎と井上操 第12回：西園寺公望と光明寺三郎 第13回：一瀬勇三郎と横田秀雄 第14回：布施辰治と山崎今朝弥 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 日本近代史について基礎的な知識を持っていることが望ましい。講義で言及できなかった諸問題については、その都度、参考文献を指示する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義内容はその都度予告するので、教科書の該当箇所を予習すること。また、講義後は、講義内容を復習すること。		
5. 教科書 村上一博『権利自由の揺籃—明治法律学校の建学の精神—』（DTP 出版）		
6. 参考書 日本近代法史および明治大学史関係の文献全般。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 半年間の講義を総括し、試験結果が出た段階で、全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 春学期中に、アンケート・レポートなどを行う（2回を予定）（40点）。 学期末には筆記試験を行う（60点）。		
9. その他 特になし。		

科目ナンバー：(LA)LAW111J		
日本近代法史Ⅱ		村上 一博
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【到達目標】 この講義では、近代日本の法制度を素材にして、現代日本法を歴史的側面から検討することにより、現代日本法の特徴を明確にすることを目指す。 【授業の概要】 明治維新後、日本は、世界史上例のないほど急激な「近代」資本主義化に「成功」し、法的な側面から見れば、旧幕藩体制期とはまったく異質な西欧近代的な法制度が全面的かつ急激に整備されていったと言われてきた。本講義では、近代日本法の生成と発展を理解することで、現代日本法の特徴とその功罪について考えてみたい。		
2. 授業内容 第1回：aのみ；イントロダクション 第2回：婚姻 第3回：親族 第4回：親権 第5回：妾 第6回：離婚 第7回：相続 第8回：ボワソナード 第9回：岸本辰雄 第10回：横田秀雄 第11回：穂積陳重 第12回：穂積八束 第13回：梅謙次郎 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義で言及できなかった諸問題については、その都度、参考文献を指示するので、各自で自習することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 近代日本史の基本的知識を自習しておくこと。講義後は学習内容を復習すること。		
5. 教科書 村上一博著『日本近代家族法史論』（法律文化社）		
6. 参考書 村上一博『明治離婚裁判史論』（法律文化社） 村上一博『日本近代婚姻法史論』（法律文化社）ほか。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験結果が出た段階で、半年間の講義を総括し、全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 秋学期末の筆記試験で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW211J		
比較法学Ⅰ		吉井 啓子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、異なる法体系に属する世界の国々の実定法・法制度について比較を行う基礎法学の一分野である比較法学を学ぶ。春学期の比較法学Ⅰでは、比較法学入門として、比較法学の定義と他の法学分野との相違点・関係、比較法学の効用（何のために比較法学が必要か）、比較法学の方法と対象国の選定、西欧および日本における比較法学の歴史などを学ぶ。 本講義の到達目標は、比較法学に関する基本知識（比較法学の意義・効用・方法・歴史）を身につけることである。 基本知識の定着を図るため、中間レポート（1回）を実施する（0h-o!Meijiで提出）。		
2. 授業内容 第1回：aのみ ガイダンス 第2回：比較法の定義、他の法学分野との相違点・関係 第3回：比較法の効用（1）実務的効用 第4回：比較法の効用（2）実践例①：フランス法 第5回：比較法の効用（3）学問的効用 第6回：比較法の効用（4）実践例②：フランス法 第7回：比較法の方法（1）対象国・地域の選定 第8回：比較法の方法（2）具体的な比較方法と必要知識 第9回：比較法の歴史（1）西欧における歴史① 第10回：比較法の歴史（2）西欧における歴史② 第11回：比較法の歴史（3）日本における歴史① 第12回：比較法の歴史（4）日本における歴史② 第13回：比較法の実践例（ゲスト講師によるスイス法に関する講義を予定） 第14回：春学期のまとめ、補論 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 あわせて秋学期の比較法学Ⅱを受講することが望ましい。 授業には教科書・レジュメを必ず持参すること。レジュメは事前に0h-o!Meijiにアップロードするので、プリントアウトして授業に持参すること。持参したノートパソコンで見るともよい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習-事前にアップロードするレジュメのStep1の質問に答えられるように教科書を読んでおくこと。 復習・発展学習-レジュメのStep2の文献を読む。Step3の事例問題・発展問題に取り組む。		
5. 教科書 滝沢正『比較法』（三省堂、2009） 授業は事前にアップロードするレジュメにそって行う。		
6. 参考書 第1回レジュメに参考書リストを掲載する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートは0h-o!Meijiを通じて提出してもらう。実施翌週の授業で全体講評をするほか、希望する受講生には個別コメントを返信する。全体講評・個別コメントをふまえて、修正版を提出することも可能とする。		
8. 成績評価の方法 中間レポート 30%、期末試験 70%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW211J		
比較法学Ⅱ		吉井 啓子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、異なる法体系に属する世界の国々の実定法・法制度について比較を行う基礎法学の一分野である比較法学を学ぶ。秋学期の比較法学Ⅱでは、世界の法体系を分類する法系論についてその意義・議論の諸相・法族分類の要素などの基礎を学んだうえで、具体的な分類（法観念・法技術・法源・裁判所・法律家などによる）を学び、日本法がその中でどのように位置づけられるかを検討する。各国の法の形成に対する外国法の影響についても、法の継受、法の統一、共通法の制定などの視点から学ぶ。 本講義の到達目標は、比較法学に関する基本知識（法系論の意義と諸相・日本法の特質・法の形成に関する外国法の影響）を身につけることである。 基本知識の定着を図るため、中間レポート（1回）を実施する（0h-o!Meiji で提出）。		
2. 授業内容 第1回：aのみ ガイダンス 第2回：法系論（1）意義と法系論の諸相 第3回：法系論（2）法族分類の要素 第4回：法系の分類（1）法観念と法技術 第5回：法系の分類（2）法源 第6回：法系の分類（3）裁判所 第7回：法系の分類（4）法律家 第8回：日本法の特質（1）上代 第9回：日本法の特質（2）中代 第10回：日本法の特質（3）近代 第11回：各国の法の形成に対する外国法の影響（1）法の継受 第12回：各国の法の形成に対する外国法の影響（2）法の統一と共通法 第13回：各国の法の形成に対する外国法の影響（3）法の変動 第14回：秋学期のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 比較法学Ⅰを受講していることが望ましい。受講していない場合は、教科書の前半部分を読んで自学しておくこと。 授業には教科書・レジュメを必ず持参すること。レジュメは事前に 0h-o!Meiji にアップロードするので、プリントアウトして授業に持参すること。持参したノートパソコンで見るのでもよい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習-事前にアップロードするレジュメの Step1 の質問に答えられるように教科書を読んでおくこと。 復習・発展学習-レジュメの Step2 の文献を読む。Step3 の事例問題・発展問題に取り組む。		
5. 教科書 滝沢正『比較法』（三省堂、2009） 授業は事前にアップロードするレジュメにそって行う。		
6. 参考書 第1回レジュメに参考書リストを掲載する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートは 0h-o!Meiji を通じて提出してもらう。実施翌週の授業で全体講評をするほか、希望する受講生には個別コメントを返信する。全体講評・個別コメントをふまえて、修正版を提出することも可能とする。		
8. 成績評価の方法 中間レポート 30%、期末試験 70%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW211E		
比較法学 I		メンクハウス
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 In the context of globalization studies of foreign legal systems and the interstate law in which most of them are already embedded becomes of utmost importance. This does first of all mean that the language of the country which legal system is going to be dealt with, has to be learned. On top of that the foreign legal system has to be studied, ideally in the foreign country itself. To prepare oneself for this task, it is necessary to get an overview of the methodical issues that have to be faced when studying a foreign legal system. The lectures will mainly be dealing with methodological issues. After the basic definitions like sources of law, law and language, etc. are introduced, it has to be shown that law in the books might be quite different from the law that is actually governing a foreign country or society. The legal comparatist cannot only compare the written law of his home country with the written law of a foreign community but has to study its complete cultural environment to be able to present convincing results. That leads to the question of the purpose of comparative law studies. It is more than likely that other legal systems are facing the same legal problems as the home country of the comparatist. He might therefore want to look for possible solutions to a certain problem across the border, or he might simply be interested in a better understanding of the workings of other cultures or he is working on a unified legal system. The lecture also involves the study of different legal systems in existence on the globe. Doing this in Japan and knowing that the Japanese legal system was influenced by the German Law in the Meiji era and after the end of the Second World War by the legal system of the United States of America, the introduction of foreign legal systems will be mainly restricted to the countries mentioned.		
2. 授業内容 第1回: Reasons for doing Comparative Law 第2回: History of Comparative Law in Japan 第3回: Law in the Books 第4回: Law and other Rules 第5回: Law and Morals 第6回: Law and Ethics 第7回: Law and Customs 第8回: Law and Literacy 第9回: Law and Geography 第10回: Law and Religion 第11回: Law and History 第12回: Law and Politics 第13回: Law and Economics 第14回: Law and Psychology * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 To follow the lectures it is of course necessary to have a basic knowledge of the English language, its roman characters and arabic figures. Furthermore a basic knowledge of the home country law of the participant is recommendable. It is very much appreciated to have participants from as many countries as possible to realize a comparative approach already in the classroom itself.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 As example for all theoretical approaches actual cases will be discussed. The case studies will be based on cases featured in very recent newspaper articles.		
5. 教科書 There are several textbooks on comparative law in all relevant languages, as can be seen from the list provided in the next paragraph. For the purpose of this lecture, all these textbooks are too voluminous. If necessary, copies of certain texts will be provided to the participants.		
6. 参考書 German: Großfeld, Bernhard: Kernfragen der Rechtsvergleichung. Mohr Siebeck: Tübingen 1996 Zweigert, Konrad/Kötz, Hein: Einführung in die Rechtsvergleichung. Mohr Siebeck: Tübingen 3. Aufl. 1996 Kischel, Uwe: Rechtsvergleichung. C.H. Beck: München 2015 English: Zweigert, Konrad/Kötz, Hein: An Introduction to Comparative Law, Oxford University Press: Oxford 1998 (English translation of the German version named above) Grosswald Curran, Vivian: Comparative Law: An Introduction. Carolina Academic Press: Durham NC 2002 Grossfeld, Bernhard: Core Questions of Comparative Law. Carolina Academic Press: Durham NC 2005 (English translation of the German version named above) Reimann, Mathias/Zimmermann, Reinhard (ed.): The Oxford Handbook of Comparative Law. 2nd. edition. Oxford University Press. Oxford 2019		

De Cruz, Peter: Comparative Law in a Changing World, Routledge: Cavendish 3. ed.: 2008 Husa, Jaakko: A New Introduction to Comparative Law. Hart Publishing: Oxford 2015 Siems, Mathias: Comparative Law, Cambridge University Press: Cambridge 3. ed. 2022 Kischel, Uwe: Comparative Law. Oxford University Press: Oxford 2019 (English translation of the German version named above) Siems, Mathias/Yap, Po Jen (ed.): The Cambridge Handbook of Comparative Law. Cambridge University Press: Cambridge 2024 Japanese: グロスフェルト・ベルンハード (著)『比較法文化論』 中央大学出版部、東京 2004 年 (Japanese Translation of the German version named above) 滝沢 正 (著)『比較法』 三省堂、東京 2009 年 五十嵐 清 (著)『比較法ハンドブック』 第 3 版 勁草書房、東京 2019 年
7. 課題に対するフィードバックの方法 It is of course possible to contact the teacher immediately after the lesson, but as time between lessons is short, this will not always be possible. The preferred method therefore is to write an e-mail to the teacher. If necessary a personal talk with the teacher on the Surugadai Campus of the university can be arranged via e-mail.
8. 成績評価の方法 The evaluation is equally grounded on active participation (e.g. asking and answering questions) and the final written test, respectively presentation.
9. その他 * 当科目は英語により授業を実施する。

科目ナンバー：(LA)LAW211E		
比較法学Ⅱ		メンクハウス
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 In the context of globalization studies of foreign legal systems and the interstate law in which most of them are already embedded becomes of utmost importance. This does first of all mean that the language of the country which legal system is going to be dealt with, has to be learned. On top of that the foreign legal system has to be studied, ideally in the foreign country itself. To prepare oneself for this task, it is necessary to get an overview of the methodical issues that have to be faced when studying a foreign legal system. The lectures will mainly be dealing with methodological issues. After the basic definitions like sources of law, law and language, etc. are introduced, it has to be shown that law in the books might be quite different from the law that is actually governing a foreign country or society. The legal comparatist cannot only compare the written law of his home country with the written law of a foreign community but has to study its complete cultural environment to be able to present convincing results. That leads to the question of the purpose of comparative law studies. It is more than likely that other legal systems are facing the same legal problems as the home country of the comparatist. He might therefore want to look for possible solutions to a certain problem across the border, or he might simply be interested in a better understanding of the workings of other cultures or he is working on a unified legal system. The lecture also involves the study of different legal systems in existence on the globe. Doing this in Japan and knowing that the Japanese legal system was influenced by the German law in the Meiji era and after the end of the Second World War by the legal system of the United States of America, the introduction of foreign legal systems will be mainly restricted to the countries mentioned.		
2. 授業内容 第1回: Foreign Legal Systems 第2回: Continental Legal Systems 第3回: Common Law Systems 第4回: National Law (State Law) 第5回: International Law (Interstate Law) 第6回: Public International Law 第7回: Conflict of Laws in Public Law 第8回: Private International Law 第9回: Transnational Law 第10回: Supranational Law 第11回: Non legal regulatory measures 第12回: Lex Mercatoria 第13回: Soft Law 第14回: Summary * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 To follow the lectures it is of course necessary to have a basic knowledge of the English language, its romaji characters and arabic figures. Furthermore a basic knowledge of the home country law of the participant is recommendable. It is very much appreciated to have participants from as many countries as possible to realize a comparative approach already in the classroom itself.		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 As example for all theoretical approaches actual cases will be discussed. The case studies will be based on very recent cases using newspaper articles.		
5. 教科書 There are several textbooks on comparative law in all relevant languages, as can be seen from the list provided in the next paragraph. For the purpose of this lecture, all these textbooks are too voluminous. If necessary, copies of certain texts will be provided to the participants.		
6. 参考書 German: Großfeld, Bernhard: Kernfragen der Rechtsvergleichung. Mohr Siebeck: Tübingen 1996 Zweigert, Konrad/Kötz, Hein: Einführung in die Rechtsvergleichung. Mohr Siebeck: Tübingen 3. Aufl. 1996 Kischel, Uwe: Rechtsvergleichung. C.H. Beck: München 2015 English: Zweigert, Konrad/Kötz, Hein: An Introduction to Comparative Law, Oxford University Press: Oxford 1998 (English translation of the German version named above) Grosswald Curran, Vivian: Comparative Law: An Introduction. Carolina Academic Press: Durham NC 2002 Grossfeld, Bernhard: Core Questions of Comparative Law. Carolina Academic Press: Durham NC 2005 (English translation of the German version named above) Reimann, Mathias/Zimmermann, Reinhard (ed.): The Oxford Handbook of Comparative Law. 2nd. edition. Oxford University Press. Oxford 2019		

De Cruz, Peter: Comparative Law in a Changing World, Routledge: Cavendish 3. ed.: 2008 Husa, Jaakko: A New Introduction to Comparative Law. Hart Publishing: Oxford 2015 Siems, Mathias: Comparative Law, Cambridge University Press: Cambridge 3. ed. 2022 Kischel, Uwe: Comparative Law. Oxford University Press: Oxford 2019 (English translation of the German version named above) Siems, Mathias/Yap, Po Jen (ed.): The Cambridge Handbook of Comparative Law. Cambridge University Press: Cambridge 2024 Japanese: グロスフェルト・ベルンハート (著)『比較法文化論』 中央大学出版部、東京 2004 年 (Japanese Translation of the German version named above) 滝沢 正 (著)『比較法』 三省堂、東京 2009 年 五十嵐 清 (著)『比較法ハンドブック [第 3 版]』 勁草書房、東京 2019 年
7. 課題に対するフィードバックの方法 It is of course possible to contact the teacher immediately after the lesson, but as time between lessons is short, this will not always be possible. The preferred method therefore is to write an e-mail to the teacher. If necessary a personal talk with the teacher on the Surugadai Campus of the university can be arranged via e-mail.
8. 成績評価の方法 The evaluation is equally grounded on active participation (e.g. asking and answering questions) and the final written test, respectively presentation.
9. その他 * 当科目は英語により授業を実施する。

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
比較憲法 I		大津 浩
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 比較憲法史の観点からイギリスとフランスにおける近代立憲主義、民衆型立憲主義、現代立憲主義の基本を学ぶ。特に、フランスの憲法史は比較憲法史の中心的な題材なので、その成立と展開を詳しく学ぶことにする。イギリスについては比較憲法史の視点をより明確にするために現代立憲主義の変容と欧州統合の関係についても本授業で学ぶこととする。比較憲法は、日本国憲法の基本理念・原理・制度をより良く理解するうえで不可欠のものである。 【到達目標】 受講生は講義並びに授業中の質疑討論を通じて、近代立憲主義と現代立憲主義の基本理念・原理・制度をより良く理解し、日本国憲法自体のより良い理解を得られるようになることが目標である。加えて、秋学期に学ぶドイツとアメリカの立憲主義との比較のための視座を身に付け、また同じく秋学期で扱う比較憲法判例や立憲主義のグローバル化についての知識や基本視座を身に付けることも目標となる。		
2. 授業内容 毎回レジュメと資料を配り、講義形式で授業を行う。必要に応じて、個別のテーマについて質疑討論を行うことがある。講義予定は以下の通りである。 第1回：a：イントロダクション 第2回：比較憲法の方法論 第3回：イギリスにおける近代立憲主義の成立 第4回：イギリスにおける近代立憲主義の確立 1 第5回：イギリスにおける近代立憲主義の確立 2 第6回：イギリスにおける現代立憲主義の成立 第7回：イギリスにおける現代立憲主義の変容と欧州統合・EU 離脱問題 第8回：フランスにおける近代立憲主義の成立 1 第9回：フランスにおける近代立憲主義の成立 2 第10回：フランスにおける近代立憲主義の展開 1 第11回：フランスにおける近代立憲主義の展開 2 第12回：フランスにおける現代立憲主義の成立 第13回：フランスにおける現代立憲主義の展開 1 第14回：フランスにおける現代立憲主義の展開 2 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 必須条件ではないが、憲法（人権）Ⅰ、Ⅱ、憲法（統治）Ⅰ、Ⅱを単位修得しておくことが望ましい。 受講生は配布されるレジュメを、講義を聞きつつ充実させ、後から読み返しても十分に理解できるようにすること。授業内容が不明な場合には積極的に質問すること。また適宜行う個別テーマに関する討論にも積極的に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後はレジュメに沿って必ず復習すること。 イギリスとフランスの憲法史の詳しい内容については、教師が文章化したものを Oh-o! Meiji に適宜アップロードする予定なので、授業の解説だけでは十分にわからない受講生は、予習・復習としてこの文章化された授業内容も読了すること。		
5. 教科書 初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集』（第5版、三省堂、2020年）		
6. 参考書 辻村みよ子『比較憲法』（第3版、岩波書店、2018年） 辻村みよ子・糠塚康江『フランス憲法入門』（三省堂、2012年） 杉原泰雄『憲法の歴史』（岩波書店、1996年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 復習のために Oh-o! Meiji で小テストを実施し、解答締切後は正解を示すだけでなく、毎回、詳しい解説をフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 定期試験（80%）、小テストないし課題（15%）、その他の授業参加の積極度（5%）により評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
比較憲法Ⅱ		大津 浩
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 ドイツとアメリカの比較憲法史を題材に、近代立憲主義、外見的立憲主義、現代立憲主義の対抗と展開について学んだあと、春学期の授業内容を踏まえてフランス、ドイツ、アメリカの3か国に焦点を当て、現代の成文憲法の分析を通じて現代立憲主義の特質とグローバル化の下でのその変容を学ぶ。特に違憲立法審査制の発展に基づく3か国の憲法判例の展開を概観することで、現代のグローバル化した立憲主義が提起する諸課題を考察する。 【到達目標】 受講生は講義並びに授業中の質疑討論を通じて、ドイツとアメリカの憲法史並びに現行憲法の特徴を理解するとともに、西洋各国の現代憲法の原理・制度・憲法判例をより良く理解し、日本国憲法の現代的变化についてもより良い理解を得られるようになることが目標である。加えて、現代立憲主義とグローバル立憲主義の展開状況と憲法判例の展開方向を十分に理解できる力を身につけることを目指す。		
2. 授業内容 レジュメと資料を配布し、講義形式で授業を行う。必要に応じて、個別テーマに関する質疑討論を行うことがある。講義予定は次の通りである。 第1回：a) 授業ガイダンス、ドイツにおける近代立憲主義の試みと挫折 第2回：ドイツにおける外見的立憲主義の成立 第3回：ドイツにおける外見的立憲主義の展開 第4回：ドイツにおける現代立憲主義の成立と挫折 第5回：ドイツにおける現代立憲主義の再確立と展開 第6回：アメリカ近代憲法の成立の意義 第7回：アメリカ近代憲法の展開 第8回：アメリカ現代憲法の展開 第9回：アメリカの立憲主義の諸特徴 第10回：現代憲法判例分析1（公職における男女平等、積極的差別是正措置） 第11回：現代憲法判例分析2（欧州統合と憲法改正1） 第12回：現代憲法判例分析3（欧州統合と憲法改正2） 第13回：現代憲法判例分析4（基本権保護義務と私人間効力） 第14回：現代憲法判例分析5（信教の自由、表現の自由保障に見る憲法の多様性） * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 必須条件ではないが、憲法（人権）Ⅰ、Ⅱ、憲法（統治）Ⅰ、Ⅱを単位修得、比較憲法Ⅰを履修しておくことが望ましい。 受講生は配布されるレジュメを、講義を聞きつつ充実させ、後から読み返しても十分に理解できるようにすること。授業内容が不明な場合には積極的に質問すること。また適宜行う個別テーマに関する討論にも積極的に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後はレジュメに沿って必ず復習すること。また、可能な範囲で参考書で予習しておくこと。 ドイツとアメリカの憲法史の詳しい内容については、教師が文章化したものを Oh-o! Meiji に適宜アップロードする予定なので、授業の解説だけでは十分にわからない受講生は、予習・復習としてこの文章化された授業内容も読了すること。		
5. 教科書 初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集』（第5版、三省堂、2020年） ※すでに2017年出版の「第4版」を持っている者はそれでも構わない。		
6. 参考書 憲法訴訟研究会編『続・アメリカ憲法判例』（有斐閣、2014年） 樋口範雄他編『アメリカ法判例百選』（別冊ジュリスト213、有斐閣、2012年） フランス憲法判例研究会編『フランスの憲法判例』（信山社、2002年）、『フランスの憲法判例Ⅱ』（信山社、2013年） ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例』（信山社、1996年）、『ドイツの憲法判例Ⅰ』（第2版、信山社、2003年）、『ドイツの憲法判例Ⅱ』（第2版、信山社、2006年）、『ドイツの憲法判例Ⅲ』（信山社、2008年）、『ドイツの憲法判例Ⅳ』（信山社、2018年） 辻村みよ子『比較憲法』（第3版、岩波書店、2018年） 辻村みよ子・糠塚康江『フランス憲法入門』（三省堂、2012年） 松井茂記『アメリカ憲法入門』（第8版、有斐閣、2018年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 復習のために Oh-o! Meiji で小テストを実施し、解答締切後は正解を示すだけでなく、毎回、詳しい解説をフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 定期試験（80%）、小テストないし課題（15%）、その他の授業参加の積極度（5%）により評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
アメリカ法Ⅰ		佐々木 秀智
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 アメリカ法思想の理解 この講義では、現代アメリカ法の思想的な背景について解説する。 アメリカ法の特徴の1つに歴史的継続性というものがある。最近の実際のアメリカ法の判決文においても、アメリカの法制史に関する知識が前提とされている場合が多く、ただ現在の状況だけを理解するだけでは、不十分である。 この講義は、現代のアメリカ法の前提となっている法思想、歴史的背景を理解できるようになることを目的とする。		
2. 授業内容 第1回：わが国におけるアメリカ法の継受（1） 第2回：わが国におけるアメリカ法の継受（2） 第3回：アメリカ法研究の意義とその方法 第4回：〃〃 第5回：アメリカ法の歴史（アメリカの独立） 第6回：〃〃（南北戦争以前の状況） 第7回：〃〃（産業革命とアメリカ法の確立） 第8回：〃〃（法現実主義の時代） 第9回：アメリカ法の思想的背景（個人主義）（1） 第10回：〃〃（2） 第11回：〃〃（関係の法理） 第12回：〃〃（ピューリタンの思想） 第13回：〃〃（開拓者精神） 第14回：〃〃（その他） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 レジュメ・プリント配布等は、Oh-o! Meiji システムを通して行う。また、出席はとらない。 憲法・民法・刑法の基本知識を前提とした授業を行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 指定教科書の該当箇所を読んでおいてください。 【復習すべき内容】 授業で提示した問題について、授業で紹介した文献・サイト等にアクセスして調べてください。		
5. 教科書 『アメリカ法入門（第5版）』伊藤正己・木下毅（2012年、日本評論社） 『アメリカ法判例百選』樋口他編（2012年、有斐閣）		
6. 参考書 授業中適宜指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験を実施した後、全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 試験による（100%）。なお、積極的な授業態度の学生に対しては、別途評価する。		
9. その他 この講義では、アメリカ法への関心の強さと努力を惜しまない姿勢だけが必要である。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
アメリカ法Ⅱ		佐々木 秀智
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 アメリカ法の基本枠組みの理解 本講義は、アメリカ法に関する基本的枠組みを解説する。ここで「アメリカ法」というのは、わが国の憲法、民法、刑法のように、すべての分野で全米統一の法典があるわけではない。したがって、アメリカの法制度全てをフォローすることはできない。個々の法制度に関しては、各自で調べてもらうほかはない。 本講義は、このような各自の試みに、基本的な方向性を示すことを目的とする。		
2. 授業内容 第1回：アメリカ法の法源（総論） 第2回：アメリカ法の法源（判例法主義1） 第3回：アメリカ法の法源（判例法主義2） 第4回：アメリカ法の法源（制定法、その他） 第5回：司法審査制（1） 第6回：司法審査制（2） 第7回：陪審制度（1） 第8回：陪審制度（2） 第9回：当事者主義的訴訟構造（民事訴訟1） 第10回：当事者主義的訴訟構造（民事訴訟2） 第11回：当事者主義的訴訟構造（刑事訴訟1） 第12回：当事者主義的訴訟構造（刑事訴訟2） 第13回：連邦法と州法 第14回：アメリカの法律家 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 レジュメ・プリント配布等は、Oh-o! Meiji システムを通して行う。また、出席はとらない。 憲法・民法・刑法の基本知識を前提とした授業を行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 指定教科書の該当箇所を読んでおいてください。 【復習すべき内容】 授業で提示した問題について、授業で紹介した文献・サイト等にアクセスして調べてください。		
5. 教科書 『アメリカ法入門（第5版）』伊藤正己・木下毅（2012年、日本評論社） 『アメリカ法判例百選』樋口他編（2012年、有斐閣）		
6. 参考書 授業中適宜指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験を実施した後、全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 試験による（100%）。なお、積極的な授業態度の学生に対しては、別途評価する。		
9. その他 この講義では、アメリカ法への関心の強さと努力を惜しまない姿勢だけが必要である。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
イギリス法 I		菊池 肇哉
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 概要：世界の様々な法系の中で大陸法と並び二大法系と並び称されるコモン・ローについて、英国法を中心としてその発達の経緯及び特徴を解説します。I では主に、英米法の基本的特徴を扱います。 到達目標：全く違った思考経路による英米法の詳細を学ぶことにより、三、四年になるまで培ってきた主に大陸法をベースとする自国の法の理解と見識を広げる。学部法学教育の仕上げとして若干の比較法的視点と国際的視野を涵養する。		
2. 授業内容 第1回：英国法を学ぶ意味 世界の法系と英米法 法系 Legal Family という言葉の意味 特にローマ法、ゲルマン法、ゲルマン法の一部としてのコモン・ロー 世界を二分する西洋文明法の二大潮流としての大陸法、英米法 第2回：明治以降の日本に於ける外国法受容の状況：明治14年の政変の意味 英法学校 仏、英法の衰退とドイツ法学の導入 第3回：コモン・ローとは何か？ Curia regis, Witanagemoot, ゲルマン法における三権の融合と モンテスキューの近代的三権分立理論 慣習法とは何か？共同体裁判 communal justice 法発見 コモン・ローの成立と沿革 第4回：コモン・ロー法系の世界への伝播 混合法域 スコットランド、南アフリカ 第5回：コモン・ローの様々な特質について 第6回：訴訟法を中心としたコモン・ロー体系の発展 メイトランド『コモン・ローにおける訴訟方式』 なぜ、forms of action が重要なのか？ 訴訟法的権利保護の体系 第7回：判例法 Case Law とは何か？判例法は慣習か？ 学識法としてのローマ法と実務法としてのコモン・ロー 1 Ratio decidendi と obiter dicta, 先例拘束性、古い原理か新しい原理か？ 法解釈と法創造の虚実皮肉：裁判官におかる法形成機能を認めるか。 Candler v. Crane, Christmas & Co., [1951] のデニング判事による反対意見 法技術としての擬制 fictio legis と fraus legis 法の詐欺・脱法 クック「In fictione legis semper est aequitas. 法的擬制には常に衡平が存在する」 第8回：判例法とは何か？2 イギリスにおける判例法の調べ方 実習を含む 第9回：制定法：18世紀におけるベンサム功利主義とコモン・ロー制定法化運動 ベンサムによるブラックストン『英法釈義』批判 主権者命令説からの Judge made Law への批判 大陸法と英米法における制定法の解釈原則の違い 英米法においては、判例法・慣習法が主体であり、制定法は例外であった。 英米法の制定法 Statutes の制限的文理解釈の基本原則 議会主権の一部としての「後法優位の原則」 第10回：ベンサムの理念の開花：19世紀英国における制定法改革 第11回：コモン・ローの今一つの法源、各種権威的典籍 authorities について 第12回：Common Law と Equity 総論 メイトランド『エクイティ』 Lord Chancellor 大法官の機能と沿革 大法官府と writ と bill 本来は国王の礼拝堂を司る内向きの役職 カンタベリー大司教に次ぐ、第二位 僧職者としての大法官 カノン法、道徳神学の影響 クラレンドン第二法 「2005年憲法改革法」(Constitutional Reform Act 2005) による大法官の司法権能の喪失 第13回：Common Law と Equity 各論 特に契約保護と信託の沿革について 第14回：現在のイギリスの司法制度 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 英語のビデオ映像なども多用するつもりです。適宜、通訳するので、英語が聞き取れる必要はありません。私の授業では歩留まりを考え、脳が疲れてきたら少し休み、水や糖分・食べ物で補給して構いません。古いもので構いませんので英米法辞典と英語の大辞典が入った電子辞書が手元にありますと良いです。ローマ法や中世近世のローマ法学について、コモン・ローとの対比で話す場合も多いです。 リラックスして受けて頂いて構いませんが、他人の受講の迷惑になる授業中の私語とスマートフォンの使用は禁止いたします。		

レジュメ及び参考資料は比較的に多く配布するつもりですが、人数が多いですので、資料の WEB からのダウンロードを考えております。その場合、授業前に各自自分の責任でプリントアウトして用意してきていただくことになります。授業内容は学生さんの理解を見ながら調整いたします。文科省通達にのっとり、5 回以上（5 回含む）の欠席で「失格」となり、審査を受けられなくなるので注意してください。「失格」の場合は、再試験の対象となりません。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教材がアップデートされている場合は、あらかじめ Oh-o!Meiji システムからプリントをダウンロードし、それを読んでおく。 配られた、プリントは、ファイルして管理しておく。 枚数が多いので、プリントを先に配って 2-3 回後の授業で、言及することも多いので授業を休まないようにしてください。
5. 教科書 加藤紘捷『概説イギリス憲法 第 2 版：由来・展開そして EU 法との相克』（2015） 矢頭敏也他『英米法序説』 適宜、関連プリント、レジュメなども配布する。 田中和男『英米法概論』は有斐閣オンデマンドで購入できます。興味のある方は是非購入して下さい。
6. 参考書 田中和男『英米法概論』 田中英夫『英米法総論』上下 東京大学出版会『英米法辞典』 幡新大実『イギリスの司法制度』 田中英夫他『外国法の調べ方—法令集・判例集を中心に』『英米の裁判所と法律家—田島裕著作集 3』フィリップ S. ジェームズ矢頭敏也他訳『イギリス法（上）公法』『イギリス法（下）私法』J・ペイカー小山貞夫訳『イングランド法制史概説』J・ペイカー深尾祐造訳『イギリス法史入門』1&2。
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テスト、審査等に対する論評を行う。
8. 成績評価の方法 平常点（授業態度・小テスト等）10% 試験 90% 5 回以上の欠席で、審査を受けても失格扱いになりますので、注意してください。
9. その他

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
イギリス法Ⅱ		菊池 肇哉
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 概要：世界の様々な法系の中で大陸法と並び二大法系と並び称されるコモン・ローについて、英国法を中心としてその発達の経緯及び特徴を解説する。Ⅱでは、司法制度を含め少し各論的内容に踏み込むが、コモン・ロー固有の特質も継続的に扱う。 到達目標：全く違った思考経路による英米法の詳細を学ぶことにより、三、四年になるまで培ってきた主に大陸法をベースとする自国の法の理解と見識を広げる。学部法学教育の仕上げとして若干の比較法的視点と国際的視野を涵養する。		
2. 授業内容 第1回：中世王権と法の優越 第2回：マグナ・カルタ 第3回：法の支配1 英国固有の概念か？ 旧約聖書における王権論『列王伝』がブラクトンに於ける法の支配に与えたコンテクスト ブラクストンによるアゾ標準注釈の使用 第4回：法の支配2 スチュアート朝でのクックとジェームズ1世の争い 王禁止令状 Prohibition de Roy 事件 「国王は神と法の下には服さねばならない」の「法」は本当にコモン・ローか？ 第5回：法の支配3 ダイシー理論による法の支配、議会主権とのリンク 第6回：法の支配の動揺とホイッグ史観 個人主義から集散主義へ 第7回：福祉国家概念と委任立法、行政裁判所 第8回：5人の騎士事件とボナム医師事件 第9回：アメリカにおける違憲立法審査権 実体的デュー・プロセスと憲法革命 第10回：イギリスにおける法の支配と議会主権 第11回：委任立法と行政裁判所 第12回：ドノモア委員会とフランクス委員会 権限愉悦と自然的正義 第13回：各行政裁判所の実態 第14回：議会主権の原則とEU * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 英語のビデオ映像なども多用するつもりです。適宜、通訳するので、英語が聞き取れる必要はありません。私の授業では歩留まりを考え、脳が疲れてきたら少し休み、水や糖分・食べ物を補給して構いません。古いもので構いませんので英米法辞典と英語の大辞典が入った電子辞書が手元にありますと良いです。ローマ法や中世近世のローマ法学について、コモン・ローとの対比で話す場合も多いです。 リラックスして受けて頂いて構いませんが、他人の受講の迷惑になる授業中の私語とスマートフォンの使用は禁止いたします。 レジュメ及び参考資料は比較的によく配布するつもりですが、人数が多いので、資料のWEBからのダウンロードを考えております。その場合、授業前に各自自分の責任でプリントアウトして用意してきていただくことになります。授業内容は学生さんの理解を見ながら調整いたします。5回以上（5回含む）の欠席は「失格」扱いとなり、考査を受けられないので注意してください。「失格」ですと再試験の受験ができません。秋学期は理解を積み上げていくので、最初の5講への出席が重要です。 最初の頃に出てないと、前提となる知識がわかりませんので、後の授業を聞いても理解できなくなります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教材がアップデートされている場合は、あらかじめOh-o!Meiji システムからプリントをダウンロードし、それを読んでおく。 プリントは、ファイルして管理しておく。 枚数が多いので、プリントを先に配って2-3回後の授業で、言及することも多いので授業を休まないようにしてください。		
5. 教科書 加藤紘捷『概説イギリス憲法 第2版：由来・展開そしてEU法との相克』（2015）		
6. 参考書 田中和男『英米法概論』 田中英夫『英米法総論』 上下 東京大学出版会『英米法辞典』 幡新大実『イギリスの司法制度』 田中英夫他『外国法の調べ方—法令集・判例集を中心に』『英米の裁判所と法律家—田島裕著作集 3』フィリップ S. ジェームズ矢頭敏也他訳『イギリス法（上）公法』『イギリス法（下）私法』J・ベイカー小山貞夫訳『イングランド法制史概説』J・ベイカー深尾祐造訳『イギリス法史入門』1&2。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テスト、考査等に対する論評を行う。v		
8. 成績評価の方法 平常点（授業態度・小テスト等）10% 試験 90% 5回以上の欠席で、考査を受けても失格扱いになりますので、注意してください。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
フランス法Ⅰ		吉井 啓子
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の概要≫ ナポレオン法典成立までのフランス法の歴史、フランスの裁判制度の特徴大学での法学教育と法曹養成制度、フランス法の法源について学ぶ。毎回講義テーマに関連するトピックを取り上げ、できるだけ具体的・多角的にフランス法のイメージをつかんでもらうよう心がける。 小レポートを2～3回の授業ごとに実施することで、授業内容を理解できているかをチェックする。小レポートはOh-o! Meiji を通じて提出してもらう場合と授業内で実施する場合がある。翌週の授業で全体講評をするほか、希望する受講生には個別コメントを返信する（希望者のみ、3年生・4年生交互に実施）。全体講評・個別コメントをふまえて、修正版を提出することも可能とする。 ≪授業の到達目標≫ フランス法の基本的な構造および歴史的な発展過程を理解する。		
2. 授業内容 第1回：フランス法の基本文献，フランス法の基本構造 第2回：フランス法の歴史（1）－古法時代～中間法時代 第3回：フランス法の歴史（2）－近代法時代、民法典の成立<1> 第4回：フランス法の歴史（3）－民法典の成立<2> 第5回：裁判制度（1）－特徴 第6回：裁判制度（2）－司法裁判所 第7回：裁判制度（3）－行政裁判所 第8回：裁判制度（4）－特殊な裁判所 第9回：裁判制度（5）－法律家の役割 第10回：法学教育と法曹の養成（1）－高等教育機関における法学教育 第11回：法学教育と法曹の養成（2）－法曹二元 第12回：法源（1）－制定法 第13回：法源（2）－フランスにおける法典（Code）の意義、判例，その他の法源，学説の役割 第14回：春学期のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 小レポートについては、全体講評・個別コメント（希望者のみ、3年生・4年生交互に実施）をふまえて修正版を提出することも可能である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ≪準備学習の内容≫ あらかじめ Oh-o! Meiji にアップされたレジュメを読んでおくこと。各回のテーマにつき、第1回授業時に紹介する参考文献・レジュメに書かれた参考文献などを手がかりに、簡単な下調べをしておくこと。 ≪復習の内容≫ 小レポートを書いてみて自分が理解できていないと感じた事柄について、十分に復習しておくこと。		
5. 教科書 特に指定しない。レジュメを毎回配布する。		
6. 参考書 滝沢正『フランス法』（三省堂）。その他のフランス法に関する基本文献については、第1回授業時にリストを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小レポートについて全体講評および Oh-o! Meiji を通じた個別コメント返信（希望者のみ、3年生・4年生交互に実施）を行う。		
8. 成績評価の方法 小レポートが 40%、期末試験が 60%。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
フランス法Ⅱ		吉井 啓子
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の概要≫ 本講義では、フランス法Ⅰで学ぶフランス法の基本構造・歴史をふまえて、フランスの私法分野における現代的な問題につき検討する。毎回講義テーマに関連するトピックを取り上げ、できるだけ具体的・多角的にフランス法のイメージをつかんでもらうよう心がける。 その日の授業テーマに関する小レポートを毎回実施することで、授業内容を理解できているかをチェックする。小レポートは Oh-o!Meiji を通じて提出してもらう。翌週の授業で全体講評をするほか、希望する受講生には個別コメントを返信する（3 年生・4 年生交互に実施）。 ≪授業の到達目標≫ フランスの私法分野における現代的な問題の検討を通じて、フランス私法の特徴を理解する。		
2. 授業内容 第 1 回：家族をめぐる問題①－氏と名前 第 2 回：家族をめぐる問題②－婚姻と PACS 第 3 回：家族をめぐる問題③－離婚 第 4 回：家族をめぐる問題④－相続 第 5 回：財産をめぐる問題①－所有権の支分権その 1 第 6 回：財産をめぐる問題②－所有権の支分権その 2 第 7 回：財産をめぐる問題③－区分所有その 1 第 8 回：財産をめぐる問題④－区分所有その 2 第 9 回：財産をめぐる問題⑤－動物法その 1 第 10 回：財産をめぐる問題⑥－動物法その 2 第 11 回：契約をめぐる問題－2016 年債務法改正 第 12 回：担保をめぐる問題①－物的担保 第 13 回：担保をめぐる問題②－人的担保 第 14 回：秋学期のまとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 フランス法Ⅰを受講していることが望ましい。受講していない場合は、あらかじめ滝沢正『フランス法』（三省堂）などでフランス法の基本構造を勉強したうえで参加してほしい。 小レポートは、原則として Oh-o! Meiji を通じて提出してもらう。抜打ちで授業内で実施することもある。全体講評・個別コメント（希望者のみ）をふまえて修正版を提出することも可能である。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ≪準備学習の内容≫ あらかじめ Oh-o! Meiji にアップされたレジュメを読んでおくこと。余力のある受講生は、各回のテーマにつき、第 1 回授業時に紹介する参考文献・レジュメに書かれた参考文献などを手がかりに、簡単な下調べをしておいてほしい。 ≪復習の内容≫ 毎回実施する小レポートを書いてみて自分が理解できていないと感じた事柄について、十分に復習しておくこと。		
5. 教科書 特に指定しない。レジュメを毎回配布する。		
6. 参考書 フランス法に関する基本文献については、第 1 回授業時にリストを配布する。テーマごとの参考文献はレジュメに記載する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回実施する小レポートについて全体講評および Oh-o!Meiji を通じた個別コメント返信（希望者のみ、3 年生・4 年生交互に実施）を行う。		
8. 成績評価の方法 毎回の授業で提出してもらう小レポートによる（100%）。期末試験は実施しない。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
ドイツ法 I		メンクハウス
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 日本におけるドイツ法の意義は主に次の 3 点に明確に表れる。第 1 に明治時代のドイツ法の継受以来、その後もドイツ法の変遷は日本で綿密に研究された。第 2 に現代ドイツと日本の顕著な共通点—経済大国、技術大国、少子高齢化が進むことなどを踏まえ両国相互間の幅広い学習が可能である。第 3 に、ドイツが EU 創立加盟国であることからドイツ法観点によって EU 法の発展の研究への寄与が可能。講義ではドイツ法の概要しか紹介できないが、日本法との比較によって理解しやすくなっている。		
2. 授業内容 第 1 回：基本法 I：憲法の歴史的背景 第 2 回：基本法 II：憲法学の内容 第 3 回：基本法 III：国家の構成予見とその憲法定め 第 4 回：基本法 IV：国家紋章とその憲法定め 第 5 回：基本法 V：国家形態 第 6 回：基本法 VI：国家目標 第 7 回：基本法 VII：基本権 第 8 回：基本法 VIII：基本権の機能 第 9 回：基本法 IX：基本権の制限 第 10 回：基本法 X：国家統治 第 11 回：基本法 XI：三権分立の意義 第 12 回：基本法 XII：行政権 第 13 回：基本法 XIII：立法権 第 14 回：基本法 XIV：司法権 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ドイツ法に興味を持って、高等学校または大学一年、二年生でドイツ語を第一または第二外国語として、または大学外でドイツ語を勉強していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ドイツ法は日本法との比較で説明されています。そのために日本の六法全書と各ドイツ法律の日本語訳が必要です。		
5. 教科書 授業の初めに適当な文献を紹介する。		
6. 参考書 ドイツ各法律の日本語訳、必要な時に授業で紹介する。 ドイツ連邦共和国外務省（編）『ドイツの実情』 https://interactive.deutschland.de/epapertued/epaper-2023_Tatsachen_JP/tatsachen-2023-jap.html#12 村上淳一/守矢健一/マルチュケ・ハンス ペータ（著）『ドイツ法入門』改訂第 9 版 有斐閣 2018 年 名雪健二（著）『ドイツ憲法入門』ハチ代出版 2008 年 クリストフ・メラース（著）『ドイツ基本法—歴史と内容』信山社 2023		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の後に次の授業の前の時間帯で声をかけてもらってもよろしいがあまり時間がない可能性が高いのでメールで連絡してもらうのは一番良い方法です。もし必要であればメールでのやり取りのうえで時間帯を決めて対面で駿河台校舎内で話ができます。		
8. 成績評価の方法 主に授業中での質疑応答と筆記試験。		
9. その他 特にない		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
ドイツ法Ⅱ		メンクハウス
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 日本におけるドイツ法の意義は主に次の 3 点に明確に表れる。第 1 に明治時代のドイツ法の継受以来、その後もドイツ法の変遷は日本で綿密に研究された。第 2 に現代ドイツと日本の顕著な共通点—経済大国、技術大国、少子高齢化が進むことなどを踏まえ両国相互間の幅広い学習が可能である。第 3 に、ドイツが EU 創立加盟国であることからドイツ法観点によって EU 法の発展の研究への寄与が可能。講義ではドイツ法の概要しか紹介できないが、日本法との比較によって理解しやすくなっている。		
2. 授業内容 第 1 回：民法総則Ⅰ 民事法の歴史的拝見 第 2 回：民法総則Ⅱ ドイツ民法典史 第 3 回：民法総則Ⅲ 権利と義務 第 4 回：民法総則Ⅳ 権利主体 第 5 回：民法総則Ⅴ 権利能力 第 6 回：民法総則Ⅵ 行為能力 第 7 回：民法創作Ⅶ 法律行為 第 8 回：民法総則Ⅷ 意思表示 第 9 回：民法総則Ⅸ 無因主義 第 10 回：民法総則Ⅹ 要式 第 11 回：民法総則Ⅺ 物 第 12 回：民法総則Ⅻ 代理 第 13 回：民法総則ⅫⅢ 権利と義務の消滅 第 14 回：民法総則ⅫⅣ 時効消滅 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ドイツ法に興味を持って、高等学校または大学一年、二年生でドイツ語を第一または第二外国語として勉強していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ドイツ法は日本法との比較で説明されています。そのために日本の六法全書と各ドイツ法律の日本語訳が必要です。		
5. 教科書 授業の初めに適当な文献を紹介する。		
6. 参考書 ドイツ各法律の日本語訳、必要な時に授業で紹介する。 ドイツ連邦共和国外務省（編）『ドイツの実情』 https://interactive.deutschland.de/epapertued/epaper-2023_Tatsachen_JP/tatsachen-2023-jap.html#12 村上淳一/守矢健一/マルチュケ・ハンス ペータ（著）『ドイツ法入門』改訂第 9 版、有斐閣 2018 年 円谷峻（訳）『ドイツ民法総論』成文堂 2008 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の後に次の授業の前の時間帯で声をかけてもらってもよろしいがあまり時間がない可能性が高いのでメールで連絡してもらうのは一番良い方法です。もし必要であればメールでのやり取りのうえで時間帯を決めて対面で駿河台校舎内で話ができます。		
8. 成績評価の方法 主に授業中での質疑応答と筆記試験。		
9. その他 特にない		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
中国法Ⅰ		鈴木 賢
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 現代中国法（中華人民共和国成立後の法をこう呼ぶ）の歴史と特徴的の制度およびその運用について概説する。現代の日本法を含む西洋近代型法を相対化し、世界には多元的な法が存在することを了解し、法についての複眼的視野の獲得を目指す。また、世界の超大国となり、大きな影響を与えている中国について法の視角から理解を深める。また、一部に台湾法の歴史と現状についての内容を含める。受講生の法に対する批判的な目を養い、自らが立っている位置の「特殊性」を認識させることを目標とする。Ⅰでは歴史、台湾法、憲法を扱う。		
到達目標 ・中国法の歴史的発展の特徴を知る ・中国法の置かれた特殊な政治的環境を理解する ・中国憲法の特徴を知る ・法における党の位置づけについて理解する ・台湾法の歴史的な流れと現状について知る		
2. 授業内容 第1回：中国法を学ぶ意義 第2回：固有法概説 第3回：近代法概説 第4回：台湾法の歴史的展開 第5回：台湾の同性婚法 第6回：中華人民共和国法史Ⅰ 建国と民国法からの移行 第7回：中華人民共和国法史Ⅱ ソビエト法からの学説継受期 第8回：中華人民共和国法史Ⅲ ソビエト法からの法典継受期 第9回：中華人民共和国法史Ⅳ 大陸法への回帰と法のグローバル化 第10回：憲法Ⅰ 基本原理 第11回：憲法Ⅱ 国家機構 第12回：憲法Ⅲ 基本的権利義務（人権） 第13回：憲法Ⅳ 憲法保障制度と憲法の司法化 第14回：中国法の法源、中国法と共産党 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 秋学期の中国法Ⅱとセットで受講することを勧める。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業には、教科書を予め読んで出席して下さい。		
5. 教科書 鈴木賢・高見澤磨・宇田川幸則・徐行著『現代中国法入門〔第9版〕』（有斐閣外国法入門双書、2022年）		
6. 参考書 高見澤磨・鈴木賢『中国にとって法とは何か』（岩波書店、2010年） 高見澤磨・鈴木賢編『要説 中国法』（東京大学出版会、2017年） 「中国」中村睦男ほか編『世界の人権保障』（三省堂、2017年） 初宿ほか編『新解説 世界憲法集』第5版（三省堂、2020年） 鈴木賢『台湾同性婚法の誕生』（日本評論社、2022年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 模範解答例を公表する。		
8. 成績評価の方法 リアクションペーパー30点、定期試験（70点）により評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
中国法Ⅱ		鈴木 賢
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 現代中国法（中華人民共和国成立後の法をこう呼ぶ）の歴史と特徴的制度およびその運用について概説する。中国はいいまや世界の超大国であり、日本とも密接な関係にある。その法をブラックボックスに入れておくわけにはいかないという意味でも、中国法を知る意義は大きい。また。現代の日本法を含む西洋近代型法を相対化し、世界には多元的な法が存在することを了解し、法についての複眼的視野の獲得を目指す。受講生の法に対する批判的な目を養い、自らが立っている位置の「特殊性」を認識させることを目標とする。Ⅱでは行政法、民法、企業活動と法、市民生活と法、民事訴訟法、司法制度を扱う。		
到達目標 ・中国における法による行政の問題点を知る ・中国労働法、社会保障法、民法、商事法、司法制度の特徴を理解する ・中国市民にとっての法の位置づけを理解する ・中国法が実効性を欠く原因を理解する		
2. 授業内容 第1回：中国法の歴史的位相 第2回：行政法Ⅰ 行政行為法 第3回：行政法Ⅱ 行政救済法・行政組織法 第4回：民法Ⅰ 民法形成史 第5回：民法Ⅱ 総則、物権 第6回：民法Ⅲ 契約、不法行為 第7回：民法Ⅳ 知的財産権、人格権 第8回：企業活動と法Ⅰ 会社法・企業法 第9回：企業活動と法Ⅱ その他の商事法、競争法 第10回：市民生活と法Ⅰ 婚姻法 第11回：市民生活と法Ⅱ 相続法 第12回：市民生活と法Ⅲ 労働法 第13回：市民生活と法Ⅳ 社会保障法 第14回：司法制度 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 春学期に開講する中国法Ⅰとセットで履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業には、教科書を予め読んで出席して下さい。		
5. 教科書 鈴木賢・高見澤磨・宇田川幸則・徐行著『現代中国法入門〔第9版〕』（有斐閣外国法入門双書、2022年）		
6. 参考書 高見澤磨・鈴木賢『中国にとって法とは何か』（岩波書店、2010年） 高見澤磨・鈴木賢編著『要説 中国法』（東京大学出版会、2017年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験の模範解答例を公表する。		
8. 成績評価の方法 リアクションペーパー30点、定期試験70点により評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
EU法 I		東 史彦
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、超国家法である EU 法の域内市場法を習得します（物、人、サービス、資本の自由移動、EU 市民権等）。とくに EU のルールが一般的な国際機構（WTO）とどのように異なるのかに注目します。 【到達目標】 本授業では、EU・EU 法と一般的な国際機構・国際法を比較し、国際法秩序を相対化することにより、日本における国内法と国際法の関係を問い直すことができるようになるための知識の修得を目標とします。		
2. 授業内容 第 1 回：ガイダンス、EU 法の法源、EU の市場統合 第 2 回：関税同盟 第 3 回：差別的国内税の禁止 第 4 回：数量制限の禁止 第 5 回：EU 法と国際法の違い 第 6 回：数量制限と同等の効果を有する措置の禁止 第 7 回：数量制限と同等の効果を有する措置の禁止 第 8 回：EU における人の移動（概説） 第 9 回：労働者の自由移動、開業の自由 第 10 回：サービスの自由移動、資本の自由移動 第 11 回：EU 市民権 第 12 回：EU における第三国国民・難民の扱い 第 13 回：WTO におけるサービス貿易の規律 第 14 回：試験、総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 受講態度による 100 点満点からの減点（私語等）及びプラスアルファの加点（任意課題提出等）があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習を行ってください。講義資料、ノートを見返し、重要な点や、疑問点がないかを確認してください。 疑問が解けない場合、講師に質問してください。		
5. 教科書 庄司克宏『新 EU 法 政策編』岩波書店（2014 年）		
6. 参考書 中川・清水他『国際経済法』（第 3 版）有斐閣（2019 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、任意課題提出者に対して、個別に行います。試験については、授業内試験後の総括にて行います。		
8. 成績評価の方法 試験（100％）によります。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
EU法Ⅱ		東 史彦
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、超国家法である EU 法の統治機構及び法理論を習得します。具体的には、EU が一般的な国際機構とどのように異なるのか、EU 法が国際法とどのように異なるのかといった論点を扱います。 【到達目標】 本授業では、EU・EU 法と一般的な国際機構・国際法とを比較し、国際法秩序を相対化することにより、日本における国内法と国際法の関係を問い直すことができるようになるための知識の修得を目標とします。		
2. 授業内容 第 1 回：ガイダンス、EU および EU 法の概観・法源 第 2 回：EU の制度的発展 第 3 回：EU の諸機関 第 4 回：EU の立法・政策決定、執行 第 5 回：EU の司法制度①（先決付託手続） 第 6 回：EU の司法制度②（直接訴訟） 第 7 回：EU における権限配分 第 8 回：EU 法の特徴（優越性） 第 9 回：EU 法の直接効果 第 10 回：EU 法のその他の効果 第 11 回：EU 法の権利の国内的救済 第 12 回：EU 法における基本的人権の保護 第 13 回：欧州人権条約 第 14 回：試験、総括 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 受講態度による 100 点満点からの減点（私語等）及びプラスアルファの加点（任意課題提出等）があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習を行ってください。講義資料、ノートを見返し、重要な点や、疑問点がないかを確認してください。 疑問が解けない場合、講師に質問してください。		
5. 教科書 庄司克宏『新 EU 法 基礎編』岩波書店（2013 年）		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、任意課題提出者に対して、個別に行います。試験については、授業内試験後の総括にて行います。		
8. 成績評価の方法 試験（100％）によります。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW341J		
経済法 I		山部 俊文
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業では、まず、経済法の総論部分（経済法の意義、経済活動に対する国家の介入の態様、経済法における独占禁止法の位置付け等）を解説した後、経済法の中心となる独占禁止法の規制のうち、 (a) 独占禁止法の目的論、 (b) 独占禁止法の基本概念、 (c) 独占禁止法の措置・手続、 (d) 私的独占の規制、 (e) 不当な取引制限の規制、 (f) 事業者団体の規制、 について、その解釈論等を解説します。 経済法・独占禁止法の理論と解釈論の修得が、この授業の目標となります。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション・経済法総論（1） 第2回：経済法総論（2）・独占禁止法の目的論 第3回：独占禁止法の基本概念（1）（事業者等・一定の取引分野等） 第4回：独占禁止法の基本概念（2）（競争の実質的制限等） 第5回：独占禁止法の措置・手続（1）（行政的規制） 第6回：独占禁止法の措置・手続（2）（行政的規制・民事的規制・刑事的規制） 第7回：私的独占の規制（1） 第8回：私的独占の規制（2） 第9回：私的独占の規制（3） 第10回：不当な取引制限の規制（1） 第11回：不当な取引制限の規制（2） 第12回：不当な取引制限の規制（3） 第13回：不当な取引制限の規制（4）・事業者団体規制（1） 第14回：事業者団体規制（2） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 （1）秋学期に経済法 II を履修することを前提としています（その方が望ましい）。 （2）行政法、民事法、刑事法の知識（基礎的なものでよい）があるのが望ましいのですが、この講義の理解に必要な知識は、授業において、適宜、解説します。 （3）経済学の知識（これも基礎的なものでよい）があるのが望ましいのですが、この講義の理解に必要な知識は、授業において、適宜、解説します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義の該当部分について、予め教科書あるいは他の経済法・独禁法の概説書等を読んでおいて下さい。		
5. 教科書 一応、教科書として、 （1）金井貴嗣ほか編著『独占禁止法〔第6版〕』（弘文堂・2018年） を指定しますが、他の独禁法・経済法の本（下記（2）を参照）でもかまいません。 ＊授業では、上記教科書の頁を追う形での説明は行いません（別途、レジュメを配布してレジュメに沿って説明をします）。 ＊上記教科書は、2023年に第3刷が刊行されています。できるだけ第3刷を入手するようにして下さい（なお、2020年2月に、令和元年までの法改正の概要を示した補遺が付された第6版の第2刷が刊行されています。入手する場合は、必ず、本の奥付を見て、2020年2月以降に刊行された第6版の『第2刷』、あるいは、『第3刷』であること（『補遺』の冊子が付いていること）を確認して下さい）。 （2）他の文献については、上記の書籍を含め、初回の授業において紹介・解説しますが、一応、以下のものを挙げておきます。 ＊岸井大太郎ほか『経済法（第9版補訂）』（有斐閣・2022年） ＊川濱昇ほか『ベーシック経済法（第5版）』（有斐閣・2020年） ＊泉水文雄『独占禁止法』（有斐閣・2022年） ＊白石忠志『独占禁止法〔第4版〕』（有斐閣・2023年） ＊土田和博ほか『条文から学ぶ独占禁止法（第3版）』（有斐閣・2024年）		
6. 参考書 川濱昇ほか編『経済法審決・判例百選〔第3版〕』（有斐閣・2024年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜、Oh-o!Meiji を利用する等して実施します。		
8. 成績評価の方法 期末試験（筆記試験）を実施します。 ＊試験の成績80％：平常点20％の割合で成績評価を行う予定です。		
9. その他 特にありません。		

科目ナンバー：(LA)LAW341J		
経済法Ⅱ		山部 俊文
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 独占禁止法の規制のうち、 (a) 企業結合規制、 (b) 不公正な取引方法の規制 の解釈を解説します。 また、 (c) 国際取引の規制、 (d) 独占禁止法の適用除外（知的財産権の行使、協同組合の行為等）、 (e) 独占禁止法と事業法との関係等 について解説します。 その他、春学期の経済法Ⅰで取り上げた内容を踏まえ、必要に応じて、独占禁止法の措置・手続について解説します。 経済法・独占禁止法の理論と解釈論を修得することが、この授業の目標となります。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（講義の概要説明）・企業結合規制（1）（総論） 第2回：企業結合規制（2）（一般集中規制・結合関係） 第3回：企業結合規制（3）（水平的企業結合） 第4回：企業結合規制（4）（垂直的企業結合・コングロメリット企業結合） 第5回：不公正な取引方法の規制（1）（総論・共同の取引拒絶等） 第6回：不公正な取引方法の規制（2）（差別対価等） 第7回：不公正な取引方法の規制（3）（不当廉売等） 第8回：不公正な取引方法の規制（4）（再販売価格の拘束） 第9回：不公正な取引方法の規制（5）（排他条件付取引・拘束条件付取引） 第10回：不公正な取引方法の規制（6）（優越的地位の濫用） 第11回：不公正な取引方法の規制（7）（抱き合わせ販売等） 第12回：不公正な取引方法の規制（8）（取引妨害等） 第13回：国際取引の規制・適用除外（知的財産権の行使・協同組合の行為）等 第14回：独占禁止法の措置・手続 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 （1）春学期の経済法Ⅰの履修を前提とします。 （2）行政法、民事法、刑事法の知識（基礎的なものでよい）があるのが望ましいのですが、講義の理解に必要な知識は、授業において、適宜、解説します。 （3）経済学の知識（これも基礎的なものでよい）があるのが望ましいのですが、講義の理解に必要な知識は、授業において、適宜、解説します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義の該当部分について、予め教科書あるいは他の経済法・独禁法の概説書等を読んでおいて下さい。		
5. 教科書 一応、教科書として、 金井貴嗣ほか編著『独占禁止法〔第6版〕』（弘文堂・2018年） を指定しますが、他の経済法・独禁法のテキスト（下記※のリストを参照）でもかまいません。 ＊上記の教科書は、2020年2月に、令和元年の法改正を解説した『補遺』の付いた『第2刷』が刊行されています。入手する場合は、必ず、本の奥付を見て、2020年2月刊行の第6版・第2刷、あるいは、2023年刊行の第6版・第3刷であること（そして『補遺』が付いていること）を確認して下さい。 ※他の文献については、上記の本を含め、初回の授業において紹介・解説しますが、一応、下記のものを挙げておきます。 ＊岸井大太郎ほか『経済法（第9版補訂）』（有斐閣・2022年） ＊川濱昇ほか『ベーシック経済法（第5版）』（有斐閣・2020年） ＊泉水文雄『独占禁止法』（有斐閣・2022年） ＊白石忠志『独占禁止法〔第4版〕』（有斐閣・2023年） ＊土田和博ほか『条文から学ぶ独占禁止法（第3版）』（有斐閣・2024年）		
6. 参考書 川濱昇ほか編『経済法審決・判例百選〔第3版〕』（有斐閣・2024年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜、Oh-o!Meiji を利用する等して実施します。		
8. 成績評価の方法 期末試験（筆記試験）を実施します。 ＊成績評価の比率は、期末試験80%、平常点20%とする予定です。		
9. その他 特にありません。		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
消費者法Ⅰ		池本 誠司
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現代社会において多発する消費者被害の主な問題場面である訪問販売・電話勧誘被害、インターネット取引被害、利殖・投資取引被害などを素材として、被害多発の要因と特徴、被害救済及び未然防止を目的とした消費者関連特別法の概要を学びます。 消費者法Ⅰは、消費者契約における不当勧誘行為、不当表示、不当契約条項、取引型不法行為などを巡り、消費者契約法、特定商取引法、金融商品関連法などを中心に取り上げます。 【到達目標】 (1) 民法総則の意思表示の瑕疵による取消権と消費者契約における不当勧誘行為による取消権との要件の違いを理解している。 (2) 書面交付義務とクーリング・オフ制度の意義、適用対象と要件、書面の記載不備の場合の効果を理解している。 (3) インターネット通信販売被害の要因と表示規制の概要を理解している。 (4) 民事規定による被害救済と行政規制による被害防止の組み合わせの主な規定を把握している。 (5) 主な消費者法制度のポイントを一般消費者に分かりやすく説明することができる。		
2. 授業内容 第1回：消費者被害の実態と消費者法の役割 第2回：不当勧誘行為（誤認類型）による契約と意思表示の取消権（消費者契約法①） 第3回：不当勧誘行為（困惑類型）による契約と意思表示の取消権（消費者契約法②） 第4回：訪問販売・電話勧誘販売・訪問購入に対する法規制と被害防止対策（特定商取引法①） 第5回：訪問販売等における書面交付義務とクーリング・オフ制度、過量販売解除権（特定商取引法②） 第6回：インターネット通信販売の被害防止策（特定商取引法③・景品表示法） 第7回：インターネット上の悪質サイト業者の被害の防止・救済策（特定商取引法④） 第8回：消費者契約における不当契約条項の規制と民法の定型約款規定（消費者契約法③） 第9回：特定継続的役務提供契約（美容・教育等）の被害と契約条項規制（特定商取引法⑤） 第10回：利殖勧誘取引（マルチ商法、副業商法、販売預託商法等）の被害と防止・救済策（特定商取引法⑥、預託取引法） 第11回：投資勧誘取引被害と不法行為法理による救済、過失相殺 第12回：金融商品被害と金融商品取引法・金融サービス提供法による防止・救済 第13回：SNSのチャット勧誘被害、デジタルプラットフォームと取引適正化の課題 第14回：期末試験、試験講評と講義全体の振り返り * 授業内容は消費者問題の発生状況・消費者関連法の改正動向などにより変更することがあります。		
3. 履修上の注意 消費者法Ⅱを併せて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 毎回の講義レジュメをクラス Web に事前に掲載するので、教科書の該当部分とともに目を通しておくことを求めます。 民法との関係で消費者法制度の特徴を理解するため、民法の関連規定を確認しておくことを推奨します。 【復習・情報収集】 授業において解説したポイントについて、授業確認レポートの課題を毎回の授業で提示し、週末までに簡潔なレポートの提出を求めます。 消費者被害事件の発生や消費者特別法の改正等の動向について随時紹介するので、国民生活センター・消費者庁のサイト等を検索するなどして自ら情報収集に心掛けてほしい。		
5. 教科書 日本弁護士連合会編「消費者法講義（第6版）」（日本評論社、2024 年刊） 最近の法改正の情報は毎回の講義レジュメをクラス Web に掲載します。		
6. 参考書 「消費法判例百選（第二版）」（別冊ジュリスト249号、有斐閣、2020年刊）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業確認レポートについては、次回の授業の中でコメントします。 期末試験については、講評レジュメを後日配布します。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 筆記試験80％、授業確認レポート20％ 【成績評価の基準】 (1) 消費者法の主な規定・制度を理解しているか (2) 消費者被害事例に消費者法の規定を適用することができるか		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW361J		
消費者法Ⅱ		池本 誠司
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 消費者法Ⅰ（春学期）と同じ問題意識から、消費者法Ⅱでは、クレジット決済その他のキャッシュレス決済をめぐる課題と法制度、消費者金融と多重債務を巡る問題、製品の安全確保に向けた被害防止と欠陥商品被害の救済、広告表示を巡る法制度の展開、インターネット取引時代の個人情報保護など多様な消費者被害分野を取り上げ、被害救済と防止に向けた消費者特別法の展開を検討します。 各分野の具体的な問題事例を出発点として、割賦販売法、貸金業法、製造物責任法、景品表示法、消費者安全法、消費者基本法等の特別法の概要と、近年の法改正の動向と課題を学びます。 書府医者被害の防止・救済の観点だけでなく、民間企業に就職した際に理解しておくべき企業活動におけるコンプライアンスの推進を消費者法制度の動向の把握の観点から学びます。 消費者庁や地方公共団体の消費者行政の実情と整備の動向、消費者団体訴訟による差止請求・集団的被害回復制度、事業者の自主的法令遵守（コンプライアンス）と公益通報者保護法など、消費者政策の展開を検討します。 【到達目標】 (1) 各分野の消費者被害事例に対する民事規定と行政規制の適用のポイントを理解している。 (2) 個別被害の解決手段とともに、各分野の被害防止に資する法制度のポイントと改正の動向を理解している。 (3) 各分野の法制度のポイントを一般消費者及び企業関係者に分かりやすく説明できる。		
2. 授業内容 第1回：クレジット契約、電子マネーなど、多様なキャッシュレス決済の規律（割賦販売法①、資金決済法） 第2回：クレジット契約被害と抗弁対抗・契約取消権（割賦販売法②） 第3回：クレジットカード取引を巡るトラブルと法規制（割賦販売法③） 第4回：消費者金融と過剰与信防止策（利息制限法、出資法、貸金業法、割賦販売法④） 第5回：多重債務の整理における破産、個人再生、任意整理の活用 第6回：製品の安全確保とリコール制度、事故情報の収集・公表（消費生活用製品安全法、消費者安全法） 第7回：欠陥商品被害の救済（製造物責任法） 第8回：不当表示に対する措置命令、課徴金納付命令、表示の適切管理措置（景品表示法） 第9回：インターネット社会における個人情報の保護（個人情報保護法） 第10回：国の消費者行政と消費者庁・消費者委員会（消費者基本法、消費者安全法） 第11回：地方消費者行政による被害防止の展開と課題 第12回：消費者団体訴訟による差止請求と集団的被害回復制度（消費者契約法、消費者裁判特例法） 第13回：事業者のコンプライアンスの推進と公益通報者保護法 第14回：筆記試験。試験の講評と講義全体の振り返り。 ＊授業内容は消費者問題の発生状況や消費者法の改正動向により変更することがあります。		
3. 履修上の注意 消費者法Ⅰを併せて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 毎回の講義のレジュメをクラス Web に事前掲載するので、教科書の該当部分とともに、目を通して事前学習を期待します。 【復習と情報収集】 授業のポイントについて授業確認レポート課題を毎回の授業で提示し、簡潔なレポート提出を求めます。 消費者被害事件の発生や消費者関連法制度改正の動きについて随時紹介するので、国民生活センター・消費者庁等のホームページを検索するなどして自ら情報収集に心掛けてほしい。		
5. 教科書 日本弁護士連合会編「消費者法講義（第6版）」（日本評論社、2024 年刊）		
6. 参考書 「消費者法判例百選（第二版）」（別冊ジュリスト248、有斐閣、2020 年刊）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業確認レポートについては次の授業の際、コメントします。 期末試験については、講評レジュメを後日配布します。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 筆記試験80％、授業のレポート課題20％ 【成績評価の基準】 (1) 消費者被害の防止・救済に関する法制度の特徴と改正の動向を理解しているか (2) 消費者法制度の主なキーワードの適用場面を正しく理解しているか (3) 消費者被害事例について関連法制度を適切に適用できるか		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
知的財産法 A I		金子 敏哉
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 〔授業の概要〕 本講義では知的財産法を構成する各法のうち、著作権法の概要といくつかの重要な論点について、制度趣旨と問題の所在を中心に扱う。 本講義は、メディア授業実施科目として行われる。すなわち、(1)メディア授業（講義動画の配信によるオンデマンド型）による実施回（第1・3・5・7・11・13回）と、(2)教室での対面形式の授業により実施をする回（第2・4・6・8・10・12・14回）の組み合わせにより実施をする。 メディア授業回では、オンデマンドによる講義動画の配信と理解度確認のための小テストを実施する。教室での授業では、前週のメディア授業の内容を踏まえて、メディア授業回で寄せられた質問への応答や、裁判例や設例等を題材として双方向での議論を通じた学習を行う。 〔授業の到達目標〕 著作権法の基本的な考え方を理解し、著作権法に関する諸問題に直面した際に、自ら調べ、考えられるだけの力を身に付けていただきたい。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：知的財産法とは？ 著作物性(1)〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：裁判例・設例を用いた検討① 第3回：著作物性(2) 著作者 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：裁判例・設例を用いた検討② 第5回：著作者人格権 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：裁判例・設例を用いた検討③ 第7回：著作権の内容 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：裁判例・設例を用いた検討④ 第9回：著作権の制限 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：裁判例・設例を用いた検討⑤ 第11回：著作権の取引・著作隣接権、著作権侵害の要件と保護範囲 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：裁判例・設例を用いた検討⑥ 第13回：著作権の侵害に対する救済手段 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：裁判例・設例を用いた検討⑦ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業実施科目として開講される。 メディア授業の回（第1・3・5・7・9・11・13回）については、講義動画は原則として本来の授業実施日（各週の火曜日）までに0h-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。講義動画とあわせて小テスト（第3回以降実施。回答期限は次回の授業の前日まで）を実施し、理解度の確認を行う。受講生との意見交換のため0h-o! Meiji のアンケート機能を用いて講義動画等に関する質問を受け付けるほか、メールアドレスを開示して質問・相談を受け付ける。 対面授業の回については、教員との双方向での議論や学生同士の意見交換を通じての学習を中心とするため、受講生に対して積極的な発言や他の手段での意見の表明を求めるものである（指名によって回答を求める場合もある）。 本講義は知的財産法の未修者を対象とする。民法（物権、契約、特に不法行為）、民事訴訟法の基本的な知識があること、あるいは並行して学習することが望ましい。講義には、著作権法が掲載された六法を持参すること。また、特許法を対象とする知的財産法AIIと合わせて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〔メディア授業回〕 教科書・参考書の該当範囲を踏まえた上で、講義動画を視聴し、小テストの受験を通じて理解を確認すること。講義内容等についての疑問点があれば0h-o! Meiji のアンケートの該当箇所記入をすること。 〔対面授業回〕 前週のメディア授業の内容を確認した上で、授業に臨むこと。事前に示された課題についてはあらかじめ検討をしたうえで授業に参加し、授業内で自分の意見・考えを明らかにできるよう準備しておくこと。 授業終了後は授業内容をまとめ、教科書・参考書の記述と照らして理解を深めること。		
5. 教科書 愛知靖之ほか『知的財産法（LEGAL QUEST）[第2版]』（有斐閣、2023年）		
6. 参考書 中山信弘『著作権法』（有斐閣、第四版、2023年）、または島並良、上野達弘、横山久芳『著作権法入門』（有斐閣、第4版、2024年）、前田健ほか『図録知的財産法』（弘文堂、2021年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストについては採点結果を伝えるとともに対面授業又は動画による解説を行う。期末試験についてもおおよその採点結果（平均点、成績分布）等についての解説を0h-o! Meiji に掲載する予定である		
8. 成績評価の方法 メディア授業回での小テストの得点に基づく評価が60%、期末定期試験に基づく評価を40%とする。 ただし単位取得については、全ての小テストについて期限内に回答することを必要条件とする。 また教室での授業の実施の際、0h-o! Meiji! のアンケート機能等を用いた投票等により出席確認をする場合がある。この出席確認を行った場合において、該当講義につき3回以上正当な理由なく欠席していた（又は一度でも不正な方法で出席確認を行った）と認められた場合には、単位取得の要件を満たさないものとする。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
知的財産法 A II		金子 敏哉
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 〔授業の概要〕 本講義では知的財産法を構成する各法のうち、特許法の概要といくつかの重要な論点について、制度趣旨と問題の所在を中心に扱う。 本講義は、メディア授業実施科目として行われる。すなわち、(1)メディア授業（講義動画の配信によるオンデマンド型）による実施回（第1・3・5・7・11・13回）と、(2)教室での対面形式の授業により実施をする回（第2・4・6・8・10・12・14回）の組み合わせにより実施をする。 メディア授業回では、オンデマンドによる講義動画の配信と理解度確認のための小テストを実施する。教室での授業では、前週のメディア授業の内容を踏まえて、小テストに関する検討を行ったうえで、裁判例や設例等を題材として双方向での議論を通じた学習を行う。 〔授業の到達目標〕 特許法の基本的な考え方を理解し、著作権法に関する諸問題に直面した際に、自ら調べ、考えられるだけの力を身に付けていただきたい。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：特許法の概要 出願手続の概要、特許請求の範囲と明細書 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：裁判例・設例を用いた検討① 第3回：特許要件1 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：裁判例・設例を用いた検討② 第5回：特許要件2 権利の主体 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：裁判例・設例を用いた検討③ 第7回：審判・審決取消訴訟、クレーム解釈、均等論 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：裁判例・設例を用いた検討④ 第9回：無効の抗弁、特許権の取引 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：裁判例・設例を用いた検討⑤ 第11回：特許権の効力と制限 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：裁判例・設例を用いた検討⑥ 第13回：特許権の侵害に対する救済 第14回：裁判例・設例を用いた検討⑦ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業実施科目として開講される。 メディア授業の回（（第1・3・5・7・11・13回）については、講義動画は原則として本来の授業実施日（各週の火曜日）にOh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。講義動画とあわせて小テスト（回答期限は次回の授業の前日まで）を実施し、理解度の確認を行う。受講生との意見交換のためOh-o! Meiji のアンケート機能を用いて講義動画等に関する質問を受け付けるほか、メールアドレスを開示して質問・相談を受け付ける。 対面授業の回については、教員との双方向での議論や学生同士の意見交換を通じての学習を中心とするため、受講生に対して積極的な発言や他の手段での意見の表明を求めるものである（指名によって回答を求める場合もある）。 民法（物権、契約、特に不法行為）、民事訴訟法、行政法の基本的な知識があること、あるいは並行して学習することが望ましい。講義には、特許法が掲載された六法を持参すること。また、著作権法を対象とする知的財産法AIIと合わせて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〔メディア授業回〕 教科書・参考書の該当範囲を踏まえた上で、講義動画を視聴し、小テストの受験を通じて理解を確認すること。講義内容等についての疑問点があればOh-o! Meiji のアンケートの該当箇所に記入をすること。 〔対面授業回〕 前週のメディア授業の内容を確認した上で、授業に臨むこと。事前に示された課題についてはあらかじめ検討をしたうえで授業に参加し、授業内で自分の意見・考えを明らかにできるよう準備しておくこと。 授業終了後は授業内容をまとめ、教科書・参考書の記述と照らして理解を深めること。		
5. 教科書 愛知靖之ほか『Legal Quest 知的財産法〔第2版〕』（有斐閣、2023年）		
6. 参考書 中山信弘『特許法』（弘文堂、第五版、2023年）、または島並良、上野達弘、横山久芳『特許法入門』（有斐閣、第2版、2021年）、前田健ほか『図録知的財産法』（弘文堂、2021年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストについては採点結果を伝えるとともに対面授業又は動画による解説を行う。期末試験についてもおおよその採点結果（平均点、成績分布）等についての解説をOh-o! Meiji に掲載する予定である。		
8. 成績評価の方法 メディア授業会での小テストの得点に基づく評価が60%、期末定期試験に基づく評価を40%とする。 ただし単位取得については、全ての小テストについて期限内に回答することを必要条件とする。 また教室での授業の実施の際、Oh-o! Meiji のアンケート機能等を用いた投票等により出席確認をする場合がある。この出席確認を行った場合において、該当講義につき3回以上正当な理由なく欠席していた（又は一度でも不正な方法で出席確認を行った）と認められた場合には、単位取得の要件を満たさないものとする。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
知的財産法B		金子 敏哉
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の概要≫ 知的財産法を構成する各法のうち、商標法及び不正競争防止法（不競法）及びパブリシティ権の概要といくつかの重要な論点について、制度趣旨と問題の所在を中心に講義する。 本講義は、メディア授業実施科目として行われる。すなわち、(1)メディア授業（講義動画の配信によるオンデマンド型）による実施回（第1・3・5・7・11・13回）と、(2)教室での対面形式の授業により実施をする回（第2・4・6・8・10・12・14回）の組み合わせにより実施をする。 メディア授業回では、オンデマンドによる講義動画の配信と理解度確認のための小テストを実施する。教室での授業では、前週のメディア授業の内容を踏まえて、メディア授業回で寄せられた質問への応答や、裁判例や設例等を題材として双方向での議論を通じた学習を行う。 ≪授業の到達目標及びテーマ≫ 知的財産法は、著作権・特許・商標等の財産的情報の保護に関する法である。現在の情報化社会のもとで、産業活動においても、また普段の生活の上でも知的財産法の重要性は増している。 本講義では、いわゆるブランドに係る商標法及び、不正競争防止法による商品等表示の不正利用、商品形態の模倣、営業秘密の不正利用等の規制、パブリシティ権の保護について扱う。 本講義の目標は、知的財産法の基本的な考え方を伝えることにある。今後、知的財産権に関する諸問題に直面した際に、自ら調べ、考えられるだけの力を身に付けていただきたい。		
2. 授業内容 第1回：aのみ 商標法・不正競争防止法の概要 商標法の役割・目的 [メディア授業（オンデマンド型）] 第2回：裁判例・設例を用いた検討① 第3回：商標法における登録要件 [メディア授業（オンデマンド型）] 第4回：裁判例・設例を用いた検討② 第5回：商標法における類似性、商標に関する手続き [メディア授業（オンデマンド型）] 第6回：裁判例・設例を用いた検討③ 第7回：商標権の効力とその制限 [メディア授業（オンデマンド型）] 第8回：裁判例・設例を用いた検討④ 第9回：商標権の侵害と救済 不競法の概要 [メディア授業（オンデマンド型）] 第10回：裁判例・設例を用いた検討⑤ 第11回：不競法による商品等表示の不当利用規制 第12回：裁判例・設例を用いた検討⑥ 第13回：商品形態を模倣した商品の流通、営業秘密の不正利用・不正取得、不法行為による知的財産の保護、パブリシティ権 第14回：裁判例・設例を用いた検討⑦ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業実施科目として開講される。 メディア授業の回（第1・3・5・7・9・11・13回）については、講義動画は原則として本来の授業実施日（各週の火曜日）にOh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。講義動画とあわせて小テスト（第3回以降実施。回答期限は次の授業の前日まで）を実施し、理解度の確認を行う。受講生との意見交換のためOh-o! Meiji のアンケート機能を用いて講義動画等に関する質問を受け付けるほか、メールアドレスを開示して質問・相談を受け付ける。 対面授業の回については、教員との双方向での議論や学生同士の意見交換を通じての学習を中心とするため、受講生に対して積極的な発言や他の手段での意見の表明を求めるものである（指名によって回答を求める場合もある）。 民法、行政法（特に取消訴訟）、民事訴訟法の基本的な知識があること、あるいは並行して学習することが望ましい著作権法・特許法等を対象とする知的財産法Aとあわせて履修することが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 [メディア授業回] 教科書・参考書の該当範囲を踏まえた上で、講義動画を視聴し、小テストの受験を通じて理解を確認すること。講義内容等についての疑問点があればOh-o! Meiji のアンケートの該当箇所に記入をすること。 [対面授業回] 前週のメディア授業の内容を確認した上で、授業に臨むこと。事前に示された課題についてはあらかじめ検討をしたうえで授業に参加し、授業内で自分の意見・考えを明らかにできるよう準備しておくこと。 授業終了後は授業内容をまとめ、教科書・参考書の記述と照らして理解を深めること。		
5. 教科書 愛知靖之ほか『知的財産法（LEGAL QUEST）[第2版]』（有斐閣、2023年）		
6. 参考書 前田健ほか『図録知的財産法』（弘文堂、2021年）		

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストについては採点結果を伝えるとともに対面授業又は動画による解説を行う。期末試験についてもおおよその採点結果（平均点、成績分布）等についての解説を Oh-o ! Meiji に掲載する予定である

8. 成績評価の方法

メディア授業回での小テストの得点に基づく評価が 60%、期末定期試験に基づく評価を 40%とする。

ただし単位取得については、全ての小テストについて期限内に回答することを必要条件とする。

また教室での授業の実施の際、Oh-o ! Meiji ! のアンケート機能等を用いた投票等により出席確認をする場合がある。この出席確認を行った場合において、該当講義につき 3 回以上正当な理由なく欠席していた（又は一度でも不正な方法で出席確認を行った）と認められた場合には、単位取得の要件を満たさないものとする。

9. その他

科目ナンバー：(LA) LAW356J		
犯罪学Ⅰ〔M〕		辻本 衣佐
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 犯罪学は、犯罪の原因、対策、予防を考える学問です。社会から犯罪を完全になくすことは不可能ですが、犯罪をコントロールすることは不可能ではありませんので、犯罪現象を分析したり、犯罪の原因を究明したり、犯罪の対策や予防策を講じたりすることは重要です。この授業では、犯罪学の沿革や最近の犯罪動向を概観したうえで、主に犯罪の要因について検討します。 【到達目標】 人権尊重、犯罪者側・被害者側からのアプローチ、現行制度や社会との調和などに配慮しながら、犯罪の諸問題の検討を通して、よりよい社会づくりを考えてみることです。		
2. 授業内容 授業は全てメディア授業（オンデマンド型）で実施します。 第1回：犯罪学の意義 第2回：最近の犯罪の動向 第3回：犯罪学の歴史的展開 第4回：最近の犯罪学理論（1） 第5回：最近の犯罪学理論（2） 第6回：犯罪の要因（1） 個人環境要因① 先天的要素 第7回：犯罪の要因（2） 個人環境要因② 家庭 第8回：犯罪の要因（3） 個人環境要因③ 教育 第9回：犯罪の要因（4） 個人環境的要因④ 職業 第10回：犯罪の要因（5） 社会環境的要因① 自然環境 第11回：犯罪の要因（6） 社会環境的要因② 社会構造の変化 第12回：犯罪の要因（7） 社会環境的要因③ 戦争・災害 第13回：犯罪の要因（8） 社会環境的要因④ メディア 第14回：今後の課題 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 犯罪学における「犯罪」は、刑法上の犯罪に限られず、反社会的な行為全般が含まれることになります。特殊な人間の特殊な行為ではありませんし、社会の変容と共に「犯罪」の概念や要因なども変わること留意する必要があります。刑法、刑事訴訟法といった刑事法や犯罪者処遇法を学ぶことによって、より理解を深めることができます。 なお、この科目を履修する場合は、併せて「犯罪学Ⅱ」も履修することが望ましいです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書・参考書の該当箇所を読むと共に、犯罪に関する報道や、法務省、警察庁、日本弁護士連合会等のHPを閲覧し、犯罪に関する最新の情報に目を通すようにして下さい。		
5. 教科書 菊田幸一『犯罪学（9訂版）』（成文堂）		
6. 参考書 菊田幸一・辻本衣佐『ホーンブック犯罪学（新3版）』北樹出版 犯罪白書、警察白書、再犯防止推進白書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を利用して配信します。		
8. 成績評価の方法 定期試験にて評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW356J		
犯罪学Ⅱ〔M〕		辻本 衣佐
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 犯罪学は、犯罪の原因、対策、予防を考える学問です。社会から犯罪を完全になくすことは不可能ですが、犯罪をコントロールすることは不可能ではありませんので、犯罪現象を分析したり、犯罪の原因を究明したり、犯罪の対策や予防策を講じたりすることは重要です。この授業では、各種犯罪の動向や原因を分析し、その対策をどのように講ずべきかを検討するとともに、犯罪被害者側から犯罪の諸問題について検討します。 【到達目標】 人権尊重、犯罪者側・被害者側からのアプローチ、現行制度や社会との調和などに配慮しながら、犯罪の諸問題の検討を通して、よりよい社会づくりを考えてみることです。		
2. 授業内容 授業は全てメディア授業（オンデマンド型）で実施します。 第1回：犯罪学のあまし 第2回：各種犯罪の分析と対策（1） 薬物犯罪 第3回：各種犯罪の分析と対策（2） 組織暴力犯罪 第4回：各種犯罪の分析と対策（3） 累犯者 第5回：各種犯罪の分析と対策（4） 女性犯罪 第6回：各種犯罪の分析と対策（5） 高齢者犯罪 第7回：各種犯罪の分析と対策（6） 外国人犯罪 第8回：各種犯罪の分析と対策（7） 交通犯罪 第9回：各種犯罪の分析と対策（8） 性犯罪 第10回：被害者学（1） 被害者学の意義 第11回：被害者学（2） 被害者補償 第12回：被害者学（3） 刑事司法における犯罪被害者 第13回：犯罪の予防 第14回：今後の課題 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 犯罪学における「犯罪」は、刑法上の犯罪に限られず、反社会的な行為全般が含まれることになります。特殊な人間の特殊な行為ではありませんし、社会の変容と共に「犯罪」の概念や要因なども変わること留意する必要があります。刑法、刑事訴訟法といった刑事法や犯罪者処遇法を学ぶことによって、より理解を深めることができます。 なお、この科目を履修する場合は、併せて「犯罪学Ⅰ」も履修することが望ましいです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書・参考書の該当箇所を読むと共に、犯罪に関する報道や、法務省、警察庁、日本弁護士連合会等のHPを閲覧し、犯罪に関する最新の情報に目を通すようにして下さい。		
5. 教科書 菊田幸一『犯罪学（9訂版）』（成文堂）		
6. 参考書 菊田幸一・辻本衣佐『ホーンブック犯罪学（新3版）』北樹出版 犯罪白書，警察白書，犯罪被害者白書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を利用して配信します。		
8. 成績評価の方法 定期試験にて評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW351J		
犯罪者処遇法Ⅰ		辻本 衣佐
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 犯罪者処遇法は、犯罪者のとりあつかいに関する法律の総称で、現代社会においては、犯罪者を社会から排除するのではなく、社会の構成員の一人として、どのように処遇すべきかが課題となります。この授業では、犯罪者処遇システムを概観したうえで、現行法上の刑罰や処分の現状、問題点、代替策について検討します。 【到達目標】 人権尊重、犯罪者側・被害者側からのアプローチ、現行制度や社会との調和を配慮しながら、犯罪者処遇システムを通して、刑罰や処分のあり方などを検証し、よりよい社会づくりを考えてみることです。		
2. 授業内容 第1回：犯罪者処遇制度のあらまし 第2回：犯罪者処遇法の概要 第3回：犯罪者処遇の理念と基本原則 第4回：刑罰・処分の意義と機能 第5回：死刑（１）日本の死刑① 第6回：死刑（２）日本の死刑② 第7回：死刑（３）世界の死刑 第8回：死刑（４）存廃論 第9回：死刑（５）改善策・代替策 第10回：自由刑 第11回：財産刑 第12回：資格制限と前科抹消 第13回：恩赦 第14回：今後の課題 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 犯罪者処遇法は、社会や犯罪の動向に応じて、現行の刑事司法制度との調和を図りながら、法改正や新法制定などが行われます。犯罪学、刑法や刑事訴訟法といった刑事法はもちろんのこと、憲法、社会保障法などの関連法規についての理解が必要とされます。 なお、この科目を履修する場合は、併せて「犯罪者処遇法Ⅱ」も履修することが望ましいです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書・参考書の該当箇所を読むと共に、法務省、警察庁、裁判所、日本弁護士連合会等のHPを閲覧し、犯罪者処遇に関する最新の情報に目を通して下さい。		
5. 教科書 菊田幸一『犯罪学（9訂版）』（成文堂）		
6. 参考書 菊田幸一・辻本衣佐『ホーンブック犯罪学（新3版）』北樹出版 犯罪白書、警察白書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を利用して配信します。		
8. 成績評価の方法 定期試験にて評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW351J		
犯罪者処遇法Ⅱ		辻本 衣佐
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 犯罪者処遇法は、犯罪者のとりあつかいに関する法律の総称で、現代社会においては、犯罪者を社会から排除するのではなく、社会の構成員の一人として、どのように処遇すべきかが課題となります。この授業では、犯罪者処遇の各段階別に、処遇の現状と問題点を検討し、犯罪者、被害者、社会にとってよりよい刑事政策のあり方を探究します。 【到達目標】 人権尊重、犯罪者側・被害者側からのアプローチ、現行制度や社会との調和を配慮しながら、犯罪者処遇システムを通して、刑罰や処分のあり方などを検証し、よりよい社会づくりを考えてみることです。		
2. 授業内容 第1回：犯罪者処遇制度のあらまし 第2回：犯罪者処遇法の変遷 第3回：司法的処遇（1）警察 第4回：司法的処遇（2）検察 第5回：司法的処遇（3）未決拘禁と代用刑事施設 第6回：司法的処遇（4）裁判所 第7回：施設内処遇（1）被収容者の法的地位と権利 第8回：施設内処遇（2）矯正処遇 第9回：施設内処遇（3）刑事収容施設 第10回：施設内処遇（4）問題点と改善策 第11回：仮釈放と満期釈放 第12回：社会内処遇（1）更生保護 第13回：社会内処遇（2）保護観察 第14回：今後の課題 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 犯罪者処遇法は、社会や犯罪の動向に応じて、現行の刑事司法制度との調和を図りながら、法改正や新法制定などが行われます。犯罪学、刑法や刑事訴訟法といった刑事法はもちろんのこと、憲法、社会保障法などの関連法規についての理解が必要とされます。 なお、この科目を履修する場合は、併せて「犯罪者処遇法Ⅰ」も履修することが望ましいです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書・参考書の該当箇所を読むと共に、法務省、警察庁、裁判所、日本弁護士連合会等のHPを閲覧し、犯罪者処遇に関する最新の情報に目を通して下さい。		
5. 教科書 菊田幸一『犯罪学（9訂版）』（成文堂）		
6. 参考書 菊田幸一・辻本衣佐『ホーンブック犯罪学（新3版）』北樹出版 犯罪白書、警察白書、犯罪被害者白書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を利用して配信します。		
8. 成績評価の方法 定期試験にて評価します。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
立法学		中野 芳崇
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、法令の条文の基本的な理解（「書かれていることを書かれているままに理解すること」）のためのノウハウや法律が出来上がるまでのプロセスについて行政官の実務を紹介しながら学びます。「法律がどのように作られるのか」、具体的には、立法がどのように行われるのか、立法作業において具体的に何が問題になり、それがどのように解決されるかといった点を実例を交えながら紹介し、ダイナミックな「生き物」としての法律に光を当てていきます。		
【到達目標】 (1) 法令の立案者は、条文上の「又は」と「若しくは」、「その他」と「その他の」といった日常の日本語では同じ意味で用いている用語を使い分けて立案している。このような立案者の視点から、法令案の読み方、そして書き方を学ぶことを第一の目標とする。 (2) 国の唯一の立法機関である国会が政治の場である以上、立法と政治は切っても切り離せない関係にあり、この政治的側面と法律ができるプロセス、その内容がどのように関係し得るかという点を学ぶことを第二の目標とする。 (3) 法令の立案や解釈に生成 AI 等のデジタル技術を活用する最新の取組について学ぶことを第三の目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回：序論：立法とは何か、我が国における立法の現状 第 2 回：総論（１）：法令の種類 第 3 回：総論（２）：法令の形式 第 4 回：総論（３）：法律案の立案 第 5 回：立法技術論（１）：用字・法令用語① 第 6 回：立法技術論（１）：用字・法令用語② 第 7 回：立法技術論（２）：総則、定義、適用・準用・読替、政省令委任 第 8 回：立法技術論（３）：担保措置 第 9 回：立法技術論（４）：附則及び経過措置 第 10 回：立法技術論（５）：一部改正法令、その他 第 11 回：立法過程論（１）：内閣提出法案の国会提出まで① 第 12 回：立法過程論（２）：内閣提出法案の国会提出まで② 第 13 回：立法過程論（３）：法律案の国会審議 第 14 回：立法過程論（４）：デジタル技術の活用等による法律の定立過程の変化 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業は講義形式中心で進めることとしますが、講師は現職の行政官（国家公務員）であり、可能な限り行政の現場の職員がどのようなことを考え、どのように仕事をしているかなど具体的な事例やエピソードの紹介に努め、また、質疑応答の形式を用いながら、学生の皆さんと双方向で議論しながら進める授業を目指したいと考えています。また、成績評価で用いるレポートでは法令改正案を作成してもらうことを予定していますが、レポート案について講義でプレゼンテーションしていただき、受講生の間で議論することも予定しています。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 学習に当たった最大の材料は、現に国会で行われている議論の状況等、現在進行形の出来事です。より理解を深めるため、レジュメを事前に読むことに加えて、講義で紹介した現在進行形の政策や国会情勢に関する報道等にも問題意識を持ちながら目を配ることを心がけるようにしてもらえればと思います。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 特に指定しません、参照すべき文献、ウェブサイト等については、レジュメの中で紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システム等を利用して提出されたレポートに対する講評を行います。		
8. 成績評価の方法 レポート 80%、平常点 20%（出席状況、授業への積極的参加等を勘案）		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
情報法 I		丸橋 透
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 電子商取引関連の法制について概説する。 経済産業省『電子商取引及び情報財取引等に関する準則』（経済産業省のサイトからダウンロードして入手可能）に記載してある程度の内容を理解し、どの分野・業界（特に電子商取引関連）においても社会人として必須となる基礎的素養を習得することを目標とする。 特に、B2C 取引における、企業の法務責任者としての担当教員の実務経験を紹介するので、企業としての課題解決に向けた思考・戦略と、一般消費者が企業に期待する対応のギャップ（の有無）を各受講生が検討・考察できるように講義を進める。		
2. 授業内容 第1回：(a のみ) イントロダクション 第2回：オンライン契約の申込みと承諾 第3回：オンライン契約の内容 第4回：なりすましと本人確認・電子署名 第5回：未成年者による意思表示 第6回：インターネット通販における返品 第7回：オークション・フリマのユーザ間取引 第8回：シェアリングエコノミー 第9回：オンライン懸賞とコンプガチャ 第10回：共同購入クーポン 第11回：ウェブ上の広告規制 第12回：電子マネーと他の決済手段 第13回：Bitcoin 等の仮想通貨 第14回：まとめ 各回で紹介した企業実務に関して、受講者からの参考事例や感想を募り、優先的に次回に議論・解説する。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 Oh-o! Meiji システム上で授業の感想文やアンケートの回答を求めることがあるので、受講者は必ず提出すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji システムを通じて適宜連絡する。		
5. 教科書 経済産業省『電子商取引及び情報財取引等に関する準則』		
6. 参考書 岡村久道編『インターネットの法律問題』（新日本法規） 夏井高人『ネットワーク社会の文化と法』（日本評論社） 夏井高人監修・著『IT ビジネス法入門—デジタルネットワーク社会の法と制度』（TAC 出版）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 アンケートや感想文、ディスカッションコーナーでの発言については、Oh-o!Meiji システム上で適宜コメント、講評する他、主要な論点につき次回講義の冒頭で解説する。		
8. 成績評価の方法 授業中の質疑応答等の参加状況 15%, Oh-o! Meiji システム上の感想文及びアンケートへの回答 15%, 中間レポート 25%, 期末試験 45%で評価する。		
9. その他 企業実務に関する質疑応答、議論への参加を特に重視する。		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
情報法Ⅱ		丸橋 透
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 コンテンツやプログラム等の情報財の取引に関する法制について概説する。経済産業省『電子商取引及び情報財取引等に関する準則』（経済産業省のサイトからダウンロードして入手可能）に記載してある程度の内容を理解し、どの分野・業界（特にソフトウェアやコンテンツ関連）においても社会人として必須となる基礎的素養を習得することを目標とする。 特に、企業の法務責任者としての知的財産に関連する担当教員の実務経験を紹介するので、各受講生が、知的財産のユーザ企業又は消費者エンドユーザーとしての立場、自ら又は会社が知的財産の保有者として権利行使をする立場のそれぞれの視点を理解しつつ、課題を検討・考察できるように講義を進める。		
2. 授業内容 第1回：(aのみ)イントロダクション 第2回：知的財産（権）の侵害態様（著作権・商標権） 第3回：知的財産（権）の侵害態様（特許・営業秘密） 第4回：ライセンス契約とは 第5回：ライセンス契約の無効、取消と返品等 第6回：ソフトウェアダウンロード販売者の契約不適合責任/クラウド等のSLA 第7回：ライセンス契約の効力 第8回：ソフトウェア特許権者の権利濫用 第9回：ID・パスワード等のインターネット上の提供 第10回：体験版プログラム等の機能制限の解除 第11回：ビッグデータの利用行為 第12回：コンテンツの利用許諾 第13回：コンテンツの提供終了と継続利用 第14回：まとめ 各回で紹介した企業実務に関して、受講者の事例や感想を募り、優先的に次回で議論・解説する。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 Oh-o! Meiji システム上で授業の感想文やアンケートの回答を求めることがあるので、受講者は必ず提出すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji システムを通じて適宜連絡する。		
5. 教科書 経済産業省『電子商取引及び情報財取引等に関する準則』		
6. 参考書 岡村久道編『インターネットの法律問題』（新日本法規） 夏井高人『ネットワーク社会の文化と法』（日本評論社） 夏井高人監修・著『IT ビジネス法入門—デジタルネットワーク社会の法と制度』（TAC 出版） 愛知靖之、前田健、金子敏哉、青木大也著『LEGAL QUEST 知的財産法（有斐閣）』		
7. 課題に対するフィードバックの方法 アンケートや感想文、ディスカッションコーナーでの発言については、Oh-o!Meiji システム上で適宜コメント、講評する他、主要な論点につき次回講義の冒頭で解説する。		
8. 成績評価の方法 授業中の質疑応答等の参加状況 15%、Oh-o! Meiji システム上の感想文及びアンケートへの回答 15%、中間レポート 25%、期末試験 45%で評価する。		
9. その他 企業実務に関する質疑応答、議論への参加を特に重視する。		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
サイバー法 A		丸橋 透
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 名誉毀損・プライバシー侵害、著作権侵害等、ネット上の権利侵害とその救済手段について主に民事的側面から概説する。 情報社会においては、個人や ICT と関係が薄い企業も権利侵害のターゲットとなり得るため、個人あるいは組織として権利侵害に対峙し、対処するための基礎的素養を習得することを目標とする。		
2. 授業内容 第 1 回：(a のみ) イントロダクション 第 2 回：ネット上の権利侵害の態様と救済手段 第 3 回：人格権侵害（名誉毀損・プライバシー侵害）とプロバイダの民事責任 第 4 回：いわゆる「忘れられる権利」の行使 第 5 回：著作権侵害とプロバイダに対する差止め 第 6 回：プロバイダの損害賠償責任制限とソフトロー 第 7 回：ネット事業者と通信の秘密 第 8 回：発信者情報開示請求とソフトロー 第 9 回：ネット事業者の権利侵害防止技術導入義務 第 10 回：ネット上への商品情報の掲示と商標権侵害 第 11 回：ドメイン名の不正取得等と紛争解決 第 12 回：P2P ファイル共有ソフトウェアの提供 第 13 回：オークション・モール運営者の責任 第 14 回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 Oh-o! Meiji システム上で授業の感想文やアンケートの回答を求めることがあるので、受講者は必ず提出すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji システムを通じて適宜連絡する。		
5. 教科書 夏井高人監修・著『IT ビジネス法入門—デジタルネットワーク社会の法と制度』（TAC 出版）		
6. 参考書 岡村久道編『インターネットの法律問題』（新日本法規） 夏井高人『ネットワーク社会の文化と法』（日本評論社） 松井茂紀・鈴木秀美・山口いつ子編『インターネット法』（有斐閣） 曾我部真裕・林秀弥・栗田昌裕『情報法概説』（弘文堂） 矢野常寿編『新・判例ハンドブック情報法』（日本評論社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 アンケートや感想文、ディスカッションコーナーでの発言については、Oh-o!Meiji システム上で適宜コメント、講評する他、主要な論点につき次回講義の冒頭で解説する。		
8. 成績評価の方法 授業中の質疑応答等の参加状況 25%、Oh-o! Meiji システム上の感想文及びアンケートへの回答 25%、期末レポート 50%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) LAW371J		
サイバー法B		丸橋 透
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 情報やシステムに対する攻撃の処罰を含む刑事的統制や情報セキュリティに関する法制を概説する。 シグナルあるいはコンテンツとしての情報の取り扱いにおいて、社会人として超えてはいけな一線を理解するとともに、個人あるいは組織としてサイバー犯罪に対峙し、対処するための基礎的素養を習得することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：(aのみ) イントロダクション 第2回：電磁的記録の保護 第3回：支払用カードの保護 第4回：ウイルス(不正指令電磁的記録) 第5回：電磁的記録の破壊 第6回：電子計算機損壊等業務妨害 第7回：情報の窃盗、詐欺、電子計算機使用詐欺 第8回：不正アクセス・フィッシング 第9回：通信の秘密 第10回：名誉毀損、侮辱 第11回：ネット上のわいせつ罪と児童ポルノ 第12回：サイバー犯罪と刑事手続 第13回：情報セキュリティマネジメントシステム 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 Oh-o! Meiji システム上で授業の感想文やアンケートの回答を求めることがあるので、受講者は必ず提出すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji システムを通じて適宜連絡する。		
5. 教科書 夏井高人監修・著『IT ビジネス法入門―デジタルネットワーク社会の法と制度』（TAC 出版）		
6. 参考書 岡村久道編『インターネットの法律問題』（新日本法規） 夏井高人『ネットワーク社会の文化と法』（日本評論社） 松井茂紀・鈴木秀美・山口いつ子編『インターネット法』（有斐閣） 曾我部真裕・林秀弥・栗田昌裕『情報法概説』（弘文堂） 矢野常寿編『新・判例ハンドブック情報法』（日本評論社） 鎮目征樹・西貝吉晃・北條孝佳編『情報刑法Ⅰ サイバーセキュリティ関連犯罪』		
7. 課題に対するフィードバックの方法 アンケートや感想文、ディスカッションコーナーでの発言については、Oh-o!Meiji システム上で適宜コメント、講評する他、主要な論点につき次回講義の冒頭で解説する。		
8. 成績評価の方法 授業中の質疑応答等の参加状況 25%、Oh-o! Meiji システム上の感想文及びアンケートへの回答 25%、期末レポート 50%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
サイバー法C		夏井 高人
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 サイバー犯罪の捜査と関連する刑事手続に関し、概説する。 刑法及び刑事訴訟法に関する一般的な理解を習得していることを前提として、サイバー犯罪との関係において、諸外国の法制との比較法的な検討を踏まえながら、日本国の関連法制及び関連事例の一般的な理解を得ることを到達目標とする。		
2. 授業内容 概ね以下のとおりとするが、諸外国の慣例法制が大規模に変動中であり、かつ、日本国内の法制にも変化があるので、それらを踏まえて一部修正した上で講義を提供する可能性がある。 1 イン트로ダクション 2 情報セキュリティと関連する法的手続の概要 3 欧州評議会のサイバー犯罪条約の手続法条項 4 関連する EU の基本法制（その 1） 5 関連する EU の基本法制（その 2） 6 関連する米国の基本法制 7 関連する英国の基本法制 8 関連する日本国の基本法制と日本国憲法上の制約など 9 捜査機関による通信傍受、デジタル行動追跡 10 刑事訴訟法に定める手続 11 情報公開請求と機密保持との関係 12 事例による解説（その 1） 13 事例による解説（その 2） 14 まとめ		
3. 履修上の注意 刑法及び刑事訴訟法の基本を既に習得していることを要する。 英語文献の読解能力は必須ではないが、可能であれば、英語で書かれた法文や判例の読解が可能であるレベルの英語力をもっていることが望ましい。 対面講義として授業を提供することを予定しているが、（感染症の拡大を含め）社会状況の変化等により、オンライン講義とすることがあり得る。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 刑法及び刑事訴訟法を履修済でない学生は、独力でその内容を習得しておくことが望ましい。 刑法及び刑事訴訟法において普通に使用されている用語または法概念に関しては、授業中では逐一説明しないので、各自。可能な限り十分に習得しておく必要がある。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 指宿信『電脳空間と刑事手続』（成文堂、2022） 高橋郁夫・梶谷篤・古峯耕平・荒木哲郎・山口裕司・永井徳人・丸山修平『デジタル証拠の法律実務 Q&A 第 2 版』（日本加除出版株式会社、2023）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 講義期間中に複数回予定している理解度テストの総合点により成績評価する。 採点は厳格に行い、例えば、記述式の理解度テストの場合、日本国の大学法学部の学生としてふさわしくない低レベルの短文による回答しか提出しない場合には、0 点として評価する。 また、GPT アプリのような AI ツールの利用や単純なコピペを含め、違法行為により生成された回答を提出していると判定できる学生に関しては、告訴・告発による刑事処分や法学部教授会の決定による退学処分を含め、厳しい対応を検討することがある。		
9. その他 授業内容等に関しては、必要に応じて、Oh-o! Meiji を介して提供する。		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
サイバー法D		佐々木 秀智
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 IT 社会において個人情報の保護と利用のあり方が重要な論点となっている。2003 年に個人情報保護法が制定されたが、その後、本来利用が認められている場面においても個人情報の利用を躊躇する、いわゆる「過剰反応」現象が発生した。そのことから 2015 年の同法改正では、同法第 1 条の目的規定において利用の重要性について詳細に規定し、また個人情報等の定義の明確化等の措置が講じられている。 この講義では、個人情報保護法を中心に、IT 社会におけるプライバシー・個人情報保護の法的議論状況を概観し、IT 社会における個人情報の保護と利用のあり方について考えていく。		
到達目標 ・ プライバシー・個人情報保護に関する法的枠組の理解 ・ IT 社会における法的分析方法の習得		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：サイバー社会への法的対応（1） 第 3 回：サイバー社会への法的対応（2） 第 4 回：プライバシー権の歴史的展開 第 5 回：憲法上のプライバシー 第 6 回：民法上のプライバシー（1） 第 7 回：民法上のプライバシー（2） 第 8 回：個人情報の法的保護の歴史的展開 第 9 回：個人情報保護法の構造（1） 第 10 回：個人情報保護法の構造（2） 第 11 回：個人情報保護法の構造（3） 第 12 回：個人情報保護法の構造（4） 第 13 回：個人情報の法的保護に関する国際的動向（1） 第 14 回：個人情報の法的保護に関する国際的動向（2） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 この科目は、単に教科書などに書いてあることを暗記するだけの科目ではない。自分の頭で考えることが必要である。また憲・民・刑の基本法律科目を履修済みであることを前提として、授業を行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 指定教科書の該当箇所を読んでおいてください。 【復習すべき内容】 授業で提示した問題について、授業で紹介したサイト等にアクセスして調べてください。		
5. 教科書 岡村久道『個人情報保護法の知識<第 5 版>（日経文庫）新書』（2021 年）		
6. 参考書 開講時に指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験を実施した後、全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 期末試験による（100%）。また、授業への積極的参加を行った者は、期末試験に代えて別途評価する。		
9. その他 ＊2022 年度以降カリキュラムの科目です。2021 年度以前のカリキュラムでは、履修できません。		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
サイバー法E		佐々木 秀智
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 IT 社会において情報の保護と利用のあり方が重要な論点となっている。特に、データ駆動型社会への移行、データサイエンスの急速な発達により、政府部門、民間部門を問わず様々な分野で、それぞれの機関・団体等が保有するデータの利活用の必要性が強く認識されるようになっている。とりわけパーソナル・データの利活用に関する社会的ニーズが高まっている。 一方でパーソナル・データの利活用はプライバシー・個人情報保護等の観点から様々な懸念が指摘されているところであり、データの利活用と個人の権利・利益の調整が必要不可欠なものとなっている。この授業では、まずデータ利活用の促進に向けた法整備の流れを概観し、プライバシー・個人情報保護等の個人の権利・利益保護の法的あり方をふまえた上で、データ駆動型社会における法的枠組みについて考えていきます。		
到達目標 ・データ駆動型社会における情報の保護と利活用の調整に関する法的枠組の理解 ・IT 社会における法的分析方法の習得		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：サイバー社会への法的対応（1） 第3回：サイバー社会への法的対応（2） 第4回：データ利活用に向けた法整備の流れ（1） 第5回：データ利活用に向けた法整備の流れ（2） 第6回：データ利活用に向けた法整備の流れ（3） 第7回：データ利活用に関する法原理（1） 第8回：データ利活用に関する法原理（2） 第9回：データ利活用に関する法原理（3） 第10回：対立する諸利益との調整（プライバシー・個人情報保護）（1） 第11回：対立する諸利益との調整（プライバシー・個人情報保護）（2） 第12回：対立する諸利益との調整（プライバシー・個人情報保護）（3） 第13回：対立する諸利益との調整（知的財産権） 第14回：対立する諸利益との調整（その他の利益） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 この科目は、単に教科書などに書いてあることを暗記するだけの科目ではない。自分の頭で考えることが必要である。また憲・民・刑の基本法律科目を履修済みであることを前提として、授業を行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 指定教科書の該当箇所を読んでおいてください。 【復習すべき内容】 授業で提示した問題について、授業で紹介したサイト等にアクセスして調べてください。		
5. 教科書 担当教員が作成したデジタルレジュメ等を Oh-Meiji にアップする。		
6. 参考書 開講時に指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験を実施した後、全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 期末試験による（100%）。また、授業への積極的参加を行った者は、期末試験に代えて別途評価する。		
9. その他 ＊2022 年度以降カリキュラムの科目です。2021 年度以前のカリキュラムでは、履修できません。		

科目ナンバー：(LA) LAW176J		
デジタルコンテンツA〔M〕		栗山 健
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 DX(デジタルトランスフォーメーション)や GX(グリーントランスフォーメーション)など新たなキーワードが登場してきてます。このような背景には AI (人工知能) も含めた ICT 等の技術が大きくなっています。また、技術の進歩に伴い制度の見直しが必要になることもあります。このような社会環境のもと技術を理解していることはとても重要です。 この講義ではデジタルコンテンツに注目し、関連する技術や制度の理解と演習による基本スキルの獲得を目指します。 技術や制度などは最新の動向を取りあげることもあります。 学習（到達）目標： 本講座を受講することで、ICT 環境やデジタルコンテンツの概要を理解し、簡易的なコンテンツ制作ができるようになることを目指します。また、それに伴いコンピュータリテラシーも身につきます。		
2. 授業内容 第1回 (M)：DX（デジタルトランスフォーメーション）とその背景 第2回 (M)：アナログ情報とデジタル情報 第3回 (C)：デジタルと関連する制度 第4回 (C)：デジタルと関連する技術 第5回 (M)：デジタルデータ作成 第6回 (M)：DX 人材とスキル 第7回 (M)：AI 技術と活用、情報セキュリティと知的財産権 第8回 (C)：デジタルコンテンツとは 第9回 (M)：デジタルコンテンツ制作（1） 第10回 (M)：デジタルコンテンツ制作（2） 第11回 (M)：デジタルコンテンツ制作（3） 第12回 (C)：成果発表と評価 第13回 (C)：成果発表と評価 第14回 (C)：講評（実践家による） (M) はオンラインによる【メディア授業】 (C) は演習を伴う教室での【対面授業】 * この日は通学が必要です。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。 必要に応じて実践家を招くことがあります。		
3. 履修上の注意 この科目を履修する場合は、ICT ベーシック I を習得済みであることが望ましい。基本的なパソコンの操作に不安のある者は、準備学習として講習会等に参加すること。 【メディア授業（オンデマンド型）】 動画の視聴・課題の提出・掲示板やメール等による意見交換・指導によって実施される授業です。 *ただし、キャンパスで行う【対面授業】を実施する日があるので注意して下さい。 受講に必要な環境 ・パソコン (Windows または Mac OS) パソコンが必要となります。ソフトウェアは Windows/Mac の両対応のものを選びますが、資料や OS に起因するトラブルに対するアドバイスは、Windows のみとなります。PC には、メモリ 8GB 以上、ディスク空き領域 30GB 程度が必要です。 ・インターネット回線 オンラインでの受講や、課題提出などを行うために十分な速度・容量のインターネット回線も必要です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必要に応じて授業内で伝えます。		
5. 教科書 特にありません。		
6. 参考書 特にありません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された課題に問題があったり、課題に対する正しい回答になっていない場合は Oh-o Meiji 上にコメントします。 また所要所で、今後の授業進行に問題が生じる場合はコメントします。		
8. 成績評価の方法 定期試験は行いません。 毎回、講義の中で実施した演習または課題への取り組み結果が提出物となり、評価対象となります。		
9. その他 * 履修登録の詳細は、新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW176J		
デジタルコンテンツA〔M〕		高見澤 秀幸
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 IT 産業を支える技術としてのデジタルメディアやコンテンツは、その規模や多様性という面においても増加の一途をたどっています。この講義では法学部学生が受講することを考慮し、デジタル技術の数式的な理解よりも、情報教室を使った演習や、「しくみ」の説明を重視してデジタルコンテンツの取扱いや作成について学習します。これらにより、授業を受講することによって、画像や動画などの簡単な編集や作成、初歩的なプログラミング、デジタルメディアに関するその他周辺知識の習得を行うことを到達目標とします。 Facebook や Youtube などのソーシャルメディアの活用においても、質の高い写真や動画などのコンテンツを提供することのできる能力を身に付けることは重要です。法学部学生のデジタルコンテンツへの興味とチャレンジを期待します。		
2. 授業内容 第1回：デジタルメディアとコンテンツ 第2回：アナログ情報とデジタル情報 第3回：画像のデジタル化とデジタルカメラ 第4回：デジタルカメラとレンズ 第5回：ライティング技術と撮影技術演習 ・ポートレート写真を撮ろう（撮影技術を駆使して自分の顔写真を撮影します） 第6回：画像編集とコンテンツ配信 第7回：デジタル透かしとコンテンツマネジメント 第8回：情報セキュリティと知的財産権 第9回：デジタルコンテンツ制作（1） ・Method Draw（フリーソフトウェア）を使って基本図形を描きます。 第10回：デジタルコンテンツ制作（2） ・第9回で作成した図形をプログラミング言語を用いて動かします。 第11回：画像の取り扱いと編集 ・画像ファイルの簡単な加工をしてみよう：Photopea：フリーソフトウェア） 第12回：動画の取り扱いと編集（1） ・動画編集はどのように行うのか：Open Shot VideoEditor 第13回：動画の取り扱いと編集（2） ・特殊効果をやってみよう（エフェクトとトランジション） 第14回：動画の取り扱いと編集（3） ・作品を制作して提出してもらいます。 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 この科目を履修する場合は、ICT ベーシック I を習得済みであることが望ましい。基本的なパソコンの操作に不安のある者は、準備学習として講習会等に参加すること。 第5回には履修者によりポートレート写真の撮影を行う。 ※担当教員（高見澤秀幸）の ICT 画像編集／動画編集とは一部内容の重複があります。デジタルテクノロジーについてより深く勉強したい場合は、デジタルコンテンツAではなく ICT 科目を履修することを推奨します。 【メディア授業（オンデマンド型）】 動画の視聴・課題の提出・掲示板やメール等による意見交換・指導によって実施される授業です。キャンパスで行われる対面授業ではありませんので注意して下さい。 受講に必要な環境 ・パソコン（Windows または Mac OS） パソコンが必要となります。ソフトウェアは Windows/Mac の両対応のものを選びますが、資料や OS に起因するトラブルに対するアドバイスは、Windows のみとなります。PC には、メモリ 4GB 以上、ディスク空き領域 30GB 程度が必要です。比較的低いスペックの PC でも問題ありませんが、ディスクの空き領域には注意して下さい。 ・インターネット回線 動画の視聴や、提出などの取り扱いを行うため十分な速度・容量のインターネット回線も必要です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 画像の編集においては、事前に元となる素材を準備したり、学習した内容を元に自分のデジカメやスマホを使って復習をすると、より効果的です。		
5. 教科書 Oh-o! Meiji からプリントを配布します。		
6. 参考書 なし		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された課題に問題があったり、課題に対する正しい回答になっていない場合、Oh-o Meiji によってコメントを付記します。また要所所で、今後の授業進行に問題が生じる場合、すべての課題に対するコメント返信を行います。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業態度等）およびレポート・小テストの総合評価（50%づつ）で成績評価を行います。欠席（各回の課題提出が出席となる条件です）が1/3 を超えた場合、成績評価は行いません。毎回の小テスト（または課題）の提出をもって出席とし、その出来栄に累積によって成績評価を行います。		
9. その他 * 履修登録の詳細は、新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW171J		
デジタルコンテンツB		栗山 健
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 PC 初心者を対象に、デジタルコンテンツの理解、コンピュータリテラシーの獲得を目的とする演習中心の講座です。いろいろなデジタルコンテンツを通してコンピュータの特性を理解しようとする講座です。 デジタルコンテンツには、コンピュータ処理の対象となるデータやプログラムそのものも含まれます。それぞれに直接触れることが大切なのです。想像でなく体験は理解を助けるだけでなく、応用などの拡張をも期待させるものです。各種デジタルコンテンツをできるだけ多く体験してもらうため、広く浅くの講座となります。また、これらコンテンツに関係する用語説明程度の簡単な講義を混ぜることがあります。 学習（到達）目標： 本講座を受講することで、デジタルコンテンツの概要、制作過程を理解し、簡易的なコンテンツの制作ができるようになることを目指します。また、それに伴いコンピュータリテラシーも身につきます。		
2. 授業内容 第1回：導入 ・デジタルコンテンツ概論 ・アナログとデジタル ・著作権 第2回：生活とコンピュータ ・標準化と普及 第3回：デジタル教材 ・電子書籍、デジタル教科書 ・デジタル図鑑、辞典、事典 第4回：デジタルコンテンツの流通 ・IT 産業 ・教育の情報化 第5回：プログラミング ・ゲーム制作実践 ・ゲーミフィケーション ・アルゴリズム 第6回：映像制作と映像教材 ・映像制作実践 第7回：AI ・理論と活用 第8回：デジタル教材制作-1- ・設計・デザインと工程管理 ・インタラクションとナビゲーション 第9回：デジタル教材制作-2- ・プロトタイプ制作 第10回：デジタル教材制作-3- ・制作とデバック 第11回：デジタル教材制作-4- ・流通と活用 第12回：デジタル教材プレゼン-1- ・プレゼン資料と技術 ・プレゼン実践 第13回：デジタル教材プレゼン-2- ・プレゼン実践 第14回：評価 ・評価のポイント ・ポートフォリオ 必要に応じて実践家を招くともあります。 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 インターネットを利用するため、後半までには「MIND 利用講習会」を受講してください。 演習が主体の講座です。前回の受講を前提にした講義が多数あります。一回の講義内では各演習（経験）には順番があります。従って欠席や遅刻は講義理解にとって大きな障害となります。 また、集合学習ですが、理解の速度には個人差があります。「進行が速すぎる」「再度の説明」などをその場で声を掛けてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 適宜指示します。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 特に定めない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは基本的に次回以降の授業内で行います。		
8. 成績評価の方法 定期試験は行いません。 毎回、講義の中で実施した演習または課題への取り組み結果が提出物となり、評価対象となります。		
9. その他 ＊履修登録の詳細は、新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW176J		
情報通信技術 A〔M〕 ※オムニバス		佐々木 秀智
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 情報通信技術（ICT）の基本とそれに関連する重要な事項（特に情報セキュリティの基本）を学びます。 情報通信の基礎的事項を解説し、それを踏まえて、情報セキュリティ及び基本法制の基礎について解説します。 この授業では、ICT の運用業務やセキュリティ業務などの実務経験と専門知識を豊富に有する優れた専門家が、明治大学の教員と共同して法学部の学生にも分かりやすく講義します。 春学期の「情報通信技術 A」では主に基礎的な事項について概説し、秋学期の「情報通信技術 B」では主に応用的な事項について概説します。 情報通信技術の基本構造、重要性、関連する様々な問題等を理解し、問題発生予防・解決のために必要な知識を習得することを目標とします。		
2. 授業内容 この授業はメディア授業とし、リアルタイム配信型(夏井教授担当回)、オンデマンド型(その教員担当回)を併用する。 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：情報通信技術（ICT）の概念 第 3 回：電気通信事業者の仕事 第 4 回：サービスプロバイダの役割 第 5 回：プライバシー、表現の自由 第 6 回：通信回線の仕組み 第 7 回：インターネットの仕組み 第 8 回：Web の仕組み（1） 第 9 回：Web の仕組み（2） 第 10 回：Web の仕組み（3） 第 11 回：基本法制（1） 通信の秘密と関連する基本法制 第 12 回：基本法制（2） サイバー犯罪と関連する基本法制 第 13 回：情報セキュリティ 第 14 回：ユニバーサルアクセス、中立性 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義内容は理系向けの高度な技術的事項を含んでいませんが、教科書やプリントなどをきちんと読み、疑問点については積極的に質問をするなどして能動的に理解を深めることを期待します。 授業に関する連絡等は Oh-o! Meiji システム上で行うので、見落としなどがないように気を付けてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o!Meiji システムを通じて適宜連絡します。		
5. 教科書 担当講師が授業用のプリントを配布するほか、授業中に適宜参考書等を紹介します。		
6. 参考書 星名定雄『情報と通信の文化史』（法政大学出版局） 佐々木良一編『デジタル・フォレンジックの基礎と実践』東京電機大学出版局(2017)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 理解度テスト・小レポート等の全体講評を直後の授業又は Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 第 1 回において詳しく説明しますが、分担授業になっているため、各回授業ごとに理解度テスト、小レポート等を行い、各教員担当回数に応じた、評価点の総合点により成績評価をします。 具体的な評価方法は、講師により異なり、授業日内に実施される理解度確認テストまたは小レポート提出等によります。		
9. その他 理解度確認テストは、授業中に実施します。 小レポート提出は、Oh-o! Meiji のシステム上でファイル送信して提出するのを原則とします。		

科目ナンバー：(LA)LAW176J		
情報通信技術 B〔M〕 ※オムニバス		佐々木 秀智
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 情報通信技術（ICT）の基本とそれに関連する重要な事項（特に情報セキュリティの基本）を学びます。 情報通信の基礎的事項を解説し、それを踏まえて、情報セキュリティ及び基本法制の基礎について解説します。 この授業では、ICT の運用業務やセキュリティ業務などの実務経験と専門知識を豊富に有する優れた専門家が、明治大学の教員と共同して法学部の学生にも分かりやすく講義します。 春学期の「情報通信技術 A」では主に基礎的な事項について概説し、秋学期の「情報通信技術 B」では主に応用的な事項について概説します。 情報通信技術の基本構造、重要性、関連する様々な問題等を理解し、問題発生の予防・解決のために必要な知識を習得することを目標とします。		
2. 授業内容 この授業はメディア授業とし、リアルタイム配信型（夏井教授担当回）、オンデマンド型（その教員担当回）を併用する。 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：電子認証（1） 第 3 回：電子認証（2） 第 4 回：クラウドコンピューティング 第 5 回：ネット上の誹謗中傷・名誉毀損 第 6 回：知的財産権の保護 第 7 回：発信者情報開示 第 8 回：サイバー攻撃と防御（1） 第 9 回：サイバー攻撃と防御（2） 第 10 回：サイバー攻撃と防御（3） 第 11 回：サイバー攻撃と防御（4） 第 12 回：サイバー攻撃と防御（5） 第 13 回：緊急時の対応 第 14 回：被害者の救済手段 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義内容は理系向けの高度な技術的事項を含んでいませんが、教科書やプリントなどをきちんと読み、疑問点については積極的に質問をするなどして能動的に理解を深めることを期待します。 授業に関する連絡等は Oh-o! Meiji システム上で行うので、見落としなどがないように気を付けてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o!Meiji システムを通じて適宜連絡する。		
5. 教科書 担当講師が授業用プリントを配布するほか、適宜参考書等を紹介します。		
6. 参考書 佐々木良一編『デジタル・フォレンジックの基礎と実践』東京電機大学出版局（2017） 中尾康二編『ISO/IEC 27001:2013（JIS Q 27001:2014）情報セキュリティマネジメントシステム要求事項の解説』日本規格協会（2014） 中尾康二監修『ISO/IEC 27017 クラウドセキュリティ管理策と実践の徹底解説』日科技連出版社（2017）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 理解度テスト・小レポートの全体講評を直後の授業又は Oh-o! Meiji で公開する。		
8. 成績評価の方法 第 1 回において詳しく説明しますが、分担授業になっているため、各回授業ごとに理解度テスト、小レポート等を行い、各教員担当回数に応じた、評価点の総合点により成績評価をします。具体的な評価方法は、講師により異なり、授業日内に実施される理解度確認テストまたは小レポート提出等によります。		
9. その他 理解度確認テストは、授業中に実施します。 小レポート提出は、Oh-o! Meiji のシステム上でファイル送信して提出するのを原則とします。		

科目ナンバー：(LA)LAW171J		
法・情報・社会 A		小倉 秀夫
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 「情報」について、その収集、加工、提供・伝達、保管、利用の各場面について、どのような法制度が採用されているのかを体系的に学んでいく。		
2. 授業内容 第1回：情報の法的な位置づけ 第2回：情報の収集と法（1）―「情報」の入手に関する法規制 第3回：情報の収集と法（2）―「情報」の記録に関する法規制 第4回：情報の収集と法（3）―「情報」の収集のための諸権利 第5回：情報の加工と法（1）―二次的創作に関する法規制 第6回：情報の加工と法（2）―「ニセモノ」に関する法規制 第7回：情報の提供・伝達と法（1）―媒体の流通に関する法規制 第8回：情報の提供・伝達と法（2）―ネットでの情報発信に関する法規制 第9回：情報の提供・伝達と法（3）―ネットでの情報媒介に関する法規制 第10回：情報の提供・伝達と法（4）―情報のSHIFTに関する法規制 第11回：情報の提供・伝達と法（5）―情報流通の自由化と法 第12回：情報の提供・伝達と法（6）―広告に関する法規制 第13回：情報の保管と法 第14回：a：情報の利用と法 b：試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 MIND 利用講習会を受講してください。 授業は、オリジナルのスライドを見ながら進めていきます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義の中で言及された裁判例及び作品については、事後的に目を通して復習しておくことが望ましい。		
5. 教科書 特に指定しない。授業中に使用するスライドで対処する。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験についてどんなことを書けば良かったかを Oh!mai ji 上で受講者向けに公開する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 100%		
9. その他 * 履修登録の詳細は、新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW171J		
法・情報・社会B		小倉 秀夫
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 「情報」について、前期に学んだことを前提に、特定のトピックを掘り下げて学んでいく。 「情報」についての法制度がどうなっているのかを理解することも重要だが、「情報」がどのように利用され、「情報」により誰がどのような利益を得、誰がどのような不利益を被っているのか等を理解することも重要である。「情報法」ではなく、「法・情報・社会」という科目名になっている以上、情報を巡る社会の今と近未来にも焦点を当てていく予定である。 なお、情報と法に関して知っておくべき問題が、授業期間中に生じられる場合がありうるので、その場合は、シラバスに記載したテーマではなくそちらを取り上げる可能性がある。2018年度は、急遽、海賊版サイトのブロッキング問題を取り上げることにした。		
2. 授業内容 第1回：IT 社会の発展史 第2回：フェアユース 第3回：利用規約 第4回：CLOUD 第5回：フリーソフトウェア 第6回：大学と情報法 第7回：ヴォーカロイド及び生成 AI 第8回：ポイント・仮想通貨 第9回：海賊版サイトをめぐる攻防 第10回：政治と選挙と情報法 第11回：発信者情報開示請求 第12回：風評被害 第13回：IT 犯罪 第14回：a：展覧会と政治的中立性 b：試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 MIND 利用講習会を受講してください。 授業は、オリジナルのスライドを見ながら進めていきます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義の中で言及された裁判例及び作品については、事後的に目を通して復習しておくことが望ましい。		
5. 教科書 特に指定しない。授業中に提示するスライドで対処する。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験問題についてどんなことを書けば良かったかの説明を Oh!meiji にて受講者向けに公開する		
8. 成績評価の方法 定期試験 100%		
9. その他 * 履修登録の詳細は、新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW171J		
情報組織論Ⅰ		栗山 健
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 みなさんは社会に一步出た途端に何らかの組織に所属します。その組織というものにたいしてみなさんはどんなイメージをもっているのでしょうか。そして、みなさんにとって組織とはどんなものなのでしょうか。このことを結晶化ワールドカフェというワークショップ手法によって探りだします。そして、テキストをもとに組織にはびこる理不尽のメカニズムを明らかにします。こうして、理想の組織のあり方を深く考えぬくことで組織というものへの理解を深め、想定外の状況にも機能不全を起こさない健全な組織のあり方という概念を明らかにして行きましょう。この健全な組織の理解を到達目標として、みなさんの頭のなかにある組織というものの素朴理論を探るアジャイルな授業展開によって、組織の統合的な理解を深めていきます。		
【授業の到達目標】 想定外の状況にも機能不全を起こさない健全な組織のあり方を理解し、理想の組織にむけて組織の原理を考えぬくことです。このプロセスを通して、組織にどんな不合理性があるかを理解すること、その不合理さの裏にはある種の合理性があること、組織の成長と発展においてどんな組織上の問題があらわになるかを理解すること、これらの組織上の問題を通してイノベーションやマネジメントが果たす役割と組織につきつける問題を理解すること、組織の致命的な失敗事例を説明すること、毎回の授業内容から得られた知識を適確な文章として要約することができること、毎回の授業内容から得られた知識の意味を見出すことができること等の獲得を目指します。		
2. 授業内容 第1回：「組織論と組織イノベーション」への誘い 第2回：なぜ社会の変化は激しいのか？ 第3回：われわれは世界の情報を正しく認識しているか？ 第4回：ムーブメントからイノベーションを考える 第5回：リーダーシップとイノベーション 第6回：新事業の普及における変化の特徴 第7回：フィードバックと経験学習 第8回：企業の組織文化の創発メカニズム 第9回：戦略行動の創発メカニズム 第10回：後知恵バイアスが隠蔽する創造性 第11回：「ボケ」と「ノリ」が連鎖する「場」 第12回：なぜ成果は努力に応じて現れないのか？ 第13回：失敗する行動を潰さない包摂 第14回：授業で得た知識と能力を振り返る * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。 グループワークやプレゼンテーションを行うことがあります。 実践家を招くことがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は公開を原則としていますので、社会人等の参加や動画収録、ウェブでの公開をとまなう場合があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、事前アンケートを提出してもらうことがあります。これは毎回設定されているとは限りません。基本的には前日の夜に設定しておきますので、授業の前までに回答してから授業に参加してください。 そのほか、授業時間内での回答を期待するアンケートが設定されることもあります。 復習として、毎回授業後に授業サマリ（授業内容についての振り返り）をレポートとして提出することと、事後アンケートを求めることがあります。		
5. 教科書 特定の教科書は指定しませんが、適宜参考文献を指示します。		
6. 参考書 参考文献は必要に応じて授業の中で提示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題へのフィードバックは基本的に次回以降の授業で共有します。		
8. 成績評価の方法 定期試験は行いません。 授業内で課題を出し、授業内または翌週の授業共有します。 (1) 調査・報告（個人、またはグループで実施）(50%) (2) 授業後の振り返り（30%） (3) レポート（20%）		
9. その他 特にありません。		

科目ナンバー：(LA)LAW171J		
情報組織論Ⅱ		栗山 健
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 知性とは、軋轢や矛盾に真っ向から対峙し、自らの頭脳を使い倒して知恵を絞って乗り越えようと決意した人や組織だけが獲得できる能力です。この能力を獲得するには、過去の成功体験や既存の価値観がもたらす束縛や、諦めや不安から脱却し自由になるという前提条件が必要です。この既存の価値観から脱却する原理はすでに明らかにされています。このイノベーションプロセスの理解を到達目標として、みなさんの頭のなかにあるイノベーションの素朴理論を探るアジャイルな授業展開によってイノベーションの統合的な理解を深めていきます。 【授業の到達目標】 イノベーションプロセスを理解するために、各界で活躍している社会人の方々をお呼びし、イノベーション論を実践的に学んでいきます。このプロセスを通して、閉塞状況をもたらす原理を探り出す能力、持続的イノベーションや破壊的イノベーションを論じる能力、パラダイム破壊型イノベーションを論じる能力、イノベーションにおけるまぐれの役割を論じる能力、獲得した能力を使うに当たって社会的ジレンマに陥る状況を想定して倫理を考え抜く能力等の獲得を目指します。		
2. 授業内容 第1回：「社会人から学ぶ実践的イノベーション論」への誘い 第2回：イノベーション概論 第3回：イノベーションの定理 第4回：イノベーションの論理 第5回：身近な環境と自身を知る 第6回：アフォーダンスとやわらかなイノベーション 第7回：個人主義と集団主義 第8回：認知バイアス概論 第9回：社会人から学ぶ実践的イノベーション論(1) 第10回：社会人から学ぶ実践的イノベーション論(2) 第11回：社会人から学ぶ実践的イノベーション論(3) 第12回：社会人から学ぶ実践的イノベーション論(4) 第13回：社会人から学ぶ実践的イノベーション論(5) 第14回：授業から学んだ知識と能力を考える * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。 グループワークやプレゼンテーションを行うことがあります。 実践家を招くことがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は公開を原則としていますので、社会人等の参加や動画収録、ウェブでの公開をとまなう場合があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、事前アンケートを提出してもらうことがあります。これは毎回設定されているとは限りません。基本的には前日の夜に設定しておきますので、授業の前までに回答してから授業に参加してください。 そのほか、授業時間内での回答を期待するアンケートが設定されることもあります。 復習として、毎回授業後に授業サマリ（授業内容についての振り返り）をレポートとして提出することと、事後アンケートを求めることがあります。		
5. 教科書 特定の教科書は指定しませんが、適宜参考文献を指示します。		
6. 参考書 参考文献は必要に応じて授業の中で提示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題へのフィードバックは基本的に次回以降の授業内で共有します。		
8. 成績評価の方法 定期試験は行いません。 授業内で課題を出し、授業内または翌週の授業共有します。 (1) 調査・報告（個人、またはグループで実施）(50%) (2) 授業後の振り返り（30%） (3) レポート（20%）		
9. その他 特にありません。		

科目ナンバー：(LA) LAW376J		
法情報学Ⅰ〔M〕		夏井 高人
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 法情報学Ⅰにおいては、法情報へのアクセスをテーマとする講義を実施する。講義の素材として、EU の法へのアクセス報告書に示されている内容及び事項に準拠するが、この報告書の解説を目的とする授業ではない。 1 年次の必修科目である法学リテラシで習得する基本的な法情報検索等の手法や文献の引用方法等に関する講義は行わない。一般的な情報リテラシに関する講義も同様である。 法情報学Ⅰにおいては、オープンデータ政策を含め、国家としての法情報の提供のあり方の基本を理解し、考えること、日本国における現実の法情報提供の実態を認識し、考えること、そして、大学や公的機関からの提供される様々な法情報サービスを認識し、その特徴や利用上の留意点を知ること为目标とする。		
2. 授業内容 すべての授業回を、Oh-o! Meiji のディスカッション機能により、リアルタイムで行う。 第1回：イントロダクション 第2回：基本的な権利としての法へのアクセスの権利 第3回：日本国政府及び公的機関による法情報の提供の実例 第4回：法へのアクセスと関連する法情報学の歩み 第5回：オープンデータ（1） 第6回：オープンデータ（2） 第7回：オープンデータ（3） 第8回：知的財産権との関係 第9回：プライバシー保護との関係 第10回：法情報の翻訳（1） 第11回：法情報の翻訳（2） 第12回：判例データベース 第13回：法律データベース 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 オンライン授業（Oh-o! Meiji のディスカッションの電子掲示板機能を応用した電子板書方式による講義）により実施する。 ある程度の大きさの画面表示機能のない PC またはモバイルの場合、電子板書された内容を全部表示して理解するために支障が出ることもあり得る。 各回の講義において電子板書により提供される講義内容の文字数は、平均 2 万 5000 字～2 万 8000 字程度。 授業は、日本語で行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 英語の実力のある受講生は、予め、Report on access to law (2015/C 97/03) (OJ C 97, 24.3.2015, p.2-10) の原文を読むことが望ましい。この報告書は、Eur-lex の Web サイト上で入手できる。		
5. 教科書 特に指定しない。 授業中に必要な資料を配布する。		
6. 参考書 指宿信『法情報学の世界』第一法規株式会社(2010)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムを利用して行う。		
8. 成績評価の方法 理解度テストの結果の総合計点により成績評価する。 理解度テストは、5 回～10 回程度、その提出を求める。 理解度テストは、Oh-o! Meiji のシステムにより連絡し、Oh-o! Meiji システム上で回答を送信する方法により提出するものとする。 筆記式の回答を求める場合、送信可能な文字数の上限は 1300 字。大学法学部の学生としては、1000 字～1300 字程度の回答を作成し、提出することが望ましい。 大学法学部学生に相応しくない分量または質の回答の場合には 0 点として評価する。 GPT アプリのような AI ツールを濫用して生成した回答を提出した場合、退学処分を含め、厳正な対処を検討する。		
9. その他 高校段階で科目として配置されている理科（化学、物理、生物、情報処理等）及び社会（日本史、世界史、地理、公民等）並びに国語（現代国語、古文、漢文）を、法情報学の履修登録時点で、全て完全にマスターしていない場合、この科目の授業内容を理解することが不可能または非常に困難である。マスターしていない受講希望者は、授業開始までに独学でマスターしておかなければならない。		

科目ナンバー：(LA)LAW376J		
法情報学Ⅱ〔M〕		夏井 高人
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 法情報学Ⅱにおいては、法情報の管理をテーマとする講義を実施する。 1 年次の必修科目である法学リテラシで習得する基本的なレベルの法情報検索等の手法や文献の引用方法等に関する講義は行わない。一般的な情報リテラシに関する講義も同様である。 法情報学Ⅱにおいては、機密文書の管理を含め、情報管理者としての判断基準の概要を理解すること、情報へのアクセスを求める権利とその実行方法の概要を理解すること、そして、純粋な法情報ではないけれども具体的な法の適用を知るための関連情報の重要性とその入手方法の概要を知ること为目标とする。		
2. 授業内容 すべての授業回を、Oh-o! Meiji のディスカッション機能により、リアルタイムで行う。 第1回：イントロダクション 第2回：基本的な権利としての情報へのアクセスの権利 第3回：機密性の概念、機密の区分 第4回：アクセスコントロールの概要 第5回：情報及びデータの安全性確保（マネジメント） 第6回：情報及びデータの安全性確保（刑事法制等） 第7回：法適用の実際を知るための関連情報 第8回：実例による解説（1） 第9回：実例による解説（2） 第10回：実例による解説（3） 第11回：実例による解説（4） 第12回：法情報の本質（1） 第13回：法情報の本質（2） 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 法情報学Ⅰを履修済みであることを前提に授業を実施する。 オンライン授業（Oh-o! Meiji のディスカッションの電子掲示板機能を応用した電子板書方式による講義）により実施する。 ある程度の大きさの画面表示機能のない PC またはモバイルの場合、電子板書された内容を全部表示して理解するために支障が出ることもあり得る。 各回の講義において電子板書により提供される講義内容の文字数は、平均 2 万 5000 字～2 万 8000 字程度。 授業は、日本語で行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特になし。		
5. 教科書 特に指定しない。 授業中に必要な資料を配布する。		
6. 参考書 指宿信『法情報学の世界』第一法規株式会社(2010) 森田明『論点解説 情報公開・個人情報保護審査会 答申例』日本評論社(2016)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムを利用して行う。		
8. 成績評価の方法 理解度テストの結果の総合計点により成績評価する。 理解度テストは、5 回～10 回程度、その提出を求める。 理解度テストは、Oh-o! Meiji のシステムにより連絡し、Oh-o! Meiji システム上で回答を送信する方法により提出するものとする。 筆記式の回答を求める場合、送信可能な文字数の上限は 1300 字。大学法学部の学生としては、1000 字～1300 字程度の回答を作成し、提出できることが望ましい。 大学法学部学生に相応しくない分量または質の回答の場合には 0 点として評価する。 GPT アプリのような AI ツールを濫用して生成した回答を提出した場合、退学処分を含め、厳正な対処を検討する。		
9. その他 高校段階で科目として配置されている理科（化学、物理、生物、情報処理等）及び社会（日本史、世界史、地理、公民等）並びに国語（現代国語、古典、漢文）を、法情報学の履修登録時点で、全て完全にマスターしていない場合、この科目の授業内容を理解することが不可能または非常に困難である。マスターしていない受講希望者は、授業開始までに独学でマスターしておかなければならない。		

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民法特講Ⅰ		芦野 訓和
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、民法財産法に関する理論的な問題について、これまで総則、物権、債権と縦断的に学んできたことを基礎として、それらを関連させながら横断的に民法財産法を学ぶ。 民法を体系的に理解し、民法財産法に関する応用力を養い、自ら考察できるようになることを目標とする。 授業は民法に関する基礎的知識を習得済みであることを前提として、具体的な問題について、受講者と議論をしながら進めていく。 受講生に報告を割り当て、それをもとに全員で議論しながら理解を深めていく。 民法特講Ⅰでは、民法総則・物権に関する発展的問題を中心的に取り扱う（債権法の内容が関連する場合もある）。 【到達目標】 (1) 民法財産法に関する基礎的な理論を理解している。 (2) 民法財産法に関する解釈上の論点について、重要な判例及び学説を理解している。 (3) 上記(1)(2)を踏まえながら、自ら考え、自説を展開できる。		
2. 授業内容 第1回：bのみ：イントロダクション「民法の体系」 第2回：民法における能力 第3回：公序良俗違反 第4回：表見法理 第5回：他人の行為に関する責任 第6回：消滅時効と除斥期間 第7回：取得時効と登記1 第8回：取得時効と登記2 第9回：共同相続と登記 第10回：民法177条の第三者の範囲 第11回：抵当権の効力の及ぶ範囲 第12回：法定地上権 第13回：譲渡担保 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 授業は民法に関する基礎知識を習得済みであることが前提となる。 民法総則のほかに、物権、債権、契約、損害賠償法を履修している（履修中）か、自ら学習することが望まれる。 受講生は受動的ではなく能動的に授業に参加することが望まれる。 レポート課題を複数回(2,3回程度)課すが、回数については、授業の進行具合で決定する。 民法特講Ⅰと民法特講Ⅱの内容は関連している。両方とも履修することが望まれる。 六法は必ず持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習の内容】 自身が所有する教科書・体系書などの該当箇所を通読し、関連する判例にも目を通したうえで、自ら考えて来ること。 【復習の内容】 授業で学んだ点について、もう一度復習し、知識が定着し、それをアウトプットできるかを確認する。		
5. 教科書 教科書は特に指定しない。 授業で使用する問題、レジュメ、資料等は Oh-o!Meiji を通じて配付する。		
6. 参考書 『民法①総則 判例30!』（有斐閣、2017年） 『民法②物権 判例30! 第2版』（有斐閣、2023年） 『民法③債権総論 判例30! 増補版』（有斐閣、2023年） 『民法④債権各論 判例30!』（有斐閣、2017年） 『民法判例百選Ⅰ 総則・物権 第9版』（有斐閣、2023年） 『民法判例百選Ⅱ 債権 第9版』（有斐閣、2023年） 『民法判例百選Ⅲ 親族・相続 第3版』（有斐閣、2023年） 第1回目の授業でも説明する。		

7. 課題に対するフィードバックの方法

レポート課題については、提出期限後に、全体に向けて出題意図・問題点・ポイントなどについて講評する。
定期試験については、終了後、全体に向けた講評を Oh-o! Meiji に掲示する。

8. 成績評価の方法

【成績評価の方法】

定期試験およびレポートで評価する。

定期試験 60%＋レポート 40%

【成績評価の基準】

- (1) 民法財産法に関する基礎的な知識を習得しているか
 - (2) 判例・学説を含む他者の意見を的確に理解しそれに対して対応できるか
 - (3) 自ら考えそれを外部に発信できるか
- を基準とする。

9. その他

科目ナンバー：(LA)LAW361J		
民法特講Ⅱ		芦野 訓和
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、民法財産法に関する理論的な問題について、これまで総則、物権、債権と縦断的に学んできたことを基礎として、それらを関連させながら横断的に民法財産法を学ぶ。 民法を体系的に理解し、民法財産法に関する応用力を養い、自ら考察できるようになることを目標とする。 授業は民法に関する基礎的知識を習得済みであることを前提として、具体的な問題について、受講者と議論をしながら進めていく。 受講生に報告を割り当て、それをもとに全員で議論しながら理解を深めていく。 民法特講Ⅱでは、債権総論・債権各論に関する発展的問題を中心的に取り扱う（債権法の内容が関連する場合もある）。 【到達目標】 (1) 民法財産法に関する基礎的な理論を理解している。 (2) 民法財産法に関する解釈上の論点について、重要な判例及び学説を理解している。 (3) 上記(1)(2)を踏まえながら、自ら考え、自説を展開できる。		
2. 授業内容 第1回：bのみ：イントロダクション「民法の体系」 第2回：定型約款・契約の拘束力 第3回：事情変更の原則 第4回：安全配慮義務 第5回：売買目的物の契約不適合 第6回：サブリース 第7回：信頼関係破壊の法理 第8回：役務提供契約の終了と対価の支払 第9回：委任の任意解除 第10回：不当利得1－侵害利得 第11回：不当利得2－転用物訴権 第12回：不法行為1－過失相殺 第13回：不法行為2－名誉毀損・プライバシー侵害 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 授業は民法に関する基礎知識を習得済みであることが前提となる。 民法総則のほかに、物権、債権、契約、損害賠償法を履修している（履修中）か、自ら学習することが望まれる。 受講生は受動的ではなく能動的に授業に参加することが望まれる。 レポート課題を複数回(2,3回程度)課すが、回数については、授業の進行具合で決定する。 民法特講Ⅰと民法特講Ⅱの内容は関連している。両方とも履修することが望まれる。 六法は必ず持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習の内容】 自身が所有する教科書・体系書などの該当箇所を通読し、関連する判例にも目を通したうえで、自ら考えて来ること。 【復習の内容】 授業で学んだ点について、もう一度復習し、知識が定着し、それをアウトプットできるかを確認する。		
5. 教科書 教科書は特に指定しない。 授業で使用する問題、レジュメ、資料等は Oh-o!Meiji を通じて配付する。		
6. 参考書 『民法①総則 判例30!』（有斐閣、2017年） 『民法②物権 判例30! 第2版』（有斐閣、2023年） 『民法③債権総論 判例30! 増補版』（有斐閣、2023年） 『民法④債権各論 判例30!』（有斐閣、2017年） 『民法判例百選Ⅰ 総則・物権 第9版』（有斐閣、2023年） 『民法判例百選Ⅱ 債権 第9版』（有斐閣、2023年） 『民法判例百選Ⅲ 親族・相続 第3版』（有斐閣、2023年） 第1回目の授業でも説明する。		

7. 課題に対するフィードバックの方法

レポート課題については、提出期限後に、全体に向けて出題意図・問題点・ポイントなどについて講評する。
定期試験については、終了後、全体に向けた講評を Oh-o! Meiji に掲示する。

8. 成績評価の方法

【成績評価の方法】

定期試験およびレポートで評価する。

定期試験 60%＋レポート 40%

【成績評価の基準】

- (1) 民法財産法に関する基礎的な知識を習得しているか
 - (2) 判例・学説を含む他者の意見を的確に理解しそれに対して対応できるか
 - (3) 自ら考えそれを外部に発信できるか
- を基準とする。

9. その他

科目ナンバー：(LA)LAW351J		
刑法特講Ⅰ		内山 良雄
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、共犯論および因果関係論を取り扱います。共犯論は、多数の重要な論点を内包しており、刑法総論の講義を履修しただけでは消化不良に陥りがちな分野です。ところが、各種資格試験や法科大学院入試では頻出する分野でもあります。また、因果関係論は、とくに行為後の介入事情に関する処理をめぐり、1990年代以降、最高裁判例が集積されてきた分野であり、判例は、いわゆる「危険の現実化」公式を採用するに至っていますが、その判断構造を正確に理解するには困難を伴います。 そこで、刑法総論に関する基礎的な知識・理解を得ている学生が履修することを前提に、共犯論および因果関係論に関して、理解しておく必要がある重要事項を再確認し、さらに理解を深めることに主眼をおいて講義を行います。そして、事例を素材に、修得した理解を駆使して一定の結論を導き出すことができるようになるため、解釈学上の重要論点、新たに議論がなされるようになってきた論点を、丹念に検討してゆきます。法科大学院の入学試験、司法試験予備試験等を受験する学生が受講することも想定しています（受験を予定していなくても、履修可能です）。 【到達目標】 刑法理論に関する基礎的な理解を一層充実させ、応用力を養い、事例問題に対処できるようになることを目標とします。共犯論および因果関係論における解釈論上の主要論点について、重要な判例および学説を正しく理解し、それを踏まえながら自説を展開・論述できるようになり、法科大学院の入学試験、司法試験予備試験の問題にも対応できるようになることが目標です。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：イントロダクション（「共犯論の基礎①正犯と共犯」） 第2回：共犯論の基礎②共犯の諸形態 第3回：共犯（狭義）の従属性①（実行従属性、要素従属性） 第4回：共犯（狭義）の従属性②（罪名従属性） 第5回：共犯（狭義）の処罰根拠 第6回：共同正犯の正犯性（一部行為全部責任の根拠）と共謀共同正犯 第7回：共謀の射程 第8回：共犯の錯誤 第9回：共犯からの離脱と共犯の中止 第10回：承継的共同正犯 第11回：共犯と身分 第12回：因果関係の意義と機能、条件関係論 第13回：相当因果関係説と危険の現実化公式の判断構造 第14回：行為後の介入事情と危険の現実化公式に基づく判断方法 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 刑法総論の「復習」「補習」をする科目ではありません。 授業中に「刑法」の条文を参照できるように準備してください（六法持参、スマホ等での参照）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 1年次で履修した刑法総論で使用した教科書の該当箇所を通読する。 【復習の内容】 授業中に扱われた内容について、精確に理解し、その内容を知らない人に理解してもらえるように説明できるかをチェックする。 授業で取り扱った重要判例について、要旨だけでなく、判決全文に目を通す。主要判例は、裁判所ホームページ内「裁判例検索」（ https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search1 ）で閲覧可能です。		
5. 教科書 指定教科書は、ありません。担当教員が作成するレジュメを配布します。		
6. 参考書 各自が1年生の時に履修した刑法総論で使用した教科書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則として、課題は課さないです。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 期末試験100% 【成績評価の基準】 行為者の罪責を検討する事例問題について、答案に問題の所在を明示しているか（検討すべき「論点」を「発見」できるか）、事例に示されている事実の中から検討すべき事実を抽出できているか、抽出した事実が結論を導き出す上で有している意味を評価しながら検討すべき要件への当てはめができているか、判例・学説を正しく理解したうえで他説を批判しながら自分の考えを説得力ある論旨で論理的に主張できているか、を基準とします。		
9. その他 分からないことは、恥ずかしいことはありません。分からないときは、遠慮せずに質問して、疑問を解消して次のステップに進みましょう。授業で扱わない問題に関する質問も、受け付けます。		

科目ナンバー：(LA)LAW351J		
刑法特講Ⅱ		内山 良雄
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本講義では、刑法総論の重要論点を取り扱います。刑法総論の基礎的な知識・理解を修得している学生が履修することを前提に、解釈論上の重要論点に関して、さらに理解を深めることに主眼をおいて講義を行います。複数の論点が交錯する問題や、教科書で言及されていない論点に対処するためには、本質論に立ち返って基本的な考え方から掘り起こして検討する必要があります。その際、「なぜ、そのように考えるのか」という理解に裏づけられた論理的に一貫した思考が要求されるのです。そのような観点から、本講義では、刑法総論の解釈学上の重要論点、新たに議論がなされるようになってきた論点について、事例処理を念頭に置いて丹念に検討してゆきます（「共犯論」および「因果関係論」は、春学期の「刑法特講Ⅰ」で取り扱います）。法科大学院の入学試験、司法試験予備試験等を受験する学生が履修することも想定しています（受験を予定していなくても、履修可能です）。 【到達目標】 刑法理論に関する基礎的な理解を一層充実させて応用力を養い、犯罪論を体系的に把握できるようになること、事例問題に対処できるようになることを目標とします。刑法総論における解釈論上の主要論点について、重要な判例および学説を正しく理解し、それを踏まえながら自説を展開・論述できるようになり、法科大学院の入学試験、司法試験予備試験の問題にも対応できるようになることが目標です。		
2. 授業内容 第1回：aのみ：不作為犯総論（作為と不作為、作為犯と不作為犯、真正不作為犯と不真正不作為犯） 第2回：不真正不作為犯に関する解釈論上の課題 第3回：不真正不作為犯の成立要件、作為義務の発生根拠 第4回：未遂犯の処罰根拠 第5回：実行の着手 第6回：早すぎた構成要件の実現 第7回：積極的加害意思と侵害の急迫性・防衛の意思 第8回：偶然防衛 第9回：過剰防衛（質的過剰と量的過剰） 第10回：故意と具体的事実の錯誤 第11回：故意と抽象的事実の錯誤 第12回：違法性の意識(可能性)の要否・体系的地位 第13回：違法性の錯誤、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別 第14回：正当化事情の錯誤 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。進度が速くて余裕がある場合は、最後に「過失犯」も扱います。		
3. 履修上の注意 刑法総論の「復習」「補習」をする科目ではありません。 授業中に「刑法」の条文を参照できるように準備してください（六法持参、スマホ等を利用した参照）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 1年次で履修した刑法総論で使用した教科書の該当箇所を通読する。 【復習の内容】 授業中に扱われた内容について、精確に理解し、その内容を知らない人に理解してもらえるように説明できるかをチェックする。 授業で取り扱った重要判例について、要旨だけでなく、判決全文に目を通す。主要判例は、裁判所ホームページ内「裁判例検索」（ https://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search1 ）で閲覧可能です。		
5. 教科書 指定教科書は、ありません。担当教員が作成するレジュメを配布します。		
6. 参考書 各自が1年生のときに履修した刑法総論で使用した教科書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則として、課題は課さないです。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 期末試験 100% 【成績評価の基準】 行為者の罪責を検討する事例問題について、答案に問題の所在を明示しているか（検討すべき「論点」を「発見」できるか）、事例に示されている事実の中から検討すべき事実を抽出できているか、抽出した事実が結論を導き出す上で有している意味を評価しながら検討すべき要件への当てはめができているか、判例・学説を正しく理解したうえで他説を批判しながら自分の考えを説得力ある論旨で論理的に主張できているか、を基準とします。		
9. その他 分からないことは、恥ずかしいことではありません。分からないときは、遠慮せずに質問して、疑問を解消して次のステップに進みましょう。授業で扱わない問題に関する質問も、受け付けます。		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
医事法Ⅰ		小西 知世
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の到達目標及びテーマ】 ○講義テーマ 感染症をめぐる諸問題 ○講義目標 私達が普段何気なく過ごしている社会にはさまざまな矛盾や問題があることを抽象的にではなく具体的に理解し、そのうえで、それらをどのようにすれば解決することができるのか、受講者各人が——解決方法が見つからなくとも——考えをめぐらせることができるようになること（＝学問ができるようになること）を目標とします。 そのための材料として「医療」をとりあげ、道具として「法」を用います。 【授業の概要】 医事法という新しい学問分野で検討しなければならない課題は山積しています（たとえば、脳死・臓器移植をめぐる問題、生殖医療、救急医療、医療保険制度をめぐる問題など）。それらの課題は、それぞれが非常に難しい問題をいくつも抱えているため、全ての課題を網羅的に1年で検討する……ということはできません。そこで、今年度の医事法Ⅰの講義は、いまもなお社会的な問題となっている感染症をめぐる諸問題について検討を加えていくことにします。		
2. 授業内容 2019年後半から、世界を揺るがせた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）。近年の日本の厚生行政は、高齢者を中心とした慢性疾患への対応に追われ、このような急性疾患に関する対策は——今回のようなパンデミックが発生するということを以前から承知していながらも——インフルエンザを除き後手に回っていたという状況があります。そのインフルエンザも、今年の冬、かなり流行した結果、治療薬やワクチンが不足する状況に陥っていたことは記憶に新しい出来事として刻まれています。 もっとも、新しいワクチンの開発や新規治療薬の開発により感染症は克服されたかのようなイメージがあります。しかし、感染症に苛まれる時代は本当に終わったのでしょうか？ いいえ、感染症の時代は終わってはいません。感染症をめぐる問題は、これからも終わることのない問題です。この講義では、法と制度の視点から、感染症をめぐる諸問題について考えてみたいと思います。 第 1 回：ガイダンス・医事法のイントロダクション 第 2 回：医事法のイントロダクション 第 3 回：感染症について 概論 第 4 回：感染症について 概論 第 5 回：感染症関連法の枠組 総論 第 6 回：感染症関連法の枠組 総論 第 7 回：感染症関連法の構造 総論 第 8 回：感染症関連法の構造 総論 第 9 回：感染症関連法をめぐる問題 各論 第 10 回：感染症関連法をめぐる問題 各論 第 11 回：感染症関連法をめぐる問題 各論 第 12 回：感染症関連法をめぐる問題 各論 第 13 回：感染症関連法をめぐる問題 各論 第 14 回：講義を振り返って *講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義はレジュメを中心にすすめていきます。その他の詳細については初回の講義で説明します。 なお、本講義で扱う法律は、いわゆる普通の六法にはほとんど掲載されていません（たとえば感染症法、新型インフルエンザ等特別措置法、予防接種法など）。また、現場の状況を知るために通知等を参照する必要があります。そのため、準備学習として厚生労働省のホームページ上の関係の法令・通知等をしばしば参照してもらうことになります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この講義では、皆さんがすでに学んできた憲法や行政法、民法・刑法などの法律を総合的に活用することになります。各回の講義を受講する前に、それらの復習をしておくことをお勧めします。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 講義の際に、随時紹介します。 さしあたり、以下の2冊を参考書として紹介しておきます。 峰宗太郎・山中浩之『新型コロナとワクチン 知らない和不都合な真実』（日経BP、2020年） 平林勝政ほか編『ナース・グラフィカ健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度』（メディカ出版、第6版、2025年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 任意の中間レポートに対しては可能な限り講義期間中に講評します。 期末試験については、試験終了後、評価基準などを記した全体講評を Oh-o! Meiji 等を用いて公開します。		
8. 成績評価の方法 任意の中間レポートと期末試験で評価します。		
9. その他 受講に際して医学的な知識は必要ありません。		

科目ナンバー：(LA)LAW371J		
医事法Ⅱ		小西 知世
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の到達目標及びテーマ】 ○講義テーマ リハビリテーションをめぐる諸問題——理学療法士作業療法士法・業務分担論・名称独占をめぐる問題などを中心に—— ○講義目標 私達が普段何気なく過ごしている社会にはさまざまな矛盾や問題があることを抽象的にではなく具体的に理解し、そのうえで、それらをどのようにすれば解決することができるのか、受講者各人が——解決方法が見つからなくとも——考えをめぐらせることができるようになること（＝学問ができるようになること）を目標とします。 そのための材料として「医療」をとりあげ、道具として「法」を用います。 【授業の概要】 医事法という新しい学問分野で検討しなければならない課題は山積しています（たとえば、脳死・臓器移植をめぐる問題、生殖医療、救急医療、医療保険制度をめぐる問題など）。それらの課題は、それぞれが非常に難しい問題をいくつも抱えているため、全ての課題を網羅的に1年で検討する……ということはできません。そこで、今年度の医事法Ⅱの講義は、リハビリテーションをめぐる様々な問題について検討を加えていくことにします。		
2. 授業内容 現代の医療は、もはや医師のみで医療を提供することはできません。医師以外の様々な医療スタッフと医療を提供しなければ、質・量ともに現在の医療のニーズに応えることができません。その医師以外の医療スタッフの中で最近注目を浴びてきている医療スタッフがリハビリテーション系の医療専門職——理学療法士・作業療法士・視能訓練士・言語聴覚士など——です。しかしながら、これらのリハビリ系専門職の業務について、どのような法律でどのように規定しているのか、他の医療スタッフとの関係はどのようになっているのか等々につき、法学部で講義でされることは普通ありませんし、ましてや社会一般的に知られていません。 しかしながら、近年、リハビリ系専門職が実施する行為を、無資格者が、リラクゼーションと言い換えて実施するという問題が発生しています。海外では死亡事故まで生じています。 そこで、この講義では、リハビリテーション系の医療専門職に関する法制度から医療スタッフに関する法制度全体を俯瞰し見直すことにより、どのような問題が生じているのかについて考えてみたいと思います。 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：リハビリテーション概論 第 3 回：リハビリテーション概論 第 4 回：医療専門職業務分担関係論 第 5 回：医療専門職業務分担関係論 第 6 回：リハビリテーション系医療専門職総論 第 7 回：リハビリテーション系医療専門職総論 第 8 回：リハビリテーション系医療専門職総論 第 9 回：リハビリテーション系医療専門職総論 第 10 回：リハビリテーションをめぐる諸問題 第 11 回：リハビリテーションをめぐる諸問題 第 12 回：リハビリテーションをめぐる諸問題 第 13 回：リハビリテーションをめぐる諸問題 第 14 回：講義を振り返って * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義は教科書とレジュメを中心にすすめていきます。その他の詳細については初回の講義で説明します。 なお、本講義で扱う法律は、いわゆる普通の六法にはほとんど掲載されていません（たとえば医療法、医師法、保健師助産師看護師法など）。また、現場の状況を知るために通知等を参照する必要があります。そのため、準備学習として厚生労働省のホームページ上の関係の法令・通知等をしばしば参照してもらうことになります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この講義では、皆さんがすでに学んできた憲法や民法・刑法などの法律を総合的に活用することになります。各回の講義を受講する前に、それらの復習をしておくことをお勧めします。		
5. 教科書 日本理学療法政策研究会編『理学療法士のためのはじめての法律講座』（メディカ出版、2025 年）		
6. 参考書 講義の際に、随時紹介します。 さしあたり、以下の本を参考書として紹介しておきます。 平林勝政ほか編『ナース・グラフィカ健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度』（メディカ出版、第 6 版、2025 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 任意の中間レポートに対しては可能な限り講義期間中に講評します。 期末試験については、試験終了後、評価基準などを記した全体講評を Oh-o! Meiji 等を用いて公開します。		
8. 成績評価の方法 任意の中間レポートと期末試験で評価します。		
9. その他 受講に際して医学的な知識は必要ありません。		

科目ナンバー：(LA)LAW271J		
ジェンダーと法Ⅰ		堀口 悦子
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 伝統的な法律学をジェンダーの視点から見直すのが「ジェンダーと法」である。ジェンダーに中立な法律とは、現実によりうるのだろうか。「ジェンダーに中立」とは何かを考えながら、各法律分野を見直してみると、今まで気づかなかった問題が見えて来るであろう。それは、日本の問題に限らず、世界の問題でもある。法として、「法律」を超えた幅広い「法」を見て行く。 「平等」を、考えてみよう。形式的平等と事実上の平等があることを、知ってほしい。 「差別」にも、関心を持ってほしい。差別には、直接差別と間接差別がある。交差差別（インターセクショナリティ）も視野に入れて、ダイバーシティ（多様性）も考えて行こう。ジェンダーとともに、セクシュアリティ・障害・人種・民族・年齢などのダイバーシティに留意して、法を複眼的に見て行く。 本講義を通じて、ジェンダーの視点から、日本と世界の法律問題を具体的に把握できるようにする。A では、とくに国際人権法を国連の組織を理解するとともに学んで行こう。法律を批判的に研究することを通して、「リーガル・リテラシー」の実践を行い、このことがアクティブ・ラーニングにつながるはずである。 「ジェンダーと法」は、日々、新しい情報があり、刷新している。シラバスと異なる場合もあるが、それは最新情報を伝えたいからである。		
2. 授業内容 各回のテーマは次のとおりである。 第1回 a: イントロダクション, b: 国連とジェンダー～国連女性機関（UN ウィメン）・ILO・ユネスコなどについて～ 第2回 国際人権法（1） 女性差別撤廃条約 第3回 国際人権法（2） 女性差別撤廃条約一般勧告 第4回 国際人権法（3） 選択議定書 個人通報制度・調査制度 第5回 国際人権法（4） 選択議定書 事例紹介 第6回 国際人権法（5） 日本への「最終見解」 第7回 男女共同参画社会基本法 第8回 「男女平等参画条例」 東京都と埼玉県と比較 第9回 ジェンダーギャップ指数－日本は何位か？～女性議員をどう増やすか～候補者男女均等法 第10回 労働とジェンダー(1) 男女雇用機会均等法 第11回 労働とジェンダー(2) ILO 条約と国内法 第12回 家族法(1) 夫婦別姓と婚姻 第13回 家族法(2) 戸籍と家族 第14回 家族法(3) 離婚・子ども一失われた所得補償・扶養定期金・養育費 まとめ ＊講義内容は、必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 「リアクション・ペーパー」は、授業終了時に、毎回、提出すること。「自授業への参加度」の基準となる。授業に対する質問・疑問・意見・批判などを自由に書いてほしい。批判などを書いても、不利に評価をしないので、真摯に、自由に書いて大丈夫である。「リアクション・ペーパー」は、本授業をより良くするためのものである。教員と学生の「双方向の授業」のための、ツールである。 毎回の授業のテーマに沿った「レポート」を400字程度で書いてもらう。これは、毎回のテーマをどれくらい理解しているかだけでなく、そのテーマについて自分の考えをまとめるための機会でもある。また、「書く力」を毎回の授業を通して、身に付けてほしい。 常に、テレビ等のニュース、新聞、雑誌記事、オンラインのニュースなどに、フェイクに留意しながら関心を持つこと。例えば、「フェアトレード」という言葉を知っていると思うが、その実践例や具体的問題について知ろう。具体例を挙げれば、チョコレートの原料であるカカオ豆である。内閣府男女共同参画局、法務省、厚生労働省および国連（UN）などのサイトに随時アクセスすることが望ましい。 ゲスト講師を招聘する授業を、予定している。リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて産婦人科医渥美治世氏。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、上記の「履修上の注意」にも記載したが、メディアのニュースに関心を持って接してほしい。毎回、授業の最初に、メディアのジェンダー関連のニュース等を扱う。 復習として、授業時に配付した資料等を、学期中に、きちんと読んでおくこと。 授業時に紹介した、小説や映画などに、積極的に触れること。一例を挙げると、アメリカ映画『ボーダータウン 報道されない殺人者』がある。この作品は、女性差別撤廃条約・選択議定書の調査制度の第1号の公表ケースである、メキシコ・ケースを、映画化したものである。時間のあるときに観ておくことを、お勧めする。その他、アメリカ映画『ボーダーライン1・2』なども見てほしい。		
5. 教科書 特に、教科書は定めないが、随時必要な資料は、配付あるいは収集等のための指示をする。 『ルポ 貧困女子』 飯島裕子 岩波新書（期末レポートの課題図書）		
6. 参考書 授業内で、随時、配付予定。 『射撃責任』 ガブリエル・ブレア著 村井理子訳 太田出版		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の「レポート」については、随時、Oh-o!Meiji の「授業のお知らせ管理」などで述べる。第14回のまとめで、全体的に、課題に対するフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 授業への参加度 20%、毎回のレポート 20%、中間レポートと期末レポート 40%、期末試験 20%		
9. その他 ジェンダーと法Ⅰのみの履修を可とする。		

科目ナンバー：(LA)LAW271J		
ジェンダーと法Ⅱ		堀口 悦子
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 伝統的な法律学をジェンダーの視点から見直すのが「ジェンダーと法」である。ジェンダーに中立な法律とは、現実によりうるのだろうか。「ジェンダーに中立」とは何かを考えながら、各法律分野を見直してみると、今まで気づかなかった問題が見えて来るであろう。それは、日本の問題に限らず、世界の問題でもある。法として、「法律」を超えた幅広い「法」を見て行く。 「平等」を、考えてみよう。形式的平等と事実上の平等があることを、知ってほしい。 「差別」にも、関心を持ってほしい。差別には、直接差別と間接差別がある。交差差別（インターセクショナリティ）も視野に入れて、ダイバーシティ（多様性）も考えて行こう。ジェンダーとともに、セクシュアリティ・障害・人種・民族・年齢などのダイバーシティに留意して、法を複眼的に見て行く。 本講義を通じて、ジェンダーの視点から、日本と世界の法律問題を具体的に把握できるようにする。A では、とくに国際人権法を国連の組織を理解するとともに学んで行こう。法律を批判的に研究することを通して、「リーガル・リテラシー」の実践を行い、このことがアクティブ・ラーニングにつながるはずである。 「ジェンダーと法」は、日々、新しい情報があり、刷新している。シラバスと異なる場合もあるが、それは最新情報を伝えたいからである。		
2. 授業内容 各回のテーマは次のとおりである。 第1回 イントロダクション：SDGs とジェンダー 第2回 ビジネスと人権原則 1 第3回 ビジネスと人権原則 2 第4回 国連決議 1325 女性と平和 第5回 映画「女を修理する男」を観る 第6回 性暴力(1) 刑法改正～「性的同意」～ 第7回 性暴力(2) DV・デートDV 第8回 性暴力(3) セクハラ等のハラスメント～ILO190 号条約～ 第9回 性暴力(4) 有害な慣習～名誉殺人・名誉犯罪・アシッドアタック・FGM 等 第10回 セクシュアル・アンド・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(1) 刑法墮胎罪と母体保護法 第11回 セクシュアル・アンド・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(2) 慣習、病気と差別 ハンセン病、HIV/エイズ 第12回 国内人権機構/機関 第13回 女性死刑囚 冤罪 徳島ラジオ商殺人事件 第14回 女性天皇 ＊講義内容は、必要に応じて変更することがある。		
3. 履修上の注意 「リアクション・ペーパー」は、授業終了時に、毎回、提出すること。「自授業への参加度」の基準となる。授業に対する質問・疑問・意見・批判などを自由に書いてほしい。批判などを書いても、不利に評価をしないので、真摯に、自由に書いて大丈夫である。「リアクション・ペーパー」は、本授業をより良くするためのものである。教員と学生の「双方向の授業」のための、ツールである。 毎回の授業のテーマに沿った「レポート」を 400 字程度で書いてもらう。これは、毎回のテーマをどれくらい理解しているかだけでなく、そのテーマについて自分の考えをまとめるための機会でもある。また、「書く力」を毎回の授業を通して、身に付けてほしい。 常に、テレビ等のニュース、新聞、雑誌記事、オンラインのニュースなどに、フェイクに留意しながら関心を持つこと。例えば、「フェアトレード」という言葉を知っていると思うが、その実践例や具体的な問題について知ろう。具体例を挙げれば、チョコレートの原料であるカカオ豆である。内閣府男女共同参画局、法務省、厚生労働省および国連（UN）などのサイトに随時アクセスすることが望ましい。 ゲスト講師を招聘する授業を、予定している。リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて産婦人科医渥美治世氏。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、上記の「履修上の注意」にも記載したが、メディアのニュースに関心を持って接してほしい。毎回、授業の最初に、メディアのジェンダー関連のニュース等を扱う。 復習として、授業時に配付した資料等を、学期中に、きちんと読んでおくこと。 授業時に紹介した、小説や映画などに、積極的に触れること。一例を挙げると、アメリカ映画『ボーダータウン 報道されない殺人者』がある。この作品は、女性差別撤廃条約・選択議定書の調査制度の第 1 号の公表ケースである、メキシコ・ケースを、映画化したものである。時間のあるときに観ておくことを、お勧めする。その他、アメリカ映画『ボーダーライン 1・2』なども見てほしい。		
5. 教科書 特に、教科書は定めないが、随時必要な資料は、配付あるいは収集等のための指示をする。 『裸足で逃げる』上間陽子著 太田出版（期末レポートの課題図書）		
6. 参考書 授業内で、随時、配付予定。 『射撃責任』ガブリエル・ブレア著 村井理子訳 太田出版		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の「レポート」については、随時、Oh-o!Meiji の「授業のお知らせ管理」などで述べる。第 14 回のまとめで、全体的に、課題に対するフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 授業への参加度 20%、毎回のレポート 20%、中間レポートと期末レポート 40%、期末試験 20%		
9. その他 ジェンダーと法Ⅱのみの履修を可とする。		

科目ナンバー：(LA) POL321J		
行政学 I		牛山 久仁彦
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 今日の世界においては、政府の役割が多様、複雑化している。政府が担う行政機能は、人々の生活に大きな影響を与えているといえよう。本講義では、そうした状況をふまえて、行政学の基本的な考え方を学ぶことを目的とし、行政が果たすべき役割とその機能について考えることとし、行政学の基礎について学び、理解することを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回：講義の概要と進め方 第2回：立法国家と行政国家 第3回：行政機能の肥大化と福祉国家 第4回：官僚制をめぐる論点（1） 第5回：官僚制をめぐる論点（2） 第6回：政治と行政 第7回：政治と経済 第8回：行政と議会 第9回：公務員制度（1） 第10回：公務員制度（2） 第11回：行政をめぐる諸研究（1） 第12回：行政をめぐる諸研究（2） 第13回：行政と財政 第14回：政府と市民 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義中の私語等は厳禁とする。目に余る場合は、退室を命じることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞等で政治・行政の動向に関心を払うこと。		
5. 教科書 『国家と社会の政治・行政学』牛山久仁彦・外山公美（芦書房）		
6. 参考書 講義において適宜指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学期末に行う筆記試験により評価する。ただし、出席状況やレポート提出など、受講生の努力に報いられるよう、配慮する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)POL321J		
行政学Ⅱ		牛山 久仁彦
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 行政学Ⅰでは、主に行政学で学ぶべき基本的な事柄を講義するが、この行政学Ⅱでは、それらをふまえつつ、具体的な政府の動態や行政の課題について検討し、理解することを目的とする。また、今日の社会においては、政府と民衆の関係も複雑化しており、政府の役割も変化してきている。そうした点にも着目し、公共政策や地方自治、さらには住民と行政の協働等についても講義を展開していく。		
2. 授業内容 第1回：講義の進め方について 第2回：日本の行政システム 第3回：55年体制の形成と政官関係 第4回：55年体制の崩壊と変貌する行政 第5回：官民関係の変化と政治主導 第6回：日本の中央－地方関係 第7回：自治体行政と地方分権改革 第8回：自治体の政策法務と条例 第9回：中央政府の意思決定と予算過程 第10回：補助金行政と自治体 第11回：行政の統制と参加型行政 第12回：行政の広報と情報共有 第13回：コミュニティ政策と地域内分権 第14回：住民と行政の協働 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義中の私語は厳禁とする。目に余る場合は、退室を命じることがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞等で政治・行政の動向に関心を払うこと。		
5. 教科書 『国家と社会の政治・行政学』牛山久仁彦・外山公美（芦書房）		
6. 参考書 講義の中で適宜指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学期末に行う筆記試験により評価する。ただし、出席状況やレポート提出など、受講生の努力に報いられるよう、配慮する。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) POL331J		
国際関係論 I		上村 威
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 具体的な事象や事例について振り返りながら、国際関係における重要な理論的枠組みについて理解を深めます。 到達目標 1. 国際関係諸理論における基本的な概念と理論的枠組みを理解している。 2. 国際社会における様々なできごとについて、国際関係理論の視点から初歩的に考察することができる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 国際関係論では何を学ぶか 第2回：国際関係論の歴史と応用 第3回：リアリズム 理論 第4回：リアリズム 応用 第5回：交渉シミュレーション 第6回：リベラリズム 理論 第7回：リベラリズム 応用 第8回：構成主義（コンストラクティビズム） 理論 第9回：構成主義（コンストラクティビズム） 応用 第10回：戦略文化論 理論 第11回：戦略文化論 応用 第12回：外交政策分析 理論 第13回：外交政策分析 応用 第14回：プレゼンテーション ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 普段の授業での討論、交渉シミュレーションや期末ペーパーなど、グループメンバーとの協力が重要です。 授業回数の3分の2以上出席した者のみを評価対象とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前もって ClassWeb 上にある資料を精読することが、授業参加の前提条件です。		
5. 教科書 ClassWeb 上にて担当教員が準備する		
6. 参考書 ClassWeb 上にて担当教員が準備する		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間と期末のペーパーは Oh-o Meiji 上で個別にフィードバックします。 また、授業中に扱う課題はその場で行います。		
8. 成績評価の方法 ディスカッション参加 20% 授業で発言しない者はこの評価の対象となりません。 中間ペーパー 20% 期末ペーパー 40% ピア評価 20%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) POL331J		
国際関係論Ⅱ		上村 威
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 国際関係論における複数の理論的な視点を同時に応用しながら、具体的な事象や事例を分析します。 到達目標 国際関係諸理論における様々な概念を駆使し、具体的な事象や事例に関して体系的にとらえることができる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション パワーの根源とメカニズム 第2回：バンドワゴンと力の均衡 第3回：バンドワゴンと力の均衡 事例 第4回：国際社会における制度設計（集団行為における諸問題） 第5回：安全保障における諸要因（競合理論） 第6回：安全保障における諸要因 事例 第7回：脅威の均衡と関係性の均衡 第8回：脅威の均衡と関係性の均衡 事例 交渉シミュレーション 第9回：交渉シミュレーションリフレクション 第10回：インタラクション、相互認識、規範 第11回：インタラクション、相互認識、規範 事例 第12回：アイデンティティと利益の追求 第13回：アイデンティティと利益の追求 事例 第14回：プレゼンテーション ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 普段の授業での討論、交渉シミュレーションや期末ペーパーなど、グループメンバーとの協力が重要です。 授業回数の3分の2以上出席した者のみを評価対象とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前もって ClassWeb 上にある資料を精読することが、授業参加の前提条件です。		
5. 教科書 ClassWeb 上にて担当教員が準備する		
6. 参考書 ClassWeb 上にて担当教員が準備する		
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間と期末のペーパーは Oh-o Meiji 上で個別にフィードバックします。 また、授業中に扱う課題はその場で行います。		
8. 成績評価の方法 ディスカッション参加 20% 授業で発言しない者はこの評価の対象となりません。 中間ペーパー 20% 期末ペーパー 40% ピア評価 20%		
9. その他		

科目ナンバー：(LA) POL331J		
外交史 I		飯田 洋介
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 グローバル化が進んだ現代世界においても、国家間の関係とそれを規定する外交政策の重要性は決して減じているわけではありません。主権国家は外交政策を駆使しながらどのように国益を遵守・追求していったのでしょうか。また、それに伴ってどのような国際秩序が築かれたのでしょうか。本講義では主権国家体制が展開する 16 世紀から第一次世界大戦が勃発するまでの西洋史を外交史・国際政治史の観点から概観します。 【授業の到達目標】 本講義を通じて西洋近代史を外交の視点から捉えられるようになるとともに、外交の重要性やそのあり方について認識を深めてもらいたく思います。		
2. 授業内容 第 01 回：イントロダクション 第 02 回：近世最大の封建領主と宗教戦争 第 03 回：弱小国イングランドの苦悩 第 04 回：三十年戦争と帝国・国際秩序の再編 第 05 回：ルイ 14 世の野望と勢力均衡 第 06 回：ロシア帝国の台頭・拡張 第 07 回：「大王」と「女帝」の確執 第 08 回：「愛国王」の孤立とアメリカの独立 第 09 回：フランス革命とナポレオン戦争 第 10 回：ウィーン体制の確立と勢力均衡 第 11 回：「会議外交」の展開とウィーン体制の崩壊 第 12 回：ビスマルクによる戦争と平和 第 13 回：第一次世界大戦への道 第 14 回 a：まとめ b：試験 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業後毎回コメントを期日までに入力・提出してもらいます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参考書も活用してよく復習しておいてください。		
5. 教科書 特に定めず、レジュメを配布します。		
6. 参考書 君塚直隆『近代ヨーロッパ国際政治史』有斐閣 2010 小川浩之／板橋拓己／青野利彦『国際政治史』有斐閣 2018 各テーマに関する具体的なものは講義中に適宜紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出されたコメントについては、Oh-o! Meiji 上で個別にフィードバックします。 試験に対するフィードバックは試験終了後に口頭で行う予定です。		
8. 成績評価の方法 平常点（コメント）40%、試験 60 %		
9. その他 特になし		

科目ナンバー：(LA) POL331J		
外交史Ⅱ		飯田 洋介
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 ヨーロッパの中央部に位置するドイツでは、自国の外交路線における歴史的「伝統」の意識が強く見られます。それは地政学的な理由もあれば、とりわけ 20 世紀にドイツが辿った歴史的経緯の故であることは言を俟たないのですが、ここでいうドイツ外交の歴史的「伝統」とはどのようなものでしょうか？本講義では帝政期からナチ期までのドイツの外交政策を概観しながら、上記の問いについて考察していきます。 【授業の到達目標】 本講義を通じて、外交の視点からドイツ近現代史の理解を深めてもらいたく思います。		
2. 授業内容 第 01 回：イントロダクション 第 02 回：2 つの前提条件 第 03 回：ビスマルク外交① 「半ヘゲモニー」国家の外交方針 第 04 回：ビスマルク外交② 急場しのぎ 第 05 回：新航路政策① 転換点としての 1890 年 第 06 回：新航路政策② ヘルゴラント・ザンジバル協定再考 第 07 回：世界政策① 「陽のあたる場所」を求めて 第 08 回：世界政策② 「個人外交」の行方 第 09 回：第一次世界大戦への道 第 10 回：ヴァイマル期① 敗戦とヴェルサイユの制約 第 11 回：ヴァイマル期② シュトレゼマン外交の展開 第 12 回：ナチ期① ナチ外交の構造と初期の「平和主義」 第 13 回：ナチ期② 第二次世界大戦への道 第 14 回 a：まとめ b：試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業後に毎回コメントを期日までに入力・提出してもらいます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参考書も活用してよく復習しておいてください。		
5. 教科書 特に定めず、レジュメを配布します。		
6. 参考書 各テーマに関する具体的なものは講義中に適宜紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出されたコメントについては、Oh-o! Meiji 上で個別にフィードバックします。 試験に対するフィードバックは試験終了後に口頭で行う予定です。		
8. 成績評価の方法 平常点（コメント）40%、試験 60 %		
9. その他 特になし		

科目ナンバー：(LA) LAW222J		
司法演習Ⅰ（憲法）・法曹コース用		安西 文雄
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法学の基本的な諸問題について、多くの基本判例の読解および議論を通じて、理解を深めることを課題としています。判例にあらわれた憲法の生きた姿を理解し、それを基礎にして憲法に関連する諸問題につき発展的に考察する能力の育成も企図しています。 【到達目標】 (1) 憲法の重要判例を理解する。 (2) 憲法の重要判例の理解を基礎にして、考察を展開することができるようにする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ イン트로ダクション 第2回：外国人の人権 第3回：私人間効力 第4回：法人・団体と人権 第5回：公務員関係における人権など 第6回：幸福追求権 第7回：平等（1） 平等の基本問題 第8回：平等（2） 救済のあり方など 第9回：思想・良心の自由 第10回：表現の自由（1） 内容規制・内容中立規制など 第11回：表現の自由（2） 犯罪扇動表現、性表現、営利的表現 第12回：表現の自由（3） 事前抑制、検閲、名誉・プライバシー 第13回：表現の自由（4） 集会の自由 第14回：表現の自由（5） 取材・報道との関係 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 (1) 熱心に学ぶ努力を惜しまない学生であってほしいと願っています。 (2) 六法を持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 毎回、事前に授業の進行予定表を配布しますので、判例百選や各自の基本書を読解するとともに、進行予定表に沿って綿密に予習をしてきてください。 【復習すべき内容】 授業中に扱われた内容に関し、正確に理解し、説明できるようにしておいてください。		
5. 教科書 『憲法判例百選Ⅰ 〔第7版〕』長谷部恭男=石川健治=穴戸常寿編（有斐閣）		
6. 参考書 『憲法〔第8版〕』芦部信喜=高橋和之補訂（岩波書店） 『憲法学読本〔第4版〕』安西文雄=巻美矢紀=穴戸常寿（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて、oh meiji にアップする。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 平常点（授業態度や授業における発言等）。なお、5回以上欠席した場合は単位認定対象外となるので、注意してください。 【成績評価の基準】 (1) 憲法学の基本を理解しているか (2) 重要判例の読み取りが適確か (3) 憲法学に関する法的思考力があるか		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW222J		
司法演習Ⅱ（憲法）・法曹コース用		安西 文雄
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 憲法学の基本的な諸問題について、多くの基本判例の読解および議論を通じて、理解を深めることを課題としています。判例にあらわれた憲法の生きた姿を理解し、それを基礎にして憲法に関連する諸問題につき発展的に考察する能力の育成も企図しています。 【到達目標】 (1) 憲法の重要判例を理解する。 (2) 憲法の重要判例の理解を基礎にして、考察を展開することができるようにする。		
2. 授業内容 第1回：aのみ イン트로ダクション 第2回：信教の自由（1） 狭義の信教の自由 第3回：信教の自由（2） 政教分離 第4回：経済活動の自由 第5回：財産権 第6回：デュー・プロセス 第7回：国務請求権 第8回：生存権 第9回：教育を受ける権利 第10回：参政権・選挙制度 第11回：国会 第12回：内閣 第13回：裁判所 第14回：憲法訴訟 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 (1) 熱心に学ぶ努力を惜しまない学生であってほしいと願っています。 (2) 六法を持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 毎回、事前に授業の進行予定表を配布しますので、判例百選や各自の基本書を読解するとともに、進行予定表に沿って綿密に予習をしてきてください。 【復習すべき内容】 授業中に扱われた内容に関し、正確に理解し、説明できるようにしておいてください。		
5. 教科書 『憲法判例百選Ⅰ 〔第7版〕』、および『憲法判例百選Ⅱ 〔第8版〕』長谷部恭男=石川健治=穴戸常寿編（有斐閣） （なお、判例百選の第8版は、2025年の夏ごろ出版される予定です）		
6. 参考書 『憲法〔第8版〕』芦部信喜=高橋和之補訂（岩波書店） 『憲法学読本〔第4版〕』安西文雄=巻美矢紀=穴戸常寿（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて、oh meiji にアップする。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 平常点（授業態度や授業における発言等）。なお、5回以上欠席した場合は単位認定対象外となるので、注意してください。 【成績評価の基準】 (1) 憲法学の基本を理解しているか (2) 重要判例の読み取りが適確か (3) 憲法学に関する法的思考力があるか		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅰ（民法）・法曹コース用		工藤 祐巖
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 民法総則、物権法（担保物権法を除く）および債権法総論に関する重要問題について、司法試験等の過去問等の事例問題または判例を素材に作成した事例問題を検討し、論理的表現能力を涵養する。		
2. 授業内容 第1回 ガイダンス 第2回 民法総則① 第3回 民法総則② 第4回 民法総則③ 第5回 民法総則④ 第6回 民法総則⑤ 第7回 物権法① 第8回 物権法② 第9回 物権法③ 第10回 物権法④ 第11回 物権法⑤ 第12回 債権法総論① 第13回 債権法総論② 第14回 債権法総論③ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 積極的な報告・参加が求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 報告者（グループ）は、課題の事例問題について、事前に答案を提出しなければならない。報告者以外の者も、課題を検討したうえで授業に出席しなければならない。		
5. 教科書 民法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第9版）		
6. 参考書 特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に口頭で行う。		
8. 成績評価の方法 報告・討論・レポートから評価する。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅱ（民法）・法曹コース用		工藤 祐巖
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 担保物権法、債権法総論、契約法および不法行為法に関する重要問題について、司法試験等の過去問等の事例問題または判例を素材に作成した事例問題を検討し、論理的表現能力を涵養する。		
2. 授業内容 第1回 債権法総論⑤ 第2回 債権法総論⑥ 第3回 担保物権法① 第4回 担保物権法② 第5回 担保物権法③ 第6回 担保物権法④ 第7回 契約法① 第8回 契約法② 第9回 契約法③ 第10回 契約法④ 第11回 契約法⑤ 第12回 不法行為法① 第13回 不法行為法② 第14回 不法行為法③ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 積極的な報告・参加が求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 報告者（グループ）は、課題の事例問題について、事前に答案を提出しなければならない。報告者以外の者も、課題を検討したうえで授業に出席しなければならない。		
5. 教科書 民法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第9版）		
6. 参考書 特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の中で口頭で行う。		
8. 成績評価の方法 報告・討論・レポートから評価する。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW252J		
司法演習Ⅰ（刑法）・法曹コース用		菊地 一樹
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 せっかく蓄えた刑法の知識も、それを具体的な事例へと適用し、使いこなすことができれば宝の持ち腐れである。法科大学院の入試や予備試験・司法試験でも、具体的な事例をもとに、判例・学説に関する知識をうまく使いこなして、事例を丁寧に分析し、説得的な解決を提示する能力が問われている。そこで、本演習では、刑法の重要論点に関する具体的な事例を素材に、その妥当な解決のあり方について討論し、判例や学説における議論が、実際の事案の解決においてどのように活用されるのかを学ぶことで、皆さんがこれまで獲得してきた（あるいは現在進行形で獲得中の）知識を、実践的な「使える知識」へと磨き上げることを目標とする。 司法演習Ⅰでは、刑法「総論」の重要論点に関する事例を中心に扱う。具体的な進行方法としては、事前に配布する事例について、担当者に検討の結果を報告してもらい（履修者数にもよるが、複数人でのグループによる報告を予定している）、その後、教員や他の受講生からの質疑を通じて、当該事例に含まれる問題の所在（＝悩みどころ）を明らかにした上で、関連する学説や判例の知識を確認しながら、事案の適切な解決のあり方について、全員で議論を行う。なお、取り扱う事例は、刑法の重要な論点を複数含んだ、やや長めのものを用いるため、基本的には、1つの事例を2週かけて、さまざまな角度から徹底的に議論を行う予定である。 また、こうした事例の検討とは別に、学期中に1回、刑法に関する重要なトピックについて全員で議論を行う「テーマ討論」の機会を設けることも予定している。ここでは、受講生の関心や希望に応じて、最新の重要な判例や、あるいは、「性犯罪規定の改正の意義と残された問題」、「ネットにおける誹謗中傷と刑法」などの現代的課題を討論の対象に設定し、全員で自由に議論したい。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：事例検討（1）因果関係、不作為犯 第3回：全体での議論・解説 第4回：事例検討（2）正当防衛 第5回：全体での議論・解説 第6回：事例検討（3）故意、錯誤 第7回：全体での議論・解説 第8回：テーマ討論 第9回：事例検討（4）過失犯 第10回：全体での議論・解説 第11回：事例検討（5）未遂犯 第12回：全体での議論・解説 第13回：事例検討（6）共犯の諸問題 第14回：全体での議論・解説 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本演習は、受講生の一人一人が、刑法の知識を実際に何度も「使ってみる」ことを中心に進行するため、積極的・主体的な議論への参加が期待される。刑法の「悩ましさ」と「面白さ」を体感したい人の履修を広く歓迎したい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各事例の担当者は、報告にあたり、担当する事例を、基本書や関連判例を十分に読み込んで分析し、検討の結果をまとめたレジュメを作成することが求められる。文献や判例の調査の仕方については、必要に応じて助言・指導を行う。また、報告者以外の受講者も、あらかじめ事例に目を通し、何が争点になるのかを自分で考え、その争点に関する教科書の説明を読んでおくことが期待される。		
5. 教科書 教科書は用いずに、事例問題を作成し、配布する。		
6. 参考書 基本書・体系書については、各自が普段使用しているものを参照すること。定評があるものとしては、大塚裕史ほか『基本刑法Ⅰ総論〔第3版〕』（日本評論社、2019年）、亀井源太郎ほか『刑法Ⅰ総論〔第2版〕』（日本評論社、2024年）、内田幸隆＝杉本一敏『有斐閣ストウディア 刑法総論』（有斐閣、2019年）など。基本書をどれにするか悩んでいる人には、個別にアドバイスをするので、気軽に相談してほしい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表用に作成された報告レジュメに対しては、毎授業の際に、改善点や工夫できる点などについて講評を加える。		
8. 成績評価の方法 平常点 70%（授業への参加度）、発表内容 30%の合計点で評価する。		
9. その他 これまで司法試験に合格し、法科大学院の教員として法曹養成に携わってきました。その経験を活かし、法律家を目指す皆さんの力になれるよう全力を尽くします。熱意ある皆さんと共に学べることを楽しみにしています。 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW252J		
司法演習Ⅱ（刑法）・法曹コース用		菊地 一樹
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 せっかく蓄えた刑法の知識も、それを具体的な事例へと適用し、使いこなすことができれば宝の持ち腐れである。法科大学院の入試や予備試験・司法試験でも、具体的な事例をもとに、判例・学説に関する知識をうまく使いこなして、事例を丁寧に分析し、説得的な解決を提示する能力が問われている。そこで、本演習では、刑法の重要論点に関する具体的な事例を素材に、その妥当な解決のあり方について討論し、判例や学説における議論が、実際の事案の解決においてどのように活用されるのかを学ぶことで、皆さんがこれまで獲得してきた（あるいは現在進行形で獲得中の）知識を、実践的な「使える知識」へと磨き上げることを目標とする。 司法演習Ⅱでは、刑法「各論」の重要論点に関する事例を中心に扱う。具体的な進行方法としては、事前に配布する事例について、担当者に検討の結果を報告してもらい（履修者数にもよるが、複数人でのグループによる報告を予定している）、その後、教員や他の受講生からの質疑を通じて、当該事例に含まれる問題の所在（＝悩みどころ）を明らかにした上で、関連する学説や判例の知識を確認しながら、事案の適切な解決のあり方について、全員で議論を行う。なお、取り扱う事例は、刑法の重要な論点を複数含んだ、やや長めのものを用いるため、基本的には、1つの事例を2週かけて、さまざまな角度から徹底的に議論を行う予定である。 また、こうした事例の検討とは別に、学期中に1回、刑法に関する重要なトピックについて全員で議論を行う「テーマ討論」の機会を設けることも予定している。ここでは、受講生の関心や希望に応じて、最新の重要な判例や、あるいは、「性犯罪規定の改正の意義と残された問題」、「ネットにおける誹謗中傷と刑法」などの現代的課題を討論の対象に設定し、全員で自由に議論したい。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：事例検討（1）生命・身体に対する罪 第3回：全体での議論・解説 第4回：事例検討（2）自由に対する罪 第5回：全体での議論・解説 第6回：事例検討（3）名誉に対する罪 第7回：全体での議論・解説 第8回：テーマ討論 第9回：事例検討（4）窃盗罪、強盗罪 第10回：全体での議論・解説 第11回：事例検討（5）詐欺罪、恐喝罪 第12回：全体での議論・解説 第13回：事例検討（6）横領罪、背任罪 第14回：全体での議論・解説 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本演習は、受講生の一人一人が、刑法の知識を実際に何度も「使ってみる」ことを中心に進行するため、積極的・主体的な議論への参加が期待される。刑法の「悩ましさ」と「面白さ」を体感したい人の履修を広く歓迎したい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各事例の担当者は、報告にあたり、担当する事例を、基本書や関連判例を十分に読み込んで分析し、検討の結果をまとめたレジュメを作成することが求められる。文献や判例の調査の仕方については、必要に応じて助言・指導を行う。また、報告者以外の受講者も、あらかじめ事例に目を通し、何が争点になるのかを自分で考え、その争点に関する教科書の説明を読んでおくことが期待される。		
5. 教科書 教科書は用いずに、事例問題を作成し、配布する。		
6. 参考書 基本書・体系書については、各自が普段使用しているものを参照すること。最新の法改正に対応しており、かつ、定評があるものとしては、大塚裕史ほか『基本刑法Ⅱ各論〔第4版〕』（日本評論社、2024年）、亀井源太郎ほか『刑法Ⅱ各論〔第2版〕』（日本評論社、2024年）、松原芳博『刑法各論〔第3版〕』（日本評論社、2024年）など。基本書をどれにするか悩んでいる人には、個別にアドバイスをするので、気軽に相談してほしい。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表用に作成された報告レジュメに対しては、毎授業の際に、改善点や工夫できる点などについて講評を加える。		
8. 成績評価の方法 平常点 70%（授業への参加度）、発表内容 30%の合計点で評価する。		
9. その他 これまで司法試験に合格し、法科大学院の教員として法曹養成に携わってきました。その経験を活かし、法律家を目指す皆さんの力になれるよう全力を尽くします。熱意ある皆さんと共に学べることを楽しみにしています。 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅰ（商法）・法曹コース用		松井 英樹
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 企業組織法としての会社法の基本的な制度内容を確認するとともに、重要な判例を検討することを通じて、主要な論点についての体系的な理解を得ます。 春学期において、受講生は、法曹コース用科目である「会社法Ⅰ」（2 年次秋学期開講）を履修していないことに留意しながら、会社法の前半部分の内容を教科書で確認するとともに、重要判例の検討を行います。 会社法の前半部分として、まずは会社の定義、各種会社の特色を通して、中心的な企業組織である株式会社の特色を確認するとともに、会社法総論の重要な論点を確認します。次に、会社の設立手続を確認し、設立段階における法律関係について検討します。さらに、株式の本質、株式の内容と種類、株式譲渡等に関する会社法上の規律について学びます。そのうえで、春学期の終わりには、株式会社の機関設計および株主総会の招集・議事運営手続に関する規律を検討します。 また、会社法の重要判例の検討については、会社法判例百選に掲載されている判例の中からとくに重要性の高いものを選定して、あらかじめ決められた報告担当者の報告をもとに検討します。各受講生の報告に基づいて、双方向・多方向型の演習を行います。 【到達目標】 まずは、会社法の条文及び各制度の趣旨・目的及び内容に関する基礎的な知識を修得することを目標にします。その上で、判例の検討を通して、企業活動に関わる法的諸問題の解決において、多種多様な利害関係者間における公正で適切な利益調整についての価値判断および基本的な法解釈の能力を獲得することを最終的な到達目標とします。		
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション、報告者の割振り、会社の定義 第 2 回：各種の共同企業形態（民法上の組合・合名会社・合資会社・株式会社・合同会社・有限責任事業組合）とその特色 第 3 回：会社の権利能力の範囲、法人格否認の法理に関する判例の検討 第 4 回：株式会社の設立手続 第 5 回：株式会社の設立手続における発起人の権限に関する判例の検討 第 6 回：株式の意義、株主平等原則 第 7 回：株式の内容と種類 第 8 回：株式譲渡の効力、株主の地位に関する判例の検討 第 9 回：自己株式の取得・保有に関する判例の検討 第 10 回：株式の共有に関する判例の検討 第 11 回：株式出資単位に関する法規制 第 12 回：株式会社の機関設計に関する規律 第 13 回：株主総会の権限、招集手続に関する規律 第 14 回：株主総会の議事運営手続に関する規律、レポートの講評 * 授業内容は、必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本演習は、法曹コース所属学生（特に法科大学院又は予備試験、司法試験の受験を予定している学生）を対象としたものです。会社法の教科書を一通り読んでいることを前提に、演習中心で進めます。教科書および六法は必ず持参してください。 報告担当者は、判決の原文を精査したうえで報告内容を検討し、報告レジュメを作成してください。また、プレゼンテーションで想定される質問に備えて、十分な説明ができるように事前に準備することが求められます。 報告者以外の参加者も、事前に配信された報告レジュメを熟読し、報告テーマについて一定の理解を得ておくことが学修として要求されます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習（予習）の内容】 履修者は、授業で取り扱う範囲について、教科書の該当箇所を精読するとともに、取り扱われる判例につき、『会社法判例百選』の「事実と判旨」、「解説」をよく確認しておいてください。また、判例報告の担当者は、判例の原文を精読するとともに、報告時にそのコピーを持参して受講者からの質問に対応できるよう準備をしてください。 【復習の内容】 授業で取り扱った内容について、条文を確認し、教科書を読み返すとともに、関連する判例について、会社法判例百選の解説を熟読し、正確な理解に努めてください。		
5. 教科書 伊藤靖史=大杉謙一=田中亘=松井秀征『会社法〔第 5 版〕』（有斐閣、2021 年）。 神作裕之=藤田友敬=加藤貴仁編『会社法判例百選〔第 4 版〕』（有斐閣、2021 年）		
6. 参考書 特に定めません。クラス Web において、演習資料を配信します。		

7. 課題に対するフィードバックの方法

事例問題（司法試験予備試験の論文式問題（商法）から抜粋した問題）をレポート課題とし、提出されたレポートにつき添削した上で、返却するとともに、解説資料を配信します。

8. 成績評価の方法

【成績評価の方法】

レポート 30%、平常点 70%（判例報告の内容および授業への参加度等）

【成績評価の基準】

- （１）会社法の条文及び制度に関する基礎的な知識を修得しているか。
- （２）会社法の重要判例における法的論点を把握し、その規範内容を正確に理解しているか。
- （３）授業に積極的に参加し、判例報告を行うとともに、双方向的な議論への適切な対応をしているか。

9. その他

* 当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。

* 当科目の定員は「15 名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅱ（商法）・法曹コース用		松井 英樹
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 企業組織法としての会社法の基本的な制度内容を確認するとともに、重要な判例を検討することを通じて、主要な論点についての体系的な理解を得ます。 秋学期の司法演習Ⅱにおいては、会社法の後半部分の内容を教科書で確認しながら、重要判例の検討を行います。 会社法の後半部分として、まずは株主総会の諸手続を確認するとともに、総会決議の瑕疵に関する法律関係を検討します。次に、株式会社の業務執行、役員等の義務・責任をめぐる諸制度を確認します。続いて会社の計算、株式会社の資金調達方法としての募集株式の発行、社債の発行につき検討します。そのうえで、秋学期の終わりには、会社の組織再編・M&Aをめぐる会社法上の規律について検討します。 また、会社法の重要判例の検討については、会社法判例百選に掲載されている判例の中からとくに重要性の高いものを選定して、あらかじめ決められた報告担当者の報告をもとに検討します。各受講生の報告に基づいて、双方向・多方向型の演習を行います。 【到達目標】 会社法の条文及び各制度の趣旨・目的及び内容に関する基礎的な知識を修得するとともに、判例の検討を通して、企業活動に関わる法的諸問題の解決において、多種多様な利害関係者間における公正で適切な利益調整についての価値判断および基本的な法解釈の能力を獲得することを到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、報告者の割振り、株主総会の諸手続の確認 第2回：株主総会決議の瑕疵に関する会社法上の訴訟制度 第3回：株主総会決議の瑕疵に関する判例の検討 第4回：株式会社の業務執行体制 第5回：株式会社の業務執行に関する判例の検討 第6回：役員の権利・義務に関する会社法上の規律 第7回：役員の責任に関する会社法上の規律 第8回：株主代表訴訟に関する判例の検討 第9回：会社の計算に関する基本的な制度 第10回：募集株式の発行に関する会社法上の制度 第11回：違法な募集株式の発行に関する判例の検討 第12回：新株予約権・社債の発行に関する会社法上の規律 第13回：株式会社の企業買収・組織再編に関する規律 第14回：株式会社の組織再編に関する判例の検討 * 授業内容は、必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本演習は、法曹コース所属学生（特に法科大学院又は予備試験、司法試験の受験を予定している学生）を対象としたものです。会社法の教科書を一通り読んでいることを前提に、演習中心で進めます。教科書および六法は必ず持参してください。 報告担当者は、判決の原文を精査したうえで報告内容を検討し、報告レジュメを作成してください。また、プレゼンテーションで想定される質問に備えて、十分な説明ができるように事前に準備することが求められます。 報告者以外の参加者も、事前に配信された報告レジュメを熟読し、報告テーマについて一定の理解を得ておくことが学修として要求されます。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 履修者は、授業で取り扱う範囲について、教科書の該当箇所を精読するとともに、取り扱われる判例につき、『会社法判例百選』の「事実と判旨」、「解説」をよく確認しておいてください。 また、判例報告の担当者は、判例の原文を精読するとともに、報告時にそのコピーを持参して受講者からの質問に対応できるよう準備をしてください。 【復習すべき内容】 授業で取り扱った内容について、条文を確認し、教科書を読み返すとともに、関連する判例について、会社法判例百選の解説を熟読し、正確な理解に努めてください。		
5. 教科書 伊藤靖史=大杉謙一=田中亘=松井秀征『会社法〔第5版〕』（有斐閣、2021年）。 神作裕之=藤田友敬=加藤貴仁編『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2021年）		
6. 参考書 特に定めません。クラス Web において、演習資料を配布します。		

7. 課題に対するフィードバックの方法

事例問題（司法試験予備試験の論文式問題（商法）から抜粋した問題）をレポート課題とし、提出されたレポートにつき添削した上で、返却するとともに、解説資料を配信します。

8. 成績評価の方法

【成績評価の方法】

レポート 30%、平常点 70%（判例報告の内容および授業への参加度等）

【成績評価の基準】

- （１）会社法の条文及び制度に関する基礎的な知識を修得しているか。
- （２）会社法の重要判例における法的論点を把握し、その規範内容を正確に理解しているか。
- （３）授業に積極的に参加し、判例報告を行うとともに、双方向的な議論への適切な対応をしているか。

9. その他

* 当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。

* 当科目の定員は「15 名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅰ（民法）・法曹コース用		有賀 恵美子
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本演習では、法曹志望者を対象として、民法（財産法）の問題演習と答案作成練習を行う。春学期は、債権各論を除く分野に関わる問題を扱う予定である。 本演習では、原則として毎回指定した問題について答案を作成してきてもらう。問題は、旧司法試験、予備試験、法科大学院入試問題の過去問や、これらを基にしたオリジナル問題を使用する。演習問題で必要とされる基本的知識については各自で習得済みであることを前提として、問題の分析と何をどのように書くべきかについて皆で検討する。このようにアウトプットの訓練を重ねていくうちに、自分が知っていると思っていた知識について、実は十分に理解していなかったということに気付くと思う。 作成してもらった答案は、私が添削するほか、受講生同士でも講評しあってもらう。自分のことは棚に上げて、遠慮なく意見を交わしてほしい。自分の答案について他人の率直な意見を聞くこと、採点者の立場に立って他人の答案を読むことは、文章作成能力の向上に役立つと思う。 【到達目標】 以上のようなアウトプットの訓練を通じて基本的論点についての理解を深めること、そして、たとい未知の論点であったとしても条文さえあれば自分で思考して筋の通った論理を展開できるようになることが本演習の到達目標である。		
2. 授業内容 第1回：aのみ イン트로ダクション 第2回：勉強の進め方、答案作成についての注意点 第3回：問題演習、答案作成(1) 第4回：問題演習、答案作成(2) 第5回：問題演習、答案作成(3) 第6回：問題演習、答案作成(4) 第7回：問題演習、答案作成(5) 第8回：問題演習、答案作成(6) 第9回：問題演習、答案作成(7) 第10回：問題演習、答案作成(8) 第11回：問題演習、答案作成(9) 第12回：問題演習、答案作成(10) 第13回：問題演習、答案作成(11) 第14回：問題演習、答案作成(12) ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 履修者数にもよるが、原則として毎週答案を作成してきてもらい、必要な場合は書き直しもしてもらうので、それができる人だけ履修してほしい。他にもやるべきことはたくさんあるのだから、初めから完璧な答案を書こうと時間をかけるのではなく、1時間なら1時間と時間を決めて、できる範囲で書けばよい。途中答案でも構わないので、とにかく毎週書く習慣を身につけ、書き直しで理想的な答案を書くようにすればよい。この書き直しの過程でこそ力がつくと信じて頑張してほしい。 私の専門演習履修者は、この司法演習を履修してはいけない。内容的に重複する部分があるし、重複しない分についてこれと同じことがやりたいのなら、個別に対応する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1・2 年次の履修科目である民法総則、物権及び債権総論についての基本的知識は習得済みであることを前提としているので、そのつもりで準備しておいてほしい。		
5. 教科書 特に指定しないが、各自で使用している基本書を毎回必ず持参すること。		
6. 参考書 必要に応じて、適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 日頃の受講態度で評価する。無断欠席・遅刻は減点対象。答案については、きちんと取り組み、期日までに提出してもらえばよく、その出来栄えについては成績評価に反映させない。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15 名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅱ（民法）・法曹コース用		有賀 恵美子
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本演習では、法曹志望者を対象として、民法（財産法）の問題演習と答案作成練習を行う。秋学期は、財産法全般に関わる問題を扱う予定である。 本演習では、原則として毎回指定した問題について答案を作成してきてもらう。問題は、旧司法試験、予備試験、法科大学院入試問題の過去問や、これらを基にしたオリジナル問題を使用する。演習問題で必要とされる基本的知識については各自で習得済みであることを前提として、問題の分析と何をどのように書くべきかについて皆で検討する。このようにアウトプットの訓練を重ねていくうちに、自分が知っていると思っていた知識について、実は十分に理解していなかったということに気付くと思う。 作成してもらった答案は、私が添削するほか、受講生同士でも講評しあってもらう。自分のことは棚に上げて、遠慮なく意見を交わしてほしい。自分の答案について他人の率直な意見を聞くこと、採点者の立場に立って他人の答案を読むことは、文章作成能力の向上に役立つと思う。		
【到達目標】 以上のようなアウトプットの訓練を通じて基本的論点についての理解を深めること、そして、たとい未知の論点であったとしても条文さえあれば自分で思考して筋の通った論理を展開できるようになることが本演習の到達目標である。		
2. 授業内容 第1回：aのみ イン트로ダクション 第2回：問題演習、答案作成(1) 第3回：問題演習、答案作成(2) 第4回：問題演習、答案作成(3) 第5回：問題演習、答案作成(4) 第6回：問題演習、答案作成(5) 第7回：問題演習、答案作成(6) 第8回：問題演習、答案作成(7) 第9回：問題演習、答案作成(8) 第10回：問題演習、答案作成(9) 第11回：問題演習、答案作成(10) 第12回：問題演習、答案作成(11) 第13回：問題演習、答案作成(12) 第14回：問題演習、答案作成(13) ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 ◆履修者数にもよるが、原則として毎週答案を作成してきてもらい、必要な場合は書き直ししてもらうので、それができる人だけ履修してほしい。他にもやるべきことはたくさんあるのだから、初めから完璧な答案を書こうと時間をかけるのではなく、1時間なら1時間と時間を決めて、できる範囲で書けばよい。途中答案でも構わないので、とにかく毎週書く習慣を身につけ、書き直しで理想的な答案を書くようにすればよい。この書き直しの過程でこそ力がつくと信じて頑張してほしい。 ◆私の専門演習履修者は、この司法演習を履修してはいけない。内容的に重複する部分があるし、重複しない分についてこれと同じことがやりたいのなら、個別に対応する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1・2 年次の履修科目である民法総則、物権及び債権総論についての基本的知識は習得済みであることを前提としているので、そのつもりで準備しておいてほしい。契約と不法行為についても並行して勉強を進めてほしい。		
5. 教科書 特に指定しないが、各自で使用している基本書を毎回必ず持参すること。		
6. 参考書 必要に応じて、適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 日頃の受講態度で評価する。無断欠席・遅刻は減点対象。答案については、きちんと取り組み、期日までに提出してもらえばよく、その出来栄については成績評価に反映させない。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15 名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW252J		
司法演習Ⅰ（刑法）・法曹コース用		手塚 明
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 本演習は、法科大学院への進学を目指す学生に具体的な事例問題（予備試験問題等を題材とする）を検討、討議及び論述させることにより、刑法の基礎知識や理論をどの程度理解し修得できているかを再認識させるとともに、問題発見能力、問題解決能力及び論述能力の涵養と向上を図ることを目的とする。 3回の授業を1セットとして、1つの事例問題につき、1回目の授業において、各自検討や学生同士の討議を行い、2回目の授業において、具体的に論述させ（レポート（答案）作成）、3回目の授業において、レポート（答案）に基づいて学生同士の討議を行った上、教員が解説・講評を行う。担当教員が実務家教員であるので、判例を中心とした解説・講評となる。 なお、司法演習ⅠとⅡとは、扱う事例問題が異なる。		
2. 授業内容 第1回～第3回：事例問題検討（窃盗罪、傷害罪、同時傷害の特例等） 第4回～第6回：事例問題検討（監禁罪、窃盗罪、遅すぎた構成要件の実現等） 第7回～第9回：事例問題検討（窃盗罪、事後強盗罪、間接正犯、共同正犯等） 第10回～第12回：事例問題検討（窃盗罪、放火罪、殺人罪、共同正犯等） 第13回・第14回：事例問題検討（私文書偽造罪、詐欺罪、誤想防衛、過剰防衛等） ＊授業内容は変更することがある。		
3. 履修上の注意 本演習は、刑法総論と刑法各論を一通り学習していることを前提として行われる。刑法が得意である必要はないが、学習意欲を強く持ってほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事例問題を検討した1回目の授業において、自らの理解に不十分な点があることに気付き、その点を十分に学習し、2回目の授業におけるレポート（答案）作成、3回目の授業における討論等に活かすことが必要である。		
5. 教科書 ・大塚裕史他著『基本刑法Ⅰ 総論〔第3版〕』（日本評論社、2019年）、同『基本刑法Ⅱ 各論〔第4版〕』（日本評論社、2024年） ・佐伯仁志他編『刑法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第8版〕』（有斐閣、2020年）		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポート（答案）については、授業内でコメントする。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、毎回の授業における討議への参加態度を30%、レポート（答案）の内容を70%として評価する。期末試験は行わない。		
9. その他 本演習に、主体的、積極的に参加する意欲のある学生の履修を希望する。 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW252J		
司法演習Ⅱ（刑法）・法曹コース用		手塚 明
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 本演習は、法科大学院への進学を目指す学生に具体的な事例問題（予備試験問題等を題材とする）を検討、討議及び論述させることにより、刑法の基礎知識や理論をどの程度理解し修得できているかを再認識させるとともに、問題発見能力、問題解決能力及び論述能力の涵養と向上を図ることを目的とする。 3回の授業を1セットとして、1つの事例問題につき、1回目の授業において、各自検討や学生同士の討議を行い、2回目の授業において、具体的に論述させ（レポート（答案）作成）、3回目の授業において、レポート（答案）に基づいて学生同士の討議を行った上、教員が解説・講評を行う。担当教員が実務家教員であるので、判例を中心とした解説・講評となる。 なお、司法演習ⅠとⅡとは、扱う事例問題が異なる。		
2. 授業内容 第1回～第3回：事例問題検討（横領罪、背任罪、私文書偽造罪等） 第4回～第6回：事例問題検討（横領罪、強盗罪、共同正犯等） 第7回～第9回：事例問題検討（殺人罪、業務上過失致死罪、証拠隠滅罪等） 第10回～第12回：事例問題検討（放火罪、抽象的事実の錯誤、中止犯等） 第13回・第14回：事例問題検討（贈収賄罪、業務上横領罪、共犯と身分等） ＊授業内容は変更することがある。		
3. 履修上の注意 本演習は、刑法総論と刑法各論を一通り学習していることを前提として行われる。刑法が得意である必要はないが、学習意欲を強く持ってほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事例問題を検討した1回目の授業において、自らの理解に不十分な点があることに気付き、その点を十分に学習し、2回目の授業におけるレポート（答案）作成、3回目の授業における討論等に活かすことが必要である。		
5. 教科書 ・大塚裕史他著『基本刑法Ⅰ 総論〔第3版〕』（日本評論社、2019年）、同『基本刑法Ⅱ 各論〔第4版〕』（日本評論社、2024年） ・佐伯仁志他編『刑法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第8版〕』（有斐閣、2020年）		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポート（答案）については、授業内でコメントする。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、毎回の授業における討議への参加態度を30%、レポート（答案）の内容を70%として評価する。期末試験は行わない。		
9. その他 本演習に、主体的、積極的に参加する意欲のある学生の履修を希望する。 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅰ（商法）・法曹コース用		受川 環大
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本演習は、会社法の体系（教科書）の前半部分について、基礎的事項を確認しつつ、判例の検討を行います。 会社法の重要判例を選定して、順次、各受講生に報告を割り当てます。各受講生には、担当判例について、報告レジュメを作成し、事実と判旨を報告してもらいます。各受講生の報告に基づいて、双方向・多方向型の演習を行います。 【到達目標】 （１）会社法の規定及び制度に関する基礎的な知識を修得する。 （２）会社法の判例の読み方を修得する。		
2. 授業内容 第１回：イントロダクション、判例の読み方、判例研究の報告の仕方 第２回：会社法総論 第３回：株式会社の設立 第４回：株式(1) 第５回：株式(2) 第６回：株式(3) 第７回：株式(4) 第８回：株式(5) 第９回：株主総会(1) 第１０回：株主総会(2) 第１１回：株主総会(3) 第１２回：株主総会(4) 第１３回：株主総会(5) 第１４回：レポート講評 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。 ＊毎回の授業において、『会社法判例百選〔第４版〕』から２つずつ判例を選定し、２名の報告者に判例研究の報告をしてもらいます。		
3. 履修上の注意 教科書、六法は必ず持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 報告者は判例の原文をコピーして読んでおいてください。 すべての履修者は、教科書の該当箇所、選定した判例について『会社法判例百選(第４版)』の「事実と判旨」、「解説」をよく読んでおいてください。 【復習すべき内容】 授業中に扱った内容について、正確に理解し、説明できるようにしてください。		
5. 教科書 伊藤靖史=大杉謙一=田中亘=松井秀征『会社法〔第５版〕』（有斐閣、2021年）。 ⇒2025年３月に〔第６版〕が出版される予定です。できれば〔第６版〕を用意してください。 神作裕之=藤田友敬=加藤貴仁編『会社法判例百選〔第４版〕』（有斐閣、2021年）		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 司法試験論文式問題（商法）から抜粋した問題をレポート課題とします。 レポートは添削の上、返却します。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 レポート３０％、平常点７０％（判例研究の報告の内容および授業への参加度等） 【成績評価の基準】 （１）会社法の規定及び制度についての基礎的な知識を修得しているか。 （２）割り当てられた判例について、十分に準備して報告しているか。 （３）授業に積極的に参加し、質問について適切な解答をすることができるか		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅱ（商法）・法曹コース用		受川 環大
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本演習は、春学期の「司法演習Ⅰ」に引き続き、会社法の後半部分について判例の検討を行うとともに、会社法の事例問題について起案します。 (1) 会社法の体系（教科書）の後半部分について、基礎的事項を確認しつつ、判例の検討を行います。 会社法の重要判例を選定して、適宜、各受講生に報告を割り当てます。各受講生には、担当判例について、報告レジュメを作成し、事実と判旨を報告してもらいます。各受講生の報告に基づいて、双方向・多方向型の演習を行います。 (2) 会社法の事例問題を出題し、授業内で起案した後、解説講義を行います。 【到達目標】 (1) 会社法の規定及び制度に関する基礎的な知識を修得する。 (2) 会社法の判例の読み方を修得する。 (3) 会社法の事例解析能力および論述能力を修得する。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：取締役・取締役会(1) 第3回：取締役・取締役会(2) 第4回：取締役・取締役会(3) 第5回：取締役・取締役会(4) 第6回：取締役・取締役会(5) 第7回：取締役・取締役会(6) 第8回：企業買収・支配権の争奪(1) 第9回：企業買収・支配権の争奪(2) 第10回：組織再編 第11回：事例問題の検討(1) 第12回：事例問題の検討(2) 第13回：事例問題の検討(3) 第14回：レポートの講評 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 教科書、六法は必ず持参してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習】 報告者は判例の原文をコピーして読んでおいてください。 すべての履修者は、教科書の該当箇所、選定した判例について『会社法判例百選（第4版）』の〔事実と判旨〕、〔解説〕をよく読んでおいてください。 【復習すべき内容】 授業中に扱った内容について、正確に理解し、説明できるようにしてください。		
5. 教科書 伊藤靖史=大杉謙一=田中亘=松井秀征『会社法〔第5版〕』（有斐閣、2021年）。 ⇒2025年3月に〔第6版〕が出版される予定です。できれば〔第6版〕を用意してください。 神作裕之=藤田友敬=加藤貴仁編『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2021年）		
6. 参考書 特に定めません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 司法試験論文式問題（商法）から抜粋した問題をレポート課題とします。 レポートは添削の上、返却します。		
8. 成績評価の方法 【成績評価の方法】 レポート30％、平常点70％（判例研究の報告の内容および授業への参加度等） 【成績評価の基準】 (1) 会社法の規定及び制度についての基礎的な知識を修得しているか。 (2) 割り当てられた判例について、十分に準備して報告しているか。 (3) 授業に積極的に参加し、質問について適切な解答をすることができるか。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW222J		
司法演習Ⅰ（行政法）・法曹コース用		岩崎 政明
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 行政法総論及び行政救済法の基礎知識を有する者を対象として、行政法的事例問題に対する問題分析・解答能力の強化と深化をはかるよう、具体的な事例問題の分析・検討をととして、実定行政法の解釈と適用能力を涵養し、論述を展開することができるようにすることを到達目標とする。 授業の進め方としては、各回で取り上げる事例問題に関する行政法総論・行政救済法の重要論点について、受講者が各自解答案を作成し、受講者相互の討議・質疑応答等の方法により、理解を深めつつ、上記の到達目標まで能力を高めるように指導する。 事例問題を必ず予習し、自分なりの解答案を作成した上で受講すること。これは必須です。		
2. 授業内容 受講者が事例問題をあらかじめ検討し、これを前提として、相互討論方式で進行する。 第1回 『事例研究』第1部問題1：予備校設置認可をめぐる紛争及び問題2：特商法の業務停止処分をめぐる紛争 第2回 『事例研究』第1部問題3：地方公務員の懲戒処分をめぐる紛争及び問題4：ラブホテル建築規制条例をめぐる紛争 第3回 『事例研究』第1部問題5：住民票の記載をめぐる紛争及び問題6：開発許可をめぐる紛争 第4回 『事例研究』第1部問題7：砂利採取計画の認可をめぐる紛争及び問題8：食品の回収命令をめぐる紛争 第5回 『事例研究』第1部問題9：太陽光発電脂質の設置をめぐる紛争及び問題10：廃棄物処理施設の規制をめぐる紛争 第6回 『事例研究』第1部問題11：飲食店における食中毒をめぐる紛争及び問題12：学校での事故・生徒間トラブルをめぐる紛争 第7回 『事例研究』第1部問題13：指定ゴミ袋の規格変更をめぐる紛争及び第2部問題1：土地買収価格をめぐる紛争 第8回 『事例研究』第2部問題2：耐震偽装マンションをめぐる紛争及び問題3：公共施設管理者の不同意をめぐる紛争 第9回 『事例研究』第2部問題4：道路位置指定の廃止をめぐる紛争及び問題5：条例によるパチンコ店の規制をめぐる紛争 第10回 『事例研究』第2部問題6：フェリー運航の事業停止命令をめぐる紛争及び問題7：タクシー運賃変更命令をめぐる紛争 第11回 『事例研究』第2部問題8：不当表示をめぐる紛争及び問題9：と畜場の使用をめぐる紛争 第12回 『事例研究』第2部問題10：生活保護をめぐる紛争及び問題11：林道使用の不許可をめぐる紛争 第13回 『事例研究』第2部問題12：河川占用許可をめぐる紛争及び問題13：廃棄物収集有料化をめぐる紛争 第14回 『事例研究』第2部問題14：温泉掘削許可をめぐる紛争及び問題15：保安林指定解除をめぐる紛争 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 受講者各自が基本書として使用している、行政法総論及び行政救済法の教科書及び『行政判例百選〔第8版〕Ⅰ・Ⅱ』を読んでおくこと。 なお、演習科目なので、履修者数に上限を設ける。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者各自が基本書として使用している、行政法総論及び行政救済法の教科書及び『行政判例百選〔第8版〕Ⅰ・Ⅱ』を読んでおくこと。 行政法総論及び行政救済法の基礎知識、実定行政法規の解釈・適用、そして三段論法による法律文書の作成の仕方を何回も反覆すること。		
5. 教科書 曾和俊文ほか編著『事例研究行政法〔第4版〕』（日本評論社・2021年）を購入し、必ず授業の際に持参すること。		
6. 参考書 各自の基本書とする行政法総論及び行政救済法の教科書。『行政判例百選〔第8版〕Ⅰ・Ⅱ』。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業で取り上げる事例問題については、教科書の説明に加えて、解説を行う。		
8. 成績評価の方法 自宅において作成する期末レポートにより100%の割合で評価する。欠席が5回以上の場合には、単位認定対象としない。		
9. その他 * 当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 * 当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW222J		
司法演習Ⅱ（行政法）・法曹コース用		橋本 博之
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 司法演習Ⅱ（行政法）は、法科大学院の進学や、各種の国家試験の準備を考えている学生の方向けに、判例を中心とした演習形式の授業を行います。 本授業では、行政判例ノート（第5版）を使い、学生が事前に十分な予習をしていることを前提に、教員と学生の「対話」により、実定法解釈の理解を深めるソクラテスマソッドを用いることとします。また、事例問題に関する論述表現能力を高めるため、中間試験および授業内試験とその検討会を実施します。 到達目標 本授業は、既存の知識・ルールの射程と限界を正確に理解した上で、新たな答えを探す、批判的・創造的な法的思考力の養成を目指します。		
2. 授業内容 第1回 導入：授業の進め方、予習の仕方、課題の分担等 第2回 取消訴訟の対象・その1 第3回 取消訴訟の対象・その2 第4回 取消訴訟の原告適格・その1 第5回 取消訴訟の原告適格・その2 第6回 訴えの利益 第7回 中間試験 第8回 その他の抗告訴訟 第9回 当事者訴訟 第10回 仮の救済 第11回 国家賠償・その1 第12回 国家賠償・その2 第13回 授業内試験（事例問題） 第14回 授業内試験の検討 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 教科書である『行政判例ノート〔第5版〕』（弘文堂・2023）が手許にあることを前提に授業が進められるので、教科書は必ず準備してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業用の資料を配付します。事前に、授業範囲内の判例について、十分に目を通しておいください。また、各自が使っている基本書・テキストについても、予習することを推奨します。		
5. 教科書 『行政判例ノート〔第5版〕』（弘文堂・2023）		
6. 参考書 櫻井敬子・橋本博之『行政法〔第7版〕』（弘文堂）、村上裕章『スタンダード行政法〔第2版〕』（有斐閣）、宇賀克也『行政法〔第3版〕』（有斐閣）など、行政法の標準的テキストのうち、自分の好みにあったもののいずれかを参考書として使うことを推奨します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内試験については、解説を含めた検討会を実施します。		
8. 成績評価の方法 (1) 授業参加度・中間テストを含む（40%）、(2) 授業内試験（60%）で評価します。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅰ（民事訴訟法）・法曹コース用		柳川 鋭士
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本演習は、法曹を志望する学生を主要な対象とし、民事訴訟法の基本概念（処分権主義、弁論主義、証明責任等）に関する演習（答案構成、答案作成、口頭発表）を行います。本演習では、演習書の演習問題について、各自準備のうえ、全ての受講生参加型のソクラテスメソッド方式でディスカッションを行いながら授業を進めます。 【授業の到達目標】 原理・原則を踏まえた的確な分析を行い、当該問題を解決することができる能力（単に論点を抽出するだけでなく、その問題に対する解決方法を提案し、それを説得的かつ的確に表現する能力）を修得することを目標とします。		
2. 授業内容 第1回：間接事実と主張原則（弁論主義第1原則） 第2回：要件事実論からみた弁論主義（1） 第3回：要件事実論からみた弁論主義（2） 第4回：権利自白・間接事実の自白 第5回：証明責任の分配 第6回：事案解明義務 第7回：文書提出義務 第8回：文書成立の推定 第9回：将来給付の訴え 第10回：確認の利益 第11回：当事者適格 第12回：当事者の確定 第13回：当事者能力と当事者適格との関係（権利能力のない社团） 第14回：申立事項と処分権主義 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本演習は、法曹コース所属学生（特に法科大学院又は予備試験、司法試験の受験を予定している学生）を対象としたものです。民事訴訟法を一通り学んでいることを前提に、演習中心で進めます。そのため、基本的な概念の説明は最低限しか行いませんので、必ず民事訴訟法を履修し勉強するか、又は各自で教科書等をしっかり読みこんでください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 法曹志望者を中心とする演習内容とし、演習を繰り返すことによって、実力の向上を図ります。指定演習書の該当回の問題を各自で事前に必ず検討し、しっかり準備してください。毎回、答案を提出をすることが前提となります。		
5. 教科書 【演習書】 越山和広『ロジカル演習 民事訴訟法』（弘文堂、2019） 高田裕成ほか『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第6版、2023年）		
6. 参考書 納谷廣美『演習民事訴訟法』（創成社、2005年） 高橋宏志『民事訴訟法概論』（有斐閣、2016） 高橋宏志『重点講義 民事訴訟法（上）』（有斐閣、第2版補訂版、2013年） 高橋宏志『重点講義 民事訴訟法（下）』（有斐閣、第2版補訂版、2014年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期限内に提出された答案（主に受講生の参考となる答案を中心とする）について、授業内にてコメントし、期限内提出答案につき Oh-o! Meiji を通じてコメントしフィードバックします。なお、一定のレベルに到達していない答案が多数の場合で、個別コメントの意味がないときには、当該レベルに応じた学生に向けて、まとめてフィードバックコメントをすることもあります。		
8. 成績評価の方法 平常点50%（演習回数の3分の2以上の出席者のみを評価対象とし、答案提出状況、演習における態度や発言等によって評価します。）、演習問題の解答内容50%によって評価します。なお、成績評価は上記に従って厳格に行います。		
9. その他 多くの問題を解き文章を作成し、ディスカッションをすることによって実力が向上します。失敗をおそれず議論に参加して下さい。 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅱ（民事訴訟法）・法曹コース用		柳川 鋭士
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本演習は、法曹を志望する学生を主要な対象とし、民事訴訟法の基本概念（処分権主義、弁論主義、証明責任等）に関する演習（答案構成、答案作成、口頭発表）を行います。本演習では、演習書の演習問題について、各自準備のうえ、全ての受講生参加型のソクラテスメソッド方式でディスカッションを行いながら授業を進めます。 【授業の到達目標】 原理・原則を踏まえた的確な分析を行い、当該問題を解決することができる能力（単に論点を抽出するだけでなく、その問題に対する解決方法を提案し、それを説得的かつ的確に表現する能力）を修得することを目標とします。		
2. 授業内容 第1回：既判力の客体と作用（1） 第2回：既判力の客体と作用（2） 第3回：一部請求後の残額請求 第4回：口頭弁論終結後の承継人 第5回：確定判決の反射的効力 第6回：相殺の抗弁と二重起訴の禁止 第7回：通常共同訴訟（共同訴訟人独立の原則） 第8回：固有必要的共同訴訟の成立要件（1） 第9回：固有必要的共同訴訟の成立要件（2） 第10回：補助参加 第11回：訴訟告知 第12回：独立当事者参加 第13回：訴訟承継 第14回：上訴総合 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本演習は、法曹コース所属学生（特に法科大学院又は予備試験、司法試験の受験を予定している学生）を対象としたものです。民事訴訟法を一通り学んでいることを前提に、演習中心で進めます。そのため、基本的な概念の説明は最低限しか行いませんので、必ず民事訴訟法を履修し勉強するか、又は各自で教科書等をしっかり読みこんでください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 法曹志望者を中心とする演習内容とし、演習を繰り返すことによって、実力の向上を図ります。指定演習書の該当回の問題を各自で事前に必ず検討し、しっかり準備してください。毎回、答案を提出をすることが前提となります。		
5. 教科書 【演習書】 越山和広『ロジカル演習 民事訴訟法』（弘文堂、2019） 高田裕成ほか『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第6版、2023年）		
6. 参考書 納谷廣美『演習民事訴訟法』（創成社、2005年） 高橋宏志『民事訴訟法概論』（有斐閣、2016） 高橋宏志『重点講義 民事訴訟法（上）』（有斐閣、第2版補訂版、2013年） 高橋宏志『重点講義 民事訴訟法（下）』（有斐閣、第2版補訂版、2014年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 期限内に提出された答案（主に受講生の参考となる答案を中心とする）について、授業内にてコメントし、期限内提出答案につき Oh-o! Meiji を通じてコメントしフィードバックします。なお、一定のレベルに到達していない答案が多数の場合で、個別コメントの意味がないときには、当該レベルに応じた学生に向けて、まとめてフィードバックコメントをすることもあります。		
8. 成績評価の方法 平常点50%（演習回数の3分の2以上の出席者のみを評価対象とし、答案提出状況、演習における態度や発言等によって評価します。）、演習問題の解答内容50%によって評価します。なお、成績評価は上記に従って厳格に行います。		
9. その他 多くの問題を解き文章を作成し、ディスカッションをすることによって実力が向上します。失敗をおそれず議論に参加して下さい。 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW252J		
司法演習Ⅰ（刑事訴訟法）・法曹コース用		清水 真
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 法科大学院に既修者として進学し、本格的な刑事訴訟法学修をするに十分な学力を習得するため、春学期の14回で刑事訴訟法の主要分野を網羅し、長文事例問題に対する解法を学ぶ。初回から本格的な内容となるので、0h!Meijiにおいて事前配信される教材を読んで出席すること。尚、令和4年度・5年度・6年度は、受講生の中から希望者を毎回1名募って検討答案を書いて貰い、これを基に全員で検討した。		
2. 授業内容 第1回：行政警察活動と捜査における任意と強制 第2回：逮捕・勾留 第3回：別件逮捕勾留と余罪取調 第4回：令状による搜索・差押 第5回：無令状の搜索・差押 第6回：接見指定 第7回：訴因の特定・明示 第8回：訴因変更の要否 第9回：訴因変更の可否と許否 第10回：類似証拠による立証 第11回：自白法則 第12回：排除法則 第13回：伝聞証拠と非伝聞証拠 第14回：伝聞法則の例外 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 科目の性質上、十分な予習を怠りないように。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、事前に配信される教材を読んだ上で、提示された事例問題について各自、一応の解答メモを作成し、出席すること。		
5. 教科書 教科書は指定しないが、毎回、予習用教材を配信する。		
6. 参考書 川出敏裕著『判例講座刑事訴訟法[捜査・証拠篇]・第2版』（立花書房） 川出敏裕著『判例講座刑事訴訟法[公訴提起・公判・裁判・上訴篇]・第2版』（立花書房） 後藤昭著『伝聞法則に強くなる・第2版』（日本評論社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 解説を毎回配布する。各提出物の問題点等を個別に指摘する。		
8. 成績評価の方法 演習への積極的参加姿勢の度合に応じて評価する。		
9. その他 他大学法学部において長年、在学中に司法試験の予備試験・本試験に合格し、あるいは難関校の法科大学院進学する者を多数、指導して来た経験を踏まえ、法律家となろうとする受講生の希望を叶えるために全力を尽くしたい。 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW252J		
司法演習Ⅱ（刑事訴訟法）・法曹コース用		清水 真
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 法科大学院に既修者として進学し、本格的な刑事訴訟法学修をするに十分な学力を習得するため、秋学期の14回で刑事訴訟法の主要分野を網羅し、法律専門家を目指すに不可欠の長文事例問題に対する解法を学ぶ。初回から本格的な内容となるので、Oh!Meijiにおいて事前配信される教材を読んで出席すること。尚、令和4年度・5年度・6年度は、受講生の中から希望者を毎回1名募って検討答案を書いて貰い、これを基に全員で検討した。		
2. 授業内容 第1回：行政警察活動と捜査における任意と強制 第2回：再逮捕・再勾留 第3回：別件逮捕勾留と余罪取調 第4回：令状による搜索・差押 第5回：無令状の搜索・差押 第6回：接見指定(含・余罪と接見指定) 第7回：訴因の特定・明示 第8回：訴因変更の要否 第9回：択一的認定 第10回：前科立証・類似証拠による立証 第11回：自白法則(含・反復自白) 第12回：排除法則と毒樹果実法理 第13回：伝聞証拠と非伝聞証拠 第14回：伝聞法則の例外(含・再伝聞供述) ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 科目の性質上、十分な予習を怠りないように。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、事前に配信される教材を読んだ上で、提示された事例問題について各自、一応の解答メモを作成し、出席すること。		
5. 教科書 教科書は指定しないが、毎回、受講生の要望を聞いた上で予習用教材を配信する。		
6. 参考書 川出敏裕著『判例講座刑事訴訟法[捜査・証拠篇]・第2版』（立花書房） 川出敏裕著『判例講座刑事訴訟法[公訴提起・公判・裁判・上訴篇]・第2版』（立花書房） 後藤昭著『伝聞法則に強くなる・第2版』（日本評論社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 解説を毎回配布する。各提出物の問題点等を個別に指摘する。		
8. 成績評価の方法 演習への積極的参加姿勢の度合に応じて評価する。		
9. その他 他大学法学部において長年、在学中に司法試験の予備試験・本試験に合格し、あるいは難関校の法科大学院進学する者を多数、指導して来た経験を踏まえ、法律家となろうとする受講生の希望を叶えるために全力を尽くしたい。 ＊当科目は法曹コース選択者のみが履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW222J		
司法演習Ⅰ（公務員・資格対策）		斎藤 一久
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 公務員試験（とりわけ国家公務員総合職試験、裁判所職員総合職試験、外務省専門職員試験）や司法試験の予備試験などに必要とされる憲法を基本論点を学ぶ。 参加者に憲法判例について報告してもらうとともに、答案練習（起案）も行う。 【到達目標】 （１）憲法に関する基本的な争点について理解している。 （２）憲法の基本的な争点について答案が作成できる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：人権享有主体性 第3回：幸福追求権 第4回：平等権 第5回：答案練習 第6回：精神的自由権（１） 第7回：精神的自由権（２） 第8回：経済的自由権（１） 第9回：経済的自由権（２） 第10回：答案練習 第11回：社会権 第12回：その他の人権 第13回：統治 第14回：答案練習 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を持参すること。 司法試験などの CBT 化（パソコン受験）に伴い、答案練習については、手書きではなく、パソコンで実施することも検討している。場合によっては、ノートパソコンの持参が必要となる。いずれにせよ、第1回目の授業の際に改めて受講生と相談することとする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習の内容】 教科書、参考書等の該当箇所を予習しておくこと。 【復習すべき内容】 授業で指示するほか、関連する判例がある場合には、データベースなどで検索し、読んでおくこと。		
5. 教科書 『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第7版〕』長谷部恭男ほか編（有斐閣）		
6. 参考書 『図録日本国憲法〔第2版〕』斎藤一久ほか編（弘文堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 答案練習60%、報告30%、平常点（授業での積極的な発言など）10%		
9. その他 主として公務員志望者のための科目であるが、予備試験受験予定者も歓迎する。 あくまで論述対策であり、択一式（主として地方公務員試験、行政書士試験など）については対策を予定していない。 * 当科目は法曹コース選択者以外が履修できる。 * 当科目の定員は「15 名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW222J		
司法演習Ⅱ（公務員・資格対策）		斎藤 一久
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 公務員試験（とりわけ国家公務員総合職試験、裁判所職員総合職試験、外務省専門職員試験）や司法試験の予備試験などに必要とされる憲法を応用的論点を学ぶ。 参加者に憲法判例について報告してもらうとともに、答案練習（起案）も行う。 【到達目標】 （１）憲法に関する応用的な争点について理解している。 （２）憲法の応用的な争点について答案が作成できる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：人権享有主体性 第3回：幸福追求権 第4回：平等権 第5回：答案練習 第6回：精神的自由権（１） 第7回：精神的自由権（２） 第8回：経済的自由権 第9回：社会権、その他の人権 第10回：答案練習 第11回：統治（１） 第12回：統治（２） 第13回：統治（３） 第14回：答案練習 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 六法を持参すること。 司法試験などの CBT 化（パソコン受験）に伴い、答案練習については、手書きではなく、パソコンで実施することも検討している。場合によっては、ノートパソコンの持参が必要となる。いずれにせよ、第1回目の授業の際に改めて受講生と相談することとする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習の内容】 教科書、参考書等の該当箇所を予習しておくこと。 【復習すべき内容】 授業で指示するほか、関連する判例がある場合には、データベースなどで検索し、読んでおくこと。		
5. 教科書 『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第7版〕』長谷部恭男ほか編（有斐閣）		
6. 参考書 『図録日本国憲法〔第2版〕』斎藤一久ほか編（弘文堂）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。		
8. 成績評価の方法 答案練習60%、報告30%、平常点（授業での積極的な発言など）10%		
9. その他 公務員志望者のための科目であるが、予備試験受験予定者も歓迎する。 あくまで論述対策であり、択一式（主として地方公務員試験、行政書士試験など）については対策を予定していない。 * 当科目は法曹コース選択者以外が履修できる。 * 当科目の定員は「15 名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅰ（民法〔財産法〕）		蓮田 哲也
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本演習では、自ら調べ、報告し、聞き、答えることを通じて、これまで修得してきた法的知識を確認しその理解を深めるとともに、新たな法的知識を修得することを目的とする。 教員から履修学生に対して一方的に講義を行うことはなく、履修学生による活動によって本演習が行われる。 【到達目標】 ① 民法（財産法）領域と呼ばれる、民法総則、物権、担保物権、債権総論、債権各論の5つの領域の内、民法総則と物権の典型的論点について理解することができる ② 指定された法制度について、自ら調べ、報告することができる ③ 他人の報告を聞き、その内容を精査することができる		
2. 授業内容 第1回：ガイダンスと教員による手本 第2回～第14回：民法総則または物権の典型的論点についての報告、問題演習及び解説 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本演習は、教員が指定する特定の論点について、学生が調べ報告することによって進められていく。 イメージとしては、特定の論点に限定して履修学生が講義を行うというものである。 特定の論点について履修学生が調べ、報告するという作業は非常に多くの労力を伴うものである。 しかし、最も身につく学習法とは、他人に教えることであるといえよう。 最後までやりきり、しっかりと学びたいと考える学生に履修してもらいたい。 なお、報告については、履修者数に応じて各回「1人」とするか、「複数人グループ」とするか決めることとする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習】 教員によって指定された論点について、自ら調べ、資料を作成し、報告に向けて準備を行う。 なお、報告が予定されていない履修学生も当該論点について事前調査することが必要である。 【復習】 報告のあった論点について、改めて整理する。 実施された問題演習について、改めて取り組み、その解説ができるようにする。		
5. 教科書 教科書は指定しない。		
6. 参考書 初回時に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 報告に対しては、報告後にコメントを付すことでフィードバックを行う。 問題演習に対しては、その解説を通じてフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 日頃の受講態度及び毎回の問題演習の成果によって評価する。 履修学生による活動によって行われる演習であるので、無断欠席・遅刻によって成績評価を減じる。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者以外が履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW262J		
司法演習Ⅱ（民法〔財産法〕）		蓮田 哲也
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本演習では、自ら調べ、報告し、聞き、答えることを通じて、これまで修得してきた法的知識を確認しその理解を深めるとともに、新たな法的知識を修得することを目的とする。 教員から履修学生に対して一方的に講義を行うことはなく、履修学生による活動によって本演習が行われる。 【到達目標】 ① 民法（財産法）領域と呼ばれる、民法総則、物権、担保物権、債権総論、債権各論の5つの領域の内、担保物権、債権総論と債権各論の典型的論点について理解することができる ② 指定された法制度について、自ら調べ、報告することができる ③ 他人の報告を聞き、その内容を精査することができる		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 第2回～第14回：担保物権、債権総論及び債権各論の典型的論点についての報告、問題演習及び解説 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本演習は、教員が指定する特定の論点について、学生が調べ報告することによって進められていく。 イメージとしては、特定の論点に限定して履修学生が講義を行うというものである。 特定の論点について履修学生が調べ、報告するという作業は非常に多くの労力を伴うものである。 しかし、最も身につく学習法とは、他人に教えることであるといえよう。 最後までやりきり、しっかりと学びたいと考える学生に履修してもらいたい。 なお、報告については、履修者数に応じて各回「1人」とするか、「複数人グループ」とするか決めることとする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【事前学習】 教員によって指定された論点について、自ら調べ、資料を作成し、報告に向けて準備を行う。 なお、報告が予定されていない履修学生も当該論点について事前調査することが必要である。 【復習】 報告のあった論点について、改めて整理する。 実施された問題演習について、改めて取り組み、その解説ができるようにする。		
5. 教科書 教科書は指定しない。		
6. 参考書 初回時に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 報告に対しては、報告後にコメントを付すことでフィードバックを行う。 問題演習に対しては、その解説を通じてフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 日頃の受講態度及び毎回の問題演習の成果によって評価する。 履修学生による活動によって行われる演習であるので、無断欠席・遅刻によって成績評価を減じる。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者以外が履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合は GPA に基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW222J		
司法演習Ⅰ（公法）		横田 明美
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本演習では、法学の知識習得だけではなく「使いこなす」ことができるようになることを目指す学生を対象として、アウトプットの訓練を積み、法的思考力と表現力を身に着けることを目的とする。法政策論の基礎としての法令・判例の形成過程を学び、それらを探索できるように訓練する。そして、「調べる必要性」を自ら見出すことができるようになるためにも、受講者には、テーマを探索し、発表資料を作成し、報告し、討議において適切な質問を行えるように訓練を行う。 内容としては教員の専門（行政法・環境法・情報法）に関する科目が同時開講ないし先の科目となるため、まずは一年生科目（法律リテラシー・憲法・民法・刑法）での学習を前提とする。 【到達目標】 法律の「使い方」を自覚的に考え、身に着けることができるようになることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：「学び方」を自分で作る、とは（イントロダクション） 第2回：「教科書」の読み方を深めよう：鳥の目と虫の目とは 第3回：答案の作り方を学ぶ（1）一行問題・事例問題とは 第4回：答案の作り方を学ぶ（2）実践練習（過去の問題を解きなおしてみよう） 第5回：「法令」の作り方・作られ方（1）：法律の構造、条文の読み方、法令検索実習 第6回：「法令」の作り方・作られ方（2）：政策と法令の関係、新法の立案過程を学ぶ 第7回：「判例」の作り方・作られ方を学ぶ（1）：判決の構造を学び調査する 第8回：「判例」の作り方・作られ方を学ぶ（2）：判例評釈のいろいろ 第9回：判決文を読んでみよう（1）：最高裁判例を下級審から読んでみる 第10回：判決文を読んでみよう（2）：当事者の主張、法廷意見（多数意見）・少数意見の論理を整理する 第11回：テーマ報告1：学生1人～3人での班による報告 第12回：テーマ報告2：学生1人～3人での班による報告 第13回：行政法とほかの科目のつながり（参加者数が10人を超えた場合はテーマ報告3） 第14回：演習全体を振り返って（まとめ） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 他の司法演習とは異なり、特定分野の知識やアウトプットの練習というよりは、法学一般に役に立つ能動的学習を行う場として内容が形成されている点に注意すること（公法の知見だけでなく、他の法学分野の知見も問うことがある）。 「学び方」を自ら開発し、他の受講生と意見交換ができることが受講生には求められる。 引き続き科目である司法演習Ⅱ（公法）は、公法、つまり憲法と行政法の判例を読み、それを分析する。 そのため行政法AⅠ及びⅡを受講中・受講予定であることを要件とする（受講しない場合、夏休み期間で行政法を自学してもらうことになるため注意すること。）		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第2回以降は、事前に指定した課題（レジュメ・教科書の指定箇所を読んだうえでのペーパー作成など）に取り組み、次の回でその成果を発表することが求められる。そのとき「すべてできていること」は求められない。むしろ、「何をどのような手順でどこまでやったが、どこまでしかなかった（できなかった）」ということを整理して、授業中に報告することが求められる（フリーライダーは欠席とみなす可能性がある）。 また、後半の「テーマ報告」は、1～3名までのチームを組み、判例評釈や新法解説など、法律家としてのリサーチを行い、その結果を報告することが求められる。また、報告担当ではない回においても、適切な質問をするための予習が必要となる。		
5. 教科書 『カフェパウゼで法学を 対話で見つける〈学び方〉』横田明美（弘文堂） 『リーガル・リサーチ&レポート 法学部の学び方 第2版』田高寛貴・原田昌和・秋山靖浩（有斐閣）		
6. 参考書 『入門行政法』正木宏長・板垣勝彦・横田明美・海道俊明（有斐閣） 『法学学習Q&A』横田明美・小谷昌子・堀田周吾（有斐閣） 『法学入門』稲正樹・寺田麻佑・松田浩道・吉良貴之・成原慧・山田哲史・松尾剛行（北樹出版） 『法学テキストの読み方』大橋洋一（有斐閣）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回の事前学習課題については、講義時間内にコメントする。テーマ報告については、発表資料（必須）及びレポート（任意）に対して、コメントを付して返却する。		
8. 成績評価の方法 各回の課題の達成状況（30%）、授業時間内の発言による貢献度（30%）、テーマ報告による発表（40%）で評価する。 演習科目であり、一人の欠席が他の学生の学びの機会を失わせる性質があるため、無断欠席及び遅刻は減点対象となる。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者以外が履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW222J		
司法演習Ⅱ（公法）		横田 明美
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本演習では、法学の知識習得だけではなく「使いこなす」ことができるようになることを目指す学生を対象として、アウトプットの訓練を積み、法的思考力と表現力を身に着けることを目的とする。 今年度は、公法の判例を精読する。そのための調査方法は司法演習Ⅰにおいて学んだはずであるので、本演習では、判例を精読するテキストを手掛かりにしながら、受講生自ら判例を調査し、報告する。		
【到達目標】 公法に属する科目相互間の関係や、それらと公法以外の法分野との関係を理解し、法政策において法がどのように用いられているかを説明できるようになる。 法学を学習した者がレポートを書く際の基本的な事項を身に着け、実践し、相互に指摘ができるようになる。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、担当判例の選定 第2回：法学のレポートを書いてみる（1）：他の分野と法学研究の違い、法学文献の記載方法 第3回：法学のレポートを書いてみる（2）：レポート課題の種類と考え方 第4回：『精読行政法判例』を手掛かりに判例評釈（学生報告）1 第5回：『精読行政法判例』を手掛かりに判例評釈（学生報告）2 第6回：『精読行政法判例』を手掛かりに判例評釈（学生報告）3 第7回：『精読行政法判例』を手掛かりに判例評釈（学生報告）4 第8回：『精読行政法判例』を手掛かりに判例評釈（学生報告）5 第9回：中間まとめ 判例評釈をするために必要な調査についてのふりかえり 第10回：判例評釈レポートの執筆1 第11回：判例評釈レポートの執筆2 第12回：レポート中間進捗報告 第13回：ピアレビュー（他の学生が書いたレポートを見てコメントをする回） 第14回：レポート完成報告（完成したレポートを全員で討議する） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 行政法総論の知識が前提となるため、行政法A1を履修済みであること、行政法A2を同時履修であることが必要となる。 もしそうではない場合、入門書で事前に自学すること。 『精読行政法判例』（海道俊明、巽智彦、西上治、須田守、土井翼、堀澤明生（弘文堂）は学生には高価であるため、必要箇所のコピーを配布する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 自分の担当判例については、他の学生に説明するためのレジュメの作成と、それをもとにしたレポート執筆（1月7日締め切り）が必須となる。このレポート執筆にかなり予習・復習の時間が必要となる見込みである。 また、自分が担当しない判例についても、他の学生に質問できる程度には予習・復習が必要となる。 なお、対象判例はいずれも同年度の行政法A1で習った範囲のものとする。		
5. 教科書 横田明美『カフェパウゼで法学を 対話で見つける〈学び方〉』（弘文堂） 田高寛貴・原田昌和・秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート 法学部の学び方 第2版』（有斐閣） 『入門行政法』正木宏長・板垣勝彦・横田明美・海道俊明（有斐閣） 『行政判例百選Ⅰ（第8版）』齋藤誠・山本隆司（編）（有斐閣）		
6. 参考書 特に指定しない。必要に応じ、他科目（憲法、民法、行政法、民事訴訟法、国際法など）で使用している教科書を持参してもらうことがある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回の事前学習課題及びレポートについては、講義時間内にコメントする。		
8. 成績評価の方法 各回の課題の達成状況と講義内での発言による貢献度（40%）、担当判例報告の内容（20%）、最終レポートの内容（40%）で評価する。 最終レポートは第13回直前が提出期限となる（それに対する講評を第13回・第14回で全員で行うため）。		
9. その他 ＊当科目は法曹コース選択者以外が履修できる。 ＊当科目の定員は「15名」の「事前登録」対象科目となっており、履修希望者多数の場合はGPAに基づき選抜を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW291J		
法律英語 I		柳川 鋭士
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業は、国際的な企業間取引等に関する担当教員の実務経験に基づき、国際ビジネスにおいて必要となる基本的な法律英語とその法律英語に係る基本的な法律の概要を扱います。国際機関や外資系企業だけでなく国内企業法務等のビジネスに係る業務においても英語は必須と言えるでしょう。もっとも、実社会において英語はコミュニケーション手段にすぎず、英語を使って”何を”することができるのかということがこれからは問われることになるでしょう。そこで、本授業では、単に法律英語の単語を覚えるのではなく、その背景にある基本的な法律概念についても学びます。		
【授業の到達目標】 英文契約書の基本的用語及びその背景にある法律概念を理解し、国際ビジネス交渉で必要な最低限のコミュニケーション能力を獲得することを目標とします。		
2. 授業内容 第1回：契約書の英語①（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 1 第2回：契約書の英語②（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 1 第3回：契約書の英語③（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 1 第4回：契約書の英語④（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 1 第5回：契約書の英語⑤（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 2 第6回：契約書の英語⑥（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 2 第7回：契約書の英語⑦（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 2 第8回：契約書の英語⑧（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 2 第9回：契約書の英語⑨（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 3 第10回：契約書の英語⑩（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 3 第11回：契約書の英語⑪（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 3 第12回：契約書の英語⑫（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 3 第13回：契約書の英語⑬（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説） 第14回：契約書の英語⑭（売買契約の交渉、Sales Agreement の各条項の解説） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は原則として日本語で行います（なお、授業の前半 20 分～30 分は裁判及び交渉に係わるリスニングを行う予定です）。また本授業はあくまで基本的な法律英語の修得を目的とするため、法律英語に係る法律知識については一般的な基本事項のみ講義することになります。民法、会社法をはじめとする各法律の専門的な内容を修得するためには、各専門科目を履修してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 シラバスに従い、該当する授業内容に沿ってレジュメ及び教科書を一読してください。 【復習すべき内容】 授業では教科書に書かれていない法律概念等を説明しますので、その説明を踏まえて教科書に記載されている英文の意味をよく考えてください。		
5. 教科書 鳥飼慎一郎＝溜箭将之『Legal Minds 15 Journeys in Law』（金星堂、2014）		
6. 参考書 授業内に適宜紹介しますが、英文契約の基本に関しては以下のものが参考になります（授業履修に際し購入する必要はありません）。 中村秀雄『英文契約書作成のキーポイント』（商事法務研究会、2006） Charles M. Fox “Working With Contracts: What Law School Doesn't Teach You” (Practising Law Inst. 2008) 岩崎洋一郎＝仲谷栄一郎『交渉の英語 2 相手を説得する技術』（日興企画、1999）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストに関しては翌週授業内で解説します。その他適宜、Oh-o! Meiji を通じて、該当箇所のレジュメ（場合によっては補講動画のアップ等）の指摘等にてフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 授業内の小テスト（30%）、期末試験（70%）によって評価します。		
9. その他 将来留学を考えている人、国際機関等で働くことを考えている人は、積極的に TOEFL テストを受験し高得点の取得を目指してください。また本授業履修後又は並行して上級の講座（例えば英語にて授業を行う講座）を積極的に履修してください。 ＊当科目の定員は「60 名」である。履修に際しては、履修登録期間に登録し、履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は、新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW291J		
法律英語Ⅱ		柳川 鋭士
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業は、国際的な企業間取引等に関する担当教員の実務経験に基づき、国際ビジネスにおいて必要となる基本的な法律英語とその法律英語に係る基本的な法律の概要を扱います。国際機関や外資系企業だけでなく国内企業法務等のビジネスに係る業務においても英語は必須と言えるでしょう。もっとも、実社会において英語はコミュニケーション手段にすぎず、英語を使って”何を”することができるのかということがこれからは問われることになるでしょう。そこで、本授業では、単に法律英語の単語を覚えるのではなく、その背景にある基本的な法律概念についても学びます。		
【授業の到達目標】 英文契約書の基本的用語及びその背景にある法律概念を理解し、国際ビジネス交渉で必要な最低限のコミュニケーション能力を獲得することを目標とします。		
2. 授業内容 第1回：契約書の英語①（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 11 第2回：契約書の英語②（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 11 第3回：契約書の英語③（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 11 第4回：契約書の英語④（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 11 第5回：契約書の英語⑤（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 13 第6回：契約書の英語⑥（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 13 第7回：契約書の英語⑦（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 13 第8回：契約書の英語⑧（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 13 第9回：契約書の英語⑨（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 14 第10回：契約書の英語⑩（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 14 第11回：契約書の英語⑪（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 14 第12回：契約書の英語⑫（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説）、Legal Minds Case 14 第13回：契約書の英語⑬（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説） 第14回：契約書の英語⑭（ライセンス契約の交渉、License Agreement の各条項の解説） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は原則として日本語で行います（なお、授業の前半 20 分～30 分は裁判及び交渉に係わるリスニングを行う予定です）。また本授業はあくまで基本的な法律英語の修得を目的とするため、法律英語に係る法律知識については一般的な基本事項のみ講義することになります。民法、会社法をはじめとする各法律の専門的な内容を修得するためには、各専門科目を履修してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 シラバスに従い、該当する授業内容に沿って教科書を一読してください。 【復習すべき内容】 授業では教科書に書かれていない法律概念等を説明しますので、その説明を踏まえて教科書に記載されている英文の意味をよく考えてください。		
5. 教科書 鳥飼慎一郎＝溜箭将之『Legal Minds 15 Journeys in Law』（金星堂、2014）		
6. 参考書 授業内に適宜紹介しますが、英文契約の基本に関しては以下のものが参考になります（授業履修に際し購入する必要はありません）。 中村秀雄『英文契約書作成のキーポイント』（商事法務研究会、2006） Charles M. Fox “Working With Contracts: What Law School Doesn't Teach You” (Practising Law Inst. 2008) 岩崎洋一郎＝仲谷栄一郎『交渉の英語 2 相手を説得する技術』（日興企画、1999）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストに関しては翌週授業内で解説します。その他適宜、Oh-o! Meiji を通じて、該当箇所のレジュメ（場合によっては補講動画のアップ等）の指摘等にてフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 授業内の小テスト（30%）、期末試験（70%）によって評価します。		
9. その他 将来留学を考えている人、国際機関等で働くことを考えている人は、積極的に TOEFL テストを受験し高得点の取得を目指してください。また本授業履修後又は並行して上級の講座（例えば英語にて授業を行う講座）を積極的に履修してください。 ＊当科目の定員は「60 名」である。履修に際しては、履修登録期間に登録し、履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は、新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法律外書講読Ⅰ（英米法）		金子 敏哉
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、アメリカの著作権制度の経済分析に関する古典ともいべき論文である William Landes & Richard Posner, “An Economic Analysis of Copyright Law”についての講読を行う。 テキストとしては、Landes & Posner の上記論文の他、必要に応じて関連する文献を使用することを予定しているが、参加者の関心・著作権制度の理解に応じて変更する可能性がある。 【到達目標】 著作権制度の経済学的な視点からの評価、及び、アメリカの著作権制度に関する基本的な制度を理解し、著作権をめぐる現代的な課題について考察する基本的な知識を得ることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：文献の翻訳と検討（1） 第3回：文献の翻訳と検討（2） 第4回：文献の翻訳と検討（3） 第5回：文献の翻訳と検討（4） 第6回：文献の翻訳と検討（5） 第7回：文献の翻訳と検討（6） 第8回：文献の翻訳と検討（7） 第9回：文献の翻訳と検討（8） 第10回：文献の翻訳と検討（9） 第11回：文献の翻訳と検討（10） 第12回：文献の翻訳と検討（11） 第13回：文献の翻訳と検討（12） 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 各自翻訳及び報告を担当してもらう。日本の著作権法についての講義（知的財産法 A I）を履修済みであることが望ましいが必須ではない。高度の経済学・数学的な知識は必要としないが、法制度に対する経済学的な分析についての問題関心を持って臨んでほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 各回の授業に臨む前に、指定個所の翻訳及び検討をあらかじめ行っておくこと。本授業では、翻訳とともに、論文の内容を理解し、その妥当性について検討することが必要となる。 【復習すべき内容】 授業での検討内容を確認し、関連する問題について自分で調べる。		
5. 教科書 William M. Landes; Richard A. Posner, An Economic Analysis of Copyright Law, The Journal of Legal Studies, Vol.18 No.2 (1989) pp.325-363 （詳細については開講時に指示する）		
6. 参考書 特になし		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で翻訳についてのコメント等によりフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 翻訳及び報告(60%)と授業への参加態度(40%)。なお正当な理由なしに3回以上の欠席・遅刻をした場合には、単位取得の条件を満たさないものとして扱う。		
9. その他 ＊当科目の定員は「20 名」である。履修に際しては、履修登録期間に登録し、履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法律外書講読Ⅱ（英米法）		佐々木 秀智
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、Twitter、Instagram、Youtube 等の SNS(Social Networking Service)に関する規制が言論・プレス自由を保障するアメリカ合衆国憲法修正第1条との関係でどのように議論されているのかについて考えていきます。 我が国ではほとんど議論されませんでしたが、電話等の通信事業者は表現の自由を享有するののかとの問題がありました。わが国の現状認識能力の乏しい憲法・情報法学者は、総論では法人の基本権享有主体性を肯定しますが、各論になると沈黙します。それはこれらの法学者が法的現実を直視せずに、机上の空論でもって表現の自由を論じているからです。これらの法分野の研究者は民法、刑法や訴訟法の議論をほぼ無視します。あるいは研究者、伝統的なメディア（新聞・放送など）といったインテリ層のみが表現の自由を享有し、「情弱」な国民を啓蒙する必要性があると考えているとも言えます。 放送の社会的地位は低下しており、皆さんもテレビ視聴より、YouTube 視聴の方が多いかと思います。またあなたの SNS 投稿が削除されたり、警告が表示されたりしたことがあるかもしれません。これまで SNS は通信であり、表現の自由より、通信の秘密を保障しなければならないので、通信内容を検閲することは憲法上禁止されてきました。ですが、実際削除等されています。これは憲法上どのように考えるべきでしょうか。 アメリカの法学者は現実を直視しようと努めます（当然のことです）。日米の近問題に関する議論を見るとアメリカが実際の判例を前提とし、判例で採用されるため、裁判官を説得するために全力を尽くして理論構築を試みます（判例に採用されなくても、平気で批判をする我が国の研究者とは大違いです）。そこでは、実証的な根拠と理論性が最優先されなければなりません。 本来、法学というものは現実に即したものでなければなりません。これは、法曹・公務員に進もうとする学生のみならず、民間企業などで組織の運営方針を決定する際に重要なものとなります。この授業では、この点を重視しながら、アメリカの法理論の構築のあり方について考えていきたいと思っています。 【授業の到達目標】 アメリカのメディア法制度に関する十分な理解 法学における実践的研究および理論的研究の意義に関する理解		
2. 授業内容 第1回：各自の担当範囲の決定、メディア法の基本枠組み 第2回：アメリカ法入門 第3回：アメリカの法律情報の調べ方 第4回：文献の翻訳と検討（1） 第5回：文献の翻訳と検討（2） 第6回：文献の翻訳と検討（3） 第7回：文献の翻訳と検討（4） 第8回：文献の翻訳と検討（5） 第9回：文献の翻訳と検討（6） 第10回：文献の翻訳と検討（7） 第11回：文献の翻訳と検討（8） 第12回：文献の翻訳と検討（9） 第13回：文献の翻訳と検討（10） 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 各自翻訳を担当してもらいます。 また合理的な理由（病気、冠婚葬祭等）のない欠席を2回した場合、履修放棄とみなします。 3回以上遅刻（教員より遅く入室）した場合も、履修放棄とみなします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 指定教科書の該当箇所を読んでおいてください。 【復習すべき内容】 授業で提示した問題について、授業で紹介した文献・サイト等にアクセスして調べてください。		
5. 教科書 Evelyn Douek & Genevieve Lakier, The Supreme Court, 2023 Term – Comment: Lochner.com?, 138 Harv. L. Rev. 100 (2024).		
6. 参考書 開講時に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された課題（報告資料）に関して、直後の授業において解説の時間を設ける。		
8. 成績評価の方法 各自に割り当てられた部分の翻訳（30%）及び報告（40%）と授業への参加態度（30%）		
9. その他 この授業はハードなので、安易な気持ちで履修しないこと。 この授業は、「語学」の授業ではなく、「法学」の授業です。法学に全く関心のない学生は履修しないこと。 ＊当科目の定員は「20 名」である。履修に際しては、履修登録期間に登録し、履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法律外書講読Ⅰ（フランス法）		江藤 英樹
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業では、フランスの現在の第 5 共和制下の諸制度に関する文献を原文で読むことにチャレンジします。受講生の多くが大学入学後にフランス語の学習を始めた初学者であると思われるので、テキスト選びや授業の進め方は柔軟に対応します。 【到達目標】 フランス語で書かれた法律の文献を少しでも多く読めるようになることを目指します。		
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：イントロダクション 第 2 回：フランス憲法史 1 第 3 回：フランス憲法史 2 第 4 回：フランス憲法史 3 第 5 回：フランス憲法史 4 第 6 回：フランス憲法史 5 第 7 回：第 5 共和制下の諸制度—大統領制 1 第 8 回：第 5 共和制下の諸制度—大統領制 2 第 9 回：第 5 共和制下の諸制度—大統領制 3 第 10 回：第 5 共和制下の諸制度—大統領制 4 第 11 回：第 5 共和制下の諸制度—議会 1 第 12 回：第 5 共和制下の諸制度—議会 2 第 13 回：第 5 共和制下の諸制度—議会 3 第 14 回：第 5 共和制下の諸制度—議会 4 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 学部 1, 2 年次にフランス語を履修していることが望ましい。1, 2 年次に履修はしなかったが、フランス語の文法を独自に学習している場合も履修を可とします。 【注意】 中国語を第 2 外国語として選択した人は履修しないでください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回テキストの翻訳を行ってから授業に参加すること。		
5. 教科書 授業で使用するテキストやその他の資料は、授業中に配布します。		
6. 参考書 『フランス法 第 4 版』滝沢正（三省堂、2010 年） 『フランス憲法入門』辻村みよ子・糠塚康江（三省堂、2012 年） 『新解説 世界憲法集 第 5 版』初宿正典・辻村みよ子編（三省堂、2020 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて配信するので、各自確認のこと。		
8. 成績評価の方法 平常点で評価します。		
9. その他 ＊当科目の定員は「20 名」である。履修に際しては、履修登録期間に登録し、履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法律外書講読Ⅱ（フランス法）		吉井 啓子
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の概要≫ フランス民法の入門書である Gilles Goubeaux et Pierre Voirin, Droit civil Introduction au droit, personnes, famille, personnes protégées, biens, obligations, sûretés, 41e ed., 2021 の「親子関係」に関する章を、受講者で分担して読み進める。日本の民法と比較しながら、フランスの民法の特徴を考察する。 ≪授業の到達目標≫ 法律に関するフランス語文献を正確に読む力を身につける。民法に関するフランス語文献の翻訳を通じてフランス民法の特徴をつかむ。		
2. 授業内容 受講者のフランス語のレベルにもよるが、毎回 1～2 頁のペースで読み進める予定である。各回につきあらかじめ担当者を決め、その担当者に翻訳をしてもらう。 第 1 回：フランス法に関する基本文献の紹介，フランス家族法の基本構造，フランス語能力チェック 第 2 回：実親子関係－成立 第 3・4 回：実親子関係－母子関係 第 5・6 回：実親子関係－父子関係 第 7 回：実親子関係－人工生殖 第 8・9 回：養親子関係－完全養子 第 10 回：養親子関係－単純養子 第 11・12 回：親子関係－効果 第 13・14 回：親子関係－親権 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 第 1 回の授業時に各自のフランス語レベルにつき尋ねる。現在はフランス語力が十分でないとしても、向上を目指して努力する覚悟のある受講生の参加を望む。 当然のことではあるが、初回から毎回、フランス語辞書、文法書を持参すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 自分が翻訳を担当した箇所につき、授業での検討の後、翻訳を完成させて提出してもらう。		
5. 教科書 特に指定しない。第 1 回授業時に、授業で読む文献のコピーを配布する。		
6. 参考書 滝沢正『フランス法』（三省堂）。その他のフランス法に関する基本文献（法律用語辞典など）については、第 1 回授業時にリストを配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 受講者が翻訳を担当した箇所につき、授業での検討の後、翻訳を完成させて提出してもらう。提出された翻訳についてはコメントをつけて返却する。		
8. 成績評価の方法 発言・質問等授業への参加度が 30%、担当箇所の翻訳（授業での発表、提出してもらう完成翻訳）が 70%。		
9. その他 遅刻・無断欠席には厳しく対応する。 ＊当科目の定員は「20 名」である。履修に際しては、履修登録期間に登録し、履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法律外書講読Ⅰ（ドイツ法）		メンクハウス
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 法律という学問においても特殊な専門用語が多く用いられている。専門用語の知識がないと外国語で書かれた法律文献の内容を理解することは困難である。この授業では通常ドイツ法の入門書を読みながら、日本語訳と同時にドイツの法律専門用語を説明し、ドイツ法律専門用語語彙を作成する。ところで1957年からドイツ法と同時に当時の欧州経済共同体法の勉強が必要になった。ドイツがその共同体の加盟国になったからである。のちに欧州共同体になって、現在欧州連合（EU）として生き残る国になることを目指している機関である。欧州連合のなかでドイツは加盟国として役割が高く、ドイツ語はEUの正式な言語のひとつである。2020年に英国がEUから離脱してしまっており、英語が母国語として使われている加盟国は一つしか残っていないのでドイツ語はEU内の役割が高くなっている。その理由でこの授業ではドイツ法入門書ではなくてドイツ語で書かれている法学部生宛てに作られたEU法入門書を読みながら、日本語訳と同時にドイツ語でのEU法律専門用語を説明し、ドイツ語でEU法律専門用語語彙を作成する。		
2. 授業内容 第1回：EU法総論 第2回：EUの機関 第3回：EU理事会 第4回：EU閣僚理事会 第5回：EU委員会 第6回：EU議会 第7回：EU裁判所 第8回：その他のEU機関 第9回：EEC創立条約 第10回：EC創立条約 第11回：EU創立条約とその改正 第12回：EU指令 第13回：EU「規則」 第14回：EU命令 ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 EU法に興味を持って、高等学校または大学1年、2年でドイツ語を第一または第二外国語として学習していることが望ましい、EU法講義に出席し単位取得していると理解しやすい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日本語で書かれたEU法入門を読むこと。例えば 中西 優美子（著）『EU法』新世社 2012年 庄司 克宏（著）『新EU法 基礎篇』岩波書店 2013年 庄司 克宏（著）『新EU法 政策篇』岩波書店 2014年 庄司 克宏（著）『はじめてのEU法』第2版、有斐閣 2023年 山根 裕子（著）『歴史のなかのEU法』有信堂高文社 2023年 または欧州条約集の日本語訳を読むこと。		
5. 教科書 Herdegen, Matthias: Europarecht. 19. Aufl., C.H. Beck: München 2017 本書の購入は必要ない、コピーが大学生の人数分に分配されます。		
6. 参考書 独和EU法律用語辞典はないので独和法律用語辞典しか役に立っていない。その中の新しい版ならある程度EU法の法律専門用語を包括する。例えば 田沢五郎（著）『独・日・英 ビジネス経済法制辞典』郁文堂 1999年 ベルンド・ゲッツェ（著）『独和法律用語辞典』第2版 成文堂 2010年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の後に次の授業の前の時間帯で声をかけてもらってもよろしいがあまり時間がない可能性が高いのでメールで連絡してもらうのは一番良い方法です。もし必要であればメールでのやり取りのうえで時間帯を決めて対面で駿河台校舎内で話ができます。		
8. 成績評価の方法 毎週次の授業までに訳すべき教科書の部分を各学生に指示し、次の授業で担当学生が皆の前でまずドイツ語で文書それぞれ読み上げながら、自分自身の日本語訳を紹介する。用語の説明をしながら訳を直し、学生は次の授業の前までに訂正版を提出し、その日本語訳により成績評価を行う。		
9. その他 ＊当科目の定員は「20名」である。履修に際しては、履修登録期間に登録し、履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法律外書講読Ⅱ（ドイツ法）		メンクハウス
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 法律という学問においても特殊専門用語が多く用いられている。専門用語の知識がないと外国語で書かれた法律文献の内容を理解することは困難である。この授業では通常ドイツ法の入門書を読みながら、日本語訳と同時にドイツの法律専門用語を説明し、ドイツ法律専門用語語彙を作成する。ところで1957年からドイツ法と同時に当時の欧州経済共同体法の勉強が必要になった。ドイツがその共同体の加盟国になったからである。のちに欧州共同体になって、現在欧州連合（EU）として生き残る国になることを目指している機関である。欧州連合のなかでドイツは加盟国として役割が高く、ドイツ語はEUの正式な言語のひとつである。2020年に英国がEUから離脱してしまっており、英語が母国語として使われている加盟国は一つしか残っていないのでドイツ語はEU内の役割が高くなっている。その理由でこの授業ではドイツ法入門書ではなくてドイツ語で書かれている法学部生宛てに作られたEU法入門書を読みながら、日本語訳と同時にドイツ語でのEU法律専門用語を説明し、ドイツ語でEU法律専門用語語彙を作成する。		
2. 授業内容 第1回：EU法各論 第2回：EU基本権憲章 第3回：EU民事法 第4回：EU商法 第5回：EU法人法 第6回：EU商品取引法 第7回：EU公法 第8回：EU行政法 第9回：EU行政手続法 第10回：EU行政法各論 第11回：EU環境法 第12回：EU競争制限禁止法 第13回：EU調達法 第14回：EU法まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 EU法に興味を持って、高等学校または大学1年、2年でドイツ語を第一または第二外国語として学習していることが望ましい、EU法講義に出席し単位取得していると理解しやすい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日本語で書かれたEU法入門を読むこと。例えば 中西 優美子（著）『EU法』第2版、新世社 2012年 庄司 克宏（著）『新EU法 基礎篇』岩波書店 2013年 庄司 克宏（著）『新EU法 政策篇』岩波書店 2014年 庄司 克宏（著）『はじめてのEU法』第2版、有斐閣 2023年 山根 裕子（著）『歴史のなかのEU法』有信堂高文社 2023年 または欧州条約集の日本語訳を読むこと。		
5. 教科書 Herdegen, Matthias: Europarecht. 19. Aufl., C.H. Beck: München 2017 本書の購入は必要ない、コピーが大学生の人数分に分配されます。		
6. 参考書 独和 EU 法律用語辞典はないので独和法律用語辞典しか役に立っていない。その中の新しい版ならある程度 EU 法の法律専門用語を包括する。例えば 田沢五郎（著）『独・日・英 ビジネス経済法制辞典』郁文堂 1999年 ペルンド・ゲッツェ（著）『独和法律用語辞典』第2版 成文堂 2010年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の後に次の授業の前の時間帯で声をかけてもらってもよいがあまり時間がない可能性が高いのでメールで連絡してもらうのが一番良い方法です。もし必要であればメールでのやり取りのうえで時間帯を決めて対面で駿河台校舎内で話ができます。		
8. 成績評価の方法 毎週次の授業までに訳すべき教科書の部分を各学生に指示し、次の授業で担当学生が皆の前でまずドイツ語で文書それぞれ読み上げながら、自分自身の日本語訳を紹介する。用語の説明をしながら訳を直し、学生は次の授業の前までに訂正版を提出し、その日本語訳により成績評価を行う。		
9. その他 ＊当科目の定員は「20 名」である。履修に際しては、履修登録期間に登録し、履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) LAW311J		
法律外書講読Ⅰ（中国法）		鈴木 賢
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 中国語の継続学習の機会を提供し、使える中国語力の養成を目指す。具体的には受講者の希望やレベルに応じて、内容や教材は工夫する。会話の練習を中心とする。法学部における中国語道場のような場にしたい。中国や台湾への留学希望者を歓迎する。 到達目標 1 正確な中国語の発音を身につける 2 基本的な中国語の文法に習熟する 3 簡単な中国語文献の読解力養成 4 中国・台湾の社会、政治、法の特殊な環境に親しむ		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：中国語の発音（1） 第3回：中国語の発音（2） 第4回：短文の講読と発音練習（1） 第5回：短文の講読と発音練習（2） 第6回：短文の講読と発音練習（3） 第7回：短文の講読と発音練習（4） 第8回：短文の講読と発音練習（5） 第9回：短文の講読と発音練習（6） 第10回：短文の講読と発音練習（7） 第11回：短文の講読と発音練習（8） 第12回：短文の講読と発音練習（9） 第13回：短文の講読と発音練習（10） 第14回：短文の講読と発音練習（11） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 最低限1年は基礎中国語を学び、ピンインは読めるレベルをクリアしていることが履修条件です。 また合理的な理由のない欠席を2回した場合、履修放棄とみなします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 とにかく欠席せずについてくること。中国語を楽しめるようになることを求めます。		
5. 教科書 具体的に何を使うかについては、参加者のレベルを勘案して決めます。 ネット教材を使用する可能性もあります。		
6. 参考書 日中辞書は必携。その他、1年次の中国語教科書。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回指名して発音してもらいます。		
8. 成績評価の方法 毎回の予習の状況、発音や解釈の能力向上度合い、授業への参加の姿勢などを総合的に考慮して評価する。		
9. その他 中国語に情熱のある意欲的な人を歓迎します。 ＊当科目の定員は「20名」である。履修に際しては、履修登録期間に登録し、履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法律外書講読Ⅱ（中国法）		鈴木 賢
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 中国語の継続学習の機会を提供し、使える中国語力の養成を目指す。具体的には受講者の希望やレベルに応じて、内容や教材は工夫する。さしあたり以下の教材の使用を予定するが、最終的には受講者の学力を見て決める。法学部における中国語道場のような場にしたい。中国、台湾への留学希望者をとくに歓迎する。 劉燕子・及川淳子編『〇八憲章』で学ぶ教養中国語』（集広社、2019 年）本体 1600 円+税 到達目標 1 正確な中国語の発音を身につける 2 基本的な中国語の文法に習熟する 3 社会科学の中国語文献の読解力養成 4 中国・台湾の社会、政治、法の特殊な環境に親しむ		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：中国語の発音（1） 第3回：中国語の発音（2） 第4回：文献の翻訳と検討（1） 第5回：文献の翻訳と検討（2） 第6回：文献の翻訳と検討（3） 第7回：文献の翻訳と検討（4） 第8回：文献の翻訳と検討（5） 第9回：文献の翻訳と検討（6） 第10回：文献の翻訳と検討（7） 第11回：文献の翻訳と検討（8） 第12回：文献の翻訳と検討（9） 第13回：文献の翻訳と検討（10） 第14回：文献の翻訳と検討（11） ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 最低限1年は基礎中国語を学び、ピンインは読めるレベルをクリアしていることが履修条件です。 また合理的な理由のない欠席を2回した場合、履修放棄とみなします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 とにかく欠席せずについてくること。中国語を楽しめるようになることを求めます。		
5. 教科書 具体的に何を使うかについては、参加者のレベルを勘案して決めます。		
6. 参考書 日中辞書は必携。その他、1年次の中国語教科書。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回指名して発音してもらいます。		
8. 成績評価の方法 毎回の予習の状況、発音や解釈の能力向上度合い、授業への参加の姿勢などを総合的に考慮して評価する。		
9. その他 中国語に情熱のある意欲的な人を歓迎します。 ＊当科目の定員は「20 名」である。履修に際しては、履修登録期間に登録し、履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法律外書講読Ⅰ（EU法）		東 史彦
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、イタリア法を題材とし、EU 法と国内法の関係を考察します。イタリア憲法に関する英語の文献を教材とし、輪読・議論（日本語）します。 【到達目標】 本授業では、日本と似たような歴史的背景・内容で現行憲法を制定したイタリアの憲法が、日本の憲法とどのように異なるのかを、特にイタリアがEU 加盟国であるという点を踏まえて、比較・理解します。		
2. 授業内容 第1回：ガイダンス、担当者決定 第2回：イタリア憲法制定とその進化① 第3回：イタリア憲法制定とその進化② 第4回：欧州におけるイタリア憲法① 第5回：欧州におけるイタリア憲法② 第6回：国民投票と権限分立① 第7回：国民投票と権限分立② 第8回：議会① 第9回：議会② 第10回：政府① 第11回：政府② 第12回：政府③ 第13回：大統領① 第14回：大統領② ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参加者は教材の各所を担当します。報告者は、担当箇所のレジメを日本語で準備し、日本語で報告します。非報告者は、該当部分を事前に理解し、報告者による報告について、日本語で議論します。		
5. 教科書 Marta Cartabia and Nicola Lupo, The Constitution of Italy, HART, 2022		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提起された論点・疑問点については、授業中に議論・解説を行います。		
8. 成績評価の方法 担当報告の達成度（60%）、議論への積極的参加（40 %）		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法律外書講読Ⅱ（EU法）		東 史彦
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、イタリア法を題材とし、EU 法と国内法の関係を考察します。イタリア憲法に関する英語の文献を教材とし、輪読・議論（日本語）します。 【到達目標】 本授業では、日本と似たような歴史的背景・内容で現行憲法を制定したイタリアの憲法が、日本の憲法とどのように異なるのかを、特にイタリアがEU 加盟国であるという点を踏まえて、比較・理解します。		
2. 授業内容 第1回：地方自治① 第2回：地方自治② 第3回：裁判所① 第4回：裁判所② 第5回：裁判所③ 第6回：憲法裁判所① 第7回：憲法裁判所② 第8回：憲法裁判所③ 第9回：人権保障① 第10回：人権保障② 第11回：人権保障③ 第12回：人権保障④ 第13回：人権保障⑤ 第14回：人権保障⑥ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参加者は教材の各所を担当します。報告者は、担当箇所のレジメを日本語で準備し、日本語で報告します。非報告者は、該当部分を事前に理解し、報告者による報告について、日本語で議論します。		
5. 教科書 Marta Cartabia and Nicola Lupo, The Constitution of Italy, HART, 2022		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提起された論点・疑問点については、授業中に議論・解説を行います。		
8. 成績評価の方法 担当報告の達成度（60%）、議論への積極的参加（40 %）		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法律外書講読Ⅰ（国際関係法）		西元 宏治
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 グローバル化の進展とともに、国際法が規律する領域は急速に拡大し、その内容・手続は多様化の一途をたどっている。特に人権・経済・環境の分野は、さまざまな規範、利害、そしてアクターが交錯し、国際/国内の法制度の相互浸透が著しい分野で一方で、依然として主権国家を中心に構成される国際社会では、外交法、領域法、そして海洋法といった長い歴史的な背景をもつ分野が国際関係の安定に重要な役割を果たしている。 本講義では、主に英米圏で広く用いられている教科書の講読を通じて、主権国家を構成単位とする国際社会の中で、国際法がどのように生成・発展してきたのかを概観し、事例・判例・学説などを通じて国際法の基本的な構造と機能に対する理解を深めたいと思います。		
【到達目標】 本講義では、主に英米圏で広く用いられている標準書や関連文献を読むことによって、国際法の基本的な知識（国際法の歴史、法源、国内法との関係など）や特徴だけでなく、近年の国際社会が直面する問題に関する国際法上の論点を理解できるようになることを目標にします。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：文献の翻訳と検討（1） 第3回：文献の翻訳と検討（2） 第4回：文献の翻訳と検討（3） 第5回：文献の翻訳と検討（4） 第6回：文献の翻訳と検討（5） 第7回：文献の翻訳と検討（6） 第8回：文献の翻訳と検討（7） 第9回：文献の翻訳と検討（8） 第10回：文献の翻訳と検討（9） 第11回：文献の翻訳と検討（10） 第12回：文献の翻訳と検討（11） 第13回：文献の翻訳と検討（12） 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業は日本語で行うが、高い読解力が必須となる。特に英語で情報収集や新しい知識の習得が出来ること（TOEICで850点程度）を想定して、講義を行なう。 また国際法や関連分野の基礎知識があることを前提に講義を進め、単なる翻訳だけでなく、内容に対する理解を確認する質疑を行う。 「国際法」は履修済み、それ以外にも「国際経済法」「国際環境法」「国際人権法」「国際組織法」などの授業を履修していることが望ましい。 単位認定には、授業への最低11回以上の出席と課題の提出が必要となる。 正当な理由のあるもの以外に特別な措置は考えていないので、卒業を控えている人はその点をふまえて受講すること。 講義に関する資料・連絡はポータルサイトで行うので、各自の責任で確認すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 各回の授業に臨む前に、該当箇所の翻訳及びその内容の検討をあらかじめ行っておくこと。本授業では、テキストの翻訳とともに、その内容を理解し、検討することが必要となる。 【復習すべき内容】 授業での検討内容を確認し、関連する問題について自分で調べること。		
5. 教科書 Alexander Orakhelashvili, Akehurst's Modern Introduction to International Law 9th (Routledge, 2022)やASIL Insights など		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でのテキストの翻訳や内容についてのコメント等によりフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 翻訳及び報告(60%)と授業への参加態度(40%)。 なお正当な理由なしに3回以上の欠席・遅刻をした場合には、単位取得の条件を満たさないものとして扱う。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)LAW311J		
法律外書講読Ⅱ（国際関係法）		西元 宏治
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 グローバル化の進展とともに、国際法が規律する領域は急速に拡大し、その内容・手続は多様化の一途をたどっている。特に人権・経済・環境の分野は、さまざまな規範、利害、そしてアクターが交錯し、国際/国内の法制度の相互浸透が著しい分野で一方で、依然として主権国家を中心に構成される国際社会では、外交法、領域法、そして海洋法といった長い歴史的な背景をもつ分野が国際関係の安定に重要な役割を果たしている。 本講義では、主に英米圏で広く用いられている教科書の講読を通じて、主権国家を構成単位とする国際社会の中で、国際法がどのように生成・発展してきたのかを概観し、事例・判例・学説などを通じて国際法の基本的な構造と機能に対する理解を深めたいと思います。		
【到達目標】 本講義では、主に英米圏で広く用いられている標準書や関連文献を読むことによって、国際法の基本的な知識（国際法の歴史、法源、国内法との関係など）や特徴だけでなく、近年の国際社会が直面する問題に関する国際法上の論点を理解できるようになることを目標にします。		
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：文献の翻訳と検討（1） 第3回：文献の翻訳と検討（2） 第4回：文献の翻訳と検討（3） 第5回：文献の翻訳と検討（4） 第6回：文献の翻訳と検討（5） 第7回：文献の翻訳と検討（6） 第8回：文献の翻訳と検討（7） 第9回：文献の翻訳と検討（8） 第10回：文献の翻訳と検討（9） 第11回：文献の翻訳と検討（10） 第12回：文献の翻訳と検討（11） 第13回：文献の翻訳と検討（12） 第14回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 授業は日本語で行うが、高い読解力が必須となる。特に英語で情報収集や新しい知識の習得が出来ること（TOEICで850点程度）を想定して、講義を行なう。 また国際法や関連分野の基礎知識があることを前提に講義を進め、単なる翻訳だけでなく、内容に対する理解を確認する質疑を行う。 「国際法」は履修済み、それ以外にも「国際経済法」「国際環境法」「国際人権法」「国際組織法」などの授業を履修していることが望ましい。 単位認定には、授業への最低11回以上の出席と課題の提出が必要となる。 正当な理由のあるもの以外に特別な措置は考えていないので、卒業を控えている人はその点をふまえて受講すること。 講義に関する資料・連絡はポータルサイトで行うので、各自の責任で確認すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【準備学習の内容】 各回の授業に臨む前に、該当箇所の翻訳及びその内容の検討をあらかじめ行っておくこと。本授業では、テキストの翻訳とともに、その内容を理解し、検討することが必要となる。 【復習すべき内容】 授業での検討内容を確認し、関連する問題について自分で調べること。		
5. 教科書 Alexander Orakhelashvili, Akehurst's Modern Introduction to International Law 9th (Routledge, 2022)やASIL Insights など		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でのテキストの翻訳や内容についてのコメント等によりフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 翻訳及び報告(60%)と授業への参加態度(40%)。 なお正当な理由なしに3回以上の欠席・遅刻をした場合には、単位取得の条件を満たさないものとして扱う。		
9. その他		

8 自由選択科目群

科目ナンバー：(LA)ECN341J		
経済政策Ⅰ		藤永 修一
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 日本経済はしばらくの間デフレに悩まされていたが、最近はインフレが問題となり、世界経済もインフレによって厳しい経済状況にある。その問題に対する処方箋が経済政策と呼ばれるものである。したがって、極めて実践的な学問といえる。このため、この授業では理論的な分析だけでなく、歴史的な分析をも踏まえながら進めていく。なお、随時、話題となっている経済問題についても併せて解説を行う。 【授業の目標】 私たちは日々経済活動を行っているため、経済について何らかの考えをもっている。しかし、経済学の観点からみて、誤った俗説が少なくない。世間に流布している俗説に惑わされることのないような素養を身につけることを、この授業の目標とする。		
2. 授業内容 第1回：a：イントロダクション b：経済学と経済政策の役割 第2回：経済政策とは何か 第3回：日本経済と世界経済の現状 第4回：経済政策の目標と手段 第5回：市場の役割と政府の役割 第6回：財政政策 第7回：金融政策 第8回：重商主義の経済政策 第9回：古典派経済学の経済政策 第10回：1930年代の経済政策：大不況とニューディール 第11回：1960年代の経済政策：ニューエコノミックス 第12回：1980年代の経済政策：レーガノミックス 第13回：市場の役割と政府の役割：再考 第14回：まとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 法学部の学生にとって、この科目を履修することで初めて経済学を学ぶことになるかもしれない。できるだけ具体例をあげながら授業を行うので、関心をもって授業に望んでもらいたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の最後で指摘する「重要なポイント」について、理解しておいてください。なお、次回の授業のためのガイドとして、授業の予習として、経済学のアンケートや実験を行ってもらいます。		
5. 教科書 特に指定しない。なお、授業でレジュメを配布する。		
6. 参考書 特に指定しない。なお、参考資料をプリントで配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題についての説明は、課題提出後の授業で説明を行う。同時に全体講評も行う。		
8. 成績評価の方法 成績評価は試験（70%）、平常点（授業への参加度：30%）で行います。 平常点とは、授業態度、授業での発言、授業内での提出物等によって評価する。		
9. その他 特になし。		

科目ナンバー：(LA)ECN341J		
経済政策Ⅱ		藤永 修一
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 日本経済はしばらくの間デフレに悩まされていたが、最近はインフレが問題となり、世界経済もインフレによって厳しい経済状況にある。その問題に対する処方箋が経済政策と呼ばれるものである。したがって、極めて実践的な学問といえる。このため、この授業では理論的な分析だけでなく、歴史的な分析をも踏まえながら進めていく。なお、随時、話題となっている経済問題についても併せて解説を行う。 【授業の目標】 私たちは日々経済活動を行っているため、経済について何らかの考えをもっている。しかし、経済学の観点からみて、誤った俗説が少なくない。世間に流布している俗説に惑わされることのないような素養を身につけることを、この授業の目標とする。		
2. 授業内容 第1回：a：イントロダクション b：余剰分析（1）規制 第2回：余剰分析（2）関税、輸入数量制限 第3回：財政政策：乗数理論（1） 第4回：財政政策：乗数理論（2） 第5回：デフレーションとインフレーション（1） 第6回：デフレーションとインフレーション（2） 第7回：経済政策の有効性（1）ケインズ政策 第8回：経済政策の有効性（2）反ケインズ政策 第9回：日本経済（1）バブル経済とその崩壊 第10回：日本経済（2）アベノミクス以降 第11回：世界経済（1）戦後の世界経済と経済システム 第12回：世界経済（2）リーマン・ショック以降 第13回：グローバリゼーション 第14回：まとめ * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 法学部の学生にとって、この科目を履修することで初めて経済学を学ぶことになるかもしれない。できるだけ具体例をあげながら授業を行うので、関心をもって授業に望んでもらいたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の最後で指摘する「重要なポイント」について、理解しておいてください。なお、次回の授業のためのガイドとして、授業の予習として、経済学のアンケートや実験を行ってもらいます。		
5. 教科書 特に指定しない。なお、授業でレジュメを配布する。		
6. 参考書 特に指定しない。なお、参考資料をプリントで配布する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題についての説明は、課題提出後の授業で説明を行う。同時に全体講評も行う。		
8. 成績評価の方法 成績評価は試験（70%）、平常点（授業への参加度：：30%）で行います。 平常点とは、授業態度、授業での発言、授業内での提出物等によって評価する。		
9. その他 特になし。		

科目ナンバー：(LA)ACC331J		
会計学Ⅰ		渡邊 雅雄
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 財務諸表は、企業の経済活動を総合的に理解するうえで重要な情報である。会計学Ⅰ・Ⅱは、財務諸表の作成と報告を規制する企業会計制度と、それを支える会計理論を理解することを目的としている。会計学Ⅰでは、特に、企業会計を支える技術である簿記を学ぶ。 【到達目標】 1. 簿記の基礎を習得し、初歩的な会計実務に対応できる。 2. 企業の経済活動を理解する。		
2. 授業内容 第1回：簿記のしくみ、仕訳と勘定 第2回：商品売買 第3回：現金、預金および手形 第4回：有形固定資産、債権債務 第5回：株式会社の資本、損益取引、訂正仕訳 第6回：商品有高帳、試算表、決算：売上原価の算定、精算表 第7回：決算：貸倒れの見積り、減価償却、費用・収益の決算整理 第8回：決算：現金過不足、当座借越、貯蔵品、消費税、法人税等 第9回：決算：帳簿の締切り、貸借対照表・損益計算書の作成 第10回：会計の役割 第11回：財務会計の基本原則 第12回：企業の設立、資金調達 第13回：生産活動(1) 第14回：生産活動(2) * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本科目の履修は法学部生に限る。法学部生以外の履修は認めない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習の内容】 次回の講義で学習する教科書の該当範囲を事前に読んでおく。 【復習の内容】 教科書等の練習問題を利用して、学習した内容を理解し、定着させる。		
5. 教科書 『大原で合格の日商簿記3級＜第4版＞』資格の大原（大原出版、2025年）（第1回から第9回まで） 『財務会計・入門〔第18版〕』桜井久勝・須田一幸著（有斐閣、2025年）（第10回から第14回まで） * 開講時に出版されている最新版を使用する。		
6. 参考書 講義では使用しないが、理解を深める上で下記の文献が参考になる。 『簿記の考え方・学び方〔五訂版〕』中村忠著（税務経理協会、2006年） 『財務会計入門（第7版）』田中建二著（中央経済社、2025年） 『企業会計入門〔補訂版〕』斎藤静樹著（有斐閣、2018年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の総評を Oh-o! Meiji システムを通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 100% 会計に関する資格試験合格に基づく成績評価は行わない。		
9. その他		

科目ナンバー：(LA)ACC331J		
会計学Ⅱ		渡邊 雅雄
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 財務諸表は、企業の経済活動を総合的に理解するうえで重要な情報である。会計学Ⅱは、財務諸表の作成と報告を規制する企業会計制度と、それを支える会計理論を理解することを目的としている。学生が実際の経済事象を意識しながら会計学を学習できるように、実際の企業の財務データ等を講義で適宜取り上げる。 【到達目標】 1. 財務諸表が経済社会において果たす役割を理解する。 2. 財務諸表の構造を理解し、財務諸表から企業内容を把握できる。		
2. 授業内容 第1回：財務会計の基本原則 第2回：販売活動(1) 第3回：販売活動(2) 第4回：設備投資(1) 第5回：設備投資(2) 第6回：研究開発 第7回：資金の管理・運用(1) 第8回：資金の管理・運用(2) 第9回：税金と配当(1) 第10回：税金と配当(2) 第11回：財務諸表の作成と公開 第12回：企業集団の財務報告(1) 第13回：企業集団の財務報告(2) 第14回：財務諸表による経営分析：収益性の分析、安全性の分析 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本講義を履修するためには、会計学Ⅰを履修しているか、あるいは日本商工会議所簿記検定試験3級レベルの学習を終えている必要がある。本科目の履修は法学部生に限る。法学部生以外の履修は認めない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習の内容】 次回の講義の学習範囲について、教科書を事前に読んでおく。 【復習の内容】 教科書を読みなおし、キーワードを整理するとともに、授業内で取り上げた設例を確認する。		
5. 教科書 『財務会計・入門〔第18版〕』桜井久勝・須田一幸著（有斐閣，2025年） * 開講時に出版されている最新版を使用する。		
6. 参考書 講義では使用しないが、理解を深める上で下記の文献が参考になる。 『財務会計入門（第7版）』田中建二著（中央経済社，2025年） 『企業会計入門－考えて学ぶ 補訂版』齋藤静樹著（有斐閣，2016年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の総評を Oh-o! Meiji システムを通じて配信する。		
8. 成績評価の方法 定期試験 100% 会計に関する資格試験合格に基づく成績評価は行わない。		
9. その他		

9 留学関係科目群

科目ナンバー：(LA)ABR111J		
留学基礎講座 A I		グリフィス, ディビッド
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 This course prepares students for the study of law overseas, with a particular focus on the summer Law Course at the University of Cambridge. Goals: 1. Introduce students to key concepts of Common Law legal systems. 2. Examine key concepts and cases related to various areas of law. 3. Build students' ability to listen to, read, write and talk about various aspects of the law in English. 4. Train legal reasoning and problem-solving abilities. This class is interactive with lots of group activities. Students should expect to participate actively. Regular attendance is required. There is no textbook for this class. The instructor will provide all materials by email and on Oh-o! Meiji portal.		
2. 授業内容 第1回: Introduction; Getting to Know You; course goals 第2回: Unit 0: Speaking empowerment exercises; legal arguing & disagreeing 第3回: Unit 0: Case discussion: the olive case 第4回: Unit 0: Case discussion: the dangerous song case 第5回: Unit 0: Case discussion: non-smoking prisoner case 第6回: Unit 1: YouTube news item: government use of force in international affairs 第7回: Unit 1: YouTube news item: use of torture in war and in domestic contexts 第8回: Unit 1: YouTube news item: pacifism: Article 9 第9回: Unit 1: YouTube news item: coronation issue: separation of Church and State in Japan 第10回: Unit 3: Law in Japan: discussing laws that should be made or changed 第11回: Unit 3: Legal opinion preparation: choose an area of the law you think should change 第12回: Unit 3: Legal opinion preparation: continued 第13回: Unit 3: Legal opinion presentation day: students present views on law changes 第14回: Wrap-up class: students submit written report: feedback. * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 当科目は、所定の要件を満たす者のみ履修できる。詳細は新学期に法学部から配布される履修関連資料を参照すること。(This course is available only for students who meet certain entry requirements. Refer to the registration document from the School of Law Office in April.)		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 This course requires 1-2 hours preparation time per week.		
5. 教科書 No textbook is required. Lecturer will provide all materials online.		
6. 参考書 Instructor will alert students to Internet resources.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Instructor will provide feedback on the Oh-o! Meiji class portal system and also face-to-face in the classroom.		
8. 成績評価の方法 Participation in classes (20%), Small tests (20%), Presentations and Assignments (60%).		
9. その他 Students interested in taking the Cambridge ILEC exam in the future will find this course helpful. * 当科目は英語により授業を実施する。詳細は、新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) ABR111J		
留学基礎講座 A II		グリフィス, ディビッド
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 This course continues from 留学基礎講座 AI. It is also suitable for students potentially interested in pursuing an international legal career or studying law overseas, with a particular focus on the Cambridge Law Course and other legal study abroad programmes. Goals: 1. Introduce key cases and concepts in civil and common law countries. 2. Further development of reading, writing, listening and speaking skills in legal English. 3. Train vocabulary with regular quizzes of key terms and collocations. 4. Introduction to law of contract.		
2. 授業内容 第1回: Introduction to course goals and review of first semester 第2回: Unit 4: Introduction to international legal English: civil vs common law 第3回: Unit 4: Introduction to international legal English: law-making bodies 第4回: Unit 4: Introduction to international legal English: describing statutes 第5回: Unit 4: Introduction to international legal English: courts systems 第6回: Unit 5: YouTube video: war and forgiveness 第7回: Unit 5 YouTube video: continued: discussion: law & morality 第8回: Unit 6: Introduction to contract law: exemption clauses 第9回: Unit 6: Introduction to contract law: exemption clauses 第10回: Unit 7 (English for Contract Law): Consideration 第11回: Unit 7 (English for Contract Law): Breach of Contract/Remedies 第12回: Unit 7 (English for Contract Law): Conditions and Warranties 第13回: Contract Law Case Analysis: GC v Deep Blue Pools 第14回: Contract Law Case Report submission & class wrap-up * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 当科目は、所定の要件を満たす者のみ履修できる。詳細は新学年に法学部から配布される履修関連資料を参照すること。(This course is available only for students who meet certain entry requirements. Refer to the registration document from the School of Law Office in April.)		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 This course requires 1-2 hours preparation time per week.		
5. 教科書 There is no set textbook. Instructor will provide all materials.		
6. 参考書 Instructor will alert students to resources on the Internet and in the library.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Instructor will provide feedback on the Oh-o! Meiji class portal system and also face-to-face in the classroom.		
8. 成績評価の方法 Participation (40%), Assignments (60%).		
9. その他 * 当科目は英語により授業を実施する。詳細は、新年度配布の履修関連資料で確認すること。		

科目ナンバー：(LA) ABR211E		
留学基礎講座 B I		ダン, ジェームス D
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 This class will be delivered using practical and collaborative teaching styles. In this course students will learn and practice the art of public speaking, with an emphasis on Parliamentary Debate. Students will debate both individually and in groups and practice both prepared debate and extemporaneous speaking (impromptu speeches analyzing current events). Most of the course will focus on the in-class Parliamentary debating of major political and ethical issues by examining a variety of social and political issues. Students will be taught case-writing, rebuttals, cross-examination, and critical thinking skills.		
2. 授業内容 第1回: Introduction to Parliamentary debates / team debates 第2回: The Art of Arguing 第3回: Structure of a Debate 第4回: Rebuttals and Cross Examination 第5回: Resolutions 第6回: Affirmative, Negative 第7回: Mid-Term + Preparing for Team Debate 第8回: Practice Debate: Structure/Topics 第9回: Practice Debate: Rebuttals/Cross Exams 第10回: Practice Debate: Resolving a Debate 第11回: Team Debate 1 第12回: Team Debate Review/Evaluations 第13回: Final Team Debate 第14回: Final Test and Final Report * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in English. Regular attendance, completion of homework tasks, and active participation in the classes will be reflected in final grades. Students must show active participation in 75% of classes to pass (unless permission is given for absence).		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students can expect to spend 60-90 minutes outside of class on homework and class preparation for each class session.		
5. 教科書 All materials will be provided by the instructor.		
6. 参考書 Students will be encouraged to make use of the Internet and the library.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be done through in-class evaluations, written feedback from the teacher, and online feedback through digital means.		
8. 成績評価の方法 The final grade will be based on: Homework tasks & general participation (50%) Midterm test/debate (20%). Final test/debate (30%).		
9. その他 Any changes to class contents or other issues due to novel coronavirus situation will be announced in class and announced on Syllabus Supplement page on Oh-o!Meiji.		

科目ナンバー：(LA) ABR211E		
留学基礎講座 B II		ダン, ジェームス D
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 This class will be delivered using practical and collaborative teaching styles. In this course students will share their experiences in the UK, learn about trial law in the USA, and expand on topics introduced throughout this course. This class will go over the process of both pre-trial and during trial activities of defense lawyers with a focus on gaining/using legal vocabulary. Students will have input on the class contents and the focus of the class can be a little fluid.		
2. 授業内容 第1回: Introduction to the course + UK Experience + QnA on the study abroad experience 第2回: Introduce Drama for US Trial Law 第3回: Class 2 of US trial law drama. 第4回: Class 3 of US trial law drama 第5回: Class 4 of US trial law drama 第6回: Class 5 of US trial law drama 第7回: Mid-Term test + Review of Topics covered so far 第8回: Class 6 of US trial law drama 第8回: Class 7 of US trial law drama 第10回: Class 8 of US trial law drama 第11回: Class 9 of US trial law drama 第12回: Student focused content 第13回: Student focused content 第14回: Final Test + Report * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 This course will be conducted entirely in ENGLISH. Regular attendance, completion of in-class tasks, and active participation during the classes will be reflected in final grades. Students must show active participation in 75% of classes to pass (unless permission is given for absence).		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will spend 1- 2 hours a week preparing for class.		
5. 教科書 All materials will be provided by the instructor.		
6. 参考書 Students will be encouraged to make use of the Internet and the library.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be done through in-class evaluations, standardized tests (two), written feedback from the teacher, and online feedback through digital means.		
8. 成績評価の方法 The final grade will be based on: Homework tasks & general participation (50%) Midterm test/debate (20%). Final test/debate (30%).		
9. その他 Any changes to class contents or other issues due to novel coronavirus situation will be announced in class and announced on Syllabus Supplement page on Oh-o!Meiji.		

科目ナンバー：(LA) ABR211J		
留学基礎講座 C I		石田 倫識
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、明治大学法学部主催のケンブリッジ大学夏季法学研修等に向けた準備の一環として、イングランド及びウェールズ（以下、イギリスとする）の法律および司法制度（とくに刑事司法制度）について学びます。 本授業の到達目標は、（１）イギリスの司法制度について基礎的な知識を習得すること（その前提として英語の法律専門用語を修得すること）、（２）日本とイギリスの法制度の比較を通して、日本法（とその特徴）についてのより深い理解を得ること、さらには、（３）日本法について英語で説明できる力を身に付けることです。 なお、本授業では、各受講者にそれぞれの関心に沿った個別の研究テーマについて調査してもらったうえで、当該研究テーマについての報告原稿（英文）を作成してもらう予定です。		
2. 授業内容 第１回：イントロダクション（授業の目的と報告テーマの割り当て等） 第２回：イギリスの司法制度の概要、 第３回：日英の刑事手続の概要 第４回：日英の刑事手続の違い（１）：「精密司法」vs ラフジャスティス？ 第５回：日英の刑事手続の違い（２）：再審制度と刑事事件再審委員会（CCRC） 第６回：第１回グループ報告会 第７回：第２回グループ報告会 第８回：第３回グループ報告会 第９回：第４回グループ報告会 第１０回：第５回グループ報告会 第１１回：第６回グループ報告会 第１２回：第１回個別報告会 第１３回：第２回個別報告会 第１４回：まとめ ＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 本授業は、教員による講義ではなく、主としてゼミナール形式で行われます。受講者は、事前に資料等を収集・精読したうえで、グループ報告および個別報告をすることが求められます。また、授業は日本語で行われますが、授業に用いるテキスト等の資料は基本的に英文となります（そのため、通常の授業よりも予習に多くの時間をかける必要があります）。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 （予習）イギリスの法律および司法制度に関する基礎的なテキスト（下の教科書参照）を精読すること、また、グループ報告で取り上げるテーマについては、可能なかぎり、広く先行研究（日本語文献を含む）に目を通すこと。 （最終課題）各受講者の研究テーマについて、日本語文献・英語文献を可能なかぎり広く渉猟したうえで、当該テーマに関する英文での個人報告原稿（３～５分程度）を作成すること。なお、テーマは日本法に関するものであっても、イギリス法に関するものであっても構わない。		
5. 教科書 特定のテキスト（教科書）を指定することはしないが、イギリスの法制度全般に関する最新の入門書として、D.Kelly, Slapper and Kelly' s The English Legal System (Routledge, 20th ed., 2024) を挙げておく（その他、参考書の欄も参照）。		
6. 参考書 （１）G.Rivlin, First Steps in the Law (Oxford University Press, 7th ed., 2015) （２）M.Thomas & C.McGourlay, Concentrate English Legal System (Oxford University Press, 2nd ed., 2020) （３）M.Partington, Introduction to the English Legal System (Oxford University Press, 15th ed., 2021) （４）A.Gillespie & S.Weare, The English Legal System (Oxford University Press, 8th ed., 2021) （５）P.Hungerford-Welch, Criminal Procedure and Sentencing (Routledge, 10th ed., 2024) （６）新幡大実『イギリスの司法制度』（東信堂、2009 年） （７）戒能通弘＝竹村和也『イギリス法入門』（法律文化社、2018 年） その他、イギリス法の各分野における日本語文献もあるため、自分の研究テーマに関する文献を広く渉猟すること。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の中で、受講者による報告内容について、受講者全員での質疑・意見交換を行ったうえで、担当教員がコメントします。		
8. 成績評価の方法 平常点３０％（積極的な質問・発言等、議論への参加度・寄与度）、報告３０％（事前準備の充実度〔先行研究の調査程度〕）、最終レポート４０％で成績評価を行います。なお、欠席が３回を超えないことを単位認定の条件とします。		
9. その他 本授業はケンブリッジ法学研修に向けた準備の一環です。同研修に参加予定の方は必ず受講するようにしてください。		

1 0 資格課程關係科目群

科目ナンバー：(CC)HIS111J		
日本史概論		伊勢 弘志
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 《概要》 現在の日本社会の前提になっている近現代の国際環境・社会環境を講義する。 私たちの社会が世界の潮流と密接であることを理解するために、歴史学と国際政治学の両分野の視角から、近代～現代とはどのような時代であったのかを学習する。 現在の日本における社会問題・教育問題を自ら分析できるように日本近現代史を学習する。 《到達目標》 1. 近現代とはどのような時代であるのかを知り、その理解の上に現在の日本社会や東アジア情勢の前提が理解できる。 2. 現在の教育問題・歴史認識問題などについて多面的な分析ができる。 3. 「道具としての知識」を実社会や教育の現場で活用するために、「考える力」を訓練する。その上で、「なぜ勉強をするのか？」について応えることができる。 4. 2022 年度より全国の高校で開始された「歴史総合」の課題と意義・留意点を理解できる。		
2. 授業内容 第 1 回： なぜ歴史を学ぶのか？ - 黒船来航から考える 第 2 回： 近代を迎える日本とアジア - 岩倉使節団は何を見たのか？ 第 3 回： 日清戦争とアジア情勢 - 日清戦争が世界に与えた影響とは何か？ 第 4 回： 世界史の中の日露戦争 - 日本が変えた世界史とは何か？ 第 5 回： 第一次世界大戦と国際連盟 - 「総力戦」から世界は何を学んだか？ 第 6 回： 「ワシントン体制」とは何か？ - 「戦争違法化」の世界 第 7 回： 満州事変と連盟脱退 世界秩序への挑戦 第 8 回： 日本はなぜ侵略国になったのか？ 第 9 回： なぜ原爆は 2 発落とされたのか？ - 敗戦と聖断 第 10 回： 東京裁判は何を裁いたか？ - 日本社会の戦争観 第 11 回： 「戦後帝国主義」の登場 - 「55 年体制」と「日米安保」とは何か？ 第 12 回： 「近代化論」とは何か？ - 歴史小説で勉強してはダメなのか？ 第 13 回： 新自由主義の世界 - 自己責任論とは何か？ 第 14 回： 日本の社会と教育		
3. 履修上の注意 知識（内容知）を獲得するだけでなく、知るための調べ方・自身の関心や疑問を自ら解決するための知識（方法知）を獲得し、さらに「考える力」を訓練できるよう留意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ① 教科書は必ず用意すること。 ② 毎時の講義内容について、次の講義までに教科書を読んで理解を深めておくこと。 ③ なぜ勉強をするのか？必死に考えること。		
5. 教科書 伊勢弘志 『明日のための近代史 - 世界史と日本史が織りなす史実』〔増補新版〕（芙蓉書房出版、2023 年）。 ＊ 「増補新版」を用意して下さい。誤って旧版を購入しないこと。買い直さねばならなくなります。		
6. 参考書 伊勢弘志 『明日のための現代史』〔上・下巻〕（芙蓉書房出版、2021～2022 年）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間の前後に教室で対応する。		
8. 成績評価の方法 レポート 100%（およびプラスアルファとしてのリアクションペーパーによる平常点）		
9. その他 初回の授業時に成績評定や単位認定についての詳細を説明します。必ずその内容を把握の上で履修すること。		

本講義では日本の近代～現代を学習します。本講義の履修者で、他の時代を学習したい学生には以下の書籍をお薦めします。

「世界史リブレット」シリーズ（山川出版社）。
『大学の日本史』シリーズ・古代～近代（山川出版社）。
妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』2刷修訂（中央大学出版部、2021年）。

津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年）。
『市民のための世界史』大阪大学歴史教育研究会編（大阪大学出版会、2014年）。
川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年）。

『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997年～2003年）。
『中国の歴史』全12巻（講談社学術文庫）。
岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫、2015年）。
中西竜也・増田知之編著『よくわかる中国史』（ミネルヴァ書房、2023年）。
岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ中国全史』（東洋経済新報社、2019年）。

『日本近世史を見通す』全七巻（山川出版社）。
『シリーズ近世史』全5冊（岩波新書）。
『近世史講義』高埜利彦編（ちくま新書）。

科目ナンバー：(CC)HIS111J		
日本史概論		清水 光明
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 1. 授業の概要・到達目標 近世日本における政治改革と出版統制の概要について、政治過程とメディア環境の双方に留意しながら通時的かつ多角的に考察する。この授業は、上記のテーマについて、具体的な史資料（論文や史料の一部）を通して検討することで、（１）史資料を自分で読み解く能力、（２）史資料から自分で問題をたてる能力、（３）その問題についてさらに自分で調べ考え抜く能力、（４）その調査や思索を他人にも共有可能な文章で的確に表現する能力を鍛えることを目的とする。 授業の運営方法については、おおよそ以下のように進める。〈基礎授業〉（１）主題の解説、（２）史資料の音読と簡単な質疑応答、（３）解説と講義。〈展開授業〉（１）主題の補足説明、（２）史資料の音読と簡単な質疑応答、（３）講義を聴き、史資料を読むなかで生じた自問自答をカード（７００字程度）に書いて提出（なお、カードは教員が添削・採点した上で翌週の授業の際に返却する）。 （１）近世日本における政治改革と出版統制の概要について、基本的な知識や研究史、枠組み等を理解する。 （２）近世日本の政治史・思想史・文化史に関する史料の一部を実際に読んでみる機会を得る。 （３）近世日本の出版統制の変遷と機能を実証的に位置づけることを通して、新聞やニュース等で接する現代日本や世界の表現や検閲等に関する諸事象への認識を深める機会を得る。		
2. 授業内容 第１回：ガイダンス 第２回：主題１基礎 政治と出版の歴史を考える（１）—日本近世史の研究動向から— 第３回：主題１展開 政治と出版の歴史を考える（２） —中国史・フランス史の研究動向から— 第４回：主題２基礎 享保改革と出版統制（１）—片島武矩と『赤穂義臣伝』— 第５回：主題２展開 享保改革と出版統制（２）—並河誠所と『五畿内志』— 第６回：主題３基礎 寛政改革と出版統制（１）—蔦屋重三郎と三侯中洲— 第７回：主題３展開 寛政改革と出版統制（２）—幕府編纂事業の展開と林述斎・中井竹山— 第８回：主題４基礎 天保改革と出版統制（１）—中西忠蔵活字版一件と古賀侗庵— 第９回：主題４展開 天保改革と出版統制（２）—板倉勝明と『甘雨亭叢書』— 第１０回：主題５基礎 明治維新とメディア環境（１）—対外情報と風説留— 第１１回：主題５展開 明治維新とメディア環境（２）—公論と暴力— 第１２回：主題６基礎 比較史的考察（１）—中国史との対照— 第１３回：主題６展開 比較史的考察（２）—フランス史との対照— 第１４回：まとめ		
3. 履修上の注意 剽窃・コピー、ChatGPT の使用は厳禁です。コメントを提出しても無効になりますので、御注意ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる。		
5. 教科書 プリント史資料が基本。それ以外は、授業の際に適宜紹介する。		
6. 参考書 上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門——ようこそ研究の世界へ！』（勉誠社、２０２４年）を手にとると理解が深まるであろう。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ２回に１回提出してもらったカードに点数とコメントを付して返却する。		
8. 成績評価の方法 ６つの主題の展開授業の際のカードの計６回の記述内容を、１回２０点満点で評価する。合計９５点以上Ｓ、８０点以上Ａ、７０～７９点Ｂ、６０～６９点Ｃ。５０点～５９点の人には追加小レポートを課す。		
9. その他 配布する史資料には、現代日本語のみならず、候文等の和漢文や古文体・漢文体・漢文訓読体のものが含まれているので、事前に難語を辞書で調べ音読の予習をしっかりと行うこと。		

科目ナンバー：(CC)HIS111J		
日本史概論		長沼 秀明
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 教職課程「教科に関する科目」（「共通講座」）として、日本史を教えるために必要な基礎的知識を実践的に学びます。 《授業の到達目標およびテーマ》 高等学校で「歴史総合」および「日本史探究」の授業を担当することを想定し、ある学校の授業例を参考にしつつ、日本の近現代史に関する基礎的な知識を学びます。中学校「社会」の授業を担当する際にも大いに役立つ内容です。		
2. 授業内容 第 1 回 ガイダンス、「日本史 A」の目標および内容 第 2 回 動揺する江戸幕府—内憂外患への対応— 第 3 回 開国 第 4 回 明治維新 第 5 回 自由民権運動，大日本帝国憲法（その 1） 第 6 回 自由民権運動，大日本帝国憲法（その 2） 第 7 回 条約改正，日清戦争（その 1） 第 8 回 条約改正，日清戦争（その 2） 第 9 回 日露戦争 第 10 回 第一次世界大戦 第 11 回 大正・昭和初期の経済と対外関係 第 12 回 昭和恐慌から二・二六事件へ，戦争の時代 第 13 回 敗戦と占領・戦後改革，講和から高度経済成長時代へ 第 14 回 a. まとめ b. 試験 * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 1) 教職課程認定科目であることを十分に認識してください。 2) いわゆる出席点はありません。 3) 授業時間は最大限に使います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回，事前に指示した課題に真剣に取り組み，積極的に参加してください。		
5. 教科書 つぎの二冊が教科書です。二冊ともに毎回の授業で使用します。 (1) 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 地理歴史編』 (2) 『日本史 A—現代からの歴史—』（高等学校地理歴史科用文部科学省検定済教科書 2—東書—日 A308）（東京書籍，2024 年）（本体価格 705 円） ※ 詳細は初回の授業で指示します。		
6. 参考書 毎回の授業のなかで紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に授業の一環として伝えます。		
8. 成績評価の方法 定期試験の得点および毎回の授業で提出してもらう「解答票」を総合的に判定し，厳正に行ないます。具体的な割合は，試験の得点 55%，毎回の授業の成果 45%を原則とします。		
9. その他 「Oh-o! Meiji システム」の積極的な活用をはかります。		

科目ナンバー：(CG)HIS121J		
東洋史概論		鈴木 直美
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業では高校の歴史総合・世界史探求、および中学社会科の授業を運営するに十分な基礎知識と新しい研究動向について講義する。具体的には7世紀から20世紀末までの中国史の流れを概観し、中国の政治・経済・社会の動向を世界史的背景から理解できるよう説明する。中国史を講義の軸とするのは、農耕と遊牧という異質の社会システムや環境、生活・文化が接しながら新しい時代を育むという、日本にはない特色あるからである。 また、伝統的な華夷意識にもとづく「帝国」が、19世紀以降いかにして近代国家へと変革を遂げたかを学ぶことは、地域によって異なる「近代化」のプロセスを比較する材料となる。そして、現在の多民族国家としての中国が形成されてきた過程を長期的視野からとらえることで、中国社会やアジアが抱える諸問題を深く理解できるだろう。本授業を通じて、アジアという広い地域の特質を歴史的な視点で考えるその手法を学んでほしい。		
《到達目標》 1. 中学・高校での授業を行うに十分な知識と教養を習得する。 2. 中国社会のあり方を歴史的背景から理解する。 3. 歴史学の思考方法を身につけ、様々な歴史的事象について多角的な視点から考察できる。		
2. 授業内容 各回の授業内容は以下の通り。 1. ガイダンス / 「中国」とは何か 2. 農耕社会と遊牧社会 3. 隋唐王朝と国際関係 4. 唐宋変革とは何か 5. モンゴル帝国とユーラシア 6. 明朝と大航海時代 / 小テスト 7. 清朝の平和 8. 清朝と近代世界 9. 中国ナショナリズムと辛亥革命 10. 第一次世界大戦と中国社会 11. 抗日戦争から中華人民共和国へ 12. 社会主義体制の構築 13. 現代中国の諸問題 14. 試験と解説 授業の進行状況によって内容を変更する場合がある。		
3. 履修上の注意 高校時代の世界史の内容を復習しておくこと。 世界史を履修していない、もしくは現代史など学習していない範囲がある場合は下記書籍を読んでおくのが望ましい。 「世界の歴史」編集委員会『もういちど読む山川世界史』（山川出版社、2009年）		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 クラスウェブから資料を配布するので内容を予習・復習すること。		
5. 教科書 クラスウェブから資料（PDF）を配布する。		
6. 参考書 岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、2015年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要時応じてクラスウェブのコメント機能を使用する。		
8. 成績評価の方法 1. 小テスト（30%）・期末試験（70%）による。 （1）第6回授業で小テストを行う。 （2）期末試験は記述式で行う。単語の羅列や意味の不明な文章は解答とみなさず、単位を認定しない。 2. 出席回数が第2回から第13回の間に9回未満の場合には単位認定の対象としない。		

9. その他

1. クラスウェブの出欠確認機能と小テスト機能を使用するのでスマートフォン・パソコンなどを持参のこと。
2. 授業で使用する資料は事前にクラスウェブから PDF で配付する。感染防止のため授業時に紙媒体での配布をしないので授業前に自分でダウンロードや印刷をしておくこと。
3. 本授業を補完する書籍は以下の通り。
 - (1) 世界史全体にかかわる書籍
妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』2刷修訂（中央大学出版部、2021年）
『市民のための世界史』大阪大学歴史教育研究会編（大阪大学出版会、2014年）
川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年）
世界史リブレットシリーズ（山川出版社）※歴史学の様々なテーマについてわかりやすく解説している。
 - (2) 中国史についての概説書
津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年）。
中西竜也・増田知之編著『よくわかる中国史』（ミネルヴァ書房、2023年）。
岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ中国全史』（東洋経済新報社、2019年）。
『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997年～2003年）。
『中国の歴史』全12巻（講談社学術文庫）。
 - (3) 日本史にかかわる書籍
『大学の日本史』シリーズ（山川出版）
『日本近世史を見通す』（全7巻／山川）
高埜利彦編『近世史講義』（ちくま新書）
『シリーズ近世史』（全5冊／岩波新書）

科目ナンバー：(CC)HIS121J		
東洋史概論		石野 智大
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、時間的・空間的な広がりをもつ中国の政治と社会について、周辺地域との関係も視野に入れながら概観する。また、それらを通して、受講生各自が中国史に関する基本的な知識を習得することを目的とする。 長きにわたる中国の歴史を理解する際には、その大きな流れを捉えることが重要な意味を持つ。そのため、教職課程科目である本授業でも、その部分に力点をおいて講義を進める。とくに本授業では、人びとの生活環境の違い、文明の多元性、領域統治の方法、人的結合のあり方、統一王朝の形成・崩壊過程、諸民族の躍動と自立化、大規模な環境変化の影響、対内・対外政策の連動性、宗教・文化と政治とのかわりなどに注目しながら、中国文明の誕生から清末までの前近代中国の歴史的推移を追っていく。		
2. 授業内容 第1回：中国文明の誕生 第2回：初期王朝の形成 第3回：春秋戦国時代の政治と文化 第4回：秦漢帝国の成立と崩壊（1） 秦～前漢前半 第5回：秦漢帝国の成立と崩壊（2） 前漢後半～後漢 第6回：魏晉南北朝時代の政治と諸民族の動向 第7回：隋唐王朝の形成と変容（1） 隋 第8回：隋唐王朝の形成と変容（2） 唐 第9回：五代・北宋の展開 第10回：南宋時代の政治と文化 第11回：モンゴル帝国と元朝の中国支配 第12回：明代の国内政治と対外政策 第13回：清代の政治的展開と皇帝制度の終焉 第14回：a 本授業のまとめ b 期末試験		
3. 履修上の注意 高校で「世界史」前近代部分を十分に履修しなかった方も歓迎します。 授業では中国史の大きな流れを理解するように心がけてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 履修前の事前学習としては、高校世界史教科書の中国史関連部分を一読しておくといよいと思います。 授業開始後は、授業外学習として下記の「参考書」を積極的に読まれることを希望します。 また、授業で学習した内容は毎回復習し、理解を定着させることが大切です。		
5. 教科書 指定しません。授業時に適宜プリントを配布します。		
6. 参考書 尾形勇・岸本美緒編『中国史』上・下（山川出版社、2019年） 津田資久・井ノ口哲也編『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年） より専門的な理解を深めるには、以下の概説書をおすすめします。 『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997年～2003年） 『中国の歴史』全12巻（講談社、2004年～2005年、講談社学術文庫版あり）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に解説や講評などのフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業への取り組み、リアクションペーパーなど）30%、期末試験 70%		
9. その他 個別の質問・相談は随時対応いたしますので、授業後にお願いします。		

科目ナンバー：(CC)HIS131J		
西洋史概論		小野寺 利行
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 ヨーロッパの中世・近世の歴史を概観する。前近代ヨーロッパ史の流れや基本的な事項を、経済史の視点を通して学ぶことを目的とする。農業・手工業・商業がどのように展開していったのか、そしてそれによってヨーロッパ内外のさまざまな地域の結びつきがどのように変化していったのかをみていくことで、工業化や世界の一体化を実現する以前のヨーロッパの姿を理解したり、ヨーロッパ世界の歴史的な変化を考えたりするための手がかりつかむことを目指したい。		
2. 授業内容 以下のように授業を進めていく予定だが、状況に応じて変更することもある。 1. イントロダクション 2. 中世の社会 3. 中世の農村と農業 4. 中世の都市と手工業 5. 中世の都市と商業 6. 中世の商人と商業 7. 近世の社会 8. 近世の農業 9. 近世の手工業 10. 近世の商業 11. 近世のヨーロッパ経済 12. 近世の世界経済 13. 産業革命 14. (a) まとめ／(b) テスト		
3. 履修上の注意 高校世界史の教科書や参考書、後掲の参考書などに目を通して、ヨーロッパの中世から近代までの大まかな流れをおさえておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、参考文献に目を通して次回授業の内容を大まかにつかみ、自分なりの疑問点・課題をもって授業に臨むこと。復習では、授業で配付した資料や参考文献を利用してノートのまとめ・整理・補足などを行ない、授業内容をまとめる課題や質問などを作成すること。		
5. 教科書 特定の教科書は使用せず、資料を Oh-o! Meiji で配付する。		
6. 参考書 授業中に随時紹介するが、さしあたり基本的な文献を挙げておく。 ・『世界の歴史』編集委員会（編）『新 もういちど読む山川世界史』山川出版社、2017 年 ・『もういちど読む山川世界史 PLUS ヨーロッパ・アメリカ編』木村靖二ほか（山川出版社） ・『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』服部良久ほか（ミネルヴァ書房） ・『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』小山哲ほか（ミネルヴァ書房）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは後日授業中に行なう。		
8. 成績評価の方法 ・学期末試験（70%） ・課題（30%）		
9. その他		

科目ナンバー：(CC)HIS131J		
西洋史概論		小野寺 利行
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 ヨーロッパの中世・近世の歴史を概観する。前近代ヨーロッパ史の流れや基本的な事項を、経済史の視点を通して学ぶことを目的とする。農業・手工業・商業がどのように展開していったのか、そしてそれによってヨーロッパ内外のさまざまな地域の結びつきがどのように変化していったのかをみていくことで、工業化や世界の一体化を実現する以前のヨーロッパの姿を理解したり、ヨーロッパ世界の歴史的な変化を考えたりするための手がかりつかむことを目指したい。		
2. 授業内容 以下のように授業を進めていく予定だが、状況に応じて変更することもある。 1. イントロダクション 2. 中世の社会 3. 中世の農村と農業 4. 中世の都市と手工業 5. 中世の都市と商業 6. 中世の商人と商業 7. 近世の社会 8. 近世の農業 9. 近世の手工業 10. 近世の商業 11. 近世のヨーロッパ経済 12. 近世の世界経済 13. 産業革命 14. (a) まとめ／(b) テスト		
3. 履修上の注意 高校世界史の教科書や参考書、後掲の参考書などに目を通して、ヨーロッパの中世から近代までの大まかな流れをおさえておくことが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、参考文献に目を通して次回授業の内容を大まかにつかみ、自分なりの疑問点・課題をもって授業に臨むこと。復習では、授業で配付した資料や参考文献を利用してノートのまとめ・整理・補足などを行ない、授業内容をまとめる課題や質問などを作成すること。		
5. 教科書 特定の教科書は使用せず、資料を Oh-o! Meiji で配付する。		
6. 参考書 授業中に随時紹介するが、さしあたり基本的な文献を挙げておく。 ・『世界の歴史』編集委員会（編）『新 もういちど読む山川世界史』山川出版社、2017 年 ・『もういちど読む山川世界史 PLUS ヨーロッパ・アメリカ編』木村靖二ほか（山川出版社） ・『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』服部良久ほか（ミネルヴァ書房） ・『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』小山哲ほか（ミネルヴァ書房）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは後日授業中に行なう。		
8. 成績評価の方法 ・学期末試験（70%） ・課題（30%）		
9. その他		

科目ナンバー：(CC)HIS131J		
西洋史概論		渡辺 知
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 15 世紀のポルトガル、スペインのヨーロッパ外への進出に始まる世界の一体化の過程を世界システム論の観点から概観し、ヨーロッパ近代の歩みが世界の諸地域に与えた影響について考えてみたいと思います。ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在の社会といかに関係するのか、あるいは、一地域の動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。		
2. 授業内容 以下の通り授業を進める予定ですが、進行具合によって若干の変更を加えることもあります。 第1回 世界の一体化 この講義のテーマについて説明します。 第2回 大航海時代以前のヨーロッパ 1 11～13 世紀のヨーロッパの経済、社会について説明します。 第3回 大航海時代以前のヨーロッパ 2 14 世紀以降ヨーロッパで危機的状況が深まっていく過程を説明します。 第4回 ポルトガルとアジア ポルトガルがアフリカ、アジアに進出していく過程とその影響について説明します。 第5回 スペインとアメリカ 1 スペインのアメリカ進出の過程とアメリカに与えた影響について説明します。 第6回 スペインとアメリカ 2 スペインのアメリカ進出がスペインと世界の一体化に与えた影響について説明します。 第7回 17 世紀のヨーロッパ 「17 世紀の危機」論争を紹介しつつ、西ヨーロッパ諸国の台頭を説明します。 第8回 第一次イギリス帝国の形成 イギリスがオランダ、フランスと対立しながらその帝国を形成する過程を説明します。 第9回 イギリス商業革命 イギリスの帝国形成がイギリスの経済、社会に与えた影響について説明します。 第10回 西インド諸島と砂糖 イギリスの植民地支配が西インド諸島に与えた影響について説明します。 第11回 アフリカと大西洋奴隷貿易 イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国による大西洋奴隷貿易の展開とその影響について説明します。 第12回 フランス革命と環大西洋革命 1 フランス革命の展開について説明します。 第13回 フランス革命と環大西洋革命 2 フランス革命をその時期大西洋の両岸で起きた出来事と関連付けながらその意義を説明します。 第14回 a まとめ b 試験		
3. 履修上の注意 西洋の歴史に興味のある方はもちろん、これまで歴史になじみがなかった方の受講も歓迎します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した問題について参考文献等で調べてください。授業前に前回の授業ノート、参考文献を見返し、まとめておいてください。		
5. 教科書 特に定めません。		
6. 参考書 参考文献として以下の文献を紹介しておきます。授業で随時、紹介してきます。 川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016 年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業でコメントします。		
8. 成績評価の方法 授業の区切りに授業内容のまとめや感想を書いて頂き、これを平常点とします。学期末には試験を行い、成績はこれらの総合評価とします（学期末試験 80%、平常点 20%）。		
9. その他 オフィスアワーは最初の授業でお知らせします。		

科目ナンバー：(CC)GE0111J		
人文地理学概論		高橋 珠州彦
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 人文地理学は人間活動の空間的諸相に関わる学問分野である。本授業科目は、人文地理学の見方・考え方を身につけてもらうことを狙いとする。今日、人文地理学の研究対象またはアプローチは多様性に満ちているが、本科目は地図の種類と活用法も学んだ上で、特に景観的視点、空間構造的視点を理解するために、人文地理学の知識体系及び地図やフィールドワーク、地理情報システムなどの地理学研究の基本的方法を講義する。 本授業を通して、受講者は人文地理学を構成する各々の研究分野の歴史や基本概念について、具体例をとって地理学がいかなる学問であるかを理解し、説明できるようになることを到達目標とする。また、人間の生活・活動・行動が展開する空間、場所、環境に対する深い認識と説明力を習得し、地理学の見方で身近な空間を理解できるようになることも求められる。		
2. 授業内容 第1回 地理学・人文地理学とは何か ～講義概要等について確認・説明～ 第2回 地図の歴史と地理学1 ～世界図の歴史～ 第3回 地図の歴史と地理学2 ～日本の絵図と地図～ 第4回 現代地理学の定義 ～研究分野の分け方～ 第5回 現代地理学の理論1 ～中心概念：空間、場所、環境～ 第6回 現代地理学の理論2 ～「立地」の考え方～ 第7回 現代地理学の課題と人文社会 ～人文地理学の諸分野と研究対象～ 第8回 様々な事象を結びつけて分析する地理学 ～「生活文化」を地理学の視点で考える～ 第9回 地図の基本と応用 ～地図・地図の学習はなぜ必要か～ 第10回 フィールドワークとは ～地域を調査する意義と方法～ 第11回 地理情報システムの基本と利活用 ～空間情報・地理情報とは何か～ 第12回 地理学の視点で地域を考える（事例解説）1 ～東京大都市圏の現状と課題～ 第13回 地理学の視点で地域を考える（事例解説）2 ～近郊農業地域の現状と課題～ 第14回 課題レポートへの取り組み・全体の総括		
3. 履修上の注意 中学校や高等学校で学んだ「社会科地理的分野」「地理歴史科地理分野」の学習内容を、本科目の予備知識として持っていることが望ましい。高等学校で地理科目を履修していない場合や、中学校・高等学校での学習内容が予備知識として備わっていない場合は、必ず事前に復習しておく必要がある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「2. 授業内容」記載の内容や、毎回の授業で行う次回授業の予告を参考に、関連する内容について自主的に「6. 参考書」掲載の書籍で予習を行う。また、高等学校までの学習内容も復習し、授業内容の理解に努める。授業終了後は、授業内で扱った事例や専門知識について、各自の理解度に応じて参考書等で内容を確認し、理解の定着を図る。		
5. 教科書 特に定めない。		
6. 参考書 高等学校で使用した、地理の教科書、地図帳を手元に用意し、必要に応じて参照する。 そのほか、以下の概説書に目を通し、理解を深めるよう努める。 『地理学入門〈改訂版〉』浮田典良、原書房。 『地理学概論（地理学基礎シリーズ1）』上野和彦ほか編、朝倉書店。 『自然地理学概論（地理学基礎シリーズ2）』矢ヶ崎典隆ほか編、朝倉書店。 『地誌学概論（地理学基礎シリーズ3）』高橋日出男ほか編、朝倉書店。 『ジオ・パル NEO—地理学・地域調査便利帖』野間晴雄・香川貴志ほか、海青社。 『人文地理学』竹内克行ほか編、ミネルヴァ書房。 『地理学への招待』中村和郎ほか編、古今書院。 『地域と景観』中村和郎ほか編、古今書院。 『文化地理学入門』高橋伸夫ほか、東洋書林。 『現代都市地理学』北川健次編、古今書院。 『新しい都市地理学』高橋伸夫ほか、東洋書林。 『生活文化の地理学』小口千明ほか編、古今書院。 『まちの地理学 まちの見方・考え方』牛垣雄矢、古今書院。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業終了時にリアクションペーパーを兼ねた小レポートの提出を求める。この小レポートに記載された内容から、受講者の理解度を確認し、質問等を受け付ける。翌週の授業では、小レポートで提示された質問や疑問に対して、全体にフィードバックを行う時間を設定する。質問や疑問などを共有することで、受講者間の学習の共有を図る。各自の学習成果として取り組む最終回の課題レポートについては、必要に応じて質問等に応じるが、全体へのフィードバックは行わない。		
8. 成績評価の方法 最終の課題レポート：70% 毎回の小レポート：20% 授業への参画（授業内での活動やリアクションペーパー）：10% 最終の課題レポートの記述内容は、本科目の受講を通した最終的な成果として重視する。		
9. その他		

科目ナンバー：(CC)GE0121J		
自然地理学概論		若松 伸彦
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 自然地理学はその地域の気候、地形、水文、植生等の自然環境を総合的に捉える学問分野である。地理というと、社会科の一科目であり、事象の暗記科目と思われがちである。しかし自然地理学は、実際には私たちの身のまわりにある自然環境がどのようなものを理解し、その仕組みや因果関係を学ぶことが非常に大切である。本講義は、自然環境に関する基礎的な知識を身に着け、総合的に自然環境を捉える能力を身に着けることが目標である。このような能力を身に着けることで、自然災害や地球環境問題に対しての正しい対処が可能になる。		
2. 授業内容 第1回 a：自然地理学の見方・考え方（ガイダンス） b：自然地理学の基本 第2回：惑星としての地球 第3回：地震の仕組み 第4回：火山 第5回：岩石と地層 第6回：地形の基本 第7回：平野の地形 第8回：山地の地形 第9回：河川の地形 第10回：氷河地形、周氷河地形と海岸の地形 第11回：地球のエネルギー収支と大気大循環 第12回：世界の気候と植生 第13回：日本の気候と植生 第14回 a：講義のまとめ b：試験		
3. 履修上の注意 積極的な授業の参加を望む。授業内容はいわゆる理系の地学の領域を含むが、文系学生でも理解できる内容である。自然地理の基本的な知識から最新の環境問題まで、講義では幅広く扱う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に web システムによってプリントを配布するので、必ず印刷をして持参すること。 プリントは図表及び板書を補助するためのプリントであり、復習や授業後の整理を行うことが望ましい。		
5. 教科書 『新詳高等地図』（帝国書院）2019 年 高校時代に地図帳を購入している者は代用しても良い。 他に教科書は定めないが、参考書があると授業の理解が進む。		
6. 参考書 『みわたす・つなげる自然地理学』 小野映介・吉田圭一郎 編（古今書院）2021 年 『自然地理学概論』高橋日出男・小泉武栄編著（朝倉書店）2008 年 『上高地の自然誌』上高地自然史研究会編（東海大学出版会）2016 年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける		
8. 成績評価の方法 講義態度 10%，期末試験 90%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(CG)GE0121J		
地誌学概論		内藤 芳宏
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 教職課程におかれている「地誌学概論」であることを考慮し、中学・高等学校の教員に求められる地誌学の基礎・基本から専門領域に加えて、既存の概念から応用する授業事例も触れていきたい。地理は知らない土地の知らない人たちや自然に対する好奇心から成り立っている。とくに地誌学は特定地域における自然と人文の諸事象とその関係を考察し、地域的な特徴を究明すること、すなわち地域を知ることが目的とされる。地誌学の楽しみを得ることで、将来のあなたの教え子たちに還元するための糸口になることを目指したい。なお 2022 年度より高等学校で必修化された「地理総合」では地誌を扱わないが地図学習は入るため、それを意識した内容とした。また続く科目の「地理探究」で地誌的内容を扱うことを意識したい。		
2. 授業内容 第 1 回：オリエンテーション 地誌学を学ぶということ 第 2 回：地誌学の基礎①学校教育の地誌とは 第 3 回：地誌学の基礎②日本を扱う（都市近郊） 第 4 回：地誌学の基礎③日本を扱う（農山村部） 第 5 回：地誌学の展開①専門性を活かした地誌 地形図の活用（段彩図） 第 6 回：地誌学の展開②専門性を活かした地誌 地形図の活用（谷と尾根） 第 7 回：地誌学の展開③専門性を活かした地誌 地形図の活用（土地利用図） 第 8 回：地誌学の展開④専門性を活かした地誌 統計地図の活用 第 9 回：地誌学の展開⑤専門性を活かした地誌 フィールドワーク・校外学習 第 10 回：地誌の授業実践①旅をつくる 第 11 回：地誌の授業実践②空間認識と時差 第 12 回：地誌の授業実践③アルプス山脈の暮らしを事例とした授業展開例 第 13 回：地誌の授業実践④小さな国の環境大国 第 14 回：学期末試験 ※内容の順番を入れ替え場合があるが、		
3. 履修上の注意 授業にきちんと出席し、学ぶ姿勢を示すこと。また毎回授業に関する「リアクションペーパー」の提出を求める。教職を目指す履修者の皆さんに求められるマナーは誠実であること。受講者は教員を目指すからには、揺るぎない自らに負けない真剣な姿勢を求めたい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習を大切にすること。とくに地誌は地理的位置関係および付随する情報が講義で扱われる。今日の授業で何を学んだのか、確実に理解すること。そのためにはノートの整理が肝要である。		
5. 教科書 教科書はとくに指定しない。映像資料やプリントを教科書代わりに使用する。ただし地理は地名や位置をその都度確認するためにも、高校時代に地理の授業で使用した地図帳を用意しておくこと（高校時代に地理の授業を受けていない者は同等のものを用意しておくこと）。また 5 回目の講義から国土地理院発行の地形図(国土地理院発行 1/25000 地形図「赤穂」を各自で購入)を用いた作業も行う。作業の際は 12 色の色鉛筆(小中高時代に買ったもので十分)と一緒に用意すること。 ※地形図は予め各自で購入しておくこと。初回の授業を受け、履修を確定次第用意することが望ましい。なお各自で国土地理院サイトから最寄りの国土地理院発行地形図の販売書店を探し、時間的ゆとりをもって購入しておくこと。すぐに入手できるとは限らない。買い求めた地形図は折らずに、筒状にして輪ゴムなどで留めて持参するように。		
6. 参考書 地理・地誌に関わる入門書として以下を紹介する。 大野新・竹内裕一編『世界をつなぐ地理総合の授業』 地理教育研究会編『地理で読み解く現代世界-授業のための世界地理』古今書院 今尾恵介『地図帳深読み』帝国書院 矢ヶ崎典隆ほか『地誌学概論(第 2 版)』朝倉書店		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に指示する簡単な課題(例えば、自身の出身地を中高生の地理の授業で扱う場合のキーワード等)をその後の授業で紹介し、受講している学生諸君同士の参考にすべくフィードバックする。また地形図作業は終了後提出したものを評価し返却する。		
8. 成績評価の方法 毎回出席をとる。3 分の 1 を休んだ者には単位は与えられない。成績評価は学期末試験 60%、平常点（提出物および授業への貢献度）40%等を総合的に判断する。		
9. その他		

科目ナンバー：(CC)S0C111J		
社会学概論		パッハー, アリス
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 この講義では、社会学の基礎概念を理解しつつ、「多様性」「グローバル化」に焦点を当てながら、社会学を使いこなしていく。日本独自の社会問題・現象もあれば、グローバルに関係する問題・現象も存在する。そのため、各テーマについて代表的な社会学者の理論を取り上げつつ、当該テーマでの日本と他国の事例を分析する。こうした、他国・地域の社会における文化・生活様式等の現代日本社会と異なる箇所を理解することを通して、相対的に自分が身を置く日本文化・社会の理解にも繋げていく。この講義は「概論」科目であるため、社会学の基礎概念を幅広いテーマを通して理解していく。		
2. 授業内容 第1回：授業説明、社会学とは何か ① 「オンデマンド」 第2回：社会学とは何か ② 「オンデマンド」 第3回：社会的相互行為と日常生活 ① 「オンデマンド」 第4回：社会的相互行為と日常生活 ② 「オンデマンド」 第5回：家族とライフコース「オンデマンド」 第6回：性教育「オンデマンド」 第7回：社会的組織・個人化・環境「対面授業」 第8回：文化と再生産「対面授業」「対面授業」 第9回：「ハーフ」「ミックスルーツ」の社会学「対面授業」 第10回：恋愛・ジェンダー「対面授業」 第11回：恋愛・セクシャリティ「対面授業」 第12回：教育・格差・階層化「対面授業」 第13回：環境運動「対面授業」 第14回 a：全体のまとめ 第14回 b：期末試験		
3. 履修上の注意 本講義は4月・5月中旬までオンデマンド形式で授業を実施し、5月中旬以降からは通常通り対面形式で授業を実施する。 対面形式の場合、小グループに分かれてディスカッションをすることもある。 また、授業で利用するパワーポイントをよく理解してほしい。講義の資料は講義の前日に oh-o!meiji にアップロードする。 毎回、講義に対してのコメントシートの提出を求め、出席確認と理解度確認を行う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 常日頃の出来事から社会学に関心を持ち、考えていくこと。		
5. 教科書 特定の教科書は定めない。		
6. 参考書 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、『新版 社会学 Sociology: Modernity, Self and Reflexivity, 2nd ed.』, 有斐閣, 2019 年。 筒井淳也・前田泰樹『社会学入門-社会とのかかわり方』, 有斐閣, 2019 年。 田中正人・香月孝史、『社会学用語図鑑』, プレジデント, 2019 年。 アンソニー・ギデンズ『社会学 第5版』, 而立書房, 2019 年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 コメントシートの全体講評を各講義で紹介する。		
8. 成績評価の方法 定期試験により評価を行う（受講人数により、定期試験（70%）＋コメントシート（30%）により評価を行う場合もある）。各講義の課題を未提出の者、期末試験を受けなかった者は、いずれも不可とする。		
9. その他 英語の文献を用いることもある。受講者の関心によって内容を変える場合もある。		

科目ナンバー：(CC)S0C111J		
社会学概論		パッハー, アリス
2 単位	駿河台キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 この講義では、社会学の基礎概念を理解しつつ、「多様性」「グローバル化」に焦点を当てながら、社会学を使いこなしていく。日本独自の社会問題・現象もあれば、グローバルに関係する問題・現象も存在する。そのため、各テーマについて代表的な社会学者の理論を取り上げつつ、当該テーマでの日本と他国の事例を分析する。こうした、他国・地域の社会における文化・生活様式等の現代日本社会と異なる箇所を理解することを通して、相対的に自分が身を置く日本文化・社会の理解にも繋げていく。この講義は「概論」科目であるため、社会学の基礎概念を幅広いテーマを通して理解していく。		
2. 授業内容 第1回：授業説明、社会学とは何か ① 第2回：社会学とは何か ② 第3回：社会的相互行為と日常生活 ① 第4回：社会的相互行為と日常生活 ② 第5回：社会的組織・個人化・環境 第6回：文化と再生産 第7回：「ハーフ」「ミックスルーツ」の社会学 第8回：家族とライフコース 第9回：性教育 第10回：恋愛・ジェンダー 第11回：恋愛・セクシャリティ 第12回：教育・格差・階層化 第13回：メディアとコミュニケーション 第14回 a：全体のまとめ 第14回 b：期末試験		
3. 履修上の注意 「社会学概論」は講義形式で行うが、小グループに分かれてディスカッションをすることもある。 また、授業で利用するパワーポイントをよく理解してほしい。講義の資料は講義の前日に oh-o!meiji にアップロードする。 毎回、講義に対してのコメントシートの提出を求め、出席確認と理解度確認を行う。 また、特に11月～1月の間に2、3回はオンデマンドで授業を行うこともあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 平日頃の出来事から社会学に関心を持ち、考えていくこと。		
5. 教科書 特定の教科書は定めない。		
6. 参考書 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、『新版 社会学 Sociology: Modernity, Self and Reflexivity, 2nd ed.』, 有斐閣, 2019年。 筒井淳也・前田泰樹『社会学入門-社会とのかかわり方』, 有斐閣, 2019年。 田中正人・香月孝史、『社会学用語図鑑』, プレジデント, 2019年。 アンソニー・ギデンズ『社会学 第5版』, 而立書房, 2019年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 コメントシートの全体講評を各講義で紹介する。		
8. 成績評価の方法 定期試験により評価を行う（受講人数により、定期試験（70%）＋コメントシート（30%）により評価を行う場合もある）。各講義の課題を未提出の者、期末試験を受けなかった者は、いずれも不可とする。		
9. その他 英語の文献を用いることもある。受講者の関心によって内容を変える場合もある。		

科目ナンバー：(CC)ECN111J		
経済学概論		呉 東錫
2 単位	駿河台キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 経済学、経済統計の基本的概念を習得することにより、経済現象や景気動向を自分の頭で系統立てて理解するために必要な「視点」を身に付けることを目指します。個々の知識を単に詰め込むのではなく、「経済についての見方・考え方」の基礎を構築することに重点を置きます。		
2. 授業内容 第1回 経済学の十大原理 第2回 相互依存と交易（貿易）からの利益 第3回 需要と供給の作用 第4回 需要、供給、および政府の政策 第5回 消費者、生産者、市場の効率性 第6回 外部性 第7回 国民所得の測定 第8回 生計費の測定 第9回 生産と成長 第10回 失業 第11回 貯蓄、投資と金融システム 第12回 総需要と総供給 第13回 解放マクロ経済学 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 前提となる知識は特になし。経済学の知識を現実にあてはめるために、経済指標、景気や経済動向、経済政策などに気を配ってほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書の該当箇所を読み、次回の授業内容に関する専門用語については辞典などで調べる。復習として、教科書の章末にある練習問題を解くこと。		
5. 教科書 N・グレゴリー・マンキュー（2019）『マンキュー入門経済学（第3版）』東洋経済新報社。		
6. 参考書 N・グレゴリー・マンキュー（2019）『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第4版）』東洋経済新報社。 N・グレゴリー・マンキュー（2019）『マンキュー経済学Ⅰ マクロ編（第4版）』東洋経済新報社。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックはO-oh!Meijiのディスカッション機能などを通じて行う。		
8. 成績評価の方法 期末試験 60%、課題・平常点 40%を目安に総合的に評価する。		
9. その他 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		

科目ナンバー：(CC)ECN111J		
経済学概論		深澤 竜人
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 《授業の到達目標及びテーマ》 経済の有名な理論を解りやすく、初心者であっても理解できていくように解説していく。講義終了時には、経済学の一応の概論・基礎は了解され、自身でもそれなりの書物が読み進めていけるような段階になれるように傾けていく。 《授業の概要》 現代にも通じる代表的また有名な経済学派の経済理論、これらを歴史的に追いかけてながら説明していく。また現実の日本経済、そして統計的な資料、日用使う経済項目、これらを用いて実用的な側面も取り入れていく。		
2. 授業内容 第1回：重商主義・重農主義の経済学 富とは何か 豊かな国とは そのために国の政策はどうあるべきか 第2回：古典学派・新古典学派の経済学1 価格メカニズムの働きと重要視と限界 国家の政策介入の必要性 第3回：古典学派・新古典学派の経済学2 比較生産費説 貿易の有効性を考える 第4回：古典学派・新古典学派の経済学3 上記の問題点を検討する 第5回：新古典学派の経済学1 ミクロ経済学 第6回：新古典学派の経済学2 不況や失業に対する考え・理論 別な経済学派の登場 第7回：株式会社論 株式会社とは何か 第8回：株式投資論 株式取引の理論と実際 第9回：ケインズ学派の経済学1 マクロ経済学 有効需要政策 第10回：ケインズ学派の経済学2 ケインズ政策のその後の展開 第11回：新自由主義学派の経済学1 反ケインズ主義の主張 1980年代の経済政策の転換 第12回：新自由主義学派の経済学2 ケインズ経済学派の経済学3 日本のバブル経済 第13回：新自由主義の経済学3 バブルの崩壊から現在の日本経済1 第14回：現在の日本経済2 日本における新自由主義派の登壇 構造改革 格差の拡大 貧困化 新たな経済学の追究 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意 講義はオンラインでなければ、通常板書で行っていきます。板書内容をノートに取っておいてください。そうしないとレポートの作成に支障をきたし、試験に望めなくなります。 講義が一方通行にならないように、また理解度を確認するため、通常は皆さんにかなり質問し、マイクを持って答えてもらうことになるかもしれません。この点を了解しておいてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書や板書の内容を再確認するなり、自主的に講義内容を予習・復習しておくといいです。		
5. 教科書 深澤竜人『経済学簡易入門』丸善雄松堂、2023年（電子書籍）。		
6. 参考書 同上。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回簡単なレポートを出してもらいまして、それで質問には答え、間違った理解などには修正して返信していました。		
8. 成績評価の方法 実際の受講人数等々を見た後に決めていくとして、今時点では授業でのレポート（40%）および期末レポート（60%）としておきます。		
9. その他 講義が一方通行にならないように、また理解度を確認するため、通常は皆さんにかなり質問し、マイクを持って答えてもらうことになるかもしれません。この点を了解しておいてください。		

科目ナンバー：(CC)PHL111J		
哲学概論		宇田川 尚人
2 単位	和泉キャンパス	秋学期
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この授業は、資格課程の授業ではあるが、(私の「倫理学概論」の方で扱うテーマの理論的バックグラウンドとなる)現代思想を紹介する授業でもある。 そこで取り上げられるのは、 1) 情報に翻弄され、自己のアイデンティティを見失い、それでも(いや、それだからこそ?)ネット上や他者に自らの評価を求め、必死に「皆」とく繋がっている>ことを絶えず確認せざるを得ない人々(心の弱さ)や、 2) そもそも自己のアイデンティティの消失に気づかず、他者向けの「バーチャルな私(=盛った私)」を演じ続けるうちに、無意識レベルで(少しずつ、だが確実に)「他者の欲望」によって侵食され「空洞化」してゆく「私」の在り方と、それと並行して起こる「真の他者」の「喪失」という「交叉現象」の解説や、 3) それらの背後にある現代社会の構造的矛盾が、ネット社会を形成する膨大な「欲望」というエネルギーによってさらなる矛盾(=個の「承認欲求」と没個的な”皆”への「同調圧力」、「同一化」と「排除(または分断)」の論理が跋扈するネット社会等)を生み出し増幅=先鋭化してゆく様の分析等である。 この授業では、これらの問題を「人格形成」をめぐる「心」の哲学の問題として、「自我論」「他者論」そして「欲望論」という切り口から紹介し解説する予定である。 《到達目標》 目標は、1)受講者一人一人が、氾濫する情報と多様化する価値観の中で、(単なるトレンドに終わることのない)真の時代の要請や社会のニーズをみずから読み解く能力を獲得すること、2)いかなる状況においても、自己と世界との関係を冷徹に分析する論理能力を習得することにある。 ただし半期という時間制約もあるので、実質的な目標は、現代思想の有効射程距離を検証するという<思考訓練>を通して、各自がそれぞれの具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係を論理的に分析し考察する、いわば思索の<コツ>を身につけることとする。		
2. 授業内容 第1回目 哲学とは何か? ― 現代思想の問題提起 Heidegger の自我論 第2回目 交換可能な私?(私なんて、いてもいなくても世界は変わらない?) 第3回目 私 ―その非本来的自己と本来的自己― 第4回目 私の「唯一性」を保障するのは時間性か? Binswanger と精神分析 第5回目 時間性と心の病 第6回目 「自明性」の喪失(当たり前ってどういうこと、なぜ当たり前なの?) Levinas の他者論 第7回目 「同」の暴力(皆と同じ、皆に合わせなくっちゃ!って、息ができない!) 第8回目 感情移入と同型性に基づく他者理解の限界 第9回目 自―他「非対称性」と真の他者への責任 Lacan の欲望論 第10回目 欲望とは他者の欲望である?(私はみんなが欲しいものが欲しい!) 第11回目 言葉は「もの」の殺害者である。「もの」の喪失と欲望における「対象a」の発生 第12回目 心の在処を求めて…(すべては脳から始まるが、心は脳に還元できない?) 第13回目 無意識の欲望、欲望の「プロトタイプ」と文化(まだ足りない、もっと、もっと、もっと!) 第14回目 まとめ 世界は欲望で動いている。でも誰の欲望?―「他者の欲望」と「私」と「世界」		
3. 履修上の注意 毎回出席し、集中して聴いていないとついてゆけなくなる可能性があるので、その旨注意すること。 その他の注意点は初回到述べる。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1) 自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2) 理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。 また、 3) 配付資料には書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4) それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。		
5. 教科書 プリントを必要に応じて配布またはWeb(Oh-o! Meiji)上にUPする。		
6. 参考書 千葉雅也 著 「現代思想入門」 講談社現代新書 竹田青嗣 著 「ハイデガー入門」 講談社選書メチエ 熊野純彦 著 「レヴィナス入門」 ちくま新書 片岡一竹 著 「疾風怒濤 精神分析入門」 誠信書房		

斎藤環 著「生き延びるためのラカン」ちくま文庫
新宮一成 書「ラカンの精神分析」講談社現代新書 等
その他の参考文献は授業の中で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバック（質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等）は、原則として翌週の授業内で行う。

8. 成績評価の方法

この授業は、資格課程の授業ではあるが、（上述のごとく、私の「倫理学概論」の方で扱うテーマの理論的バックグラウンドとなる、）現代思想を主に紹介する授業でもある為、受講者が比較的少人数であることが予想される。

このため、成績評価の方法は、学生との話し合いによって決めることにしているが、例年平常点のみでの成績評価となる可能性が高い。

但し、人数が多い場合は、(Oh-Meiji 上での) 課題提出（40%）と学期末レポート（60%）で成績を評価する。
詳細は初回の授業で報告する。

9. その他

特になし。

科目ナンバー：(CC)PHL121J		
倫理学概論		宇田川 尚人
2 単位	和泉キャンパス	春学期
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 主に倫理学＋心理学＋哲学の立場から、 1) 授業では、まず学校及び社会一般で、いじめ乃至ハラスメントが生じるに至る心理的背景を考察し、併せてそれらがもたらす「人格形成」への影響を解説する。 その際特に注目するのは、「いじめ」と「排除の論理」の関係である。 2) 次に「情報化社会が突きつける諸問題」として、「同調圧力」や「承認欲求」の症例分析を通して、「同型性に基づく他者理解の本質とその限界」を明らかにする。そこでは、今の若者達が「いいね」(評価)を必死で求めて、本当の自己を失ってゆく姿が目撃されるだろう。 その際の中心テーマは、ネットの中で増殖する「バーチャルな私」と欲望によって「侵食される自己及び他者の心」である。 3) そして最後は「新たな教育論の現場から」と題して、従来型の倫理観が機能しなくなっている現状を示し、SNS 時代における新しい「倫理」の役割と教育の在り方を、一つの試論として紹介する。 ここでの中心考察テーマは、理解像の外に位置する<他者そのもの>と私の<内部性＝心>と「ネット社会における Critical thinking の崩壊と Critical emotion」及び「生成 AI と倫理」である。 《到達目標》 この授業で学習した倫理的視点に基づき、今日の社会で起こっている様々な問題のいずれに対しても、自分なりの見解を持てるようになること。 また授業での思考訓練を通して、具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係を倫理的に分析し考察する能力を身につけること。		
2. 授業内容 1) 問題提起 ―― <道徳>はあるが<倫理>のない日本? 倫理的<対話>の 12 原則 2) エゴイズムの変形としての「やさしさ」vs 真のやさしさ? 3) 社会に蔓延する「思いやり」という名の「思考停止」システムについて 4) 「いじめ」と排除の論理 5) 自分は関係ない・中立だと思っている「傍観者」に潜む「悪」について 6) 情報化社会が突きつける諸問題 7) 同型性に基づく他者理解とその限界―あるいは「同調圧力」と「承認欲求」 8) 「いいね」(評価)を必死で求めて、本当の自己を失ってゆく人々 9) ネットの中で、SNS で、増殖する「バーチャルな私」と欲望によって「侵食される自己」 10) 新たな教育論の現場から 11) 理解像の外に位置する「他者そのもの」と私の「内部性＝心」 12) ネット社会における Critical thinking の崩壊と Critical emotion 13) 同情と Sympathy と Mitleid(共苦)の差異 14) SNS 時代における新しい「倫理」の役割と教育 ― または生成 AI と倫理 ―		
3. 履修上の注意 毎回出席し、集中して聴いていないとついてゆけなくなる可能性があるため、その旨注意すること。 その他の注意点は初回に述べる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1) 自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2) 理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。 また、 3) 配付資料には書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4) それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。		
5. 教科書 プリントを必要に応じて、配布または Web (Oh-o! Meiji) 上に UP する。		
6. 参考書 PHP 新書 中島義道「対話のない社会」 勁草書房 中島義道「悪への自由―カント倫理学の深層文法」 勁草書房 佐藤義之「レヴィナスの倫理」等 その他の参考文献は授業の中で紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバック（質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等）は、原則として翌週の授業内で行う。学期末レポートの返却は希望者に対してのみ行う。		

8. 成績評価の方法

毎回の課題（Oh-Meiji 上に提出）（40%）と学期末のレポート（60%）で成績を評価する。
また最低三分の二以上の出席と課題の提出を学期末レポート提出の最低条件とする。

但し、駿河台校舎での授業は少人数を前提としている為、学生との話し合いによって平常点のみで評価する可能性がある。

詳細は初回の授業で報告する。

9. その他

特になし